栃木県埋蔵文化財調査報告第316集

西物井遺跡

－北関東自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査XI－

（本文編）

2009.3

栃木県教育委員会
㈶とちぎ生涯学習文化財団

西物井遺跡

（にしものいいせき）

－北関東自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査XI－

（本文編）

2009.3

栃木県教育委員会
㈶とちぎ生涯学習文化財団

序

北関東自動車道は群馬・栃木・茨城の３県を結ぶ高速道路で、古くからの歴史・産業を合わせ持つ北関東の各都市を繋ぎ、沿線の産業の発展や観光の振興などを目指して計画されました。その建設に先立ち、路線内に所在する遺跡について関係機関と協議の結果、記録による保存のための発掘調査を実施することとなりました。

西物井遺跡は、茨城県境と宇都宮上三川インターチェンジの間に位置する遺跡のひとつで、県南東部の二宮町に所在いたします。近年、二宮町では二宮尊徳の活動の拠点であった国指定史跡である桜町陣屋跡をはじめ、多くの遺跡の発掘調査が行われています。

今回の西物井遺跡の発掘調査では、古くは旧石器時代から近世の二宮尊徳の生きた江戸時代後期にわたる当時の人々の生活をうかがい知るさまざまな資料を発見いたしました。特に多数見つかった奈良・平安時代の竪穴住居跡や、江戸時代の用水路跡の様相は、現代に至る周辺地域の土地利用を考える上で貴重な資料となりました。

本書はその調査成果をまとめたものです。本書が県民の皆様にとりまして、郷土の歴史を理解する一助となるとともに、各方面において広くご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成に至るまで多くのご協力をいただきました東日本高速道路株式会社、二宮町教育委員会、栃木県県土整備部をはじめとする関係機関、並びに関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成２１年３月

栃木県教育委員会

教育長　須　藤　　稔

〔本文編〕例言

1.　本書は、栃木県芳賀郡二宮町大字物井地内に所在する西物井遺跡の発掘調査報告書である。遺跡の略号は「NM-NM」である。

2.　発掘調査は、北関東自動車道（上三川～二宮地区）建設に伴う記録保存調査であり、東日本高速道路株式会社（旧日本道路公団東京建設局）の委託事業として、栃木県教育委員会事務局文化財課の指導のもと、財団法人とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センターが実施した。

3.　本遺跡の調査期間及び調査担当者は以下の通りである。

平成12年度	（試掘・確認調査）	平成13年１月30日～平成13年３月23日
		主査：進藤敏雄　主任：安永真一
平成13年度	（本調査）	平成13年４月１日～平成13年12月26日
		総括：藤田典夫　主査：賀川倫夫　塚本師也　進藤敏雄　森口尚志
		主任：池田敏宏　田代己佳　横田正広　調査補助員：玉橋さやか
平成14年度	（本調査）	平成14年４月１日～平成14年９月30日
		総括：藤田典夫　主査：賀川倫夫　主任：江原英　田代己佳　塚田浩久
		調査補助員：玉橋さやか
	（整理作業）	平成14年10月１日～平成15年３月31日
		主任：田代己佳　嘱託調査員：平山紋子
平成15年度	（整理作業）	平成15年４月１日～平成15年９月30日
		総括：藤田典夫　主任：田代己佳
	（本調査）	平成15年10月１日～平成16年３月31日
		総括：藤田典夫　主査：賀川倫夫　主任：田代己佳
		調査補助員：玉橋さやか
平成16年度	（本調査）	平成16年４月１日～平成16年９月30日
		主査：西田知生　主任：池田敏広　田代己佳
		調査補助員：玉橋さやか　平山紋子
平成17年度	（本調査）	平成17年４月１日～平成18年６月30日
		主査：池田敏宏　宮田宣浩
	（整理作業）	平成17年４月１日～平成18年３月30日
		班長兼担当リーダー：川原由典　主査：田代己佳
平成18年度	（整理作業）	平成18年４月１日～平成19年３月30日
		副主幹：初山孝行　主査：田代己佳
平成19年度	（整理作業）	平成19年４月１日～平成20年３月30日
		主査：田代己佳
平成20年度	（報告作業）	平成20年４月１日～平成20年９月30日
		主査：田代己佳

4.　本書の作成・執筆・編集は田代己佳が担当した。本遺跡出土の縄文土器については塚本師也が執筆を行った。金属製品については池田敏宏の協力を得た。

5.　自然化学分析については株式会社パレオ・ラボに委託し、その結果を第4章第1・2節に掲載した。

6.　写真撮影は、発掘調査における遺構を各担当者が、金属製品以外の遺物を日立レフテクノ株式会社に委託した。

7.　航空写真撮影は中央航業株式会社に委託した。

8.　金属製品の保存処理、X線撮影、写真撮影は車塚哲久が行った。

9.　発掘調査の実施ならびに報告書の作成にあたっては、次の方々から御指導、御協力を賜った。

東日本高速道路株式会社関東第二支社宇都宮工事事務所（旧日本道路公団東京建設局宇都宮工事事務所）、栃木県教育委員会事務局文化財課、栃木県土木部高速道路対策室、栃木県土地開発公社、二宮町教育委員会、二宮町史編さん室、橋本澄朗氏、鈴木泰浩氏、岩橋康子氏

10．遺跡の概要は年報等で一部公表されているが、本書を正報告とする。

11．本遺跡の出土遺物、資料類は財団法人とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センターに保管している。

12．発掘調査及び整理・報告書作成の参加者は以下の通りである（五十音順・敬称略）。

（発掘調査）

秋元イツ子、浅香義房、有馬紗由美、飯島征夫、池田京子、伊澤真澄、石川有孝、石川勝美、石崎正則、稲葉信子、岩井靖、岩崎美枝子、岩瀬みつえ、上原しげ、上野京子、上野美知子、上村文恵、鵜沢房子、宇田川美江、羽鳥敏子、大川茂美、大川モンラッチャー、大塚武男、大野尚美、大福地時治、大山良二、岡田旦子、小貫宏、川俣由美子、國安京子、小池正昭、小菅千枝子、児玉真澄、児玉祐美子、小太刀千代子、小堀里子、小堀不二夫、小松武士、古谷野安子、古谷野みとり、坂入輝男、坂本淳子、佐久間和子、佐藤ミツイ、沢田邦子、澤田邦子、椎名猛、塩田剛、篠崎章、篠崎節夫、柴山荘一、杉本一夫、鈴木キヨ、鈴木恵子、関口とも子、関口フミ子、関口由紀子、高久法子、竹下郁代、武田惠津子、田村ミイ子、豊田一夫、豊田定夫、直井恵子、中山智夫、中野康一、中野優、長濱健一、新山実、沼子和子、野沢勇、野原登志寿、橋本織、樋口賢治、樋口重夫、日下田真由美、広沢邦子、廣沢久美子、藤沢信吉、藤沢ミイ子、保坂房子、本田マチ子、増田晋一、増淵キヨ、松本弘子、水沼京子、水沼弘、水野ふみ江、宮田哲、村上桂子、矢板橋金作、柳すみ子、柳瀬耕一、山下敏志子、山下ナカ、山田とも子、吉田実可、吉田満男、和島智子

（整理作業）

鮎川恵子、石口優子、磯野実枝子、稲葉信子、上野弘美、上野真知永、鵜澤房子、大友弓子、大峯尚子、岡田陽子、岡本恵、蒲生光子、小林由美子、坂本淳子、菅智子、鈴木節子、高橋麻佐美、鶴見里子、野沢光美、平石裕子、広沢邦子、増渕幸枝、元西幸子、柳田宗子、横田通子

（報告書作成）

石口優子、上野弘美、上野真知永、大出美智子、岡田陽子、坂本淳子、鶴見里子、矢島早苗

〔本文編〕凡例

1.　遺構の名称については、以下のとおり略号で表した。竪穴住居跡：SI、掘立柱建物跡：SB、井戸跡：SE、土坑：SK、溝状遺構：SD、方形周溝遺構：SZ、性格不明遺構：SX、ピット状遺構：Sとし、発掘調査時に遺構の種類にかかわらず01、02、03、…と通し番号を付けており、本報告でもこれを用いている。

2.　挿図中の方位は世界測地系に基づいている。

目次（本文編）

序
例言
凡例
目次

第１章　調査の経緯 …… 1
　第１節　調査にいたる経緯 …… 1
　第２節　発掘調査の方法と経過 …… 5
第２章　遺跡の環境 …… 41
　第１節　地理的環境 …… 41
　第２節　歴史的環境 …… 44
第３章　検出された遺構と遺物 …… 49
　第１節　グリッド調査 …… 49
　　1　縄文時代のグリッド調査 …… 49
　　2　縄文土器集中区 …… 49
　第２節　竪穴住居跡 …… 58
　　1　古墳時代 …… 58
　　2　古代 …… 62
　第３節　掘立柱建物跡 …… 94
　　1　古代 …… 94
　　2　中世以降 …… 96
　第４節　井戸 …… 97
　　1　古代 …… 98
　　2　中世以降 …… 98
　　3　時期不明 …… 103
　第５節　土坑 …… 105
　　1　古墳時代 …… 105
　　2　古代 …… 106
　　3　中世以降 …… 111
　　4　時期不明・その他 …… 136
　第６節　溝状遺構 …… 146
　　1　古代 …… 146
　　2　中世以降 …… 149
　　3　時期不明 …… 157
　第７節　方形周溝遺構 …… 159
　第８節　火葬墓 …… 162
　第９節　方形竪穴 …… 164
　第10節　地下式壙 …… 164
　第11節　ピット状遺構 …… 166
　第12節　性格不明遺構 …… 194
第４章　自然科学分析 …… 203
　第１節　西物井遺跡出土木材の樹種同定 …… 203
　第２節　西物井遺跡出土の種実同定 …… 214
第５章　まとめ …… 215

挿図目次

第１図　北関東自動車道路線図 …… 3
第２図　標準土層図 …… 12
第３図　西物井遺跡 調査区・トレンチ・グリッド配置図 …… 13
第４図　Ｂ・Ｄ区 遺構配置図（1） …… 14
第５図　Ｂ・Ｄ区 遺構配置図（2） …… 15
第６図　Ｃ区 遺構配置図（1） …… 16
第７図　Ｃ区 遺構配置図（2） …… 17
第８図　Ｅ区 遺構配置図（1） …… 18
第９図　Ｅ区 遺構配置図（2） …… 19
第10図　Ｆ区 遺構配置図（1） …… 20
第11図　Ｆ区 遺構配置図（2） …… 21
第12図　Ｆ区 遺構配置図（3） …… 22
第13図　Ｇ・Ｈ区 遺構配置図（1） …… 23
第14図　Ｇ・Ｈ区 遺構配置図（2） …… 24
第15図　西物井遺跡の位置と周辺地形図 …… 42
第16図　栃木県地形分類図 …… 43
第17図　周辺の遺跡分布図 …… 48
第18図　縄文土器集中区 土層断面図 …… 56
第19図　縄文土器集中区 遺物出土状況図 …… 57

表目次

第１表　北関東自動車道（上三川～二宮間）埋蔵文化財発掘調査箇所一覧 …… 2
第２表　グリッド座標値一覧 …… 25
第３表　遺構一覧（検索表） …… 26
第４表　周辺の遺跡一覧表 …… 48
第５表　竪穴住居跡出土遺物一覧 …… 93

第１章　調査の経緯

第１節　調査にいたる経緯

北関東自動車道（路線名「北関東自動車道高崎水戸線」）は、群馬県高崎市から茨城県ひたちなか市に至る延長約150㎞の国土開発幹線自動車道である。群馬、栃木、茨城３県の主要都市並びに国際港常陸那珂港を結ぶとともに、上信越自動車道や中部横断自動車道と一体となり、東京から100㎞～150㎞圏を環状に結ぶ「関東環状道路」を形成する高速道路である。関東地方における高速道路網の強化により各主要都市の交流の促進や地域の総合的発展の基盤施設としての役割が期待されている。

栃木県内は足利市、佐野市、岩舟町、栃木市、都賀町、壬生町、下野市、宇都宮市、上三川町、真岡市、二宮町の６市５町、約58㎞を通過する。このうち、東北自動車道（栃木都賀Ｊ.Ｃ.Ｔ）から新４号国道（宇都宮上三川Ｉ.Ｃ）までの約19㎞は優先着工区間とされ、平成12年７月27日に開通している。次いで、宇都宮上三川Ｉ.Ｃから真岡Ｉ.Ｃまでの約８㎞が平成20年３月15日に、真岡Ｉ.Ｃから桜川筑西Ｉ.Ｃまでの約14㎞が平成20年12月20日にそれぞれ開通している。

東北自動車道重複区間及び優先着工区間の両側に位置する上三川～二宮間、足利～岩舟間においては平成３年２月８日都市計画決定、平成３年12月３日基本計画決定、平成８年12月27日整備計画決定をへて、群馬県境～足利は平成９年12月25日、真岡～茨城県境は平成10年４月８日にそれぞれ施行命令が出されている。

日本道路公団東京第一建設局（当時、以下公団）長は施行命令を受け、平成９年７月１日、栃木県土木部高速道路対策室（当時、以下県高対室）を経由し県教育長あて路線内の埋蔵文化財について照会した。そこで栃木県教育委員会事務局文化課（以下県文化課、平成11年度より県文化財課）は、平成９年７月８日から18日にかけて所在調査を実施した。この調査により周知の埋蔵文化財包蔵地を中心に上三川～二宮間で14箇所、足利～岩舟間で18箇所の調査必要箇所が確認された。結果は平成10年３月18日付で公団局長あて回答され、あわせて県高対室長あて報告された。

これら調査必要箇所の取り扱いについて、県文化課、公団、県高対室による協議の結果、工事の影響を免れない範囲について記録保存のための発掘調査を実施することとなった。そのため、平成13年１月15日、公団局長、県教育長及び発掘主体者の財団法人とちぎ生涯学習文化財団（以下財団）理事長により「北関東自動車道（足利～岩舟、上三川～二宮）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定書」（以下協定書）が締結された。この協定書において、上記の32箇所について現地発掘調査期間は平成18年３月まで、整理作業・報告書作成期間は平成19年３月まで、費用概算額は2,167,967,000円とされた。また、平成12年度は上三川～二宮間の柳林遺跡、西物井遺跡、峰高前遺跡について調査に着手することとなり、協定書に基づき公団局長及び財団理事長間で「埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書」が締結され、北関東自動車道上三川～二宮間及び足利～岩舟間の発掘調査が開始された。

その後、財団は文化財課の指導にもとづき発掘調査業務を実施してきたところ、工事予定の変更や新たな埋蔵文化財包蔵地の確認等により協定書中全体実施計画等の見直しが必要となった。そのため、平成18年３月29日付、東日本高速道路株式会社（平成17年10月１日、日本道路公団の民営化に伴い設立：以下東日本高速（株））関東支社宇都宮工事事務所長、県教育長及び財団理事長により「北関東自動車道（足利～岩舟、上三川～二宮）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する変更協定書（第１回変更）」が締結された。この協定においては新たに４箇所を加えた36箇所（壬生Ｐ.Ａ新規建設に伴う都賀～上三川間、谷向遺跡

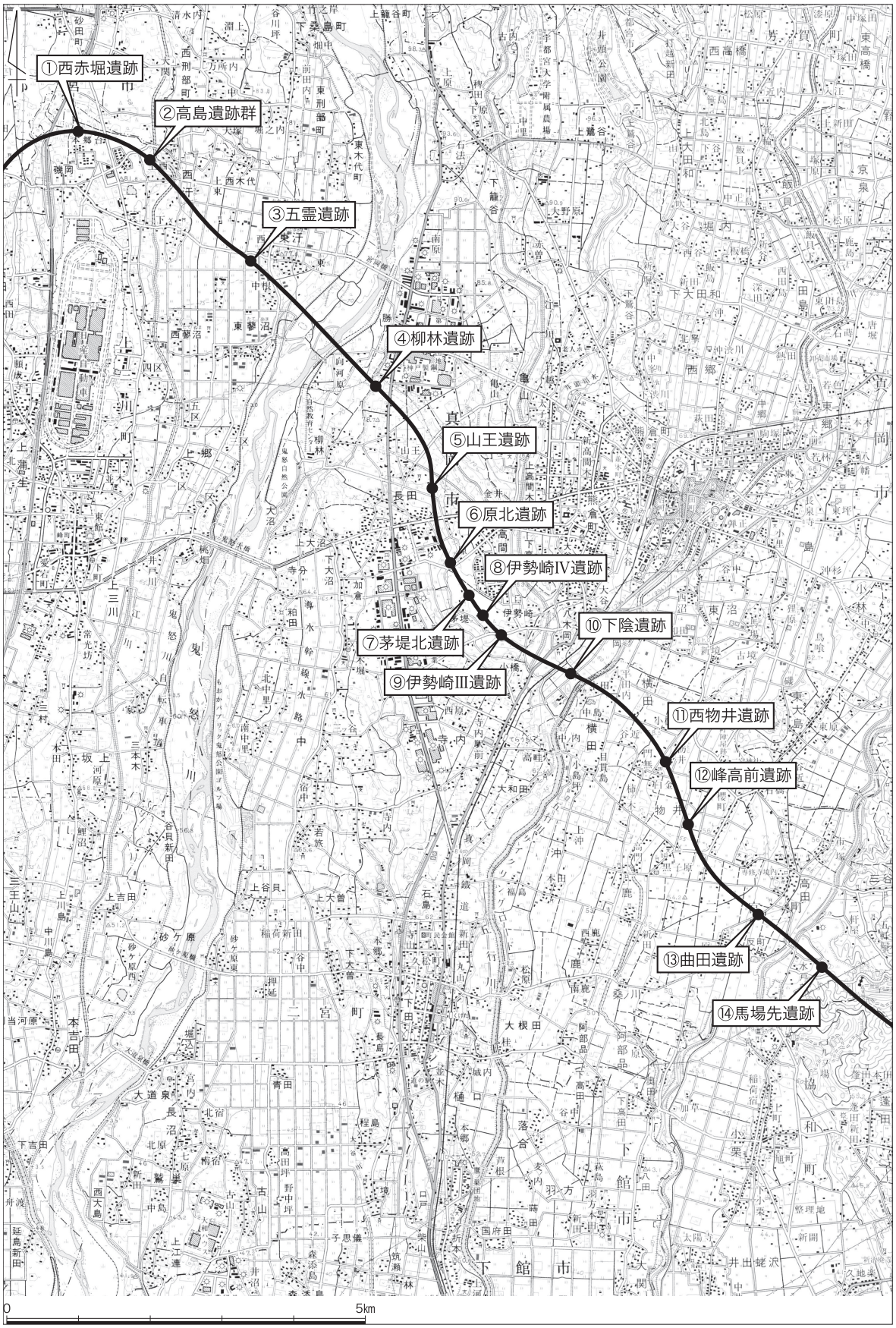
第１表　北関東自動車道（上三川～二宮間）埋蔵文化財発掘調査箇所一覧

No	遺跡名	所在地	当初調査対象面積（㎡）	調査区分	調査面積（㎡）	遺跡の概要
1	西赤堀遺跡（18年度報告）	河内郡上三川町西汗	27,100	発掘	24,260	平成13～15年度本調査。縄文時代住居跡1軒・古墳時代住居跡61軒・古墳2基など。
				確認	730	対象面積：5,000㎡
2	高島遺跡群（19年度報告）	河内郡上三川町西汗	29,000	発掘	10,500	平成13・14年度本調査。古墳～平安時代住居跡18軒・掘立柱建物跡11棟など。
				確認	930	対象面積：8,300㎡
				試掘	1,085	対象面積：17,100㎡
3	五霊遺跡（20年度報告）	河内郡上三川町東汗	10,400	発掘	9,385	平成14・15年度本調査。古墳～平安時代住居跡23軒・溝跡33条など。
				試掘	1,266	対象面積：10,400㎡
4	柳林遺跡(仮称)（20年度報告）	真岡市柳林・亀山	9,200	試掘	369	平成12年度試掘調査（対象面積：9,200㎡）遺構なし。
5	山王遺跡（20年度報告）	真岡市長田	11,000	確認	1,018	平成14・16年度試掘調査（対象面積：11,000㎡）遺構なし。
6	原北遺跡（20年度報告）	真岡市西高間木	6,600	発掘	1,500	平成15年度本調査。時期不明の溝2条。
				確認	570	対象面積：5,900㎡
7	茅堤北遺跡（20年度報告）	真岡市西高間木	3,300	確認	804	平成14年度試掘調査（対象面積：3,300㎡）時期不明の溝1条。
8	伊勢崎Ⅳ遺跡（20年度報告）	真岡市伊勢崎	7,900	確認	620	平成14年度試掘調査（対象面積：7,900㎡）遺構なし。
9	伊勢崎Ⅲ遺跡（20年度報告）	真岡市伊勢崎	10,500	発掘	8,100	平成15年度本調査。旧石器時代遺物ブロック・古墳～平安時代住居跡４軒など。
				確認	404	対象面積：2,700㎡
10	下陰遺跡（Ⅰ分冊19年度報告・Ⅱ分冊21年度報告予定）	真岡市八木岡	64,700	発掘	41,183	平成13・14・17・18年度本調査。縄文時代住居跡5軒・古墳～平安時代住居跡8軒・古墳2基・中世遺構約5,000基など。
				試掘	2,822	対象面積：37,476㎡
11	西物井遺跡（20年度報告）	芳賀郡二宮町物井	26,800	発掘	26,350	平成13～17年度本調査。古墳～平安時代住居跡68軒・方形周溝遺構7基・井戸跡29基・火葬墓11基・溝状遺構101条・ピット状遺構1,436基など。
				確認	1,047	対象面積：6,900㎡
12	峰高前遺跡（19年度報告）	芳賀郡二宮町物井	17,600	発掘	13,780	平成13～15・17年度本調査。古墳～平安時代住居跡104軒・掘立柱建物跡22棟・溝27条・井戸状遺構62基など。
				確認	2,097	対象面積：22,900㎡
13	曲田遺跡（20年度報告）	芳賀郡二宮町高田	22,150	発掘	28,310	平成14～16年度本調査。古墳時代住居跡31軒・古墳2基など。
				確認	2,592	対象面積：22,150㎡
14	馬場先遺跡（20年度報告）	芳賀郡二宮町水戸部	10,600	発掘	10,600	平成15年度本調査。奈良・平安時代住居跡5軒など。
				試掘	530	対象面積：9,000㎡

を含む）について、現地発掘調査は平成23年３月まで、また整理作業・報告書作成は平成24年３月までの期間、費用概算額は3,302,692,000円と変更された。

なお、平成19年３月には、上三川～二宮間における14箇所の現地発掘調査が総て終了した。また、平成20年３月までに足利～岩舟間及び都賀～上三川間における22箇所の現地発掘調査も終了した。整理作業・報告書作成作業においては、総ての遺跡について平成23年度までに報告書を刊行する予定である。

西物井遺跡は二宮町物井に所在する遺跡で、平成12年度に試掘・確認調査を行い、平成13～17年度の期間中に発掘調査を５回に分けて行った。整理作業・報告書作成は、平成14・15、17～20年度の期間中に行い、このたび報告書上梓のはこびとなったものである。



第１図　北関東自動車道路線図

調査組織

平成12年度
埋蔵文化財センター所長　山内　正吉
管理部長　中田　清
管理部管理担当　主任　桜井　恭子
主幹兼調査部長　大金　宣亮
大規模調査班班長　橋本　澄朗
北関東道路調査担当総括　藤田　典夫
主査　鈴木　元　主査　塚本　師也　主査　進藤　敏雄
主任　谷中　隆　主任　安永　真一　主任　亀田　幸久
技師　安藤　美保　技師　平久保　直希　技師　合田　恵美子
嘱託調査員　大島美智子

平成13年度
埋蔵文化財センター所長　望月　守
管理部長　中田　清
管理部管理担当　主任　桜井　恭子
主幹兼調査部長　大金　宣亮
大規模調査班班長　橋本　澄朗
北関東道路調査担当総括　藤田　典夫
主査　永岡　正美　主査　賀川　倫夫　主査　塚本　師也
主査　進藤　敏雄　主査　森口　尚志　主任　仲山　英樹
主任　池田　敏宏　主任　田代　己佳　主任　安永　真一
主事　横田　正広　技師　合田恵美子　主事　吉村　英子
調査補助員　玉橋さやか　堺　陽子

平成14年度
埋蔵文化財センター所長　望月　守
管理部長　中田　清
管理部管理担当　主任　桜井　恭子
主幹兼調査部長　大金　宣亮
大規模調査班班長　橋本　澄朗
北関東道路調査担当総括　藤田　典夫
主査　永岡　正美　主査　賀川　倫夫　主査　塚本　師也
主査　森口　尚志　主査　仲山　英樹　主査　西田　知生
主任　江原　英　主任　池田　敏宏　主任　田代　己佳
主任　安永　真一　主任　亀田　幸久　主任　塚田　浩久
主任　横田　桂　技師　安藤　美保　技師　合田恵美子
主事　吉村　英子
嘱託調査員　平山　紋子（7/1～3/31）
調査補助員　玉橋さやか　平山　紋子（4/1～6/30）

平成15年度
埋蔵文化財センター所長　篠原　洋
管理部長　中田　清
管理部管理担当　主任　桜井　恭子
主幹兼調査部長兼大規模調査班班長　橋本　澄朗
北関東道路調査担当総括　藤田　典夫
主査　芹澤　清八　主査　賀川　倫夫　主査　塚本　師也
主査　森口　尚志　主査　鈴木　泰浩　主査　西田　知生
主任　池田　敏宏　主任　田代　己佳　主任　亀田　幸久
主任　横田　桂　技師　合田恵美子　主事　吉村　英子
嘱託調査員　平山　紋子（4/1～8/31）
調査補助員　玉橋さやか　鈴木　芳英　平山　紋子（9/1～3/31）

平成16年度
埋蔵文化財センター所長　篠原　洋
管理部長　大田原　博
管理部管理担当　主任　桜井　恭子
主幹兼調査部長兼大規模調査班班長　橋本　澄朗
北関東道路調査担当係長　藤田　典夫
主査　芹澤　清八　主査　塚本　師也　主査　西田　知生
主査　中村　享史　主任　池田　敏宏　主任　田代　己佳
主任　横田　桂　主任　吉田　哲　技師　合田恵美子
調査補助員　玉橋さやか　平山　紋子　鈴木　芳英

平成17年度
埋蔵文化財センター所長　篠原　洋
管理部長　大田原　博
管理部管理担当　主任　桜井　恭子
主幹兼調査部長　橋本　澄朗
大規模調査班班長兼北関東道路調査担当リーダー　川原　由典
北関東道路調査担当係長　藤田　典夫
主査　芹澤　清八　主査　椎名　聡　主査　仲山　英樹
主査　西田　知生　主査　中村　享史　主査　篠原　浩恵
主査　田代　己佳　主任　池田　敏宏　主任　江原　英
主任　横田　桂　主任　吉田　哲　主任　宮田　宣浩
主任　合田恵美子
嘱託調査員　玉橋さやか　鈴木　芳英
調査補助員　平山　紋子　村田　沙織

平成18年度
埋蔵文化財センター所長　篠原　洋
管理部長　大田原　博
管理部管理担当　主任　桜井　恭子
調査部長　川原　由典
北関東道路調査担当副主幹　初山　孝行
主査　進藤　敏雄　主査　椎名　聡　主査　仲山　英樹
主査　中村　享史　主査　伊藤　信二　主査　高野　欽哉
主査　田代　己佳　主査　江原　英　主査　磯　寿人
主任　横田　桂　主任　今平　昌子　主任　亀田　幸久
主任　吉田　哲　主任　宮田　宣浩　主任　合田恵美子
主事　峰崎　武昭
嘱託調査員　田村　雅樹　玉橋さやか　鈴木　芳英
調査補助員　長濱　健一　村田　沙織

平成19年度
埋蔵文化財センター所長　篠原　洋
管理部長　安西　和雄
管理部管理担当　主任　桜井　恭子
調査部長　川原　由典
北関東道路調査担当副主幹　初山　孝行
主査　仲山　英樹　主査　篠原　浩恵　主査　田代　己佳
主査　池田　敏宏　主任　合田恵美子　主事　峰崎　武昭
嘱託調査員　田村　雅樹

平成20年度
埋蔵文化財センター所長　会沢　登
管理普及部長　安西　和雄
管理部管理担当　主査　桜井　恭子
調査部長　川原　由典
北関東道路調査担当副主幹　藤田　典夫
主査　仲山　英樹　主査　篠原　浩恵　主査　田代　己佳
主査　池田　敏宏　主査　吉田　哲

第２節　調査の経過と方法

平成12年度

（試掘・確認調査）平成13年１月30日～平成13年３月23日　　調査面積：1,047㎡

南北に延びる微高地の縁辺部にあたる、遺跡の南東部分の範囲を確認するために行った。幅２ｍのトレンチ(試掘溝)を道路範囲と平行に11本設定し、状況に応じて適宜拡張して調査を進めた。その結果、確認調査範囲のほぼ中央（Ｈ区）で、縄文時代中期から後期の土器破片が集中する箇所が発見された。また、調査範囲の北西部分（Ｃ区）では、一部表土除去を行った結果、奈良～平安時代の遺物を出土する竪穴住居跡20数軒などが確認された。

トレンチ調査の概要は以下の通りである。

〔概要〕・トレンチ１・２・４・６を掘削した（調査対象面積6,900㎡の13％）。
・遺物が集中して出土するトレンチ１・２について、拡張トレンチ（トレンチ１’）及びトレンチ３・５を掘削して遺構の有無の確認を行った。
・結果として調査対象面積の約15％（1,047㎡）を掘削し、調査を完了した。

〔結果〕・トレンチ２・３において縄文時代後期の遺構と遺物を確認した。またその東部において、古墳時代前期から平安時代の遺物が出土した。
・トレンチ１において土坑と小穴、及び縄文時代の遺物を確認した。
・トレンチ４・６においても土坑と小穴を確認した。

トレンチ名	幅	長さ	面積	調査結果
トレンチ１	2m	117.5m	235 ㎡	土坑・小穴・縄文土器・石器
トレンチ１’	2m	46.5m	93 ㎡	土坑・小穴・縄文土器・石器
トレンチ２	2m	121.5m	243 ㎡	縄文時代の遺構・縄文土器
トレンチ３	2m	13.0m	26 ㎡	縄文時代の遺構・縄文土器
トレンチ４	2m	124.0m	248 ㎡	土坑・小穴
トレンチ５	2m	15.5m	31 ㎡	遺構・遺物なし
トレンチ６	2m	85.5m	171 ㎡	土坑・小穴
面積合計　　1,047 ㎡　（調査対象面積　6,900 ㎡の 15.0％）				

平成13年度

（本調査）平成13年４月１日～平成13年12月26日　　調査面積：5,650㎡

調査区の北端にあたるＡ区と現道路を挟んで南に続くＢ・Ｃ区の調査を行った。Ａ区については表土除去を行った結果、遺構・遺物共に発見されなかった。Ｂ・Ｃ区は表土除去の順にＢ区を１～４区に、Ｃ区を１～３区に分け調査を行った。Ｂ区からは、古墳時代前期の方形周溝遺構６基ほか竪穴住居跡１軒、掘立柱建物跡２軒、井戸跡13基、土坑77基、溝状遺構（道路状遺構を含む）23条、ピット状遺構298基等の遺構が検出した。Ｃ区からは竪穴住居跡48軒、土坑46基、溝状遺構13条、ピット状遺構54基等の遺構が検出した。

当初、今年度の調査期間として３月までを予定していたが、公団との協議により、12月で一旦中断することになり、次年度以降の開始時期が未定であったため、長期の留保を考えた遺構の保護と調査区範囲の安全

対策を行う必要が生じた。土坑・井戸等の深い遺構は埋め戻し、その他の調査途中及び確認済みの遺構については上部をシートで覆い、その上を20㎝ほど廃土で埋め戻し、保護対策とした。

平成14年度

（本調査）平成14年４月１日～平成14年９月30日　　調査面積：5,000㎡

平成13年度に実施したＢ・Ｃ区の続きと、新しく調査対象範囲に加わったＤ区の調査を行った。Ｄ区からは新たに、古墳時代前期の方形周溝遺構１基ほか竪穴住居跡２軒、掘立柱建物跡４軒、井戸跡４基、土坑43基、溝状遺構38条、ピット状遺構96基等の遺構が検出した。

（整理作業）平成14年10月１日～平成15年３月31日

北関東自動車道発掘調査事務所（以下北関本部棟）において、平成13～14年度の発掘調査により出土した遺物、および遺構の実測図・写真等の各記録資料類を整理する作業を、北関本部棟採用の整理作業員（月13日、６時間勤務）の補助のもと、以下の通り行った。

（1）出土遺物洗浄

土器・石器：遺物についている土をブラシで水洗いして洗浄する作業。

金属製品　：土をハケ等で取り除き、乾燥させる作業。

（2）出土遺物注記

出土したすべての遺物一点一点に、遺跡名・出土地点などの調査データを書き込む作業。

（3）出土遺物接合

遺物の破片をつなぎ合わせ、破損する前の形に戻していく作業。

（4）出土遺物分類・選別

接合作業の終了した遺物を種別・器種・部位別に分類し、遺構毎の出土遺物の調査データを収集し記録する作業。

また、図面化して報告書に掲載する遺物を選出し、遺物観察表を作成する作業。

（5）写真整理

現場で撮影した写真と撮影記録を併せて整理する作業。

（6）遺構平面図整理

現場で記録した実測・測量図を整理・修正し、他の記録類と整合させる作業。

また、これらを基に調査報告書に必要な図面資料を作成する作業。

なお、各資料の分量は以下の通りである。

遺物：破片総量　約14,450点

写真：35㎜モノクロ写真　約8,280点（フィルム 230本）

35㎜スライドカラー写真　約8,280点（フィルム 230本）　ほか航空写真等

図面：平面図　Ａ２版251枚

セクション（断面・土層分層）図　Ａ２版 186枚　ほか記録図・表等

平成15年度

（整理作業）平成15年４月１日～平成15年９月30日

北関本部棟において、平成14年度の整理作業の続きを、北関本部棟採用の整理作業員（月13日、6時間勤務）の補助のもと、以下の通り行った。

（1）出土遺物接合・復元　　（2）出土遺物分類・選別　　（3）遺構平面図整理

（4）出土遺物実測

「接合・復元」「分類・選別」の終わった遺物のなかから、報告書に図示する遺物を選出して、器形や文様・製作技法の特徴を約束事に従って図化する作業。

（確認・本調査）平成15年10月１日～平成16年３月31日　　調査面積：8,500㎡

Ｅ・Ｈ区の調査を行った。Ｅ区は調査範囲の東側1/3が民家の建造物や後世の耕作・植栽により大きく攪乱を受ける区域で、調査範囲の西側2/3は低地に当たるため、遺構の遺存密度が薄いと判断され、調査区にトレンチを設定し確認できた遺構の周囲のみを広げる方法をとった。

トレンチ調査の概要は以下の通りである。

〔概要〕Ｅ調査区内に路線に沿った形で幅２ｍの試掘溝（トレンチ）を設定し、重機を用い遺構確認面まで掘り下げ、Ｅ区調査対象面積のおよそ14％にあたる544㎡を調査した。

〔結果〕・Ｅ調査区は、中央に北東から南西方向に延びる深い谷が入り、その東部が微高地となる。

・トレンチＡ・Ｂ・Ｃの東部において、古墳時代前期から平安時代の遺物が出土した。

・トレンチＡ・Ｂの東部から竪穴住居跡と思われる遺構と土坑等が検出した。

・トレンチＣの東部から溝が検出した。

・トレンチＤの東部は現代の民家建設の為攪乱が大きく入り、遺構等の確認はできなかった。

トレンチ名	幅	長さ	面積	遺構確認面までの深さ	調査結果
トレンチＡ	2m	71m	142 ㎡	18 ㎝	竪穴住居跡１軒・土坑１基・ピット１基を検出
トレンチＢ	2m	71m	142 ㎡	17 ㎝	竪穴住居跡１軒・土坑１基を検出
トレンチＣ	2m	66m	132 ㎡	27 ㎝	土坑１基・溝状遺構２条を検出
トレンチＤ	2m	64m	128 ㎡	—	—
合計　544 ㎡　（Ｅ区調査対象面積　4,000 ㎡の 13.6％）					

この結果Ｅ区では、北東から南西方向に入る谷の南東側にわずかに広がる台地の東端部の調査を行い、古墳時代～平安時代の竪穴住居跡９軒ほか、土坑６基、溝状遺構１条、ピット状遺構７基等の遺構を確認した。

東端部に近い範囲から確認された遺構は、プランのすべてと覆土のほとんどを後世の耕作や民家による攪乱等で失っており、部分的に残存する薄い覆土層とカマドと思われる焼土の範囲から住居跡の存在を確認するに留まったが、そのうちの２軒からは高台付椀や小型皿形土器などの良好な資料が検出しており、これらからこの範囲を９世紀後半から10世紀代の住居跡の重複域と判断した。

Ｈ区は、調査区の中央を北西から南東方向に浅い埋没谷が入る低地で、耕作遺構の検出する可能性を考慮して、上面から徐々に遺構確認面を下げていったが、該当する痕跡は認められなかった。同時に、平成12年度の確認調査でも報告された、縄文時代の土器破片が集中する範囲をグリッドを設定して精査したが、遺構と判断できるものは確認されなかった。土器片は埋没谷の東側にある二つの遺物集中区から合計2,007片出土している。出土した遺物は縄文時代後期初頭から前葉のものがほとんどである。他、竪穴住居跡を１軒、掘立柱建物跡を３棟、土坑６基、ピット状遺構75基等を確認した。

平成16年度

（本調査）平成16年４月１日～平成16年９月30日　　調査面積：5,900㎡

Ｆ区とＧ-１区の調査を行った。

Ｆ区は表土除去の順に１～３区に分け、それぞれ調査を行った。

Ｆ-１区では、珪質凝灰岩製と思われる石刃が一点、木根の除去作業中に発見された。周囲の調査区を精査したが、他に旧石器の遺物は出土しなかった。竪穴住居跡は、上面の削平によりカマドと床面の一部のみ確認されたものも含めてＦ全区で合計12軒確認され、概ね８世紀後半から10世紀のものと判断される。他に、道路状遺構に伴うとされる波板状凹凸面をもつ浅い溝状の遺構が、平成13・14年度の調査に続いて確認された。底面から須恵器の蓋や坏・甕、土師器の坏・甕の破片等が出土しており、遺構の切り合い関係からも９世紀代のものと思われる。中～近世の遺構としては、Ｆ区を北東から南西方向に平行に走る溝が15条検出している。中でも最大の規模である幅６ｍ、深さ２ｍの大溝からは多量の陶磁器類や擂鉢・内耳土器・焙烙・皿などの土師質土器、石臼・板碑・五輪塔、漆器・下駄などの木製品等多くの遺物が出土している。Ｆ区の溝の使用年代は17～19世紀間と推定する。他に墓壙と思われる長方形土坑とピット状遺構の密集部分が確認された。Ｆ-２・３区は特に遺構の密集度が高く、各遺構の掘方で調査区に地山面がほとんど無いことと、水捌けが悪い黒色土中の調査であることから、調査区の状態が非常に危険であったため、大型の溝については、覆土の掘り込みを一部にとどめた。竪穴住居跡・溝状遺構以外のＦ区での遺構検出数は、掘立柱建物跡１軒、井戸跡11基、土坑138基、溝状遺構15条、ピット状遺構871基等である。

Ｇ区は調査区内の民家の移築が遅れた為、その範囲と周囲の生活道を残して調査可能な範囲のみをＧ-1区として分け、先に調査を行った。

Ｇ-１区では、井戸跡１基、土坑２基、溝状遺構６条、ピット状遺構15基等の遺構が検出した。

平成17年度

（本調査）平成17年４月１日～平成18年６月30日　　調査面積：1,300㎡

平成16年度に調査が行えなかった、Ｇ区の残り（Ｇ-２区）と、新たに調査範囲に加わったＧ-１区の西側に取り付く側道部分（Ｇ-３区）の調査を行った。

Ｇ-２区では、溝状遺構３条、ピット状遺構７基等の遺構が検出した。

Ｇ-３区では、溝状遺構３条、ピット状遺構７基の遺構が検出した。

（整理作業）平成17年４月１日～平成18年３月30日

北関本部棟において、主に平成15・16年度の発掘調査により出土した遺物、および遺構の実測図・写真等の各記録資料類を整理する作業を、北関本部棟採用の整理作業員（月13日、６時間勤務）の補助のもと、以下の通り行った。

（1）出土遺物洗浄　（2）出土遺物注記　（3）出土遺物接合・復元　（4）出土遺物分類・選別

（5）写真整理　（6）遺構平面図整理　（7）出土遺物実測

なお、今年度整理を行った各資料の分量は以下の通りである。

遺物：実測遺物数　約710点　非実測遺物破片総量　約18,300点

写真：35㎜モノクロ写真　約14,220点（フィルム395本）

35㎜スライドカラー写真　約14,220点（フィルム395本）　ほか航空写真等

図面：平面図　Ａ２版157枚　セクション（断面・土層分層）図　Ａ２版155枚　ほか記録図・表等

平成18年度

（整理作業）平成18年４月１日～平成19年３月30日

今年度の整理作業は、平成18年４月１日～平成19年２月28日の期間については、北関本部棟において、主に平成14～17年度の発掘調査により出土した遺物、および遺構実測図等の各記録資料類を整理する作業を、北関本部棟採用の整理補助員（８時間勤務）の補助のもと、行った。

なお、北関本部棟の建物は２月中に解体撤去し、現状復元して敷地を借用している真岡市水処理センターに返却するため、12月からは北関本部棟に収蔵されている発掘終了北関関連遺跡（高島・五霊・伊勢崎・下陰・曲田・馬場先遺跡ほか）の各出土遺物（中コンテナ換算で630箱分）・記録資料類の整理・梱包作業も同時に進めた。２月27・28日に北関本部棟内部から、室内器材・発掘調査用品・整理作業用品・遺物・記録資料類等の搬出・運搬と埋蔵文化財センターへの搬入・収納作業を行った。また、廃棄品（産業廃棄物・消耗品ほか）の分別・処理作業及び賃借品の返却作業を終了させ、これをもって、北関本部棟内部の引越作業を完了とした。

北関本部棟の解体・返却に伴う原状復元作業については、安全柵・開閉門の撤去及び進入路カット・原状復帰工事を３月１日から行った。敷地を借用している真岡市水処理センターは五行川の氾濫に備えた施設であるので、北関本部棟設置に伴う新設進入路施設の撤去・原状復帰については、五行川の氾濫に備えた工作として定まった幅と勾配を保つよう、管轄の真岡市土木事務所河川課の指導を仰ぐ必要があるため、現地立ち会いにて、「事務所を設置する際新たに取り付けた範囲（既存の五行川右岸の土手状アスファルト敷き道路から通用開閉門に進入する部分）すべてのアスファルトをはがし、アスファルト敷き道路からの既存法面を保つよう、両脇の土手部と同様な勾配に原状復帰する。」の指導を受けた上、原状復帰工事を行った。同時に、本部棟母屋・収蔵庫・機材プレハブの分別解体・撤去及び、本部棟に伴って新設した給水・排水施設、浄化槽、電柱等の外部施設の撤去・原状復帰工事、基礎部分コンクリート除去、地均しを行い、3月20日の返却を持って完了とした。

平成19年３月１日～平成19年３月30日の期間は埋蔵文化財センターにて、埋蔵文化財センター採用の整理補助員（８時間勤務）の補助のもと、西物井遺跡整理作業の続きと北関本部棟内部から埋蔵文化財センターに搬入した、室内機材・発掘調査用品・整理作業用品・遺物・記録資料類等の荷解き整理・収納作業を行った。

（1）遺構平面図整理　（2）出土遺物実測

（3）遺物観察表作成

報告書に図示する遺物の器形や文様・製作技法の特徴を観察し、図化した実測図に対応するよう作表する作業。

（4）遺構事実記載

調査を行った遺構の計測値や、収集した調査データから、遺構の性格や特徴を文書化し、記録する作業。

（5）遺物実測図・遺構平面図トレース作業

報告書に掲載する図版の版下用に、整理・修正の終了した各測量図を指定した約束事に基づいて清書する作業。

なお、今年度整理を行った各資料の分量は以下の通りである。

遺物：出土遺物実測数　約420点　　遺物実測図トレース数　約1,660点

遺構：平面図整理作業数　約2,170基分　　遺構平面図トレース数　約10,900枚

平成19年度

（整理作業）平成19年４月１日～平成20年３月30日

今回の整理作業は埋蔵文化財センターにおいて、平成13～17年度の発掘調査により出土した遺物、および遺構の実測図の各記録資料類を整理する作業を、平成18年度に引き続き、埋蔵文化財センター採用の整理補助員（８時間勤務）の補助のもと、以下の通り行った。

（1）遺構平面図整理作業（第二原図作成）

現場で記録した実測・測量図を整理・修正し、他の記録類と整合させる作業。

また、これらを基に調査報告書に必要な図面資料やトレースの下図になる第二原図を作成する作業。

（2）遺物観察表作成　（3）遺構事実記載　（4）遺構平面図トレース作業

（5）図版作成

報告書に掲載する遺構・遺物の実測図について、トレース作業の終了した測量図のパーツをレイアウトし、必要な文字・記号等のレタリングやトーンの貼り込みを行い、印刷できる状態の版下に仕上げる作業。

平成20年度

（報告作業）平成20年４月１日～平成20年９月30日

今回の整理作業は平成13～17年度の発掘調査により出土した遺物、および遺構の実測図の各記録資料類を報告書にまとめ印刷物として刊行する作業を、埋蔵文化財センター採用の整理補助員（８時間勤務）の補助のもと、以下の通り行った。

（1）掲載遺物写真撮影

報告書に写真を掲載する遺物を選出し、特徴を表現できる必要なカットで遺物を撮影する作業。

（2）原稿執筆　（3）編集　（4）校正　（5）遺物・記録資料類の再整理と収蔵

平成12年度から17年度に渡る発掘調査で調査した総面積は、26,350㎡（うち確認調査1,047㎡）となり、検出した遺構総数は、縄文土器集中区２、竪穴住居跡73軒、掘立柱建物跡11棟、井戸跡29基、方形竪穴３基、方形周溝遺構７基、火葬墓12基、地下式壙５基、溝状遺構101条、土坑（墓壙含む）319基、性格不明遺構31基、ピット状遺構約1,428基等である。遺物は、旧石器、縄文土器、土師器、須恵器、土師質土器、瓦質土器、陶磁器、瓦、五輪塔・石臼・砥石等ほか石製品、煙管・銭貨等ほか金属製品、下駄・菰槌等ほか木製品など収納箱（中コンテナ換算）で203箱分出土している。

平成14年度から20年度に渡る整理・報告作業で整理を行った資料総数は、遺物：破片総量　約32,100点、洗浄：約32,100点、注記：約32,100点、接合：約32,100点、分類：約32,100点、復元：約340点、実測：約2,420点、拓本：約1,170点、遺物トレース：約2,350点、作成遺構図版：185枚、作成遺物図版：148枚、遺物写真撮影点数： 380カット、遺構写真図版：263枚、写真整理数：35㎜モノクロ写真　約14,580点（フィルム405本）・35㎜スライドカラー写真　約14,580点（フィルム405本）ほか航空写真等、遺構測量図面：Ａ２版約530枚・セクション（断面・土層分層）図　Ａ２版186枚・土層観察記録表：約2,500枚ほか記録図・表等である。

標準土層

標準土層は井戸や柱穴の遺構の断ち割り、あるいはトレンチ調査時において確認した。

調査対象区内の現状は大部分が水田もしくは土取り等の削平により旧地形の様相を変化させているが、微視的には北から南に向かって緩やかに下がる地形を呈し、間に二ヶ所の埋没谷が観察される。以下、各区で確認した標準土層から作成した土層模式図をもとに概説する。

①セ-26グリッドトレンチ５ではローム漸移層以下を確認した。この付近より東はＥ区の谷に向かって遺構の検出しない範囲に当たる。他の調査区では見られない砂礫層がローム層以下互層で入り、河川の氾濫源であったことが伺える。

②イ-12グリッドＳ-809付近では、現代の再堆積土を含む表土から観察した。Ⅰａ～ｄ層の耕作土以下のⅡ層中において、古墳時代以降の遺構確認が可能であるが、この面ですでに上部はかなり削平を受け当時の生活面の大部分を失っているものと思われ、遺存する遺構の覆土は中位以下がほとんどである。このため、可能な限り上位の面で遺構を把握することに努めた。しかし、旧水田耕作の影響で土質が変化する黒色土にあたり攪乱も多く入るため、状況によって遺構の掘り下げはその下にあたるⅢ層のローム漸移層に近い面から行った。

③ヌ-34グリッドSI-1005付近で観察された土層は、⑤ハ-39グリッドの土層と良く対応し安定した標準的なものである。Ｅ区南部より検出した竪穴住居跡は、古墳時代ではⅣａ層のソフトローム上位面まで掘り込まれているが、古代においてその上部のローム漸移層中で遺構が完結する。

④ネ-46グリッドSE-1200付近では最も深掘りを行った。Ｆ-１区の中央より南は道路建設地内においてⅤ層より上部の土がすべて土取りされており、遺構はハードロームが露出した面で確認した。Ⅴ層の下層では硬い砂質ロームであるⅨ層が観察できた。色味や特徴から一般的にブラックバンド（暗色帯）と呼称されているものに近い。

⑤ハ-39グリッドＳ-1177付近では表土が家屋に伴う植栽や構築物による攪乱等により大きく乱されており、遺構はⅢ層のローム漸移層まで下がった面で確認した。遺跡内で唯一出土した後期旧石器（石刃）はこの木根の除去中に発見されたものである。トレンチによる周辺の精査はⅤ層のハードローム上位まで行ったが、他に当該期の遺物は出土しなかった。

標準土層

Ⅰ 層：表土・耕作土
- Ⅰａ　表土
- Ⅰｂ　黒褐色土　耕作土
- Ⅰｃ　黒色土　耕作土
- Ⅰｄ　黒褐色土　耕作土

Ⅱ 層：黒色土　黒ボク土

Ⅲ 層：ローム漸移層
- Ⅲａ　暗褐色土　ローム漸移層の上位
- Ⅲｂ　黄褐色土　ローム漸移層の下位

Ⅳ 層：ローム層（ソフトローム）
- Ⅳａ　黄褐色土
- Ⅳｂ　黄褐色土　やや砂質

Ⅴ 層：砂質ローム層（ハードローム）にぶい黄色土　やや黒味が強い

Ⅵ 層：明黄褐色土　崩れやすい粘質ローム層
- Ⅵａ　黄褐色土　黒色土が小ブロックで入る
- Ⅵｂ　明黄褐色土　黒色土が少ない

Ⅶ 層：砂質ローム層
- Ⅶａ　オリーブ黄色土　粘性がある
- Ⅶｂ　オリーブ黄色土
- Ⅶｃ　オリーブ黄色土　やや粘性がある　やや灰色味が強い

Ⅷ 層：砂礫層
- Ⅷａ　オリーブ褐色土　砂層
- Ⅷｂ　褐色土　砂礫層

Ⅸ 層：硬い砂質ローム層　灰オリーブ色土　やや粘性がある　やや灰黒味が強い

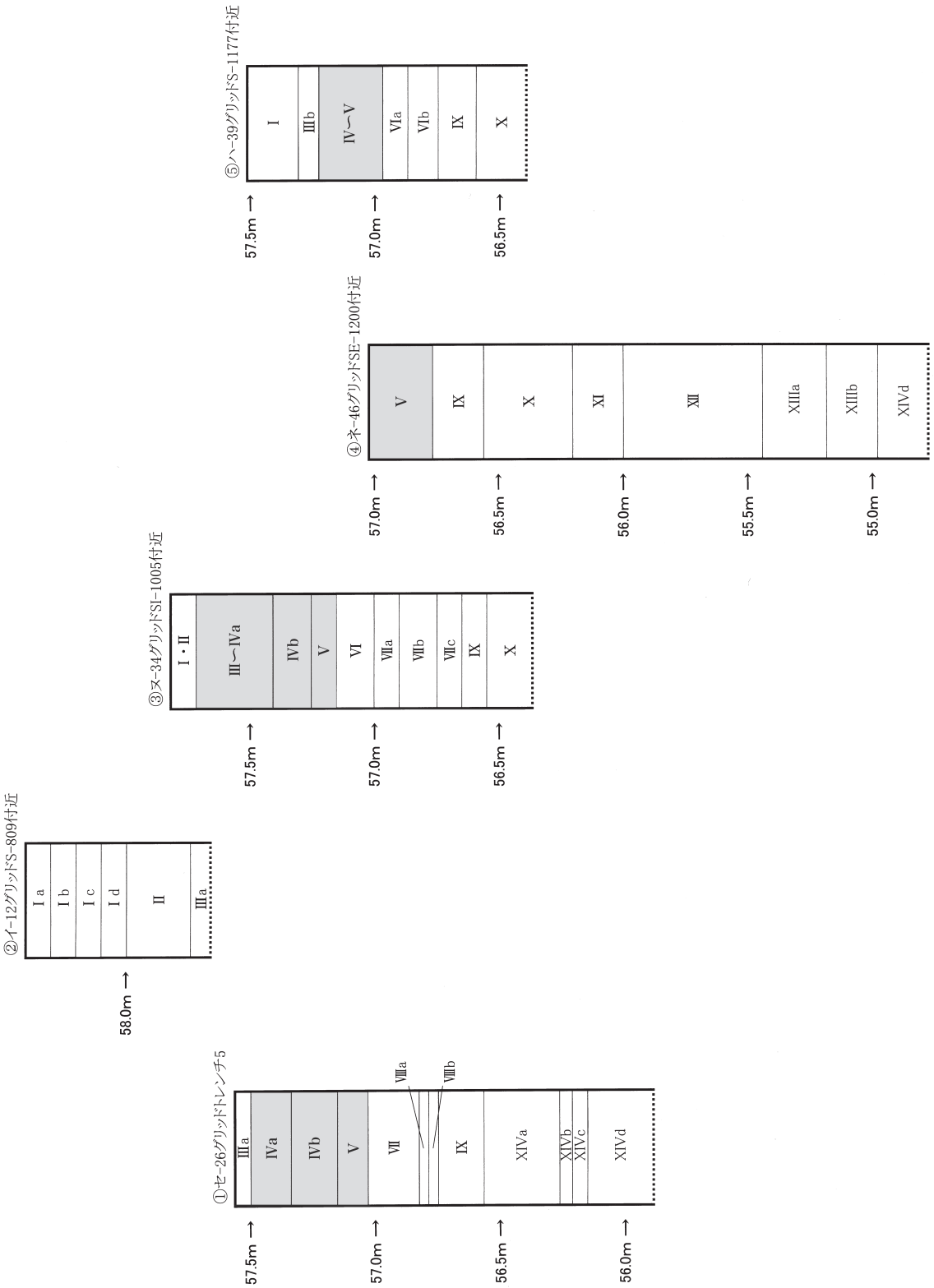
Ⅹ 層：粘質ローム層　黄褐色土

Ⅺ 層：砂質ローム層　オリーブ黒色土

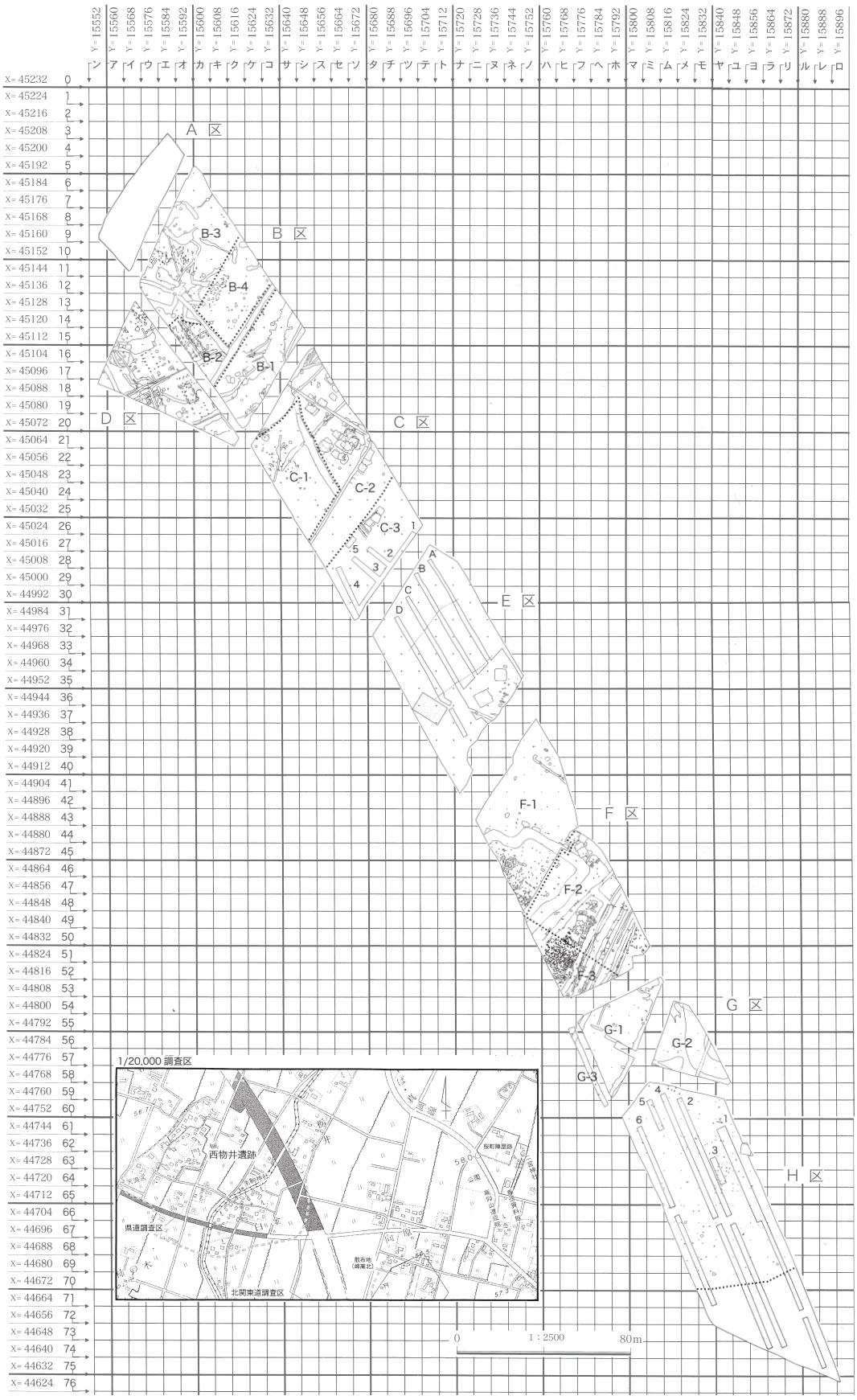
Ⅻ 層：ローム層　褐色土

XIII 層：粘土層
- XIIIa　にぶい黄褐色土　柔らかい粘土層
- XIIIb　黄褐色土

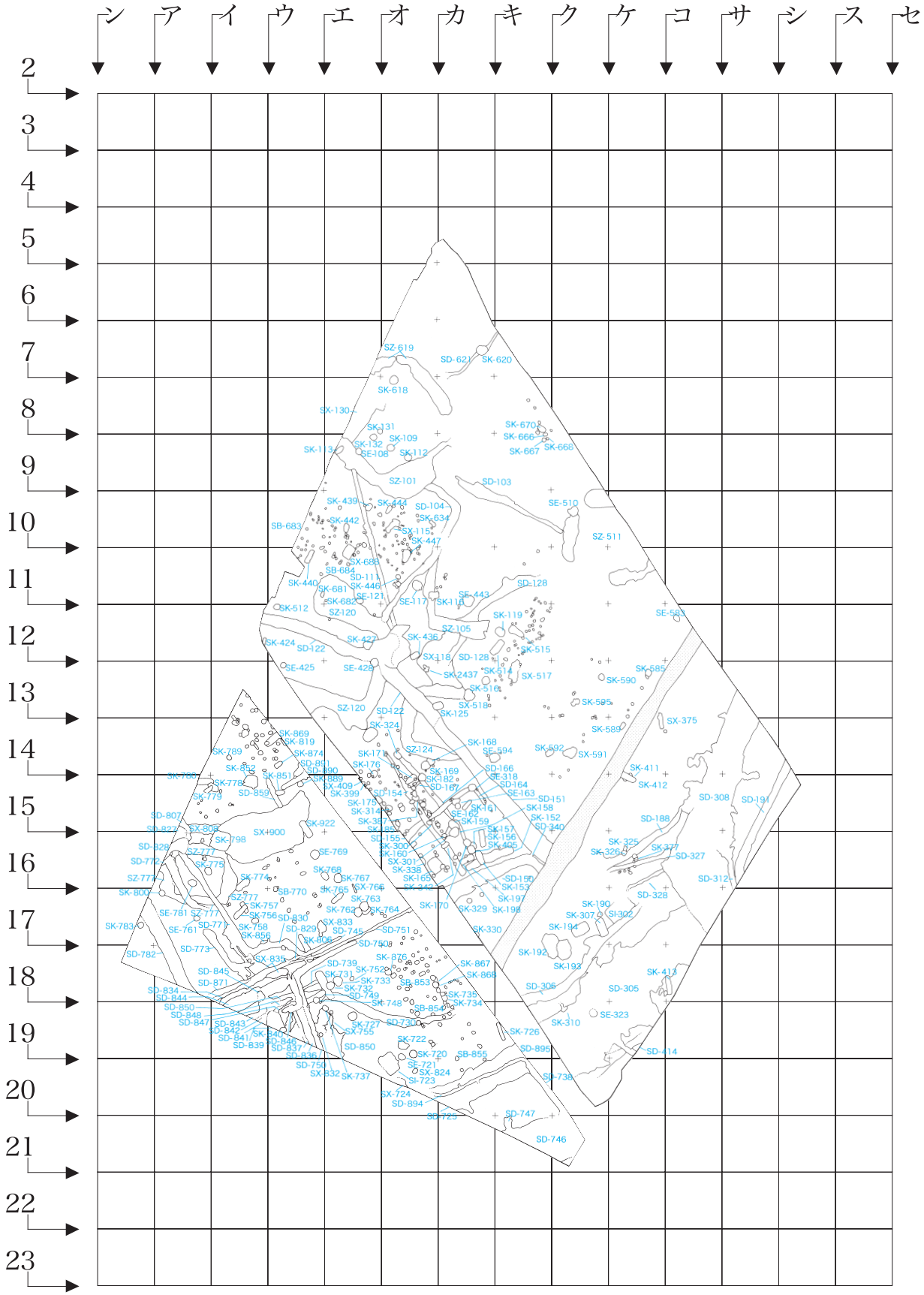
XIV 層：砂礫層
- XIVa　灰黄褐色土　砂礫層
- XIVb　オリーブ褐色土　砂層
- XIVc　褐色土　砂層にロームが入る
- XIVd　オリーブ褐色土　砂礫層


①セ-26グリッドトレンチ5
Ⅲa
Ⅳa
Ⅳb
Ⅴ
Ⅶ
Ⅷa
Ⅷb
Ⅸ
XIVa
XIVb
XIVc
XIVd
57.5m
57.0m
56.5m
56.0m
②イ-12グリッドS-809付近
Ⅰa
Ⅰb
Ⅰc
Ⅰd
Ⅱ
Ⅲa
58.0m
③ヌ-34グリッドSI-1005付近
Ⅰ・Ⅱ
Ⅲ～Ⅳa
Ⅳb
Ⅴ
Ⅵ
Ⅶa
Ⅶb
Ⅶc
Ⅸ
Ⅹ
57.5m
57.0m
56.5m
④ネ-46グリッドSE-1200付近
Ⅴ
Ⅸ
Ⅹ
Ⅺ
Ⅻ
XIIIa
XIIIb
XIVd
57.0m
56.5m
56.0m
55.5m
55.0m
⑤ハ-39グリッドS-1177付近
Ⅰ
Ⅲb
Ⅳ～Ⅴ
Ⅵa
Ⅵb
Ⅸ
Ⅹ
57.5m
57.0m
56.5m

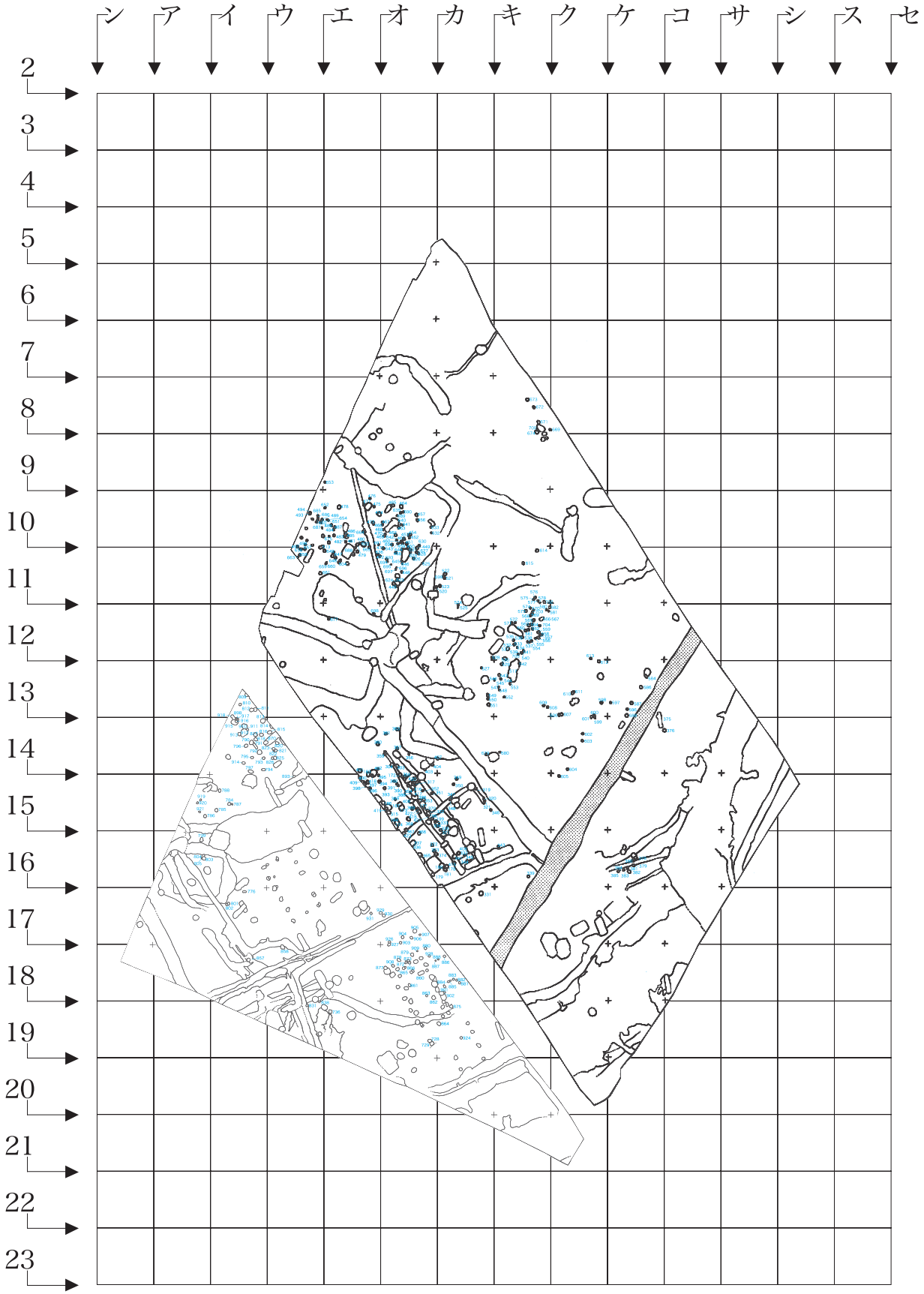
第２図　標準土層図



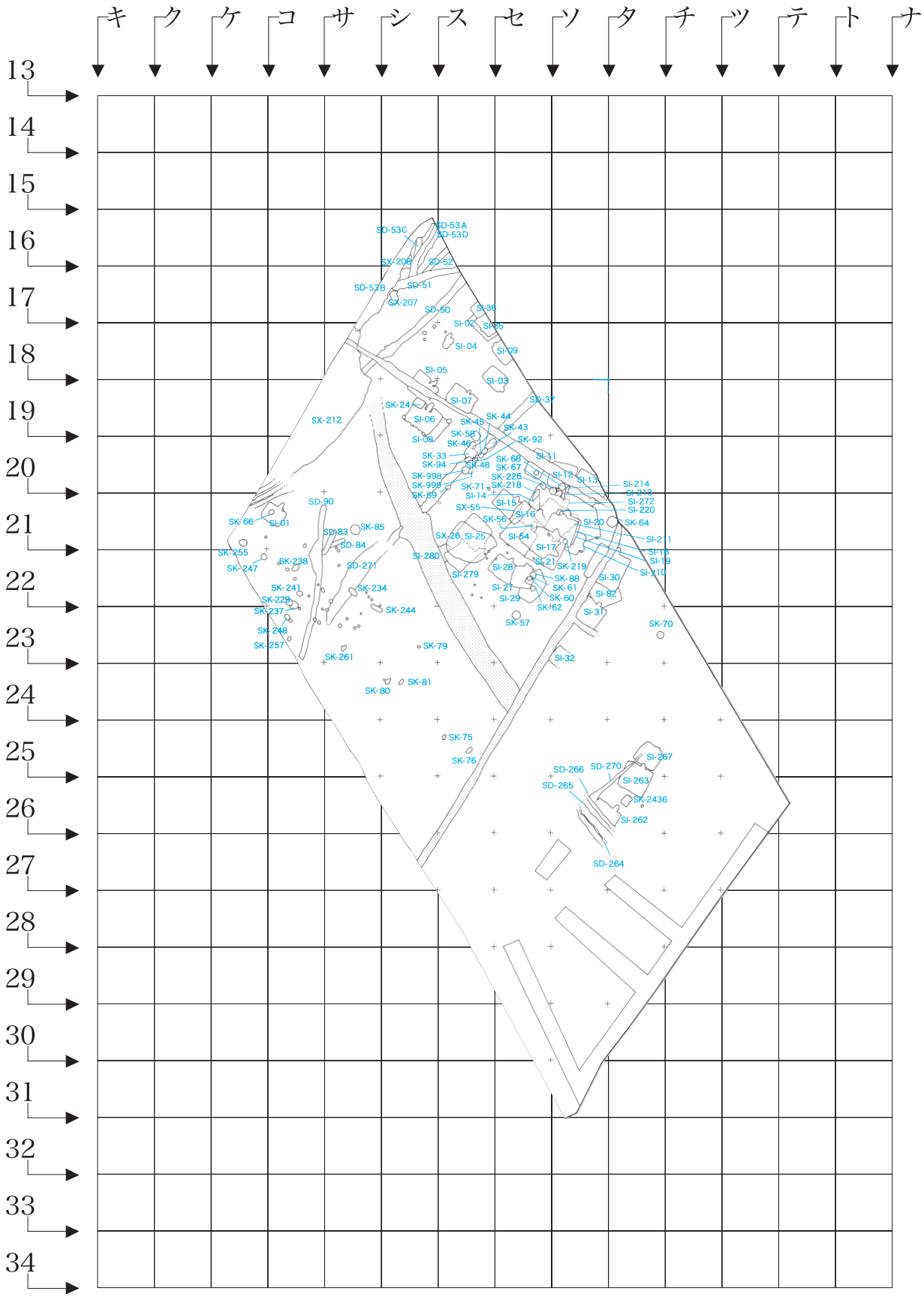
第３図　西物井遺跡 調査区・トレンチ・グリッド配置図



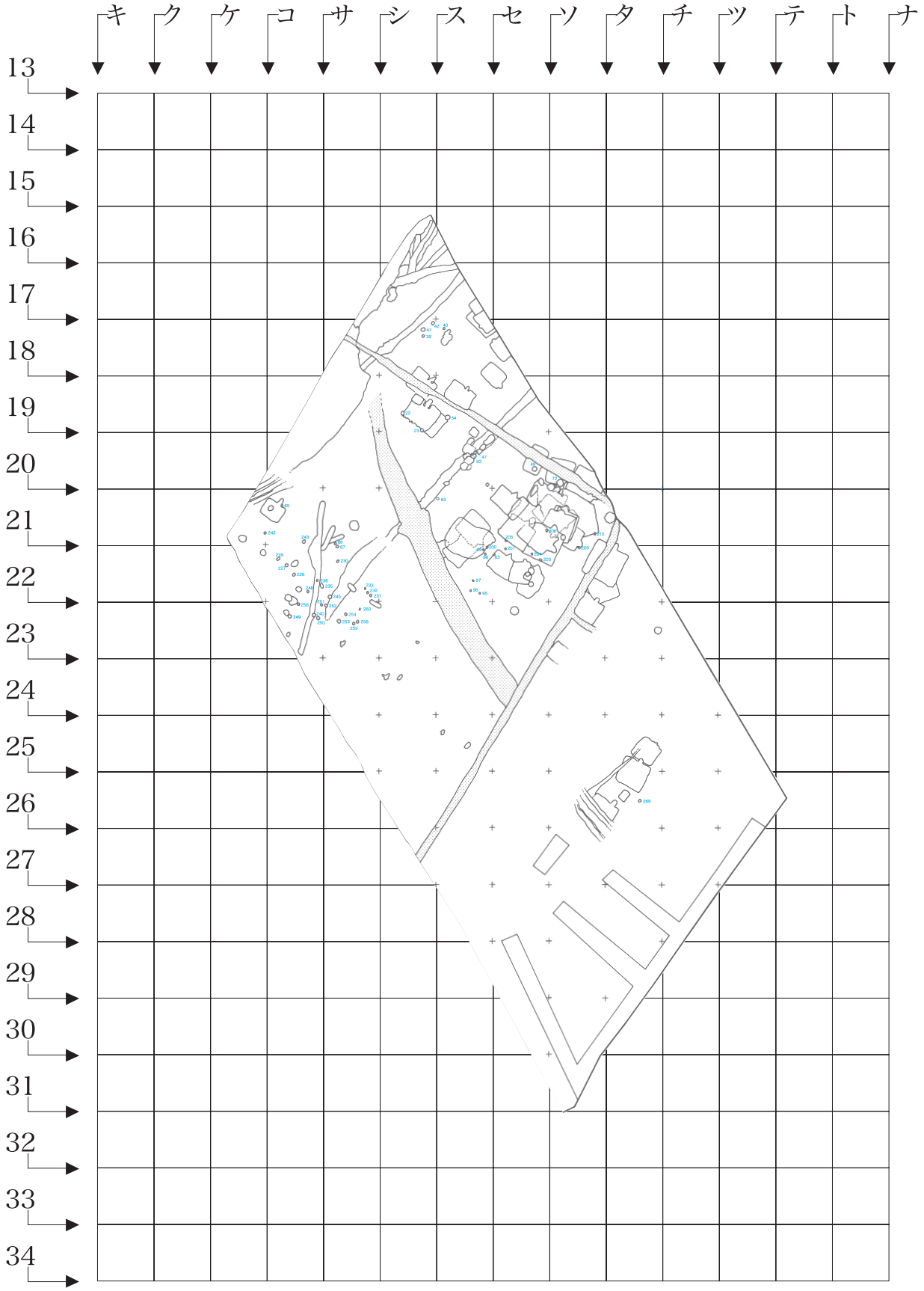
第４図　B・D区 遺構配置図（1）1/800



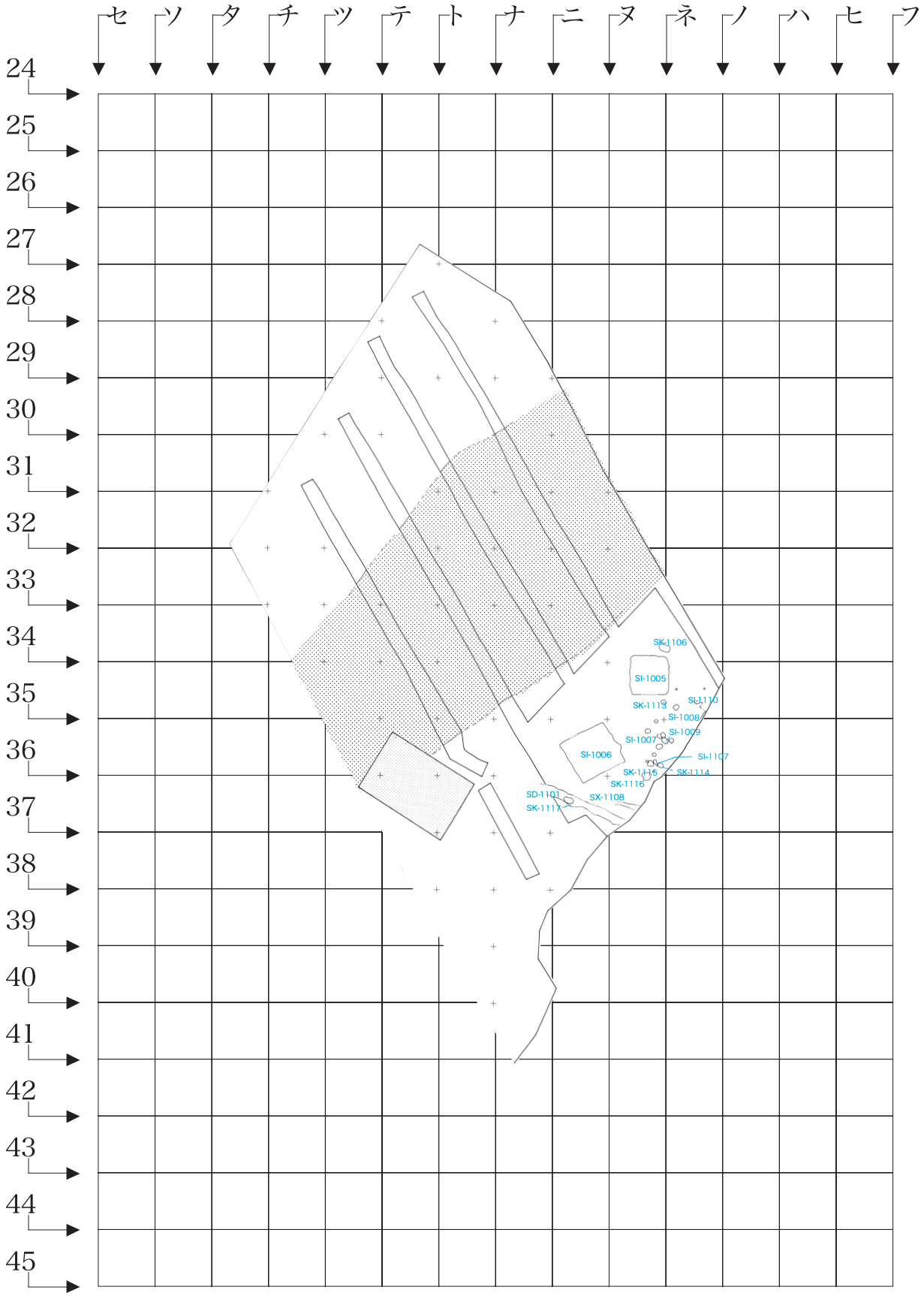
第５図　B・D区 遺構配置図（2）1/800



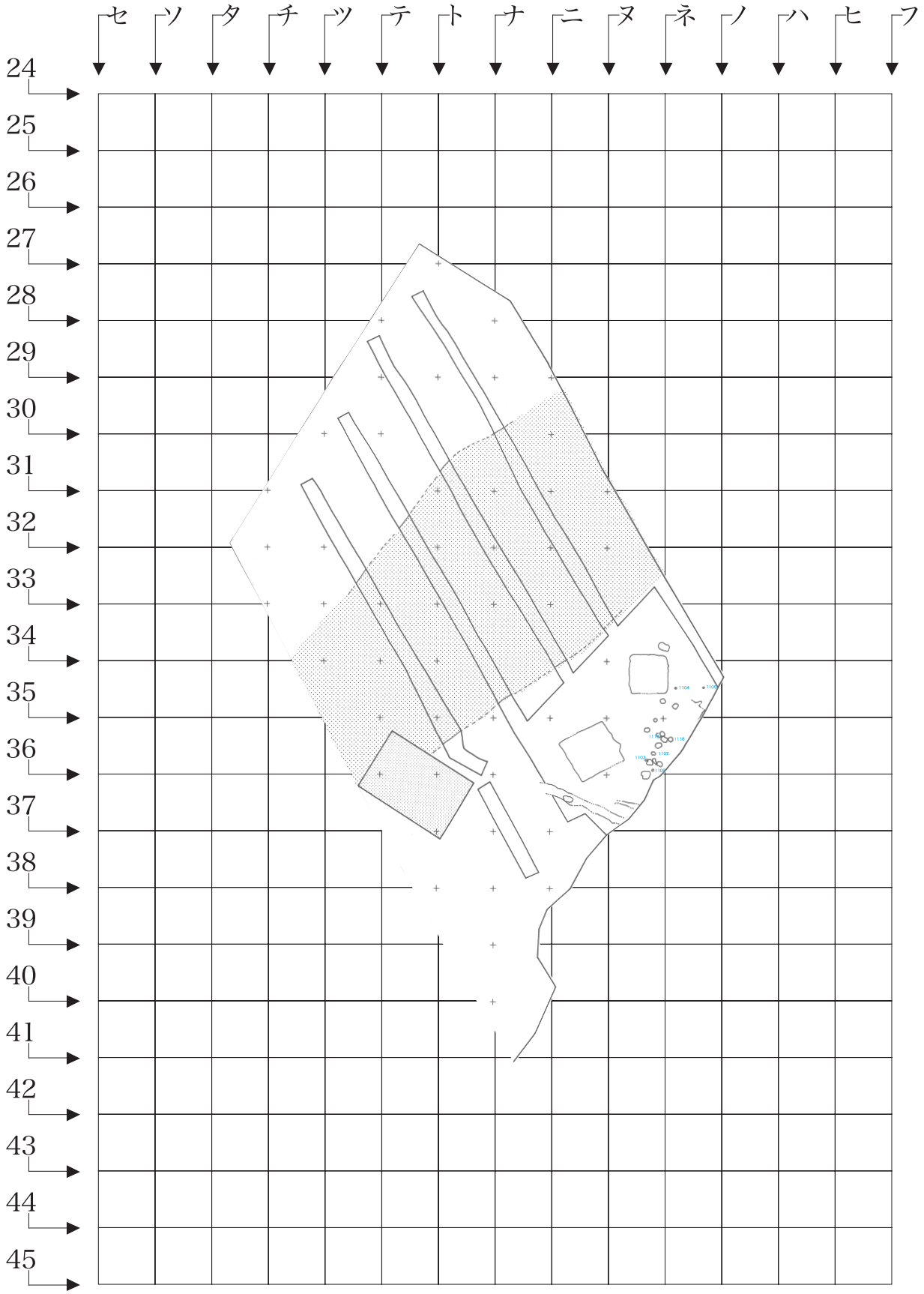
第６図　Ｃ区 遺構配置図（1）1/800



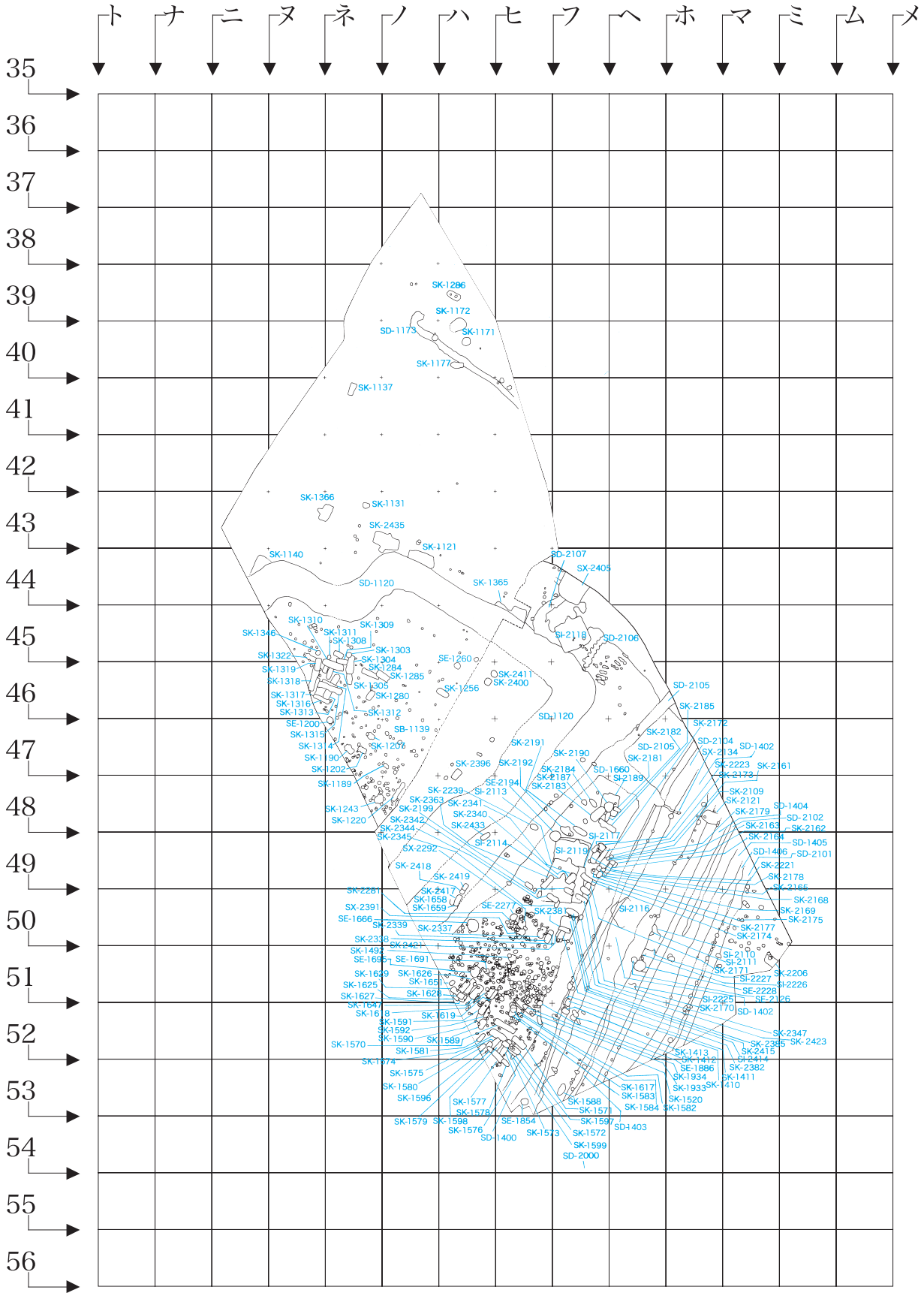
第７図　Ｃ区 遺構配置図（2）1/800



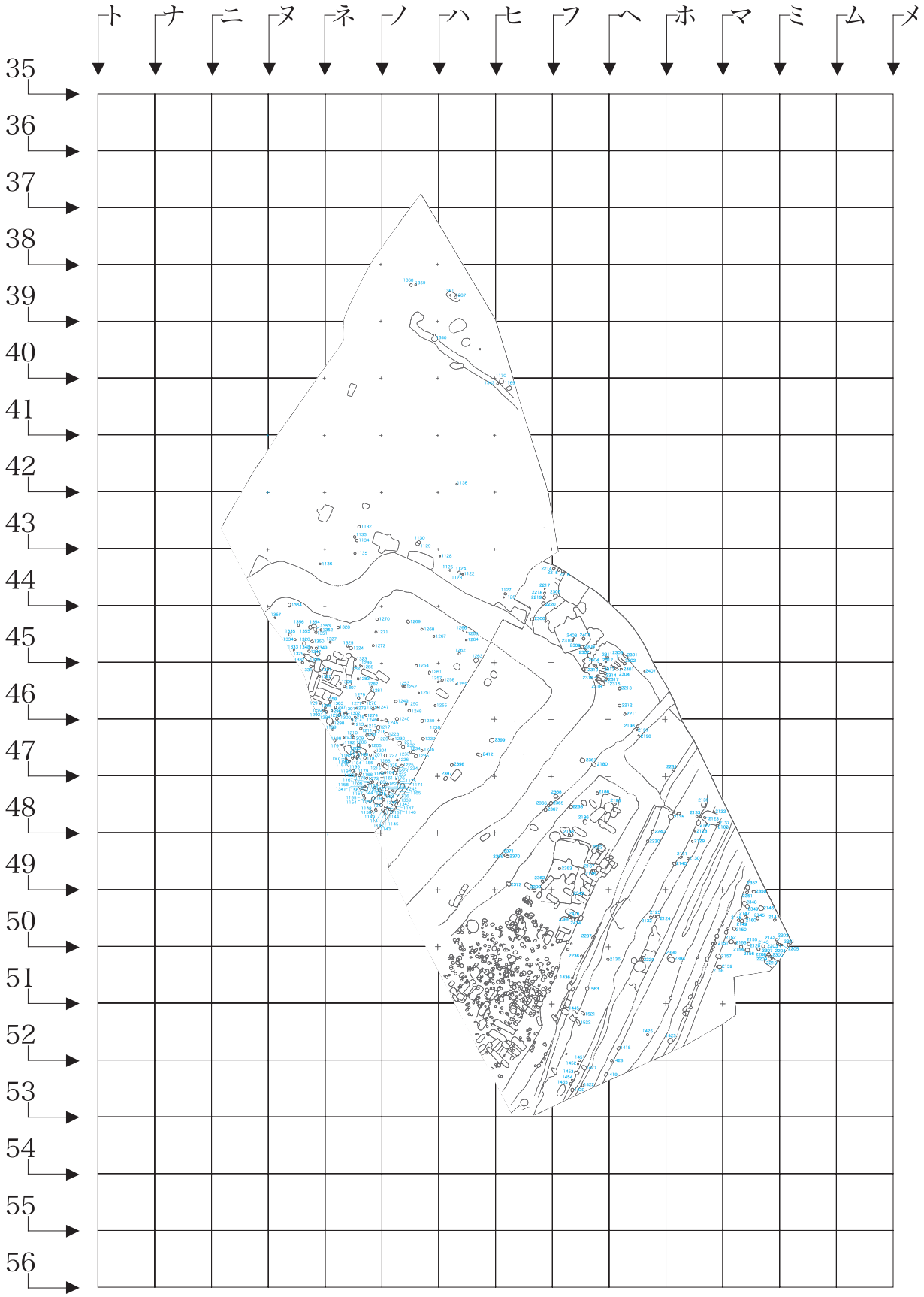
第８図　Ｅ区 遺構配置図（1）1/800



第９図　Ｅ区 遺構配置図（2）1/800

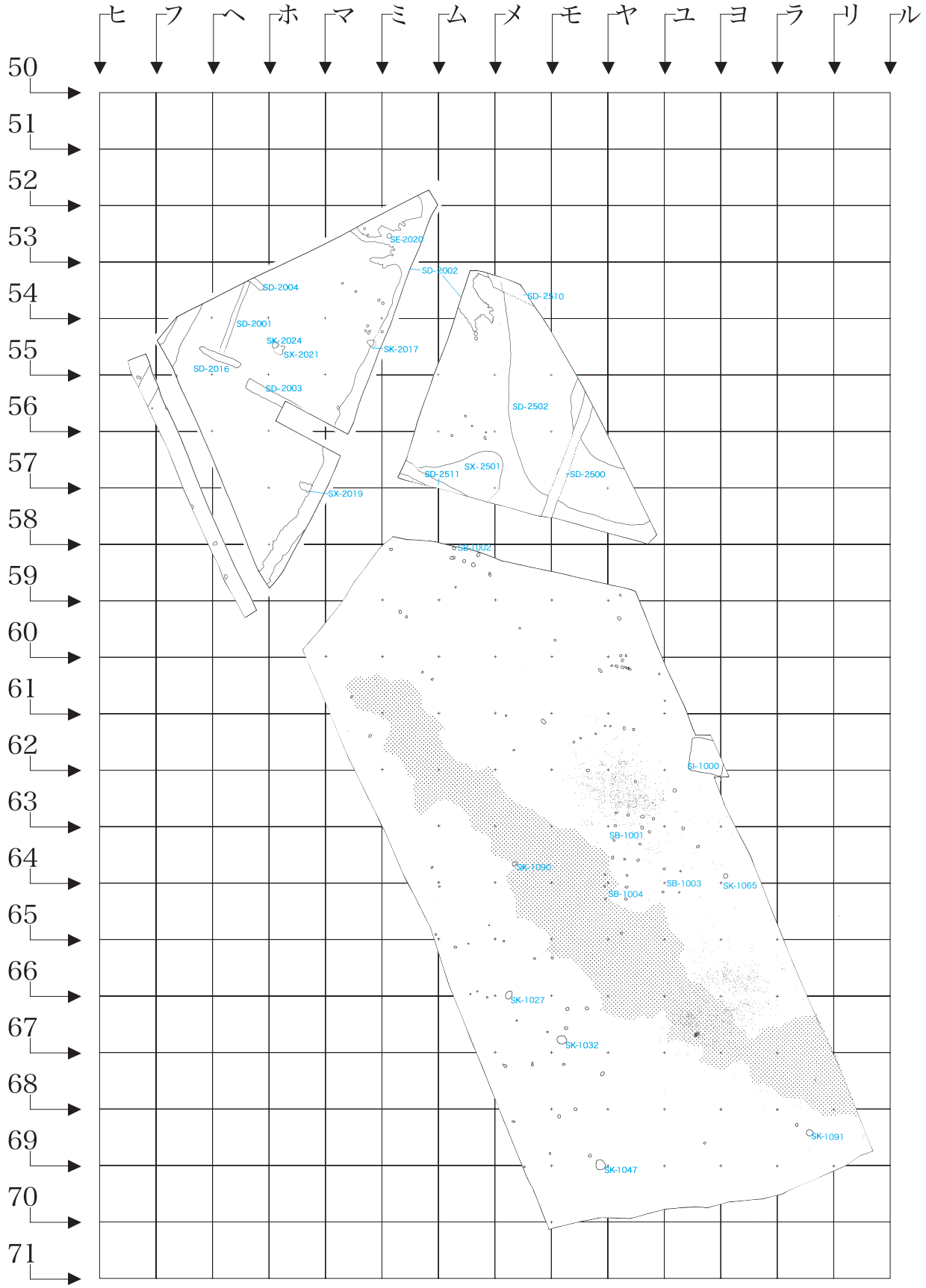


第10図　Ｆ区 遺構配置図（1）1/800

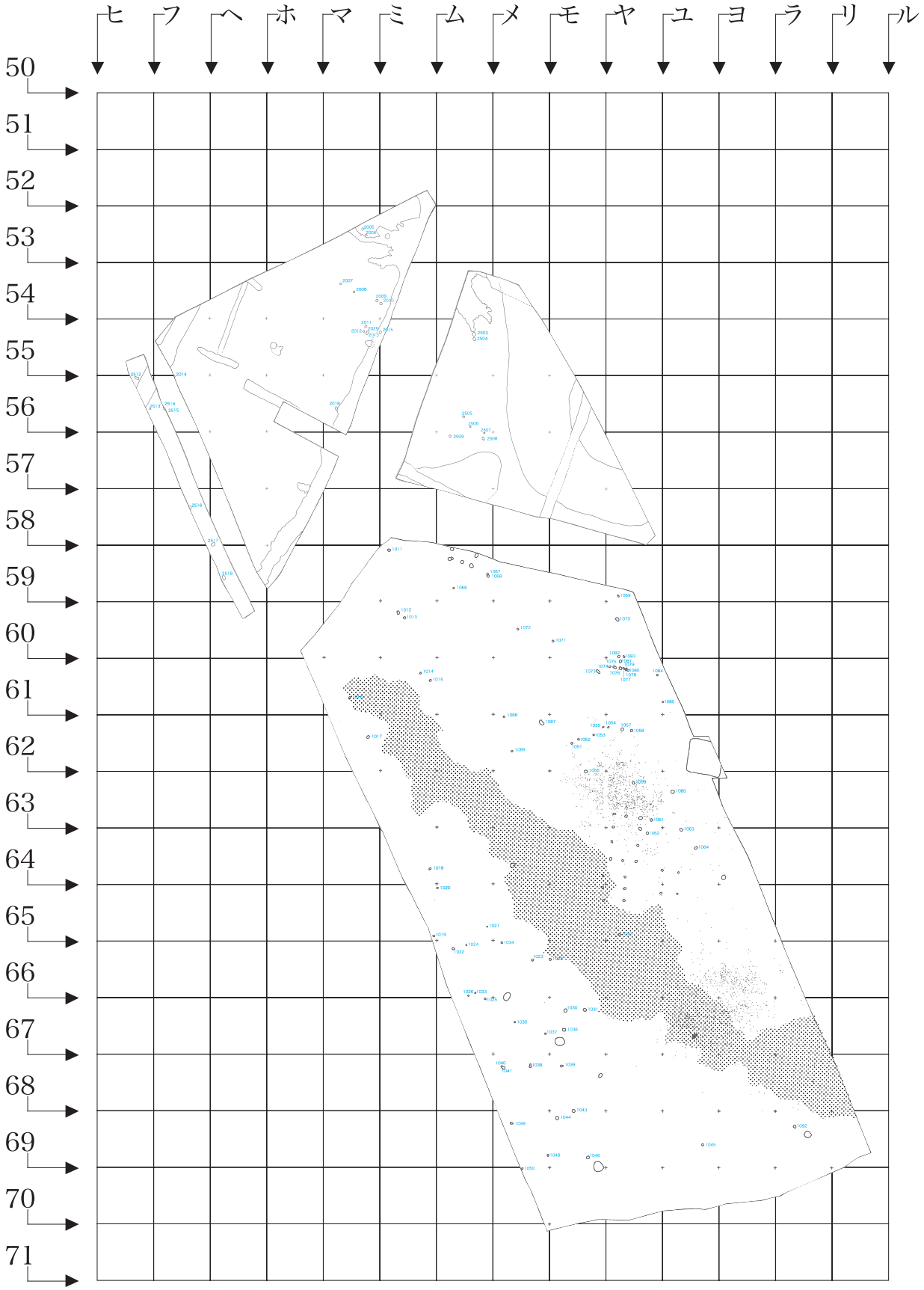


第11図　Ｆ区 遺構配置図（2）1/800

第12図　Ｆ区 遺構配置図（3）1/100



第13図　G・H区 遺構配置図（1）1/800



第14図　G・H区 遺構配置図（2）1/800

第２表　グリッド座標値一覧

ｸﾞﾘｯﾄﾞ	X=	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	X=	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	X=	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	X=	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	X=	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	X=	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	X=	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	X=	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	X=
0	45232	9	45160	18	45088	27	45016	36	44944	45	44872	54	44800	63	44728	72	44656
	45231		45159		45087		45015		44943		44871		44799		44727		44655
	45230		45158		45086		45014		44942		44870		44798		44726		44654
	45229		45157		45085		45013		44941		44869		44797		44725		44653
	45228		45156		45084		45012		44940		44868		44796		44724		44652
	45227		45155		45083		45011		44939		44867		44795		44723		44651
	45226		45154		45082		45010		44938		44866		44794		44722		44650
	45225		45153		45081		45009		44937		44865		44793		44721		44649
1	45224	10	45152	19	45080	28	45008	37	44936	46	44864	55	44792	64	44720	73	44648
	45223		45151		45079		45007		44935		44863		44791		44719		44647
	45222		45150		45078		45006		44934		44862		44790		44718		44646
	45221		45149		45077		45005		44933		44861		44789		44717		44645
	45220		45148		45076		45004		44932		44860		44788		44716		44644
	45219		45147		45075		45003		44931		44859		44787		44715		44643
	45218		45146		45074		45002		44930		44858		44786		44714		44642
	45217		45145		45073		45001		44929		44857		44785		44713		44641
2	45216	11	45144	20	45072	29	45000	38	44928	47	44856	56	44784	65	44712	74	44640
	45215		45143		45071		44999		44927		44855		44783		44711		44639
	45214		45142		45070		44998		44926		44854		44782		44710		44638
	45213		45141		45069		44997		44925		44853		44781		44709		44637
	45212		45140		45068		44996		44924		44852		44780		44708		44636
	45211		45139		45067		44995		44923		44851		44779		44707		44635
	45210		45138		45066		44994		44922		44850		44778		44706		44634
	45209		45137		45065		44993		44921		44849		44777		44705		44633
3	45208	12	45136	21	45064	30	44992	39	44920	48	44848	57	44776	66	44704	75	44632
	45207		45135		45063		44991		44919		44847		44775		44703		44631
	45206		45134		45062		44990		44918		44846		44774		44702		44630
	45205		45133		45061		44989		44917		44845		44773		44701		44629
	45204		45132		45060		44988		44916		44844		44772		44700		44628
	45203		45131		45059		44987		44915		44843		44771		44699		44627
	45202		45130		45058		44986		44914		44842		44770		44698		44626
	45201		45129		45057		44985		44913		44841		44769		44697		44625
4	45200	13	45128	22	45056	31	44984	40	44912	49	44840	58	44768	67	44696	76	44624
	45199		45127		45055		44983		44911		44839		44767		44695		44623
	45198		45126		45054		44982		44910		44838		44766		44694		44622
	45197		45125		45053		44981		44909		44837		44765		44693		44621
	45196		45124		45052		44980		44908		44836		44764		44692		44620
	45195		45123		45051		44979		44907		44835		44763		44691		44619
	45194		45122		45050		44978		44906		44834		44762		44690		44618
	45193		45121		45049		44977		44905		44833		44761		44689		44617
5	45192	14	45120	23	45048	32	44976	41	44904	50	44832	59	44760	68	44688	77	44616
	45191		45119		45047		44975		44903		44831		44759		44687		44615
	45190		45118		45046		44974		44902		44830		44758		44686		44614
	45189		45117		45045		44973		44901		44829		44757		44685		44613
	45188		45116		45044		44972		44900		44828		44756		44684		44612
	45187		45115		45043		44971		44899		44827		44755		44683		44611
	45186		45114		45042		44970		44898		44826		44754		44682		44610
	45185		45113		45041		44969		44897		44825		44753		44681		44609
6	45184	15	45112	24	45040	33	44968	42	44896	51	44824	60	44752	69	44680	78	44608
	45183		45111		45039		44967		44895		44823		44751		44679		44607
	45182		45110		45038		44966		44894		44822		44750		44678		44606
	45181		45109		45037		44965		44893		44821		44749		44677		44605
	45180		45108		45036		44964		44892		44820		44748		44676		44604
	45179		45107		45035		44963		44891		44819		44747		44675		44603
	45178		45106		45034		44962		44890		44818		44746		44674		44602
	45177		45105		45033		44961		44889		44817		44745		44673		44601
7	45176	16	45104	25	45032	34	44960	43	44888	52	44816	61	44744	70	44672	79	44600
	45175		45103		45031		44959		44887		44815		44743		44671		44599
	45174		45102		45030		44958		44886		44814		44742		44670		44598
	45173		45101		45029		44957		44885		44813		44741		44669		44597
	45172		45100		45028		44956		44884		44812		44740		44668		44596
	45171		45099		45027		44955		44883		44811		44739		44667		44595
	45170		45098		45026		44954		44882		44810		44738		44666		44594
	45169		45097		45025		44953		44881		44809		44737		44665		44593
8	45168	17	45096	26	45024	35	44952	44	44880	53	44808	62	44736	71	44664	80	44592
	45167		45095		45023		44951		44879		44807		44735		44663		44591
	45166		45094		45022		44950		44878		44806		44734		44662		44590
	45165		45093		45021		44949		44877		44805		44733		44661		44589
	45164		45092		45020		44948		44876		44804		44732		44660		44588
	45163		45091		45019		44947		44875		44803		44731		44659		44587
	45162		45090		45018		44946		44874		44802		44730		44658		44586
	45161		45089		45017		44945		44873		44801		44729		44657		44585

ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Y=	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Y=	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Y=	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Y=	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	Y=
ン	15552	ケ	15624	ツ	15696	ヒ	15768	ヤ	15840
	15553		15625		15697		15769		15841
	15554		15626		15698		15770		15842
	15555		15627		15699		15771		15843
	15556		15628		15700		15772		15844
	15557		15629		15701		15773		15845
	15558		15630		15702		15774		15846
	15559		15631		15703		15775		15847
ア	15560	コ	15632	テ	15704	フ	15776	ユ	15848
	15561		15633		15705		15777		15849
	15562		15634		15706		15778		15850
	15563		15635		15707		15779		15851
	15564		15636		15708		15780		15852
	15565		15637		15709		15781		15853
	15566		15638		15710		15782		15854
	15567		15639		15711		15783		15855
イ	15568	サ	15640	ト	15712	ヘ	15784	ヨ	15856
	15569		15641		15713		15785		15857
	15570		15642		15714		15786		15858
	15571		15643		15715		15787		15859
	15572		15644		15716		15788		15860
	15573		15645		15717		15789		15861
	15574		15646		15718		15790		15862
	15575		15647		15719		15791		15863
ウ	15576	シ	15648	ナ	15720	ホ	15792	ラ	15864
	15577		15649		15721		15793		15865
	15578		15650		15722		15794		15866
	15579		15651		15723		15795		15867
	15580		15652		15724		15796		15868
	15581		15653		15725		15797		15869
	15582		15654		15726		15798		15870
	15583		15655		15727		15799		15871
エ	15584	ス	15656	ニ	15728	マ	15800	リ	15872
	15585		15657		15729		15801		15873
	15586		15658		15730		15802		15874
	15587		15659		15731		15803		15875
	15588		15660		15732		15804		15876
	15589		15661		15733		15805		15877
	15590		15662		15734		15806		15878
	15591		15663		15735		15807		15879
オ	15592	セ	15664	ヌ	15736	ミ	15808	ル	15880
	15593		15665		15737		15809		15881
	15594		15666		15738		15810		15882
	15595		15667		15739		15811		15883
	15596		15668		15740		15812		15884
	15597		15669		15741		15813		15885
	15598		15670		15742		15814		15886
	15599		15671		15743		15815		15887
カ	15600	ソ	15672	ネ	15744	ム	15816	レ	15888
	15601		15673		15745		15817		15889
	15602		15674		15746		15818		15890
	15603		15675		15747		15819		15891
	15604		15676		15748		15820		15892
	15605		15677		15749		15821		15893
	15606		15678		15750		15822		15894
	15607		15679		15751		15823		15895
キ	15608	タ	15680	ノ	15752	メ	15824	ロ	15896
	15609		15681		15753		15825		15897
	15610		15682		15754		15826		15898
	15611		15683		15755		15827		15899
	15612		15684		15756		15828		15900
	15613		15685		15757		15829		15901
	15614		15686		15758		15830		15902
	15615		15687		15759		15831		15903
ク	15616	チ	15688	ハ	15760	モ	15832	ワ	15904
	15617		15689		15761		15833		15905
	15618		15690		15762		15834		15906
	15619		15691		15763		15835		15907
	15620		15692		15764		15836		15908
	15621		15693		15765		15837		15909
	15622		15694		15766		15838		15910
	15623		15695		15767		15839		15911

第３表　遺構一覧（検索表）

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	実測図(遺構)	実測図(遺物)	写真(遺構)	写真(遺物)
SI - 01	C-1 区	ケ - 20	7	1	六	
SI - 02	C-2 区	ス - 16	8	2	六	一
SI - 03	C-2 区	ス - 17	9	3	六	
SI - 04	C-2 区	ス - 17	11	4		
SI - 05	C-2 区	シ - 17	10	5		
SI - 06	C-2 区	シ - 18	12	6	六	一・一八
SI - 07	C-2 区	ス - 18	13	8	七	一
SI - 08	C-2 区	シ - 18	12		六	
SI - 09	C-2 区	セ - 17	14	7	六	一
SI - 11	C-2 区	セ - 19	15	144	七	
SI - 12	C-2 区	ソ - 19	16	12・144	七	一・一二
SI - 13	C-2 区	ソ - 19	17	10・144	七・八	一・一八
SI - 14	C-2 区	セ - 19	18	9	七・八・九	一
SI - 15	C-2 区	セ - 19	19	15	七・八	一・二・一七
SI - 16	C-2 区	セ - 20	20	13	七・八	二
SI - 17	C-2 区	セ - 20	21	14	七・八	一七
SI - 18	C-2 区	ソ - 20	22	16	七・八	二・一七
SI - 19	C-2 区	ソ - 20	23		七・八	
SI - 20	C-2 区	ソ - 20	3	11	七・八・九	二
SI - 21	C-2 区	セ - 20	25	17	七・八・九・一〇	
S - 22	C-2 区	シ - 18	114			
S - 23	C-2 区	シ - 18	114			
SK - 24	C-2 区	シ - 18	68	60		
SI - 25	C-2 区	ス - 20	26	18	一〇	二・三・一七
SX - 26	C-2 区	ス - 20～ス - 21	36	121		一七
SI - 27	C-2 区	セ - 21	27	19	一〇・一一	三
SI - 28	C-2 区	ス - 21	27	20	一〇	
SI - 29	C-2 区	セ - 21	27	21	一〇	三
SI - 30	C-2 区	ソ - 20	28	22・144	一一	三・一七
SI - 31	C-2 区	ソ - 21	29	23	一一	一八
SI - 32	C-2 区	ソ - 22	24	24		三
SK - 33	C-2 区	ス - 19	68	60		五
S - 34	C-2 区	ス - 18	114	122		
SI - 35	C-2 区	ス - 16	8	25	六	
SI - 36	C-2 区	ス - 16	8		六	
SD - 37	C-2 区	セ - 18～ス - 20	87	64・65・67・144	二八	六・一六
S - 39	C-2 区	シ - 17	114			
S - 40	C-2 区	ス - 17	114	122		
S - 41	C-2 区	シ - 17	114			
S - 42	C-2 区	シ - 17	114			
SK - 43	C-2 区	ス - 19	68			
SK - 44	C-2 区	ス - 19	68			
SK - 45	C-2 区	ス - 19	68			
SK - 46	C-2 区	ス - 19	68			
S - 47	C-2 区	ス - 19	114			
SK - 48	C-2 区	ス - 19	68	60		
S - 49	C-2 区	セ - 19	114			
SD - 50	C-2 区	ス - 16～サ - 17	88	69		一二
SD - 51	C-2 区	シ - 16～ス - 16	88	66		
SD - 52	C-2 区	ス - 15～シ - 16	88			
SD - 53	C-2 区	シ - 15～シ - 16	88	68		六・二二
SI - 54	C-2 区	セ - 20	30	26	九・一〇・一一・一二	三・一八
SX - 55	C-2 区	セ - 20	111			
SK - 56	C-2 区	セ - 20	68	60		
SK - 57	C-2 区	セ - 22	68			
SK - 58	C-2 区	ス - 18	68			
SK - 59	C-2 区	ス - 19	68			
SK - 60	C-2 区	セ - 21	68			
SK - 61	C-2 区	セ - 21	68			
SK - 62	C-2 区	セ - 21	68			
S - 63	C-2 区	セ - 21	114			
SK - 64	C-2 区	タ - 20	68			
S - 65	C-1 区	コ - 20	114			
SK - 66	C-1 区	コ - 20	68			
SK - 67	C-2 区	ソ - 19	68	60		
SK - 68	C-2 区	ソ - 19	69	60		

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	実測図(遺構)	実測図(遺物)	写真(遺構)	写真(遺物)
S - 69	C-2 区	ス - 20	114			
SK - 70	C-2 区	タ - 22	69			
SK - 71	C-2 区	ス - 19	69			
S - 72	C-2 区	ソ - 19	114			
SK - 75	C-1 区	ス - 24	69			
SK - 76	C-1 区	ス - 24	69			
SK - 79	C-1 区	シ - 22	69		二三	
SK - 80	C-1 区	シ - 23	69			
SK - 81	C-1 区	シ - 23	69			
SI - 82	C-2 区	ソ - 21	5	28		三・一五
SD - 83	C-1 区	サ - 20～コ - 21	87			
SD - 84	C-1 区	サ - 20	87			
SK - 85	C-1 区	サ - 20	69			
S - 86	C-1 区	サ - 20	114			
S - 87	C-1 区	サ - 21	114			
SK - 88	C-2 区	セ - 21	68			
SD - 90	C-1 区	サ - 20～コ - 22	87			
SK - 92	C-2 区	ス - 19	68			
S - 93	C-2 区	ス - 19	114			
SK - 94	C-2 区	ス - 19	68	60		
S - 95	C-2 区	ス - 21	114			
S - 96	C-2 区	ス - 21	114			
S - 97	C-2 区	ス - 21	114			
S - 98	C-2 区	ス - 21	114			
S - 99	C-2 区	ス - 21	114			
SZ - 101	B-3 区	エ - オ - 8～9	107	120		
SD - 103	B-3 区	カ - ク - 8～9	88			
SD - 104	B-3 区	オ - 8～オ - 11	89	70		
SZ - 105	B-3 区	オ - 10～カ - 11	108	120・142		一〇・一一
SE - 108	B-3 区	エ - 8	65			
SK - 109	B-3 区	オ - 8	69			
SD - 111	B-3 区	エ - 8～オ - 11	89	71		一六
SK - 112	B-3 区	オ - 8	69			
SK - 113	B-3 区	エ - 8	69		二三	
SX - 115	B-3 区	オ - 9	111			
SK - 116	B-3 区	オ - 10	69			
SE - 117	B-3 区	オ - 10	65	58		
SX - 118	B-3 区	オ - 11～カ - 12	111			
SK - 119	B-3 区	キ - 11	69			
SZ - 120	B-3 区	ウ - 10～エ - 13	106	120	三九	一一
SE - 121	B-3 区	エ - 10	65			
SD - 122	B-3 区	イ - 11～オ - 13	90	73・136・137		一六・一八
SZ - 124	B-3 区	オ - 12～カ - 13	108	120	三九	一一
SK - 125	B-3 区	オ - 12	69			
SD - 128	B-3 区	キ - 10～カ - 11	91			
SX - 130	B-3 区	エ - 7～エ - 8	107			
SK - 131	B-3 区	エ - 7	69			
SK - 132	B-3 区	エ - 8	69			
SD - 150	B-2 区	キ - 15～カ - 16	90	137	三三	
SD - 151	B-2 区	オ - 13～キ - 15	90	72・137・138		一二・一八・一九
SK - 152	B-2 区	カ - 15	70			
SK - 153	B-2 区	カ - 15	70			
SD - 154	B-2 区	オ - 13～カ - 15	91	74・145	二九	一九
SD - 155	B-2 区	カ - 14～オ - 15	91	138・145		
SK - 156	B-2 区	カ - 15	70			
SK - 157	B-2 区	カ - 15	70			
SK - 158	B-2 区	カ - 14	70	60・136		一二
SK - 159	B-2 区	カ - 14	70	136		

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	実測図(遺構)	実測図(遺物)	写真(遺構)	写真(遺物)
SK - 160	B-2 区	カ - 15	70			
SK - 161	B-2 区	カ - 14	70			
SE - 162	B-2 区	カ - 14	65		二一	
SE - 163	B-2 区	カ - 14	65		二一	
SD - 164	B-2 区	カ - 14	91			
SK - 165	B-2 区	オ - 15	70			
SD - 166	B-2 区	オ - 13～ カ - 14	91		二九	
SD - 167	B-2 区	オ - 14	91			
SK - 168	B-2 区	オ - 13	70		二三	一五
SK - 169	B-2 区	オ - 13	70	60･144･145	二三	一八
SK - 170	B-2 区	カ - 15	70			
SK - 171	B-2 区	オ - 14	70			
S - 172	B-2 区	オ - 14	115			
S - 173	B-2 区	オ - 14	115			
S - 174	B-2 区	オ - 14	114			
SK - 175	B-2 区	エ - 14	70			
SK - 176	B-2 区	エ - 13	71			
S - 177	B-2 区	オ - 14	115			
S - 178	B-2 区	カ - 15	114			
S - 179	B-2 区	オ - 15	116			
S - 180	B-2 区	カ - 15	116			
S - 181	B-2 区	カ - 15	114			
SK - 182	B-2 区	オ - 14	71		二三	
S - 183	B-2 区	エ - 14	114			
S - 184	B-2 区	オ - 14	114			
SK - 185	B-2 区	オ - 14	71	60		
S - 186	B-2 区	オ - 14	115			
S - 187	B-2 区	オ - 14	115			
SD - 188	B-1 区	コ - 14～ ケ - 15	92		二九	
SK - 190	B-1 区	ク - 16	71			
SD - 191	B-1 区	シ - 13～ サ - 15	92			
SK - 192	B-1 区	キ - 16	71			
SK - 193	B-1 区	ク - 16	71			
SK - 194	B-1 区	ク - 16	71			
S - 196	B-2 区	オ - 14	117	122		一九
SK - 197	B-2 区	カ - 15	70			
SK - 198	B-2 区	カ - 15	70			
S - 199	B-2 区	オ - 14	116			
S - 200	C-2 区	ス - 21	114			
S - 201	C-2 区	セ - 21	114			
S - 203	C-2 区	セ - 21	116			
S - 204	C-2 区	セ - 21	116			
S - 205	C-2 区	セ - 20	114			
S - 206	C-2 区	セ - 20	116			
SX - 207	C-2 区	シ - 16	111			
SX - 208	C-2 区	シ - 15～ シ - 16	111			
S - 209	C-2 区	ソ - 21	116			
SI - 210	C-2 区	ソ - 20	31	31	九・一二・一三	三・一八
SI - 211	C-2 区	セ - 20	32	27	九・一三	三・一八
SX - 212	C-2 区	サ - 17～ ケ - 20	110	141		
SI - 213	C-2 区	ソ - 20	6	29		三
SI - 214	C-2 区	ソ - 19	33	30		
S - 215	C-2 区	ソ - 20	116			
SK - 218	C-2 区	セ - 19	71			
SK - 219	C-2 区	ソ - 20	71			
SI - 220	C-2 区	ソ - 20	23	32		
SI - 221	C-2 区	ソ - 19	4	33	一三	三・四
SK - 226	C-2 区	セ - 19	71			
S - 227	C-1 区	コ - 21	116			
S - 228	C-1 区	コ - 21	116			
SK - 229	C-1 区	コ - 21	71			
S - 230	C-1 区	サ - 21	114			
S - 231	C-1 区	サ - 21	116			
S - 232	C-1 区	サ - 21	116			
S - 233	C-1 区	サ - 21	116			
SK - 234	C-1 区	サ - 21	71			
S - 235	C-1 区	コ - 21	117			
S - 236	C-1 区	コ - 21	117			
SK - 237	C-1 区	コ - 21	71			
SK - 238	C-1 区	コ - 21	71			
S - 239	C-1 区	コ - 21	116			

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	実測図(遺構)	実測図(遺物)	写真(遺構)	写真(遺物)
S - 240	C-1 区	コ - 22	117			
SK - 241	C-1 区	コ - 21	71			
S - 242	C-1 区	ケ - 20	116			
S - 243	C-1 区	コ - 20	116			
SK - 244	C-1 区	サ - 22	71			
S - 245	C-1 区	サ - 21	117			
S - 246	C-1 区	コ - 21	117			
SK - 247	C-1 区	ケ - 21	72			
SK - 248	C-1 区	コ - 22	72			
S - 249	C-1 区	コ - 22	116			
S - 250	C-1 区	コ - 22	117			
S - 251	C-1 区	コ - 22	117			
S - 252	C-1 区	サ - 22	117			
S - 253	C-1 区	サ - 22	117			
S - 254	C-1 区	サ - 22	117			
SK - 255	C-1 区	ケ - 20	72	60		
S - 256	C-1 区	コ - 22	116			
SK - 257	C-1 区	コ - 22	72			
S - 258	C-1 区	サ - 22	116			
S - 259	C-1 区	サ - 22	116			
S - 260	C-1 区	サ - 22	116			
SK - 261	C-1 区	サ - 22	72		二三	
SI - 262	C-3 区	ソ - 25	34	34	一三	四
SI - 263	C-3 区	タ - 24	37	35	一三	
SD - 264	C-3 区	ソ - 25～ ソ - 26	95			
SD - 265	C-3 区	ソ - 25～ タ - 26	95			
SD - 266	C-3 区	ソ - 25～ タ - 25	95			
SI - 267	C-3 区	タ - 24	35			
S - 269	C-3 区	タ - 25	116			
SD - 270	C-3 区	タ - 24～ ソ - 25	95			
SD - 271	C-1 区	サ - 20～ サ - 22	95	75	二九	六･七
SI - 272	C-2 区	セ - 20	6	36	一四	四
SI - 273	C-2 区	セ - 20	33	37		
SI - 277	C-2 区	ソ - 19	4			
SI - 279	C-2 区	ス - 20	36	38		四
SI - 280	C-1 区	ス - 20	36			
SK - 300	B-2 区	オ - 14	72	61	二三	
SX - 301	B-2 区	カ - 14～ カ - 15	70			
SI - 302	B-1 区	ク - 16	38	39	一四	
S - 303	B-2 区	オ - 13	117			
S - 304	B-2 区	オ - 13	117			
SD - 305	B-1 区	コ - 16～ キ - 18	93	76･77	二九・三〇・三 一・三二・三三	一七・一七・二二
SD - 306	B-1 区	ケ - 16～ キ - 18	93		一四	
SK - 307	B-1 区	ク - 16	71			
SD - 308	B-1 区	サ - 12～ コ - 16	92	78･139		一九
SK - 310	B-1 区	ク - 18	72		二三	
SD - 312	B-1 区	サ - 15	92			
SK - 314	B-2 区	オ - 14	70			
S - 315	B-2 区	オ - 14	115			
S - 316	B-2 区	オ - 14	115			
S - 317	B-2 区	オ - 14	115			
SE - 318	B-2 区	カ - 14	65	58	二二	
S - 319	B-2 区	カ - 14	116			
S - 320	B-2 区	カ - 14	116			
S - 321	B-2 区	カ - 14	116			
S - 322	B-2 区	オ - 14	117			
SE - 323	B-1 区	ク - 18	65	58	二二	一七
SK - 324	B-2 区	オ - 13	72			
SK - 325	B-1 区	ケ - 15	72			
SK - 326	B-1 区	ケ - 15	72			
SD - 327	B-1 区	ケ - 15～ コ - 15	92		二九	
SD - 328	B-1 区	ケ - 15～ ケ - 16	92			
SK - 329	B-2 区	カ - 16	72			
SK - 330	B-2 区	カ - 16	72			
S - 331	B-2 区	カ - 16	117			

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	実測図(遺構)	実測図(遺物)	写真(遺構)	写真(遺物)
S - 332	B-2 区	カ - 15	118			
S - 333	B-2 区	オ - 14	116			
S - 334	B-2 区	オ - 14	116			
S - 335	B-2 区	オ - 14	116			
S - 336	B-2 区	オ - 15	116			
S - 337	B-2 区	オ - 15	116			
SK - 338	B-2 区	オ - 15	72			
S - 339	B-2 区	キ - 15	117			
SD - 340	B-2 区	キ - 15	90		三三	
S - 341	B-2 区	カ - 15	118			
SK - 342	B-2 区	カ - 15	72			
S - 343	B-2 区	キ - 15	117			
S - 344	B-2 区	カ - 15	118			
S - 345	B-2 区	カ - 15	118			
S - 346	B-2 区	カ - 14	116			
S - 347	B-2 区	カ - 14	117			
S - 348	B-2 区	カ - 14	117			
S - 349	B-2 区	カ - 14	117			
S - 350	B-2 区	カ - 14	117			
S - 351	B-2 区	オ - 14	117			
S - 352	B-2 区	オ - 14	115			
S - 353	B-2 区	オ - 14	115			
S - 354	B-2 区	オ - 14	115			
S - 355	B-2 区	オ - 14	115			
S - 356	B-2 区	オ - 13	117			
S - 357	B-2 区	オ - 13	117			
S - 359	B-2 区	オ - 13	117			
S - 360	B-2 区	エ - 13	117			
S - 361	B-2 区	オ - 13	117			
S - 363	B-2 区	オ - 13	117			
S - 365	B-2 区	オ - 15	116			
S - 366	B-2 区	オ - 15	116			
S - 367	B-2 区	オ - 14	114			
S - 368	B-2 区	オ - 14	115			
S - 369	B-2 区	オ - 14	115			
S - 370	B-2 区	オ - 14	115			
S - 371	B-2 区	カ - 14	116			
S - 372	B-2 区	オ - 15	116			
S - 373	B-2 区	オ - 15	116			
S - 374	B-2 区	オ - 15	116			
SX - 375	B-1 区	ケ - 12～ケ - 13	111			
S - 376	B-1 区	ケ - 13	118			
SK - 377	B-1 区	ケ - 15	72			
S - 378	B-1 区	ケ - 15	118			
S - 379	B-1 区	ケ - 15	118			
S - 380	B-1 区	ケ - 15	118			
S - 381	B-1 区	ケ - 15	118			
S - 382	B-1 区	ケ - 15	118			
S - 383	B-1 区	ケ - 15	118			
S - 384	B-1 区	ケ - 15	118			
S - 385	B-1 区	ケ - 15	118			
S - 386	B-2 区	オ - 14	115			
SK - 387	B-2 区	オ - 14	72			
S - 388	B-2 区	オ - 14	115	122		一九
S - 389	B-2 区	オ - 14	115			
S - 390	B-2 区	オ - 14	115			
S - 391	B-2 区	オ - 14	115			
S - 392	B-2 区	オ - 14	115			
S - 393	B-2 区	オ - 14	114			
S - 394	B-2 区	エ - 14	114			
S - 395	B-2 区	エ - 14	114			
S - 396	B-2 区	エ - 14	114			
S - 397	B-2 区	エ - 14	114			
S - 398	B-2 区	エ - 14	114			
SK - 399	B-2 区	エ - 14	72			
S - 400	B-2 区	エ - 14	114			
S - 401	B-2 区	エ - 13	114			
S - 402	B-2 区	エ - 13	114			
S - 403	B-2 区	オ - 13	117			
S - 404	B-2 区	オ - 13	117			
SK - 405	B-2 区	カ - 15	70			
S - 406	B-2 区	カ - 15	118			
S - 407	B-2 区	オ - 13	117			
S - 408	B-2 区	オ - 14	115			

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	実測図(遺構)	実測図(遺物)	写真(遺構)	写真(遺物)
SK - 411	B-1 区	ケ - 13	73			
SK - 412	B-1 区	ケ - 13	73			
SK - 413	B-1 区	ケ - 17	73			
SD - 414	B-1 区	ケ - 18～ク - 19	93			
S - 415	B-2 区	カ - 15	118			
S - 416	B-2 区	オ - 14	115			
S - 417	B-2 区	オ - 14	115			
S - 418	B-2 区	エ - 14	114			
S - 419	B-2 区	オ - 14	115			
S - 420	B-2 区	オ - 14	115			
S - 421	B-2 区	オ - 14	117			
S - 422	B-2 区	オ - 14	115			
S - 423	B-2 区	オ - 15	114			
SK - 424	B-3 区	イ - 11	73			
SE - 425	B-3 区	ウ - 12	65	58	二二	一八
SK - 427	B-3 区	エ - 11	73			
SE - 428	B-3 区	エ - 11	65	58		
SK - 436	B-3 区	オ - 11	73			
SK - 439	B-3 区	エ - 9	73			
SK - 440	B-3 区	ウ - 10	73		二四	
SK - 442	B-3 区	エ - 9	73			
SE - 443	B-3 区	カ - 10	66		二二	
SK - 444	B-3 区	オ - 9	73			
S - 445	B-3 区	オ - 10	118			
SK - 446	B-3 区	オ - 10	73		二四	
SK - 447	B-3 区	オ - 10	73			
S - 448	B-3 区	オ - 10	118			
S - 449	B-3 区	オ - 10	119			
S - 450	B-3 区	オ - 10	119			
S - 451	B-3 区	オ - 9	119			
S - 452	B-3 区	オ - 9	119			
S - 453	B-3 区	オ - 9	119			
S - 454	B-3 区	オ - 9	119			
S - 456	B-3 区	オ - 9	119			
S - 457	B-3 区	オ - 9	119			
S - 458	B-3 区	オ - 10	118			
S - 459	B-3 区	オ - 9	119			
S - 460	B-3 区	オ - 9	119			
S - 461	B-3 区	オ - 9	119			
S - 462	B-3 区	オ - 9	119			
S - 463	B-3 区	オ - 9	119			
S - 464	B-3 区	オ - 9	119			
S - 465	B-3 区	オ - 9	119			
S - 466	B-3 区	オ - 9	119			
S - 467	B-3 区	オ - 9	119			
S - 468	B-3 区	オ - 9	119			
S - 469	B-3 区	オ - 9	119			
S - 470	B-3 区	オ - 9	119			
S - 471	B-3 区	オ - 10	119			
S - 472	B-3 区	エ - 10	118			
S - 473	B-3 区	エ - 9	119			
S - 474	B-3 区	エ - 9	119			
S - 475	B-3 区	エ - 9	119			
S - 476	B-3 区	エ - 9	119			
S - 477	B-3 区	エ - 9	119			
S - 478	B-3 区	エ - 9	120			
S - 479	B-3 区	エ - 9	118			
S - 480	B-3 区	エ - 9	118			
S - 481	B-3 区	エ - 9	120			
S - 482	B-3 区	エ - 9	120			
S - 483	B-3 区	エ - 9	120			
S - 484	B-3 区	エ - 9	120			
S - 485	B-3 区	エ - 9	120			
S - 486	B-3 区	エ - 9	120			
S - 487	B-3 区	エ - 9	120			
S - 488	B-3 区	エ - 9	120			
S - 489	B-3 区	ウ - 9	120			
S - 493	B-3 区	ウ - 9	120			
S - 494	B-3 区	ウ - 9	120			
S - 497	B-3 区	ウ - 9	120			
S - 498	B-3 区	ウ - 9	120			
S - 504	B-3 区	エ - 10	120			
SE - 510	B-4 区	ク - 9	66			

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	実測図(遺構)	実測図(遺物)	写真(遺構)	写真(遺物)
SZ - 511	B-4 区	ク - 9～ケ - 10	109		三九	
SK - 512	B-3 区	ウ - 11	73	61		
S - 513	B-3 区	ウ - 9	120			
SK - 514	B-4 区	カ - 11	73			
SK - 515	B-4 区	キ - 11	73			
SK - 516	B-4 区	カ - 12	73		二四	
SX - 517	B-4 区	キ - 12	111	121		一一
SX - 518	B-4 区	カ - 12	111			
S - 520	B-3 区	オ - 10	118			
S - 521	B-3 区	カ - 10	118			
S - 522	B-3 区	カ - 10	118			
S - 523	B-3 区	カ - 10	118			
S - 524	B-3 区	カ - 11	120			
S - 525	B-3 区	カ - 11	120			
S - 527	B-4 区	カ - 12	122			
S - 528	B-4 区	カ - 11	122			
S - 529	B-4 区	キ - 12	122			
S - 530	B-4 区	キ - 11	122			
S - 531	B-4 区	キ - 11	121			
S - 532	B-4 区	キ - 11	121			
S - 533	B-4 区	キ - 11	121			
S - 534	B-4 区	キ - 11	121			
S - 535	B-4 区	キ - 11	121			
S - 536	B-4 区	キ - 11	121			
S - 537	B-4 区	キ - 11	121			
S - 538	B-4 区	キ - 11	121			
S - 539	B-4 区	キ - 11	122			
S - 540	B-4 区	キ - 11	122			
S - 541	B-4 区	キ - 11	121			
S - 542	B-4 区	キ - 12	122			
S - 543	B-4 区	キ - 12	122			
S - 544	B-4 区	キ - 12	122			
S - 545	B-4 区	キ - 12	122			
S - 546	B-4 区	カ - 12	122			
S - 547	B-4 区	キ - 12	122			
S - 548	B-4 区	キ - 12	122			
S - 549	B-4 区	カ - 12	122			
S - 550	B-4 区	カ - 12	122			
S - 551	B-4 区	カ - 12	122			
S - 552	B-4 区	キ - 12	122			
S - 553	B-4 区	キ - 12	122			
S - 554	B-4 区	キ - 11	121			
S - 555	B-4 区	キ - 11	121			
S - 556	B-4 区	キ - 11	121			
S - 557	B-4 区	キ - 11	121			
S - 558	B-4 区	キ - 11	121			
S - 559	B-4 区	キ - 11	121			
S - 560	B-4 区	キ - 11	121			
S - 561	B-4 区	キ - 11	121			
S - 562	B-4 区	キ - 11	121			
S - 563	B-4 区	キ - 11	121			
S - 564	B-4 区	キ - 11	121			
S - 565	B-4 区	キ - 11	121			
S - 566	B-4 区	キ - 11	121			
S - 567	B-4 区	キ - 11	121			
S - 568	B-4 区	キ - 11	121			
S - 569	B-4 区	キ - 11	121			
S - 570	B-4 区	キ - 11	121			
S - 571	B-4 区	キ - 11	121			
S - 572	B-4 区	キ - 11	121			
S - 573	B-4 区	キ - 11	121			
S - 574	B-4 区	キ - 11	121			
S - 575	B-4 区	キ - 10	121			
S - 576	B-4 区	キ - 10	121			
S - 577	B-4 区	キ - 10	121			
S - 578	B-4 区	キ - 10	121			
S - 580	B-4 区	キ - 11	121			
S - 581	B-4 区	キ - 11	121			
S - 582	B-4 区	キ - 11	121			
SE - 583	B-4 区	コ - 11	66			
S - 584	B-4 区	ケ - 12	120			
SK - 585	B-4 区	ケ - 12	74			
S - 586	B-4 区	ケ - 12	120			
S - 587	B-4 区	ケ - 12	120			
S - 588	B-4 区	ケ - 12	120			

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	実測図(遺構)	実測図(遺物)	写真(遺構)	写真(遺物)
SK - 589	B-4 区	ケ - 13	74			
SK - 590	B-4 区	ク - 12	74			
SX - 591	B-4 区	ク - 13	112			
SK - 592	B-4 区	キ - 13	74			
SE - 594	B-4 区	カ - 13	66	58	二二	
SK - 595	B-4 区	ク - 12	74			
S - 596	B-4 区	ケ - 12	120			
S - 597	B-4 区	ケ - 12	120			
S - 598	B-4 区	ク - 12	120			
S - 599	B-4 区	ク - 13	120			
S - 600	B-4 区	ク - 12	120			
S - 601	B-4 区	ク - 12	120			
S - 602	B-4 区	ク - 13	120			
S - 603	B-4 区	ク - 13	120			
S - 604	B-4 区	ク - 13	120			
S - 605	B-4 区	ク - 14	120			
S - 606	B-4 区	ク - 12	120			
S - 607	B-4 区	ク - 12	120			
S - 608	B-4 区	キ - 12	121			
S - 609	B-4 区	キ - 12	121			
S - 610	B-4 区	ク - 12	121			
S - 611	B-4 区	ク - 12	121			
S - 612	B-4 区	ク - 12	121			
S - 613	B-4 区	ク - 11	121			
S - 614	B-3 区	キ - 10	121			
S - 615	B-3 区	キ - 10	121			
SK - 618	B-3 区	オ - 6	74			
SZ - 619	B-3 区	エ - 6～カ - 7	107			
SK - 620	B-3 区	カ - 6	74	61		五
SD - 621	B-3 区	カ - 6～キ - 6	89			
S - 622	B-3 区	エ - 9	118			
S - 623	B-3 区	オ - 10	118			
S - 624	B-3 区	オ - 10	118			
S - 625	B-3 区	オ - 10	118			
S - 626	B-3 区	オ - 10	118			
S - 627	B-3 区	オ - 10	118			
S - 628	B-3 区	オ - 10	118			
S - 629	B-3 区	オ - 10	118			
S - 630	B-3 区	オ - 9	119			
S - 631	B-3 区	オ - 10	118			
S - 632	B-3 区	オ - 9	121			
S - 633	B-3 区	オ - 9	121			
SK - 634	B-3 区	オ - 9	74			
S - 635	B-3 区	オ - 9	119			
S - 636	B-3 区	エ - 10	118			
S - 640	B-3 区	オ - 9	119			
S - 641	B-3 区	オ - 9	119			
S - 642	B-3 区	オ - 9	119			
S - 643	B-3 区	オ - 9	119			
S - 644	B-3 区	オ - 10	118			
S - 645	B-3 区	オ - 10	118			
S - 646	B-3 区	オ - 10	118			
S - 647	B-3 区	エ - 10	120			
S - 648	B-3 区	エ - 10	120			
S - 649	B-3 区	エ - 10	120			
S - 650	B-3 区	ウ - 9	120			
S - 651	B-3 区	ウ - 9	120			
S - 652	B-3 区	エ - 9	120			
S - 653	B-3 区	エ - 8	121			
S - 654	B-3 区	エ - 9	120			
S - 656	B-3 区	ウ - 10	120			
S - 657	B-3 区	ウ - 10	120			
S - 658	B-3 区	ウ - 10	121			
S - 659	B-3 区	エ - 10	120			
S - 660	B-3 区	エ - 10	120			
S - 661	B-3 区	ウ - 10	120			
S - 663	B-3 区	ウ - 10	121			
S - 664	B-3 区	エ - 9	119			
S - 665	B-3 区	エ - 9	118			
SK - 666	B-3 区	キ - 8	74			
SK - 667	B-3 区	キ - 8	74			
SK - 668	B-3 区	キ - 8	74			
S - 669	B-3 区	キ - 7	121			
SK - 670	B-3 区	キ - 7	74			

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	実測図(遺構)	実測図(遺物)	写真(遺構)	写真(遺物)
S - 671	B-3 区	キ - 7	121			
S - 672	B-3 区	キ - 7	121			
S - 673	B-3 区	キ - 7	121			
S - 674	B-3 区	キ - 7	121			
S - 675	B-3 区	エ - 9	120			
S - 677	B-3 区	エ - 11	122			
S - 679	B-4 区	カ - 13	122			
S - 680	B-4 区	キ - 13	122			
SK - 681	B-3 区	ウ - 10	74		二四	
SK - 682	B-3 区	エ - 10	74			
SB - 683	B-3 区	ウ - 9	56		一九	
SB - 684	B-3 区	エ - 9	56		一九	
S - 685	B-3 区	ウ - 9	120			
S - 686	B-3 区	ウ - 9	120			
S - 687	B-3 区	ウ - 9	120			
SX - 688	B-3 区	エ - 9～エ - 10	112			
S - 689	B-3 区	オ - 9	119			
S - 690	B-3 区	オ - 9	119			
S - 691	B-3 区	エ - 9	119			
S - 692	B-3 区	オ - 9	119			
S - 693	B-3 区	オ - 10	118			
S - 694	B-3 区	オ - 10	118			
S - 695	B-3 区	オ - 10	118			
S - 696	B-3 区	オ - 10	118			
S - 697	B-3 区	オ - 10	118			
S - 698	B-3 区	エ - 11	122			
S - 699	B-3 区	カ - 10	118			
S - 700	B-3 区	キ - 7	121			
S - 702	B-4 区	キ - 10	121			
S - 703	B-4 区	キ - 11	121			
S - 704	B-4 区	キ - 11	121			
S - 705	B-4 区	キ - 11	122			
SK - 720	D 区	オ - 18	74			
SE - 721	D 区	オ - 18	66			
SK - 722	D 区	オ - 18	74			
SI - 723	D 区	エ - 18	39	40	一四	
SX - 724	D 区	オ - 19	112			
SD - 725	D 区	キ - 19～オ - 19	94	79･139	三三	七
SK - 726	D 区	キ - 18	74			
SK - 727	D 区	エ - 18	74			
S - 728	D 区	オ - 18	122			
S - 729	D 区	オ - 18	122			
SD - 730	D 区	ウ - 17～カ - 18	95		三三	
SK - 731	D 区	ウ - 17	75			
SK - 732	D 区	エ - 17	75			
SK - 733	D 区	エ - 17	75		二四	
SK - 734	D 区	カ - 17	74			
SK - 735	D 区	カ - 17	74			
S - 736	D 区	エ - 18	122			
SK - 737	D 区	ウ - 18	74			
SD - 738	D 区	キ - 18～ク - 20	94			
SD - 739	D 区	ウ - 17	95			
SD - 745	D 区	エ - 16～ウ - 17	97	140		
SD - 746	D 区	オ - 8～オ - 11	94	80		
SD - 747	D 区	キ - 20	94	81		
SK - 748	D 区	ウ - 17	74			
SD - 749	D 区	ウ - 17～ウ - 18	95			
SD - 750	D 区	エ - 16～ウ - 18	96･97	139		
SD - 751	D 区	オ - 16～ウ - 17	97	82		七
SK - 752	D 区	エ - 17	74			
SX - 755	D 区	エ - 18	96			
SK - 756	D 区	イ - 16	75			
SK - 757	D 区	イ - 16	75			
SK - 758	D 区	イ - 16	75			
SE - 761	D 区	ア - 16	66	136		
SK - 762	D 区	エ - 16	75			

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	実測図(遺構)	実測図(遺物)	写真(遺構)	写真(遺物)
SK - 763	D 区	エ - 16	75	137		
SK - 764	D 区	エ - 16	75			
SK - 765	D 区	エ - 16	75			
SX - 766	D 区	エ - 15･エ - 16	112			
SK - 767	D 区	エ - 15	75			
SK - 768	D 区	ウ - 15	75			
SE - 769	D 区	ウ - 15	66	136	二二	
SB - 770	D 区	イ - 15	57	57		一八
SD - 771	D 区	ア - 15～イ - 17	97			
SD - 772	D 区	ア - 15～イ - 16	97			
SD - 773	D 区	ア - 16～イ - 17	97	83		
SK - 774	D 区	イ - 15	75			
SK - 775	D 区	ア - 15	75			
S - 776	D 区	イ - 16	123			
SZ - 777	D 区	ア - 15～イ - 16	109		三九	
SK - 778	D 区	ア - 14	75			
SK - 779	D 区	ア - 14	75			
SK - 780	D 区	ア - 14	75			
SE - 781	D 区	ア - 15	66	144		
SD - 782	D 区	ン - 16～ア - 17	98	84･140		一九
SK - 783	D 区	ン - 16	75			
S - 784	D 区	イ - 14	122			
S - 785	D 区	イ - 14	122			
S - 786	D 区	ア - 14	122			
S - 787	D 区	イ - 14	122			
S - 788	D 区	イ - 14	122			
SK - 789	D 区	イ - 13	75			
S - 790	D 区	イ - 13	123			
S - 791	D 区	イ - 13	123			
S - 792	D 区	イ - 13	123			
S - 793	D 区	イ - 13	123			
S - 794	D 区	イ - 13	124			
S - 795	D 区	イ - 13	123			
S - 796	D 区	イ - 13	123			
S - 797	D 区	イ - 13	123			
SK - 798	D 区	ア - 15	86	61	二四	
S - 799	D 区	ア - 15	123			
SK - 800	D 区	ア - 16	76			
S - 801	D 区	イ - 16	123			
S - 802	D 区	イ - 16	123			
S - 803	D 区	ア - 15	123			
S - 804	D 区	ア - 15	123			
S - 805	D 区	ア - 15	123			
SK - 806	D 区	ウ - 16	76			
SD - 807	D 区	ア - 14～ア - 15	97			
SX - 808	D 区	ア - 14～イ - 15	109	121	三九・四〇	一一
S - 809	D 区	イ - 12	123			
S - 810	D 区	イ - 12	123			
S - 811	D 区	イ - 12	123			
S - 812	D 区	イ - 12	123			
S - 813	D 区	イ - 13	123			
S - 814	D 区	ウ - 13	124			
S - 815	D 区	ウ - 13	124			
S - 816	D 区	イ - 13	123			
S - 817	D 区	イ - 13	123	122		
S - 818	D 区	イ - 13	123			
SK - 819	D 区	ウ - 13	76			
S - 820	D 区	ウ - 13	124			
S - 821	D 区	ウ - 13	124			
S - 822	D 区	ウ - 13	124			
S - 823	D 区	ウ - 13	124			
SX - 824	D 区	オ - 19	112			
S - 825	D 区	ウ - 13	124			
S - 826	D 区	ウ - 13	124			
SD - 827	D 区	オ - 14～オ - 15	97			
SD - 828	D 区	ア - 15	97			

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	実測図(遺構)	実測図(遺物)	写真(遺構)	写真(遺物)
SD - 829	D 区	ウ - 17	97			
SD - 830	D 区	イ - 16～ウ - 17	96			
S - 831	D 区	ウ - 18	122			
SX - 832	D 区	ウ - 18	96			
SX - 833	D 区	ウ - 16	112			
SD - 834	D 区	イ - 17～ウ - 17	96･97	140		
SX - 835	D 区	イ - 17～ウ - 17	112			
SD - 836	D 区	ウ - 18	96			
SD - 837	D 区	ウ - 18	96			
S - 838	D 区	ウ - 17	122			
SD - 839	D 区	イ - 18～ウ - 18	96			
SK - 840	D 区	ウ - 18	76	61	二四	五･六
SD - 841	D 区	イ - 18	96			
SD - 842	D 区	イ - 18	96			
SD - 843	D 区	ウ - 17～イ - 18	96			
SD - 844	D 区	ウ - 17～イ - 18	96			
SD - 845	D 区	イ - 17	96			
SD - 846	D 区	ウ - 17～ウ - 18	96	85･140		
SD - 847	D 区	ウ - 17～ウ - 18	96			
SD - 848	D 区	ウ - 17～ウ - 18	96			
SD - 850	D 区	ウ - 17～エ - 18	96	86		
SK - 851	D 区	ウ - 14	76			
SK - 852	D 区	イ - 14	76			
SB - 853	D 区	オ - 17	58		一九	
SB - 854	D 区	オ - 17	58		一九	
SB - 855	D 区	カ - 18	59			
SK - 856	D 区	イ - 16	76			
S - 857	D 区	イ - 17	123			
S - 858	D 区	ウ - 17	123			
SD - 859	D 区	イ - 14～ウ - 14	98			
S - 860	D 区	オ - 17	124			
S - 861	D 区	オ - 17	123			
S - 862	D 区	オ - 17	123			
S - 863	D 区	オ - 17	123			
S - 864	D 区	カ - 18	123			
S - 865	D 区	オ - 17	124			
S - 866	D 区	オ - 17	124			
SK - 867	D 区	オ - 17	76			
SK - 868	D 区	オ - 17	76			
SK - 869	D 区	イ - 13	76			
S - 870	D 区	イ - 13	124			
SD - 871	D 区	イ - 17	96			
S - 872	D 区	オ - 17	124			
S - 873	D 区	オ - 17	124			
SK - 874	D 区	ウ - 13	76			
S - 875	D 区	カ - 18	123			
SK - 876	D 区	オ - 17	76			
S - 877	D 区	オ - 17	124			
S - 878	D 区	オ - 17	124			
S - 879	D 区	オ - 17	124			
S - 880	D 区	オ - 17	124			
S - 881	D 区	カ - 17	123			
S - 882	D 区	カ - 17	123			
S - 883	D 区	カ - 17	123			
S - 884	D 区	カ - 17	123			
S - 885	D 区	カ - 17	123			
S - 886	D 区	カ - 17	124			
S - 887	D 区	オ - 17	124			
S - 888	D 区	カ - 17	124			
SK - 889	D 区	ウ - 14	76			
SD - 890	D 区	ウ - 13～ウ - 14	98	140		
SD - 891	D 区	ウ - 13～ウ - 14	98			

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	実測図(遺構)	実測図(遺物)	写真(遺構)	写真(遺物)
S - 893	D 区	ウ - 14	124			
SD - 894	D 区	キ - 19～オ - 19	94	87		
SD - 895	D 区	キ - 18～オ - 19	94			
S - 898	D 区	イ - 13	123			
SX - 900	D 区	イ - 14～ウ - 15	110	121	四○･四一	一一・一六・一七
S - 901	D 区	カ - 17	123			
S - 902	D 区	カ - 17	123			
S - 903	D 区	オ - 16	124			
S - 904	D 区	オ - 16	124			
S - 905	D 区	オ - 16	124			
S - 906	D 区	オ - 16	124			
S - 907	D 区	オ - 16	124			
S - 908	D 区	オ - 17	124			
S - 909	D 区	オ - 17	124			
S - 910	D 区	イ - 13	123		四一	
S - 911	D 区	イ - 13	123		四一	
S - 912	D 区	イ - 13	123		四一	
S - 913	D 区	イ - 13	123		四一	
S - 914	D 区	イ - 13	123			
S - 915	D 区	イ - 13	123			
S - 916	D 区	イ - 13	123			
S - 917	D 区	イ - 13	123			
S - 918	D 区	イ - 12	123			
S - 919	D 区	ア - 14	122			
S - 920	D 区	ア - 14	122			
S - 921	D 区	ア - 14	122			
SK - 922	D 区	ウ - 14	76			
S - 924	D 区	カ - 18	124			
S - 926	D 区	オ - 16	124			
S - 927	D 区	オ - 16	124			
S - 928	D 区	オ - 17	124			
S - 929	D 区	エ - 16	124			
S - 930	D 区	オ - 16	124			
S - 931	D 区	エ - 16	124			
SK - 998	C-2 区	ス - 19	68			
SK - 999	C-2 区	ス - 19	68			
SI - 1000	H 区	ユ - 61	40 ･41	41・144	一四	一八
SB - 1001	H 区	ヤ - 62	61		二○	
SB - 1002	H 区	ム - 58	62		二○	
SB - 1003	H 区	ヤ - 63	60		二○	
SB - 1004	H 区	モ - 63･64	63		二○	
SI - 1005	E 区	ヌ - 33	1	42	一五･一六･一七	四
SI - 1006	E 区	ニ - 35	2	43	一七	
SI - 1007	E 区	ヌ - 35	42	44	一七	四
SI - 1008	E 区	ネ - 34	42	45	一七	四
SI - 1009	E 区	ヌ - 35	42	46		
S - 1011	H 区	ミ - 58	124			
S - 1012	H 区	ミ - 59	124			
S - 1013	H 区	ミ - 59	124			
S - 1014	H 区	ミ - 60	124			
S - 1015	H 区	ミ - 60	124			
S - 1016	H 区	マ - 60	124			
S - 1017	H 区	マ - 61	124			
S - 1018	H 区	ミ - 63	124			
S - 1019	H 区	ミ - 64	124			
S - 1020	H 区	ム - 64	124			
S - 1021	H 区	ム - 64	124			
S - 1022	H 区	ム - 65	125			
S - 1023	H 区	メ - 65	125			
S - 1024	H 区	ム - 65	125			
S - 1025	H 区	ム - 66	125			
S - 1026	H 区	ム - 65	125			
SK - 1027	H 区	メ - 65･66	76		二五	
S - 1028	H 区	モ - 65	125			
S - 1030	H 区	モ - 66	125			
S - 1031	H 区	モ - 66	125			
SK - 1032	H 区	モ - 66	76		二五	
S - 1033	H 区	ム - 65	125			
S - 1034	H 区	メ - 65	125			
S - 1035	H 区	メ - 66	125			
S - 1036	H 区	モ - 66	125			

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	実測図(遺構)	実測図(遺物)	写真(遺構)	写真(遺物)
S - 1037	H 区	メ - 66	125			
S - 1038	H 区	メ - 67	125			
S - 1039	H 区	モ - 67	125			
S - 1040	H 区	メ - 67	125			
S - 1041	H 区	メ - 67	125			
S - 1042	H 区	モ - 67	125			
S - 1043	H 区	モ - 67	125			
S - 1044	H 区	モ - 68	125			
S - 1045	H 区	ユ - 68	125			
S - 1046	H 区	モ - 68	125			
SK - 1047	H 区	モ - 68	77			
S - 1048	H 区	メ - 68	125			
S - 1049	H 区	メ - 68	125			
S - 1050	H 区	メ - 69	125			
S - 1051	H 区	モ - 61	125			
S - 1052	H 区	モ - 61	125			
S - 1053	H 区	モ - 61	125			
S - 1054	H 区	モ - 61	125			
S - 1055	H 区	モ - 61	125			
S - 1056	H 区	モ - 62	125			
S - 1057	H 区	ヤ - 61	125			
S - 1058	H 区	ヤ - 61	125			
S - 1059	H 区	ヤ - 62	125			
S - 1060	H 区	ユ - 62	125			
S - 1061	H 区	ヤ - 62	125			
S - 1062	H 区	ヤ - 63	125			
S - 1063	H 区	ユ - 63	125			
S - 1064	H 区	ユ - 63	125			
SK - 1065	H 区	ョ - 63	77			
S - 1066	H 区	ム - 58	125			
S - 1067	H 区	ム - 58	126			
S - 1068	H 区	ム - 58	126			
S - 1069	H 区	ヤ - 58	126			
S - 1070	H 区	ヤ - 59	126			
S - 1071	H 区	モ - 59	126			
S - 1072	H 区	メ - 59	126			
S - 1073	H 区	モ - 60	126			
S - 1074	H 区	ヤ - 60	126			
S - 1075	H 区	ヤ - 60	126			
S - 1076	H 区	ヤ - 60	126			
S - 1077	H 区	ヤ - 60	126			
S - 1078	H 区	ヤ - 60	126			
S - 1079	H 区	ヤ - 60	126			
S - 1080	H 区	ヤ - 60	126			
S - 1081	H 区	ヤ - 60	126			
S - 1082	H 区	ヤ - 59	126			
S - 1083	H 区	ヤ - 59	126			
S - 1084	H 区	ヤ - 60	126			
S - 1085	H 区	ヤ - 60	126			
S - 1087	H 区	メ - 61	126			
S - 1088	H 区	メ - 61	126			
S - 1089	H 区	メ - 61	126			
SK - 1090	H 区	メ - 63	77			
SK - 1091	H 区	ラ - 68	77			
S - 1092	H 区	ラ - 68	126			
S - 1093	H 区	ヤ - 64	126			
SD - 1101	E 区	ナ - 36～ヌ - 36	98			
S - 1102	E 区	ヌ - 35	126			
S - 1103	E 区	ヌ - 35	126			
S - 1104	E 区	ネ - 34	126			
S - 1105	E 区	ネ - 34	126			
SK - 1106	E 区	ヌ - 33	77		二五	
SI - 1107	E 区	ヌ - 35	44	47	一七	四
SX - 1108	E 区	ヌ - 36	112			
S - 1109	E 区	ヌ - 35	126			
SI - 1110	E 区	ネ - 34	43		一七	
S - 1112	E 区	ヌ - 35	126			
SK - 1113	E 区	ネ - 34	77	61		
SK - 1114	E 区	ヌ - 35	77			
SK - 1115	E 区	ヌ - 35	77			
SK - 1116	E 区	ヌ - 35	77	62		六
SK - 1117	E 区	ニ - 36	77			
S - 1118	E 区	ネ - 35	126			

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	実測図(遺構)	実測図(遺物)	写真(遺構)	写真(遺物)
SD - 1120	F-1･2 区	ニ - 43～ノ - 49	99	88･100･101･102･140･141･145	三三・三四	七・八・一二・一六・一九・二〇・二一・二三
SK - 1121	F-1 区	ノ - 43	77	62	二五	
S - 1122	F-1 区	ハ - 43	126			
S - 1123	F-1 区	ハ - 43	126			
S - 1124	F-1 区	ハ - 43	126			
S - 1125	F-1 区	ハ - 43	126			
S - 1126	F-1 区	ヒ - 43	126			
S - 1127	F-1 区	ヒ - 43	126			
S - 1128	F-1 区	ハ - 43	126			
S - 1129	F-1 区	ノ - 42	126			
S - 1130	F-1 区	ノ - 42	126			
SK - 1131	F-1 区	ネ - 42	77			
S - 1132	F-1 区	ネ - 42	126			
S - 1133	F-1 区	ネ - 42	126			
S - 1134	F-1 区	ネ - 42	126			
S - 1135	F-1 区	ネ - 43	126			
S - 1136	F-1 区	ヌ - 43	126			
SK - 1137	F-1 区	ネ - 40	77			
S - 1138	F-1 区	ハ - 41	126			
SB - 1139	F-1 区	ノ - 46	64		二〇・二一	
SK - 1140	F-1 区	ニ - 43	77	62		
S - 1141	F-1 区	ノ - 47	127			
S - 1142	F-1 区	ノ - 47	127			
S - 1143	F-1 区	ノ - 47	127			
S - 1144	F-1 区	ノ - 47	127			
S - 1145	F-1 区	ノ - 47	127			
S - 1146	F-1 区	ノ - 47	127			
S - 1147	F-1 区	ノ - 47	127			
S - 1148	F-1 区	ネ - 47	127	124		
S - 1149	F-1 区	ネ - 47	127	124		
S - 1150	F-1 区	ネ - 47	127			
S - 1151	F-1 区	ノ - 47	127			
S - 1152	F-1 区	ネ - 47	127			
S - 1153	F-1 区	ネ - 47	127			
S - 1154	F-1 区	ネ - 47	127			
S - 1155	F-1 区	ネ - 47	127			
S - 1156	F-1 区	ネ - 47	127			
S - 1157	F-1 区	ネ - 47	127			
S - 1158	F-1 区	ネ - 47	127			
S - 1159	F-1 区	ネ - 47	127			
S - 1160	F-1 区	ネ - 47	127			
S - 1161	F-1 区	ノ - 47	127			
S - 1162	F-1 区	ノ - 47	127			
S - 1163	F-1 区	ノ - 46	127			
S - 1164	F-1 区	ノ - 46	127			
S - 1165	F-1 区	ノ - 47	127			
S - 1166	F-1 区	ネ - 47	127			
S - 1167	F-1 区	ネ - 47	127	124		
S - 1168	F-1 区	ネ - 47	127			
S - 1169	F-1 区	ヒ - 40	127			
S - 1170	F-1 区	ヒ - 40	127			
SK - 1171	F-1 区	ハ - 39	77	62		
SK - 1172	F-1 区	ハ - 39	78		二五	
SD - 1173	F-1 区	ノ - 38～ヒ - 40	102		三四	
S - 1174	F-1 区	ノ - 47	127			
S - 1175	F-1 区	ノ - 47	127			
S - 1176	F-1 区	ノ - 47	127			
SK - 1177	F-1 区	ハ - 39	78		二五･二六	
S - 1178	F-1 区	ネ - 46	128			
S - 1179	F-1 区	ネ - 46	128			
S - 1180	F-1 区	ネ - 46	128			
S - 1181	F-1 区	ネ - 46	128			
S - 1182	F-1 区	ネ - 46	128			
S - 1183	F-1 区	ネ - 46	128			
S - 1184	F-1 区	ネ - 46	128			
S - 1185	F-1 区	ネ - 46	128			
S - 1186	F-1 区	ネ - 46	128			
S - 1187	F-1 区	ネ - 46	128			
S - 1188	F-1 区	ノ - 46	127			
SK - 1189	F-1 区	ノ - 46	78			
SK - 1190	F-1 区	ネ - 46	78	62		一七
S - 1191	F-1 区	ネ - 46	128			
S - 1192	F-1 区	ネ - 46	128			

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	実測図(遺構)	実測図(遺物)	写真(遺構)	写真(遺物)
S - 1193	F-1 区	ネ - 46	128			
S - 1194	F-1 区	ネ - 46	128			
S - 1195	F-1 区	ネ - 46	128			
S - 1196	F-1 区	ネ - 46	128			
S - 1197	F-1 区	ネ - 46	128			
S - 1198	F-1 区	ネ - 46	128			
S - 1199	F-1 区	ネ - 46	128			
SE - 1200	F-1 区	ネ - 46	66	58		
S - 1201	F-1 区	ネ - 46	128			
SK - 1202	F-1 区	ネ - 46	78			
S - 1203	F-1 区	ネ - 46	128			
S - 1204	F-1 区	ネ - 46	128	122		
S - 1205	F-1 区	ネ - 46	128			
S - 1206	F-1 区	ネ - 46	128			
SK - 1207	F-1 区	ネ - 46	78	62		
S - 1208	F-1 区	ネ - 46	128			
S - 1209	F-1 区	ネ - 46	128			
S - 1210	F-1 区	ネ - 46	128			
S - 1211	F-1 区	ネ - 46	128			
S - 1212	F-1 区	ネ - 46	128			
S - 1213	F-1 区	ネ - 46	128			
S - 1214	F-1 区	ネ - 45	128			
S - 1215	F-1 区	ネ - 46	128			
S - 1216	F-1 区	ネ - 46	128			
S - 1218	F-1 区	ネ - 45	128			
S - 1219	F-1 区	ネ - 47	127			
SK - 1220	F-1 区	ノ - 47	78	62		六
S - 1221	F-1 区	ネ - 47	127			
S - 1222	F-1 区	ノ - 46	127			
S - 1223	F-1 区	ノ - 46	127			
S - 1224	F-1 区	ノ - 46	127			
S - 1225	F-1 区	ノ - 46	127			
S - 1226	F-1 区	ノ - 46	127			
S - 1227	F-1 区	ノ - 46	127			
S - 1228	F-1 区	ノ - 46	64			
S - 1230	F-1 区	ノ - 46	64			
S - 1231	F-1 区	ノ - 46	64			
S - 1233	F-1 区	ノ - 46	64			
S - 1234	F-1 区	ノ - 46	64			
S - 1236	F-1 区	ノ - 46	64			
S - 1237	F-1 区	ノ - 46	64			
S - 1240	F-1 区	ノ - 46	64			
S - 1241	F-1 区	ネ - 47	127			
S - 1242	F-1 区	ノ - 47	127	62･122		六
SK - 1243	F-1 区	ノ - 47	78			
S - 1244	F-1 区	ノ - 47	128			
S - 1245	F-1 区	ノ - 46	64			
S - 1246	F-1 区	ネ - 45	128			
S - 1247	F-1 区	ネ - 45	128			
S - 1250	F-1 区	ノ - 45	128			
S - 1251	F-1 区	ノ - 45	127			
S - 1252	F-1 区	ノ - 45	127			
S - 1253	F-1 区	ノ - 45	127			
S - 1254	F-1 区	ノ - 45	127			
S - 1255	F-1 区	ノ - 45	128			
SK - 1256	F-1 区	ハ - 45	78	62		
S - 1257	F-1 区	ハ - 45	128			
S - 1258	F-1 区	ハ - 45	128			
S - 1259	F-1 区	ハ - 45	128			
SE - 1260	F-1 区	ハ - 45	66	58		五
S - 1261	F-1 区	ノ - 45	127			
S - 1262	F-1 区	ハ - 44	128			
S - 1263	F-1 区	ハ - 44	128			
S - 1264	F-1 区	ハ - 44	128			
S - 1265	F-1 区	ハ - 44	128			
S - 1266	F-1 区	ハ - 44	128			
S - 1267	F-1 区	ノ - 44	129			
S - 1268	F-1 区	ノ - 44	129			
S - 1269	F-1 区	ノ - 44	129			
S - 1270	F-1 区	ネ - 44	129			
S - 1271	F-1 区	ネ - 44	129			
S - 1272	F-1 区	ネ - 44	129			
S - 1273	F-1 区	ネ - 47	127	122･124		
S - 1274	F-1 区	ネ - 45	128			
S - 1275	F-1 区	ネ - 45	128			
S - 1276	F-1 区	ネ - 45	128		四二	

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	実測図(遺構)	実測図(遺物)	写真(遺構)	写真(遺物)
S - 1277	F-1 区	ネ - 45	128		四二	
S - 1278	F-1 区	ネ - 45	128			
S - 1279	F-1 区	ネ - 45	128		四二	
SK - 1280	F-1 区	ネ - 45	78			
S - 1281	F-1 区	ネ - 45	129			
S - 1282	F-1 区	ネ - 45	129			
S - 1283	F-1 区	ネ - 45	129			
SK - 1284	F-1 区	ネ - 45	78			
SK - 1285	F-1 区	ノ - 45	78		二六	
SK - 1286	F-1 区	ハ - 38	78			
S - 1287	F-1 区	ハ - 38	129			
S - 1288	F-1 区	ネ - 45	129			
S - 1289	F-1 区	ネ - 45	129			
S - 1290	F-1 区	ネ - 45	129			
S - 1291	F-1 区	ヌ - 45	128			
S - 1292	F-1 区	ヌ - 45	128			
S - 1293	F-1 区	ネ - 45	128			
S - 1294	F-1 区	ネ - 45	128			
S - 1295	F-1 区	ネ - 45	128			
S - 1296	F-1 区	ネ - 45	128			
S - 1297	F-1 区	ネ - 45	128			
S - 1298	F-1 区	ネ - 45	128			
S - 1299	F-1 区	ネ - 45	128			
S - 1300	F-1 区	ネ - 45	128			
S - 1301	F-1 区	ネ - 45	128			
S - 1302	F-1 区	ネ - 45	128			
SK - 1303	F-1 区	ネ - 44	79			
SK - 1304	F-1 区	ネ - 44	79	62		
SK - 1305	F-1 区	ネ - 45	79			
S - 1306	F-1 区	ネ - 45	129			
S - 1307	F-1 区	ネ - 45	129			
SK - 1308	F-1 区	ネ - 44	79	62		
SK - 1309	F-1 区	ネ - 44	79			
SK - 1310	F-1 区	ネ - 45	79	62		
SK - 1311	F-1 区	ネ - 44	79			
SK - 1312	F-1 区	ネ - 45	79			
SK - 1313	F-1 区	ネ - 45	79	62		
SK - 1314	F-1 区	ネ - 45	79			
SK - 1315	F-1 区	ネ - 45	79	62		一八
SK - 1316	F-1 区	ネ - 45	79			
SK - 1317	F-1 区	ヌ - 45	79			
SK - 1318	F-1 区	ヌ - 45	79	62		
SK - 1319	F-1 区	ヌ - 45	79			
S - 1320	F-1 区	ヌ - 45	129			
S - 1321	F-1 区	ヌ - 45	129			
SK - 1322	F-1 区	ヌ - 44	79			
S - 1323	F-1 区	ネ - 44	129			
S - 1324	F-1 区	ネ - 44	129			
S - 1325	F-1 区	ネ - 44	129			
S - 1326	F-1 区	ヌ - 44	129			
S - 1327	F-1 区	ネ - 44	129			
S - 1328	F-1 区	ネ - 44	129			
S - 1329	F-1 区	ヌ - 44	129			
S - 1330	F-1 区	ヌ - 44	129			
S - 1331	F-1 区	ヌ - 45	129			
S - 1332	F-1 区	ヌ - 44	129			
S - 1333	F-1 区	ヌ - 44	129			
S - 1334	F-1 区	ヌ - 44	129			
S - 1335	F-1 区	ヌ - 44	129			
S - 1336	F-1 区	ノ - 47	127			
S - 1337	F-1 区	ノ - 47	127			
S - 1338	F-1 区	ノ - 46	127			
S - 1339	F-1 区	ノ - 47	128			
S - 1340	F-1 区	ノ - 39	129			
S - 1341	F-1 区	ネ - 47	127			
S - 1342	F-1 区	ヒ - 40	127			
S - 1343	F-1 区	ノ - 47	128			
S - 1344	F-1 区	ネ - 47	127			
S - 1345	F-1 区	ネ - 47	127			
SK - 1346	F-1 区	ヌ - 44	80			
S - 1347	F-1 区	ヌ - 44	129			
S - 1348	F-1 区	ヌ - 44	129			
S - 1349	F-1 区	ヌ - 44	129			
S - 1350	F-1 区	ヌ - 44	129			
S - 1351	F-1 区	ヌ - 44	129			
S - 1352	F-1 区	ヌ - 44	129			

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	実測図(遺構)	実測図(遺物)	写真(遺構)	写真(遺物)
S - 1353	F-1 区	ヌ - 44	129			
S - 1354	F-1 区	ヌ - 44	129			
S - 1355	F-1 区	ヌ - 44	129	122		
S - 1356	F-1 区	ヌ - 44	129			
S - 1357	F-1 区	ヌ - 44	130			
S - 1358	F-1 区	ネ - 45	128			
S - 1359	F-1 区	ノ - 38	129			
S - 1360	F-1 区	ノ - 38	129			
S - 1361	F-1 区	ハ - 38	129			
S - 1362	F-1 区	ノ - 47	127			
S - 1363	F-1 区	ネ - 45	128			
S - 1364	F-1 区	ヌ - 44	130			
SK - 1365	F-1 区	ヒ - 44	80	62		
SK - 1366	F-1 区	ネ - 42	80		二六	
SD - 1400	F-3 区	へ - 47～ヒ - 52	100	103･104･105･106･107	三四	八・九・一二・一七・一九・二三・二四・二五・二七
SD - 1402	F-2 区	ホ - 46～ヒ - 52	101	108･109･110･111･141･145	三四･三五	九・一二・一七・一九・二三・二五・二六・二七
SD - 1403	F-2･3 区	ホ - 47～フ - 52	101	89･90	三四･三五	一九
SD - 1404	F-3 区	マ - 47～フ - 52	101	90･92	三五･三六	一九
SD - 1405	F-3 区	マ - 48～ヘ - 52	102	91･93	三五･三六	九
SD - 1406	F-3 区	マ - 48～ヘ - 52	102	94･142	三六	九
SK - 1410	F-3 区	フ - 50	80			
SK - 1411	F-3 区	フ - 50	80			
SK - 1412	F-3 区	フ - 51	80	62	二六	
SK - 1413	F-3 区	フ - 51	80			
S - 1414	F-3 区	フ - 51	130	122	四二	二六
S - 1415	F-3 区	フ - 50	130			
S - 1416	F-3 区	フ - 50	130			
S - 1418	F-3 区	ヘ - 51	130			
S - 1419	F-3 区	フ - 52	130			
S - 1420	F-3 区	フ - 52	132			
S - 1421	F-3 区	フ - 52	132			
S - 1422	F-3 区	フ - 52	132			
S - 1423	F-3 区	ホ - 51	130			
S - 1424	F-3 区	フ - 50	130			
S - 1425	F-3 区	ヘ - 51	130			
S - 1426	F-3 区	フ - 50	130			
S - 1427	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1428	F-3 区	ヘ - 51	130			
S - 1429	F-3 区	フ - 50	130			
S - 1430	F-3 区	ヒ - 50	130			
S - 1431	F-3 区	ヒ - 50	130			
S - 1432	F-3 区	ヒ - 50	130			
S - 1433	F-3 区	ヒ - 50	130			
S - 1434	F-3 区	ヒ - 50	130			
S - 1435	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1436	F-3 区	フ - 50	130			
S - 1437	F-3 区	ヒ - 50	130			
S - 1438	F-3 区	ヒ - 50	130			
S - 1439	F-3 区	ヒ - 50	130			
S - 1440	F-3 区	ヒ - 50	130	122		
S - 1441	F-3 区	ヒ - 50	130			
S - 1442	F-3 区	ヒ - 50	130	123		
S - 1443	F-3 区	ヒ - 50	130			
S - 1444	F-3 区	フ - 51	130			
S - 1445	F-3 区	フ - 51	130	123		
S - 1446	F-3 区	ヒ - 50	132			
S - 1447	F-3 区	ヒ - 50	132			
S - 1448	F-3 区	ヒ - 50	132			
S - 1449	F-3 区	ヒ - 50	132			
S - 1450	F-3 区	ヒ - 50	130			
S - 1451	F-3 区	フ - 52	132			
S - 1452	F-3 区	フ - 52	132			
S - 1453	F-3 区	フ - 52	132			
S - 1454	F-3 区	フ - 52	132			
S - 1455	F-3 区	フ - 52	132			
S - 1456	F-3 区	フ - 51	130			

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	実測図(遺構)	実測図(遺物)	写真(遺構)	写真(遺物)
S - 1457	F-3 区	ヒ - 50	132			
S - 1458	F-3 区	ヒ - 50	132			
S - 1459	F-3 区	ヒ - 50	130			
S - 1460	F-3 区	ヒ - 50	130			
S - 1461	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1462	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1463	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1464	F-3 区	ヒ - 51	132			
S - 1465	F-3 区	ヒ - 51	132			
S - 1466	F-3 区	ヒ - 51	132			
S - 1467	F-3 区	ヒ - 51	132			
S - 1468	F-3 区	ヒ - 51	132	123	四二	二六
S - 1469	F-3 区	ヒ - 51	132			
S - 1470	F-3 区	ヒ - 52	132			
S - 1471	F-3 区	ヒ - 50	130			
S - 1472	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1473	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1474	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1475	F-3 区	ヒ - 50	133			
S - 1476	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1477	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1478	F-3 区	フ - 52	130			
S - 1479	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1480	F-3 区	ヒ - 50	132			
S - 1481	F-3 区	ヒ - 50	132			
S - 1482	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1483	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1484	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1485	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1486	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1487	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1488	F-3 区	ヒ - 50	133			
S - 1489	F-3 区	ヒ - 50	133			
S - 1490	F-3 区	ヒ - 50	133			
S - 1491	F-3 区	ヒ - 50	133			
SK - 1492	F-3 区	ヒ - 50	80			
S - 1493	F-3 区	ヒ - 50	133			
S - 1494	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1495	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1496	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1497	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1498	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1499	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1500	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1501	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1502	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1503	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1504	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1505	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1506	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1507	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1508	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1509	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1510	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1511	F-3 区	ヒ - 50	131			
SK - 1520	F-3 区	ヒ - 51	80	62		六
S - 1521	F-3 区	フ - 51	130			
S - 1522	F-3 区	フ - 51	130			
S - 1523	F-3 区	ヒ - 50	133			
S - 1524	F-3 区	ヒ - 49	133			
S - 1525	F-3 区	ヒ - 50	133			
S - 1526	F-3 区	ヒ - 50	133			
S - 1527	F-3 区	ヒ - 50	133			
S - 1528	F-3 区	ヒ - 49	133			
S - 1529	F-3 区	ヒ - 49	133			
S - 1530	F-3 区	ヒ - 49	133			
S - 1531	F-3 区	ヒ - 49	133			
S - 1532	F-3 区	ハ - 50	133			
S - 1533	F-3 区	ハ - 49	133			
S - 1534	F-3 区	ハ - 49	133			
S - 1535	F-3 区	ハ - 49	133			
S - 1536	F-3 区	ハ - 49	133			
S - 1537	F-3 区	ハ - 49	133		四二	
S - 1538	F-3 区	ハ - 49	133			
S - 1539	F-3 区	ハ - 49	133			
S - 1540	F-3 区	ハ - 49	133			

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	実測図(遺構)	実測図(遺物)	写真(遺構)	写真(遺物)
S - 1541	F-3 区	ハ - 49	133			
S - 1542	F-3 区	ハ - 49	133			
S - 1543	F-3 区	ハ - 49	134			
S - 1545	F-3 区	ヒ - 49	134			
S - 1546	F-3 区	ヒ - 49	134			
S - 1547	F-3 区	ヒ - 49	134			
S - 1548	F-3 区	ヒ - 49	133			
S - 1549	F-3 区	ヒ - 49	133			
S - 1550	F-3 区	ヒ - 49	133	123		
S - 1551	F-3 区	ハ - 49	133			
S - 1552	F-3 区	ハ - 49	133			
S - 1553	F-3 区	ハ - 49	133			
S - 1554	F-3 区	ヒ - 50	133			
S - 1555	F-3 区	ヒ - 50	133			
S - 1556	F-3 区	ヒ - 50	133			
S - 1557	F-3 区	ハ - 50	133			
S - 1558	F-3 区	ヒ - 50	133			
S - 1559	F-3 区	ハ - 50	133			
S - 1560	F-3 区	ヒ - 50	133			
S - 1561	F-3 区	ヒ - 50	133			
S - 1562	F-3 区	ハ - 49	133		四二	
S - 1563	F-3 区	フ - 50	130			
S - 1564	F-3 区	ヒ - 50	130			
S - 1565	F-3 区	ヒ - 50	130			
S - 1566	F-3 区	ヒ - 50	130			
S - 1567	F-3 区	ヒ - 50	130			
S - 1568	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1569	F-3 区	フ - 51	130			
SK - 1570	F-3 区	ヒ - 51	80			
SK - 1571	F-3 区	ヒ - 51	80			
SK - 1572	F-3 区	ヒ - 51	81	62		
SK - 1573	F-3 区	ヒ - 51	81			
SK - 1574	F-3 区	ヒ - 51	81	62	二六・二七	
SK - 1575	F-3 区	ヒ - 51	81			
SK - 1576	F-3 区	ヒ - 51	81	62		
SK - 1577	F-3 区	ヒ - 51	81			
SK - 1578	F-3 区	ヒ - 52	81			
SK - 1579	F-3 区	ハ - 51	81			
SK - 1580	F-3 区	ハ - 51	81			
SK - 1581	F-3 区	ハ - 51	80			
SK - 1582	F-3 区	ヒ - 51	80	62		
SK - 1583	F-3 区	ヒ - 51	80			
SK - 1584	F-3 区	ヒ - 51	80			
S - 1585	F-3 区	ヒ - 50	132			
S - 1586	F-3 区	ヒ - 51	134			
S - 1587	F-3 区	ヒ - 50	131			
SK - 1588	F-3 区	フ - 52	81	62		一八
SK - 1589	F-3 区	ハ - 51	81		二七	
SK - 1590	F-3 区	ハ - 51	81		二七	
SK - 1591	F-3 区	ハ - 51	81		二七	
SK - 1592	F-3 区	ハ - 51	81		二七	
S - 1593	F-3 区	ハ - 51	136			
S - 1594	F-3 区	ハ - 51	136			
S - 1595	F-3 区	フ - 50	130			
SK - 1596	F-3 区	ハ - 51	81			
SK - 1597	F-3 区	ヒ - 51	81			
SK - 1598	F-3 区	ヒ - 51	81			
SK - 1599	F-3 区	ヒ - 51	81			
S - 1600	F-3 区	ハ - 49	133			
S - 1601	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1602	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1603	F-3 区	ヒ - 50	130			
S - 1604	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1605	F-3 区	ヒ - 51	134			
S - 1606	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1607	F-3 区	ヒ - 51	136			
S - 1608	F-3 区	ヒ - 51	136			
S - 1609	F-3 区	ヒ - 51	136			
S - 1610	F-3 区	ヒ - 52	134			
S - 1611	F-3 区	ヒ - 52	134			
S - 1612	F-3 区	ヒ - 52	134			
S - 1613	F-3 区	ヒ - 52	134			
S - 1614	F-3 区	ハ - 52	134			
S - 1615	F-3 区	ヒ - 52	134			
S - 1616	F-3 区	ヒ - 52	134			
SK - 1617	F-3 区	ヒ - 51	80			

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	実測図(遺構)	実測図(遺物)	写真(遺構)	写真(遺物)
SK - 1618	F-3 区	ハ - 50	81			
SK - 1619	F-3 区	ハ - 50	81			
S - 1621	F-3 区	ヒ - 50	131	123・124		
S - 1622	F-3 区	ヒ - 50	131	123・124		
S - 1623	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1624	F-3 区	ヒ - 50	131			
SK - 1625	F-3 区	ハ - 50	82	62・63		六
SK - 1626	F-3 区	ハ - 50	82	62・63	二七	六
SK - 1627	F-3 区	ハ - 50	82	63		六
SK - 1628	F-3 区	ハ - 50	82	63		六
SK - 1629	F-3 区	ハ - 50	82	63		六
S - 1630	F-3 区	ハ - 50	135	63		六
S - 1631	F-3 区	ヒ - 51	137			
S - 1632	F-3 区	ヒ - 51	136			
S - 1633	F-3 区	ヒ - 51	134			
S - 1634	F-3 区	ヒ - 51	134			
S - 1635	F-3 区	ヒ - 51	134			
S - 1636	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1637	F-3 区	ハ - 51	137			
S - 1638	F-3 区	ハ - 49	134			
S - 1639	F-3 区	ヒ - 49	134			
S - 1640	F-3 区	ヒ - 49	134			
S - 1641	F-3 区	ヒ - 49	134			
S - 1642	F-3 区	ヒ - 49	134			
S - 1643	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1644	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1645	F-3 区	ヒ - 51	136	123		一七
S - 1646	F-3 区	ヒ - 51	136			
SK - 1647	F-3 区	ハ - 50	82			
S - 1648	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1649	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1650	F-3 区	ハ - 50	135			
SK - 1651	F-3 区	ハ - 50	82			
SK - 1658	F-3 区	ハ - 49	82			
SK - 1659	F-3 区	ハ - 49	82			
SD - 1660	F-2・3 区	へ - 46～ハ - 49	100	112・113・114・115	三七	九・一〇・一二・一七・一九・二三・二四・二五・二六・二七
S - 1661	F-3 区	フ - 52	130			
S - 1662	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1663	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1664	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1665	F-3 区	ハ - 50	135			
SE - 1666	F-3 区	ハ - 49	66	58・145	二二	
S - 1667	F-3 区	ハ - 50	132			
S - 1668	F-3 区	ハ - 50	132			
S - 1669	F-3 区	ハ - 50	132			
S - 1670	F-3 区	ハ - 50	132			
S - 1671	F-3 区	ハ - 50	132			
S - 1672	F-3 区	ハ - 50	132			
S - 1673	F-3 区	ハ - 50	132			
S - 1674	F-3 区	ハ - 50	132			
S - 1675	F-3 区	ハ - 50	132			
S - 1676	F-3 区	ハ - 50	132			
S - 1677	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1678	F-3 区	ヒ - 50	135			
S - 1679	F-3 区	ハ - 50	136			
S - 1680	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1681	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1682	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1683	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1684	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1685	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1686	F-3 区	ハ - 50	136			
S - 1687	F-3 区	ハ - 50	135	123		一一
S - 1688	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1689	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1690	F-3 区	ハ - 50	131			
SE - 1691	F-3 区	ハ - 50	67			
S - 1692	F-3 区	ハ - 50	131			
S - 1693	F-3 区	ハ - 50	131			
S - 1694	F-3 区	ハ - 49	133			
SE - 1695	F-3 区	ハ - 50	67			
S - 1698	F-3 区	ハ - 50	131			
S - 1699	F-3 区	ハ - 50	131			

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	実測図(遺構)	実測図(遺物)	写真(遺構)	写真(遺物)
S - 1701	F-3 区	ハ - 50	131			
S - 1702	F-3 区	ハ - 50	131			
S - 1703	F-3 区	ハ - 50	131			
S - 1704	F-3 区	ハ - 50	131			
S - 1705	F-3 区	ハ - 50	131			
S - 1706	F-3 区	ハ - 50	131			
S - 1707	F-3 区	ハ - 50	131			
S - 1708	F-3 区	ハ - 50	136			
S - 1709	F-3 区	ハ - 50	136			
S - 1710	F-3 区	ハ - 50	136			
S - 1711	F-3 区	ハ - 50	136			
S - 1712	F-3 区	ハ - 49	136		二二	
S - 1716	F-3 区	ハ - 50	136			
S - 1717	F-3 区	ハ - 50	136			
S - 1718	F-3 区	ハ - 50	136			
S - 1719	F-3 区	ハ - 50	136			
S - 1720	F-3 区	ハ - 50	136			
S - 1721	F-3 区	ハ - 50	136			
S - 1722	F-3 区	ヒ - 50	131		四二	
S - 1723	F-3 区	ヒ - 50	131		四二	
S - 1724	F-3 区	ヒ - 50	131		四二	
S - 1725	F-3 区	ヒ - 50	131		四二	
S - 1726	F-3 区	ヒ - 50	131		四二	
S - 1727	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1728	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1729	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1730	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1731	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1732	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1733	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1734	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1735	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1736	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1737	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1738	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1739	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1740	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1741	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1742	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1743	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1744	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1745	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1746	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1748	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1749	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1750	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1751	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1752	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1753	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1754	F-3 区	ヒ - 49	137			
S - 1755	F-3 区	ヒ - 50	137			
S - 1756	F-3 区	ヒ - 50	137			
S - 1757	F-3 区	ヒ - 50	137			
S - 1758	F-3 区	ヒ - 50	137			
S - 1759	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1760	F-3 区	ヒ - 50	132			
S - 1761	F-3 区	ヒ - 50	132			
S - 1762	F-3 区	ヒ - 50	132			
S - 1763	F-3 区	ヒ - 50	132			
S - 1764	F-3 区	ヒ - 51	132			
S - 1765	F-3 区	ヒ - 51	132			
S - 1766	F-3 区	ヒ - 51	132			
S - 1767	F-3 区	ヒ - 51	132			
S - 1768	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1769	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1770	F-3 区	ヒ - 51	134			
S - 1771	F-3 区	ヒ - 51	134			
S - 1772	F-3 区	ヒ - 51	134			
S - 1773	F-3 区	ヒ - 51	134			
S - 1774	F-3 区	ヒ - 51	134			
S - 1775	F-3 区	ヒ - 51	134			
S - 1776	F-3 区	ヒ - 50	137			
S - 1777	F-3 区	ヒ - 51	134			
S - 1778	F-3 区	ヒ - 51	134			
S - 1779	F-3 区	ヒ - 51	134			
S - 1780	F-3 区	ヒ - 51	134			

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	実測図(遺構)	実測図(遺物)	写真(遺構)	写真(遺物)
S - 1781	F-3 区	ヒ - 51	134			
S - 1782	F-3 区	ヒ - 51	134			
S - 1783	F-3 区	ヒ - 51	134			
S - 1784	F-3 区	ヒ - 51	134			
S - 1785	F-3 区	ヒ - 51	134			
S - 1786	F-3 区	ヒ - 51	134			
S - 1787	F-3 区	ヒ - 51	134			
S - 1788	F-3 区	ヒ - 51	134			
S - 1789	F-3 区	ヒ - 51	134			
S - 1790	F-3 区	ヒ - 51	134			
S - 1791	F-3 区	ヒ - 51	134			
S - 1792	F-3 区	ヒ - 51	134			
S - 1793	F-3 区	ヒ - 51	134			
S - 1794	F-3 区	ヒ - 51	134			
S - 1795	F-3 区	ヒ - 51	131			
S - 1796	F-3 区	ヒ - 51	131			
S - 1797	F-3 区	ハ - 51	136			
S - 1798	F-3 区	ハ - 51	136			
S - 1799	F-3 区	ハ - 51	136			
S - 1800	F-3 区	ハ - 51	136			
S - 1801	F-3 区	ハ - 51	136			
S - 1802	F-3 区	ハ - 51	136			
S - 1803	F-3 区	ハ - 51	136			
S - 1804	F-3 区	ハ - 51	135			
S - 1805	F-3 区	ハ - 51	135			
S - 1806	F-3 区	ハ - 51	135			
S - 1807	F-3 区	ハ - 51	135			
S - 1808	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1809	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1810	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1811	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1812	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1813	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1814	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1815	F-3 区	ハ - 51	135			
S - 1816	F-3 区	ハ - 51	135			
S - 1817	F-3 区	ハ - 51	135			
S - 1818	F-3 区	ハ - 51	135			
S - 1819	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1820	F-3 区	ハ - 51	136			
S - 1821	F-3 区	ハ - 51	136			
S - 1822	F-3 区	ハ - 51	136			
S - 1823	F-3 区	ハ - 51	136			
S - 1824	F-3 区	ハ - 51	136			
S - 1825	F-3 区	ハ - 51	136			
S - 1826	F-3 区	ハ - 51	136			
S - 1827	F-3 区	ヒ - 51	136			
S - 1828	F-3 区	ヒ - 51	136			
S - 1829	F-3 区	ハ - 50	131			
S - 1830	F-3 区	ハ - 50	131			
S - 1831	F-3 区	ハ - 50	131			
S - 1832	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1833	F-3 区	ハ - 50	131			
S - 1834	F-3 区	ハ - 50	131			
S - 1835	F-3 区	ヒ - 50	135			
S - 1836	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1837	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1838	F-3 区	ハ - 50	135			
S - 1839	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1840	F-3 区	ヒ - 51	132			
S - 1841	F-3 区	ヒ - 52	132			
S - 1842	F-3 区	ヒ - 52	132			
S - 1843	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1845	F-3 区	ヒ - 51	—			
S - 1846	F-3 区	ヒ - 51	134			
S - 1847	F-3 区	ヒ - 51	134			
S - 1848	F-3 区	ヒ - 50	134			
S - 1849	F-3 区	ヒ - 50	134			
S - 1850	F-3 区	ヒ - 50	134			
S - 1851	F-3 区	ヒ - 50	134			
S - 1852	F-3 区	ヒ - 50	134			
S - 1853	F-3 区	ヒ - 50	132			
SE - 1854	F-3 区	ヒ - 52	67			
S - 1855	F-3 区	ヒ - 51	134			
S - 1857	F-3 区	ヒ - 50	134			
S - 1858	F-3 区	ヒ - 50	134			

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	実測図(遺構)	実測図(遺物)	写真(遺構)	写真(遺物)
S - 1859	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1860	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1861	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1862	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1863	F-3 区	ヒ - 50	134			
S - 1864	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1865	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1866	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1867	F-3 区	ヒ - 50	131		四二	
S - 1868	F-3 区	ヒ - 50	131		四二	
S - 1869	F-3 区	ヒ - 50	131		四二	
S - 1870	F-3 区	ハ - 50	131			
S - 1871	F-3 区	ハ - 50	131			
S - 1872	F-3 区	ヒ - 50	134			
S - 1873	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1874	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1875	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1876	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1877	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1878	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1879	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1880	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1881	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1882	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1883	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1884	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1885	F-3 区	ヒ - 51	134			
SE - 1886	F-3 区	ヒ - 50	67	145		
S - 1887	F-3 区	ヒ - 50	130			
S - 1888	F-3 区	ヒ - 50	130			
S - 1889	F-3 区	フ - 50	130			
S - 1890	F-3 区	フ - 50	130			
S - 1891	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1892	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1893	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1894	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1895	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1896	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1897	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1898	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1899	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1900	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1901	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1902	F-3 区	ヒ - 50	131			
S - 1903	F-3 区	ハ - 50	131			
S - 1904	F-3 区	ハ - 50	131			
S - 1905	F-3 区	ハ - 50	133			
S - 1906	F-3 区	ハ - 50	133			
S - 1907	F-3 区	ハ - 50	133			
S - 1908	F-3 区	ハ - 50	131			
S - 1909	F-3 区	ハ - 50	131			
S - 1910	F-3 区	ハ - 50	131			
S - 1911	F-3 区	ハ - 50	133			
S - 1912	F-3 区	ハ - 50	133			
S - 1913	F-3 区	ハ - 50	133			
S - 1914	F-3 区	ハ - 50	133			
S - 1915	F-3 区	ハ - 50	133			
S - 1916	F-3 区	ハ - 50	133			
S - 1917	F-3 区	ハ - 50	133			
S - 1918	F-3 区	ハ - 50	133			
S - 1919	F-3 区	ハ - 50	133			
S - 1920	F-3 区	ハ - 50	133			
S - 1921	F-3 区	ハ - 50	133			
S - 1922	F-3 区	ハ - 50	133			
S - 1923	F-3 区	ハ - 50	133			
S - 1924	F-3 区	ハ - 50	136			
S - 1925	F-3 区	ハ - 50	136			
S - 1926	F-3 区	ハ - 50	136			
S - 1927	F-3 区	ハ - 50	136			
S - 1928	F-3 区	ハ - 50	136			
S - 1929	F-3 区	ハ - 50	136			
S - 1930	F-3 区	ハ - 50	136			
S - 1931	F-3 区	ハ - 50	136			
S - 1932	F-3 区	ハ - 50	133			
SK - 1933	F-3 区	ヒ - 51	82		二七	
SK - 1934	F-3 区	ヒ - 51	82		二七	

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	実測図(遺構)	実測図(遺物)	写真(遺構)	写真(遺物)
S - 1935	F-3 区	ハ - 50	136			
S - 1936	F-3 区	ハ - 50	136			
S - 1937	F-3 区	ハ - 49	136		四三	
S - 1938	F-3 区	ハ - 49	136			
S - 1939	F-3 区	ハ - 49	136			
S - 1940	F-3 区	ハ - 49	136			
S - 1941	F-3 区	ハ - 49	136			
S - 1942	F-3 区	ハ - 50	133			
S - 1943	F-3 区	ハ - 50	133			
S - 1944	F-3 区	ハ - 50	133			
S - 1945	F-3 区	ハ - 50	133			
S - 1946	F-3 区	ハ - 50	133			
S - 1947	F-3 区	ハ - 50	133			
S - 1949	F-3 区	ハ - 50	133			
S - 1950	F-3 区	ハ - 49	136			
S - 1951	F-3 区	ハ - 49	136			
S - 1952	F-3 区	ハ - 49	136			
S - 1953	F-3 区	ハ - 49	136			
S - 1954	F-3 区	ハ - 49	136			
S - 1955	F-3 区	ヒ - 50	134			
SD - 2000	G-1 区	フ - 53～ヒ - 55	102			
SD - 2000	G-3 区	ヒ - 54～ヒ - 55	102			
SD - 2001	G-1 区	ヘ - 53～ヘ - 54	102			
SD - 2002	G-1･2 区	ミ - 51～ヘ - 58	104	116･117･118	三六･三七･三九	一〇・一七・二二
SD - 2003	G-1 区	ヘ - 55～ホ - 55	102			
SD - 2004	G-1 区	ヘ - 53	102			
S - 2005	G-1 区	マ - 52	137			
S - 2006	G-1 区	マ - 52	137			
S - 2007	G-1 区	マ - 53	137			
S - 2008	G-1 区	マ - 53	137			
S - 2009	G-1 区	マ - 53	137			
S - 2010	G-1 区	ミ - 53	137			
S - 2011	G-1 区	マ - 54	137			
S - 2012	G-1 区	マ - 54	137			
S - 2013	G-1 区	マ - 54	137			
S - 2014	G-1 区	フ - 55	137			
S - 2015	G-1 区	ミ - 54	137			
SD - 2016	G-1 区	フ - 54～ヘ - 54	102			
SK - 2017	G-1 区	マ - 54	82			
S - 2018	G-1 区	マ - 55	137			
SX - 2019	G-1 区	ホ - 56	112	121		一一
SE - 2020	G-1 区	ミ - 52	67			
SX - 2021	G-1 区	ホ - 53	112			
SK - 2024	G-1 区	ホ - 54	82			
S - 2025	G-1 区	マ - 54	137			
SD - 2101	F-2 区	マ - 48～ホ - 51	102	93･96		
SD - 2102	F-2 区	マ - 47～ホ - 49	101			
SD - 2104	F-2 区	ホ - 46～ヒ - 52	100	97	三四	
SD - 2105	F-2 区	ホ - 45～ヘ - 46	100			
SD - 2106	F-2 区	フ - 43～ホ - 46	103	54･119･142	三七･三八	一〇・一七・一九
SD - 2107	F-2 区	フ - 43～フ - 44	103	88･98	三八	一〇
S - 2108	F-2 区	ホ - 47	138			
SK - 2109	F-2 区	フ - 48	83			
SI - 2110	F-2 区	ヘ - 49	46			
SI - 2111	F-2 区	ヘ - 49	46			
SI - 2113	F-2 区	フ - 48	45	48		四･一二･一八
SI - 2114	F-2 区	フ - 48	47	50		四･五
SI - 2116	F-2 区	ヘ - 49	48	49		五
SI - 2117	F-2 区	フ - 48	50	52	一七･一八	五
SI - 2118	F-2 区	フ - 44	51	53･54	一八	五
SI - 2119	F-2 区	フ - 48	49	51	一八	五･二二
S - 2120	F-2 区	マ - 50	137			
SK - 2121	F-2 区	ホ - 47	82			

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	実測図(遺構)	実測図(遺物)	写真(遺構)	写真(遺物)
S - 2122	F-2 区	ホ - 47	138			
S - 2123	F-2 区	ホ - 47	138			
S - 2124	F-2 区	へ - 49	138	123		一一
S - 2125	F-2 区	へ - 49	138			
SE - 2126	F-2 区	へ - 50	67	58		
S - 2127	F-2 区	ホ - 47	138			
S - 2128	F-2 区	ホ - 47	138			
S - 2129	F-2 区	ホ - 48	138			
S - 2130	F-2 区	ホ - 48	138			
S - 2131	F-2 区	ホ - 48	138			
S - 2132	F-2 区	へ - 49	138			
S - 2133	F-2 区	ホ - 47	138			
SX - 2134	F-2 区	ホ - 47	113		四一	
S - 2135	F-2 区	ホ - 47	138			
S - 2136	F-2 区	フ - 50	138			
S - 2137	F-2 区	ホ - 47	138			
S - 2139	F-2 区	ホ - 47	138			
S - 2140	F-2 区	ホ - 48	138			
S - 2141	F-2 区	マ - 49	137			
S - 2142	F-2 区	マ - 49	137			
S - 2143	F-2 区	マ - 49	137			
S - 2145	F-2 区	マ - 49	137	123		
S - 2146	F-2 区	マ - 49	137			
S - 2147	F-2 区	マ - 49	137			
S - 2148	F-2 区	マ - 49	137			
S - 2149	F-2 区	マ - 49	137			
S - 2150	F-2 区	マ - 49	137			
S - 2151	F-2 区	マ - 49	137	124		一七
S - 2152	F-2 区	マ - 49	137	124		一七
S - 2153	F-2 区	マ - 49	137	124		一七
S - 2154	F-2 区	マ - 49	137			
S - 2155	F-2 区	マ - 49	137	123		
S - 2156	F-2 区	マ - 49	137	123		
S - 2157	F-2 区	ホ - 50	138			
S - 2158	F-2 区	ホ - 50	138			
S - 2159	F-2 区	ホ - 50	138			
S - 2160	F-2 区	マ - 49	137			
SK - 2161	F-2 区	へ - 48	83			
SK - 2162	F-2 区	へ - 48	83	136		
SK - 2163	F-2 区	へ - 48	83	63	二七	
SK - 2164	F-2 区	フ - 48	83	63		
SK - 2165	F-2 区	フ - 48	83			
S - 2167	F-2 区	フ - 48	138			
SK - 2168	F-2 区	フ - 48	83			
SK - 2169	F-2 区	フ - 48	83			
SK - 2170	F-2 区	フ - 48	82			
SK - 2171	F-2 区	フ - 48	82			
SK - 2172	F-2 区	フ - 48	83			
SK - 2173	F-2 区	フ - 48	83			
SK - 2174	F-2 区	フ - 48	82			
SK - 2175	F-2 区	フ - 48	83			
S - 2176	F-2 区	フ - 48	138			
SK - 2177	F-2 区	フ - 48	82			
SK - 2178	F-2 区	フ - 48	83			
SK - 2179	F-2 区	フ - 48	83			
S - 2180	F-2 区	フ - 46	139			
SK - 2181	F-2 区	へ - 47	83			
SK - 2182	F-2 区	へ - 47	83			
SK - 2183	F-2 区	フ - 47	83	63		
SK - 2184	F-2 区	フ - 47	83			
SK - 2185	F-2 区	フ - 47	83			
S - 2186	F-2 区	フ - 47	138			
SK - 2187	F-2 区	フ - 47	83			
S - 2188	F-2 区	フ - 47	138			
SI - 2189	F-2 区	フ - 47	52			
SK - 2190	F-2 区	フ - 47	83			
SK - 2191	F-2 区	フ - 47	84			
SK - 2192	F-2 区	フ - 47	84	63		
S - 2193	F-2 区	フ - 48	138			
SE - 2194	F-2 区	フ - 48	67	59		一二
S - 2195	F-2 区	へ - 47	138			
S - 2196	F-2 区	へ - 46	138			
S - 2197	F-2 区	へ - 46	138			
S - 2198	F-2 区	へ - 46	138			
SK - 2199	F-2 区	ヒ - 48	84			
S - 2200	F-2 区	ヒ - 48	139			

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	実測図(遺構)	実測図(遺物)	写真(遺構)	写真(遺物)
S - 2201	F-2 区	ミ - 49	137			
S - 2202	F-2 区	マ - 49	137		四三	
S - 2203	F-2 区	ミ - 49	137		四三	
S - 2204	F-2 区	ミ - 49	137		四三	
S - 2205	F-2 区	ミ - 49	137		四三	
SK - 2206	F-2 区	マ - 50	84			
S - 2207	F-2 区	マ - 50	139			
S - 2208	F-2 区	マ - 50	139			
S - 2209	F-2 区	マ - 50	139			
S - 2210	F-2 区	マ - 50	139			
S - 2211	F-2 区	へ - 45	139			
S - 2212	F-2 区	へ - 45	139			
S - 2213	F-2 区	へ - 45	139			
S - 2214	F-2 区	フ - 43	139			
S - 2215	F-2 区	フ - 43	139			
S - 2216	F-2 区	フ - 43	139			
S - 2217	F-2 区	ヒ - 43	139			
S - 2218	F-2 区	ヒ - 43	139			
S - 2219	F-2 区	ヒ - 43	139	123		
S - 2220	F-2 区	ヒ - 43	139	123		
SK - 2221	F-2 区	フ - 48	83			
S - 2222	F-2 区	フ - 48	138			
SK - 2223	F-2 区	フ - 48	83			
SI - 2225	F-2 区	へ - 50	54			
SI - 2226	F-2 区	へ - 50	53			
SI - 2227	F-2 区	へ - 49	53	55		五
SE - 2228	F-2 区	へ - 50	67	59		
S - 2229	F-2 区	へ - 50	139			
S - 2230	F-2 区	へ - 48	139			
S - 2231	F-2 区	ホ - 46	139			
S - 2234	F-2 区	フ - 50	142	145		
S - 2235	F-2 区	フ - 49	142			
S - 2236	F-2 区	フ - 50	138			
S - 2237	F-2 区	フ - 49	138			
S - 2238	F-2 区	フ - 47	142			
SK - 2239	F-2 区	ヒ - 47	84			
S - 2240	F-2 区	へ - 47	139			
S - 2241	F-2 区	フ - 49	140			
S - 2242	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2243	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2244	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2245	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2246	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2247	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2248	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2249	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2250	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2251	F-2 区	ヒ - 49	140	123		
S - 2252	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2253	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2254	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2255	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2256	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2257	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2258	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2259	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2260	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2261	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2262	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2263	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2264	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2265	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2266	F-2 区	ヒ - 49	139			
S - 2267	F-2 区	ヒ - 49	139			
S - 2268	F-2 区	ヒ - 49	139			
S - 2269	F-2 区	ヒ - 49	139			
S - 2270	F-2 区	ヒ - 49	139			
S - 2271	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2272	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2273	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2274	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2275	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2276	F-2 区	ヒ - 49	140	123		
SE - 2277	F-2 区	ヒ - 49	67			
S - 2279	F-2 区	ヒ - 49	140			
SK - 2281	F-2 区	ヒ - 49	84			

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	実測図(遺構)	実測図(遺物)	写真(遺構)	写真(遺物)
S - 2282	F-2 区	ヒ - 49	140	123		
S - 2283	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2284	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2285	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2286	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2288	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2289	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2290	F-2 区	ヒ - 49	140			
S - 2291	F-2 区	ヒ - 49	141			
SX - 2292	F-2 区	ヒ - 49	113			
S - 2293	F-2 区	ヒ - 49	141			
S - 2294	F-2 区	ヒ - 49	141			
S - 2295	F-2 区	ヒ - 49	141			
S - 2296	F-2 区	ヒ - 49	141			
S - 2297	F-2 区	ヒ - 49	141			
S - 2298	F-2 区	ヒ - 49	141			
S - 2299	F-2 区	ヒ - 49	141			
S - 2300	F-2 区	マ - 50	139			
S - 2301	F-2 区	ヘ - 44	141			
S - 2302	F-2 区	ヘ - 44	141			
S - 2303	F-2 区	ヘ - 44	141			
S - 2304	F-2 区	ヘ - 45	141			
S - 2305	F-2 区	フ - 43	139			
S - 2306	F-2 区	ヒ - 44	139			
S - 2307	F-2 区	フ - 44	141			
S - 2308	F-2 区	フ - 44	141			
S - 2309	F-2 区	フ - 44	141			
S - 2310	F-2 区	フ - 44	141			
S - 2311	F-2 区	フ - 44	141			
S - 2312	F-2 区	フ - 44	141			
S - 2313	F-2 区	フ - 45	141			
S - 2314	F-2 区	フ - 45	141			
S - 2315	F-2 区	フ - 45	141			
S - 2316	F-2 区	フ - 45	141			
S - 2317	F-2 区	フ - 45	141			
S - 2318	F-2 区	フ - 45	141			
S - 2319	F-2 区	フ - 45	141			
S - 2320	F-2 区	ヒ - 49	141			
S - 2321	F-2 区	ヒ - 49	141			
S - 2322	F-2 区	ヒ - 49	141			
S - 2324	F-2 区	ヒ - 49	141			
S - 2325	F-2 区	ヒ - 49	141			
S - 2326	F-2 区	ヒ - 49	141			
S - 2327	F-2 区	ヒ - 49	141			
S - 2328	F-2 区	ヒ - 49	141			
S - 2329	F-2 区	ヒ - 49	141			
S - 2330	F-2 区	ヒ - 49	141			
S - 2332	F-2 区	ヒ - 49	139			
S - 2333	F-2 区	ヒ - 49	139			
S - 2334	F-2 区	ヒ - 49	141			
S - 2335	F-2 区	ヒ - 49	141			
S - 2336	F-2 区	ヒ - 49	141			
SK - 2337	F-2 区	ヒ - 49	84			
SK - 2338	F-2 区	ヒ - 49	84	63		
SK - 2339	F-2 区	ヒ - 49	84	63		
SK - 2340	F-2 区	フ - 48	84			
SK - 2341	F-2 区	フ - 48	84	63		六
SK - 2342	F-2 区	フ - 49	84	63		六
S - 2343	F-2 区	フ - 49	138	123		
SK - 2344	F-2 区	フ - 49	84			
SK - 2345	F-2 区	フ - 49	84	63		六
SK - 2347	F-2 区	フ - 49	84	63		
S - 2348	F-2 区	マ - 49	137	123		
S - 2349	F-2 区	マ - 49	137			
S - 2350	F-2 区	マ - 49	142			
S - 2351	F-2 区	マ - 49	142	124		
S - 2352	F-2 区	マ - 48	142	124		
S - 2361	F-2 区	フ - 46	139			
S - 2362	F-2 区	ヒ - 48	139			
SK - 2363	F-2 区	ヒ - 48	84	63		
S - 2364	F-2 区	ヒ - 49	139			
S - 2365	F-2 区	ヒ - 47	142			
S - 2366	F-2 区	ヒ - 47	142			
S - 2367	F-2 区	ヒ - 47	142			
S - 2368	F-2 区	フ - 47	142			
S - 2369	F-2 区	ヒ - 48	142			

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	実測図(遺構)	実測図(遺物)	写真(遺構)	写真(遺物)
S - 2370	F-2 区	ヒ - 48	142			
S - 2371	F-2 区	ヒ - 48	142			
S - 2372	F-2 区	ヒ - 48	142			
S - 2380	F-2 区	フ - 49	142			
SK - 2381	F-2 区	フ - 49	84			
SK - 2382	F-2 区	フ - 49	84	63		
S - 2383	F-2 区	フ - 49	142			
S - 2384	F-2 区	フ - 49	142			
SK - 2385	F-2 区	フ - 49	85			
S - 2386	F-2 区	フ - 49	142			
S - 2388	F-2 区	ホ - 50	142			
S - 2390	F-2 区	ホ - 50	142			
SX - 2391	F-2 区	ヒ - 49	113			
S - 2392	F-2 区	ヒ - 49	141			
S - 2393	F-2 区	ヒ - 49	141			
S - 2394	F-2 区	ヒ - 49	141			
S - 2395	F-2 区	ヒ - 49	141			
SK - 2396	F-2 区	ハ - 46	85			
S - 2397	F-2 区	ハ - 47	142			
S - 2398	F-2 区	ハ - 46	142			
S - 2399	F-2 区	ハ - 46	142			
SK - 2400	F-2 区	ハ - 45	85			
S - 2401	F-2 区	ヘ - 45	141			
S - 2402	F-2 区	フ - 44	141			
S - 2403	F-2 区	フ - 44	141			
S - 2404	F-2 区	フ - 45	141			
SX - 2405	F-2 区	フ - 43	112			
S - 2407	F-2 区	ヘ - 45	103			
SK - 2411	F-2 区	ハ - 45	85			
S - 2412	F-2 区	ハ - 46	142			
S - 2413	F-2 区	ヒ - 49	141			
SI - 2414	F-2 区	フ - 49	55	56	一八	
SK - 2415	F-2 区	フ - 49	85			
S - 2416	F-2 区	フ - 49	142			
SK - 2417	F-2 区	ハ - 49	85			
SK - 2418	F-2 区	ハ - 48	85			
SK - 2419	F-2 区	ハ - 48	85			
S - 2420	F-3 区	ヒ - 49	142			
SK - 2421	F-2 区	フ - 49	84			
S - 2422	F-2 区	フ - 49	142	124		
SK - 2423	F-2 区	フ - 49	85			
S - 2425	F-2 区	ヒ - 49	139			
S - 2426	F-2 区	ヒ - 49	139			
S - 2427	F-2 区	ヒ - 49	139			
S - 2428	F-2 区	ヒ - 49	139			
S - 2429	F-2 区	ヒ - 49	139			
S - 2430	F-2 区	ヒ - 49	139			
S - 2431	F-2 区	ヒ - 49	139			
SK - 2433	F-2 区	ハ - 48	85			
S - 2434	F-2 区	フ - 49	142			
SK - 2435	F-1 区	ノ - 43	85	63		
SK - 2436	C-3 区	タ - 25	85			
SK - 2437	B-3 区	オ - 12	85	63		一八
SD - 2500	G-2 区	モ - 55～ メ - 57	105	99		二二
SX - 2501	G-2 区	ム - 56	113	121	四一	
SD - 2502	G-2 区	メ - 53～ ヤ - 57	105		三九	
S - 2503	G-2 区	ム - 54	142			
S - 2504	G-2 区	ム - 54	142			
S - 2505	G-2 区	ム - 55	143			
S - 2506	G-2 区	ム - 55	143			
S - 2507	G-2 区	ム - 56	143			
S - 2508	G-2 区	ム - 56	143			
S - 2509	G-2 区	ム - 56	143			
SD - 2510	G-2 区	ム - 53～ メ - 53	105			
SD - 2511	G-2 区	ミ - 56～ ム - 57	105		四一	
S - 2512	G-3 区	ヒ - 55	142			
S - 2513	G-3 区	ヒ - 55	142			
S - 2514	G-3 区	フ - 55	142			
S - 2515	G-3 区	フ - 55	142			
S - 2516	G-3 区	フ - 57	142			
S - 2517	G-3 区	ヘ - 57	143			
S - 2518	G-3 区	ヘ - 58	143			

第２章　遺跡の環境

第１節　地理的環境

栃木県は、本州の中央にあたる関東平野の北部、いわゆる北関東の中央部にあり、北を福島県、西を群馬県、南を群馬県と埼玉県、東を茨城県と接する内陸県である。東西に75㎞、南北に98㎞、面積およそ6,400㎢の南北にやや長い楕円形をなしている。

地形的には東部山地、中央部平地、西部山地の三地形区に大別できる。東部山地は福島県・茨城県との県境に沿って南北に走るいわゆる八溝山地で、北端の八溝山を主峰にもつ八溝山塊から、南に向かって鷲子山地、鶏足山塊とその標高は段階的に低くなる。中央部平地は丘陵・台地・低地から成り、北から高久（白河）丘陵、那須扇状地（那須野が原）、喜連川（塩那）丘陵、宇都宮市を中心とする県中南部の台地・低地と並ぶ。西部山地は北から帝釈山地、足尾山地が連なり、その間に那須火山・高原火山・日光火山の各火山群が位置する。以上の三地形区はいずれも北から南へ向かって緩斜する傾向を示しており、そのため県の主要河川である鬼怒川を始め那珂川・思川、また、鬼怒川の支川である五行川・田川・姿川・黒川などの各河川はそろって北から南へ流下する。これらの河川はそれぞれ沖積低地を形成し、間に台地が南北に平行して並ぶ。全体として南に開けた、北岳南平の地となっている。

気候は内陸性気候であるが、地域的には東北日本と南西日本、裏日本と表日本の中間にあって中位性を示し、表日本型の温暖で冬乾燥・夏多湿（関東平野型）の気候から、裏日本型が一部入り込む低温で冬多雪・夏多雨（関東周辺山地型）の気候まで多様である。県の東・西・北が山地で囲繞されているため、日中の最高気温は高く、冬及び朝の最低気温は低い。植物帯としては、県域南部は暖温帯照葉樹林帯、宇都宮の北東部・那須にかけては暖温帯落葉樹林帯、西部山岳帯の大部分が冷温帯落葉樹林帯となる。県央をほぼ横断する年平均気温13℃の線が暖帯性植物の北限とされ、このため栃木県は日本の植生の南北境界に位置することになる。

西物井遺跡は芳賀郡二宮町大字物井地内に所在する。芳賀郡は県域の南東に位置し、二宮町はその南東端に位置する。北は真岡市、西は上三川町・下野市・小山市、東と南は茨城県と接している。県道西田井二宮線が北東から南西に通り、同県道から分岐する県道真岡協和明野線が北西に進む。さらに県道真岡協和明野線から分岐する県道物井寺内線が西進する。北関東自動車道は、この県道物井寺内線を北西から南東方向に横切る高速道路である。

二宮町は東西に細長く、東側は八溝山地に接しその西麓を小貝川が、西側は鬼怒川が、中央部を五行川が南流する。鬼怒川と五行川に挟まれた部分は、さくら市付近より茨城県筑西市（旧下館市）に向かっての宝積寺台地（段丘）の南端に位置しており、標高は約40～55m、その幅は約1.5㎞程である。五行川と小貝川に挟まれた部分は、芳賀郡祖母井町付近からやはり茨城県下館市に向かっての祖母井台地の南端部分に位置し、標高約50～60m、その幅は約2.5～3.5㎞程である。

本遺跡は、この五行川と小貝川の形成する沖積低地部分に島状に残された低台地状に立地している。このような島状の台地は両河川による自然堤防の形成や流路の変更によって、細かく複雑な分布を示す。現状では一帯の水田化が進んでいるため、周辺は沖積低地の広がりのように見えているが、こうした低台地が南北方向に切れ切れに展開する。このうち比較的規模が大きいのは高田の集落をのせる台地と、物井から鹿へ南北に伸びる台地であり、西物井遺跡はこの後者の台地上に存在する遺跡である。

二宮町は二宮金次郎（尊徳）が二宮仕法（誠・推譲・分度・勤労）を広めた地域でもあり、本調査区内を

南流する穴川用水は二宮金次郎（尊徳）が文政10年（1827年）に改修を行ったものである。真岡市の東郷にある大前神社付近の五行川から取水している。この用水により周辺部は肥沃な水田地帯として潤され、二宮町は稲作を中心とする農業地帯となった。

参考文献

阿久津純　1976 「栃木県の地形・地質（県中南部を中心に）」『栃木県史』 資料編考古２　栃木県史編纂委員会

大町雅美ほか編　1984 『角川日本地名大辞典　９栃木県』　角川書店　角川日本地名大辞典編纂委員会

国土庁土地局国土調査課　1991 『土地分類図09（栃木県） 1974』 復刻版　財団法人日本地図センター

下中直也　1988 「栃木県の地名」『日本歴史地名大系』 第九巻　平凡社

栃木県企画部土地対策課　1984 『土地分類基本調査　壬生』

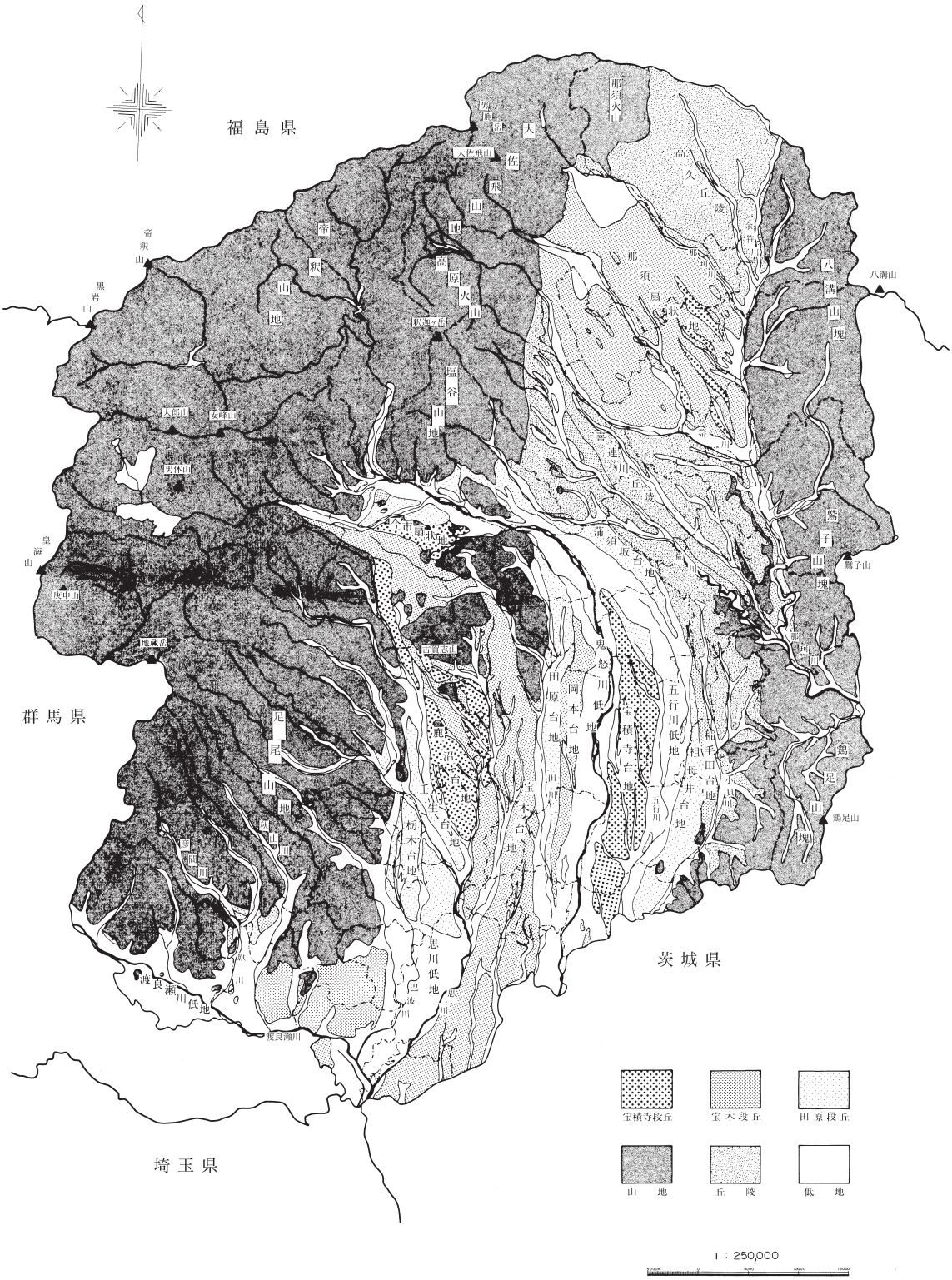
栃木県企画部資源対策課　1990 『土地分類基本調査　真岡』

栃木県企画部統計課　1991 『栃木県統計年鑑』 平成２年版

二宮町史編さん委員会　2006 「二宮町の地理的環境」『二宮町史』史料編Ⅰ　考古・古代中世

塙　静夫　1984 「解説」『真岡市史』 第一巻　考古資料編　真岡市史編纂委員会

第 15 図　西物井遺跡の位置と周辺地形図



第16図　栃木県地形分類図

第２節　歴史的環境

西物井遺跡は県の南東部にあたる二宮町に所在する。町名の由来ともなっている二宮尊徳が活動の拠点とした国指定史跡桜町陣屋跡を有する二宮町の歴史は古く、宝積寺台地を中心として古墳時代から近世にかけての遺跡が多く存在している。過去においては、周知の遺跡であっても発掘調査により内容が確認された事例は少なく、古墳などは既に消滅しているものが多いと思われる。

しかし近年、二宮町教育委員会による桜町陣屋跡の発掘調査をはじめ、二宮町を横断して群馬・栃木・茨城の３県を結ぶ北関東自動車道路線内遺跡の発掘調査や圃場整備事業に伴う発掘・確認調査、また二宮町町史編さん室による町内遺跡の分布調査などにより、周知の遺跡及び新しく発見された多くの遺跡の性格が明らかになりつつある。

本遺跡は後期旧石器時代から江戸時代後期にかけて、およそ一万年以上の歴史を内蔵する遺跡であるが、周辺では同様に長い歴史を持つ遺跡が相次いで発見され、長期にわたる継続的な調査のもと、地域研究の基礎資料となる多くの成果が報告書として刊行されている。町の持つ豊かな歴史の一端が解明されることは、地域の文化を見直し活性化させる大きな力となるもので、地域に還元される埋蔵文化財の調査と研究の蓄積により、連綿と続く町の歴史は再構築・再評価され、よりよい活用の場を得る拠点となる。

二宮町は、2009年３月を持って真岡市と合併し町の姿を変えるが、既に発掘され地域の歴史の一部となった遺跡を中心に挙げ、本遺跡周辺の歴史の概説をする。なお、隣接する真岡市、茨城県筑西市（旧下館市）を含む広域な範囲での詳細な遺跡の分布と説明は、既刊報告書「峰高前遺跡」（合田恵美子2007）に詳しい。

旧石器時代

二宮町の旧石器時代の遺物を出土する遺跡としては、本報告の西物井遺跡〖１〗（大字物井地内）、峰高前遺跡〖14〗（大字物井字峰高前地内）、桑の川遺跡〖99〗（大字桑ノ川地内）、市ノ塚遺跡〖94〗（大字高田字市ノ塚地内）が挙げられる。これらの遺跡は、八溝山塊の西麓を南流する小貝川と、二宮町の中央部を南流する五行川の間に位置し、両河川の形成する沖積低地の中に展開する低台地状に立地する。それぞれ石器が単体で出土しており、西物井遺跡では石刃が1点、峰高前遺跡では掻器が１点、桑の川遺跡では掻器が２点、市ノ塚遺跡ではナイフ形石器が1点発見された。いずれも後期旧石器時代の遺物である。後期旧石器の遺跡としては、他に本町の北に隣接する真岡市の磯山遺跡〖92〗（東大島地内）が有名である。県内で初めて当該期の遺跡として発掘調査が行われた遺跡で、ナイフ形石器を始め多くの石器が発見された。真岡市の指定遺跡になっており昭和34年の発見以来、計３回の発掘調査が行われている。昭和36・37年の調査は芹沢長介氏の指導の下、昭和48年の調査は県史編纂事業の一環として県教委主体の下行われた。五行川と小貝川の形成する沖積地に磯山と呼称される独立丘陵があり、その南西麓の緩斜面に位置する。

旧石器時代の遺跡は、主に台地や丘陵の縁辺・中央部に多くみられるため、二宮町内で多く発掘されている低台地に立地する遺跡からは発見されないものと思われていたが、上記遺跡の成果によって今後町内でも当該期の遺跡が発見される可能性が出てきたと考えられよう。

縄文・弥生時代

縄文時代に入ると県内でも遺跡の数が増加するが、草創期の遺跡は概して少ない。町内でも草創期の遺跡は確認されていないが、遺物としては曲田遺跡〖97〗（大字高田字曲田地内）で黒曜石製の石槍が１点出土している。早期では、市ノ塚遺跡から遺構と遺物が発見されている。市ノ塚遺跡は本遺跡と同様、旧石器時代から近世にいたる大規模な複合遺跡で、平成15年度から16年度にかけて行われた発掘調査では、早期の竪穴住居跡８軒と陥し穴状遺構が５基発見された。石鏃・三角錐状石器・磨石などの石器も多く出土している。中期に該当する遺跡は町内では発掘されていないが、五軒家北〖115〗・五軒家南遺跡〖116〗（大字三谷字五軒谷地内）では阿玉台式土器や加曽利E式に比定される土器の破片が多数採集されている。両遺跡は、八溝山地の最南端に位置し、小貝川によって開析された谷に突き出した舌状台地の緩斜面に広がっており、採集遺物から中期前半から後期を主体とする集落遺跡であると考えられている。西物井遺跡では、後期初頭から前葉に属する土器片を主体とする、遺物集中区が発見された。

弥生時代では発掘の事例はなく、高畦１～３号遺跡〖41〗（大和田地内）、程島北遺跡〖82〗（程島地内）、本田Ⅱ遺跡〖49〗（石島地内）などから当該期の土器片が出土したと報告されているのみである。

古墳時代

古墳時代に入ると遺跡数が一気に増加し、主に宝積寺台地上から多くの古墳や遺物の散布地が確認されている。古墳については既に消滅しているものも多く、本来は現在確認されている実数を上回る古墳が存在していたものと思われる。当域の古墳の分布は主に３地域に分けられ、五行川左岸の微高地上にある鹿付近と、宝積地台地西縁の真岡市若旅付近から二宮町上大曽付近にかけての地域、台地東縁の大和田付近の３箇所に集中する。大和田付近の大和田古墳群〖40〗（大字大和田地内）はかつて台地東端に存在した多数の小円墳と古墳群の北端に位置する古墳からなっていたが、現在小円墳はほぼ消滅している。主墳の大和田冨士山古墳〖39〗は、推定長約51mの前方後円墳で、現在では前方部のみが残っている。昭和28年の五行川河川改良工事に伴う発掘調査では、滑石製模造品・人物埴輪・環鈴などが出土しており、埋葬施設や出土遺物の特徴から５世紀後半に築造された古墳と考えられ、芳賀郡最古の前方後円墳と位置付けられている。若旅付近から上大曽付近にかけての上大曽古墳群（大字上大曽地内）では、昭和47年に二宮町教育委員会が主体となり２基の古墳の発掘調査を行っている。上大曽１号墳〖67〗は墳丘長約39mの前方後円墳で、墳丘の外部施設では埴輪列が廻っていたとされる。内部主体は横穴式石室で、築造年代は６世紀後半とされる。上大曽２号墳〖68〗は１号墳の南東約20mの位置に所在する横穴式石室を主体とする墳形不明の古墳で、６世紀中葉の築造と考えられている。鹿付近は、鹿古墳群〖102〗と呼ばれ、全長51mの前方後円墳である天神山古墳〖103〗（大字鹿地内）と周囲に存在する数基の小規模な墳墓からなる。このうち、天神山４号墳が方墳とされる以外はすべて円墳である。主墳である天神山古墳は昭和44年に墳丘周囲の発掘調査が行われているが、周溝は発見されなかった。墳形から６世紀末から７世紀初めと推測されている。

次に、該期の集落跡を挙げてみるが、集落跡の発掘調査例は近年増加し、本町域の古墳時代の村の様相を明らかにしつつある。発掘調査の成果により古墳時代の住居跡等が発見された遺跡は、蟹が入遺跡〖77〗（大字久下田字蟹ヶ入地内）、西物井遺跡、峰高前遺跡、市ノ塚遺跡、曲田遺跡がある。曲田遺跡は小貝川と五行川に挟まれた低地帯に、南北に細長く延びる低台地の南端周辺に形成される遺跡である。平成13年度から16年度にかけて調査が行われ、古墳時代中期の竪穴住居跡が31軒発見されている。５世紀中頃から後半の集落である。蟹が入遺跡は鬼怒川と五行川に挟まれた宝積寺台地に立地する、古墳時代中期から平安時代に

かけての大集落で、昭和60～61年に二宮町教育委員会により発掘調査が行われた。検出した竪穴住居跡135軒のうち、23軒が古墳時代中期に、21軒が同後期にあたる。西物井遺跡については、一般県道物井寺内線建設に伴う事前調査として平成８年と10年度に調査が行われた西物井遺跡（以下、県道西物井遺跡）と本報告書の北関東自動車道建設に伴う西物井遺跡（以下、本遺跡）がある。県道西物井遺跡は小字では白金地内に近く、本遺跡の調査区域とは間に広い低地が入り、一つの遺跡の広がりとして捉えにくいので、ここでは別扱いで記述する。県道西物井遺跡では、カマド導入期の様相を示した竪穴住居跡を含む、５世紀後半～７世紀末にかけての５軒の竪穴住居跡を発見した。本遺跡では、中期の竪穴住居跡が２軒、後期の竪穴住居跡が６軒検出している。峰高前遺跡は古墳時代後期（６世紀後半）に最盛期を迎える集落が存在した複合遺跡で、平成13～15年と17年度に発掘調査が行われた。前期の竪穴住居跡が６軒、後期の竪穴住居跡が62軒発見されている。市ノ塚遺跡の中心も古墳時代で、発見した竪穴住居跡の数は実に254軒を数える大集落である。前期から後期にかけて安定した集落が営まれたことが調査の成果で明らかになっている。

奈良・平安時代

周辺域は律令制下において下野国芳賀郡に属する。郡衙は真岡市京泉字堂法田に所在する堂法田遺跡に比定され、昭和40年に行われた水田基盤整備事業に伴う緊急発掘調査では有礎建物跡38棟などが確認された。南方約600ｍの位置には、出土した瓦から７世紀末の建立とみられている大内廃寺跡が所在し、南方約３㎞の五行川右岸には延喜式内社大前神社が座している。承平年間に編まれた和妙類聚抄によれば芳賀郡には14郷みえるが、そのうちの物部郷を二宮町北東部に比定する説があり、西物井遺跡の所在する旧物部村の村名は古代物部郷に因んでつけられている。

該期の集落跡は古墳時代に続いて多くの存在が確認され、発掘調査が行われた遺跡も古墳時代と共通するものが多い。前述の蟹が入遺跡では、奈良～平安時代にかけての竪穴住居跡が合計76軒検出している。周辺の台地縁辺部には同様に古代の集落が広がっていると思われ、同じ久下田地内に位置する久下田中学校南Ⅱ遺跡では、遺跡の範囲である台地全面から土師器・須恵器が採集できる。県道西物井遺跡では、８世紀前葉から10世紀代の竪穴住居跡が26軒発見されている。また集落の中心時期を奈良～平安時代とする本遺跡からは、63軒の竪穴住居跡を発見した。市ノ塚遺跡は古墳時代後期から奈良時代にかけて遺構数が激減し、古代の竪穴住居の発見数は27軒に留まる。主に９世紀代のものである。馬場先遺跡〖126〗（大字水戸部字馬場先地内）は平成14～15年度に発掘調査された遺跡で、小貝川の左岸、八溝山から派生する鶏足山塊南端部の山裾部に立地する。竪穴住居跡が５軒発見され、小規模ではあるが古墳時代以降の山間部に位置する数少ない遺跡の一つとして特筆に値する。

中・近世

当町域は、中世には長沼氏、水谷氏の支配を受け、近世には幕府と旗本の領となった。長沼氏の居城であった長沼城〖85〗は、元暦元年（1184年）に長沼宗政によって築城された平城で、現在では僅かに濠跡を残すのみとなっている。天文13年（1544年）に水谷正村が築いた久下田城の一部は二宮町久下田にあたる。
町内の城館跡は５カ所推定されているが、現在ではすべて消滅している。

町域内で発掘された遺跡としては桜町陣屋跡〖109〗（物井字桜町）がある。平成３年から12年にかけて実施した第１期史跡整備事業と、平成15年度にから実施している第２期整備事業に伴い５回の発掘調査が行われている。二宮金次郎（尊徳）が文政５年（1822年）から31年間赴任した桜町陣屋は、元禄12（1699）

年に旗本宇津家が所領であった桜町三ケ村（現在の二宮町大字物井、大字桜町、真岡市大字東沼の地域）に設けた役所で、尊徳はここを拠点として天明期以降荒廃していた桜町三ケ村の復興を行った。本遺跡の中央を南北に流れる穴川用水の改修もこの時期に行われたものである。穴川用水は二宮町を肥沃な水田地帯として潤す役割を担う大規模な用水で、周辺の稲作を中心とする農業地帯の中心を成している。本遺跡で発見された多くの溝状遺構も、穴川用水を始めとして現在まで残る用水路と方向が一致するものが多く、近世の土地利用が現代まで共通性を持って受け継がれていたことが確認された。

他に発掘事例としては、平成４・５年度に二宮町教育委員会により発掘調査が行われた久松遺跡〖55〗（大字久下田字寺山地内）、前述の峰高前遺跡・市ノ塚遺跡があり、該期の溝を始めとして井戸や墓壙ほか多くの遺構を調査している。

参考文献

秋本陽光・斎藤弘　1984「芳賀郡二宮町大和田富士山古墳について」『栃木県考古学会誌』 第８集　栃木県考古学会

秋本陽光　2007「栃木県の前方後円墳ノート４―鬼怒川以東の前方後円墳―」『栃木県考古学会誌』 第28集　栃木県考古学会

久保哲三編・著ほか　1990 『日本の古代遺跡　44　栃木』 保育社

片根義幸・藤田直也　2007「市ノ塚遺跡」栃木県埋蔵文化財調査報告第 303 集　栃木県教育委員会・(財) とちぎ生涯学習文化財団

合田恵美子　2007「峰高前遺跡」栃木県埋蔵文化財調査報告第308集　栃木県教育委員会・(財) とちぎ生涯学習文化財団

芹沢長介　1976「磯山遺跡」『栃木県史』 資料編・考古１　栃木県史編纂委員会

谷畑　盛　1977 『栃木県二宮町物部地区郷土史』 谷畑盛

常川秀夫　1974 『上大曽古墳群』 二宮町教育委員会

常川秀夫　1976「上大曽古墳群」『栃木県史』 資料編・考古１　栃木県史編纂委員会

栃木県教育委員会事務局文化課　1975 『栃木県遺跡地図』 栃木県教育委員会

中村紀男・山越　茂　1974 『磯山遺跡発掘調査報告』 栃木県教育委員会

中村紀男　1976「磯山周辺の遺跡」『栃木県史』 資料編・考古１　栃木県史編纂委員会

中村紀男　1976「磯山遺跡 （原始部会調査分）」『栃木県史』 資料編・考古１　栃木県史編纂委員会

二宮町史編さん委員会　2006　『二宮町史』史料編Ⅰ　考古・古代中世

二宮町史編さん委員会　2008　『二宮町史』通史編Ⅰ　古代中世

水野順敏・吉岡秀範ほか　1989 『栃木県二宮町蟹が入遺跡』 二宮町教育委員会

橋本澄朗　1984「磯山遺跡」『真岡市史』 第一巻　考古資料編　真岡市史編纂委員会

塙　静夫　1984「解説」『真岡市史』 第一巻　考古資料編　真岡市史編纂委員会

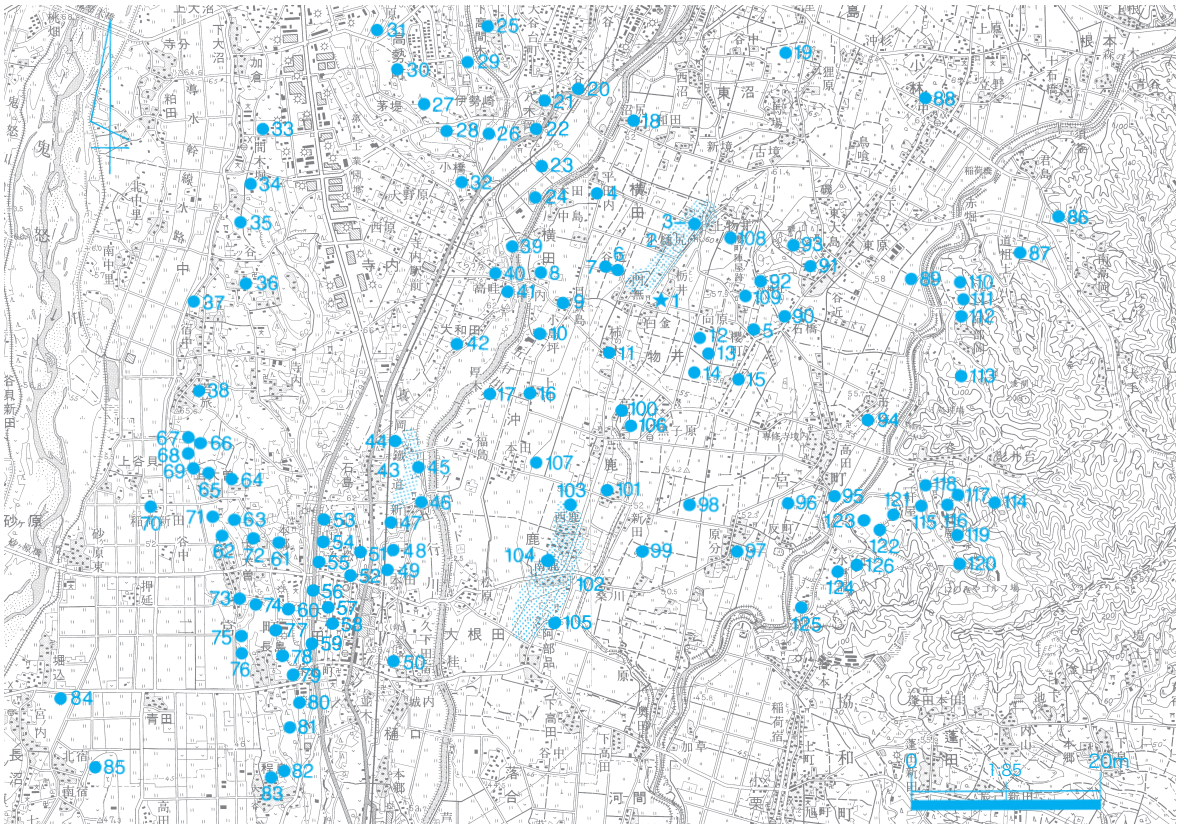
安永真一　2004「史跡桜町陣屋跡第5次発掘調査報告書」二宮町埋蔵文化財調査報告第５集　二宮町教育委員会

柳瀬安榮　1998「史跡桜町陣屋跡第１次発掘調査報告書」二宮町教育委員会

山越　茂　1976「天神山古墳」『栃木県史』 資料編・考古１　栃木県史編纂委員会

山口　孟・編　2005『芳賀の文化財』 第22集　埋蔵文化財Ⅱ　芳賀群市文化財保護審議会連絡協議会

山ノ井清人　1976「程島Ａ遺跡出土の古式土師器」『栃木県史』 資料編・考古１　栃木県史編纂委員会



第 17 図　周辺の遺跡分布図

第４表　周辺の遺跡一覧表

番号	遺　跡　名	番号	遺　跡　名	番号	遺　跡　名	番号	遺　跡　名
1	西物井遺跡	33	中村遺跡	65	上大曽北Ⅱ遺跡	97	原分遺跡
2	十三塚古墳群	34	中村小学校南遺跡	66	上大曽北Ⅰ遺跡	98	原分北遺跡
3	小樋尻東遺跡	35	中村大塚古墳	67	上大曽1号墳	99	桑ノ川遺跡
4	御本領遺跡	36	中村城跡	68	上大曽2号墳	100	北鹿・高門遺跡
5	物井山ノ崎古墳群	37	宿中天神山古墳群	69	炭焼古墳	101	東鹿遺跡
6	谷近東遺跡	38	若旅富士山古墳群	70	堀ノ内古墳	102	鹿古墳群
7	谷近西遺跡	39	大和田冨士山古墳	71	鹿島内古墳	103	天神山古墳
8	中内遺跡	40	大和田古墳群	72	靭木古墳	104	西鹿遺跡
9	小島遺跡	41	高畦1～3号遺跡	73	下大曽A・B古墳	105	南鹿遺跡
10	小島南遺跡	42	台山古墳群	74	久下田中学校南Ⅰ遺跡	106	沖ノ車塚古墳
11	柿の木遺跡	43	石島古墳群	75	久下田中学校南Ⅱ遺跡	107	因ノ塚古墳
12	峰高北遺跡	44	石島1～2遺跡	76	長島北A・B遺跡	108	上物井遺跡
13	峰高城跡	45	くるま橋西遺跡	77	蟹が入遺跡	109	桜町陣屋跡
14	峰高前遺跡	46	新田北遺跡	78	長島Ⅰ遺跡	110	阿部岡Ⅰ遺跡
15	桜町遺跡	47	新田Ⅰ遺跡	79	長島Ⅱ遺跡	111	阿部岡Ⅱ遺跡
16	上沖遺跡	48	本田Ⅰ遺跡	80	久下田小西遺跡	112	阿部岡橋東遺跡
17	厚木遺跡	49	本田Ⅱ遺跡	81	長島南遺跡	113	阿部岡清掃センター東遺跡
18	沼尻八幡山古墳	50	久下田城跡	82	程島北遺跡	114	星宮神社東遺跡
19	谷中遺跡	51	久下田北Ⅰ遺跡	83	神明神社北遺跡	115	五軒家北遺跡
20	八木岡Ⅰ遺跡	52	久下田北Ⅱ遺跡	84	長塚古墳	116	五軒家南遺跡
21	大曲北遺跡	53	寺山遺跡	85	長沼城跡	117	星宮神社北古墳
22	瓢箪塚古墳	54	久松古墳群	86	南高岡窯跡群	118	新田遺跡
23	下陰遺跡	55	久松遺跡	87	稲荷林遺跡	119	五軒家古墳群
24	八木岡城跡	56	久下田中遺跡	88	小林大塚古墳	120	谷頭遺跡
25	下高間木西遺跡	57	久下田中Ⅱ遺跡	89	東大島の箱式石棺	121	二軒家遺跡
26	伊勢崎Ⅱ遺跡	58	久下田西Ⅰ遺跡	90	石橋古墳	122	二軒家Ⅰ遺跡
27	伊勢崎Ⅲ 遺跡	59	久下田中南遺跡	91	磯山古墳群	123	水戸部北遺跡
28	伊勢崎Ⅳ遺跡	60	久下田西Ⅱ遺跡	92	磯山遺跡	124	水戸部中遺跡
29	稲荷山遺跡	61	千代が丘八幡宮遺跡	93	磯山遺跡C地点	125	水戸部南遺跡
30	茅堤北遺跡	62	星宮神社遺跡	94	市ノ塚遺跡	126	馬場先遺跡
31	原北遺跡	63	上大曽遺跡	95	市ノ塚南遺跡		
32	小橋Ⅰ遺跡	64	上大曽東遺跡	96	曲田遺跡		

第３章　検出された遺構と遺物

第１節　グリッド調査

１．縄文時代のグリッド調査

H区では現況の水田床土を除去した面で縄文土器が多量に出土した。これらが分布するモ-61～63・ヤ-61～66・62・ユ-62～67・ヨ-62・ヨ-64～67・ラ-65～67のグリッドにおいて、グリッド毎に遺構の有無を確認しながら全ての遺物の記録と取り上げを行った。遺物の出土状況は第18・19図に示したとおり、二つの集中区に分かれ確認面より深さ約10～30㎝の範囲内において出土するが、遺構の痕跡は認められなかった。

２．縄文土器集中区

本遺跡H区の埋没谷の東側にある二つの遺物集中区から、2007片、約38.5㎏の土器片が出土した。

出土土器は、中期の阿玉台式前半期の土器が４点、中期前半から中葉と思われる浅鉢形土器が28点（両者併せて全体の1.6％）で、他の型式が判別できるものはすべて後期初頭から前葉（称名寺式期から堀之内１式中頃）のものである。このように年代幅があるため、ごく短期間に製作、使用、廃棄されたものではないと思われる。口縁部破片は120点あり、このうち１点が中期の浅鉢形土器である。したがって残りの119個体が後期初頭から後期前葉に属すると思われ、この部分に、この時期の土器が最低で119個体は存在したことになる。二地点に分かれて分布するが、地点ごとに年代的にまとまっているわけではない。それぞれの遺物集中区に、称名寺式の新しい段階から堀之内１式の中頃の段階までの土器が存在する。両地点間での土器の接合はみられなかった。この二地点で、同時進行で土器の廃棄が継続された可能性は低いので、他の地点にあった年代幅のある土器片を、堀之内１式中頃以降に二次的に廃棄したと考えられる。

第１群　阿玉台式土器（遺構編第130図１～４）

出土した４点すべてを図示する。１は粘土帯をつまみ上げるようにして貼付した魚鰭状の突起がみられる。２はＬ字状の断面三角形の隆帯がみられる。１・２は、砂粒、白色粒及び雲母片を含み、１はやや含有量が多い。色調はにぶい赤褐色（5YR 5/4）を呈す。ともに阿玉台Ⅰｂ～Ⅱ式と思われる。３・４は太い竹管の外側による横位の押引文がみられる。胎土には、砂粒、白色粒、雲母片及び微量の赤色粒を含むが、３は含有量が少なく、４はやや多い。色調はにぶい黄橙色（10YR 6/4）を呈す。ともに阿玉台Ⅱ～Ⅲ式と思われる。４は、阿玉台式前半期にみられる体部のキザミ目列を、竹管による押引文に置換したものと思われる。

第２群　中期の浅鉢形土器（遺構編第130図５～12）

28点出土し、うち８点を図示する。５は、浅鉢形土器の口縁部破片で、正面に貫通孔、内面に隆帯による区画文を有する。砂粒、白色粒及び雲母の微細破片を含む。色調は褐色（7.5YR 5/4）を呈す。６～12及び不掲載の破片は同一個体の可能性が高い。いずれも無文の体部破片である。胎土には、多量の白色の小礫、砂粒及び少量の雲母片を含む。色調は、にぶい黄橙色（10YR 6/4）、にぶい黄褐色（10YR 5/3）を呈す。

第３群　称名寺式土器

１類　入り組んだ帯状区画文内部に縄文を施す土器（遺構編第130図13～17）

出土した５点すべてを図示する。13～16は同一個体と思われる。帯状区画文は、Ｊ字文や渦巻文の基調が崩れ、横方向に展開し、帯状等分割構成をとる。縄文は、２段LRの縄の横位施文による単節斜縄文である。

縄文施文後に沈線を引き、無文部を磨消している。17は、文様の特徴は他の４点と同じであり、同一個体の可能性がある。胎土には、微砂粒、白色微粒及び微量の雲母の微細破片を含んでいる。色調は、にぶい橙色（7.5YR 6/4）、にぶい黄橙色（10YR6/3）を呈す。

２類　帯状区画文内部に列点を施す土器（遺構編第130図18・19）

出土した２点を図示する。18は縦位の帯状区画内部に３列の列点を施す。列点は竹管の外側を斜め上方から刺突している。帯状区画外に微かに２段LRの縄の縦位施文による単節斜縄文がみられる。多量の白色粒、砂粒及び微量の雲母片を含む。色調はにぶい黄褐色（10YR 5/3）を呈す。19は、縦位の帯状区画内部に１列の列点を施す。列点は竹管の外側を斜め下方から刺突している。帯状区画外に２段RLの縄の縦位施文による単節斜縄文を施す。胎土には少量の微砂粒を含み、色調はにぶい黄橙色（10YR 6/4）を呈す。

３類　帯状区画文内外を無文とする土器（遺構編第130図20）

出土した１点を図示する。口縁に沿って１条の沈線を施し、帯状区画文内外を無文とする。胎土には、雲母片及び多量の砂粒、白色粒を含み、色調は暗褐色（10YR 3/3）を呈す。

第４群　東北系の後期初頭から前葉の土器

１類　口縁部無文帯下に隆帯を巡らす綱取式系土器（遺構編第130図21～第131図36）

本類は41点出土し、そのうち16点を図示する。21は口縁部無文帯下に斜位のキザミを加えた隆帯を巡らす。隆帯下には直前段反撚りRRの縄の横位施文による縄文がみられる。推定口径約25.6㎝、推定最大径約26.2㎝、残存高約12.4㎝である。22は、口縁部無文帯下に、両脇に沈線を沿わせた隆帯を巡らす。隆帯上には部分的に刺突を施す。体部は２段LRの横位施文による単節斜縄文を地文とし、磨消文を垂下させる。外面に炭化物が付着している。23は、口縁が一部で波状を呈す。全面無文で口縁部下に隆帯を巡らす。被熱のためか器面の摩耗が激しい。推定口径約17.4㎝、推定最大径約18.4㎝、残存高約7.4㎝である。24は、小波状口縁の頂部から無文帯下の隆帯に向かって、背を沈線で割った「ノ」の字状の隆帯を垂下させる。「ノ」の字状の隆帯の上下の起点には刺突を加えている。横位の隆帯の下側に沈線を沿わせ、部分的に円盤状の粘土を貼付し、その中央に刺突を加えた円環状の突起を配している。体部は、２段RLの縄の横位施文による単節斜縄文を地文とし、蛇行沈線等を垂下させている。25は、口縁部無文帯下に押捺を加えた隆帯を巡らす。26は、低い微隆起状の隆帯に、円環状の突起を貼付している。27は、口縁部無文帯下に、下側に沈線を沿わせた低い微隆起状の隆帯を巡らす。小波状口縁の波頂部直下に、円環状の突起を貼付し、そこから沈線によるモチーフを垂下させたと思われる。波頂部裏側上面に盲孔を配す。28は口縁部に弧状（上弦）に隆帯を配す全面無文の土器である。被熱のためか器面がかなり荒れている。29・30は同一個体と思われる。口縁部無文帯下の隆帯に向かって、小波状口縁の頂部から縦位の隆帯を垂下させる。体部は無文である。31・32は、口縁部無文帯下に両脇に沈線を沿わせた隆帯を巡らす。32は、円環状の突起を２個並べて貼付し、それぞれの中央を刺突した「８」の字状の突起を配している。この突起の刺突は円形竹管を用いている。33は口縁部無文帯下に斜位のキザミを加えた隆帯を巡らす。34は、口縁部無文帯下に、下側に沈線を沿わせた低い隆帯を巡らし、円環状の突起を貼付する。突起の刺突は円形竹管を用いている。体部には沈線によるモチーフが比較的密に施されたと思われる。35は、口縁部無文帯下に、両脇に沈線を沿わせた、細く低い隆帯を巡らし、円環状の突起を配す。体部は、２段LRの縄の横位施文による単節斜縄文を地文とし、突起を起点として沈線を垂下させている。36は、刺突を加えた横位の隆帯がみられる。

21、31～33、35、36は、胎土に砂粒、白色粒及び少量の雲母片を含む。他の土器の胎土は、雲母片及び多量の砂粒、白色粒を含んでいる。色調は、22・33が暗褐色（10YR 3/3）、21・23・28が褐色（7.5YR

4/3）、その他がにぶい黄橙色（10YR 6/3）や灰黄褐色（10YR 6/2）を呈している。

２類　横位、斜位の沈線を配す土器（遺構編第131図37～43）

出土した７点を図示する。37は、口縁に２条の沈線を巡らし、以下２条の斜位の沈線がみられる。38・39は、「く」の字状に屈折する体部の上側に文様を配し、下側を無文とする。38は、体部上側に横位の沈線２条を巡らし、以下斜位の沈線２条を配している。39は、体部上側に刺突と横位の沈線がみられる。40～43は、緩やかに屈曲する体部上側に沈線でモチーフを描き、体部下側は無文としている。40は円環状の突起と横位の沈線、41・43は横位と斜位の沈線、42は横位の沈線がみられる。いずれも地文は２段LRの縄の横位施文による単節斜縄文である。

これらは、胎土に砂粒、白色粒および微量のガラス質粒子を含む。色調は、39が明赤褐色（10YR 5/6）、41～43はにぶい黄褐色（10YR 4/3）、他はにぶい黄橙色（10YR 6/3）を呈す。

３類　屈折した内傾部に、刺突を起点とした斜位の沈線を施す土器（遺構編第131図44）

出土した１点を図示する。短く外反する口縁部下に１条の沈線を巡らし、低い円環状の突起を起点に「ノ」の字状の沈線を配したと思われる。やや多量の微砂粒を含み、色調は浅黄橙色（10YR 8/3）を呈す。

第５群　堀之内１式土器

本群土器は67点が出土し、そのうちの48点を図示する。

（１）１条の沈線を巡らす口縁部破片（遺構編第131図45～50）

沈線が巡る堀之内１式の口縁部破片を一括する。この沈線は、「Ｉ文様帯」として文様帯系統論の俎上に上げられたものである。48・50は地文の縄文を施すが、他は口縁部下を無文としている。45は、小波状口縁の頂部に刺突を加え、これを連繋するように沈線を巡らす。沈線の下側には刺突列を沿わせている。無文部下端に沈線が巡り、以下文様が配されていたと思われる。46は、沈線を巡らすのに先立って、その下側に隆帯を貼付している。48の縄文は、２段RLの縄の横位施文による単節斜縄文である。49は、波状口縁の頂部に、円形竹管による刺突を加え、これを起点に沈線を巡らす。沈線に先立って隆帯を貼付しているが、この隆帯の下側にも沈線を沿わせている。縄文は２段LRの縄の横位施文による単節斜縄文である。

いずれも胎土に、砂粒、白色粒及びガラス質粒子を比較的多く含む。色調は、47が褐灰色（10YR 4/1）、48がにぶい赤褐色（5YR 4/4）、49がにぶい黄橙色（10YR 7/2）、他はにぶい黄褐色（10YR 4/3）である。

（２）蕨手状文もしくは類似する文様がみられる破片（遺構編第131図51～第132図62）

51は、口縁に沈線を巡らし、以下蕨手状文を垂下させる。52は、口縁の狭い無文帯下に２条の沈線を巡らし、ここに円環状の突起を貼付する。この突起から蕨手状文を垂下させる。蕨手状文の隣には、3本１組の沈線を垂下させ、その下側を弧線で閉じている。体部下位は縄文を施さず、無文としている。この土器の口縁部は、無文帯下に両脇に沈線を沿わせた隆帯を巡らす綱取式系土器の系譜を引くと思われる。すなわち、無文帯幅が狭くなり、隆帯が消失して２条の沈線が残ったのであろう。推定口径約24.0㎝、推定最大径約27.6㎝、残存高約22.0㎝である。53は、口縁の横位の「８」の字状突起直下から、蕨手状文を垂下させる。54は渦巻状の沈線がみられる。55・56・60は縄文地に蕨手状文がみられる体部破片である。57は、縄文地に上下相対する蕨手状文を配す体部破片である。58は、括れ部に「８」の字状の突起を起点として横位に沈線を巡らす。体部は、縄文を地文として、突起直下から蕨手状文を垂下させる。59は、縄文地に縦位の沈線と蛇行沈線を交互に配している。61・62は同一個体と思われる。縄文地に、蕨手状文の一部と思われる蛇行沈線と渦巻状文の一部と思われる弧線がみられる。54以外は、すべて地文の縄文が確認できる。51が２段RLの縄の横位施文による単節斜縄文で、他はすべて２段LRの縄の横位施文による単節斜縄文である。

56は、微砂粒、白色微粒を微量含み、57は砂粒、白色粒、小礫及び雲母の微細破片を多量に含む。他の土器は、砂粒、白色粒及び雲母の微細破片を含んでいる。色調は、51・58が橙色（5YR 6/6）、52・57が褐色（7.5YR 4/3）、他は灰黄褐色（10YR 6/2）である。

（３）Ｕ字・逆Ｕ字状の沈線がみられる破片（遺構編第132図63・64）

63は、短く外反する口縁部下を巡る２条の沈線下に、逆「Ｕ」字状の沈線がみられる。地文は２段LRの縄の横位施文による単節斜縄文である。胎土には微砂粒と雲母の微細破片を微量含む。64は、２段RLの縄の横位施文による単節斜縄文を地文とし、相対するように「Ｕ」字状と逆「Ｕ」字状の沈線を配している。胎土には砂粒、白色粒及び雲母の微細破片を多量に含む。色調はともににぶい黄褐色（10YR 5/3）である。

（４）縦方向の疎らな沈線がみられる破片（遺構編第132図65～80）

65・68は同一個体である。小波状口縁の波頂部に、貫通孔や盲孔を配し、これを起点として口縁に沈線を巡らす。以下縄文地に２条１組の沈線を垂下させる。66は、隆帯を貼付して口縁を分厚くし、この部分に沈線を巡らす。分厚い口縁部下にも浅い沈線が沿い、以下縄文地に縦方向の沈線がみられる。67は、口縁に沈線を巡らし、以下縄文地に逆「Ｕ」字状の沈線を配している。69は、口縁に沈線を巡らさない。縄文地に３本１組の縦位の沈線がみられる。70～80は縄文地に縦位の沈線がみられる体部破片である。74・75は同一個体である。このうち、79は２条の沈線の下端部分が閉じている。72は、破片上端が粘土帯の接合部で割れているが、接合の強度を高めるためか、接合部の上側部分にキザミを加えている。75も僅かに見える接合部の上側と下側にキザミがみられる。縄文は、73が２段RLの縄を縦位、横位に施文した単節縄文で、76・77が２段LRとRLの縄を、部位を変えて横位に施文した単節縄文、80が１段Ｌの縄を縦位、横位に施文した無節縄文である。65・68が２段RLの縄の横位施文による単節斜縄文で、他はすべて２段LRの縄の横位施文による単節斜縄文である。

67・71・72・74・75・78は、胎土に少量の雲母の微細破片とやや多量の微砂粒、白色微粒を含む。他は多量の白色粒、小礫、砂粒及び微量の雲母片を含む。色調は、65・66・68～70・73・80がにぶい赤褐色（5YR 4/ 6）他はにぶい褐色（7.5YR 5/4）を呈す。

（５）縦位の沈線間に斜位の沈線を充填する土器（遺構編第133図81～88）

81・82・85は同一個体である。部分的に小さく突出した口縁に刺突を加える。隆帯を貼付して作出した分厚い口縁に、刺突を連繋するように沈線を巡らす。以下体部には、列点を充填した「Ｕ」字状文を中心として縦方向の沈線を配している。これによって区切られた空間に、斜位の沈線３条を互い違いに配している。地文の縄文は１段Ｌの縄を斜位に施文した条の横走する縄文である。推定口径約37.2㎝、残存高約21.1㎝である。83は無文地に横位と斜位の沈線がみられる体部破片である。84は、２段LRの縄の横位施文による単節斜縄文を地文とし、縦位、横位の沈線がみられる。86は、縦位と斜位の沈線がみられるが、一部斜位の沈線が屈曲して逆行する。地文は、２段LRの縄を斜位に施文した条の縦走する単節縄文である。87は、１段Ｌの縄を斜位に施文した条の横走する縄文を地文とし、縦位と斜位の沈線がみられる。88は、２条に沈線間を弧線で区切った逆「Ｕ」字状の区画に、１段Ｌの縄を斜位に施文した条の横走する縄文を施す。縄文は沈線に先立って施文している。これによって分割された器面に、斜位の沈線を配したものと思われる。

84は、胎土に少量の白色粒、砂粒、雲母片を含み、他の土器は多量の白色粒、小礫、砂粒及び雲母片を含んでいる。色調は、81・85・88がにぶい赤褐色（5YR 5/4）、他がにぶい黄褐色（10YR 5/3）を呈す。

（６）斜位の沈線がみられる破片（遺構編第133図89～91）

斜位の沈線とその他の沈線文がみられる破片を一括する。89は斜位の沈線の途中から蛇行沈線を垂下させ

る。地文は２段RLの縄の横位施文による単節斜縄文である。90は、斜位の沈線が一部で屈曲して逆行する。地文は２段LRの縄を縦位、横位に施文した異方向縄文である。破片上端が粘土帯の接合部で割れているが、この部分にキザミがみられる。91は括れ部に２条の沈線を巡らし、以下斜位の沈線と渦巻状文を配している。括れ部以下には地文の２段LRの縄の横位施文による単節斜縄文がみられる。

胎土は、89が雲母片及び多量の砂粒、白色粒、小礫を含み、90・91がやや多量の微砂粒、白色微粒及び少量の雲母の微細破片を含む。いずれも色調はにぶい黄褐色（10YR 5/3）を呈す。

（７）列点を巡らす口縁部破片（遺構編第133図92～95）

92は、口縁に列点と沈線を巡らし、以下曲線を垂下させる。93は肥厚した口縁に竹管状工具で列点を巡らす。以下は摩耗が激しく文様の詳細は不明である。94は、列点と言うよりも、口縁を連続押捺している。以下２段LRの縄の横位施文による単節斜縄文がみられる。95は口縁が双頭の小波状を呈す。この頂部間に、刺突を起点とした２条の沈線を配し、更にその間を、竹管状工具で斜め方向から刺突している。この頂部間以外の口縁には、浅い沈線を巡らせていたようである。口縁部下は無文となっている。

93・94は、胎土に小礫、少量の雲母片及び多量の砂粒、白色粒を含んでいる。92・95はやや多量の白色微粒、微砂粒及び微量の雲母片を含んでいる。色調は、92・94が暗褐色（10YR 3/3）、93が明褐色（10YR 5/6）、95がにぶい黄橙色（10YR 7/3）を呈す。

第６群　その他の後期初頭から前葉の土器

３～５群に比定できないが、ほぼ同時期と思われる土器片を一括する。400片中16片を図示する。

1類　各種のモチーフがみられる土器（遺構編第133図96～99）

以下の２～４類に該当しない土器を一括する。96は、無文地に「U」字状の沈線と斜位の沈線がみられる。97は、外反する無文の口縁部下に、半截竹管の内側で平行沈線を巡らし、更に同一工具で縦位の平行沈線を垂下させている。施文順序は縦位の平行沈線が先である。98は無文の口縁部破片で、富士山形の波頂部の、表裏に盲孔を配し、頂部を僅かに窪ませている。99は縄文部に狭い無文帯を貫入させている。縄文は、２段LRの縄の横位施文による単節斜縄文である。

96 は、小礫、少量の雲母片及び多量の砂粒、白色粒を含み、97 は、砂粒、白色粒、赤色粒及び少量の雲母片を含む。98・99 は、少量の雲母片及びやや多量の砂粒、白色粒を含む。色調は、96 が褐色（7.5YR 4 /3)、97・99 がにぶい黄橙色（10YR 6/4)、98 が褐灰色（10YR 4/1）を呈している。

２類　横方向の沈線がみられる土器（遺構編第133図100～103）

100は、屈曲部下半に、２段LRの縄の横位施文による単節斜縄文を地文とし、横位の沈線を施す。101～103は縄文地に横位の沈線２～３条を施す。縄文は、101が２段LRの縄を斜位に施文した条の縦走する縄文、103が１段Ｌの縄を斜位に施文した条の横走する縄文で、102は摩耗のため原体の種類が不明である。

100は、胎土に微砂粒、白色微粒及び微量の雲母片を含み、101～103は小礫、雲母片及び多量の砂粒、白色粒を含んでいる。色調は、100・102がにぶい黄橙色（10YR 6/4）、101が黒褐色（10YR 3/1）、103が褐色（7.5YR 4/3）を呈している。

３類　口縁部下に１条の沈線のみを巡らす非装飾的な土器（遺構編第133図104～106）

これらは口縁部下約２㎝のところに沈線を巡らし、他は縄文のみがみられる土器である。縄文はいずれも２段RLの縄の横位施文による単節斜縄文である。104のみ沈線より上をすべて無文としている。

いずれも胎土に小礫、少量の雲母片及び多量の砂粒、白色粒を含む。色調は、104が暗褐色（10YR 3/3）、105・106がにぶい褐色（7.5YR 5 /3）を呈している。

４類　半截竹管で粗雑な平行沈線を施す土器（遺構編第133図107～第134図110）

107は、無文地に、細い半截竹管で屈曲させながら平行沈線を垂下させる。108～110は同一個体である。無文地に、割れ口がささくれ立った半截竹管で、粗雑に縦方向の平行沈線を垂下させている。

いずれも胎土に、砂粒、白色粒、小礫及び少量の雲母片を含んでいる。色調は、107がにぶい赤褐色（5YR 4/4）、108～110が褐灰色（10YR 4/2）を呈している。

５類　櫛歯状工具による条線を施す土器（遺構編第134図111～116）

111～115は同一個体である。口縁部から櫛歯状工具による条線文を縦位に施している。116は、方向を変えながら櫛歯状工具による条線文を縦方向に施している。

いずれも胎土に、砂粒、白色粒、小礫及び少量の雲母片を含んでいる。色調は、111～115がにぶい黄橙色（10YR 6/3）、116がにぶい赤褐色（5YR 5/4）である。

６類　注口土器（遺構編第134図117）

注口土器の注口部分の破片である。胎土には砂粒、やや多量の白色粒、少量の雲母片、微量の赤色粒子を含む。色調はにぶい黄橙色（10YR 7/3）を呈す。

第７群　縄文のみがみられる破片

本群は全部で323片が出土し、そのうち22片を図示する。出土総重量は、6201.3gである。口縁部破片が存在せず、口縁から縄文のみを施文した土器はほとんど無かったと思われる。したがって、本群は第４～６群までの体部破片と思われる。

（１）２段LRの横位施文による単節斜縄文がみられる破片（遺構編第134図118～123）

本種は105片出土し、うち６片を図示する。本群のうち、個数で約32.5％、重量で約40.5％を占める。

121は、砂粒、少量の赤色粒子および微量の雲母片を含み、他の土器は小礫、少量の雲母片及び多量の砂粒、白色粒を含む。色調は、118・119が褐灰色（10YR 4/1）、121がにぶい黄橙色（10YR 7/4）、他がにぶい黄褐色（10YR 4/3）を呈している。

（２）２段LRの縦位施文による単節斜縄文がみられる破片（遺構編第134図124・125）

本種は10片出土し、うち２片を図示する。本群のうち、個数で約3.1％、重量で約3.0％を占める。

ともに胎土には、微砂粒、やや多量の白色微粒及び少量の雲母の微細破片を含む。色調は、124がにぶい褐色（7.5YR 5/4）、125がにぶい黄褐色（10YR 4/3）を呈している。

（３）２段LRの斜め施文による条の横走する縄文がみられる破片（遺構編第134図126）

出土した１片を図示する。胎土には、砂粒、白色粒及び少量のガラス質粒子を含み、色調は灰黄褐色（10YR 4/2）を呈す。

（４）２段RLの横位施文による単節斜縄文がみられる破片（遺構編第134図127～131）

本種は37片出土し、そのうち5片を図示する。本群のうち、個数で約11.5％、重量で約19.4％を占める。

127～130は、小礫、ガラス質粒子及び多量の白色粒、砂粒を含み、131は少量の微砂粒及び微量の白色粒、ガラス質粒子を含んでいる。色調は、127・128・130が褐色（7.5YR 4/3）、129・131がにぶい黄橙色（10YR 6/3）を呈している。

（５）２段RLの斜め施文による条の縦走する縄文がみられる破片（遺構編第134図132）

出土した１片を図示する。縄文の条が１条おきに深くなっており、太い条と細い条を撚り合わせた原体を用いたと思われる。胎土には、砂粒及びガラス質粒子を含み、色調はにぶい黄橙色（10YR 7/3）を呈す。

（６）１段Rの横位施文による無節斜縄文がみられる破片（遺構編第134図133～135）

本種は6片出土し、そのうち３片を図示する。本群のうち、個数で約1.9％、重量で約5.7％を占める。

いずれも、小礫、ガラス質粒子及び多量の白色粒、砂粒を含み、色調は灰褐色（7.5YR 4/2）を呈す。

（７）３段RLRの横位施文による複節斜縄文がみられる破片（遺構編第134図136～138）

本種は６片出土し、そのうち３片を図示する。本群のうち、個数で約1.9％、重量で約1.8％を占める。

137は裏面が剥落している。いずれも胎土に、小礫、ガラス質粒子及び多量の白色粒、砂粒を含む。色調は、136がにぶい黄褐色（10YR 4/3）、137がにぶい黄橙色（10YR 7/3）、138が褐色（7.5YR 4/4）を呈す。

（８）前々段反撚りLRRの横位施文による縄文がみられる破片（遺構編第134図139）

出土した１片を図示する。胎土には、やや多量の砂粒、白色粒及び少量のガラス質粒子を含み、色調は褐色（7.5YR 4/4）を呈している。

（９）原体の種別が不明な破片

本種は156片出土した。特に図示しない。本群のうち、個数で48.3％、重量で28.5％を占める。

第８群　無文の土器

（１）口縁部破片（遺構編第135図140・141）

本種は29片出土し、うち２片を図示する。総重量は459.3gである。後期の口縁部破片119点のうち29片が無文であり、全面無文の土器の比率は24.3％程度であったと思われる。ともに内外面とも横方向に入念に磨いている。

胎土には砂粒、白色粒及び少量のガラス質粒子を含み、色調はにぶい黄橙色（10YR 7/3）を呈している。

（２）体部破片（遺構編第135図142～147）

本種は1,018片出土し、そのうち６片を図示する。総重量は12440.13gである。全面無文の土器の体部破片と第３～６群土器の体部下半の破片があると思われる。

143・145は同一個体である。142は、破片上端が粘土帯の接合部で割れており、割れ口部分にキザミがみられる。キザミは密に加えてはいない。142～146は、器面が縦方向に入念に磨かれ、平滑に仕上げられている。147は、被熱のため器面が摩耗している。

胎土には、142・144が雲母片及び多量の白色粒、砂粒、143・145・146が少量の微砂粒、ガラス質粒子、147が微粒のガラス質微粒子と多量の微砂粒を含んでいる。色調は、142がにぶい橙色（7.5YR 6/4）、144がにぶい褐色（7.5YR5/3）、他がにぶい黄橙色（10YR 6/3）を呈している。

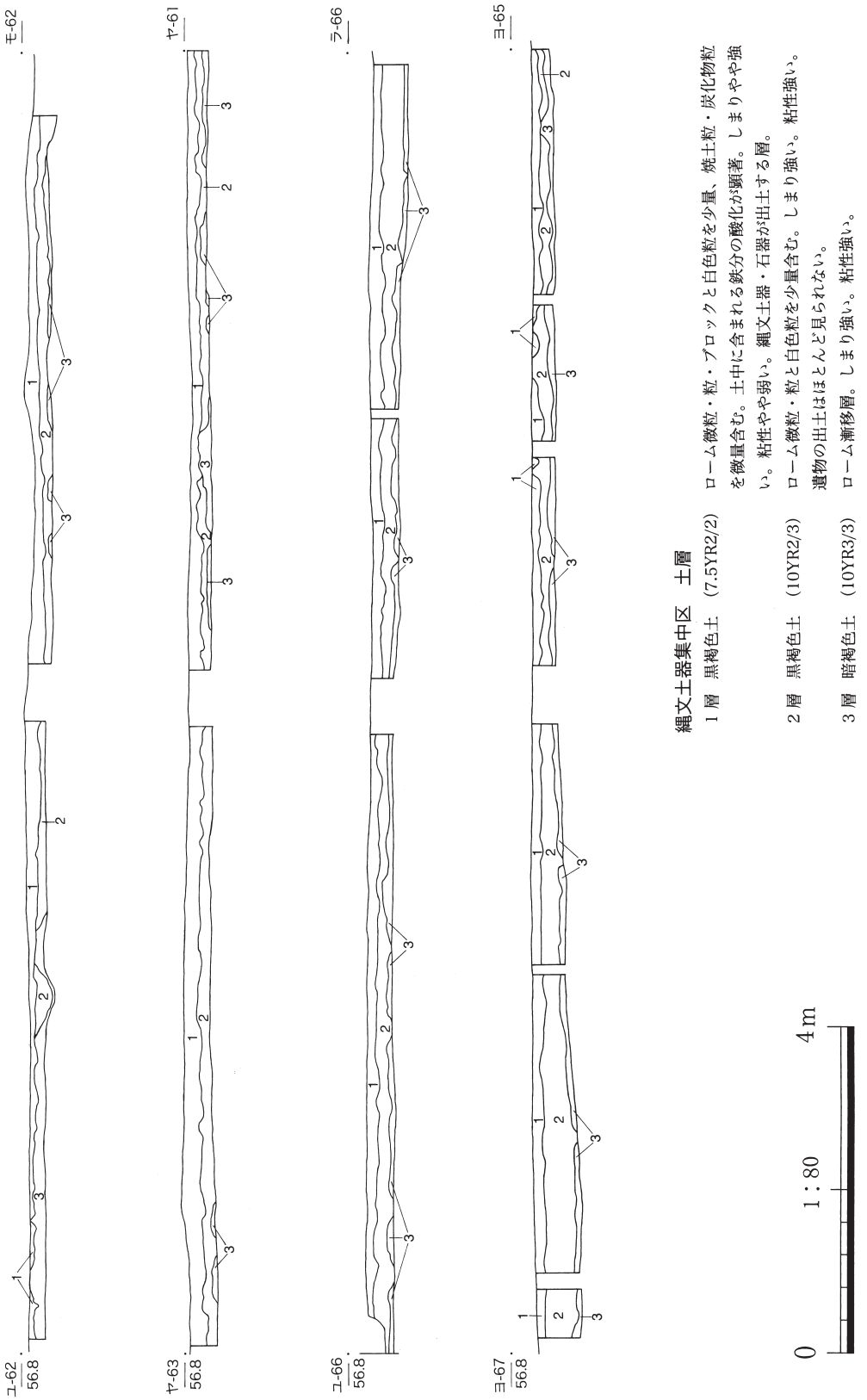
（３）底部破片（遺構編第135図148～154）

本種は、81片出土し、うち７片を図示した。総重量は2642.02gである。

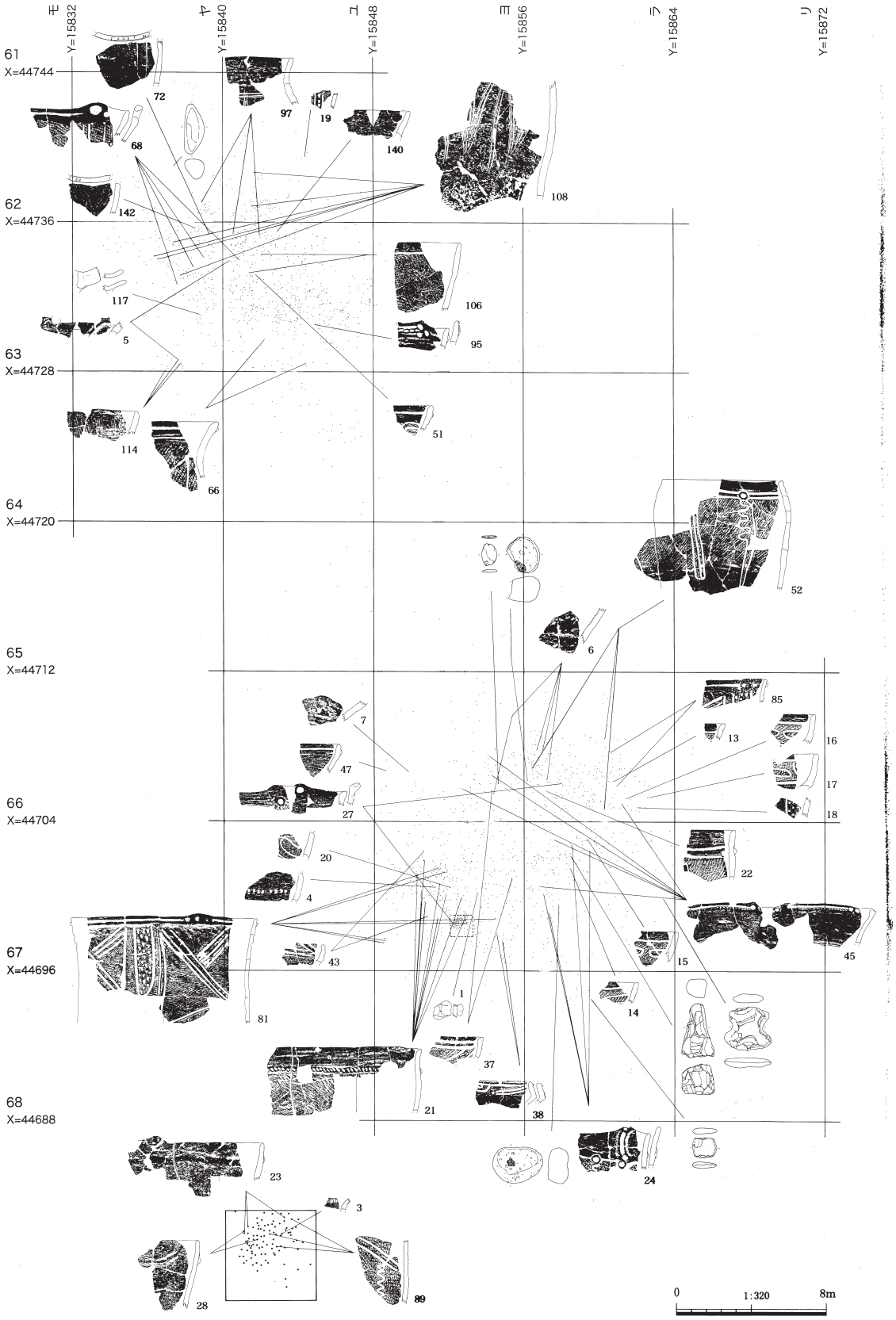
底面に圧痕があるものは存在しない。148は体部が開き気味に立ち上がる。底径約10.0㎝、残存高約3.2㎝である。149は体部が丸味を持って直立気味に立ち上がる。推定底径約8.8㎝、残存高約3.0㎝である。150は、底部直上で僅かに直立し、そこから体部がやや開き気味に立ち上がる。推定底径約10.2㎝、残存高約5.0㎝である。151は底部がやや開き気味に立ち上がる。推定底径約8.6㎝、残存高約2.0㎝である。152は体部が大きく開いて立ち上がる。鉢形土器の可能性がある。底部直上より10㎝以上が無文である。底径約10.0㎝、残存高約8.4㎝である。153は小形の底部で、底部直上が外側に突出し、底面は上げ底となる。底径約5.2㎝、残存高約1.6㎝である。154は体部が外反気味に立ち上がる。被熱のためか器面が荒れている。推定底径約8.6㎝、残存高約3.2㎝である。

胎土は、149・150がやや多量の白色微粒、多量の微砂粒及び少量のガラス質粒子を含み、他は多量の砂

粒、白色粒及び少量のガラス質粒子を含んでいる。色調は、151が褐灰色（10YR 4/1）、152・153がにぶい赤褐色（5YR 4/4）、他は褐色（10YR 5/4）を呈している。



第18図　縄文土器集中区 土層断面図



第 19 図　縄文土器集中区 遺物出土状況図

第２節　竪穴住居跡

西物井遺跡では竪穴住居跡が合計68軒検出している。低地面との比高差のほとんどない微高地上で営まれた古代の集落は、僅かな地面の高まりを利用して住居域を形成しており、古墳時代中期から平安時代にかけて竪穴住居跡の検出数が集中する。Ｆ-２区と特にＣ区中央の黒色土中に重複して集中分布しており、一地点で５～６軒の住居の覆土が観察されるのが通常である。このため、幾重にも重複する床面の確認は薄皮を剥いでいくような非常に繊細な作業を要し、カマドとの関係性、生活床面の硬化の特徴の微妙な違いと変化、貼床に用いられる土の差異などで判別し、検出した段階でそれぞれ単独の遺構名を発番し調査した。硬化面や周溝のみ確認の住居発番遺構と、カマドのみ確認した住居発番遺構とのセット関係は可能性のみ指摘し、同住居扱いでは掲載していない。カマドの重複については、同住居の拡張等の立て替えに伴う作り直しやカマドのみの位置替え再構築の可能性ももちろんあるが、位置の近しさだけで、床面や掘方・構築土の共通性があまり認められず同住居の作り替えカマドと決定づけられないものに関しては混乱をさけるため、前述のようにそれぞれ単独の遺構名を発番し調査した。出土遺物の所属・くくりについても、現地では困難を極めたが可能な限り遺物を包含する土層の特徴と出土の特徴を細かく鑑み、出来る限り現地の遺構の切り合い状態の中で、区分けし取り上げた。のち、整理作業の段階で平面的な要素と出土高の混乱を伴っていないか確認し、再分別して掲載したが、調査時に追えなかった既確認遺構以外の遺構の存在や攪乱などによる土の動きなどによって、遺物の属する遺構に取り違えがある可能性も残している。

なお、覆土・遺物の項目についてはそれぞれ別表で扱い、記述した。

１.古墳時代

古墳時代にあたる竪穴住居跡は、平成13・14年度に調査を行ったＣ区中央と平成15年度に調査を行ったＥ区南部から合計８軒認められた。

ＳＩ-２０

位置　C-２区の中央部東寄り、ソ-20グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-18・19・210・211・220、S-65・215と重複する。これらすべてより古い。

規模・形状　西側をSI-18・19・210・211に、北側をSI-30ほか攪乱溝に壊されているため、竪穴住居跡の南東部分にあたる東壁と南壁の一部を調査した。調査範囲は東西2.5m、南北4.2m。竪穴住居跡の南北方向の規模は、東側から確認された主柱穴と溝から推測し少なくとも5.4mはあったと思われる。

主軸方向　南壁に直交する方向で、N−11°−Wの向きをとる。

壁　確認面から床面までの深さは平均約17㎝。概ね垂直に立ち上がる。

柱穴　東側の主柱穴２本を確認した。Ｐ1は平面形が長軸約73㎝×短軸約40㎝の不整楕円形で、深さが床面から30㎝。Ｐ2は平面形が長軸約38㎝×短軸約30㎝の不整楕円形で、深さが確認面から75㎝。Ｐ3とした南壁際のピット状の掘り込みは浅く、柱穴ではないかもしれない。平面形が長軸約40㎝×短軸約25㎝の楕円形で、深さが床面から19㎝。Ｓ-215は、SI-20と覆土が類似するため、SI-20に伴う壁柱穴の可能性もある。

周溝と間仕切り溝　確認できた壁にはすべて内側に沿って周溝が認められた。周溝の幅は細身で約７～８㎝、掘り足しや掘り直しが見られる。主柱穴から壁側に向かって間仕切り溝が掘られ、周溝とぶつかっている。間仕切り溝は貼床を除去した後に見つかった。幅は南側が約20㎝で深さは確認面から約８㎝、北側は幅

24㎝で深さは確認面から約10㎝である。両方とも断面は逆台形をしている。

施設　貯蔵穴は確認できなかったが、Ｐ3の北東隣に円形に床面より僅かに低く窪む部分があり、その直上から土器片がややまとまって出土した。土師器甕の破片である。窪みの範囲は長軸39㎝×短軸35㎝程度で、黄褐色土に焼土・黒色粒が混じる土が入っていた。

掘方　全体が３～15㎝程度掘り下げられ、ロームと黒色土の混合土で貼床されている。南東部は地山ロームがやや高く掘り残され、この範囲にあるＰ2の南側が円形に一段低く掘られる。この部分は床面状で明瞭に確認でき、上部に貼床の土が貼られていなかったことから、開口する床下土坑を疑ったが、柱穴と繋がるため掘方とした。

火処　確認範囲からは検出していない。

ＳＩ-８２

位置　Ｃ-２区の中央部東寄り、ソ-21グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　遺構確認時の所見、セクションから。SI-30・31と重複する。これらより古い。

規模・形状　北東部をSI-30に、北西部を攪乱溝に壊され、北壁は遺存していない。SI-30の下面から極僅かなSI-82の北東部掘方の痕跡が観察できたが不明瞭である。規模は、東西約4.0m、南北は推定でおよそ3.9m程度の隅丸方形となるか。

主軸方向　南壁に直交する方向で、N−20°−Wの向きをとる。

壁　確認面から床面までの深さは約30㎝を平均とする。壁はやや外側に開いて立ち上がる。

柱穴　２本を検出した。Ｐ1は貼床除去後確認された古い柱穴である。ロームを多く混ぜた土で埋め戻し、上部を貼り床と同様の土で固めている。さらにその上に貼床が施されているため、この住居には伴わない可能性もある。平面形が長軸約30㎝×短軸約28㎝の楕円形で、深さが確認面から35㎝。Ｐ2は平面形が長軸約29㎝×短軸約28㎝の楕円形で、深さが確認面から15㎝。Ｐ2も埋土の上に貼床が施されており、古い段階のものか、この住居には伴わない可能性もある。

周溝と間仕切り溝　東壁と南壁に廻る。南東コーナーと西壁には認められなかった。埋土の違いで周溝と認定して掘ったが、掘方の掘り込みは浅く、はっきりしない。周溝の幅は12～23㎝を測る。

施設　貯蔵穴など

掘方　あまり凹凸なく全体を４～８㎝程平坦に掘り下げている。貼床土の観察記録がないが、Ｐ1の最上層と似ている。ロームと黒色土の混合した土で、埋め戻された模様。大きなロームブロックが多く含まれるが、それほど硬くはない。

カマド　SI-30の下面に残る掘方の痕跡では、カマドの存在が想像できるが、観察記録がない。埋土は焼土ブロックの多いガリガリとした層で、その上にSI-30の貼床がある。

ＳＩ-２１３

位置　Ｃ-２区の中央部東寄り。ソ-20グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-14・272と重複する。SI-272より新しく、SI-14より古い。竪穴住居跡集中重複区からの検出となり、カマドのみの確認である。カマド西側にSI-14のカマドが重なり、カマドソデの端部を切る。SI-14によって竪穴住居本体部分は消滅している。SI-14・221・272の重複関係は切り合う床面の高さが近く、判別しづらかったが、それぞれの床面直上からの遺物出土レベルはSI-14が57.85m、SI-221が57.80m、SI-272が57.77mと３～５㎝ずつ高くなっていくのを基準に床面の硬化面と合わせて判断した。SI-213とSI-272に関しては、SI-272の床面硬化範囲のレベルとSI-213カマドの使用面レベルが近く、平面プランだけ

を見ると、SI-213のカマドの検出位置に対してSI-272の床面硬化範囲が対応しているようであり、同一住居の可能性もある。

規模・形状　カマドのみの確認で、規模は不明である。

主軸方向　カマドの方向はN−21°−Eの向きをとる。

カマド　天井部は崩落するが両袖が残り、焼土と炭化物が多く混ざったロームを用いた構築の様子がよく観察できる。カマドが壊れた後上部に堆積した覆土には、カマド関連土が多く混じる。掘方を15・16層で埋め戻し、カマドを構築する土台の基礎固めとしてその上に11〜14層を配す。12層は被熱したローム粘土で、この上面が火床面となる。火床面には焼土が多く残り、土器片もまとまって検出した。

ＳＩ-２２１

位置　C-２区の中央部東寄り、ソ-19グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-14・277、SK-67と重複する。SI-277より新しく、SI-14、SK-67より古い。

SI-221はSI-14のカマド調査後、その下の面から検出した掘方から確認したカマド跡。古墳時代の遺物が固まって出土することから、SI-14に先行する住居のカマドと判断し、調査した。

主軸方向　カマド掘方の中心を主体とすると、N−11°−Eの向きをとる。

カマド　天井の崩落部分と思われるカマド構築土の一部とわずかな火床面が遺存する。左ソデについては失われているが、右ソデは構築土と掘方が残る。円形の窪みを重ねたような浅い掘方を灰黄褐色土で埋め、その上に基部にしたのであろうロームの塊が据えられていた。ローム塊の上部は被熱のため橙色に変化している。西側の、つぶれたカマド覆土直上から遺物が集中して検出した。

ＳＩ-２７２

位置　C-２区の中央部東寄りのセ-20グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-14・211・213と重複し、本住居跡が最も古い。

規模・形状　床面の硬化範囲のみ確認した。壁・覆土は上部に新しく作られた後世の竪穴住居によって失われている。検出した床面直上において、古墳時代の土器破片がまとまって出土した。竪穴住居跡集中重複地帯では、最も古い時期の住居である。硬化した床面の範囲は、東西で約3.9m、南北約3.1m。

掘方　浅く２〜５㎝程全体を平坦に掘り下げ、ロームを混入した褐色土を用いて硬く貼床を施す。

ＳＩ-２７７

位置　C-２区の中央部東寄り、ソ-19グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-14・221と重複する。両者より古い。SI-277は、SI-221のカマド掘方より更に先行する遺構である。掘方のみしか確認できず、カマドである確証はないが、周辺の遺構の検出の状況や固く被熱した面の特徴からカマドの可能性が高いと判断し、SI発番とした。

主軸方向　カマド掘方を主体とする方向で、N−30°−Eの向きをとる。

カマド　掘方の特徴は、上に新しく重なるSI-221のカマド掘方の特徴と類似する。火床面下を埦状に一段低く掘り下げ、そこから奥壁に向かって一旦立ち上がり、また小さく窪む。

ＳＩ-１００５

位置　E区の南東部、ヌ-33グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　遺構としての重複はないが、南東部の覆土最上部に緻密な粒子で非常に硬くしまった鈍い褐色土の層があり、この層の広がる範囲から時期の異なる遺物が多く検出されるので別遺構の覆土の可能性がある。

規模・形状　東西5.43m、南北5．45mの隅丸正方形を呈す。主軸方向は炉を中心としてN−02°−Eの向きをとる。

壁　確認面から床面までの深さは約25〜30㎝。壁の立ち上がりの角度は緩やか。

床　ロームと黒褐色土の混合からなる土で床全面に貼床を施している。やや凹凸はあるが、概ね平坦に整えられている。

周溝と間仕切り溝　確認されない。

柱穴　主柱穴４本（Ｐ1〜Ｐ4）を確認。柱は住居廃棄後すぐに抜き取られたと思われ、柱穴上位に覆土の初期流入土が見られる。Ｐ1は平面形が長軸約33㎝×短軸約37㎝の隅丸方形で、深さが床面から70㎝。Ｐ2は平面形が長軸約39㎝×短軸約45㎝の円形で、深さが床面から70㎝。Ｐ3は平面形が長軸約22㎝×短軸約24㎝の方形で、深さが確認面から70㎝。Ｐ4は平面形が長軸約30㎝×短軸約32㎝の隅丸方形で、深さが床面から85㎝。他に北壁中央と東壁中央北寄りに１本ずつの壁柱穴（Ｐ5・Ｐ6）と北東隅（Ｐ7）、南端中央東寄り（Ｐ8）に柱穴がある。Ｐ5は平面形が長軸約30㎝×短軸約35㎝の楕円形で、深さが住居確認面から47㎝。Ｐ6は平面形が長軸・短軸共約20㎝の円形で、深さが住居確認面から25㎝。Ｐ8は貼床土を掘り込んでいるので、住居床面に伴うものと思われるが、Ｐ7は床面上で確認しづらく、柱痕跡がなく埋土が人為的に埋め戻されたものなので、他の柱穴より以前に掘られ、最終的な床面では使用されなかった柱穴と思われる。Ｐ7は平面形が長軸約50㎝×短軸約65㎝の楕円形で、深さが確認面から75㎝。Ｐ8は平面形が長軸約27㎝×短軸約45㎝の隅丸長方形で、深さが確認面から41㎝。

貯蔵穴　確認されなかった。当初、確認の平面形と検出位置から、Ｐ7を貯蔵穴ではないかと疑ったが、掘り上がりの形状を見る限り柱を抜き取るため上位が掘り広げられた古い柱穴であろう。

掘方　あまり高低差なく、全体を５〜15㎝の深さに掘り込んでいる。

炉　中央北東寄りに長軸約31㎝×短軸約29㎝の浅い窪みが認められ、炉と判断した。貼床を５㎝ほど掘り込んでおり、火を受け橙色に変色したロームで満ちている。

ＳＩ-１００６

位置　Ｅ区の南部やや東寄り、ニ-35グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　他遺構との重複はない。南北に走る幅１m以上の攪乱溝が、遺構の中央部を大きく壊しているが、貼床された土と床面の一部は確認できた。攪乱溝から西側の部分は、現代の構築物による削平を受け、壁・床面が消滅している。攪乱溝の東側は、覆土の大部分が後世の植栽等による細かく複雑な攪乱を受けており、覆土との判別が困難であったが、由来は竪穴住居跡の覆土でも攪乱により乱されているところは攪乱土扱いにした。

規模・形状　竪穴住居の規模は検出した主柱穴４本との位置関係を参考にして東西約6.7m、南北約6.4mと推定され、平面形は概ね正方形を呈すると思われる。

主軸方向　炉を中心としてN−62°−Eの向きをとる。

壁　確認できた北壁・東壁を有する東部分で測定すると、床面までの深さは確認面から約25㎝を平均とする。壁の角度は、ほぼ垂直に立ち上がる。

床　掘方の中〜下位を暗褐色土、黒色土、ロームブロックの混合からなる土で、上位を同様の土をベースとしロームブロックの割合いを多くした土で埋め戻し、貼床を施している。床面はやや凹凸はあるものの、概ね平坦に整えられている。

柱　主柱穴４本を検出した。いずれも柱は住居廃棄後抜かれているようである。Ｐ1は平面形が長軸約40㎝×

短軸約36㎝の楕円形で、深さが床面から70㎝。Ｐ２は平面形が長軸約30㎝×短軸約29㎝の隅丸方形で、深さが床面から70㎝。Ｐ３は平面形が長軸約22㎝×短軸約20㎝の円形で、深さが床面から25㎝。Ｐ４は平面形が長軸約35㎝×短軸約25㎝の楕円形で、深さが床面から66㎝。

周溝と間仕切り溝　周溝は壁と床面の残る範囲から検出した。周溝の幅は11～16㎝。間仕切り溝はＰ４の東脇からのみ検出した。柱穴の中心から壁に向かって幅14㎝、深さ10㎝ほどの溝状に掘られる。他の３本の主柱穴脇にも同様な間仕切り溝があったかもしれないが、床面の消失と共に失われている。

施設　北西コーナーから貯蔵穴が検出している。平面形が長軸約57㎝×短軸約56㎝の不整円形で、深さが床面から50㎝を測る。覆土低位で炭化物と土器破片を出土する。

掘方　確認できた範囲では全体を３～10㎝程度掘り下げている。貯蔵穴周りと、炉と主柱穴の一つであるＰ１との間が特に一段低く下げられている。

炉　中央Ｐ１寄りに炉がある。長軸約39㎝×短軸約34㎝の楕円形を呈する浅い窪みで、中央に長い円礫が据えられている。被熱のためか中央で半分に割れていた。貼床を一旦６～８㎝ほど掘り込んだあと、貼床土と同じ土で炉壁を固め直している。

２．古代時代

西物井遺跡で検出している竪穴住居跡合計68軒のうち、60軒が奈良・平安時代に属すると思われる。この時代の竪穴住居跡はＦ-２区と特にＣ区中央に重複して集中分布しており、時期的には８世紀前葉から10世紀後半の変遷が考えられる。

ＳＩ-０１

位置　Ｃ-１区の北西部、ケ-20グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SK-66、S-65と重複する。本住居跡が最も古い。

規模・形状　東西3.12ｍ、南北2.50ｍの隅丸長方形を呈す。北西隅は比較的直角だが、対角の南西隅は特に丸みがある。

主軸方向　カマドを中心としてＮ−35°−Ｅの向きをとる。

壁　確認面から床面までの深さは約15～20㎝。壁は緩やかな角度で立ち上がる。

柱穴　主柱穴となるようなピットは確認されなかった。西壁にある小形ピットが壁柱穴と思われる。平面形が長軸約26㎝×短軸約21㎝の楕円形で、深さが確認面から18㎝。また貼床除去後、南壁際中央に楕円形の窪みを認めた。古い入り口ピットの痕跡の可能性がある。

周溝　確認されない。

施設　床面上からは特に検出しなかった。

掘方　大形の床下土坑の集合のような掘方。壁に近い外側はあまり掘り下げず、中心に円形土坑状の凹部が重なる。それぞれの凹部の埋土は基本的に単層である。深さは掘方平坦面から約12～20㎝程掘り下がる。床下土坑の場合もあるか。

カマド　北壁中央やや東寄りに位置する。ソデ・天井部は失われており、燃焼部のみ確認。竪穴住居の規模に比べ煙道は壁外へ大きく掘り出されている。

ＳＩ-０２

位置　Ｃ-２区の北東部、ス-16グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-35・36と重複する。古い順にSI-02→SI-35→SI-36となる。

規模・形状　北側は調査区外へ続き、覆土の大部分がSI-35・36に切られているため、南壁と東西壁の一部のみ確認した。東西幅は約4.3m。

主軸方向　南壁に直交する方向で、N−46°−Eの向きをとる。

壁・床　確認面から床面までの深さは約19〜33㎝を測る。壁の立ち上がりは比較的急角度である。

柱穴　確認されない。SI-36と切り合う西壁際に円形の窪みがあるが、掘方が不明瞭で柱穴とは判断し難い。

周溝　確認できた壁内全部に巡る。周溝の幅は12〜25㎝である。

施設　確認されない。

掘方　ほとんどが重複するSI-35・36の掘方によって失われているが、残された南床部分では、３〜７㎝掘り下げた部分が黒褐色土をブロックまたは層状に含むローム主体土で埋め戻されている。

カマド　確認範囲からは検出しない。

備考　2・4の遺物は周溝埋土の直上から検出した。

ＳＩ-０３

位置　C-２区の北東部、ス-17グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　他遺構との重複なく単独で確認した。

規模・形状　北東から南西にかけて、並行して入る溝状の攪乱が床面及び掘方面の一部まで到達して壊している。北と南のコーナー部分が失われているが、おおよその規模としては東西約3.8m、南北約2.5mが、平面形としては残った二隅から、隅丸長方形が推測できる。

主軸方向　カマドを中心として対面の西壁に直交する方向で、N−135°−Eの向きをとる。

壁・床　確認面から床面までの深さは約５〜15㎝。壁は緩やかに立ち上がる。床面は確認が難しく、掘りすぎて覆土が混乱しているところがある。凹凸が激しい。

柱穴　確認されない。

周溝　床面の残りの良いところで一部周溝が観察できる。壁面に沿って巡るようである。確認できた周溝の幅は13〜20㎝である。

施設　認められない。

掘方　はっきりとした貼床がなく、ロームを混ぜた黒褐色土で埋め戻されている。掘方の深さは全体で２〜12㎝。

カマド　東壁（方向的には東南辺）に位置する。中央よりやや南寄りである。カマド前面は攪乱を受け、ソデの一部が僅かに残る。天井部分は崩落している。掘方底面をローム粘土ブロックを主体に黒色土を少量混ぜた土で埋め、天井部と同様の土でカマドの内壁を構築している。

ＳＩ-０４

位置　C-２区の北東部、ス-17グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　他遺構との重複なく単独で確認した。

規模・形状　上部の大部分が後世の土地利用によりかなり削平されており、掘方の深い部分のみ遺存していた。カマドを含む竪穴住居の北東部掘方のみの確認で、残存範囲は南北2.25m、東西1.9mである。平面形はほとんど判断できない。

主軸方向　かろうじて遺存しているカマドの向きを中心とすると、N−43°−Eの方向になる。

壁　壁部分はすべて消滅している。

柱穴　確認出来ない。

周溝　確認出来ない。

施設　確認出来ない。

掘方　確認できた範囲では、３～12㎝の深さで掘り下げている。中央に近い部分がやや高く残されているようである。カマド前面の一部に貼床が僅かに残る。

カマド　北壁に位置する。掘方のみの遺存であり、構築の様子はほとんど観察できない。唯一カマドの東内壁側に接して検出した礫が、カマド構築材の一部として観察できた。

ＳＩ-０５

位置　Ｃ-２区の北東部、シ-17グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　南西隅がSK-24と重複し、これより古い。

規模・形状　竪穴住居跡の中央を東西に攪乱溝が壊し、これより南の部分について覆土の確認状態が悪い。比較的プランが明瞭に確認できた北半部は、北東隅の部分が内側に入りやや右下がりに歪んだような形状になっている。規模は北半部で測定すると東西約3.9ｍ、南北は残りの良い部分でおよそ3.2ｍを測る。平面形としては横に長い隅丸長方形となるか。

主軸方向　ゆがみの少ない西壁と南辺を基準にすると、方位はＮ−40°−Ｅとなるが、カマドの向きに合わせるとＮ−53°−Ｅになる。

壁・床　確認面から床面までの深さは約10.0～20.0㎝。中央に近い部分がやや低く、東西の壁に近い部分がやや高くなっている。当初３層上面を床面としていたが、あまり硬くない土で、また掘り上がりの床面にかなり凹凸がみられことから、４層上面が床面の可能性が高い。攪乱溝より南の壁はほとんど残っていない。一番良く残る北東の壁はほぼ垂直にはっきり立ち上がっている。

柱穴　確認されない。

周溝　攪乱溝から南側は殆ど覆土が残っておらず、場所によっては2㎝程度というところもある。そのためか、周溝の存在も確認できない。遺構の残りの良い北西部からは、はっきりとした周溝が確認できた。５～15㎝の幅で床面から３～５㎝程度掘り下げてある。

施設　確認されない。

掘方　全体を不規則に最大10㎝程度掘り下げ、かなり大きなロームブロックを混入した黄褐色土で埋め戻し、貼床としている。中央に近い部分は貼床の土が確認されず、掘方の上が直接床面になっていたらしい。

カマド　北壁（北東辺）の東寄りに位置する。右下がりに歪んだ北東隅の形状に合わせてか、カマドの向きも右に傾いている。上部が削平によってかなり壊されているため、カマドの形状はソデの部分に残る構築土から判断した。天井部分は削られてなくなっている。壁外にのびる煙道の立ち上がりの傾斜は非常に緩やかである。煙道下に溜まった焼土の層が良く残っていた。

ＳＩ-０６

位置　Ｃ-２区の北東部、シ-18グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-08、SK-24と重複する。SI-08より新しく、SK-24より古い。

規模・形状　北西コーナーがSK-24によって壊されている。東西4.7～南北3.65ｍの東西に長い隅丸長方形を呈す。

主軸方向　カマドを中心として、Ｎ−39°−Ｅの向きをとる。

壁・床　確認面から床面までの深さは約21～24㎝。壁はやや開いて立ち上がる。床面はしっかり貼られた貼

床で平坦に整えられており、カマド周囲から中央にかけて強く硬化している。

柱穴　柱穴は５本確認した。中央南寄りに位置するＰ1は最終床面使用時には閉口していた柱穴。柱を抜いた後に貼床土と同じ土を用い、５㎜程の厚さで丁寧に上部を埋め立て平らにしている。前段階の床面使用時に使用していた柱穴と思われる。カマド東ソデ部の右側から検出したＰ5も最終床面使用時には閉じられていた柱穴である。Ｐ1と同様に柱穴の上面を貼床土でしっかり埋め固めている。柱穴を埋め戻した土にはカマドで発生した焼土も多く混じっていた。Ｐ1は平面形が長軸約31㎝×短軸約30㎝の円形で、深さが床面から25㎝。Ｐ5は平面形が長軸約33㎝×短軸約31㎝の円形で、深さが床面から30㎝。Ｐ2・３・４は壁柱穴でそれぞれ、南東隅部、南壁東寄り、東壁中央から検出した。いずれも柱は抜かれており、Ｐ3には柱を抜いた後、柱穴の上部を埋め立てた痕跡がみられる。Ｐ2は長軸約40㎝×短軸約20㎝を測り、外側に向かって斜めに掘られる。深さは床面から24㎝、住居確認面から45㎝。Ｐ3は平面形が長軸・短軸共約20㎝の不整円形で、真っ直ぐ垂直に掘られる。深さは床面から23㎝、住居確認面から45㎝。Ｐ4も真っ直ぐ垂直に掘られ、平面形は長軸・短軸共約20㎝の不整円形を呈し、深さが住居確認面から20㎝となる。

周溝　カマド部分以外全周する。掘方の形状は全体に整っており、幅は12～27㎝で、コーナー部分が細くなる傾向がある。

施設　確認されない。

掘方　南西部はやや深く掘られるが、他は全体として床下をあまり深く掘り下げない。貼床面は２時期分見られるが、住居の建て替えや拡縮は認められない。古い床面はほぼ平坦に掘った掘方の部分的な凹部を平らに均す程度に薄く貼られている。この土は板状に硬く貼り付いており、調査時にはそのまま薄く剥がれるようであった。このため、この段階である程度の期間床面として使用されていたと判断した。その上に、更に新しい貼床が１～２㎝の厚みで施されている。

カマド　北壁中央部に位置する。ソデを取り付ける前の内壁にロームが二重に貼り付けられており、更に何層にもロームと黒色の層の貼り付けがみられる。貼られた各層は、それぞれ貼った部分ごとに剥がれる。崩れたカマド構築土の一部が、古い柱穴内に入り込んでいるので、床面を貼り足すのと同じ時期にカマドにも部分的な造り直しがなされているようである。天井部は失われているが、残るソデ部分の作りは大きくしっかりしており、それによって作り出される燃焼面も大きく広い。このため、掛け口が二口ではなかったかという可能性も指摘されている。奥壁から煙道へかけての立ち上がりは比較的急である。

ＳＩ-０７

位置　Ｃ-２区の北東部、ス-18グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　重複する遺構はなく、単独で確認した。南壁際に沿って攪乱溝が東西に走る。

規模・形状　東西約4m、南北2.6～2.8mの東西に長い隅丸長方形を呈す。

主軸方向　カマドを中心として北壁に直交する方向で、N−34°−Eの向きをとる。

壁　確認面から床面までの深さは約18～25㎝。壁は概ね垂直に近い角度で立ち上がる。

柱穴　３本を確認した。Ｐ1は平面形が長軸約43㎝×短軸約37㎝の不整楕円形で、深さが床面から16㎝。西側に柱を抜き取るための抜き取り痕がある。Ｐ2とＰ3は小形のピット。Ｐ2は平面形が長軸約17㎝×短軸約16㎝の方形に近い円形で、深さが床面から９㎝。Ｐ3は平面形が長軸約20㎝×短軸約17㎝の不整楕円形で、深さが床面から７㎝。

周溝　カマドの東側以外全周する。周溝の幅は６～15㎝である。

施設　確認されない。

カマド　北壁中央東寄りに位置する。天井部は崩落する。遺存するカマドソデ部はｎ～ｔ層の粘土やロームの目立つ土で構築されている。ｑ・ｔ層で掘方面を埋め、その上にｒ・ｂ'・ｓ層のロームを主体にした土で右ソデを、ｎ・ｏ・ｐ層の褐色土を主体にした土で左ソデを構築している。左ソデの内側は右ソデと同じ粘土で層状に貼り足されており、この部分と右ソデが左ソデ本体より後に作られた改修後のものと思われる。更に前段階のカマドソデの痕跡が前面に僅かに残る。

ＳＩ-０８

位置　Ｃ-２区の北東部、シ-18グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-06、S-34と重複し、本住居跡が最も古い。

規模・形状　中央から西側すべてがSI-06と重複し失われている。残った東部分も北壁がS-34と攪乱によって壊されているため、東西約1.3ｍ、南北約3.5ｍの範囲のみ確認した。平面形としては隅丸方形が想像される。西側に重なるSI-08と方位、南北の規模がほぼ一致するので、SI-08の古い段階の竪穴住居跡と思われた。出土遺物から見ても時期差がないようである。

主軸方向　南壁に直交する方向で、Ｎ−41°−Ｅの向きをとる。

壁・床　確認面から床面までの深さは平均約15㎝。壁は緩やかに立ち上がる。床面は、概ね平坦である。レベル的には本住居の床面は、新しいSI-06の床面より８㎝程度高い。

柱穴　確認されない。

周溝　確認した範囲で北壁以外に巡る。周溝の幅は10～18㎝の範囲で、部分的に細くなったり途切れたりしている。

施設　確認されない。

掘方　北東部分がやや下がるが、あまり低く掘り下げられていない。

カマド　残存範囲からは検出しない。

ＳＩ-０９

位置　Ｃ-２区の北東部、セ-17グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　重複する遺構はない。

規模・形状　北側が調査区外に続くため、南北の規模は不明である。東西規模は約3.2ｍ。

主軸方向　南壁に直交する方向で、Ｎ−52°−Ｅの向きをとる。

壁・床　確認面から床面までの深さは約15～18㎝。壁は概ね垂直に立ち上がる。床面は平坦で、非常にしっかりした貼床が施されている。貼床の直上に植物性の腐植土のような黒色土層が薄く見られた。敷物などの痕跡であろうか。

柱穴　確認されない。

周溝　確認範囲で全周する。貼床の上から確認でき、周溝の幅は６～23㎝である。

施設　中央やや南東寄りに長軸約44㎝×短軸約40㎝の円形土坑状の掘り込みを確認した。貼床の土を剥がした面で確認できた。埋め戻されているようなので、途中で使われなくなった床下土坑か。深さが床面から20㎝。

掘方　南側中央と南西隅を大きく楕円状に掘り窪めているほかは、全体的に平均して５㎝程度掘り下げている。

カマド　確認されない。調査区外へ出る北壁か東壁に構築されていたものと思われる。

ＳＩ-１１

位置　Ｃ-２区の東側中央部、セ-19グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　S-49と重複し、これより古い。

規模・形状　中央に大きく攪乱溝が入り、上部も後世の削平のため消失している。覆土の確認がほとんど出来ず、観察記録も整っていない。東西約2.5m、南北約4.0mの範囲を確認した。縦に長い隅丸の長方形を呈す。方形竪穴か。

主軸方向　歪みの少ない東西壁に平行する方向で、N−27°−Eの向きをとる。

壁　すべて失われている。

柱穴　確認されない。

周溝　攪乱溝より南側の南西部分がもっともはっきりしている。ほかは部分的に不明瞭になる。周溝の僅かな掘方の変化から、当初の竪穴の縦に細長いプランが後に西にずれて掘り直されたものと判断した。周溝の幅は４～21㎝である。

施設　確認されない。

掘方　周溝以外の掘り下げはほとんど認められなかった。

ＳＩ-１２

位置　C-２区の東側中央部、ソ-19グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-214、SK-68と重複し、SK-68より古い。SI-214との新旧関係は不明。

規模・形状　中央を東西に大きな攪乱溝が走り、この部分は掘方まで失われている。南東コーナーは確認面の高さではほとんど消滅しており、確認できなかった。壁がほとんど残っていなかったため、周溝の遺存範囲で測定すると規模は、東西約3.7m、南北約3.6m。平面形状は東壁の中央が内側に歪むが、概ね隅丸方形となるようである。

主軸方向　最も残りの良い北壁に直交する方向で、N−15°−Eの向きをとる。

壁　壁はほとんど確認できず、確認面から床面までの深さは深いところで約５㎝程度。

柱穴　確認されない。

周溝　遺存範囲で全周する。周溝の幅は13～20㎝である。

施設　確認されない。

掘方　南西部に楕円状の窪みを作る。ほかはあまり大きな凹凸を作らず、全体を２～４㎝掘り下げ、ロームを多く含んだ灰黄褐色土で貼床を施している。

カマド　確認されない。

ＳＩ-１３

位置　C-２区の東側中央部、ソ-19グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-214と重複し、これより新しい。

規模・形状　北東部が調査区外へ続く。東壁から南東隅は攪乱のため未確認。遺存部分で、東西約4.8m、南北約3.9mを測る。横長の隅丸長方形を呈す。

主軸方向　カマドを中心として北壁に直交する方向で、N−33°−Eの向きをとる。

壁・床　確認面から床面までの深さは平均約30㎝。壁は概ね垂直に立ち上がる。西壁を中心に一部壁に貼り土を施している。床は平坦で、非常に硬い。

柱穴　主柱穴４本を検出した。貼床下の掘方面より掘り下げられている。Ｐ1には柱抜き取り痕のような掘方が見られ、他の柱穴も柱が抜かれた痕に埋められ、上部を薄く硬い層で２～３重に丁寧に塞がれている。最終的には使われなくなった柱穴痕である。Ｐ1は平面形が長軸約78㎝×短軸約55㎝の南北に細長い楕円形で、

深さが確認面から約23㎝。Ｐ２は平面形が長軸約69㎝×短軸約65㎝の楕円形で、深さが確認面から約23㎝。Ｐ３は平面形が長軸約70㎝×短軸約38㎝の住居隅に向かって細長い楕円形で、深さが確認面から約８㎝。Ｐ４は平面形が長軸約65㎝×短軸約57㎝のほぼ円形で南側が突出する。深さが確認面から約６㎝。他に南壁中央に、同じく貼床土下から柱穴状の掘り込みを検出した。円形の凹部は深さ最深で48㎝、東の掘方は24㎝程下がる。

周溝　カマド以外、確認できた壁範囲で全周する。周溝の幅は13～23㎝。西壁中央部では、内側にも周溝と思われる細い溝状の掘り込みが検出した。

掘方　柱穴周囲を中心にやや掘り下がる部分が見られるだけで、基本的に平坦である。掘られた凹部には何層にも極薄く貼床を施している。周溝と柱穴には工具痕が明瞭に残る部分があり、使用された工具幅が約15㎝と推定できる。

カマド　北壁に位置する。構築土はすべてつぶれ崩落し、ソデの基部等も確認できない。奥壁の立ち上がりは比較的急角度で、壁外への掘り出しは少ない。燃焼面にあたる部分の掘方は深く、粘性のある黄褐色土を中心に埋められている。

ＳＩ-１４

位置　Ｃ-２区の東側中央（住居密集）部、セ-19グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-16・211・213・221・272・273・277、SK-67・218・226と重複する。SI-211・213・221・272・273・277より新しく、SI-16、SK-67・218・226よりも古い。

規模・形状　北東辺から南東辺にかけての壁の立ち上がりが確認できない。南北の規模は最大で、3.4mを測る。

主軸方向　カマドを中心として西壁に平行する方向で、N−28°−Eの向きをとる。

壁　確認面から床面までの深さは約10～20㎝。壁は比較的垂直に近い角度で立ち上がる。

柱穴　確認されない。

周溝　確認できた西側半分の壁際に巡るのを確認した。周溝の幅は10～23㎝である。

施設　住居内南西部と北西部から床下土坑３基を確認した。北西部の床下土坑ａは貼床土の上部から掘られており、床面使用時に開口していたものと思われる。南西部に並ぶ床下土坑ｂ・ｃは上部が貼床の土で埋められ開口していない。床下土坑ａは平面形が長軸約133㎝×短軸約90㎝の楕円形で、深さが床面から24㎝。床下土坑ｂは平面形が長軸約106㎝×短軸約80㎝の不整楕円形で、深さが床面から23㎝。床下土坑ｃは平面形が長軸約85㎝×短軸約73㎝の不整楕円形で、深さが床面から23㎝。

カマド　北壁に位置する。天井部は崩落し、ソデ部の痕跡が残る。壁外への掘り出し部分は切り合う古い住居の覆土を掘り込んだ部分にあたるため、掘方の面を埋め固め補強している。天井構築部のブリッジに用いられた砂質ロームのブロックが崩落し遺存する。

ＳＩ-１５

位置　Ｃ-２区の東側中央部（密集部の北方）、セ-19グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-16、SX-55と重複する。SI-16より新しく、SX-55より古い。

規模・形状　北壁の上部をSX-55に壊される。南壁より北壁がやや広く、平面形は僅かに逆台形を示す横長の長方形を呈す。東西3.4～3.6m、南北2.65～2.8mを測る。

主軸方向　カマドを中心としてN−43°−Eの向きをとる。

壁・床　確認面から床面までの深さは約23～31㎝。壁は垂直に近い角度で立ち上がる。床面は中央部に向か

って緩く窪む以外、概ね平坦である。ロームと黒土でしっかりした貼床を施している。

柱穴　南壁際の中央部から１本のみ確認した。位置的に入り口ピットと思われる。平面形は長軸約25㎝×短軸約20㎝の不整楕円形で、深さが床面から10㎝である。

周溝　カマド以外全周する。幅広で掘方の整った周溝で、幅は20㎝を平均とする。検出状況ではカマド左ソデの西側において上部にソデの構築土が見られるが、周溝の掘方の上にソデを構築したものか、ソデが壊れて崩れた部分が乗ったものかは不明。

施設　東壁に近い位置から楕円形の浅い窪みが認められた。下半部はロームを主体とする土が入り、上面は黒土とロームで平坦に埋め固められているので、床面使用時には開口していなかった古い掘り込みと思われる。壁際の周溝上に厚さ３～５㎝程の黒土がほぼ15～20㎝の幅で分布していた。周溝内に据えた家の構築材（木材）が残っていて、それが炭化したものか。黒土の残っている様子からすると、壁際に板を敷いたということも考えられる。

掘方　中央部以外を部分的に３～10㎝ほど掘り下げ、ロームを多く混ぜた黒褐色土を用い埋め戻している。

カマド　北壁中央東寄りに位置する。ソデ部分は良く残り、構築の特徴が観察できる。天井部は完全に潰れ、崩落した構築土が床面に広く分布する。燃焼面はあまり掘り下げられておらず、ソデと共通する構築土を貼り火床面としている。ｄ層中から検出した土器片は下側の面が強く被熱しているので、天井部内面に補強材として貼られた土器片の可能性もある。奥壁は垂直に近い段を持って立ち上がり、煙道へと続く。

ＳＩ-１６

位置　Ｃ-２区の東部中央（住居密集）部、セ-20グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-14・15・54・211、SK-56、SX-55と重複する。SI-14・54・211、SK-56より新しく、SI-15、SX-55より古い。

規模・形状　後世の削平による上部の消滅と、重複する遺構との切り合いで壊される部分が多く、全体の規模が確認できない。断面においてSI-16の覆土として確認できる層は、深さが最大で10㎝ほどの１層と15層のみで、しかも北東部は上面の削平から覆土も途切れており、壁の立ち上がりが確認できない。かろうじて残るカマドの下位構造と、住居北西部の壁・床面・床下構造のみを調査した。

主軸方向　カマドを中心に、遺存する北壁に直交する方向でＮ−42°−Ｅの向きをとる。

壁・床　遺存範囲で確認面から床面までの深さは約５～10㎝。壁は緩やかに立ち上がる。住居の掘り替えもしくは拡張が最低１回行われているようで、床面は２時期分確認できた。古い段階のＢ期の掘方では周溝が巡るが、最終床面となるＡ期では周溝を伴わないようである。

柱穴　確認されない。

周溝　確認できた北壁から北西コーナーに沿って巡る。周溝の幅は20～30㎝である。北壁際の床面直上から土師器の耳皿が逆位完形で出土する。

施設　床下土坑が４基検出した。重複関係の見られる床下土坑ｂ・ｃ・ｄは古い順にｄ→ｃ→ｂと掘られており、古い土坑が完全に埋まってから次の土坑が作られている。これらの床下土坑に共通する特徴に、周辺の住居の床下土坑にも見られるような、土坑の掘方の壁・底面をローム主体土（一度掘り返した地山のローム土）で貼り土のように埋め立てた様子が観察できる。床下土坑ａはＢ期周溝の掘方と重なるため、Ａ期のものと判断した。床下土坑ｂ・ｃ・ｄは上面をＢ期の貼り土が覆っているため、Ｂ期かそれ以前の床下土坑と判断した。これらからも、周溝と床下土坑ｂ・ｃ・ｄを伴うＢ期と床下土坑ａ（開口していた貯蔵穴の可能性もある）を伴う床面Ａ期の最低２時期がある推定とした。床下土坑ａの底面中央に小ピット状の掘り込

みがみられ、覆土観察から柱状のものを据えていたと考えられる。同様に床下土坑ｃの覆土からも細い柱穴状の掘り込みが観察された。円形の床下土坑とピットの組合せが何らかの機能を有していたことが推定される。床下土坑ａは平面形が長軸約94㎝×短軸約93㎝の楕円形で、深さが床面から32㎝。床下土坑ｂは平面形が長軸約70㎝×短軸約68㎝の不整楕円形で、深さが床面から20㎝。床下土坑ｃは平面形が長軸約113㎝×短軸約80㎝の楕円形で、深さが床面から27㎝。床下土坑ｄは平面形が長軸約82㎝×短軸約63㎝の不整楕円形で、深さが確認面から28㎝。それぞれの覆土の特徴は土層観察表に詳しく記載している。

カマド　北壁に位置する。天井部は崩落し、左ソデ部の痕跡が残る。右ソデは遺存しておらず確認できなかった。奥壁からの煙道に向かう立ち上がり部分に土師器甑の破片が貼られている。ほかにも土師器甕の小片などが崩落層内から数点検出したので、構築土の補強に用いたものと思われる。火床面に溜まった灰や焼土などの燃焼発生物は、火床から掻き出されカマド前庭部を中心として周囲の床面上に広げられ、床面として固められている。また燃焼発生物の堆積する火床面の上に、全面に黒色処理を施した小型土師器坏が正位で置かれており、その上に天井部が崩落しているので、カマド廃棄に係わる祭祀的な行為が行われた可能性がある。

ＳＩ-１７

位置　Ｃ-２区の東部中央（住居密集）部、セ-20グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-21・54・211と重複する。当遺構が最も新しい。

規模・形状　上部のほとんどが後世の土地利用により削平され、燃焼面に近い部分のカマドと、極一部の覆土の検出に留まった。北西部は完全に消滅しているが、ほかは床面の特徴を残す面から、かろうじてプランを構成した。この範囲を最小として上部では規模が広がる可能性もある。確認した範囲で、東西約4.6m、南北約3.5mの隅丸長方形を呈する。

主軸方向　カマドを中心として最も残りの良い南壁に平行する方向で、N−133°−Eの向きをとる。

壁・床　確認面から床面までの深さは最大で約５㎝。確認した床面上には炭化物が薄い層状に遺存する。床面とした範囲は、全体に硬くしまっており、重複する古い住居覆土との質感に違いが見られる。

柱穴　確認されない。

周溝　確認されない。

カマド　東壁中央に位置する。天井部を含む構築土のほとんどは崩れ。周辺に広く堆積する。ソデの基部の一部が僅かに観察でき、天井崩落層の下に、火床面の直上に溜まった黒色の灰層と炭化物の層が薄く遺存する。東壁のラインよりカマドが外側へ大きく張り出すような構造となっているが、東壁の上部が確認したラインより東に広がる可能性もある。

ＳＩ-１８

位置　Ｃ-２区の東部中央（住居密集）部、ソ-20グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-19・20・21・210・211・220、SK-219と重複する。SI-19・20・210・211・220より新しく、SI-21、SK-219より古い。

規模・形状　南西部をSI-21に壊される。カマドを有する北壁が南壁に比べやや短い、方形の平面形が推定される。確認範囲で東西約4.2m、南北約8.7m。

主軸方向　カマドを中心として最も残りの良い東壁に平行する方向で、N−19°−Eの向きをとる。

壁・床　確認面から床面までの深さは約12〜15㎝で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面は硬くしまり、概ね平坦である。

柱穴　認められない。

周溝　認められない。

掘方　SI-18の掘方面は先行するSI-19の床面とほぼ同じレベルにある。SI-19とはやや南西に位置をずらした位置で重複するが、両者のカマドの軸方位が異なるため、建て変え等ではなく完全な別住居とした。西壁側にはSI-19の覆土を切って作られた弱い壁の崩れを補修した埋土が観察される。この土は貼床と共通して用いられる。

カマド　北壁中央やや西寄りに位置する。カマドが作られる部分の壁が、僅かに内側に入る。天井部は崩落し、ソデ部の痕跡が残る。燃焼面は丸く窪み奥壁に向かって緩やかに立ち上がる。カマド奥壁には、一度崩した灰黄褐色ロームが硬く貼り付けられ、立ち上がり部分を構成している。

ＳＩ-１９

位置　Ｃ-２区の東部中央（住居密集）部、ソー20グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-18・20・21・210・211・220・273、SK-219と重複する。遺構確認時の所見とセクションから、SI-20・210・211・273より新しく、SI-18・21・220、SK-219より古い。

規模・形状　竪穴住居密集重複区にあるため、カマドの附帯する北壁と東壁、北西と南東のコーナー部分のみを確認した。確認出来た壁間で測定すると、東西約3.8m、南北約6.0mとなり、平面形は隅丸長方形が推定される。

主軸方向　カマドを中心として、もっとも残りの良い東壁に平行する方向で、N−22°−Eの向きをとる。

壁・床　床面が確認できたのは極狭い範囲であるが、確認面から床面までの深さは約10〜15㎝を測る。壁は比較的垂直に近い角度で立ち上がる。

柱穴　検出しない。

周溝　検出しない。

カマド　北壁中央西寄りに位置する。天井部分は崩落し、ソデ部の構築土は失われているが、基部を整えたと思われる土がソデの痕跡として遺存する。奥壁から煙道にかけての立ち上がりは、はっきりした段を持たず緩やかに繋がっていくようである。カマドの掘方には、幅10㎝程度の工具痕が明瞭に残る。掘方内は褐色粘土を含む粘質土で埋め戻され、上部の火床面上には、掛け口に据えた甕の底部を支えたような丸い台形状のロームの塊があった。黒灰や焼土ブロックなどの燃焼物層の上に置かれているので、ある程度カマドを使用した後から加えて据えた台と思われる。掘方や火床面内の台の特徴はSI-211にも同様にみられる。

ＳＩ-２１

位置　Ｃ-２区の東部中央（住居密集）部、セ-20グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-17・18・19・54・210・211、SK-219、S-203と重複する。SI-18・19・210・211より新しく、SI-17・54、SK-219より古い。S-203との新旧関係は不明。

規模・形状　南西隅から西壁にかけてSI-54に壊される。確認できた壁間で測定すると規模は、東西4.75m、南北4.90mを測り、平面形は整った方形を呈する。

主軸方向　カマドを中心に対面する南壁に直交する方向で、N−26°−Eの向きをとる。

壁・床　確認面から床面までの深さは約25〜30㎝。壁は比較的緩やかな角度で立ち上がる。

柱穴　当初、柱穴の抜き取り痕と思われる掘方を伴うＰ1を柱穴として調査したが、確実ではない。平面形は長軸約87㎝×短軸約75㎝の不整楕円形で、深さが床面から19㎝である。また、掘方面でＰ1の南の位置に２基のピット状の凹部が並んで検出したが、柱穴としての用途を持つものかは不明である。

周溝　北東コーナー以外で全周する。周溝の幅は10～25㎝である。

掘方　床下に円形土坑状の掘方が連なる。形状的に床下土坑とも思われるが、SI-14や16に見られるような、層状堆積の覆土の特徴を持たず、土坑間の時期差無く連続して同時に掘られた可能性が高い。覆土は掘方埋土と共通するため、掘方の一部と判断した。

カマド　北壁中央やや東寄りに位置する。カマドの中央が大きな攪乱を受け、遺存状態は非常に悪い。壁外への掘り出しは幅広で、奥壁から煙道への立ち上がりは非常に緩やかである。切り合う住居の覆土部分にあたるカマドの掘方面を丁寧に埋め固め基礎部としている。カマドの前面の範囲にはカマド由来の土が薄く何層にも敷き固められ、床面を構成している。

ＳＩ-２５Ａ・Ｂ

位置　Ｃ-２区の中央部北寄り、ス-20グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-279、SX-26と重複する。SX-26より古い。SI-279との新旧関係は不明。

規模・形状　２時期の床面を確認し、古い段階の住居をSI-25Ａ、SI-25Ａの上部に建て替えられた新しい住居をSI-25Ｂとした。Ａ期は東西3.8m、南北3.8mのやや傾いた正方形を呈す。Ｂ期は南東部分の確認が不明瞭なため確認できた範囲で、東西2.5～3.4m、南北3.8mを測る。

主軸方向　Ａ期についてはカマドを中心として南北壁と平行する方向で、N－135°－Ｅの向きをとる。Ｂ期についてもほぼ同じ主軸方向で造られている。

壁・床　Ａ期の床面までの深さは、Ｂ期の覆土を除いたＡ覆土確認面から約12～24㎝となる。壁は上部がやや開くが概ね垂直に近い角度で立ち上がる。部分的にローム粘土を二重から三重に薄く貼り、壁を補強したような形跡が見られた。粘質の灰褐色土を主体とした土で、硬く貼床が施されている。Ｂ期は①・②・③層からなり、①②層直下が床面になるが、硬化面などの明確な床面は確認できなかった。②層には炭化物が薄い材の形で遺存しており、②層の範囲が植物製の敷物などが敷かれていた範囲と見ることができる。③層はＢ期の掘方凹部を埋めた土。①②層下は平坦に整えられており、床面として使用された痕跡が硬い土間として見られないのは前述の敷物等の使用がなされたせいと推定できる。②層からは床直にあたる遺物も出土している。Ｂ期の床面までの深さは、確認面から最大で８㎝である。

柱穴　Ａ期の床面で北西隅に１本検出した。貼床を掘り込み、Ａ期に伴うものと思われる。覆土には柱を抜いたような痕跡が見られるが、位置的に主柱穴ではない。平面形が長軸約42㎝×短軸約40㎝の楕円形で、深さが床面から25㎝である。Ｂ期では北と西・東壁から壁柱穴が検出している。確認時の所見、覆土の観察からＢ期に伴うものとした。深さはそれぞれＡ期の床面に達せず終了している。

周溝　Ａ期は壁のやや内側に沿って全周する。カマド左ソデの手前で途切れる。周溝の幅は20～30㎝である。周溝内には、貼床の土と同様だがロームなどの混入があまりない土が入っている。Ｂ期では周溝は確認されない。

施設　Ａ期の床面中央やや北寄りから床下土坑が１基検出した。確認開口部で平面形が長軸約1.28m、短軸約1.08mで、深さは床面から約25㎝である。土坑は貼床の上部から掘り込まれており、底面にあたる地山ロームの掘方面の上を、砂質のロームを主体にして粘性のある褐色ロームと黄色ロームブロックを混ぜた土で硬く貼り土している。また、一番下層に赤色化した部分が認められた。混入する粘性のある褐色ロームはカマドのソデ部分の構築にも使われているローム土で、カマドとこの土坑の底面が同時期に作られたことが判る。底面の貼り土は更に数回貼り加えられていったようで、最初の貼り土の上に掘方の埋土と同じ土が薄い層状に重なって見られる。土坑の上部は貼床が存在しないので、床面に開口して使われていたようである。

板などで塞いでいた可能性はあるが痕跡は確認できなかった。Ｂ期では施設等は確認されない。

掘方　Ａ期は、全体を10㎝程度掘り下げロームを含むオリーブ褐色の土で埋められている。Ｂ期については僅かな凹凸を平坦に整えた程度で、掘方をそのまま床面としている。

カマド　Ａ期は東壁南寄りに位置する。遺存状態は良好で、ソデ・天井部共に構造が良く確認できた。平坦に整えられた火床面上には燃焼発生物が多く遺存する。カマド前面の床面には、焼土と炭化材を薄く敷いた貼り土範囲が広くみられ、この燃焼物を利用したものと思われる。カマドの構築状態・覆土等については土層観察表に詳しく記す。Ｂ期のカマドは確認されない。

ＳＩ-２７

位置　Ｃ-２区の中央部やや北東寄り、セ-21グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-28・29、SK-60・61・62・88と重複する。SI-28・29、SK-61・62・88より新しく、SK-60より古い。SI-27・29、SK-60・61・88の関係は、新しい順からSK-60→SI-27→SK-61→SI-29→SK-88となる。

規模・形状　東西2.5～3.0m、南北2.8～3.1mの南壁が広い隅丸方形を呈す。

主軸方向　東壁に平行する方向で、N−02°−Eの向きをとる。

壁　掘方面の確認で、壁は浅く開いて立ち上がる。

柱穴　確認されない。

周溝　確認されない。

掘方　確認面から掘方面までの深さは約10～13㎝で、全体に凹凸が強く見られる。ローム粒・焼土・炭化物を混入するあまりしまりの強くない土で埋め戻される。

カマド　確認されないが、北壁中央東寄りに見られる壁外へ張り出した掘方がカマドの痕跡か。

ＳＩ-２８

位置　Ｃ-２区の中央部やや北東寄り、ス-21グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-27、S-63と重複し、両遺構より古い。

規模・形状　東壁から北東コーナーにかけて壁の上部をSI-27に壊されるが、規模は確認できる。東西3.85m、南北2.85mの東西に長く整った長方形を呈す。北東と南西隅が丸みを持つ。南西と南東隅は掘り上がりの形状では丸みを持たないが、壁内に巡る周溝が内側に入っているため、実際はこの部分も隅丸の形状を呈したかもしれない。

主軸方向　カマドを中心として北壁に直交する方向で、N−38°−Eの向きをとる。

壁　確認面から床面までの深さは約22～35㎝。壁は概ね垂直に立ち上がる。壁の土が脆いためか、部分的に、壁に粘りのあるロームが貼ってある形跡も見られた。この特徴は、南東隅から北壁中央部にかけて顕著である。またこの範囲の貼床は二枚で構成されており、新しい貼床に伴って東壁の周溝が掘られている。

柱穴　非常に小形のピットを３本確認したが、柱穴とは判断しがたい。北西部のピットは、８×12㎝、深さ８㎝程度の楕円形を呈す。埋土は黒色土の単一層で、ロームブロックを少量、ローム粒をやや多く、焼土と焼けたローム粘土をかなり多く含む。しまりは強く、粘性はややある。中央南西部から検出したピットは、径14㎝、深さ７㎝程度の円形を呈す。埋土はローム粒を多く含む黒褐色土で、下部にロームブロックが多く入り、上部は黒味が強い。しまりはあまりないが粘性が強い。入り口ピットとも思われる南壁中央から検出したピットは、一辺10㎝内外、深さ約15㎝の隅丸方形で、しまりはないが粘性のある黒褐色土が入る。ローム粒と焼土粒が少量混入する。

周溝　カマドの両側手前で途切れるほかは全周する。東壁際の周溝内が特に深くなって黒土が入っている部分がある。板貼りの形跡か。周溝の幅は５～17㎝である。

施設　カマドの東側にあたる北東隅と、南壁中央西側に、土坑状の掘り込みが見られた。北東隅の掘り込みは位置的に貯蔵穴と思われる。東側に一段浅い張り出し部を持ち、本体部分は33×47㎝の不整楕円形を呈す。深さは床面から約10㎝である。古い段階の貼床時には開口していたと思われ、上部を新しい貼床で塞がれている。南壁側の掘り込みは埋土の堆積状況が特徴的で、埋納施設の可能性もあるか。平面形が長軸約59㎝×短軸約37㎝の楕円形で、深さが床面から23㎝である。

掘方　住居の北西部はほとんど床面より掘り下げず、地山ロームの直上で掘方を止め、貼床を施している。南西隅と南東部は地山ロームを７㎝程掘り下げ、貼床を施す。

カマド　北壁中央に位置する。崩落し構造は原形を留めていないが、天井部・ソデ・煙道の痕跡が見て取れる。カマド前面を大きく掘り下げた掘方をロームブロックを混ぜた黒褐色土で埋め、その上面が燃焼部となる。奥壁から煙道へは段を持たず緩やかに繋がる。南東部で行なわれた床の貼り足しに伴うのか、カマドの前面にも上部の埋め立てが見られる。

ＳＩ-２９

位置　Ｃ-２区の中央部やや北東寄り、セ-21グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-27、SK-60・61・62・88と重複する。SK-62・88より新しく、SI-27、SK-60・61より古い。SI-27・29、SK-60・61・88の関係は、新しい順からSK-60→SI-27→SK-61→SI-29→SK-88となる。

規模・形状　北西部がSI-27に壊されるため不明であるが、遺存部分から測定すると、東西1.9～2.6m以上、南北3.8～4.3mの北側が広い隅丸長方形となる。

主軸方向　カマドを中心に、一番残りの良い東壁に平行する方向で、N－34°－Ｅの向きをとる。

壁　確認面から床面までの深さは約13～30㎝。壁はやや開いて立ち上がる。

柱穴　床面より３本を検出した。いずれも柱は抜き取られている。Ｐ1は平面形が長軸約29㎝×短軸約23㎝のほぼ円形で、深さが床面から22㎝。Ｐ2は平面形が長軸・短軸共約16㎝の円形で、深さが床面から15㎝。Ｐ3は平面形が長軸約20㎝×短軸約14㎝の歪んだ隅丸方形で、深さが床面から16㎝。他に南西と南東隅に、円形に窪んだ部分が見られたが、柱穴とは判断しにくい。

周溝　北壁中央から東壁中央にかけてのみ検出した。確認範囲で全周する。周溝の幅は11～15㎝である。

掘方　中央から東側を深く掘り込み、ロームブロックの他に細かいロームを多量に含む暗褐色土と黒褐色土で埋め戻し貼床としている。

カマド　天井部と思われる部分は内部につぶれ、ソデ部も崩れているため構造が残っていない。カマド天井部に用いられたと思われる構築土は粘土を含まず、周囲の地山と同じ黒褐色土をベースにしている。ソデの基部に若干粘土が使われたらしく、被熱した粘土の塊が遺存していた。

ＳＩ-３０

位置　Ｃ-２区の東部中央、ソ-20グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-82と重複し、これより新しい。

規模・形状　カマドの西側を含む住居中央西寄りの部分を、現代の攪乱溝が縦断し壊している。また、床面より上部の東壁と南壁が後世の削平と攪乱により消滅するが、掘方の形状は僅かに残っているため規模はここから東西約5.2m、南北約5.3mとした。平面形はほぼ正方形に近い。カマド東側の壁が西側に比べ僅かに内側に入る。

主軸方向　カマドを中心として残りの良い西壁に平行する方向で、N−32°−Eの向きをとる。

壁・床　確認面から床面までの深さは、残りの良いところで約31㎝。壁は比較的垂直に近い角度で立ち上がる。床面は凹凸が激しく、全体に軟らかい。

柱穴　３本を確認しＰ1〜3としたが、掘り上がりの形状からＰ2は柱穴ではない可能性が残る。Ｐ1は平面形が長軸約74㎝×短軸約58㎝の不整楕円形を呈し、深さは確認できた床面から33㎝を測る。貼床部分を掘り込んでおり、底面には地山の砂質ロームが混ざった粘りのある土が見られる。柱は抜かれている。Ｐ2は平面形が長軸約93㎝×短軸約66㎝の不整楕円形で、深さが確認できた床面から23㎝である。Ｐ2もＰ1と同様に貼床部分を掘り込んで掘られており、住居使用時に開口していたと考えられる。Ｐ1に比べると、覆土のしまりが弱い。壁に沿って、土器片が流れ込んだように検出したことからも柱穴ではないように思われる。Ｐ3は平面形が長軸約50㎝×短軸約47㎝の不整楕円形で、深さが確認面から35㎝。貼床の下から検出した。貼床土を施す前に埋め戻されたと考えられる。大きいロームブロックを多量に混入した土を用い、硬く埋められている。

周溝　北辺・西辺の壁際からはやや幅広の浅い周溝が巡る様子が確認されたが、南辺のSI-82の覆土を掘り込んで作られた範囲については、断面では周溝の存在が記録されているが、平面的には土の判別が難しく確認できていない。東辺は後世の削平の影響で検出しないようである。周溝の幅は17〜32㎝で、周溝内にみられる埋土はローム粒の多い黒褐色土である。位置的に東辺の周溝上に遺存していたと思われる№3の須恵器坏は、平面上で周溝が追えなくなる部分にあたるため周溝との関係はつかめなかったが、SI-02の壁際から出土した遺物と似た検出状況と記録されている。

掘方　５〜15㎝の深さで掘り下げられる。ロームと黒色土を用い、硬くしっかり埋められている。焼土も多く入るため、赤色の目立つ床となっている。カマドの周囲やＰ1の北側範囲の床面が特に硬い。

カマド　北壁のほぼ中央に位置する。カマドの上部構造は残っていないが、カマドにみられる覆土は、下層に焼土の多い土、上層に白色の粘土を含む天井構築土の一部と思われる土からなる。燃焼部は浅く掘り窪められる。カマド掘方の壁面や底面の一部に炭化物の多い層が残っている。ソデ部の痕跡は確認できなかった。

ＳＩ-３１

位置　C-２区の東部中央、ソ-21グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　カマドを含む北壁部がSI-82の南西部と重複し、これより新しい。

規模・形状　後世の土地利用のため、上部は大きく削平され、確認面から床面に達する攪乱が多い。また、西壁と南壁が攪乱溝によって壊される為、東西残存で3.45m、南北残存で3.52mの範囲の調査となった。明瞭ではないが、南壁は下場の一部がかろうじて確認できるため、南北の規模は概ねこの測定値と大きく変わらないと思われる。平面形は推定で隅丸方形とした。北壁のカマドの造られた部分がやや内側に入る形状を示す。

主軸方向　カマドを中心として東壁に平行な方向で、N−35°−Eの向きをとる。

壁・床　確認面から床面までの深さは約12㎝。確認できた壁は緩やかに立ち上がる。床面は３〜５㎝の厚さで貼床が施され、部分的な凹凸は見られるが概ね平坦に整えられている。カマド前面から住居中央部にかけて特に硬い部分がみられる。

柱穴　貼床を除去した面で南壁に近い位置から１本検出した。床面では確認できなかったが、住居使用時に開口していたと考えられる旨、所見がある。攪乱により柱穴の形状が不明瞭となる部分もあり、あまりしっ

かりとした掘方ではない。平面形は長軸約40㎝×短軸約35㎝の不整円形で、深さが確認面から約16㎝。ほかに、ピット状の浅い掘り下がりも２ヶ所見られたが、柱穴とは判断しがたい。

周溝　カマドの西側である北西壁に沿った範囲でのみ確認できた。その他は削平や攪乱等の影響か検出しない。周溝の幅は16～27㎝。

カマド　北壁中央やや東寄りに位置する。先行するSI-82と重複する為か、カマド部分がやや壁の内側に入る。カマド部分の掘方埋土最下層とした13層はSI-82の覆土と重なる弱い部分を埋め固めた土であろう。カマドの遺存状態は悪いが、構築土として左ソデの基部が僅かに残り、この部分については、ソデの芯とその内面に貼った土が良く観察できた。カマド燃焼部の手前に浅い掘り込みが見られたが、これはSI-30と共通する特徴である。しかしSI-30の場合と異なり、凹部に軟らかい黒褐色土が入っているため、床面として固められず開口していた可能性がある。

ＳＩ-３２

位置　C-２区の中央部を僅かに南東へ寄る、ソ-22グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　重複する遺構はない。

規模・形状　上部は後世の土地利用により深く削平され、これにより東半分は消滅している。また、南東隅の壁の立ち上がり部分は攪乱溝に壊される。規模は東西不明、南北は2.66ｍを測る。

主軸方向　比較的残りの良い西壁に平行する方向で、N－40°－Ｅの向きをとる。

壁・床　確認面から床面までの深さは、最も残りの良い部分で約10～16㎝。壁は緩やかに立ち上がる。床面は凹凸が多く見られる。

柱穴　確認範囲では検出しない。

周溝　西壁と南壁の一部に沿う部分から、確認できた。西壁の周溝は比較的明瞭であるが、南壁の周溝は浅くて不明瞭である。周溝の幅は16～30㎝。

施設　検出しない。

掘方　中央から北半分にかけて4～7㎝の深さで掘り下げられ、ロームを中心とした土と、ロームを混ぜた粘性の高い褐色土を用いて埋め戻している。貼床としては、余り硬くない仕上がりである。南側は掘方面をそのまま床面としている。

ＳＩ-３５

位置　C-２区の北東部、ス-16グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-02・36と重複する。古い順にSI-02→SI-35→SI-36となる。SI-35の立ち上がりは攪乱で不明。この住居の切り合いについて精査した調査区外に面する東西断面部分は、現状の水田耕作の影響を受け、土中の鉄分がかなり下の層にまでしみ込み、覆土が均一に変色してしまっていたため、各住居の覆土の差異が非常に求めづらかった。

規模・形状　東西3.10ｍ以上の規模になる。南北は約1.8ｍの範囲を確認。

主軸方向　南壁に直交する方向で、N－50°－Ｅの向きをとる。

壁・床　確認面から床面までの深さは約40㎝。壁については重複するSI-02・35の覆土中にあり、上記の理由から調査時に確認できなかった。

柱穴　柱穴４本を確認した。Ｐ1は南壁中央にある壁柱穴。平面形が長軸約35㎝×短軸約30㎝の楕円形で、深さが確認面から26㎝。Ｐ2はＰ1の北側にある小形のピット。平面形が長軸約25㎝×短軸約22㎝の不整楕円形で、深さが床面から12㎝。Ｐ3とＰ4は南側の主柱穴の２本とも思われるが、位置が少し壁側に寄りすぎてい

るか。Ｐ3は平面形が長軸約35㎝×短軸約33㎝の隅丸方形で、深さが床面から約13㎝。Ｐ4は平面形が長軸約31㎝×短軸約26㎝不整隅丸方形で、深さが床面から約27㎝。

周溝　西辺で確認できなかった以外全てに巡る。掘方がやや不明瞭であったが、幅は概ね12～17㎝の間に収まる。

施設　確認されない。

掘方　全体を浅く5センチ内外の深さで掘り下げ、ロームを多く混入した黒褐色土で埋め戻し、黒色土の多い土でしっかりとした貼床を施している。

カマド　確認範囲からは検出しない。

ＳＩ-３６

位置　Ｃ-２区の北東部、ス-16グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-02・35と重複する。古い順に、SI-02→SI-35→SI-36となる。

規模・形状　北側が調査区外へ続く。東西の規模は約5.3m程度か。南北の規模は約1.4m以上となる。

主軸方向　南壁に直交する方向で、N－56°－Ｅの向きをとる。

壁・床　壁は南西のコーナー部分のみ僅かに確認できた。他の部分では壁の立ち上がりはほとんど確認できない。床面までの深さは確認面から約15～25㎝。

柱穴　南壁に近い場所の貼床の下から、埋め戻されたピット状の窪みが検出しているが、いつの段階で掘られたものかは判断できない。

周溝　確認した南西部分で巡る。掘方の幅は15～25㎝の幅広でしっかりした周溝である。

施設　確認されない。

掘方　SI-35の貼床土よりもやや明るい黒褐色土の混じる土で貼床が施されている。

カマド　確認範囲からは検出しない。

ＳＩ-５４

位置　Ｃ-２区の中央部やや北。セ-20グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-16・17・21と重複し、SI-21より新しく、SI-16・17より古い。

規模・形状　SI-54を切るSI-16と17は、確認できた覆土が１～５㎝程度と浅く、SI-54の壁をあまり壊していない。この為、SI-54の平面規模はSI-16と17の覆土除去後の壁の立ち上がりをそのまま対象として測定した。平面の形状は、カマドのある北壁が対面する南壁より短く、僅かに台形状を呈する方形である。東西4.0～4.45m、南北3.6mを測る。

主軸方向　カマドを中心として南壁に直交する方向で、N－38°－Ｅの向きをとる。

壁・床　確認面から床面までの深さは約20～24㎝。壁はほぼ垂直に近い角度で立ち上がる。床面は古い順からＡ→Ｂ→Ｃの３面確認された。少なくとも２回の建て替え、もしくは拡張が行われている。周溝の掘方より判断すると、最終床面にあたる床面Ｃの段階ではＡ・Ｂ期の床面時の規模より西壁から南壁にかけて外側に広がる拡張がなされているようである。東壁はほぼ共通している。東西の土層断面図には現れていないが、重複するSI-21の覆土を掘り込んで作られる東壁側に、ロームと褐色土の混合からなる明黄褐色土（しまり強く、粘性は弱い。５㎜以下の黒色粒を少量、粘土粒を極微量含む）で、土を貼り足している部分がみられた。補強のためと思われる。

柱穴　７本を検出した。Ｐ1・3・5・7は拡張後の新しい床面　（Ｃ期）に伴う主柱穴で、深くしっかりとした掘方の柱穴である。土層の断面観察が行えたＰ1・3には柱痕が明瞭に残っている。Ｐ1は平面形が長軸・短軸

共約40㎝の円形で、深さが床面から52㎝。Ｐ3は平面形が長軸約32㎝×短軸約30の円形で、深さが床面から48㎝。Ｐ5は平面形が長軸約34㎝×短軸約30の円形で、深さが確認面から34㎝。Ｐ7は平面形が長軸約33㎝×短軸約30㎝の円形で、深さが確認面から32㎝。Ｐ2・4・６は古い床面（Ａ・Ｂ期）に伴う柱穴と思われる。土層断面の記録はないが、Ｐ6は新しい貼床（Ｃ期）の埋土で埋め戻されていると所見にある。この３本の柱穴の掘方はＣ期の柱穴に比べ浅い。Ｐ2は平面形が長軸約34㎝×短軸約30㎝の不整楕円形で、深さが床面から25㎝。Ｐ4は平面形が長軸約50㎝×短軸約33㎝の楕円形で、深さが確認面から15㎝。Ｐ6は平面形が長軸約36㎝×短軸約32㎝の楕円形で、深さが確認面から15㎝。ほかに壁柱穴の痕跡と思われる壁外へのピット状掘り出し（Ｓ-204・205）が、西壁で二ヶ所確認されている。

周溝　Ｃ期で全周する。周溝の幅は13～24㎝。Ａ・Ｂ期の周溝は掘方に残る西・南壁と東壁の一部で確認した。この古い周溝部分は地山に近いローム土で埋め戻してある。幅は８～20㎝。

施設　確認されない。

掘方　四隅を中心に掘り窪められている。Ａ～Ｃ期の掘方埋土・貼床土については土層観察表に詳しく記述している。

カマド　北壁中央やや東寄りに位置する。最終的なＡ期のカマドは古いＢ・Ｃ期のカマドを壊した上に貼り土を施し、旧カマドの構築土や燃焼物を使って土台を構成している。Ｂ・Ｃ期のカマドはＡ期のカマドに完全に壊されるが、カマド前面の掘方から古いカマドは新しいカマドより内側に作られていた可能性がある。Ａ期のカマドは検出状態で天井部の構築土が観察されず、人為的に取り除かれた形跡がある。ソデ部分は残されている。それぞれの詳しい説明は土層観察表に記す。

ＳＩ-２１０

位置　Ｃ-２区の東部中央、ソ-20グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-18・19・20・21、S-209と重複する。SI-20、S-209より新しく、SI-18・19・21より古い。

規模・形状　西側を重複する竪穴住居跡群に壊されるため、東半部のみの確認となる。南北の規模は確認範囲で3.15ｍを測る。

主軸方向　カマドを中心として南壁に平行する方向で、Ｎ−123°−Ｅの向きをとる。

壁・床　確認面から床面までの深さは約13～16㎝。壁は緩やかに立ち上がる。貼床は薄く１～２㎝程度施され床面を平坦に整えている。

柱穴　確認されない。

周溝　確認範囲で北東隅から南壁にかけて切れ切れに巡る。床面で確認した周溝の幅は３～11㎝。掘方に残る北壁側の周溝状の溝は、消滅した西壁方向に向かって竪穴住居の平面が狭くなる様子を示す。

施設　中央部から床下土坑が１基検出した。床面より確認。覆土は上部が黒色土、中位から下位が黄褐色土と黒褐色土の混合層からなる。平面形は長軸約96㎝×短軸約60㎝の隅丸長方形を呈す。深さは確認面から48㎝を測る。床下土坑としては形状や向きがそぐわないように思えるが、SI-210の覆土確認面では検出せず、住居の掘方を切っているので、本住居に伴う床下の施設とした。

掘方　床下土坑の東側に、周囲に比べ一段掘り下がる部分が見られる。また、南壁に近い位置に浅いピット状の凹部が並ぶ。これら以外は平均的に５～10㎝程度掘り下げ、ロームブロックを混ぜた粘質の黒灰色土で埋め固めている。

カマド　東壁中央南寄りに位置する。遺存状態は良好で、天井部は潰れているがソデから天井にかけての構築土の様子がよく観察できる。両ソデは、円形の小ピット状に掘り窪めた地山上に、硬い粘質のロームの塊を据え、これを芯に周りにローム粘土を混ぜた土を下から順に貼り加え形を整えている。天井高架部分にも浅黄色の砂質ロームから成る煉瓦ブロック状の塊を使用している。

ＳＩ-２１１

位置　C-２区の東部中央、セ-20グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-14・16・17・18・19・20・21・220・272と重複する。SI-20・272より新しく、SI-14・16・17・18・19・21・220より古い。

規模・形状　竪穴住居跡の上半部は重なり合って切り合う新しい竪穴住居跡群によって壊される。中位以下の覆土と壁・床面、床下構造は良く遺存する。確認した最終掘方での平面形は、西壁が東壁より短く南北壁が東壁に向かって広がる、形状の歪んだ横長の方形を示す。規模は短辺の西壁が約3.5m、長辺の東壁が約4.5mを測る。東西は5.0～5.2mである。

主軸方向　カマドを中心に対面する南壁に直交する方向で、N−48°−Eの向きをとる。

壁・床　確認面から床面までの深さは約12～20㎝。壁は比較的緩やかな角度で立ち上がる。床面はやや凹凸が見られるが、焼土・炭化材が混入する硬くしまった黒土とロームを用いて貼床を施している。カマドの西側からＰ4の東半分、Ｐ6の北半分、東壁側の古い周溝上部を繋ぐ範囲の床面が特に強く硬化している。南西隅掘方部分の上部にあたる範囲においては、しまりなく脆い黒色土が薄く遺存していた。新しい周溝の端部から続く床面上に部分的にみられる。周溝内に立てた板から繋がるように敷かれた敷物等の痕跡か。

柱穴　壁柱穴２本、柱穴４本を検出した。Ｐ1・２とした壁柱穴は、東西両壁のほぼ中央の位置から検出した。対面する位置にあり、それぞれ開口部から底部にかけて住居の中心から外側に向かう角度で掘られている。Ｐ1は平面形が長軸約26㎝×短軸約24㎝の不整円形で、深さが住居確認面から32㎝。Ｐ2は平面形が長軸約33㎝×短軸約28㎝の不整円形で、深さが住居確認面から25㎝。Ｐ4・6は床面上から検出した。Ｐ4とＰ6の覆土の特徴は異なり、Ｐ6の覆土は褐色粘質土と黒色土粒、炭化物が細かく混ざり合い、カマドを壊した後に周囲に流出するカマド廃棄土に似る。Ｐ4にはこの特徴がない。Ｐ6は柱穴ではなく、入り口施設に関わる土坑状掘方の可能性もある。Ｐ4は平面形が長軸約68㎝×短軸約65㎝の不整楕円形で、深さが床面から46㎝。Ｐ6は平面形が長軸約68㎝×短軸約67㎝の不整楕円形で、深さが床面から38㎝。Ｐ3・5は貼床を除去した段階で検出した。Ｐ3は柱痕が明瞭に残る。柱を抜いた後、上部が埋め戻されている。Ｐ3は平面形が長軸約35㎝×短軸約32㎝の隅丸方形で、深さが床面から58㎝。Ｐ5には柱抜き取り痕が認められる。柱を抜いた後の柱穴上部を、ローム混じりのしまりの強い土を用いてしっかりと埋め固め、周囲の床面と同化させている。SI-211より古い遺構の可能性も考えられるが、柱穴内埋土の２層と１層は類似した土であるため、SI-211に伴う古い段階の柱穴とし、内周の周溝の時期に伴う柱穴と判断した。Ｐ5は平面形が長軸約70㎝×短軸約45㎝の不整楕円形で、深さが床面から50㎝。

周溝　二時期分確認でき、古い段階の周溝は東壁より約40㎝内側と南北壁のやや内側を切れ切れに巡る。西壁部分は共通していたと思われる。新しい段階の周溝は工具痕が明瞭に残り、舌状の鋤先の幅分で、一撃ずつ掘った様子が観察できる。東壁に沿う範囲の底面は水平であるが、西壁に沿っている範囲では底面が西から東にかけて下に傾斜する。住居内側の東方向から西壁側に斜めに向かって掘った結果と思われる。周溝の幅は15～20㎝である。両時期とも北東隅で壁が大きく張り出す部分については周溝が認められなかった。

施設　西側中央部より、床下土坑１基を検出した。平面形が長軸約65㎝×短軸約63㎝の整った円形で、底面

が中央に向かって丸く窪む。深さは確認した掘方面から約19㎝を測る。覆土は最下層が自然堆積の黒色土であるが、その上部は一括で埋められた人為的な埋め戻し土である。ほかに、類例無く性格が不明であるが、南東隅に２本のピット状掘り込みとその間を繋ぐように掘られる周溝状の細い溝が検出した。この部分で壁内側の周溝が２～３㎝ほど周溝底面より深く掘られる浅い凹部によって途切れる。周溝状の細い溝の底面レベルは竪穴住居跡内を巡る周溝と同じで、ピット状掘り込みの底面は溝の底面よりさらに10㎝ほど低い。

掘方　Ｐ3の周囲にあたる北西隅と南西隅が若干下がる以外は、全体に２～８㎝程度の深さで掘り下げ、細かいロームブロックを混ぜた粘性の強い褐色土で硬く埋め戻している。

カマド　北壁中央東寄りに位置する。SI-211の上に造られSI-19のカマド掘方により壊されるため、上部構造がほとんど残っていない。火床面上に据えられていたと思われる、砂質粘土のブロックが遺存する。上面と外周を平らに整え全体を丸みのある台形状に整形している。同様なブロックの遺存はSI-19にもみられる。

ＳＩ-２１４

位置　C-２区の東部中央、ソ-19グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-12・13と重複する。SI-13より古い。SI-12との新旧関係は不明である。

規模・形状　カマドのみ確認した。

土層の断面記録がないが、カマドを構成した構築土と直下の掘方を観察している。燃焼部と思われる楕円形の浅い凹部中央に、被熱して硬化した黒色土と焼土ブロックの混合土が見られた。

ＳＩ-２２０

位置　C-２区の東部中央（住居密集）部、ソ-20グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-18・19・20・211・273と重複する。SI-19・20・211より新しく、SI-18より古い。SI-273との新旧関係は不明である。

規模・形状　カマド部分のみの確認である。両ソデ部を含む構築土のほとんどをSI-18に壊されるため、掘方と火床面の一部、奥壁から煙道にかけての立ち上がり部分のみ調査した。

主軸方向　カマド掘方の中心軸を主体として、N−14°−Wの向きをとる。

カマド　火床面から奥壁にかけて緩く立ち上がり、段を持って煙道部へと続く構造である。煙道部手前の奥壁にロームの塊が据えられ強く被熱している。崩れ落ちた天井部の構築土の下に火床面に溜まった灰黒色土が遺存する。火床面の下は掘方として深く掘り窪められ、しまりの強い土で埋められている。このカマド掘方埋土の最下層には、１㎝ほどの厚さで強く被熱して硬くなった部分が有り、カマドの作り替え等があったとも考えられる。

ＳＩ-２６２

位置　C-３区の南部、ソ-25グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SD-265・266・270と重複し、これらより古い。

規模・形状　北西隅の上部をSD-270に、中央より南側を横断するSD-265と267に壊される。また、覆土上部には、後世の土地利用により削平された後盛られた硬い土が部分的に深く入っている。南壁は溝に切られ消滅しているため、確認できた規模は東西で約4.1m。

主軸方向　カマドを中心として北壁に直交する方向で、N−44°−Ｅの向きをとる。

壁・床　確認面から床面までの深さは約15～18㎝。壁は緩やかに立ち上がる。床面は軟らかく大きく凹凸をもつ。

柱穴　柱穴１本を検出した。南半部の上面はSD-265に壊される。平面形が長軸約37㎝×短軸約25㎝の円形

で、深さが床面から30㎝である。位置的に入り口ピットか。

周溝　カマドの東に当たる部分の北壁沿い以外、壊されずに確認できた床面の壁際すべてに巡る。幅は18～26㎝の間で、断面は整った逆台形を呈する。

施設　カマドの東部、東壁に接した位置に浅い土坑状の凹部が認められた。浅い貯蔵穴とも思われるが、掘方の一部の可能性もある。平面形は長軸約71㎝×短軸約50㎝の不整楕円形で、深さは確認した床面から約10㎝。

カマド　北壁中央東寄りに位置する。上面は削平されているが、崩落した天井部とソデの痕跡からカマドの基本構造は観察できた。掛け口・煙道端部は不明。壁外への掘り出しは住居の規模に比して大きい。奥壁に近い部分に、明瞭ではないが火床面と思われる焼土の集中遺存範囲があった。下面は非常に強く被熱している。潰れた天井構築土上部の粘土内に埋もれるように須恵器坏の破損品が出土している。

ＳＩ-２６３

位置　Ｃ-３区の中央北寄り、タ-24グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-267、SD-270と重複し、SI-267より新しく、SD-270より古い。

規模・形状　平面形は東西4.1ｍ、南北3.9ｍの正方形に近い整った隅丸方形を呈す。

主軸方向　カマドを中心として対面の西壁に直交する方向で、Ｎ−27°−Ｅの向きをとる。

壁・床　確認面から床面までの深さは約７～12㎝。壁は垂直に近い角度で立ち上がる。床面はあまり平坦ではなく、西側にやや下がる傾向がある。

柱穴　５本が検出した。いずれも浅い掘り込みで柱痕もなく、主柱穴と確認できるものではない。Ｐ1は平面形が長軸約34㎝×短軸約29㎝の楕円形で、深さが床面から10㎝。Ｐ2は平面形が長軸約45㎝×短軸約23㎝の細い楕円形で、深さは床面から16㎝。Ｐ3は平面形が長軸約33㎝×短軸約25㎝の楕円形で、深さが床面から７㎝。Ｐ4は平面形が長軸約11㎝×短軸約８㎝の円形で、深さが床面から９㎝。Ｐ5は平面形が長軸約25㎝×短軸約22㎝の円形で、深さが床面から10㎝。

周溝　カマド部分以外の範囲で全周する。周溝の掘方は明瞭で、幅は20㎝前後を基本とし、確認時の最も細い部分で７㎝、最も太い部分で26㎝となる。

施設　カマド右ソデの東側に貯蔵穴と思われる掘り込みを確認した。平面形が長軸約85㎝×短軸約72㎝の楕円形で、深さは床面から約25㎝である。南壁側が竪穴の掘方と重なって掘られており、掘り上がりのプランがやや不整で貯蔵穴ではない可能性もある。覆土上位に、カマド使用時の炭・焼土が層状に堆積している。ほか、南壁中央に入り口施設に係わると思われる掘方がある。

掘方　四隅と東西壁際の中央から南の範囲をやや掘り下げている。

カマド　北壁中央に位置する。天井部は崩落し、遺存するソデ部は不明瞭である。特に左側は粘土もほとんど残らない。煙道ははっきりしないが、火床面の掘り込みが浅く下がり、この上に焼土が集中して堆積している。

Ｓ-２６７

位置　Ｃ-３区南部、タ-24グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-263、SD-270と重複する。当住居跡が最も古い。

規模・形状　北西部を東から西にかけて伸びるSD-270に切られ、南壁の中央部をSI-263のカマドに壊される。また、北壁に近い部分を東西に伸びる細い攪乱溝に壊される。後世の土地利用により、住居の上部はそのほとんどが消滅し、床面が確認時にはほぼ露出している状態であった。そのため覆土については、部分的

な痕跡しか確認できなかった。住居のプランはごく僅かに残った壁の立ち上がりと、その内側に部分的に巡る周溝の位置関係から確認した。検出範囲で東西約3.4m、南北約3.1m。東壁が対面する西壁に比べ短い方形を呈する。

主軸方向　僅かに遺存するカマドの下位構造を基準にし、カマドの作られる北壁に直交する方向でN−43°−Eの向きをとる。

壁・床　確認面から床面までの深さは最大で３㎝程度。床面も壁と同様、削平の深いところで一部壊されるが、全体に凹凸が多く見られる。

柱穴　確認されない。

周溝　床面が壊されない範囲では壁に沿って検出した。幅は８～25㎝。

施設　北東コーナーに貯蔵穴と思われる、浅い土坑状の掘方が見られる。確認面の上部平面形は、長軸約85㎝×短軸約66㎝の不整楕円形であるが、中位以下の形状は比較的整った隅丸方形を示す。深さは床面から20㎝。

掘方　北西コーナーに若干下がる部分があるが、掘方か。他の面はローム掘方の凹凸を黒色土で平坦に埋め均す程度で、特に掘り下げた状態の処は見られない。

カマド　壁外への掘り出し部分と、粘土と焼土からなるカマド構築土の若干の痕跡のみ確認した。ソデ部分は、ちょうど攪乱溝に壊される位置にあったため残っていない。火床面と思われる範囲は不明瞭だが、掘方面で若干下がる３カ所程度の凹みがこれにあたるか。この面上に僅かに焼土集中部があり、被熱で硬くなっている。

ＳＩ-２７３

位置　C-２区の東部中央やや北、セ-20グリッドに位置する。

重複遺構と新旧・規模・形状　竪穴住居跡が密集して重複する層位から、硬化した床面と床面直上の第一次堆積土、周溝の一部のみを確認し、東西3.4m×南北2.84mの範囲を調査した。SI-273の硬化面（平均レベル57.8m）はSI-14の床面（平均レベル57.85m）より５㎝低くSI-272の床面（平均レベル57.77m）より３㎝高い面で確認された。SI-273の周溝としたものは、SI-272と273の床面を追っていた際確認されたもので、重複するSI-14よりは古いが、SI-272よりは古くならない。SI-272に伴う周溝の掘方とも考えられるが、その場合はカマドの前面に周溝が巡ることと、床面確認範囲より大分内側に巡ることから、最終的な床面以前につくられたやや小ぶりの床面時に伴う周溝となろう。周溝の幅は11～21㎝を測る。

ＳＩ-２７９

位置　C-２区の中央部やや北、ス-20グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-25・280、SX-26と重複する。SI-280より新しく、SX-26より古い。SI-25との新旧関係は不明である。

規模・形状　上部は後世の土地利用により削平を受ける。元来非常に浅い掘り込みからなる住居で、覆土は確認面から３㎝前後の厚さでしか残っていない。更に住居の2/3以上の範囲が他遺構と重複しており、プランの確認を困難なものとしている。SI-25と重複する部分については、新しいSX-26に覆土のほとんどを壊されることと重なって、新旧の関係が判断できなかった。確認できた範囲で東西約4.9m、南北約3.3mを測る。

壁・床　確認面から床面までの深さは約２～４㎝。床面は平坦で硬くしまっている。

柱穴　覆土１層を除去した段階で、床面上に開口する主柱穴が１本検出した。平面形が長軸約34㎝×短軸約33㎝の整った円形で、深さは掘り込まれた床面から約19㎝を測る。底面は平坦で柱痕はない。

周溝　東壁際に薄く周溝らしい窪みが僅かに見られたが不明瞭であり、図示に至らなかった。

掘方　あまり凹凸を作らず、地山である粘質のローム漸移層を平均して10㎝程度掘り下げている。一度掘り崩した土をそのまま用いて掘方を埋め戻し、貼床としている。

カマド　確認されない。

ＳＩ-２８０

位置　C-２区の中央部やや北、ス-20グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　本遺構は、SX-26の北東方向へのプランの広がりと、SX-26と重複するSI-279との切り合い関係を確認するため精査を行っている最中に検出した遺構である。床面の特徴を持つ非常に小型の方形プランが確認され、壁柱穴を伴うことからSI発番とした。SI-279、SX-26より古い。

規模・形状　南東コーナーで重複するSI-279と同様に、極浅い掘方と切れ切れに残る覆土の痕跡のみの確認となった。西半部を攪乱に壊されるため全体のプランは不明である。確認範囲で南北約2.2mを測る。

壁・床　確認面から床面までの深さは約２～４㎝。床面は硬く平坦であった。

柱穴　壁柱穴４本を検出した。Ｐ1・2は北壁から、Ｐ3は東壁から、Ｐ4は南壁からの検出である。

Ｐ1は平面形が長軸約33㎝×短軸約30㎝のほぼ円形で、深さが確認した壁上面から14㎝。Ｐ2は平面形が長軸約30㎝×短軸約25㎝の楕円形で、深さが確認した壁上面から９㎝。Ｐ3は平面形が長軸約37㎝×短軸約32㎝のほぼ円形で、深さが確認した壁上面から21㎝。Ｐ4は平面形が長軸・短軸共約34㎝の楕円形で、深さが確認した壁上面から14㎝。

ＳＩ-３０２

位置　B-１区の南部、ク-16に位置する。

重複遺構と新旧　SD-306と重複し、これより古い。

規模・形状　北壁と北西部を攪乱溝に、東側をSD-306に壊されるため規模は不明であるが、南北約4m、東西約2.4mの範囲を調査した。平面形は推定で隅丸長方形と思われる。

主軸方向　遺存する西壁に平行し、南壁と直交する方向でN−48°−Eの向きをとる。

壁・床　上部の削平のため底面に近い部分の確認となり、確認面から床面までの深さは約５～７㎝と浅い。遺存部分での壁は緩やかに立ち上がる。床面はあまり硬くなく、やや凹凸が見られる。

柱穴　確認されない。

周溝　不明瞭な確認だが、南壁部分で一部検出する。周溝の幅は９～13㎝である。周溝の向きとカマドソデの向きが確認した壁の向きとやや異なる方向をとる。

施設　確認されない。

掘方　あまり大きな凹凸なく、全体を平均して5㎝程度掘り下げている。ロームを主体とした土で埋め戻し、床面としている。

カマド　北壁に位置する。天井部は崩落し、両ソデ部のみ残る。ソデの構築土は記録がないため不明。燃焼物がカマド内に僅かに遺存する。

ＳＩ-７２３

位置　D区の南部、エ-18グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　重複する遺構はなく単独で確認した。

規模・形状　上部が削平され、底面に近い部分の確認となった。平面形は西壁に比べ東壁が短くなる横長の不整隅丸長方形となり、東西は約３m、南北は約1.7～2.3mを計る。

主軸方向　カマドのある北壁に直交する方向で、N−55°−Eの向きをとる。

壁・床　確認面から床面までの深さは約４～８㎝。僅かに確認できた西壁は緩やかに立ち上がる。床面は概ね平坦で、硬く硬化した面と、床面直上に敷いた板か敷物の腐食した土を含む軟らかい部分が混在する。

柱穴　確認されない。

周溝　カマドの両脇を除いて確認範囲で切れ切れに全周する。周溝の幅は10～26㎝である。

施設　認められない。

掘方　全体を最大で7㎝程度掘り下げている。

カマド　北壁中央東寄りに位置する。燃焼面とソデの痕跡、天井部の残存と思われる僅かな構築土が見られるのみである。カマドの掘方は深く掘られており、ロームを多く混ぜた暗褐色土で埋められている

ＳＩ-１０００

位置　Ｈ区の東端部、ユ-61グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　重複する遺構はない。

規模・形状　カマドの一部を含む住居の北東部分が調査区外にある。確認範囲で東西4.84m、南北4.78mを測る。平面形は、ほぼ正方形に近い整った方形が予測される。

主軸方向　カマドを中心として対面の西壁に直交する方向で、N−13°−Eの向きをとる。

壁・床　確認面から床面までの深さは約20～35㎝。壁は緩やかに立ち上がる。粘土とロームを混ぜた、しまりの強い暗灰黄色土で硬く平坦に貼床を施している。床面の貼り直しは最低一度以上行われたようである。住居の西半分は東側に比べ、床面がやや低くなる傾向が見られる。

柱穴　入り口ピットと主柱穴３本を検出。北東に位置にあると推定される４本目の主柱穴は確認できなかった。柱穴はすべて柱が抜かれた状態である。Ｐ2とＰ3は最終の生活床面上で確認できた。Ｐ1とＰ4は貼床である11層を少し剥がした面で明確になった。Ｐ1は平面形が長軸約46㎝×短軸約45㎝の楕円形で、深さが床面から40㎝。Ｐ2は平面形が長軸約50㎝×短軸約48㎝の隅丸方形で、深さが床面から42㎝。Ｐ3は平面形が長軸約46㎝×短軸約42㎝の円形で、深さが床面から35㎝。Ｐ4は平面形が長軸約32㎝×短軸約30㎝の円形で、深さが床面から32㎝。

周溝　巡らない。掘方の面で周溝の様な細い溝状の掘り込みが壁に沿って残っている部分があるので古い段間で周溝を伴った構造であったことも想定できる。

施設　確認範囲からは検出しない。住居の北東部が調査区外に伸びるので、この部分に貯蔵穴等の施設が残っている可能性はある。

掘方　中央部と壁の面に沿って巡る幅広の範囲が、他面にくらべやや低く掘り下がる。掘方の深さは床面から最大で20㎝である。掘方を埋めた土は層状に数種類観察され、床面の施工が最低２回以上行われているようである。

カマド　北壁中央やや東寄りに位置する。遺存状態は良好で、潰れてはいるが天井部を含むカマド構築土が全体に良く残っていた。天井部上面中央に縦に並ぶ円形の僅かな窪みは、掛け口の痕跡と思われた。詳しくは土層注記表を参照。

ＳＩ-１００７・１００９

位置　Ｅ区の南東部、ヌ-35グリッドに位置する。

重複遺構と新旧・規模・形状　Ｅ区の南東部は、後世の土地利用により深い削平と多くの細かい攪乱を受け、古代以降の遺構の検出は僅かな覆土と掘方の痕跡のみとなったものが多い。SI-1007・1008・1009・

1110はその中でカマドの痕跡が認められたため、住居として調査したものである。台地のローム中を掘り込む遺構と異なり、地山と覆土の差異が少ない黒色土中を掘り込み、遺存部分が非常に限られるこれらの遺構は、住居としての判別が適切でない可能性も残るが、調査中の所見に基づき、低い地域に残された遺構の可能性を出来る限り記録した。SI-1007はカマドの痕跡とＰ1～5とした柱穴・土坑状の掘り込み部、断面で確認できた周溝部からなる。Ｐ1～5の配置に対してカマドは東向きに位置している。Ｐ1は平面形が長軸・短軸共約48㎝の円形で、深さが床面から18㎝。Ｐ2は平面形が長軸約76㎝×短軸約67㎝の円形で、深さが床面から34㎝。Ｐ3は平面形が長軸約99㎝×短軸約74㎝の楕円形で、深さが床面35㎝。Ｐ4は平面形が長軸約110㎝×短軸約65㎝の不整隅丸長方形で、深さが確認面から28㎝。Ｐ5は平面形が長軸・短軸共約75㎝の不整円形で、深さが床面から30㎝。SI-1009については、カマドをメインとして確認し、発番した。カマドを構成した角柱状の被熱ロームブロックが良く遺存していた。SI-1007とSI-1009のカマドは近接し、新旧関係は僅かな掘方の切り合いのみに頼るが、SI-1007がSI-1009に先行するものとした。同住居のカマドの作り直しの可能性も否定できないが、その場合は新しい掘方を持つSI-1009発番のカマドがSI-1007発番のカマド掘方に対して内側に移動した扱いになる。カマド以外の掘方に対しては、SI-1007に関してのみ、かろうじて床面の形跡と僅かに遺存した覆土を確認した。覆土の残る範囲内からは遺物が検出するが、平面的な位置関係からSI-1008・1009に属する可能性もある。SI-1007のＰ番号で発番している同範囲内から検出した柱穴もしくは床下土坑についても同様である。

ＳＩ-１００８

位置　Ｅ区の南東部、ネ-34グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　重複する遺構はない。

規模・形状　カマドのみの確認となる。

主軸方向　遺存するカマドの中心を主体として、Ｎ−41°−Ｅの向きをとる。北東に近接して位置し、やはりカマドのみの確認となったSI-1110の主軸方向も、ほぼ同じ向きをとっている。

カマド　燃焼部の掘方とその上に残る構築土の痕跡からなる。ソデ部は消滅している。天井部を構成していたと思われる土は粘質のロームをブロック状に多く混入し、被熱し崩れた脆い焼土が塊で入る。その下面から遺物が出土し、ここが火床部であったと思われる。直下の掘方は椀状に掘り下げられている。

ＳＩ-１１０７

位置　Ｅ区の南東部、ヌ-35グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SK-1114・1115と重複する。SK-1115より新しく、SK-1114より古い。

規模・形状　上面削平のため竪穴住居本体部分は失われており、重複する遺構や深く入った攪乱のなかでかろうじて検出したカマド部分のみ調査を行った。

カマド　住居廃絶時に壊されて廃棄されたのか、構築土がカマドの形を留めず周囲に散乱している。切石状の粘土ロームの塊や焼土と炭化物の多く入った黒色土の範囲がカマドの名残を示す。掘方も明瞭ではないためカマドの方向や形状が判別できないが、近くから正位で発見された土師器坏は、その内面に焼土と炭化物を主体とした土が入っており、これは特にこの坏内に蓄えた土と思われ、カマドとの関連が想像される。坏が埋まっていた土層（４層）は、カマド使用により発生した焼土粒・炭化物粒混じりの土が広がった範囲であるが、坏と４層との間に焼土・炭化物の一切混入しないくすんだ褐色土（３層）が充填されており、掘り込んだ部分に坏を具合良く据えるためにわざわざ別の土を用いた痕跡が伺える。坏検出時は、上面にカマド崩壊後に堆積した黒褐色土（１層）が周囲と同様に残っていたことから、この内部に焼土を蓄えた坏はカマ

ド崩壊前から固定されていたようである。

ＳＩ-１１１０

位置　Ｅ区の南東部、ネ-34グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　Ｅ区の南東部は、植栽痕を含む後世の構築物により攪乱された土が広がるが、この土は古代の竪穴住居跡覆土を由来とするものと思われ、焼土・炭化物を多く含む当該層の検出面において遺物を多く出土する。部分的に住居床の硬化面と思われる範囲が認められたので、この硬化範囲を細かく拾いトーンで図示した。その周辺を住居の広がる可能性のある範囲とし、トレンチと平面観察からなる精査の結果、攪乱された部分と攪乱を逃れ遺存する部分を分層し、断面図を作成した。遺物の出土位置はすべて記録し、平面図ではドットで記している。覆土の広がる範囲と遺物の出土範囲は一致する。この調査の中で、カマドの痕跡と北壁の立ち上がりが確認できた範囲をSI-1110としたが、周囲にも遺構として確認できない覆土が広がっており、この範囲に最低一軒以上の住居跡が存在したと思われる。

また、SI-1110実測図内に、遺構として範囲が捉えられなかったためＥ区出土遺物として掲載した古代の遺物群の出土状況を同時掲載した。出土範囲は古墳時代の竪穴住居跡であるSI-1005の南東隅上部から、カマドのみを確認したSI-1008の西側に及ぶ。これらの出土レベルは、57.63m～57.77mの範囲に収まり、このレベル面において、これらの遺物を伴う遺構（住居跡の可能性が高い）が存在したと思われる。SI-1008に伴う遺物も含まれる可能性があるが、判別が難しいので別扱いとした。

規模・形状　不明。

主軸方向　カマドの方向を主体にしてＮ−43°−Ｅの向きをとる。

柱穴　確認されない。

周溝　確認されない。

カマド　火床面と思われる浅い掘り込み部分に炭化物・焼土が堆積している。燃焼面にたまった焼土を主体とする。カマドの内壁を構築している砂質ロームブロックが崩れてこの層内に混入している。奥壁の立ち上がりは不明瞭であるが、この砂質ロームブロックが残るところからやや北に寄った位置が煙道へ続く部分か。

ＳＩ-２１１０

位置　Ｆ-２区の南部、へ-49グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-2111、SD-1403と重複する。両遺構より古い。

規模・形状　西側をSD-1403に壊され、上部は削平を大きく受けているため、ほとんど遺存していない。カマドの掘方と北東コーナーの僅かなプランの痕跡のみ確認した。

主軸方向　カマドの方向を主体として、Ｎ−23°−Ｅの向きをとる。

カマド　北壁に位置する。壁外に張り出した掘方の形状と燃焼部内の堆積焼土のみを確認した。

ＳＩ-２１１１

位置　Ｆ-２区の南部、へ-49グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-2110、SD-1403と重複する。SI-2110より新しく、SD-1403より古い。

規模・形状　東に張り出すカマドの痕跡のみ確認した。住居本体はSD-1403によってすべて失われている。

主軸方向　カマドの方向を主体として、Ｎ−89°−Ｅの向きをとる。

カマド　カマドの向きから、東壁に位置していたと思われる。SI-2110の薄く残る覆土確認面より検出した。SI-2110のカマドから発生した燃焼物を埋めた土坑状の窪み等を疑ったが、SI-2110の堆積が進行した覆土上

面より掘られており、直に被熱する動いた土では無いようであるため、切り合う別遺構とした。

ＳＩ-２１１３

位置　F-２区の中央部、フ-48グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-2114・2117・2119、SK-2341・2363と重複する。SI-2117・2119より新しく、SI-2114、SK-2341・2363より古い。

規模・形状　北側を重複する新しい遺構によって壊されるため、南東コーナーから南壁にかけて失われている。確認できた範囲から、規模は東西約3.7m、南北は約2.6m以上になる。

主軸方向　方位はカマドを中心として北壁に直交する方向で、N−24°−Eの向きをとる。

壁・床　西側に壁を掘り広げる拡張に伴い床が一度以上貼り足されており、最低二時期分の床面が認められた。一時期目は、掘方面をロームを多く含む黒褐色土を用いて部分的に埋め戻し、床面を形成している。二時期目は、壁の拡張を行った後、一時期目の貼床土の上にカマドで発生した焼土等を混ぜた黒褐色土を薄く貼って床面としている。確認面から床面までの深さは一時期目の床面で平均約22㎝、二時期目の床面で平均約20㎝である。壁は概ね垂直に立ち上がる。

柱穴　北東部から隅丸方形のピットを検出した。規模は長軸約48㎝×短軸約47㎝、深さが床面から12㎝を測る。一時期目の床面除去後検出した。上半部は軟らかい土で埋め戻されている。浅いため、柱穴ではなく床下の掘方に伴う小形の土坑の可能性もある。

周溝　平面確認はほとんど出来ず、西壁手前の断面においてのみ僅かに確認できた。これによって二時期の床面に伴い、それぞれ周溝を有していたことが分かる。

掘方　SI-2117の覆土中を掘り込むため、平面での観察が難しかった。断面観察でSI-2113の掘方埋土とした部分も、SI-2117の覆土である可能性も残る。

カマド　北壁中央に位置する。天井からソデにかけて崩落しつぶれている。掛け口は観察できない。竪穴の拡張の際にカマドも補修・作り直しが成されたようで、壊した古いカマドの残存土の上を平坦に埋め整えている。

ＳＩ-２１１４

位置　F-２区の中央部、フ-48グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-2113・2117、SK-2341・2342・2344・2363と重複する。SI-2113・2117より新しく、SK-2341・2342・2344・2363より古い。

規模・形状　平面上で壁を検出させることが出来ず、断面で観察できた壁の立ち上がりを参考にプランを復元した。これによって規模を東西約4.2〜4.7m、南北約3.3m程度と推定した。

主軸方向　カマドを主体として、N−13°−Eの向きを求めた。

壁・床・掘方　SI-2113・2117の覆土中を掘り下げているため、掘った部分の壁が崩れないように掘方の周囲を固めた形跡がある。土は掘り込んでいる古い竪穴住居跡の覆土をそのまま使ったらしく、断面観察部ではSI-2117のＢ層とほぼ同様なオリーブ褐色土が認められた。掘方全体の埋土も、同様に掘り返した土をメインに用いており、最上部は同じ土の粘性を強めて硬く埋め立て、貼床としている。本住居のプラン確認が困難であった要因の一つである。確認面から床面までの深さは平均すると約10㎝前後で、壁は緩く外傾して立ち上がる。

柱穴　確認されない。

周溝　平面での確認がほとんど出来ず、東壁の断面観察箇所においてのみ僅かに確認した。掘方の深さは非

常に浅く幅は25㎝程度であった。

カマド　北壁の中央に位置する。上部構造は崩落し形を留めない。つぶれた天井・ソデの構築土は周辺に広く流れ、堆積土と混じっていく。このカマドは、カマド構築土の特徴を持った土を層状に貼り、床面として均した面を上部構造の構築面としており、古いカマドからの作り直しがあったようである。壁外に掘り出した奥壁から煙道に続く部分は古いカマドのものが残っている。カマドの掘方面を、先行する住居覆土と同じ土で埋め固め直す点は住居全体の壁・床面の作りと同じである。

ＳＩ-２１１６

位置　F-２区の中央部からやや南東寄り、へ-49グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SD-1402・2104と重複し、これより古い。

規模・形状　南東側の半分をSD-1402に、北西隅の上部をSD-2104に壊される。遺存した範囲で、東西約３m、南北約3.3mの規模。平面形状は隅丸方形が推定される。

主軸方向　北壁に直交する方向で、N−33°−Wの向きをとる。

壁・床　確認面から床面までの深さは約20〜25㎝。壁は緩やかに立ち上がる。

柱穴　確認されない。

周溝　西壁と南西隅部にかけて検出した。周溝部分は、黒色土とロームブロックを多く混合する浅い黄色土を用いて交互に埋められている。周溝の掘方幅は13〜20㎝である。

施設　確認されない。

掘方　全体を５〜12㎝掘り下げ、黒色土とロームの混合土で貼床を施している。貼床の上面は硬くしまる。

カマド　北壁中央と南東コーナーにカマド構築の痕跡が認められる。双方とも住居廃絶時には取り壊されている。その後、廃棄住居内に堆積した覆土は北方向からの自然堆積の状況を示すが、壊されたカマドの構築土やカマド使用時に発生した土の影響を強く受ける。カマドを取り除いたときに出たカマド関連土が住居廃棄時に周囲に残っており、これらが取り込まれながら住居が埋まっていったようである。二つのカマドの新旧関係であるが、上述の覆土に見られたカマド土の混入の特徴は、北東コーナー部分より北壁のカマド痕跡の周囲の覆土に強く見られるため、北東コーナーのカマドの取り壊しの時期のほうが古く、北壁中央のカマドが住居廃棄直前まで使われていた新しいカマドではないかと推測した。

ＳＩ-２１１７

位置　F-２区の中央部、フ-48グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-2113・2114・2119、SE-2117、SK-2170・2174・2340・2341・2344・2347・2363と重複する。SI-2119より新しく、SI-2113・2114、SK-2170・2174・2340・2341・2344・2347・2363、SE-2117より古い。

規模・形状　中央から西側の覆土と壁の中位以上、カマド部分はSI-2113・2114との重複で失われている。規模は確認範囲で東西約4.5m、南北約5.3m。平面形はやや南北に長い隅丸方形を呈す。

主軸方向　東西壁に平行する方向で、N−06°−Eの向きをとる。

壁・床　確認面から床面までの深さは約30〜40㎝。東壁は中位まで概ね垂直に中位から上位にかけてはやや開いた角度で立ち上がり、西・南壁は平均して概ね緩やかな角度を保って立ち上がっている。北壁は周溝部分のみ確認したので不明。床面には二枚の貼床が認められる。床面直上に部分的に見られる灰黄色の薄い土は、炭化材・灰・焼けた粘土からなる層で、この面で何かが燃えた結果の遺存層と思われる。火災住居ほどの大規模な燃焼ではないので、廃棄した住居における不要部分の始末行為の一端かもしれない。廃棄の流れ

としてはその後柱穴から残った柱材を抜き取り、硬くしまった褐色土で竪穴全体を埋め戻している。

柱穴　主柱穴４本と入り口ピット１本を検出した。ちょうど土層観察断面下にあたったＰ4以外、貼床を除去した面で確認した。Ｐ2とＰ4の主柱穴には抜き取り痕があり、柱を抜いた痕の空間に周囲の貼床土と覆土が流れ込んだ様子がよく観察できる。入り込む覆土は竪穴の中位までを占める人為的な埋土で、柱を抜いた直後に竪穴住居の埋め戻しが開始されたことが分かる。柱穴は４本ともしっかりした平坦な底面を持ち、筒状に整った断面形状で掘られている。４本の位置関係は竪穴住居の平面形状に対応して、東西間が短く南北間が長い縦長の配置になっている。Ｐ1は平面形が長軸約67㎝×短軸約63㎝の円形で、深さが掘方平坦面から40㎝。Ｐ2は平面形が長軸約55㎝×短軸約51㎝の不整楕円形で、深さが掘方平坦面から53㎝。Ｐ3は平面形が長軸約48㎝×短軸約47㎝の不整楕円形で、深さが掘方平坦面から48㎝。

Ｐ4は平面形が長軸約61㎝×短軸約42㎝の楕円形で、深さが掘方平坦面から50㎝。南壁に近い中央部から検出したＰ5は位置的に入り口ピットと思われる。掘方埋土が崩れたような、黒色土がやや混じった土で埋められ、上部を2枚の貼床で塞いでいる。一枚目の貼床は一段低く、二枚目の貼床の土は周囲の床面と連続する。平面形は長軸約40㎝×短軸約33㎝の不整隅丸方形で、深さが掘方平坦面から27㎝。

周溝　竪穴住居跡の重複によって壊される北壁中央部分を除いて、全周するのを確認した。貼床の上から掘られている周溝で、ロームを多く混ぜた暗灰黄色土で下部を埋め、その上に黄褐色土が入る。掘方幅は23～38㎝である。

施設　Ｐ1とＰ4の間に大型の円形掘り込みがある。南西壁に小ピット状の窪みを伴う。この範囲の貼床は周囲と異なり、カマド発生の土を利用して施されている。床下土坑と思われる。長軸約1.6ｍ、短軸約1.4ｍを測り、深さは床面から12～17㎝。

掘方　北東部以外の三隅をやや深く掘り下げるほかは、全体に概ね平均した深さで掘り下げている。平坦部は深さ床面から５～10㎝、深い部分は最深で20㎝程度。掘方の埋土はロームと黒色土を主体とするしまりの強い単層。

カマド　カマドは推定で北壁中央に位置していたと思われるが、ちょうどこの部分が本住居を切る他住居のカマド部分に当たるため、カマドの上部構造、掘方ともに完全に壊され存在しない。

ＳＩ-２１１８

位置　Ｆ-２区の北部、フ-44グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SD-2106・2107と重複し、これより古い。

規模・形状　東西約4.2ｍ、南北約4.0ｍの隅丸正方形を呈す。南東隅がやや内側に入る。

主軸方向　カマドを中心として、N−24°−Wの向きをとる。

壁　確認面から床面までの深さは約18～20㎝を測る。壁は緩く外傾して立ち上がる。

柱穴　貼床除去後、４本の主柱穴を確認した。Ｐ1は平面形が長軸約40㎝×短軸約35㎝の不整隅丸方形で、深さが確認面から50㎝。Ｐ2は平面形が長軸約40㎝×短軸約36㎝の楕円形で、深さが確認面から53㎝。Ｐ3は平面形が長軸約45㎝×短軸約41㎝の不整隅丸方形で、深さが確認面から42㎝。Ｐ4は平面形が長軸約45㎝×短軸約37㎝の楕円形で、深さが確認面から51㎝。いずれも底面に平坦部を持ち、断面形状は逆台形を呈す。

周溝　カマド範囲を除き、壁の形状に沿って全周する。溝の幅は13～33㎝である。

施設　確認されない。

掘方　東壁側から南東コーナーにかけて浅く細い溝状の掘方が検出した。床面で確認できた周溝の位置より内側に入る位置で、掘方は不明瞭であったが、古い段階の周溝の痕跡であろう。同じく対面の西壁から南西

コーナーにかけて幅広の掘方が広がるが、これも古い周溝に関わるものか。また、竪穴中央に円形の浅い窪みがあり、掘方の一部としたが、古い柱穴の痕跡かもしれない。カマド前面の掘方はカマドに対して東に寄っている。これにより、古いカマドの存在と位置の変更が想像される。

カマド　北壁中央に位置する。天井部は崩落しているが、ソデ部は良く残る。逆台形に掘ったカマド掘方の底部を、ローム粒以外混入物のほとんど入らない暗褐色土で平坦に整えている。更にその上を今度は同じ土に粘土・焼土・炭化物の粒を加えたもので埋め足し、ソデ部を構築する前の基礎固めを行っている。火床部から奥壁に至る内面は緩やかな傾斜で壁外へと上がっていき、煙道へは急角度をもって繋がるようである。

ＳＩ-２１１９

位置　Ｆ-２区の中央部、フ-48グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-2113・2117、SE-2194と重複し、当住居跡が最も古い。

規模・形状　二時期あり、古いものは東西約4.4m以上、南北約3.6m以上、新しい部分は東西約4.8m、南北約3.6m以上の規模を持つ。

主軸方向　両時期に共通する西壁に平行する方向で、N−08°−Ｅの向きをとる。

壁・床　平面では上手く追えなかったが、断面での土層では最低二時期分の床面が観察できる。新しい床を持つ住居は、古い床面の上にしまりの強い黒褐色土を７～10㎝程度埋め足し、北側に30㎝ほど壁を広げて作られている。この新しい北壁の範囲にはカマド構造の張り出しは見られないことから、当初は、別住居の同位置での重複とも思われたが、新しい床面に伴う東壁の周溝が古い床面に伴う土と同じであり、西壁の立ち上がりが同じ位置と角度で共通していることから、同住居の再構築とした。新しい床面の深さは確認面から平均約15㎝。古い床面の深さは確認面から22～25㎝で概ね平坦に整えられている。貼床面は硬化し、光沢が出るほど強くしまる。

柱穴　古い床面上で、北壁に近い位置から極浅い小ピットを検出したが、柱穴かどうか不明。

周溝　古い床面に伴うものとして、カマド西側から西壁にかけて検出した。この部分の周溝の掘方幅は９～21㎝である。新しい床面に伴うものでは、東壁に一部検出した。この部分の周溝の掘方幅は10～16㎝である。新旧床面両方の周溝に共通する特徴として、掘方底面に直径数センチの極小さい円・楕円状の凹部が認められることである。これは明らかに工具痕とは異なる。図示したものは特に明瞭に確認された部分で、不明瞭な窪みとしてであれば更に多く認められた。杭を挿したようでもあり、黒色土が内部に残る。

施設　確認されない。

掘方　確認面から最深約40㎝の深さで、全体を掘り込んでいる。四隅と中央が特に深く掘られ、大きな凹部内にピット状の小さな凹部が伴う。粘質の黒色土とロームの混合である鈍い黄色土と、粘土粒を含む黒褐色土で掘方面を埋め戻し、粘土の粒やブロック、焼土を多く含む粘質土で貼床を施している。貼床では、部分的に灰土を２～３㎝の厚さで層状に薄く混ぜた部分が見られる。

カマド　古い床面を持つ時期のカマドとして、北壁中央やや東寄りにその痕跡が認められる。天井・ソデ部ともに存在しないが、壁外に掘り出した構造とその前面に見られる掘方からカマドとした。奥壁部分に残っている焼土と炭化物を多く含む橙色土は、構築土の残存であろうか。その前面に広い範囲でカマドで発生した灰土が薄く残っていた。

ＳＩ-２１８９

位置　Ｆ-２区の中央部、フ-47グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SK-2181・2182・2183・2190と重複する。SK-2181・2182・2183より古い。SK-2190と

は新旧関係不明。

規模・形状　小形の竪穴住居跡。上部が削平されており、掘方面で、カマドと貼床のみを確認した。新しい土坑との重複のため、北西角と南・東壁の一部、また床面中央部は大きく壊される。遺存範囲で測定すると、東西約2.4m、南北約2.9mの規模となり、平面形状は南北に長い隅丸長方形となる。

主軸方向　カマドを中心として北壁に直交する方向で、N−13°−Eの向きをとる。

壁　消滅している。

柱穴　確認されない。

周溝　確認されない。

施設　確認されない。

掘方　あまり大きな凹凸は作らず、全体を比較的平坦に掘り下げている。確認面から掘方面までの深さは約７～13㎝。

カマド　北壁中央に位置する。崩れてつぶれているソデ構築土の下部を確認した。カマド範囲のみ、掘方の埋土が周囲と異なり、掘方面をロームの少量混じる黒褐色土で硬く埋め戻し、その上にカマドを構築している。この面での壁外への掘り出しは浅い。

ＳＩ-２２２５

位置　F-２区の南部、へ-50グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　重複する遺構はない。

規模・形状　後世の土地利用により、竪穴住居部分は掘方面まで削平されているため、遺存していない。カマドのみの確認である。

主軸方向　カマド掘方の中心軸を主体として、N−41°−Eの向きをとる。

カマド　上部は削平のため消滅しており、両ソデ部の痕跡と燃焼面、天井部が崩れた後堆積した僅かな覆土のみの確認となる。壁外への掘り出し部分は方形を呈し、奥壁は僅かに段を持つ。燃焼部は浅い椀状に掘り窪められ、上部に焼土と灰などの燃焼物が層状に遺存する。カマドソデは地山を掘り込んで、１～４層で基部を構成している。

ＳＩ-２２２６

位置　F-２区の南部、へ-50グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-2227と重複し、これより新しい。

規模・形状　覆土・壁ともに上部の削平により失われているため、カマド部分のみの確認である。先行するSI-2227の浅く残る覆土中より検出した。

主軸方向　カマドの方向は、N−63°−Eの向きをとる。

カマド　カマドの向きから、住居の西壁に構築されていた模様。天井部・ソデ部ともに消滅している。ａ・ｂ層がカマド構築の痕跡を残す土であるが、覆土と共に崩れている。

ＳＩ-２２２７

位置　F-２区の南部、へ-49グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SI-2226、SE-2228、SD-1403・1404と重複する。当住居跡が最も古い。

規模・形状　東西両壁を南北に走る溝に壊され、カマドを含む住居中央のみの確認となった。南北の規模は約3.2m。東西は幅約1.3mのみ調査。

主軸方向　カマドの向きを参考に、北壁にほぼ直交する方向で方位を求めると、N−19°−Eの向きとなる。

壁　南壁は残っておらず、北壁は最深10㎝程度確認した。立ち上がり不明瞭。

柱穴　確認されない。

周溝　確認されない。

施設　確認されない。

掘方　浅く平坦に掘り下げた面を黒色土で硬く埋め戻し貼床としている。掘方の埋土には、一部カマド由来の土を用いている。特にカマドの前面においては、カマドで発生した灰土を薄く広げて埋め立て、床面の一部を形成しており、カマドの補修等に伴って、貼り足しが行われたようである。

カマド　北壁に位置する。ソデ・天井部ともに失われている。残る構築土の様子から、一度以上のカマドの補修もしくは作り直しが推測される。詳細は別記、「覆土観察表」参照。

ＳＩ-２４１４

位置　Ｆ-２区の中央部、フ-49グリッドに位置する。

重複遺構と新旧　SK-2381・2382、SD-1400、S-2386・2416・2422・2434と重複する。当住居跡が最も古い。

規模・形状　カマドより西側の壁部分と西・南壁の一部を、切り合う土坑・ピット状遺構によって壊される。また、東半分は南北に延びるSD-1400に壊され消滅している。規模は確認範囲で南北約3.3ｍ。西壁は中央が内側に入る。

主軸方向　カマドを中心として最も残りの良い西壁に平行する方向で、Ｎ−21°−Ｅの向きをとる。

壁・床　確認面から床面までの深さは約18〜22㎝。確認できた壁は比較的垂直に近い角度で立ち上がっている。床面はやや凹凸があるが、概して平坦である。

柱穴　床面除去後に主柱穴１本を検出した。平面形が長軸約44㎝×短軸約35㎝の楕円形で、深さが床面から24㎝。ほかに掘方面で浅いピット状の凹部が数カ所認められたが、柱穴とは判断しがたい。

周溝　カマドの西側部分以外、床面の確認できた範囲で全周する。周溝の幅は22〜29㎝である。

施設　確認されない。

掘方　全体を５〜20㎝掘り下げ、焼土・炭・灰を混ぜた暗褐色土で埋め戻している。掘方面の上部は混入物のほとんど入らない均質な黒褐色土で固められ、貼床となる。

カマド　北壁に位置する。東側のほぼ半分をSD-1400に壊される。天井・ソデ部は遺存せず、構築土の残骸が覆土と混じって周囲に堆積している。壁外への掘り出しは方形を呈し、奥壁は概ね垂直に立ち上がる。

第５表　竪穴住居跡出土遺物一覧

遺　構　名	出　土　遺　物（不掲載破片含む）
SI － 01	須恵器(坏・甕)、土師器(坏・甕)
SI － 02	須恵器(蓋・坏・甕)、土師器(坏・高台付坏・甕・小型甕)
SI － 03	須恵器(坏・甕)、土師器(坏・高台付埦・甕)
SI － 04	須恵器(坏)、土師器(坏・甕)
SI － 05	須恵器(坏・甕)、土師器(坏・甕)
SI － 06	須恵器(蓋・坏・甕)、土師器(坏・甕)、石製品(砥石)
SI － 07	須恵器(蓋・坏・甕)、土師器(坏・小型坏・甕)
SI － 08	須恵器(坏)、土師器(甕)
SI － 09	須恵器(坏・高台付埦・高台付盤・瓶・甑・甕)、土師器(坏・甕)
SI － 11	－
SI － 12	須恵器(蓋・坏・甕)、土師器(坏・高台付坏・高台付埦・皿・甕)、土製品(沈子)
SI － 13	須恵器(蓋・坏・甕)、土師器(坏・高台付坏・高台付埦・皿・甕・小形甕)、石製品(砥石)
SI － 14	須恵器(蓋・坏・甕)、土師器(坏・高台付坏・埦・高台付埦・皿・甕)、石器(磨石か)
SI － 15	須恵器(蓋・坏・甕)、土師器(坏・甕)、石器(磨石)
SI － 16	須恵器(坏・瓶・甕)、土師器(坏・高台付小型坏・埦・高台付埦・耳皿・高台付皿・皿・甑・甕)
SI － 17	須恵器(蓋・坏・瓶・甕)、土師器(坏・高台付埦・皿・甕)、石器(磨石)
SI － 18	須恵器(坏・甕)、土師器(坏・高台付埦・皿・甕・台付甕)、石器(磨石)
SI － 19	須恵器(坏)、土師器(坏・甕)
SI － 20	須恵器(蓋・坏・甕)、土師器(坏･皿・甕)
SI － 21	須恵器(蓋・坏・高台付坏・高台付埦・皿・甕)、土師器(坏・甕)
SI － 25	須恵器(坏・甕)、土師器(坏・高台付坏・皿・甑・甕)、石器(磨石)
SI － 27	須恵器(坏・甕)、土師器(坏・小型坏・高台付埦・皿・甕)、瓦
SI － 28	須恵器(坏・高台付坏・高台付埦・甕)、土師器(坏・甕)
SI － 29	須恵器(坏)、土師器(坏・高台付坏・高台付小型坏・皿・甑・甕)
SI － 30	須恵器(蓋・坏・高台付坏・高台付皿・甕)、土師器(坏・甑・甕)、石器(磨石・敲石)
SI － 31	須恵器(坏・甕・鉢)、土師器(坏・甕)、石製品(砥石・敲石)、石器(打製石器)
SI － 32	土師器(坏・甕)、石製品(不明)
SI － 35	須恵器(坏・甕)、土師器(坏・甕)
SI － 36	須恵器(蓋・坏・甕)、土師器(甕)
SI － 54	須恵器(蓋・坏・高台付坏・高台付盤・甕・鉢)、土師器(坏・皿・甕)、石製品(砥石・石皿)
SI － 82	須恵器(坏・甕・鉢)、土師器(坏・甑・甕)、石製品(管玉)
SI － 210	須恵器(坏・甕)、土師器(坏・甕)、土製品(不明)、石製品(砥石)
SI － 211	須恵器(坏)、土師器(坏・埦・甕)、石製品(砥石)
SI － 213	土師器(坏・皿・甕・鉢)
SI － 214	須恵器(坏)、土師器(坏・甕)
SI － 220	土師器(坏・高台付坏)
SI － 221	須恵器(坏)、土師器(坏・埦・甑・甕・手捏ね土器)
SI － 262	灰釉(埦)、須恵器(坏・甕)、土師器(坏・甕)
SI － 263	須恵器(坏・甕)、土師器(坏・甕)
SI － 267	須恵器(坏)
SI － 272	須恵器(坏・高坏)、土師器(坏・甕)
SI － 273	須恵器(坏・壺・瓶)、土師器(坏・高台付坏・皿・甕)
SI － 275	－
SI － 276	須恵器(坏)、土師器(甕)
SI － 277	－
SI － 279	土師器(坏・皿)
SI － 280	土師器(坏)
SI － 302	須恵器(坏・甕)、土師器(坏・甕)
SI － 723	土師器(坏・甕)
SI － 1000	須恵器(坏・甕)、土師器(坏・甕)、石製品(砥石・石鉢)
SI － 1005	土師器(坏・高台付坏・皿・高坏・壺・甕)、石製品(編物石)
SI － 1006	土師器(坏・高坏・壺)
SI － 1007	須恵器(坏)、土師器(坏・小形坏・高台付埦・皿・甕)
SI － 1008	土師器(坏・高台付坏・高台付埦・皿・壺・甕)
SI － 1009	須恵器(坏)、土師器(坏・高台付埦・甕)
SI － 1010	須恵器(坏)、土師器(坏・甕)
SI － 1107	土師器(坏・高台付埦・甕)
SI － 1110	－
SI － 1111	須恵器(坏)、土師器(坏・高台付埦)
SI － 2110	－
SI － 2111	須恵器(坏)、土師器(坏)
SI － 2113	須恵器(蓋・坏・鉢)、土師器(坏・甕)、土製品(沈子)、石製品(砥石)、石器(磨石)
SI － 2114	灰釉(瓶)、須恵器(蓋・坏・高台付坏・高台付埦・壺・甕)、土師器(坏・高台付埦・皿・甕)
SI － 2116	須恵器(坏・高台付坏・高台付埦)、土師器(坏・甕)
SI － 2117	須恵器(坏・高台付坏・高台付埦・甕)、土師器(坏・甑・甕)
SI － 2118	須恵器(坏・壺・鉢)、土師器(坏・壺・甕)、石器(磨石)、SD-2106と共通して須恵器(蓋)、土師器(高台付埦・甕)
SI － 2119	須恵器(蓋・坏)、土師器(坏・転用紡錘車)、瓦
SI － 2189	－
SI － 2225	－
SI － 2226	須恵器(坏)、土師器(坏・甕)
SI － 2227	須恵器(坏)、土師器(坏・高台付坏・甕)
SI － 2414	須恵器(坏・甕)、土師器(坏・高坏・甕)

第３節　掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は、合計11棟確認した。ここでは調査時に建物跡と判断し記録された遺構のみを扱い、周辺のピット状遺構で建物を構成する可能性のあるもの、またその他、建物を構成する明瞭な判断がしがたい柱穴については、ピット状遺構の節で扱っている。掘立柱建物跡確認範囲内に位置する単独柱穴については、掘立柱建物跡に時期が近いと記録されているものについては、同じ図内に掲載した。調査時に発番した、柱穴個別の遺構番号はなるべく併記した。

１．古代

SB-７７０

位置　D区イ-15グリッドに位置する。

重複・新旧　他遺構との重複は見られなかったが、東側柱列の南第２柱が検出しなかった。現状の耕作による影響で遺構の確認面が低いため、浅い掘方であった場合消滅してしまったとも思われるが、もともと無い構造であった場合、ここが入り口部となるのか。

規模・形状　桁行５間（東側柱列は4間）×梁行２間の側柱式南北棟建物である。南北方位はN−30°−Wである。桁行総長は8.4mで、柱間寸法は西側柱列が南から1.5m、1.8m、1.5m、1.8m、1.8mで、東側柱列が南から1.5m、3.6m、1.5m、1.8mとなる。梁行総長は4.5mで、柱間寸法は南北とも西から2.4m、2.1mである。柱穴の掘方は、直径0.3m前後の不整な円形と、長径0.6m〜0.8m、短径0.3m〜0.55mの楕円形、一辺0.5m〜0.55mの隅丸方形がある。深さは確認面から、0.1m〜0.4mである。確認したすべての柱穴で柱が抜き取られている。Ｐ15はSB-770周囲のピット状遺構として掘立柱建物跡と合わせて調査した単独柱穴だが、SB-770の柱穴と埋土が類似するため、同図内に掲載した。

遺物　Ｐ13の１層より砥石の欠損品１点を出土した。図示する。

ＳＢ-８５３

位置　D区オ-17グリッドに位置する。

重複・新旧　SB-854、SK-734・735・867・868、SD-730と重複する。SB-854とは切り合う柱穴が無いため、新旧関係は不明である。SK-734・735・868との新旧関係は、検出していない東側列の柱穴がこれらの土坑によって壊され消失しているように思われるので、SB-853はこれらより古い建物跡と判断した。SD-730より新しい。SK-867とは新旧関係不明。

規模・形状　桁行４間×梁行３間の側柱式南北棟建物である。南北方位はN−31°−Wである。桁行総長7.5mで、柱間寸法は西側柱列が南から1.8m、1.8m、2.1m、1.8mである。柱筋は概ね整っている。東側柱列では確認できたＰ1（北東隅柱）とＰ12間が1.8mである。梁行総長は4.7mで、柱間寸法は南北とも西から2.1m、0.8mである。柱穴の掘方は、直径0.3m〜0.5m前後の円形と、長径0.5m〜0.8m、短径0.4m〜0.6mの隅丸方形がある。深さは確認面から、0.1m〜0.4mである。特に東側柱列の柱穴が0.1m〜0.15mと非常に浅い掘方である。柱痕跡が残るものと柱が抜き取られているものがあり、確認できた柱痕跡から、用いていた柱の太さは直径0.1m〜0.2mであろうと推定する。Ｐ10（南東隅柱）は柱の周りを小礫を混ぜた土で埋め立てている。掘方の底面にも、基礎固めの根石ほど密ではないが、小礫が遺存している。

遺物　柱穴覆土中より土師器坏の口縁部破片１点を出土しているが、記録がないためどの柱穴から出土したかが不明。小片のため、図示は不能である。

ＳＢ-８５４

位置　Ｄ区オ-17グリッドに位置する。

重複・新旧　SB-853、SK-867、 SD-730と重複する。SB-853とは切り合う柱穴が無いため、新旧関係は不明である。Ｐ12がSK-867と切り合うが、新旧を観察する記録がないため、新旧関係は不明である。古代の溝状遺構であるSD-730より新しい。

規模・形状　桁行４間×梁行２間の側柱式南北棟建物である。南北方位はＮ−26°−Ｗである。桁行総長7.5ｍで、柱間寸法は西側・東側柱列とも南から1.8ｍ、1.9ｍ、1.9ｍ、1.9ｍである。柱筋は概ね整っている。梁行総長は4.2ｍで、柱間寸法は北妻柱列は西から2.1ｍ、2.1ｍ、南妻柱列で西から3.3ｍ、0.9ｍとなる。柱穴の掘方は、直径0.4ｍ〜0.6ｍの円形と、長径0.6ｍ〜0.7ｍ、短径0.4ｍ〜0.6ｍの隅丸方形がある。深さは確認面から、0.2ｍ〜0.6ｍである。柱が抜き取られている柱穴が多いが、柱痕跡が残る柱穴から推定すると、用いていた柱の太さは直径0.1ｍ〜0.15ｍであろうと思われる。Ｐ1・Ｐ8・Ｐ9・Ｐ10で掘方底面に小礫が見られた。SB-853のＰ10と共通する特徴で、柱の基礎固めの一端か。SB-853とSB-854は南北方位が若干異なるものの、建物の規模が同じで、柱間寸法も共通する。また、どちらも東側柱列の柱穴掘方底面に小礫を配すなどの特徴が類似する。SB-854はSB-853の、廂を伴わない同規模の建て替えか。

遺物　出土しない。

ＳＢ-８５５

位置　Ｄ区カ-18グリッドに位置する。

重複・新旧　柱穴を切り合う他遺構との重複はないが、建物の北西部にあたる柱穴列が確認面での精査によっても確認できなかった。確認面が低いため、浅い掘方の場合、柱穴が消滅してしまった可能性がある。また、確認した建物の南側柱穴のすぐ南にSD-895という深い溝が存在するため、これによって南に続く柱穴が消滅している可能性もあり、建物としての全体の規模は不明である。

規模・形状　南北３間以上×の東西１間の側柱式南北棟建物と推定する。南北方位はＮ−24°−Ｗである。南北の柱間寸法は、西側柱列が南から1.8ｍ、東側柱列が南から2.1ｍ、1.8ｍ、1.5ｍである。柱筋は概ね整っている。梁行総長は3.6ｍで、ここが妻側だとすると、棟持柱がなく柱間が長すぎる構造となるため、更に南に柱列が続くものと思われる。柱穴の掘方は、直径0.4ｍ〜0.5ｍの不整な円形と、直径0.6ｍ〜0.7ｍ、短径0.5ｍ前後の楕円形がある。確認した柱穴は、東側柱列は柱痕跡が残り、西側柱列では柱が抜き取られている。柱痕跡が観察できた柱穴から、使用された柱の太さは、0.1ｍ〜0.15ｍ前後と推定する。

遺物　出土しない。

ＳＢ-１００１

位置　Ｈ区ヤ-62グリッドに位置する。

重複・新旧　遺構の重複は無かったが、SB-1001を確認した調査区の現状は水田であったため、生息する水生生物による床土からの攪乱が随所に見られた。

規模・形状　桁行３間×梁行２間の側柱式南北棟である。南北方位はＮ−07°−Ｅである。桁行総長6.3ｍで、柱間寸法は西側柱列が南から2.4ｍ、2.1ｍ、1.8ｍである。東側柱列が南から2.4ｍ、2.4ｍ、1.5ｍである。梁行総長は3.6ｍで、柱間寸法は南妻柱列で1.8ｍの等間、北妻柱列で西から1.5ｍ、2.1ｍとなる。柱穴の掘方は、直径0.3ｍ前後の円形、長径0.35ｍ〜0.45ｍ、短径0.25ｍ〜0.35ｍ楕円形、一辺0.4ｍ〜0.55ｍの隅丸方形がある。Ｐ4（南西隅柱）は、北側から掘られた抜き取り穴のため掘方形状が不明瞭であった。柱穴の深さは、最も深いもので確認面から0.55ｍ、最も浅いもので0.3ｍである。柱はすべての柱穴で抜き取られて

いるが、Ｐ10（北側棟持柱）の下半部に残る柱痕跡から推定すると、用いていた柱の太さは直径0.12m前後であろうと思われる。Ｐ５（南側棟持柱）とＰ６（南東隅柱）に関しては、掘方が断面で埋土を確認した時点より広がっているが、その範囲の埋土の記録がとれなかったため、当初の確認断面のみの土層分層を図示した。

遺物　出土しない。

ＳＢ-１００２

位置　Ｈ区ム-58グリッドに位置する。

重複・新旧　他の遺構との重複関係はないが、建物の北側部分が調査区外に続くため、全体の規模は確認できなかった。

規模・形状　確認できた柱穴から、南北２間以上×の東西２間の側柱式南北棟建物と推定する。南北方位はＮ−19°−Ｅである。南北の柱間寸法は南から1.5mである。東西総長は3.3mで、柱間寸法は西から1.8m、1.5mとなる。柱穴の掘方は、直径4.0m〜5.0mの円形と、直径0.6m〜0.7m、短径0.4m〜0.5mの楕円形がある。確認した柱穴は、柱痕跡が残るものと柱が抜き取られているものがある。南西隅柱穴には抜き取り穴が掘られた形跡があるが柱痕跡が観察できる。これから、使用された柱の太さは、0.15m前後と推定する。

遺物　出土しない。

ＳＢ-１１３９

位置　Ｆ-１区ノ-46グリッドに位置する。

重複・新旧　SK-1220と重複し、これより古い。建物範囲内ではＳ-1228・1230・1231・1233・1234・1236・1237・1240・1245と重複するが、柱穴の切り合いはなく、新旧関係は不明である。

規模・形状　桁行３間×梁行１間の側柱式東西棟建物である。南北方位はＮ−37°−Ｅである。桁行総長6.6mで、柱間寸法は西から2.1m、2.4m、2.1mとなる。梁行総長は4.5m。柱穴掘方は、直径0.4m〜0.55mの円形を主体とする。掘方の深さは確認面から、0.35m〜0.8mである。柱痕跡が残るものと柱が抜き取られているものがある。柱の太さは柱痕跡から0.15m〜0.2mと推定される。Ｓ-1230・1233・1236については、調査時にSB-1139の補助的な柱穴かと判断されており、ここに同時掲載した。Ｓ-1228・1231・1234・1237・1240・1245については、掘方の形状と埋土に類似性があり、Ｓ-1245を除いて２間×１間の建物となるかとの見解があったため、同時掲載した。

遺物　出土しない。

２．中世以降

ＳＢ-６８３

位置　Ｂ-３区ウ-９グリッドに位置する。

重複・新旧　重複する遺構はないが、東に隣接するSB-684とは柱穴掘方埋土に類似性が認められる。Ｓ-505は建物を構成しないが、覆土がSB-683の埋土と共通するため、同時掲載した。

規模・形状　桁行２間×梁行２間の側柱式南北棟建物である。南北方位はＮ−36°−Ｅである。桁行総長2.7mで、柱間寸法は西側柱列で1.35m等間、東側柱列で2.7mである。梁行総長は1.8mで、柱間寸法は南側柱列が0.9mの等間、北側柱列が西から0.6m、1.2mとなる。柱筋はあまり整わない。柱穴の掘方は、直径0.2m〜0.35mの円形と一辺0.2m〜0.3mの隅丸方形がある。掘方の深さは確認面から、0.2m〜0.4mである。南側棟持柱のみ柱痕跡が残るが、他の柱穴はすべて柱が抜き取られている。

遺物　覆土中より陶器の鉢の底部破片１点を出土。小片のため図示不能。

ＳＢ-６８４

位置　Ｂ-３区エ-９グリッドに位置する。

重複・新旧　重複する遺構はないが、東に隣接するSB-683と柱穴掘方埋土に類似性が認められる。

規模・形状　桁行は南側柱列で３間、北側柱列で２間×梁行２間の側柱式東西棟建物である。南北方位はＮ−29°−Ｅである。桁行総長3.6mで、柱間寸法は南側柱列で1.2mの等間、北側柱列が1.8mの等間である。梁行総長は2.7mで、柱間寸法は東西とも南から1.5m、1.2mである。柱穴掘方は、直径0.2m〜0.4mの円形を基本とする。掘方の深さは確認面から0.2m〜0.5mである。柱痕跡が残るものと柱が抜き取られているものがある。

遺物　出土しない。

ＳＢ-１００３

位置　Ｈ区ヤ-63グリッドに位置する。

重複・新旧　重複する遺構はない。

規模・形状　桁行１間×梁行１間の南北棟建物とした。南北方位はＮ−04°−Ｅである。桁行総長3.0m、梁行総長は2.4mである。柱穴掘方の平面形は、東側柱列では直径0.2m前後の円形、西側柱列では直径0.25m前後の円形となる。深さは確認面から、0.15m〜0.3mである。柱はすべて抜き取られている。Ｐ２（南西隅柱）の掘方は断面で埋土を確認した時点より広がっているが、その範囲の埋土の記録がないため、当初の確認断面のみの土層を図示した。

遺物　出土しない。

ＳＢ-１００４

位置　Ｈ区モ-63・64グリッドに位置する。

重複・新旧　他の遺構との重複関係はない。

規模・形状　桁行２間×梁行１間の側柱式南北棟建物である。南北方位はＮ−02°−Ｅである。桁行総長3.3mで、柱間寸法は1.65m等間である。梁行総長は3.0mで、棟持柱が無く、妻側の柱間が長い。柱穴の掘方は、直径0.25m〜0.3mの非常に小形の不整円形で、深さは確認面から、0.15m〜0.35mである。柱はすべての柱穴から抜き取られている。

遺物　出土しない。

第４節　井戸

井戸は平成13〜14年度にかけて調査を行ったＢ区から13基、14年度調査のＤ区から４基、16年度に調査を行ったＦ区から11基、Ｇ区から１基の、合計29基を確認した。西物井遺跡の調査区は黒色土以下の地山がやや軟弱なため、井戸の調査は崩落の危険を伴わないよう、人力による覆土除去作業は確認面から１〜1.5mの地点で留めた。この範囲で確認が可能な遺構の形状や土層の観察を行い、図面作成・写真撮影を行った。後に、重機の進入が可能な数基の井戸について、更に底面に近い部分まで調査を行うため、重機使用による断ち割りを実施したが、数時間で地盤が崩落し非常に危険であったため、これより断ち割りの調査は行わず、前述の確認可能であった範囲内のみの調査記録を掲載した。

１．古代

ＳＥ-１８５４

位置　F-３区ヒ-52グリッドに位置する。

重複・新旧　他の遺構との重複関係はない。平行して走るSD-1400とSD-2104の間に位置する。

規模・形状　底面まで掘り下げず、確認面から95㎝まで調査を行った。確認面での平面形は長軸約101㎝、短軸約90㎝の円形である。断面円筒形を基本として上部がやや開き、中位は確認面から45㎝～90㎝の範囲で大きく外側に膨らむ。

備考　調査時（７月末）では、確認面から80㎝ほど掘り込んだ地点で湧水が見られた。

遺物　土師器高坏の脚部片１点を出土。小片のため図示不能。

ＳＥ-２１２６

位置　F-２区へ-50グリッドに位置する。

重複・新旧　SD-1403と重複する。SD-1403の底面調査中に検出した井戸跡で、溝より古い遺構と思われる。南東にSE-2228が近接して位置する。

規模・形状　確認面から115㎝下まで調査を行った。確認面での平面形は長軸約84㎝、短軸約80㎝の円形である。壁は垂直に立ち上がり、円筒形の断面を呈す。調査時（８月初頭）では、確認面から90㎝ほど掘り込んだ地点で湧水が見られた。

遺物　覆土中から出土した土師質皿１点を図示。ほかに、須恵器の坏・瓶・甕の小片と土師器の坏・甕の小片を計28点出土している。

ＳＥ-２２２８

位置　F-２区へ-50グリッドに位置する。

重複・新旧　SI-2227、SD-1403と重複する。SI-2227より新しい。西壁がSD-1403に切られる。溝より古い井戸跡。北西にSE-2126が、南にＳ-2229が近接して位置する。

規模・形状　確認面から約185㎝下までの調査となる。底面は確認していない。平面形は確認開口部で長軸約160㎝、短軸約153㎝の隅丸方形に近い円形を呈する。断面は円筒形で上部が外側に開く。確認した最下部の堆積土７層は人為的な埋め戻しによる埋土で、その上の６～１層は自然堆積土と思われる。調査時（９月初頭）では、確認面から145㎝ほど掘り込んだ地点で湧水が見られた。

遺物　覆土中より出土した土師器甕の底部破片１点を図示。ほかに、土師器の坏・甕の小片が合わせて12点出土している。

２．中世以降

ＳＥ-１１７

位置　B-３区オ-10グリッドに位置する。

重複・新旧　重複する遺構はない。西側にSD-104が近接する。

規模・形状　底面まで掘り下げず、確認面から155㎝まで調査を行った。確認開口部で長軸約158㎝、短軸約130㎝を測る。平面形は円形に近い楕円形を呈し、断面の形状は筒形である。西壁はほぼ垂直に立ち上がる。東壁は二段掘りされ、中位の壁は崩落し、抉れている。覆土上部より、礫が多数検出。調査時（６月下旬）では、確認面から146㎝ほど掘り込んだ地点で湧水が見られた。

遺物　１層中より内耳土器片を出土。図示。ほか、土師質鍋形土器の破片と陶器の鉢の口縁部小片を出土す

るが図示不能。

ＳＥ-１６２

位置　Ｂ-２区カ-14グリッドに位置する。

重複・新旧　SE-163と重複する。これより新しい。

規模・形状　平面形は確認開口部で長軸約85㎝、短軸約80㎝の円形を呈する。深さは確認面から平均約205㎝を測る。１ｍほど掘り下げた時点で安全面を考え、一旦調査を停止した。その後重機を用いて断ち割りを行った結果、礫層を掘り抜いた底面を検出した。調査時（６月下旬）では、確認面から150㎝ほどの面で湧水が見られた。断面は筒形を基本とする。

遺物　土師器甕の胴部破片１点を検出。図示不能。

ＳＥ-１６３

位置　Ｂ-２区カ-14グリッドに位置する。

重複・新旧　SE-162、SD-155、Ｓ-347と重複する。これらより古い。

規模・形状　確認開口部で長軸約120㎝、短軸約83㎝、深さ83㎝を測る。礫層を掘り抜いている。浅いため井戸ではないとも思われたが、形状から井戸の掘方を途中でやめた可能性を考え、ＳＥ発番とした。南に新しく作られたSE-162がこの井戸の掘り直しである可能性がある。

遺物　土師器の坏・甕の破片を10点と、陶磁器の碗の小片４点を検出。すべて小片のため図示不能。

ＳＥ-３１８

位置　Ｂ-２区カ-14グリッドに位置する。

重複・新旧　SD-155・164と重複する。SE-318の覆土は切り合う溝の底面以下からの確認となり、切り合い部の断層観察ができなかったため、井戸と溝の新旧関係は不明である。但し、位置的に見て、溝の利用に伴った同時開口の井戸とするのが適当か。

規模・形状　重複する溝より深く掘り下げられ、確認面での平面形は長軸約112㎝、短軸約100㎝の円形である。深さは確認面から約205㎝となる。断面は円筒形を呈す。

備考　当初、SD-155とSD-164の連結部の掘方と思われたが、溝より深く掘り下げられたので、別遺構と判断した。上位で10～15㎝大の礫が多数出土。壁で組み上げた礫の崩落したものと思われる。110㎝ほど掘り下げると礫が見られなくなる。１ｍほど掘下げた時点で一旦調査を停止し、その後重機を用いて断ち割りを行った。形態的にはSE-162と同様で、礫層を掘り抜いた底面を確認した。壁面は急角度～垂直に立ち上がる。調査時（５月下旬）では、確認面から150㎝下面で湧水が見られた。断ち割り面の崩落が激しく、断ち割り後の平面の補足図が作成できなかった。

遺物　木製品の検出はなかったが、底面近くの覆土では、小木片や草木系の繊維質のものが若干遺存していた。１層中より出土した内耳土器１点を図示。ほか、土師器の坏と甕の小破片４点を出土した。

ＳＥ-４２５

位置　Ｂ-３区ウ-12グリッドに位置する。

重複・新旧　他遺構との重複はない。

規模・形状　確認面から160㎝下まで調査を行った。平面形は確認開口部で長軸約80㎝、短軸約72㎝の円形である。壁は、確認した上半部は垂直に立ち上がり、以下の面は大きくオーバーハングする。

遺物　埋め戻しの土と思われる４層の上面に10㎝前後の礫が多く見られた。井戸の上部構造で使用していた礫の一部がこの時点で崩れて入ったようである。この礫が遺存するレベルより下の層から、出土した砥石２

点と内耳土器１点を図示。ほかに、覆土中より内耳土器片８点と陶器の碗と擂鉢の破片を５点出土した。小片のため図示不能。

ＳＥ-４２８

位置　B-３区エ-11グリッドに位置する。

重複・新旧　SD-122、SZ-120と重複する。両者より新しい。分層した覆土の１層部分は、井戸の西壁際に重なる後世のピット状の掘り込みの可能性もある。

規模・形状　確認面から160㎝下まで調査を行った。確認面での平面形は長軸約110㎝、短軸約103㎝のやや歪んだ円形である。確認面から１ｍほどの深さで、径15～20㎝大の礫が多数出土した。これらは井戸の上部構造に施した礫の崩落と思われ、２層の土と共に一気に堆積している。壁は礫の出土層下から周りにオーバーハングしていく。

遺物　覆土中より内耳土器の破片を９点、陶磁器の小破片を３点出土する。内、内耳土器の破片１点を図示。

ＳＥ-４４３

位置　B-３区カ-10グリッドに位置する。

重複・新旧　重複する遺構は無いが、南東にSD-123が近接する。

規模・形状　確認面から163㎝下げた地点で調査を中止した。平面形は確認開口部で長軸約165㎝、短軸約163㎝の歪んだ円形を呈する確認面よりや0.3m掘り下げた辺りで、不整な方形となる。壁の立ち上がりは北西側は垂直で、南東側はややなだらかである。壁面は確認面から約0.5m下方の周辺から外側に抉れるが、人為的な掘り込みとは断定出来ない。地山のロームと礫層の間に軟らかい土が入るため、この部分が自然に抉れ、上記のような形状となったと思われる。深さ約0.8mの地点で礫層に達する。

調査時（６月下旬）では、確認面から約160㎝下の面で湧水が見られた。

遺物　覆土中から内耳土器の小片２点を出土。図示不能。

ＳＥ-５１０

位置　B-４区ク-９グリッドに位置する。

重複・新旧　SZ-511と重複し、これより新しい。SZ-511の覆土と同時に掘り下げているため、SE-510の上部60㎝程の覆土が確認できなかった。

規模・形状　確認面から120㎝下の湧水面（７月下旬の調査時）まで調査を行った。確認開口部で長軸約135㎝、短軸約120㎝を測る。平面形は不整円形を呈し、断面の形状は筒形を基本とする。

遺物　覆土中から土師質土器の焙烙胴部小片を出土。図示不能。

ＳＥ-５９４

位置　B-４区カ-13グリッドに位置する。

重複・新旧　重複する遺構はない。SE-594の確認面から北東部と南東部の約30㎝の位置に、それぞれＳ-679とＳ-680（ピット状遺構の節で扱っている）があり、位置と埋土の様子から、本遺構に伴う施設ピットの可能性がある。南には近接してSD-151が東西に走る。

規模・形状　確認面から150㎝下まで調査を行った。平面形は確認開口部で長軸約148㎝、短軸約131㎝の楕円形を呈する。10・11層で一気に埋め戻されている。１～９層は開口部から自然に埋没していった層である。小円礫の混入が各層に見られる。

遺物　５層中と、６層より下層の覆土中から内耳土器の破片が２点出土。図示可能な１点を掲載。流入の遺

物と思われる須恵器蓋の撮部も図示した。ほかに、土師器の坏・甕の小破片６点と、土師質鍋形土器の小片３点、陶器小破片１点を出土。

ＳＥ-７６１

位置　D区ア-16グリッドに位置する。

重複・新旧　重複する遺構はない。北側にSD-772が、南側にSD-773が位置する。

規模・形状　確認面から125㎝下まで調査を行った。確認面での平面形は長軸約83㎝、短軸約80㎝の正六角形の隅を丸めたような円形である。断面上方にやや広がる円筒形を呈す。確認面の段階で覆土中に多くの礫の混入が認められ、一括の埋め戻し土である３層中には、非常に多くの礫が混入していた。他の井戸と比べると開口部は狭く、壁が垂直に立ち上がる。

遺物　覆土中から陶磁器の碗・袋物等の小片が出土した。図示可能な1点を掲載。

ＳＥ-７６９

位置　D区ウ-15グリッドに位置する。

重複・新旧　重複する遺構はない。

規模・形状　確認面から100㎝下で調査を中止した。平面形は確認開口部で長軸約132㎝、短軸約130㎝の円形を呈する。壁面は、確認面から下50㎝の深さから上方にかけて、北東壁を中心にやや開くが、他はほぼ垂直に立ち上がる。北壁上部に足掛けピットのような掘り込みが認められた。

遺物　３層中から陶器の碗の小片２点が出土。図示可能な１点を掲載した。

ＳＥ-７８１

位置　D区ア-15グリッドに位置する。

重複・新旧　重複する遺構はない。平行して走るSD-772とSD-832の間に位置する。

規模・形状　確認面から約110㎝下まで調査を行った。確認開口部で長軸約123㎝、短軸約91㎝を測る。平面形は楕円形を呈し、断面の形状は円筒形である。上部が外側にやや開く。東壁側から堆積している２・３層に礫が多く混入する

遺物　覆土中より銭貨と刀子が出土する。

ＳＥ-１２００

位置　F-１区ネ-46グリッドに位置する。

重複・新旧　重複する遺構はない。

規模・形状　１ｍほど掘り下げた時点で安全面を考え、一旦調査を停止した。その後重機を用いて２ｍ30㎝ほど掘り下げる断ち割りを行ったが、この深さでも底面は確認できなかった。掘方は礫層まで達している。確認した井戸の最下部に溜まっていた土は、有機物が腐植したような黒灰色の軟らかい土で、この部分が重機による断ち割り直後30秒ほどで崩れ落ち、覆土全体が崩落してしまったため、覆土の観察が行えなかった。周囲の地盤も崩落の危険性が高く危険なため、断ち割り後の調査記録が残せなかった。前半の調査で確認した範囲では、平面形は開口部で直径約86㎝の円形で、断面の形状は垂直に立ち上がる円筒形である。南壁側にピット状の掘り込みが二カ所見られ、この部分に段を有す構造になる。２ｍの地点から礫層を掘り込んでいるが、調査時（７月初頭）の湧水は確認面から95㎝ほどの面で見られた。

備考　略測の観察が行えた範囲で、井戸が掘り込まれている地山の基本層序を記す。確認面から下に約25㎝まで→Ⅰ層：にぶい黄色（2.5Y6/4）の砂質ローム層。約25㎝下から約45㎝下まで→Ⅱ層：やや灰黒みがかかるオリーブ褐色（2.5Y4/6）の粘質ローム層。約45㎝下から約80㎝下まで→Ⅲ層：黄褐色（2.5Y5/4）の

粘質ローム層。約80㎝下から約100㎝下まで→Ⅳ層：オリーブ黒（5Y3/2）の砂質ローム層。約100㎝下から約155㎝下まで→Ⅴ層：褐色（10YR4/4）のローム層。約155㎝下から約180㎝下まで→Ⅵ層：にぶい黄褐色（10YR5/3）の柔らかい粘土層。約180㎝下から約200㎝下まで→Ⅶ層：黄褐色（10YR5/6）の粘土層。約200㎝から下→Ⅷ層：にぶい黄褐色（10YR5/3）の礫層。

遺物　覆土中から出土した土師質皿と内耳土器の破片８点のうち、図示可能な３点を図示。

ＳＥ-１２６０

位置　Ｆ-１区ハ-45グリッドに位置する。

重複・新旧　重複する遺構はない。

規模・形状　SE-1200の井戸と同様に、１ｍ10㎝掘り下げた時点で一旦調査を停止し、その後断ち割り調査を行った。160㎝ほど下がった面で前述の軟らかい黒灰色土になり、その下が礫層となる。２ｍほど下げ礫層を掘り抜いた時点でも底面が確認できず、SE-1200と同様の崩落があり危険であったため、調査を中止した。確認面での平面形は直径約85㎝の円形で、断面の形状は整った円筒形である。中位で外側にやや膨らむ。調査時（７月初頭）の湧水は、確認面から110㎝ほどの面で見られた。

備考　略測の観察が行えた範囲で、井戸が掘り込まれている地山の基本層序を記す。確認面から下に約30㎝まで→Ⅰ層：にぶい黄色（2.5Y6/4）の砂質ローム層。約30㎝下から約50㎝下まで→Ⅱ層：やや灰黒みがかかるオリーブ褐色（2.5Y4/6）の粘質ローム層。約50㎝下から約80㎝下まで→Ⅲ層：黄褐色（2.5Y5/4）の粘質ローム層。約80㎝下から約100㎝下まで→Ⅳ層：オリーブ黒（5Y3/2）の砂質ローム層。約100㎝下から約160㎝下まで→Ⅴ層：褐色（10YR4/4）のローム層。約160㎝下から約170㎝下まで→Ⅵ層：にぶい黄褐色（10YR5/3）の柔らかい粘土層。約180㎝下から約200㎝下まで→Ⅶ層：黄褐色（10YR5/6）の粘土層。約200㎝から下→Ⅷ層：にぶい黄褐色（10YR5/3）の礫層。

遺物　１層中から出土した土師質皿１点を図示。ほかに、覆土中より土師質皿の破片を２点出土しているが、小片のため図示は不能。

ＳＥ-１６６６

位置　Ｆ-３区ハ-49グリッドに位置する。

重複・新旧　Ｓ-1712と重複する。これより新しい。

規模・形状　確認面から120㎝下で調査を留めた。平面形は確認開口部で長軸約170㎝、短軸約155㎝の楕円形を呈する。断面は上部にかけて広が円筒形。調査時（７月上旬）では、確認面から約95㎝下の面で湧水が見られた。

遺物　３層中から銭貨１点と、覆土中から土師質皿の破片３点が出土している。図示。

ＳＥ-１８８６

位置　Ｆ-３区ヒ-50グリッドに位置する。

重複・新旧　ピット状遺構の集中する調査区から検出し、Ｓ-1760・1763・1853と重複する。これらより古い。

規模・形状　確認面から約110㎝下までの調査となる。底面は確認していない。平面形は確認開口部で長軸約82㎝、短軸約80㎝の円形を呈する。断面は円筒形。調査時（８月中旬）では、確認面から90㎝ほど掘り込んだ地点で湧水が見られた。

遺物　須恵器と土師器の坏・甕の破片９点と、土師質の皿と内耳土器の破片３点を出土。図示は不能。

ＳＥ-２１９４

位置　Ｆ-２区フ-48グリッドに位置する。

重複・新旧　SI-2117・2119の北西コーナーと切り合う。これらの竪穴住居跡より新しい遺構である。

規模・形状　平面形は確認開口部で長軸約153㎝、短軸約145㎝の隅丸方形に近い形。底面までの深さは確認面から152㎝である。９月上旬の調査時では底面での湧水はなかったが、同区の同様な形状の井戸跡では、深さ145㎝程で湧水が見られたため、この深さでも井戸として機能するものと思われる。

遺物　覆土中より出土した、須恵器の高台付盤の高台部片１点と内耳土器の破片３点を復元図示。ほかに須恵器と土師器の坏・甕の破片11点と内耳土器の破片３点も出土。

ＳＥ-２２７７

位置　Ｆ-２区ヒ-49グリッドに位置する。

重複・新旧　SK-2281と重複し、これより新しい。

規模・形状　確認面での平面形は長軸約105㎝、短軸約94㎝の楕円形である。深さは確認面から約147㎝となる。断面は底面から上部に向かってやや開く円筒形を呈す。

遺物　出土しない。

３．時期不明

ＳＥ-１０８

位置　Ｂ-３区エ-８グリッドに位置する。

重複・新旧　SZ-101と重複し、これより新しい。

規模・形状　確認面から115㎝下部まで調査を行った。平面形は確認開口部で長軸約92㎝、短軸約85㎝の楕円形を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がり、整った筒形の断面を呈す。南側の壁はややオーバーハングする。

遺物　出土しない。

ＳＥ-１２１

位置　Ｂ-３区エ-10グリッドに位置する。

重複・新旧　SZ-120と重複し、これより新しい。

規模・形状　確認面から160㎝下部まで調査を行った。平面形は確認面で長軸約103㎝、短軸約77㎝の楕円形である。断面は確認面より80㎝程は南東側の壁はほぼ垂直で、西側はやや急な立ち上がり。それより下は南東側は大きくオーバーハングし、西側は垂直となる。調査時の湧水面は調査時（６月下旬）で、確認面から155㎝の深さである。礫層までは約50㎝ある。

遺物　出土しない。

ＳＥ-３２３

位置　Ｂ-１区ク-18グリッドに位置する。

重複・新旧　SD-305の覆土掘り下げ中に検出した。土層の確認が出来ず、SD-305との新旧関係も不明である。

規模・形状　底面まで掘り下げず、確認面から95㎝まで調査を行った。平面形は確認した開口部で長軸約110㎝、短軸約95㎝の円形を呈する。断面は上部が開く。

遺物　混入の遺物である磨石１点を図示。

ＳＥ-５８３

位置　B-４区コ-11グリッドに位置する。

重複・新旧　重複する遺構はない。

規模・形状　確認面から約85㎝下までの調査となる。確認面での平面形は長軸約103㎝、短軸約73㎝の楕円形である。断面は筒形を基本とする。廃棄後、一気に埋め戻されたようである。

遺物　出土しない。

ＳＥ-７２１

位置　D区オ-18グリッドに位置する。

重複・新旧　重複する遺構は無い。

規模・形状　確認面から53㎝下までの調査に留まった。底面は確認していない。確認開口部で長軸約100㎝、短軸約85㎝を測る。平面形は楕円形を呈し、断面の形状は上部が開く円筒形である。しまりのない覆土中にまんべんなく礫（５㎜～10㎝大）が混入する。廃棄後すぐに埋め戻された井戸。

遺物　出土しない。

ＳＥ-１６９１

位置　F-３区ハ-50グリッドに位置する。

重複・新旧　S-1690・1833と重複し、これらより古い。S-1692とは接して存在するが時期的な関係は不明である。

規模・形状　確認面から115㎝下部まで調査を行った。平面形は確認開口部で長軸約75㎝、短軸約72㎝の不整な円形を呈する。壁はほぼ垂直に立ち上がり、整った筒形の断面を呈す。北側の壁はややオーバーハングする。調査時（６月下旬）では、確認面から85㎝ほど掘り込んだ地点で湧水した。

遺物　出土しない。

ＳＥ-１６９５

位置　F-３区ハ-50グリッドに位置する。

重複・新旧　ピット状遺構の集中する調査区から検出し、S-1667・1669・1670・1671・1675と重複する。S-1667より新しく、S-1669・1670・1675より古い。S-1671とは接するが切り合い関係が不明である。

規模・形状　確認面から80㎝下まで調査を行った。平面形は確認開口部で長軸約156㎝、短軸約130㎝の不整な楕円形である。断面の形状は確認面から下に50㎝程の範囲では上部に大きく広がる形をとっているが、ここから下は円筒形に下がっていくことが予想された。分層した土層の観察記録が残っていない。

遺物　出土しない。

ＳＥ-２０２０

位置　G-１区ミ-52グリッドに位置する。

重複・新旧　波板状凹凸面を持つ、古代の溝状遺構であるSD-2002の調査中に検出した。SD-2002より後世に掘られた井戸である。

規模・形状　確認面での平面形は直径70㎝前後の非常に整った円形である。断面は垂直に立ち上がる円筒形を成す。調査時（７月下旬）では、確認面から76㎝ほど掘り込んだ地点で湧水した。

遺物　出土しない。

第５節　土坑

土坑は全調査区で合計301基検出している。Ｆ区から数グループに分かれて多く検出する所謂長方形土坑は、底面がフラットで整った長方形のものと、コーナーが隅丸で全体に丸みを帯びたタイプのものに大きく分かれる。ほかに、底面は中央に向かって緩く窪むもの、その他平面形が楕円に近いもの、長軸が短い方形のものなどが検出している。掘方の一辺の面が整った形を取り、壁も概ね垂直に立ち上がるものが古いタイプで、新しくなるほど、立ち上がりの角度が緩く、角の取り方や片の整え方が雑になるようである。このような長方形土坑の密集地は、低地で黒色土中を掘り込んでいるため、連続する遺構の確認が非常に困難であったが、出来るだけ１基毎の遺構の形態や、重複する遺構の切り合いの様子が記録できるように努めた。しかし、新しい遺構の検出が調査進行中に多出した部分や、覆土に絡むピット状遺構との重複に絡んで、各遺構の新旧関係を観察する十分な記録を残すことが出来ない箇所もあった。

なお、規模・形状の項目での〔　〕内の数値は、確認できた残存の長さである。

１．古墳時代

ＳＫ-６７

位置　C-２区ソ-19グリッドに位置する。**重複・新旧**　SI-14・221と重複し、これらより新しい。**規模・形状**　確認開口部で長軸約105㎝、短軸約102㎝、深さ約27㎝を測る。平面形は隅丸方形を呈し、断面の形状は逆台形である。**備考**　出土遺物から古墳時代中期～後期に属する土坑とした。**遺物**　覆土中より、焼成粘土塊３点と須恵器坏の体部小片２点を含む、土師器坏・甕の破片が49点出土した。図示可能な土師器の甑と坏を掲載。

ＳＫ-１１６

位置　B-３区オ-10グリッドに位置する。**重複・新旧**　SZ-105と重複しこれより古い。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約148㎝、短軸約92㎝の長方形である。深さは確認面から約70㎝となる。断面は逆台形を呈す。**備考**　当初、SZ-105の付属施設の可能性も考えたが、覆土の観察からSZ-105に先行する土坑であると判断した。SZ-105は古墳時代前期の土器を伴う方形周溝遺構であることから、SK-116の時期は古墳時代前期以前になる。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-７７５

位置　D区ア-15グリッドに位置する。**規模・形状**　確認開口部で長軸約108㎝、短軸約90㎝、深さ約〔20〕㎝を測る。平面形は楕円形を呈し、断面の形状は凹凸のある皿状である。**備考**　覆土は方形周溝遺構のSZ-777と似ており、近い時期の遺構と思われる。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-８４０

位置　D区ウ-18グリッドに位置する。**重複・新旧**　SD-839・850と重複し、これより古い。**規模・形状**　確認開口部で長軸約〔90〕㎝、短軸約〔67〕㎝、深さ約38㎝を測る。平面形は隅丸方形を呈し、断面の形状は逆台形である。**備考**　南西コーナーが調査区外にかかるため、未調査。まとまって出土する遺物から土坑の時期は古墳時代後期と判断した。**遺物**　古墳時代後期のものと思われる土師器坏と甕を図示。土坑の時期に合致する物か。また、小片のため図示はしていないが、やはり古墳後期のものと思われる土師器坏の破片25点、土師器甕の破片28点を検出。

２．古代

ＳＫ-２４

位置　C-２区シ-18グリッドに位置する。**重複・新旧**　SI-06の北西コーナー、SI-05の南東コーナーと切り合う、住居より新しい土坑である。**規模・形状**　確認開口部で長軸約152㎝、短軸約123㎝、深さ約32㎝を測る。平面形は長方形を呈し、断面の形状は逆台形である。**備考**　当初、住居跡の覆土の一部と思われたため、土層の記録はとれなかったが、ロームブロックを壁に貼り、住居跡の覆土内にある脆い壁を補強した様子が観察できた。**遺物**　覆土中より、土師器甕の胴部小片３点、砥石１点を検出した。内、砥石を図示。

ＳＫ-３３

位置　C-２区ス-19グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-46、SD-37、Ｓ-97と重複し、SD-37より新しく、Ｓ-97より古い。SK-46とは新旧関係不明。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約161㎝、短軸約〔130〕㎝の不整方形である。深さは確認面から約40㎝となる。断面は凹凸のある皿状を呈す。**備考**　周辺には同じようにSD-37と重複する土坑が密集しており、同様な性格の土坑と推測される。覆土中より出土した遺物は、先行する溝の覆土中に包含された遺物が混入した可能性がある。**遺物**　須恵器・土師器の坏・甕を中心に372点出土した。内、図示可能な８点を掲載。

ＳＫ-４３

位置　C-２区ス-19グリッドに位置する。**重複・新旧**　SD-37と重複し、これより新しい。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約178㎝、短軸約94㎝の不整長方形である。深さは確認面から約28㎝となる。断面は逆台形。**備考**　確認した掘方の形状から、２基の土坑が縦に重複している可能性もある。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-４４

位置　C-２区ス-19グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-45、SD-37と重複し、これらより新しい。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約95㎝、短軸約65㎝の不整長方形を呈する。深さは確認面から平均約50㎝を測る。断面は方形。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-４５

位置　C-２区ス-19グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-44、SD-37と重複し、SD-37より新しく、SK-44より古い。**規模・形状**　確認開口部で長軸約〔69〕㎝、短軸約67㎝、深さ約25㎝を測る。平面形は不整長方形を呈し、断面の形状は有段逆台形である。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-４６

位置　C-２区ス-19グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-33と切り合うが、新旧は不明である。**規模・形状**　確認開口部で長軸約〔90〕㎝、短軸約70㎝、深さ約19㎝を測る。平面形は不整長方形を呈し、断面の形状は椀形である。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-４８

位置　C-２区ス-19グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-92・94と重複するが、両者との新旧関係は不明である。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約115㎝、短軸約85㎝の不整方形を呈する。深さは確認面から平均約33㎝を測る。断面の形状は、不整逆台形である。**備考**　当初、SK-94と同一の遺構として調査した為、検出した遺物がどちらに属するか判別不能。**遺物**　須恵器・土師器の坏・甕を中心に67点出土した。内、図示可能な須恵器の坏２点を掲載。

ＳＫ-５６

位置　C-２区セ-20グリッドに位置する。**重複・新旧**　SI-16と重複し、これより古い。SI-54とはカマド部分が切り合い、これより古いと思われる。**規模・形状**　確認開口部で長軸約110㎝、短軸約83㎝、深さ約55㎝を測る。平面形は楕円形を呈し、断面の形状は、筒状に近い逆台形である。**遺物**　土師器の坏・甕を中心に須恵器坏も合わせて33点検出する。内、土師器坏２点を掲載。

ＳＫ-５７

位置　C-２区セ-22グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約126㎝、短軸約121㎝の円形である。深さは確認面から約10㎝となる。断面は皿状を呈す。**備考**　覆土中より出土した遺物から、周囲の集落と同時代と思われる。**遺物**　土師器の坏・甕、須恵器の坏22点と、焼成粘土塊１点を検出する。図示不能。

ＳＫ-５８

位置　C-２区ス-18グリッドに位置する。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約120㎝、短軸約116㎝の不整方形を呈する。深さは確認面から平均約22㎝を測る。断面は逆台形。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-５９

位置　C-２区ス-19グリッドに位置する。**規模・形状**　確認開口部で長軸約80㎝、短軸約55㎝、深さ約15㎝を測る。平面形は不整楕円形を呈し、断面の形状は逆台形である。**遺物**　土師器甕の口縁部破片２点を検出。図示不能。

ＳＫ-６０

位置　C-２区セ-21グリッドに位置する。**重複・新旧**　SI-27・29、SK-61・88を切る土坑。新しい順からSK-60→SI-27→SK-61→SI-29→SK-88となる。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約110㎝、短軸約88㎝の隅丸方形である。深さは確認面から約24㎝となる。断面は逆台形を呈す。**備考**　重複するSI-27・29との覆土の差異が明瞭でないためプラン確認が難しく、SI-27より古いSK-61の調査時に確認した。**遺物**　瓦片１点を含む、須恵器・土師器の坏・甕の小片を35点出土した。図示不能。

ＳＫ-６１

位置　C-２区セ-21グリッドに位置する。**重複・新旧**　SI-27・29、SK-61・88と重複する。新しい順からSK-60→SI-27→SK-61→SI-29→SK-88となる。SI-27の底面精査時に検出し、調査を行った。**規模・形状**　確認開口部で長軸約70㎝、短軸約56㎝、深さ約33㎝を測る。平面形は円形を呈し、断面の形状は開くＵ字形である。**備考**　確認時の所見では、プラン確認上部に薄い茶色の層がみられ、SI-27の構築にあたって、古い土坑の覆土が意識され平滑にされたことが伺える。SI-27に先行するSI-29に伴う床下土坑である可能性もある。**遺物**　須恵器坏の口縁部小片１点のみ出土。図示不能。

ＳＫ-６２

位置　C-２区セ-21グリッドに位置する。**重複・新旧**　SI-27・29と重複する。新しい順からSI-27→SI-29→SK-62となる。**規模・形状**　確認開口部で長軸約70㎝、短軸約57㎝、深さ約43㎝を測る。平面形は円形を呈し、断面の形状は筒形である。**遺物**　須恵器坏、土師器坏・甕、各１点の小片出土。図示不能。

ＳＫ-６６

位置　C-１区コ-20グリッドに位置する。**重複・新旧**　SI-01と重複し、これより新しい。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約85㎝、短軸約65㎝の楕円形を呈する。深さは確認面から平均約36㎝を測る。断面は椀状。**備考**　SI-01の覆土中に掘り込まれた後世の土坑。覆土に先行するSI-01の覆土が混じる。**遺物**　覆土

中より、土師器甕の胴部小片が３点検出した。図示不能。

ＳＫ-６８

位置　C-２区ソ-19グリッドに位置する。**重複・新旧**　SI-12と重複し、これより新しい。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約100㎝、短軸約95㎝の円形を呈する。深さは確認面から平均約30㎝を測る。断面は逆台形。**遺物**　覆土中より、焼成粘土塊２点を含む、土師器坏・甕の破片が24点出土した。土師器の甕１点を図示。

ＳＫ-７０

位置　C-２区タ-22グリッドに位置する。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約111㎝、短軸約100㎝の円形を呈する。深さは確認面から平均約74㎝を測る。断面は開くＵ字形。**遺物**　須恵器坏２点、須恵器・土師器の甕、各１点の小片出土。図示不能。

ＳＫ-８８

位置　C-２区セ-21グリッドに位置する。**重複・新旧**　SI-27・29、SK-60・61と重複する。新しい順からSK-60→SI-27→SK-61→SI-29→SK-88となる。SI-29の底面精査時に検出し、調査を行った。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約98㎝、短軸約82㎝の不整隅丸方形である。深さは確認面から約19㎝となる。断面は有段逆台形を呈す。**備考**　覆土上部にSI-29のカマド周囲の覆土と類似する土が見られたため、SI-29に伴う床下土坑である可能性もある。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-９２

位置　C-２区ス-19グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-48・SD-37・Ｓ-93・98と重複する。SD-37より新しくＳ-93・98より古い。SK-48との新旧関係は不明。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約77㎝、短軸約58㎝の不整楕円形を呈する。深さは確認面から平均約16㎝を測る。断面は逆台形。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-９４

位置　C-２区ス-19グリッドに位置する。**重複・新旧**　当初、SK-48と同一の遺構として調査した為、検出した遺物がどちらに属するか判別不能で、新旧も不明。SD-37とも重複し、これより新しい。**規模・形状**　確認開口部で長軸約60㎝、短軸約〔50〕㎝、深さ約〔15〕㎝を測る。平面形は楕円形を呈し、断面の形状は逆台形である。**遺物**　須恵器・土師器の坏・甕を中心に67点出土した。内、図示可能な須恵器の坏２点を掲載。

ＳＫ-１９０

位置　B-１区ク-16グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約〔82〕㎝、短軸約65㎝の不整円形である。深さは確認面から約43㎝となる。断面は有段逆台形を呈す。**遺物**　土師器の坏・甕の小片を出土。図示不能。

ＳＫ-１９２

位置　B-１区キ-16グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-193と重複し、これより新しい。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約330㎝、短軸約225㎝の不整長方形を呈する。深さは確認面から平均約18㎝を測る。断面は皿状。**備考**　底面に小円礫が若干見られる。形状から先行するSK-193と同様の性格が考えられるが用途は不明である。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１９３

位置　B-１区ク-16グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-192と重複し、これより古い。**規模・形状**　確認開口部で長軸約270㎝、短軸約199㎝、深さ約25㎝を測る。平面形は不整長方形を呈し、断面の形状は皿状である。**備考**　底面南側中央に１基と北側壁際に２基ピット状の掘方が見られ、内部に集中して小礫が見られ

る。遺構の性格は不明である。**遺物**　須恵器の坏・甕の小片を出土。図示不能。

ＳＫ-１９４

位置　B-１区ク-16グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約247㎝、短軸約156 ㎝の長方形である。深さは確認面から約10㎝となる。断面は皿状を呈す。**備考**　底面に小円礫が若干見られる。**遺物**　須恵器の坏・甕の小片を出土。図示不能。

ＳＫ-２１８

位置　C-２区セ-19グリッドに位置する。**重複・新旧**　SI-14と重複し、これより新しい。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約179㎝、短軸約75㎝の不整楕円形である。深さは確認面から約11㎝となる。断面は凹凸のある皿状を呈す。**備考**　出土遺物から奈良～平安時代に属する土坑としたが、先行するSI-14の遺物が混入した可能性も大きい。**遺物**　須恵器坏と土師器の坏・甕の小片を８点出土。図示不能。

ＳＫ-２１９

位置　C-２区ソ-20グリッドに位置する。**重複・新旧**　SI-18・19・21と重複し、これらより新しい。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約73㎝、短軸約68㎝の円形を呈する。深さは確認面から平均約35㎝を測る。断面は逆台形。**備考**　SI-20の北東コーナーの貼床除去後検出した土坑。SI-20に先行する遺構か、伴う床下土坑か不明である。掘方に掘削に用いた鍬の工具痕（幅15㎝程度）が明瞭に残る。周囲に分布する類型の土坑にも、同じような明瞭な工具痕が部分的にみられる。**遺物**　須恵器の坏と甕の破片を計６点、土師器の坏と甕の破片を計13点出土した。小片のため図示不能。

ＳＫ-２２６

位置　C-２区セ-19グリッドに位置する。**重複・新旧**　SI-14と重複し、これより新しい。**規模・形状**　確認開口部で長軸約111㎝、短軸約70㎝、深さ約21㎝を測る。平面形は楕円形を呈し、断面の形状は皿状である。**遺物**　須恵器・土師器の坏・甕の小片を合わせて８点出土した。図示不能。

ＳＫ-２３８

位置　C-１区コ-21グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約108㎝、短軸約78㎝の楕円形である。深さは確認面から約14㎝となる。断面は皿状を呈す。**備考**　浅い楕円形土坑。底はやや凹凸がある。壁は緩やかに立ち上がる。**遺物**　土師器甕の胴部破片３点を検出。図示不能。

ＳＫ-２４７

位置　C-１区ケ-21グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約84㎝、短軸約79㎝の不整円形である。深さは確認面から約31㎝となる。断面は逆台形を呈す。掘り込みは比較的明瞭で、底面は凹凸あり。壁は垂直～急角度で立ち上がる。**遺物**　土師器の坏と甕の小片１点ずつ出土。図示不能。

ＳＫ-２５５

位置　C-１区ケ-20グリッドに位置する。**規模・形状**　確認開口部で長軸約105㎝、短軸約100㎝、深さ約12㎝を測る。平面形は円形を呈し、断面の形状は皿状である。本遺構を含め、周囲の遺構はローム漸移層で確認している。掘り込みは明瞭。底面はほぼフラットで壁は急角度で立ち上がる。**遺物**　底面に近い覆土中から検出した、土師器の坏１点を図示。

ＳＫ-５１２

位置　B-３区ウ-11グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約91㎝、短軸約78㎝の楕円形である。深さは確認面から約90㎝となる。断面は上部が開くＵ字形を呈す。**備考**　底面隅丸方形の井戸状の深い掘り込み。土層の分層図はないが、上部はローム質で緻密均質な土緻密な粒子の土が堆積している。

しまり、粘性ともに普通である。中位以下は、サラサラした黄褐色ロームを主体とする覆土で、灰黄色ロームブロックと黒褐色土小ブロックが微量入る。固くしまるが粘性は弱い。性格不明。**遺物**　上部の層から出土した、土師器の壺１点を図示。

ＳＫ-５９０

位置　Ｂ-４区ク-12グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約90㎝、短軸約85㎝の円形である。深さは確認面から約32㎝となる。断面は逆台形を呈す。**備考**　覆土上半部の１～４層は、焼土・炭化物を非常に多く含む層で、この範囲で焼成行為が行われたか、他で発生した焼土・炭化物の廃棄に使われたか。覆土中には中礫も混じる。**遺物**　須恵器甕の胴部破片１点出土。図示不能。

ＳＫ-６２０

位置　Ｂ-３区カ-６グリッドに位置する。**重複・新旧**　SD-621と重複し、これより新しい。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約160㎝、短軸約136㎝の不整楕円形を呈する。深さは確認面から平均約60㎝を測る。断面は逆台形。**備考**　出土した土器片は、大部分が１層中より出土している。**遺物**　１層中より出土した須恵器坏２点を図示。他に、須恵器の壺・甕、土師器の甕の小片18点を検出。

ＳＫ-８５６

位置　Ｄ区イ-16グリッドに位置する。**重複・新旧**　SD-830と重複し、これより古い。**規模・形状**　確認開口部で長軸約95㎝、短軸約〔65〕㎝、深さ約30㎝を測る。平面形は不整楕円形を呈し、断面の形状は逆台形である。**遺物**　土師器坏の体部破片１点、甕の口縁部破片１点を出土。図示不能。

ＳＫ-８６７

位置　Ｄ区オ-17グリッドに位置する。**重複・新旧**　SB-853、SK-868と重複し、これより古い。SB-854とも重複するが、新旧関係は不明。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約〔135〕㎝、短軸約〔61〕㎝の長方形である。深さは確認面から約12㎝となる。断面は逆台形を呈す。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-８６８

位置　Ｄ区オ-17グリッドに位置する。**重複・新旧**　SB-853、SK-867と重複し、両遺構より新しい。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約94㎝、短軸約83㎝の円形を呈する。深さは確認面から平均約22㎝を測る。断面は逆台形。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-９９８

位置　Ｃ-２区ス-19グリッドに位置する。**重複・新旧**　当初、SK-998と999は同一の遺構として調査した為、検出した遺物がどちらに属するか判別不能で、新旧も不明。SD-37とも重複し、これより新しい。**規模・形状**　確認開口部で長軸約105㎝、短軸約105㎝、深さ約30㎝を測る。平面形は円形を呈し、断面の形状は逆台形である。**遺物**　須恵器・土師器の坏・甕の小片を27点検出。図示不能。

ＳＫ-９９９

位置　Ｃ-２区ス-19グリッドに位置する。**重複・新旧**　当初、SK-998と999は同一の遺構として調査した為、検出した遺物がどちらに属するか判別不能で、新旧も不明。SD-37とも重複し、これより新しい。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約〔85〕㎝、短軸約55㎝の楕円形である。深さは確認面から約33㎝となる。断面は逆台形を呈す。**遺物**　須恵器・土師器の坏・甕の小片を27点検出。図示不能。

ＳＫ-１１１３

位置　Ｅ区ネ-34グリッドに位置する。**規模・形状**　確認開口部で長軸約72㎝、短軸約58㎝、深さ約27㎝を測る。平面形は楕円形を呈し、断面の形状は逆台形である。**備考**　土層の観察から、土坑の中央に何か埋

設されていた痕跡が伺える。埋設物の周囲を３～６層で埋め、上面を１・２層で覆っている様子である。埋設したものの空間が埋設物の腐食か抜き取りによって空き、周囲の２・３層の土が入り込んでいる（2'・3'層）。２層は焼土・炭化物の目立つ層で、この面で焼成行為が行われた可能性も考えられる。**遺物**　土師器の埦と坏、計５点を図示。土坑の時期は床面直上から出土した遺物から、平安時代にあたるものと判断した。他に須恵器坏の破片11点と土師器甕の破片４点を検出。

ＳＫ-１１１５

位置　Ｅ区ヌ-35グリッドに位置する。**重複・新旧**　SI-1107と重複し、これより古い。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約80㎝、短軸約75㎝の不整形を呈する。深さは確認面から平均約35㎝を測る。断面は埦状。**備考**　遺構確認面は木根による攪乱が著しい。**遺物**　土師器の坏と甕の破片を計６点検出。図示不能。

ＳＫ-１１１６

位置　Ｅ区ヌ-35グリッドに位置する。**規模・形状**　確認開口部で長軸約139㎝、短軸約108㎝、深さ約39㎝を測る。平面形は西壁が内側に入る不整形で、断面の形状は有段逆台形である。底面は東部が円形に一段下がり、西部に浅い平坦面を持つ。壁は緩やかに立ち上がっている。**遺物**　土師器の埦と坏各１点と皿３点を図示。他に土師器の坏と甕の破片計13点を検出。

ＳＫ-１２０７

位置　Ｆ-１区ネ-46グリッドに位置する。**重複・新旧**　Ｓ-1208と重複するが、新旧関係は不明である。**規模・形状**　確認開口部で長軸約116㎝、短軸約80㎝、深さ約13㎝を測る。平面形は不整楕円形を呈し、断面の形状は皿状である。**備考・遺物**　覆土中より検出した須恵器高台付坏１点を図示。他に、確認面に近い覆土中から、須恵器坏の体部片と土師器甕の胴部片１点ずつを検出。

３．中世以降

ＳＫ-７１

位置　Ｃ-２区ス-19グリッドに位置する。**規模・形状**　確認開口部で長軸約43㎝、短軸約42㎝、深さ約15㎝を測る。平面形は不整円形を呈し、断面の形状は凹凸のある逆台形である。**遺物**　器種は不明だが、土師質土器の口縁部１点を出土。図示不能。

ＳＫ-１１９

位置　Ｂ-３区キ-11グリッドに位置する。**重複・新旧**　調査時､遺構の重複前後関係が混乱したが、古墳時代前期の遺構であるSZ-105を切るSK-119プランの上面を、別の浅い掘り込み（SZ-105と分けた遺構発番なし）が切るという関係で結論づけた。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約150㎝、短軸約112㎝の楕円形を呈する。深さは確認面から平均約〔72〕㎝を測る。断面は逆台形を呈す。**備考**　SK-119は中近世の井戸である可能性が高いが、上部のみの調査のため今回はSK発番のまま土坑として処理した。**遺物**　覆土中より、土師質土器（内耳土器か焙烙）の胴部片が１点と、陶器の底部片を１点検出した。図示不能。

ＳＫ-１２５

位置　Ｂ-３区オ-12グリッドに位置する。**重複・新旧**　SD-122・151と重複し、両遺構より新しい。**規模・形状**　確認開口部で長軸約148㎝、短軸約108㎝、深さ約22㎝を測る。平面形は隅丸長方形を呈し、断面の形状は凹凸のある皿状である。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１５２

位置　Ｂ-２区カ-15グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-153と重複し、これより古い。**規模・形状**　確認

開口部で長軸約〔440〕㎝、短軸約143㎝、深さ約35㎝を測る。平面形は長方形を呈し、断面の形状は逆台形である。**備考**　所謂、長方形土坑。本遺構は当初１基の東西に長い長方形土坑として調査したが、掘り上がりの形状から、３基の遺構が重複した可能性も考えられる。東部の底面は遺構の中央及び西側に比べ、10㎝程度低く、非常に平坦であり、ここに１基の長方形土坑の存在が考えられる。中央部は北に半円状に張り出す壁と東部側に見られる地山状のロームの遺存部から、円形の遺構の重複が推定される。**遺物**　土師質土器（内耳土器か焙烙）の破片13点と陶磁器の碗の破片５点を出土。図示不能。

ＳＫ-１５３

位置　Ｂ-２区カ-15グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-152・197と重複する。両者より新しい。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約213㎝、短軸約92㎝の長方形である。深さは確認面から約31㎝となる。断面は逆台形を呈す。**備考**　所謂、長方形土坑。**遺物**　土師質土器（内耳土器か焙烙）の破片６点と、陶磁器の碗の破片２点、擂鉢の胴部破片１点を出土。図示不能。

ＳＫ-１５６

位置　Ｂ-２区カ-15グリッドに位置する。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約240㎝、短軸約70㎝の長方形を呈する。深さは確認面から平均約37㎝を測る。断面は逆台形。**備考**　所謂、長方形土坑。壁は垂直に立ち上がり、底面はフラット。四隅は明瞭に掘り込まれている。イモ穴の可能性も考えられたが、単独的な占地で、墓の可能性もある。**遺物**　土師器甑の破片１点を検出。混入品。図示不能。

ＳＫ-１５７

位置　Ｂ-２区カ-15グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-405、SD-166とも重複し、新旧関係は新しい順にSK-405→SK-157→SK-170→SD-166となる。**規模・形状**　確認開口部で長軸約98㎝、短軸約80㎝、深さ約20㎝を測る。平面形は円形を呈し、断面の形状は凹凸のある皿状である。**備考**　確認の時点で細長い楕円形の遺構とみられ、調査時は一遺構として処理したが、２基の土坑の重複である可能性が高いため、西側部分をSK-170とした。SK-157と170との平面プランでの切り合い部分で段差は出来たが、土層に明瞭な差異はない。両遺構とも底面にはやや凹凸が有り、壁の立ち上がりも一部なだらかで不明瞭。ほぼ確認面である覆土上位に、５～20㎝の礫が集中して見られ、概ね同レベルで炭化物（一部細い炭化材を含む）も集中している。この炭化物の集中が特徴的な遺構である。**遺物**　焙烙と思われる土師質土器の底部破片１点を出土。図示不能。

ＳＫ-１５８

位置　Ｂ-２区カ-14グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-159、SX-301と重複する。SX-301より新しく、SK-159より古い。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約148㎝、短軸約118㎝の不整円形である。深さは確認面から約33㎝となる。断面は段のある逆台形を呈す。**備考**　東壁側は緩やかに立ち上がる。この部分は当初攪乱かとも思ったが、本土坑の土と同じである。南西部は攪乱が著しく、立ち上がりが不明瞭。掘り下げ開始時はSK-158・159を１基の遺構と考えたが、土層断面確認により、両遺構の覆土の違いは比較的明瞭であり、２基の重複と判断した。確認面で炭と焼土の遺存が見られた。出土した遺物は、据え置かれた完形品ではなく、副葬的ではない。**遺物**　床上５㎝から出土した土師質土器の火鉢と、底面に極近い覆土中から出土した磁器の碗を図示。他に在地系素焼き土器（内耳土器）等の大きめの破片が中央やや北側からまとまって出土。

ＳＫ-１５９

位置　Ｂ-２区カ-14グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-158、SD-166、SX-301と重複し、これらより新

しい。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約167㎝、短軸約105㎝の不整長方形を呈する。深さは確認面から平均約22㎝を測る。断面は皿状。**備考**　プランはやや不整で、壁の立ち上がりは不鮮明である。**遺物**　出土した陶磁器碗の破片２点のうち１点を図示。他、焙烙の底部片出土。

ＳＫ-１６０

位置　Ｂ-２区カ-15グリッドに位置する。**重複・新旧**　SD-154、SX-301と重複し、SD-154より古く、SX-301より新しい。**規模・形状**　確認開口部で長軸約71㎝、短軸約60㎝、深さ約〔31〕㎝を測る。平面形は楕円形を呈し、断面の形状は（逆台形）である。**備考**　土層が図化できなかったが、覆土は鉄分を多く含んだ土が目立つ。SK-160が掘り込まれている地山は、きれいなロームなく黒い部分が混じる土。プランはやや不整だが、掘り込みは明瞭である。**遺物**　土師質土器の焙烙片２点と不明鉄製品１点を覆土中より出土。図示不能。

ＳＫ-１６１

位置　Ｂ-２区カ-14グリッドに位置する。**重複・新旧**　切り合いなく、単独的に位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約172㎝、短軸約55㎝の不整長方形である。深さは確認面から約14㎝となる。断面は皿状を呈す。**備考**　所謂、長方形土坑。壁は四面とも緩やかな角度を持って立ち上がる。底面はやや凹凸が見られ、南側が一部低くなる。底面の地山ロームにめり込むように、若干の礫が遺存する。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１６５

位置　Ｂ-２区オ-15グリッドに位置する。**重複・新旧**　Ｓ-180と重複し、これより古い可能性が高い。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約210㎝、短軸約185㎝の方形を呈する。深さは確認面から平均約８㎝を測る。断面は皿状。**備考**　極めて浅い掘り込みの遺構。確認時には方形の遺構２基の重複のように見えたが、覆土１層のみを確認し、SK-165の１基とした。東コーナーに切り合うピット状遺構（Ｓ-180）との確実な新旧関係は不明である。但し、明らかに両遺構の覆土は異なっており、Ｓ-180が本遺構に伴う可能性はない。Ｓ-165の性格は不明。**遺物**　陶磁器碗の口縁部破片１点のみ検出。図示不能。

ＳＫ-１６８

位置　Ｂ-２区オ-13グリッドに位置する。**重複・新旧**　SZ-124、SK-169と重複し、これらより新しい。SZ-124の調査後に確認した遺構のため、SZ-124と切り合う北壁部分が確認できなかった。**規模・形状**　確認開口部で長軸約114㎝、短軸約〔92〕㎝、深さ約21㎝を測る。平面形は円形を呈し、断面の形状は逆台形である。**備考**　近世の円形墓壙。周囲の円形土坑と同様に、桶のような円筒状の構造物を据えた痕跡の見られる土坑。土層の断面観察でも、桶相当部分に明らかに違う土が入っていた。壁は垂直～急角度に立ち上がる。底面は平坦であるが、据えられた桶の外側にあたる部分の方が低くなる。桶枠内も平坦で、硬い土との記述がある。この周壁部から中央部に向かって底面が盛り上がっている部分は、掘方の上に硬く土を貼った可能性も考えられる。**遺物**　床面上３㎝程から検出した銭貨（寛永通宝）１点を図示。遺構の時期に伴う遺物は土師質土器と陶磁器の碗の小破片が出土しているが図示不能。

ＳＫ-１６９

位置　Ｂ-２区オ-13グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-168と重複し、これより古い。

規模・形状　平面形は確認開口部で長軸約〔130〕㎝、短軸約121㎝の円形を呈する。深さは確認面から平均約35㎝を測る。断面は逆台形。**備考**　近世の円形墓壙。底面は平坦で壁は壁の立ち上がりは垂直。全体の形状はシャーレ状を呈す。南壁のみ上端近くに浅い溝状の落ち込みが見られ、緩やかである。**遺物**　床面直上から煙管の吸口部分・砥石・陶器・磁器・石鏃が出土した。縄文時代に属する石鏃は混入品であるが、当時

の副葬品として墓壙内に入れた可能性もある。内、砥石１点、石鏃１点を図示。

ＳＫ-１７０

位置　Ｂ-２区カ-15グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-157・405、SD-166、Ｓ-406と重複する。新旧関係は新しい順に、SK-405→SK-157→SK-170→Ｓ-406→SD-166となる。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約〔100〕㎝、短軸約90㎝の隅丸長方形である。深さは確認面から約８㎝となる。断面は不整逆台形を呈す。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１７１

位置　Ｂ-２区オ-14グリッドに位置する。**重複・新旧**　SD-154・166と重複し、これより新しい。Ｓ-420との関係は不明だが、平面確認からは本遺構が新しいか。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約178㎝、短軸約83㎝の長方形を呈する。深さは確認面から平均約48㎝を測る。断面は不整逆台形。**備考**　長方形～長楕円状の土坑。底面はおおよそ平坦だが、南側がやや狭くなると共に底面も南に向かって少しずつ高くなっている。北壁は緩やかだが東西及び南壁の立ち上がりは垂直に近い。但し上端近くはやや緩やかである。**遺物**　土師質土器の焙烙片と陶磁器の胴部小片を覆土中より出土。

ＳＫ-１７６

位置　Ｂ-２区エ-13グリッドに位置する。**重複・新旧**　隣接するＳ-183との切り合いはないため、新旧は不明である。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約103㎝、短軸約100㎝の円形である。深さは確認面から約15㎝となる。断面は皿状を呈す。**備考**　浅く直径が大きめの円形土坑。桶状の痕跡はないが、SK-168などの近世の円形墓壙である土坑と形が似ている。地山ロームを底面とし、若干凹凸あるが大きなレベル差はない。一部攪乱を受け下がる部分あり。壁は緩い角度と急な角度のところがある。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１８２

位置　Ｂ-２区オ-14グリッドに位置する。**重複・新旧**　SD-166と重複し、これより新しい。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約112㎝、短軸約106㎝の円形を呈する。深さは確認面から平均約23㎝を測る。断面は皿状。**備考**　SK-168などと同質の、底面に桶状の痕跡がある円形土坑。壁はやや緩やかに立ち上がる。桶痕跡の南側はやや不明瞭で若干の段差があるのみ。桶枠内にあたる底面はおおよそフラットで、若干硬くなっている。土坑内に据えられた構造物が棺桶とは断定できないが、周囲に見られる同質の円形土坑の様子などから、本遺構も墓壙と判断して良いように思う。**遺物**　陶磁器碗の口縁部破片１点のみ検出。図示不能。

ＳＫ-１８５

位置　Ｂ-２区オ-14グリッドに位置する。**重複・新旧**　Ｓ-174・184と重複し、これより古い。**規模・形状**　確認開口部で長軸約137㎝、短軸約〔60〕㎝、深さ約35㎝を測る。平面形は（円形）を呈し、断面の形状は凹凸のある逆台形である。**備考**　大きめの円形土坑。壁はやや緩やかに立ち上がる。底面はロームでフラット。**遺物**　混入と思われるが、１層中より出土の土師器坏１点図示。他に陶磁器の碗片も出土。

ＳＫ-１９７

位置　Ｂ-２区カ-15グリッドに位置する。**重複・新旧**　北東壁がSK-153と重複する。これより古い。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約〔200〕㎝、短軸約96㎝の長方形を呈する。深さは確認面から平均約31㎝を測る。断面は逆台形。**備考**　SK-197と198の覆土の間に、区別の明瞭でない黒褐色土が認められ、ここに先行する別遺構が存在したと思われる。**遺物**　焙烙と思われる土師質土器の胴部破片１点と、陶磁器碗の破片２点を出土。図示不能。

ＳＫ-１９８

位置　Ｂ-２区カ-15グリッドに位置する。**重複・新旧**　SD-154、Ｓ-344・345と重複する。Ｓ-344より新しく、SD-154より古い。Ｓ-345との新旧関係不明。**規模・形状**　確認開口部で長軸約〔212〕㎝、短軸約89㎝、深さ約23㎝を測る。平面形は長方形を呈し、断面の形状は逆台形である。**備考**　SK-197と198の覆土の間に、区別の明瞭でない黒褐色土が認められ、ここに先行する別遺構が存在したと思われる。**遺物**　内耳土器の口縁部破片１点と、陶磁器碗の破片３点を出土。図示不能。

ＳＫ-２３４

位置　Ｃ-１区サ-21グリッドに位置する。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約145㎝、短軸約65㎝の隅丸長方形を呈する。深さは確認面から平均約15㎝を測る。断面は逆台形。**備考**　僅かに低地になる黒色土中を掘り込む遺構。遺構確認時はプランが不明瞭であった。平面形は不正楕円に近い隅丸長方形。掘り込みはやや不明瞭で底面はフラット。壁は急角度で立ち上がる。SK-244と類型で、周辺に分布する火葬墓群と確認面が同一である。古代の溝はこの面以下で確認できるため、時期としては中世以降か。**遺物**　須恵器坏２点と土師器甕の胴部破片３点を検出。混入品。図示不能。

ＳＫ-２４４

位置　Ｃ-１区サ-22グリッドに位置する。**規模・形状**　確認開口部で長軸約178㎝、短軸約165㎝、深さ約21㎝を測る。平面形は長方形を呈し、断面の形状は皿状である。**備考**　僅かに低地になる黒色土中を掘り込む遺構。遺構確認時はプランが不明瞭であった。南壁以外壁は緩やかな立ち上がり。底面はフラット。掘り込み、比較的明瞭。SK-234と類型で、周辺に分布する火葬墓群と確認面が同一である。古代の溝はこの面以下で確認できるため、時期としては中世以降か。**遺物**　須恵器の蓋・坏、土師器の坏・甕の破片合わせて21点が出土。混入品。いずれも小片のため図示不能。

ＳＫ-３００

位置　Ｂ-２区オ-14グリッドに位置する。**重複・新旧**　SD-154・155と重複し、これより古い。**規模・形状**　確認開口部で長軸約76㎝、短軸約63㎝、深さ約〔42〕㎝を測る。平面形は不整円形を呈し、断面の形状は逆台形である。**備考**　SD-154の覆土掘り下げ後にプランを確認した。SD-154出土の礫はSK-300の範囲内と範囲外で出土に差はなく、SK-300の掘り込みがSD-154の覆土を切っていないと判断した。底面はフラットで、底面直上から上５㎝の範囲で礫の密集が見られる。底面のロームにめり込むような礫はやや小ぶりで、その上部から出土する礫は大きめである。搬入礫と思われる。**遺物**　底面直上より出土した磨石１点を図示。

ＳＫ-３２４

位置　Ｂ-２区オ-13グリッドに位置する。**重複・新旧**　SD-166の西端部と重複して検出。SD-166との新旧関係不明。当初の平面確認ではSD-166がSK-324より古いものとしていた。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約115㎝、短軸約80㎝の隅丸長方形である。深さは確認面から約80㎝となる。断面は逆台形を呈す。**備考**　方形に近い土坑。南北の壁は垂直に近く、東西壁は緩やかに立ち上がる。底面に見られるピット状の窪みは根穴等の攪乱の可能性有り。**遺物**　陶器鉢の底部破片を１点出土。図示不能。

ＳＫ-３２５

位置　Ｂ-１区ケ-15グリッドに位置する。**規模・形状**　確認開口部で長軸約〔63〕㎝、短軸約50㎝、深さ約16㎝を測る。平面形は不整楕円形を呈し、断面の形状は凹凸のある逆台形である。**備考**　SK-326と別遺構として調査したが、SD-188に伴う連続した掘り込みの円形土坑状部分である可能性がある。その際SD-188の南側に対面して存在するSK-377、Ｓ-378と対になると思われる。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-３２６

位置　Ｂ-１区ケ-15グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約78㎝、短軸約66㎝の楕円形である。深さは確認面から約40㎝となる。断面は逆台形を呈す。**備考**　SK-325と別遺構として調査したが、SD-188に伴う連続した掘り込みの溝状部分である可能性がある。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-３２９

位置　Ｂ-２区カ-16グリッドに位置する。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約73㎝、短軸約73㎝の円形を呈する。深さは確認面から平均約32㎝を測る。断面は逆台形。**備考**　当初掘り下げの、セクションラインより東では確認面から30㎝位の高さで約３～20㎝大の礫がまとまって出土した。西側では確認面から10～15㎝の高さで出土。礫は７～８㎝程度の大きさが最も多い。覆土はかなりしまった地山のような土で、SD-150より西側から検出する遺構の覆土とはかなり異なるため、遺構の時期に差がある可能性がある。周囲の遺構ではＳ-331と類似するか。壁は垂直～急角度に立ち上がる。底面やや凹凸有り。掘り込みは明瞭。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-３３０

位置　Ｂ-２区カ-16グリッドに位置する。**規模・形状**　確認開口部で長軸約93㎝、短軸約〔40〕㎝、深さ約41㎝を測る。平面形は円形を呈し、断面の形状は逆台形である。**備考**　ロームブロックを多く含む黒色土の単層で、人為的な埋め戻し土と思われる。底面から５～８㎝大の礫がまとまって検出する。**遺物**　土師器甕の底部片１点と陶磁器碗の口縁部片１点を検出。図示不能。

ＳＫ-３３８

位置　Ｂ-２区オ-15グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約130㎝、短軸約〔50〕㎝の楕円形である。深さは確認面から約22㎝となる。断面は凹凸のある皿状を呈す。**備考**　近世の円形墓壙か。南西半部は調査区外にあたるため未調査。当初二つの遺構としたが、掘り下げにより一つの遺構と判断。内と外の土層がかなり違い、桶状のものが埋設されていた痕跡と思われる。同心円状の凹部内側の底面は概ねフラット。外側はやや凹凸が見られる。壁は一部急な部分と、やや緩やかな部分とがある。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-３４２

位置　Ｂ-２区カ-15グリッドに位置する。**重複・新旧**　SD-154の底面から検出した土坑。SD-154に先行する遺構と判断。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約110㎝、短軸約58㎝の楕円形を呈する。深さは確認面から平均約44㎝を測る。断面は有段逆台形。長軸断面の壁の立ち上がりの角度はやや緩やかで、短軸端部断面の壁は垂直に近い。**備考**　底面直上から上５㎝の範囲で、15～20㎝大の礫と３～５㎝程の砂利が混ざって検出。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-３７７

位置　Ｂ-１区ケ-15グリッドに位置する。**規模・形状**　確認開口部で長軸約80㎝、短軸約66㎝、深さ約34㎝を測る。平面形は楕円形を呈し、断面の形状は逆台形である。**備考**　Ｓ-378と別遺構として調査したが、SD-188に伴う連続した掘り込みの円形土坑状部分である可能性がある。その際、SD-188の北側に対面して存在するSK-325・326と対になるものと思われる。**遺物**　土師器の甕胴部破片４点を検出。図示不能。

ＳＫ-３９９

位置　Ｂ-２区エ-14グリッドに位置する。**重複・新旧**　SX-409と重複し、これより古い。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約〔62〕㎝、短軸約〔50〕㎝の不整形である。深さは確認面から約41㎝となる。断面はＵ字形を呈す。掘り込み明瞭。壁は垂直に近い。底はローム中でフラットである。**備考**　調査区の西端に位置

し、当初、近接するＳ-398・400と同様に細い柱穴状と考えたが、調査区を広げて調査した結果、遺構の西側の大部分が調査区外に伸び、かなり大きめになる可能性があるため土坑とした。SK-399の上部をしまりのある黒褐色土が切っており、周辺を広げ精査したが、やはり調査区外にあたるため全体のプランが確認できずこの部分は不明遺構とした。**遺物**　土師器甕の口縁部片１点と陶磁器碗の口縁部片１点を検出。図示不能。

ＳＫ-４０５

位置　Ｂ-２区カ-15グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-157・170、SD-166、Ｓ-406と重複し、新旧関係は新しい順にSK-405→SK-157→SK-170→Ｓ-406→SD-166となる。**規模・形状**　確認開口部で長軸約120㎝、短軸約100㎝、深さ約40㎝を測る。平面形は隅丸長方形を呈し、断面の形状は逆台形である。**遺物**　焙烙と思われる土師質土器の胴部破片１点を出土。図示不能。

ＳＫ-４１１

位置　Ｂ-１区ケ-13グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-412と重複し、これより古い。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約146㎝、短軸約59㎝の長方形である。深さは確認面から約25㎝となる。断面は逆台形を呈す。**備考**　長方形土坑。南部の底面近くから礫が若干検出した。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-４１２

位置　Ｂ-１区ケ-13グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-411と重複し、これより新しい。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約〔213〕㎝、短軸約89㎝の長方形を呈する。深さは確認面から平均約22㎝を測る。断面は逆台形。**備考**　長方形土坑。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-４１３

位置　Ｂ-１区ケ-17グリッドに位置する。**重複・新旧**　SD-305と重複し、これより古い。**規模・形状**　確認開口部で長軸約283㎝、短軸約66㎝、深さ約22㎝を測る。平面形は長方形を呈し、断面の形状は凹凸のある皿状である。長方形土坑。北側のプランは不明瞭で、壁もなだらかに立ち上がる。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-４２４

位置　Ｂ-３区イ-11グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約107㎝、短軸約46㎝の長方形である。深さは確認面から約23㎝となる。断面は皿状を呈す。浅い長方形土坑。周囲に平行して走る攪乱溝があるが、それに比べ安定した覆土と形態のため遺構と判断。底面は中央から南にかけてやや下がり、一部、溝状に低くなる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。**遺物**　須恵器の坏、底部破片１点と内耳土器片２点を検出。図示不能。

ＳＫ-４３６

位置　Ｂ-３区オ-11グリッドに位置する。**規模・形状**　確認開口部で長軸約135㎝、短軸約85㎝、深さ約14㎝を測る。平面形は隅丸長方形を呈し、断面の形状は皿状である。壁はやや垂直に立ち上がる。墓壙か。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-４３９

位置　Ｂ-３区エ-９グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約112㎝、短軸約82㎝の楕円形に近い隅丸方形である。深さは確認面から約13㎝となる。断面は皿状を呈す。南半分の底面は平らだが、北半分は凹凸が見られる。壁の立ち上がりはやや不明瞭。墓壙か。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-４４０

位置　Ｂ-３区ウ-10グリッドに位置する。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約206㎝、短軸約75㎝の不整長方形を呈する。深さは確認面から平均約49㎝を測る。断面は菱形。**備考**　細長い長方形土坑。北コーナ

ーを暗渠により一部壊される為、断面観察はラインをやや南東にずらして行った。縦軸の中央底部面に幅15～20㎝、深さ10㎝弱の溝状の掘り込みがある。北側壁には横穴ピットのような突出の掘り込み部が見られ、人間の頭が入るような大きさである旨の所見あり。墓壙と判断した。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-４４７

位置　B-３区オ-10グリッドに位置する。**規模・形状**　確認開口部で長軸約189㎝、短軸約105㎝、深さ約36㎝を測る。平面形は不整長方形を呈し、断面の形状は逆台形である。長方形土坑。SK-440と同様の形状を呈す。主軸方向も一緒だが、横穴状の掘り込みはない。南北の壁は垂直に立ち上がるが、東西の壁上部はやや不明瞭。墓壙と思われる。**遺物遺物**　検出しない。

ＳＫ-５１４

位置　B-４区カ-11グリッドに位置する。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約240㎝、短軸約105㎝の長方形を呈する。深さは確認面から平均約20㎝を測る。断面は逆台形。**備考**　形の整った長方形土坑。覆土は一括埋め戻しの単層。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-５１５

位置　B-４区キ-11グリッドに位置する。**規模・形状**　確認開口部で長軸約240㎝、短軸約115㎝、深さ約63㎝を測る。平面形は不整長方形を呈し、断面の形状は有段逆台形である。**備考**　掘り込みの深い不整方形と浅い不整長方形土坑の重複の可能性有り。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-５１６

位置　B-４区カ-12グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約120㎝、短軸約115㎝の不整円形である。深さは確認面から約80㎝となる。断面は開くＵ字形を呈す。**備考**　南側にやや張り出しがあるが一部掘り過ぎの可能性有り。底面から上15㎝～75㎝の範囲（３・４層）から大型～中型の角礫多数出土。上部の40㎝大の礫２点はかなり焼けている。礫が入る３・４層には骨片と炭、焼土が多量に混入する。底面は土層注記表の含有鉄分が酸化する硬い礫層にあたり、覆土に混入する礫との区別が不明確となってしまった。墓壙になるか。**遺物**　礫の他は、陶磁器碗の口縁部破片を１点のみ出土。図示不能。

ＳＫ-５８９

位置　B-４区ケ-13グリッドに位置する。**規模・形状**　確認開口部で長軸約108㎝、短軸約50㎝、深さ約９㎝を測る。平面形は長方形を呈し、断面の形状は皿状である。**備考**　長方形土坑。覆土単層。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-６３４

位置　B-３区オ-９グリッドに位置する。**規模・形状**　確認開口部で長軸約108㎝、短軸約58㎝、深さ約19㎝を測る。平面形は不整長方形を呈し、断面の形状は逆台形である。**備考**　プランは火葬墓に類するが、覆土にはその特徴があまり見られず、性格は不明である。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-７３１

位置　D区ウ-17グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-732、SD-730・739・749と重複する。SD-730より新しく、SK-732より古い。SD-739・749との新旧は不明である。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約〔435〕㎝、短軸約116㎝の東西に細長い長方形を呈する。深さは確認面から平均約32㎝を測る。断面は皿状。長方形土坑。壁はほぼ垂直で底面も平坦。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-７３２

位置　D区エ-17グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-731と重複し、これより新しい。**規模・形状**　確認開

口部で長軸約108㎝、短軸約105㎝、深さ約10㎝を測る。平面形は円形を呈し、断面の形状は皿状である。形状的にSK-733に近いが、一回り小さい土坑。底面は凹凸が見られる。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-７３３

位置　Ｄ区エ-17グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約137㎝、短軸約124㎝の円形である。深さは確認面から約15㎝となる。断面は皿状を呈す。**備考**　北壁に接して底面に僅かに底が二重になっている痕跡が認められる円形土坑。桶痕跡か。その南側にかけて、床面は平坦な部分が若干見られる。東側の壁は立ち上がりが不明瞭。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-７４８

位置　Ｄ区ウ-17グリッドに位置する。**重複・新旧**　SD-749と重複し、これより新しい。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約86㎝、短軸約85㎝の円形を呈する。深さは確認面から平均約27㎝を測る。断面は逆台形。**備考**　底面は不整で北半分はかなり凹凸があるが、壁はきれいに立ち上がる。SD-749の底部付近と切り合うところは、立ち上がりが不明瞭になるが、東壁はかなりはっきりしている。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-７５６

位置　Ｄ区イ-16グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-757と直交して重複し、これより新しい。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約〔243〕㎝、短軸約74㎝の不整長方形である。深さは確認面から約９㎝となる。断面は皿状を呈す。**備考**　北東～南西方向に細長く伸びる長方形土坑。上面が削平により消失しているため、底部に近い部分の確認となった。南部の壁は殆ど残っておらず、不明瞭である。**遺物**　土師器坏の破片１点検出。図示不能。混入品と思われる。

ＳＫ-７５７

位置　Ｄ区イ-16グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-756と直交して重複し、これより古い。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約164㎝、短軸約66㎝の長方形を呈する。深さは確認面から平均約14㎝を測る。断面は皿状。整った長方形土坑。 SK-756よりも形状が明瞭で、壁の立ち上がりなどもはっきりしている。**遺物**　土師器甕の底部片１点検出。図示不能。混入品と思われる。

ＳＫ-７６２

位置　Ｄ区エ-16グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-764と重複し、SK-763と接する。SK-763との新旧関係は不明だが、SK-764より新しい。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約130㎝、短軸約110㎝の円形である。深さは確認面から約15㎝となる。断面はシャーレ状を呈す。**備考**　Ｂ-２区に分布する円形土坑に多かったタイプ。壁の立ち上がりはほぼ垂直で、形状はシャーレ状。掘方の底部中央が僅かに高まり、その周囲が低くなるのは、SK-763にも共通する特徴である。最上層の１層の周囲を丸く巡るように硬く粒子のしまった４層と類層の３層が認められ、１層の下に入っている粒子の細かい粘質の２層の存在とも考え合わせると、１層部分が桶状の構造物が入っていた範囲で、その下や周りの層は桶を入れた周囲の空間を埋め立てた土と想像できる。本土坑を墓壙と捉える所以である。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-７６３

位置　Ｄ区エ-16グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-764と重複し、SK-762と接する。SK-762との新旧関係は不明だが、SK-764より新しい。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約143㎝、短軸約130㎝の不整円形を呈する。深さは確認面から平均約33㎝を測る。断面は椀状。**備考**　SK-762よりも一回り大きい円形を呈す。底部は平坦で、壁の立ち上がりもしっかりしている。北側の壁がやや不整なことを除けば形状は整っ

ている。南壁に沿って、一部周溝状の凹部あり。覆土中に５～10㎝大の礫が入る。墓壙と思われる。**遺物**　確認面上にて近世磁器の碗１点を検出。図示。ほか、底面から15㎝以上上部の覆土中から、陶磁器の碗の口縁部片３点と縄文土器の破片２点出土。縄文土器は混入品。

ＳＫ-７６４

位置　Ｄ区エ-16グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-762・763と重複し両者より古い。**規模・形状**　確認開口部で長軸約135㎝、短軸約〔85〕㎝、深さ約22㎝を測る。平面形は不整円形を呈し、断面の形状は椀状である。**備考**　SK-763によって北側の殆どを壊されるため全体の形状は不明だが、おそらく本来は円形を呈すると思われる。北東側が浅くなっている。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-７６５

位置　Ｄ区エ-16グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約207㎝、短軸約70㎝の隅丸長方形である。深さは確認面から約42㎝となる。断面は皿状を呈す。舟形に細長い長方形土坑。底に凹凸が見られ、東西の壁は段を持って立ち上がる。南北壁は明瞭である。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-７７４

位置　Ｄ区イ-15グリッドに位置する。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約225㎝、短軸約95㎝の長方形を呈する。深さは確認面から平均約10㎝を測る。断面は皿状。**備考**　細長く、浅い長方形土坑としたが、自然の落ち込みの可能性有り。**遺物**　陶磁器碗の口縁部破片１点のみ検出。図示不能。

ＳＫ-７８３

位置　Ｄ区ン-16グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約90㎝、短軸約80㎝の円形である。深さは確認面から約67㎝となる。断面は筒型を呈す。開口部平面、底面ともほぼ円形の土坑。底面は開口部より一回り小さく、断面形はバケツのようにやや上部が広がる筒形。壁は明瞭。**備考**　覆土の観察から、土坑内に桶の埋設や枠等の存在が推定される。墓壙か。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-８００

位置　Ｄ区ア-16グリッドに位置する。**重複・新旧**　SZ-777と重複し、これより新しい。**規模・形状**　確認開口部で長軸約84㎝、短軸約78㎝、深さ約47㎝を測る。平面形は円形を呈し、断面の形状は筒形である。壁も明瞭に立ち上がる。**備考**　円形に形状の整った土坑。堆積の特徴から、土坑内に枠等の制約があった可能性が考えられる。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-８６９

位置　Ｄ区イ-13グリッドに位置する。**重複・新旧**　本土坑より新しいＳ-870が西コーナー部を切る。**規模・形状**　確認開口部で長軸約〔237〕㎝、短軸約101㎝、深さ約28㎝を測る。平面形は長方形を呈し、断面の形状は逆台形である。**備考**　長方形土坑。北側が調査区外に伸びるため未調査。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-８７６

位置　Ｄ区オ-17グリッドに位置する。**重複・新旧**　北部をＳ-877が切る。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約92㎝、短軸約87㎝の円形を呈する。深さは確認面から平均約16㎝を測る。断面は逆台形。**備考**　近世の円形土坑か。土坑内に埋設した容器等の周囲を良くしまった土で埋め立て、容器等内の空間は後に人為的に埋め戻されている。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-９２２

位置　Ｄ区ウ-14グリッドに位置する。**重複・新旧**　SX-900と重複し、これより新しい。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約263㎝、短軸約93㎝の長方形を呈する。深さは確認面から平均約26㎝を測る。断面は

皿状。**備考**　長方形土坑。覆土は単層で、一括埋め戻しの土。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１１３１

位置　Ｆ-１区ネ-42グリッドに位置する。**規模・形状**　確認開口部で長軸約98㎝、短軸約80㎝、深さ約21㎝を測る。平面形は不整形を呈し、断面の形状は不整逆台形である。**備考**　出土遺物から平安～中世に属する土坑とした。遺物は単層の上半部から主に検出する。**遺物**　土師器甕の胴部片６点と土師質土器の小皿と内耳土器を１点ずつ検出。小片のため図示不能。

ＳＫ-１１７１

位置　Ｆ-１区ハ-39グリッドに位置する。**規模・形状**　確認開口部で長軸約125㎝、短軸約115㎝、深さ約55㎝を測る。平面形は円形を呈し、断面の形状は逆台形である。**備考**　円形土坑。ローム粒とローム小ブロックが多く混じる黒褐色土単層で、一気に埋め戻している。底面は平坦で、壁はやや緩やかに立ち上がる。底面壁際に沿って、細い周溝状の凹部が見られる。形状から近世の円形墓壙と思われるが、埋め戻しの覆土中に平安期の遺物が混入している。**遺物**　土師器の高台付埦１点を図示。他に土師器の坏と甕の破片を１点ずつ、須恵器の高台付坏の底部破片を１点検出。

ＳＫ-１１７２

位置　Ｆ-１区ハ-39グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約237㎝、短軸約162㎝の楕円に近い隅丸長方形である。深さは確認面から約56㎝となる。断面は有段逆台形を呈す。底面中央が190×80㎝の隅丸長方形の形に一段下がり、更にその中の東部分が65㎝四方の方形に低くなる。また、その底面西寄りには円形の窪みが見られる。**備考**　墓壙か。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１１７７

位置　Ｆ-１区ハ-39グリッドに位置する。**重複・新旧**　SD-1173と重複し、これより新しい。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約187㎝、短軸約80㎝の西壁中央が外側に突出する、細長い砲弾形を呈す。深さは確認面から平均約104㎝を測る。断面は逆台形。底面は150×50㎝の長方形に整えられ、更にやや緩やかに一段低くなる。その一段低い平坦面西壁寄りに小ピット状の窪みが見られるところは、SK-1172と類似する特徴である。**備考**　墓壙か。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１１８９

位置　Ｆ-１区ノ-46グリッドに位置する。**重複・新旧**　Ｓ-1188と重複し、これより新しい。**規模・形状**　確認開口部で長軸約83㎝、短軸約53㎝、深さ約10㎝を測る。平面形は歪んだ小形の隅丸長方形を呈し、断面の形状は皿状である。底面は概ね平坦で、壁は開いて立ち上がる。**備考**　単層。覆土上部より内耳土器片が検出している。**遺物**　土師質土器の内耳体部片１点を検出。図示不能。

ＳＫ-１２２０

位置　Ｆ-１区ノ-47グリッドに位置する。**重複・新旧**　SD-2107、Ｓ-1219・1241と切り合う。SD-2107、Ｓ-1219より新しく、Ｓ-1241より古い。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約146㎝、短軸約110㎝の不整な円形を呈す。深さは確認面から約19㎝となる。断面は皿状である。底面は丸く窪み、壁は非常に緩やかに立ち上がる。**備考**　出土遺物から中世の土坑と思われる。**遺物**　Ｓ-1242と共通して、覆土中から土師質土器の皿を完形で出土。図示した。他に土師質皿の破片２点と鍋形土器片１点を出土。図示不能。

ＳＫ-１２４３

位置　Ｆ-１区ノ-47グリッドに位置する。**重複・新旧**　Ｓ-1244と重複し、これより新しい。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約295㎝、短軸約60㎝の細長い隅丸長方形を呈する。深さは確認面から平均約25㎝

を測る。断面は皿形。北壁は非常に緩やかな傾斜を持って立ち上がり、Ｓ-1244と切り合う南壁は垂直に立ち上がる。床面は中央がやや高くなり、南部で二段階に分けて平坦面を持ちながらに低くなる。**備考**　覆土は単層で、一括埋め戻し土と思われる。**遺物**　床上10㎝程度の高さから土師質土器の鍋形土器片３点を出土。図示不能。

ＳＫ-１２５６

位置　Ｆ-１区ハ-45グリッドに位置する。**規模・形状**　確認開口部で長軸約177㎝、短軸約79㎝、深さ約11㎝を測る。平面形は隅丸長方形を呈し、断面の形状は凹凸ある皿状である。床面は平坦面が無く、壁は非常に緩やかに立ち上がる。**備考**　覆土は埋め戻し土か。**遺物**　覆土中より検出の土師質皿１点を図示。

ＳＫ-１２８０

位置　Ｆ-１区ネ-45グリッドに位置する。**重複・新旧**　Ｓ-1281と重複し、これより古い。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約147㎝、短軸約80㎝の隅丸長方形である。深さは確認面から約17㎝となる。断面は逆台形を呈す。底面は概ね平坦で、壁は四方ともやや緩やかに立ち上がる。**備考**　覆土は単層で、埋め戻し土と思われる。**遺物**　近世の瓦片を１点出土。図示不能。

ＳＫ-１２８６

位置　Ｆ-１区ハ-38グリッドに位置する。**重複・新旧**　Ｓ-1287・1361と重複し、新旧不明。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約196㎝、短軸約92㎝の隅丸長方形である。深さは確認面から約20㎝となる。断面は有段逆台形を呈す。長方形土坑。丸く窪む底面から壁は緩やかに立ち上がる。**備考**　底面精査中にピット状遺構のＳ-1287・1361を検出した為、両者との新旧関係は不明である。このピット状遺構は、長方形土坑の床面中心の長軸ライン上に沿って縦に２基並んでいるが、調査時の所見では土坑に伴わない別遺構としている。本遺構は墓壙と思われる。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１３０３

位置　Ｆ-１区ネ-44グリッドに位置する。**重複・新旧**　長方形土壙墓と思われるSK-1304と重複し、これより新しいので、時期は中世以降である。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約80㎝、短軸約68㎝の円形を呈する。深さは確認面から平均約34㎝を測る。断面はＵ字形。底面は丸く窪み、壁は概ね垂直に立ち上がる。円形土坑。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１３０４

位置　Ｆ-１区ネ-44グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1303・1305・1309と重複し、SK-1305・1309より新しく、SK-1303より古い。**規模・形状**　確認開口部で長軸約263㎝、短軸約105㎝、深さ約21㎝を測る。平面形は隅丸長方形を呈し、断面の形状は逆台形である。底面の形は歪んだ長楕円形になっており、南半部は比較的フラットであるが、北側に向かって緩やかな段を持って浅くなる。長方形土坑。**遺物**　Ａ層中から土師質皿の口辺部を出土。図示。底面上10～20㎝の覆土中から、須恵器坏口縁部小片１点、土師器坏口縁部小片１点、土師器甕胴部小片１点ほか、土師質の皿１点を検出。

ＳＫ-１３０５

位置　Ｆ-１区ネ-45グリッドに位置する。**重複・新旧**　長方形土坑。SK-1304と重複し、これより古い。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約〔143〕㎝、短軸約75㎝の隅丸長方形である。深さは確認面から約11㎝となる。断面は逆台形を呈す。**備考**　SK-1304より一回り小さい相似の長方形土坑で、北壁がSK-1307に切られるため全長は不明だが、北側に向かって緩やかな段を持って浅くなる底面の形状は、SK-1304と同様である。**遺物**　床上10㎝の覆土中から土師器の高坏の脚部破片１点を出土。図示不能。

ＳＫ-１３０８

位置　Ｆ-１区ネ-44グリッドに位置する。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約146㎝、短軸約74㎝の隅丸長方形を呈する。深さは確認面から平均約31㎝を測る。断面は逆台形。床面は概ね平坦で東壁に向けてやや低くなっていく。壁は緩やかに立ち上がる。**備考**　長方形土坑群の北部に、他遺構との切り合い無く位置する。出土遺物と近接する周囲の遺構から、中世の長方形土坑と思われる。**遺物**　確認面から５㎝程下がった地点の１層中から出土した、土師質の皿１点を図示。

ＳＫ-１３０９

位置　Ｆ-１区ネ-44グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1304と重複し、これより古い。南西隅がSK-1310と僅かに重なるが、新旧関係は不明である。**規模・形状**　確認開口部で長軸約〔160〕㎝、短軸約70㎝、深さ約９㎝を測る。平面形は整った長方形で、長軸は東西方向。底面には凹凸が見られ、壁は緩やかに立ち上がる。断面の形状は逆台形である。長方形土坑。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１３１０

位置　Ｆ-１区ネ-45グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1309・1311・1312と重複する。SK-1311・1312より新しい。SK-1309とは新旧関係不明。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約315㎝、短軸約100㎝の楕円形である。深さは確認面から約11㎝となる。断面は開く逆台形を呈す。長方形土坑。**遺物**　底面上10㎝の１層中から土師質の皿を出土。図示。

ＳＫ-１３１１

位置　Ｆ-１区ネ-44グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1310と重複し、これより古い。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約258㎝、短軸約62㎝の不整長方形を呈する。深さは確認面から平均約11㎝を測る。底面に近い部分の確認のため、断面は皿状。長方形土坑か。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１３１２

位置　Ｆ-１区ネ-45グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1310と重複し、これより古い。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約〔158〕㎝、短軸約71㎝の隅丸長方形を呈すると思われる。深さは確認面から平均約17㎝を測る。底面に近い部分の確認のため、断面は皿状。長方形土坑。**遺物**　床上７㎝の覆土中より、須恵器坏と土師器坏の口縁部小片を２点検出した。図示不能。

ＳＫ-１３１３

位置　Ｆ-１区ネ-45グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1316より新しく、SK-1314・1315より古い。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約385㎝、短軸約92㎝の不整長方形である。深さは確認面から約12㎝となる。底面に近い部分の確認のため、断面は凹凸のある皿状を呈す。長方形土坑。**遺物**　SK-1315と共通で須恵器の坏と土師器の坏・甕、土師質皿と土師質鍋形土器の破片を計９点検出。内、土師質皿１点を図示。

ＳＫ-１３１４

位置　Ｆ-１区ネ-45グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1313・1315と重複する。 SK-1313より新しく、SK-1315より古い。**規模・形状**　確認開口部で長軸約227㎝、短軸約40㎝の範囲を確認した。隅丸長方形を呈すると思われる。深さは確認面から平均約８㎝を測る。断面は逆台形。長方形土坑。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１３１５

位置　Ｆ-１区ネ-45グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1313・1314より新しく、SK-1317より古い。**規模・形状**　確認開口部で長軸約〔350〕㎝、短軸約85㎝、深さ約26㎝を測る。平面形は隅丸長方形を呈し、断面の形状は開く逆台形である。長方形土坑。**遺物**　床上10㎝の覆土１層中からほぼ完形の土師質の皿と砥

石１点を出土。図示。他に床上10～20㎝の覆土中から須恵器の坏と土師器の坏、土師質皿と土師質鍋形土器の破片を計６点検出。図示不能。

ＳＫ-１３１６

位置　Ｆ-１区ネ-45グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1313・1317と重複し、これより古い。Ｓ-1358・1363との新旧不明。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約254㎝、短軸約63㎝の不整長方形である。深さは確認面から約10㎝となる。底面に近い部分の確認のため、断面は皿状を呈す。長方形土坑。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１３１７

位置　Ｆ-１区ヌ-45グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1315・1316より新しく、SK-1318より古い。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約260㎝、短軸約69㎝の不整長方形を呈する。深さは確認面から平均約20㎝を測る。断面は逆台形。長方形土坑。**遺物**　SK-1318と共通で、須恵器の甕と土師器の坏・甕、土師質皿の小片を計６点検出。図示不能。

ＳＫ-１３１８

位置　Ｆ-１区ヌ-45グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1317より新しく、SK-1319より古い。**規模・形状**　確認開口部で長軸約365㎝、短軸約90㎝、深さ約30㎝を測る。平面形は北半部が南半部に比べて幅広の不整長方形を呈する。南北に２基の長方形土坑が重なっていることも考えたが、土層観察からは覆土の違いが認められなかったため１基とした。断面の形状は開く逆台形である。長方形土坑。**遺物**　１層中から土師質皿を出土。図示。他に底面上５～25㎝の覆土中から土師質鍋形土器の底部を１点検出。図示不能。

ＳＫ-１３１９

位置　Ｆ-１区ヌ-45グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1318・1322より新しい。Ｓ-1321との新旧不明。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約176㎝、短軸約90㎝の隅丸長方形である。深さは確認面から約25㎝となる。断面は逆台形を呈す。長方形土坑。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１３２２

位置　Ｆ-１区ヌ-44グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1319、Ｓ-1329・1330と重複する。Ｓ-1329より新しく、SK-1319より古い。Ｓ-1330との新旧関係は不明である。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約〔180〕㎝、短軸約67㎝の不整な長方形を呈する。深さは確認面から平均約17㎝を測る。底面にはやや凹凸がみられ、断面は開く逆台形となる。長方形土坑。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１４１０

位置　Ｆ-３区フ-50グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1141、SD-2104と重複し、これらより新しい。**規模・形状**　確認開口部で長軸約100㎝、短軸約70㎝、深さ約25㎝を測る。平面形は長方形を呈し、底面がやや丸みを持って窪む。断面の形状は逆台形である。**備考**　底面に薄く黒色土が堆積し、その上部は一括埋め戻し土と思われる。小型の長方形土坑。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１４１１

位置　Ｆ-３区フ-50グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1410、SD-2104と重複し、SK-1410より古く、SD-2104より新しい。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約103㎝、短軸約70㎝の長方形である。深さは確認面から約30㎝となる。断面は開く逆台形を呈す。**備考**　底面に薄く黒色土が堆積し、その上部は人為による埋め戻し土と思われる。小型の長方形土坑。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１４１２

位置　Ｆ-３区フ-51グリッドに位置する。**重複・新旧**　Ｓ-1445、SD-1402と重複し、これらより新しい。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約87㎝、短軸約70㎝の隅丸長方形を呈する。深さは確認面から平均約48㎝を測る。断面は壁が垂直に立ち上がる方形。**備考**　底面に薄く黒色土が堆積する。小型の長方形土坑。**遺物**　覆土１層中より須恵器坏を出土。図示。

ＳＫ-１４１３

位置　Ｆ-３区フ-51グリッドに位置する。**重複・新旧**　Ｓ-1444、SD-2104と重複し、これらより新しい。**規模・形状**　確認開口部で長軸約100㎝、短軸約75㎝、深さ約37㎝を測る。平面形は長方形を呈し、断面の形状は壁が垂直に立ち上がる方形である。**備考**　底面に薄く黒色土が堆積する。小型の長方形土坑。**遺物**　覆土中より須恵器坏片７点出土。図示不能。

ＳＫ-１５２０

位置　Ｆ-３区ヒ-51グリッドに位置する。**重複・新旧**　SD-1400と重複し、これより古い。**規模・形状**　確認開口部で長軸約134㎝、短軸約49㎝、深さ約27㎝を測る。平面形は長軸の中央部が細くなる楕円形を呈し、断面の形状は逆台形である。底面には凹凸が見られる。**遺物**　覆土中１層より出土した油煙痕のある土師質皿１点を図示。ほかに覆土中より土師質土器の焙烙破片１点を検出。図示不能。

ＳＫ-１５７０

位置　Ｆ-３区ヒ-51グリッドに位置する。**重複・新旧**　Ｓ-1797と重複し、これより古い。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約325㎝、短軸約87㎝の長方形である。深さは確認面から約45㎝となる。断面は壁が垂直に立ち上がる方形。東部が壁に沿った方形に一段下がる。長方形墓壙。**遺物**　須恵器の坏破片が１点、土師器の坏・甕破片が７点、土師質の皿・焙烙の破片が６点検出。図示不能。

ＳＫ-１５７１

位置　Ｆ-３区ヒ-51グリッドに位置する。**重複・新旧**　Ｓ-1607・1608と重複するが、新旧関係は不明。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約230㎝、短軸約100㎝の長方形を呈する。深さは確認面から平均約25㎝を測る。断面は壁がやや広がって立ち上がる逆台形。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　須恵器甕の破片が１点と、土師質の皿・焙烙の破片２点が出土。図示不能。

ＳＫ-１５７２

位置　Ｆ-３区ヒ-51グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1576・1597・1599と重複する。SK-1599より新しく、SK-1573・1597より古い。**規模・形状**　確認下範囲は長軸約〔155〕㎝、短軸約〔90〕㎝で、床面までの深さは約18㎝となる。平面形は長方形を呈すると思われ、壁は概ね垂直に立ち上がる。底面は中央に向かって緩く窪む。**遺物**　出土した土師器坏底部破片１点を図示。混入品。

ＳＫ-１５７３

位置　Ｆ-３区ヒ-51グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1572・1574・1576・1597・1598と重複し、これらより新しい。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約110㎝、短軸約70㎝の長方形である。深さは確認面から約14㎝となる。底面は中央に向かって緩く窪む。底面に近い面での確認のため、壁は大きく開く。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１５７４

位置　Ｆ-３区ヒ-51グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1573・1575・1598と重複し、これらより古い。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約262㎝、短軸約98㎝の長方形を呈する。深さは確認面から平均約

35㎝を測る。断面は壁が緩く開く逆台形。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　覆土中より検出した土師質皿１点を図示。他に、須恵器坏破片が３点、土師器の坏・甕破片が８点、土師質土器の焙烙破片が11点出土。

ＳＫ-１５７５

位置　F-３区ヒ-51グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1574・1598より新しく、SK-1579・1596より古い。**規模・形状**　確認開口部で長軸約〔167〕㎝、短軸約77㎝、深さ約24㎝を測る。平面形は長方形を呈すると思われ、断面の形状は上に向かって開く逆台形である。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　須恵器の坏体部破片が１点、土師質の皿・焙烙破片が６点出土。図示不能。

ＳＫ-１５７６

位置　F-３区ヒ-51グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1572・1597より新しい。SK-1573・1577、S-1631より古い。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約250㎝、短軸約75㎝の長方形である。深さは確認面から約25㎝となる。壁は大きく開く逆台形。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　覆土中より出土の土師質皿２点を図示。他に、須恵器蓋破片が１点、土師器甕破片３点、土師質の皿・焙烙が３点出土。図示不能。

ＳＫ-１５７７

位置　F-３区ヒ-51グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1576・1578・1579と重複する。SK-1576・1579より新しくSK-1578より古い。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約〔213〕㎝、短軸約80㎝の隅丸長方形を呈する。深さは確認面から約23㎝を測る。壁は大きく開く逆台形。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　須恵器坏の破片が１点、土師器甕破片が４点、他、土師質土器の焙烙破片が３点出土。図示不能。

ＳＫ-１５７８

位置　F-３区ヒ-52グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1577と重複し、これより新しい。**規模・形状**　確認開口部で長軸約125㎝、短軸約65㎝、深さ約５㎝を測る。平面形は不整長方形を呈し、底面面に近い部分での観察のため、壁部は上に向かって大きく開く。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１５７９

位置　F-３区ハ-51グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1575・1596より新しい。SK-1577より古い。**規模・形状**　確認した範囲は長軸約〔85〕㎝、短軸約60㎝の長方形と思われる部分である。深さは確認面から約25㎝となる。断面は上部に緩く開く逆台形を呈す。底面は概ねフラットである。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１５８０

位置　F-３区ハ-51グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1596と重複し、これより新しい。**規模・形状**　南部が調査区外に続くため、規模は不明。確認した範囲では、長軸約〔100〕㎝、短軸約65㎝の長方形を呈している。深さは確認面から平均約20㎝を測る。断面は壁がやや開く逆台形である。底面は中央に向かって緩く窪む。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　須恵器甕の胴部破片が１点、土師器坏の体部破片が１点出土。図示不能。

ＳＫ-１５８１

位置　F-３区ハ-51グリッドに位置する。**重複・新旧**　重複する遺構はない。**規模・形状**　確認開口部で長軸約141㎝、短軸約65㎝、深さ約20㎝を測る。平面形は長方形を呈し、断面の形状は上部が大きく開く逆台形である。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１５８２

位置　F-３区ヒ-51グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1584より新しく、SK-1583・1617、S-1605より古い。S-1586・1634・1635とは新旧関係不明。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約200㎝、短軸約90

㎝の歪んだ長方形である。深さは確認面から約25㎝となる。断面は有段逆台形を呈す。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　土師質皿の破片２点を出土。内、１点を図示。

ＳＫ-１５８３

位置　Ｆ-３区ヒ-51グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1582・1617、Ｓ-1605より新しい。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約〔167〕㎝、短軸約〔96〕㎝の歪んだ長方形を呈する。深さは確認面から平均約40㎝を測る。断面は有段逆台形。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　須恵器の坏体部と器種不明胴部の破片が２点、土師器の坏底部破片が１点出土。図示不能。

ＳＫ-１５８４

位置　Ｆ-３区ヒ-51グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1582、Ｓ-1586・1633と重複し、SK-1582、Ｓ-1633より古い。Ｓ-1586との新旧関係は不明である。**規模・形状**　確認した範囲で長軸約〔80〕㎝、短軸約〔60〕㎝、深さ約13㎝を測る。壁は段を持ってなだらかに立ち上がる。底面は凹凸が見られる。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１５８８

位置　Ｆ-３区フ-52グリッドに位置する。**重複・新旧**　SD-1402の底面から検出。SD-1402の掘方の一部の可能性もある。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約179㎝、短軸約86㎝の楕円形である。深さは確認面から約28㎝となる。底面は中央に向かって窪み、断面椀状を呈す。**遺物**　覆土中に多くの遺物が混入している。１層中より出土した土師質皿と土師質内耳土器、底面上７㎝（２層）より出土した砥石の３点を図示。他に土師質の皿・焙烙の破片を５点出土。これらは小片のため図示不能。

ＳＫ-１５８９

位置　Ｆ-３区ハ-51グリッドに位置する。**重複・新旧**　Ｓ-1802より古い。北西のコーナーがSK-1590を切る。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約152㎝、短軸約96㎝の不整長方形を呈する。深さは確認面から平均約30㎝を測る。断面は逆台形。底面にはやや凹凸が見られる。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１５９０

位置　Ｆ-３区ハ-51グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1589・1591・1592と重複し、これより古い。**規模・形状**　確認開口部で長軸約〔180〕㎝、短軸約135㎝、深さ約30㎝を測る。平面形は長方形を呈し、壁は緩く立ち上がる。底面にはやや凹凸が見られる。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１５９１

位置　Ｆ-３区ハ-51グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1590より新しく、Ｓ-1594より古い。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約220㎝、短軸約85㎝の長方形である。深さは確認面から約37㎝となる。断面は壁が垂直に立ち上がる方形を呈す。底面は概ねフラットである。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１５９２

位置　Ｆ-３区ハ-51グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1590より新しい。Ｓ-1593より古い。Ｓ-1801とは新旧不明。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約〔150〕㎝、短軸約〔65〕㎝の長方形に近い楕円形を呈する。深さは確認面から平均約19㎝を測る。断面は逆台形。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１５９６

位置　Ｆ-３区ハ-51グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1575より新しく、SK-1579・1580より古い。**規模・形状**　南壁が調査区外にあたるため全体の規模は不明。確認した範囲では長軸約〔180〕㎝、短軸約72㎝、深さ約25㎝を測る。平面形は長方形を呈し、断面の形状は方形である。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　検出

しない。

ＳＫ-１５９７

位置　F-３区ヒ-51グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1572・1573・1576、S-1632・1646と重複し、SK-1572・1576、S-1646より新しく、SK-1573、S-1632より古い。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約〔181〕㎝、短軸約80㎝の長方形である。深さは確認面から約10㎝となる。断面は壁が緩く立ち上がる逆台形を呈す。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１５９８

位置　F-３区ヒ-51グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1574より新しく、SK-1573・1575より古い。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約162㎝、短軸約〔75〕㎝の長方形を呈する。深さは確認面から平均約28㎝を測る。断面は壁が上部に向かって開く逆台形。底面にはやや凹凸が見られる。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１５９９

位置　F-３区ヒ-51グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1572と重複し、これより古い。**規模・形状**　確認開口部で長軸約〔57〕㎝、短軸約40㎝、深さ約4㎝を測る。平面形は長方形に近い楕円形を呈し、底面部分の確認に留まり、断面の形状は明らかでない。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１６１７

位置　F-３区ヒ-51グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1582・1583、S-1605と重複する。SK-1582より新しく、SK-1583、S-1605より古い。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約〔90〕㎝、短軸約〔75〕㎝の長方形である。深さは確認面から約25㎝となる。断面は有段逆台形を呈す。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１６１８

位置　F-３区ハ-50グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1619と東壁が重なって切り合う。重複する遺構が多く、SK-1619より新しく、S-1662・1663・1664・1665より古い。S-1606とは新旧関係不明である。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約153㎝、短軸約82㎝の長方形を呈する。深さは確認面から平均約32㎝を測る。断面は逆台形で、底面には凹凸が見られる。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１６１９

位置　F-３区ハ-50グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1618と西壁が重なって切り合う。S-1678・1835より新しく、SK-1618より古い。**規模・形状**　確認開口部で長軸約162㎝、短軸約〔60〕㎝、深さ約40㎝を測る。平面形は長方形を呈し、断面の形状は壁が概ね垂直に立ち上がる方形である。底面は概ねフラット。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１６２５

位置　F-３区ハ-50グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1626・1627より新しく、SK-1628・1629・1630、S-1733・1734より古い。S-1735・1736・1737とは新旧関係不明。**規模・形状**　確認開口部で長軸約320㎝、短軸約95㎝、深さ約25㎝を測る。平面形は南壁がやや膨らむ長方形を呈し、断面の形状は南壁に段を持つ逆台形である。底面にやや凹凸が見られるが概ね平坦である。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　SK-1626・1627共通で、砥石と硯の欠損品各１点を検出。図示。

ＳＫ-１６２６

位置　F-３区ハ-50グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1627より新しく、SK-1625より古い。S-1649・1739・1740との新旧関係不明。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約216㎝、短軸約85㎝の長方形であ

る。深さは確認面から約25㎝となる。断面は有段逆台形を呈す。底面にはやや凹凸が見られる。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　SK-1626・1627共通で、砥石と硯の欠損品各１点を検出。図示。

ＳＫ-１６２７

位置　F-３区ハ-50グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1625・1626・1628より古い。S-1650・1739との新旧関係不明。**規模・形状**　確認した底面で長軸約210㎝を測る。短軸は約〔88〕㎝の範囲を確認し、長方形を呈すると思われる。深さは確認面から平均約30㎝である。断面は壁が外側に開く逆台形を呈し、底面は凹凸を持つ。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　土師質の皿２点を図示。他に、須恵器の坏破片が４点、土師器の坏・皿破片が２点、土師質の皿破片１点・焙烙破片が７点出土。図示不能。出土した遺物は重複する他遺構のものである可能性有り。

ＳＫ-１６２８

位置　F-３区ハ-50グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1625・1627・1629より新しい。　**規模・形状**　確認開口部で長軸約95㎝、短軸約80㎝、深さ約22㎝を測る。平面形は整った長方形を呈する。壁は大きく開いて立ち上がり、底面は中央に向かって窪む。**備考**　小型の長方形墓壙。**遺物**　土師質皿１点を図示。他に、須恵器坏破片が１点、土師質土器の焙烙・皿破片３点を検出。図示不能。

ＳＫ-１６２９

位置　F-３区ハ-50グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1625より新しく、SK-1628より古い。S-1738との新旧関係不明。**規模・形状**　長軸部分は約〔120〕㎝の範囲を確認した。短軸は約75㎝を測る。長方形となる。深さは確認面から約23㎝で、底面にはかなり凹凸が見られる。壁は広く開いて立ち上がる。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１６４７

位置　F-３区ハ-50グリッドに位置する。**重複・新旧**　S-1648・1649・1677より古い。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約235㎝、短軸約92㎝の長方形を呈する。深さは確認面から平均約34㎝を測る。断面は壁が僅かに開く逆台形。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　灰釉の坏破片１点、須恵器坏破片１点、土師器坏・甕破片６点、土師質の皿・焙烙の破片10点を検出。いずれも小片のため図示不能。

ＳＫ-１６５８

位置　F-３区ハ-49グリッドに位置する。**規模・形状**　SK-1659と並列する。北側が調査区の境にあたったため確認できていない。調査を行った南側で、長軸約〔69〕㎝、短軸約65㎝の範囲を確認した。全体の規模は不明だが、平面形は隅丸長方形を推定する。深さは確認面から約55㎝となる。断面は逆台形を呈す。**備考**　長方形墓壙か。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１６５９

位置　F-３区ハ-49グリッドに位置する。**規模・形状**　SK-1658と並列する。北側が調査区の境にあたったため確認できていない。調査を行った南側で、長軸約57㎝、短軸約〔46〕㎝の範囲を確認した。平面形は隅丸長方形を推定する。深さは確認面から平均約77㎝を測る。断面は壁が垂直に立ち上がる方形。**備考**　長方形墓壙か。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１９３３

位置　F-３区ヒ-51グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1934、S-1848・1851・1857・1872・1955と重複し、これらより古い。S-1852より新しい。**規模・形状**　東壁が重複するSK-1934に切られるため、長軸の規模が不明であるが、底面部分の確認は約220㎝の範囲で行えた。短軸は確認範囲で約81㎝、深さは約25

㎝を測る。平面形は東に向かってやや広くなる長方形と推定する。壁は緩やかに立ち上がる断面逆台形を呈す。底面は概ねフラットだが、東部に浅く窪む掘方がある。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　須恵器坏破片１点、土師器坏破片１点、土師質の皿・焙烙２点を出土。図示不能。

ＳＫ-１９３４

位置　Ｆ-３区ヒ-51グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1933の東に続く遺構。SK-1933の東壁と重複し、これより新しい。南東壁に切り合うＳ-1885との新旧は不明。Ｓ-1846より古い。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約69㎝、短軸約60㎝の長方形である。深さは確認面から約34㎝となる。SK-1933と切り合う西壁が崩れている。東壁と南北壁は概ね垂直に立ち上がる。底面は中央に向かって若干窪む。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２１０９

位置　Ｆ-２区フ-48グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-2179と重複しこれより新しい。北側がSK-2161と接する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約50㎝、短軸約47㎝の円形である。深さは確認面から最深で約８㎝となる。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２１６１

位置　Ｆ-２区へ-48グリッドに位置する。**重複・新旧**　重複する遺構はないが、南側がSK-2109と接する。**規模・形状**　確認開口部で長軸約64㎝、短軸約48㎝、深さ約35㎝を測る。平面形は楕円形を呈し、断面の形状は逆台形である。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２１６２

位置　Ｆ-２区へ-48グリッドに位置する。**重複・新旧**　西側部分がSK-2163・2164と重複し、これより古い。**規模・形状**　確認面した範囲は長軸約〔80〕㎝、短軸約〔40〕㎝で、長方形を呈していると思われる。深さは約〔60〕㎝となる。確認した東壁は垂直に立ち上がる。**遺物**　覆土中より出土した陶器の口縁部破片、１点を図示。他に、土師器甕の胴部・底部破片を３点出土。図示不能。

ＳＫ-２１６３

位置　Ｆ-２区へ-48グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-2162・2164と重複しこれより新しい。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約80㎝、短軸約70㎝の不整方形を呈する。深さは確認面から平均約28㎝を測る。断面は底面の中央に向かって丸みを持つ逆台形。**備考**　墓壙か。**遺物**　土師質皿１点を図示。他に、須恵器坏破片１点、土師器坏破片１点、土師質土器の焙烙破片１点を出土。図示不能。

ＳＫ-２１６４

位置　Ｆ-２区フ-48グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-2162・2165より新しく、SK-2163より古い。**規模・形状**　確認開口部で長軸約〔148〕㎝、短軸約65㎝、深さ約28㎝を測る。平面形は長方形を呈し、断面の形状は壁が緩やかに立ち上がる逆台形である。底面は概ねフラット。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　須恵器の蓋、１点を図示。混入品。他、土師器の坏・甕破片３点を出土。図示不能。

ＳＫ-２１６５

位置　Ｆ-２区フ-48グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-2164の南部と同軸で重複し、これより古い。**規模・形状**　南側のほとんどをSK-2164に壊されるため、確認面したのは長軸約〔52〕㎝、短軸約62㎝の範囲である。深さは確認面から約20㎝となる。壁は上部に広く開いてなだらかに立ち上がり、底面は凹凸を持つ。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２１６８

位置　Ｆ-２区フ-48グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-2175・2179より新しく、SK-2178より古い。**規模・形状**　平面形は確認開口部で直径約80㎝前後の円形を呈する。深さは確認面から平均約20㎝を測る。断面は底面がやや丸みを持つ逆台形。**備考**　円形墓壙か。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２１６９

位置　Ｆ-２区フ-48グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-2175・2178より新しい。**規模・形状**　確認開口部で長軸約111㎝、短軸約65㎝、深さ約26㎝を測る。平面形は楕円形を呈し、断面の形状は底面に凹凸のある椀状である。**備考**　墓壙か。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２１７０

位置　Ｆ-２区フ-48グリッドに位置する。**重複・新旧**　SI-2117、SK-2171より新しい。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約155㎝、短軸約〔85〕㎝の隅丸長方形である。深さは最も低いところで、確認面から約56㎝となる。底面は中央に向かって丸く窪み、壁は大きく開いて立ち上がるSK-2172と類する形状である。**備考**　長方形墓壙か。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２１７１

位置　Ｆ-２区フ-48グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-2170と重複し、これより古い。**規模・形状**　確認した範囲は開口部で長軸約〔80〕㎝、短軸約79㎝である。平面形は隅丸長方形を呈すると思われる。深さは確認面から最も深いところで、約45㎝を測る。底面は中央に向かって緩く下がり、壁は大きく開いて立ち上がる。**備考**　長方形墓壙か。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２１７２

位置　Ｆ-２区フ-48グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-2221・2223より新しく、Ｓ-2222より古い。**規模・形状**　確認開口部で長軸約132㎝、短軸約68㎝、深さ約30㎝を測る。平面形は隅丸長方形を呈し、底面は中央に向かって丸く窪み、壁は大きく開いて立ち上がる。SK-2170と類する形状である。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　須恵器坏の破片１点と土師器坏の破片１点が出土。図示不能。

ＳＫ-２１７３

位置　Ｆ-２区フ-48グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-2221・2223より新しい。**規模・形状**　北壁が確認されていない。平面形は確認された範囲で、長軸約〔246〕㎝、短軸約71㎝の隅が強く丸くなった長方形に近い形。深さは確認面から約27㎝となる。底面は中央に向かって丸く窪み、壁は大きく開いて立ち上がる。**備考**　長方形墓壙か。**遺物**　須恵器坏破片１点、土師器坏破片１点、土師質土器の焙烙破片３点出土。図示不能。

ＳＫ-２１７４

位置　Ｆ-２区フ-48グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-2177とは東半部がほぼ重なる。SI-2117、SK-SK-2177より新しい。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約〔185〕㎝、短軸約77㎝の長方形を呈する。深さは確認面から平均約25㎝を測る。底面は概ねフラットで、壁は緩く開いて立ち上がる。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２１７５

位置　Ｆ-２区フ-48グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-2168・2169 、Ｓ-2176と重複し、これより古い。**規模・形状**　確認した範囲で長軸約〔100〕㎝、短軸約70㎝、深さ約43㎝を測る。平面形は底面の形状から隅丸長方形を呈すると思われる。断面は壁が上部に開いて立ち上がる逆台形。**備考**　長方形墓壙か。遺

物　須恵器の甕破片２点出土。図示不能。

ＳＫ-２１７７

位置　Ｆ-２区フ-48グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-2174と西半部がほぼ重なる。これより古い。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約〔155〕㎝、短軸約70㎝の長方形である。深さは確認面から約35㎝となる。底面は概ねフラットで、壁は概ね垂直に立ち上がる。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２１７８

位置　Ｆ-２区フ-48グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-2168・2179より新しく、SK-2169より古い。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約65㎝、短軸約54㎝の楕円形を呈する。深さは確認面から平均約20㎝を測る。断面は底面にやや凹凸を持つ逆台形。**備考**　円形墓壙か。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２１７９

位置　Ｆ-２区フ-48グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-2109・2168・2178と重複し、これらより古い。**規模・形状**　確認開口部で長軸約〔163〕㎝、短軸約95㎝、深さ約35㎝を測る。平面形は隅丸長方形を呈し、断面の形状は逆台形である。底面は平坦で南に向かって下がる。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２１８２

位置　Ｆ-２区へ-47グリッドに位置する。**重複・新旧**　SI-2189と重複し、これより新しい。南にSK-2185が、西にSK-2183が近接する。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約141㎝、短軸約65㎝の隅丸長方形に近い楕円形を呈する。深さは確認面から一番深いところで約25㎝を測る。底面は中央に向かって緩く窪み、壁はやや開いて立ち上がる。**備考**　覆土はしまりのある単一層で、人為的に埋め戻されたと思われる。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２１８３

位置　Ｆ-２区フ-47グリッドに位置する。**重複・新旧**　SI-2189と重複し、これより新しい。東にSK-2182・2185が近接する。**規模・形状**　確認開口部で長軸約240㎝、短軸約130㎝、深さ約37㎝を測る。平面形は隅丸長方形を呈する。底面には凹凸が多く見られ、壁は上部にやや開いて立ち上がる。**備考**　長方形墓壙か。**遺物**　土師器甕１点を図示。古代の遺物は混入したもの。他に、須恵器坏破片１点、土師器坏破片２点、土師質土器の焙烙破片が４点出土。図示不能。

ＳＫ-２１８５

位置　Ｆ-２区フ-47グリッドに位置する。**重複・新旧**　重複する遺構はない。北にSK-2182が、西にSK-2183が近接する。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約280㎝、短軸約74㎝のととの侘細長い長方形を呈する。南壁の一部が半円経緯に段を持つが、確認できていない別遺構との重複部分と思われる。深さは確認面から深いところで約30㎝となる。底面は概ねフラットで、壁は緩やかに開いて立ち上がる。**備考**　長方形土坑。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２１９１

位置　Ｆ-２区フ-47グリッドに位置する。**重複・新旧**　重複する遺構はない。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約213㎝、短軸約75㎝の隅丸長方形を呈する。深さは確認面から平均約16㎝を測る。断面は凹凸のある皿状。**遺物**　土師質土器の焙烙破片が１点出土。図示不能。

ＳＫ-２２０６

位置　Ｆ-２区マ-50グリッドに位置する。**重複・新旧**　Ｓ-2208より古い。**規模・形状**　東部が調査区外に続く。確認した範囲での平面形は長軸約〔167〕㎝、短軸約126㎝の長方形である。深さは確認面から約7㎝と

なる。断面は凹凸のある皿状を呈す。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　覆土中より平安時代に属する土器片を多く出土した。他に検出した須恵器坏の破片６点、土師器の坏・甕破片17点は小片のため、図示不能。

ＳＫ-２２２１

位置　Ｆ-２区フ-48グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-2172・2173と重複し、これより古い。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約187㎝、短軸約94㎝の隅丸長方形を呈する。深さは確認面から平均約25㎝を測る。断面形は、壁が緩く開いて立ち上がる逆台形。**備考**　長方形土坑か。**遺物**　須恵器坏破片２点、土師器の坏・甕破片５点、土師質の皿・焙烙が３点出土。図示不能。

ＳＫ-２２２３

位置　Ｆ-２区フ-48グリッドに位置する。**重複・新旧**　北側が確認できない。SK-2172・2173と重複し、これらより古い。**規模・形状**　確認開口部で長軸約136㎝、短軸約〔60〕㎝、深さ約15㎝を測る。平面形は楕円形が創造される。底面は概ねフラットで、壁は緩く開いて立ち上がる。**備考**　SK-2223と、SK-2223より新しいSK-2173の上部に灰黄色土の堆積が見られた。これを除去した面でSK-2223とSK-2173を確認し遺構の掘り下げを行った。この両遺構の確認面が暗灰黄色土を覆土に持つ何らかの遺構の底面にあたると思われ、硬い床面が観察できた。SD-1402よりは古い掘方になるが、平面的な範囲確認は出来なかった。**遺物**　須恵器の坏破片1点を検出。図示不能。

ＳＫ-２２８１

位置　Ｆ-２区ヒ-49グリッドに位置する。**重複・新旧**　SE-2277、Ｓ-2274・2282・2285・2286・2334・2335と重複し、これらより古い。**規模・形状**　平面形は確認出来た範囲で長軸約〔150〕㎝、短軸約75㎝の隅丸長方形を呈する。深さは確認面から平均約35㎝を測る。断面は逆台形。**備考**　長方形墓壙か。**遺物**　土師器坏・甕破片２点出土。図示不能。

ＳＫ-２３３７

位置　Ｆ-２区ヒ-49グリッドに位置する。**重複・新旧**　Ｓ-2320・2321・2326・2327より古い。Ｓ-2329との新旧関係は不明。**規模・形状**　確認開口部で長軸約170㎝、短軸約95㎝、深さ約16㎝を測る。平面形は隅丸長方形を呈する。底面に一部段を持ち、壁は緩やかに立ち上がる。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２３３８

位置　Ｆ-２区ヒ-49グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-2339の北部に軸を同じくして重複し、これより古い。Ｓ-2327より新しい。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約80㎝、短軸約〔70〕㎝の隅丸方形である。深さは確認面から約28㎝となる。断面は底面が緩く丸くなる逆台形を呈す。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　SK-2339と共通で土師質の皿１点を図示。

ＳＫ-２３３９

位置　Ｆ-２区ヒ-49グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-2338の南部部と同軸で重複し、これより新しい。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約134㎝、短軸約87㎝の西側がやや狭くなる隅丸長方形を呈する。深さは確認面から平均約28㎝を測る。断面は底面が緩く丸くなる逆台形を呈す。南部の壁は非常に緩やかに立ち上がるが、SK-2338と切り合う北壁は、切り合わない南壁に比べて立ち上がりの角度が急である。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　SK-2338と共通で出土した土師質皿１点を図示。他に、土師質土器の坏・皿破片を２点検出。図示不能。中世。

ＳＫ-２３４０

位置　Ｆ-２区フ-48グリッドに位置する。**重複・新旧**　SI-2117、SK-2341と重複し、両遺構より新しい。**規**

模・形状　確認開口部で長軸約87㎝、短軸約65㎝、深さ約15㎝を測る。平面形は長方形を呈し、断面の形状は皿状である。**備考**　小形の長方形墓壙。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２３４１

位置　Ｆ-２区フ-48グリッドに位置する。**重複・新旧**　SI-2113・2114・2117より新しく、SK-2340より古い。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約170㎝、短軸約95㎝の隅丸長方形である。深さは確認面から約52㎝となる。断面は逆台形を呈す。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　土師質皿２点を図示。他に、須恵器の蓋・坏破片が６点、土師器の坏・甕破片が10点、土師質土器の坏・焙烙破片が４点出土。図示不能。中世。

ＳＫ-２３４２

位置　Ｆ-２区フ-49グリッドに位置する。**重複・新旧**　SI-2114、Ｓ-2343より新しい。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約181㎝、短軸約72㎝の隅丸長方形を呈する。深さは確認面から平均約56㎝を測る。断面は底面に凹凸を持つ逆台形。覆土の観察記録が無い。**備考**　長方形墓壙か。**遺物**　覆土中より出土した須恵器坏２点と、土師質皿１点を図示。他に、須恵器の坏・甕破片が６点、土師器の坏・甕破片が31点出土している。図示不能。

ＳＫ-２３４４

位置　Ｆ-２区フ-49グリッドに位置する。**重複・新旧**　SI-2114・2117、SK-2345と重複し、これらより新しい。**規模・形状**　確認開口部で長軸約175㎝、短軸約76㎝、深さ約38㎝を測る。平面形は長方形を呈し、断面の形状は整った逆台形である。底面は概ねフラット。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　須恵器坏破片１点、土師器の高台付坏・甕破片が３点、土師質土器の焙烙破片が３点出土。図示不能。古代の遺物は混入品。

ＳＫ-２３４５

位置　Ｆ-２区フ-49グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-2344南東部と重複し、これより古い。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約〔105〕㎝、短軸約〔50〕㎝の隅丸長方形である。深さは確認面から約〔15〕㎝となる。断面は逆台形を呈す。**備考**　長方形墓壙か。**遺物**　中世の土師質皿１点を図示。

ＳＫ-２３４７

位置　Ｆ-２区フ-49グリッドに位置する。**重複・新旧**　SI-2117と重複し、これより新しい。**規模・形状**　南半分が未調査。確認した範囲で、平面形は確認開口部で長軸約174㎝、短軸約〔58〕㎝の長方形を呈する。深さは確認面から平均約42㎝を測る。断面は壁が緩やかに立ち上がる逆台形。**備考**　長方形墓壙か。**遺物**　SK-2347・2363共通で出土した須恵器の坏１点を図示。他に、土師質の内耳土器片30点、陶磁器鉢２点、石製品19点出土。図示不能。

ＳＫ-２３６３

位置　Ｆ-２区ヒ-48グリッドに位置する。**重複・新旧**　SI-2113・2114・2117と重複し、これらより新しい。**規模・形状**　確認開口部で長軸約40㎝、短軸約32㎝、深さ約53㎝を測る。平面形は南がやや開く隅丸長方形を呈し、断面の形状は逆台形。底面は概ねフラットである。**備考**　南北に長い長方形墓壙。**遺物**　須恵器坏破片６点、土師器坏・甕破片10点、土師質皿破片５点を出土。SK-2347・2363共通で出土した須恵器の坏１点を図示。古代の遺物は混入品。

ＳＫ-２３８１

位置　Ｆ-２区フ-49グリッドに位置する。**重複・新旧**　SI-2414、SK-2382・2421より新しく、Ｓ-2384より古い。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約168㎝、短軸約66㎝の長方形である。深さは確認面から約50㎝となる。断面は、壁が緩やかに立ち上がる逆台形を呈す。底面は概ねフラット。**備考**　長方形墓壙。**遺物**

須恵器坏破片１点、土師器坏・甕破片３点出土。図示不能。

ＳＫ-２３８２

位置　F-２区フ-49グリッドに位置する。**重複・新旧**　SI-2414、SK-2421より新しく、SK-2381より古い。**規模・形状**　北部がSK-2381に壊されるため、北壁は底面からの僅かな立ち上がりのみ確認した。確認した範囲で長軸約173㎝、短軸約84㎝の隅丸長方形を呈する。深さは確認面から平均約53㎝を測る。断面は壁が僅かに開く逆台形。底面は概ね平坦。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　中世の土師質皿２点、同内耳土器１点を図示。他に、須恵器の坏破片４点、土師器坏・甕破片７点、土師質土器の焙烙・皿破片が５点出土。図示不能。古代の遺物は混入品。

ＳＫ-２３８５

位置　F-２区フ-49グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-2415より新しい。S-2416との新旧関係不明。**規模・形状**　確認開口部で長軸約195㎝、短軸約84㎝、深さ約46㎝を測る。平面形は楕円に近い隅丸長方形を呈する。底面は中央に向かって丸みを持ち、壁は上部に大きく開いて立ち上がる。**備考**　形状雑な長方形墓壙。**遺物**　須恵器の甕破片２点、土師器の坏破片１点、土師質土器の焙烙破片１点出土。図示不能。古代の遺物は混入品。

ＳＫ-２３９６

位置　F-２区ハ-46グリッドに位置する。**重複・新旧**　重複する遺構はない。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約153㎝、短軸約96㎝の、東部が広がった長方形である。深さは確認面から約36㎝となる。底面は概ねフラットで、西壁に近い中央やや北寄りの位置に、底面に伴う小ピット状の掘り込みがある。壁は概ね垂直に立ち上がる。**備考**　長方形墓壙。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２４００

位置　F-２区ハ-45グリッドに位置する。**重複・新旧**　重複する遺構はない。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約107㎝、短軸約107㎝の隅丸方形に近い円形を呈する。深さは確認面から平均約27㎝を測る。断面は逆台形。底面は概ねフラットである。**備考**　円形墓壙か。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２４１１

位置　F-２区ハ-45グリッドに位置する。**重複・新旧**　重複する遺構はない。**規模・形状**　確認開口部で長軸約90㎝、短軸約87㎝、深さ約27㎝を測る。平面形は円形を呈し、断面の形状は底面の中央が丸みを持つ逆台形である。**備考**　円形墓壙か。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２４１７

位置　F-２区ハ-49グリッドに位置する。**重複・新旧**　重複する遺構はない。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約115㎝、短軸約75㎝の隅丸長方形を呈する。深さは確認面から平均約43㎝を測る。底面は概ねフラットで、壁は中位まで概ね垂直に立ち上がり上部はやや外側に開く。**備考**　小型の長方形墓壙。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２４１８

位置　F-２区ハ-48グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-2419と同軸で重複し、これより古い。**規模・形状**　確認した開口部で長軸約〔70〕㎝、短軸約68㎝、深さ約18㎝を測る。平面形は隅丸長方形か。壁は緩やかに立ち上がる。**備考**　小型の長方形墓壙か。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２４１９

位置　F-２区ハ-48グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-2418と同軸で重複し、これより新しい。**規模・形**

状　確認面での平面形は長軸約97㎝、短軸約63㎝の隅丸長方形である。深さは確認面から約42㎝となる。底面フラットで、壁は緩やかに立ち上がる断面逆台形を呈す。**備考**　小型の長方形墓壙。**遺物**　土師質土器の焙烙破片１点出土。図示不能。

ＳＫ-２４２１

位置　Ｆ-２区フ-49グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-2381・2382と重複し、これより古い。**規模・形状**　平面形は確認した範囲で長軸約〔107〕㎝、短軸約〔35〕㎝である。形状は長方形が推定される。深さは確認面から平均約15㎝を測る。確認した西と南の壁は緩く立ち上がる。**備考**　位置と軸の方向性から長方形墓壙か。**遺物**　須恵器の坏破片１点出土。図示不能。混入品。

ＳＫ-２４３３

位置　Ｆ-２区ハ-48グリッドに位置する。**重複・新旧**　重複する遺構はない。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約145㎝、短軸約70㎝の長方形を呈す。深さは確認面から平均約７㎝を測る。断面は浅い皿状で、壁は緩やかに立ち上がる。**備考**　長方形墓壙か。**遺物**　出土しない。

ＳＫ-２４３６

位置　Ｃ-３区タ-25グリッドに位置する。**重複・新旧**　重複する遺構はない。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約145㎝、短軸約110㎝の長方形である。深さは確認面から約35㎝となる。底面平坦な、断面逆台形を呈す。**備考**　長方形墓壙か。**遺物**　検出しない。

４．時期不明・その他

ＳＫ-６４

位置　Ｃ-２区タ-20グリッドに位置する。**規模・形状**　確認開口部で長軸約163㎝、短軸約155㎝、深さ約102㎝を測る。平面形は不整円形を呈し、断面の形状は開くＵ字形である。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-８５

位置　Ｃ-１区サ-20グリッドに位置する。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約140㎝、短軸約133㎝の隅丸方形に近い円形を呈する。深さは確認面から平均約20㎝を測る。断面は皿状。西側底面は東側より一段下がる。壁は緩やかに立ち上がる。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１０９

位置　Ｂ-３区オ-8グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約107㎝、短軸約102㎝の円形である。深さは確認面から約30㎝となる。断面は逆台形を呈す。**備考**　覆土中に近年のゴミ等が混入しているため、新しいものと思われる。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１１２

位置　Ｂ-３区オ-８グリッドに位置する。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約105㎝、短軸約102㎝の円形を呈する。深さは確認面から平均約20㎝を測る。断面は皿状。**備考**　覆土中に近年のゴミ等が混入しているため、新しいものと思われる。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１１３

位置　Ｂ-３区エ-８グリッドに位置する。**重複・新旧**　SZ-101より新しく、SX-130より古い。**規模・形状**　確認開口部で長軸約146㎝、短軸約67㎝、深さ約57㎝を測る。平面形は楕円形を呈し、断面の形状は有段逆台形である。**備考**　上面は楕円形のプランを呈し、中位に段をなして平坦面を持ち、更に隅丸長方形に掘り込まれていた。底面には中心軸に向かって溝を持ち、溝底の北東端は円形状の窪みとなっている。底面は地

山のローム下層の砂質層に達する。遺構の性格として、底部の細い溝状部分と円形の窪み部分に板と杭を立てた、何らかの施設の掘方が推定されている。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１３１

位置　B-３区エ-７グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約72㎝、短軸約70㎝の円形である。深さは確認面から約12㎝となる。断面は皿状。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１３２

位置　B-３区エ-８グリッドに位置する。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約95㎝、短軸約88㎝の円形を呈する。深さは確認面から平均約20㎝を測る。断面は皿状。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１７５

位置　B-２区エ-14グリッドに位置する。**規模・形状**　確認開口部で長軸約124㎝、短軸約74㎝、深さ約22㎝を測る。平面形は不整楕円形を呈し、断面の形状は逆台形である。**備考**　上端形かなり不整で、人為的な遺構ではない可能性もある。壁の角度も一様ではなく、西側はダラダラと立ち上がる。底面不均一に、しかしかなり多くの礫あり。底面は凹凸が著しく、径２～15㎝大の礫が多数みられた。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２２９

位置　C-１区コ-21グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-237と重複し、これより新しい。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約105㎝、短軸約95㎝の楕円形である。深さは確認面から約24㎝となる。断面は逆台形を呈す。**備考**　当初、２基の重複と考え調査し、土層断面でも遺構の切り合いを確認した。土坑２基の底面レベルには差が無く、壁の立ち上がりも同じような緩い角度。両者、底面に若干凹凸が見られる。壁も含めローム面を掘り込む。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２３７

位置　C-１区コ-21グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-229と重複し、これより古い。**規模・形状**　確認開口部で長軸約118㎝、短軸約〔110〕㎝、深さ約23㎝を測る。平面形は不整円形を呈し、断面の形状は皿状である。**備考**　掘り上がりの状態で、SK-237の南側に浅く楕円状に落ち込む部分があり、長方形土坑と小形の円形土坑の重複の可能性も残る。底面は若干凹凸する。壁も含めローム中に壁・底面が作られる。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２４１

位置　C-１区コ-21グリッドに位置する。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約81㎝、短軸約70㎝の円形を呈する。深さは確認面から平均約25㎝を測る。ローム面の底は中央に向かって皿状に窪み、且つ凹凸あり。壁東は急角度だが、残りは緩やかに立ち上がる。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２４８

位置　C-１区コ-22グリッドに位置する。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約83㎝、短軸約68㎝の不整円形を呈する。深さは確認面から平均約15㎝を測る。断面は皿状。若干北側の底が高くなる。底面は概ねフラット。やや緩やかな壁の立ち上がり。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-３０７

位置　B-１区ク-16グリッドに位置する。**重複・新旧**　SD-306と切り合い、これより新しい。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約255㎝、短軸約115㎝の不整円形を呈する。深さは確認面から平均約23㎝を測る。断面は皿状。平面形は形の整った長方形を呈す。底面は凹凸がある。壁の立ち上がりは緩やかである。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-３１４

位置　Ｂ-２区オ-14グリッドに位置する。**重複・新旧**　本遺構の内部南側にピット状に下がる部分があり、調査後別遺構の重複としてＳ-419と発番した。断面での切り合いは確認できなかったが、確認の前後からすればＳ-419は本遺構より古い掘り込みと思われる。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約105㎝、短軸約80㎝の隅丸長方形を呈する。深さは確認面から平均約17㎝を測る。断面は皿状。底面ロームで中央に向かって下がる。比較的凹凸あるが攪乱によるものか。**備考**　周囲であまり見ないタイプの土坑。人為的な遺構としたが、覆土は攪乱穴に近いもの。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-３８７

位置　Ｂ-２区オ-14グリッドに位置する。**重複・新旧**　SD-154、Ｓ-417と重複する。両者より古い。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約90㎝、短軸約82㎝の円形を呈する。深さは確認面から平均約28㎝を測る。断面はロート形。やや浅く不整形な掘り込みで、プラン確認時もやや不明瞭。底面はフラットな部分がなく、壁も平坦面なし。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-４２７

位置　Ｂ-３区エ-11グリッドに位置する。**重複・新旧**　SD-122と重複する。新旧関係は不明。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約124㎝、短軸約〔115〕㎝の不整楕円形を呈する。深さは確認面から平均約58㎝を測る。断面は開くＵ字形。**備考**　平面は楕円形の土坑を途中で切ったような形。壁・床面ともに不整で、性格不明。壁際の土はロームのしみのような土で地山ロームとの境がはっきりしない。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-４４２

位置　Ｂ-３区エ-９グリッドに位置する。**規模・形状**　確認開口部で長軸約121㎝、短軸約70㎝、深さ約25㎝を測る。平面形は長方形を呈し、断面の形状は凹凸のある皿状である。底面は南側に向かって落ち込む形。平面・断面ともやや不整な形体。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-４４４

位置　Ｂ-３区オ-９グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約122㎝、短軸約53㎝の不整長方形である。深さは確認面から約32㎝となる。断面は逆台形を呈す。**備考**　確認時の平面形と掘り上がりの断面形から、２基のピット状遺構の重複の可能性も考えたが、土層は変化のない単層で、１つの土坑と判断した。形状は火葬墓壙に類するが、焼成による発生物等の遺存はなく、性格は不明である。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-４４６

位置　Ｂ-３区オ-10グリッドに位置する。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約64㎝、短軸約57㎝の隅丸方形を呈する。深さは確認面から平均約20㎝を測る。断面は逆台形。**備考**　壁・底面とも整っている正方形に近い土坑。性格は不明。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-５８５

位置　Ｂ-４区ケ-12グリッドに位置する。**重複・新旧**　Ｓ-584と重複する。これより古い。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約118㎝、短軸約87㎝の楕円形を呈する。深さは確認面から平均約55㎝を測る。断面は逆台形。底面は南部にかけて下がっていき、南端でオーバーハングしている。底は自然な礫・砂利層に当たる面で不明瞭である。南壁以外の壁は比較的まっすぐ立ち上がる。中型の礫が覆土中に目立つ。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-５９２

位置　B-４区キ-13グリッドに位置する。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約125㎝、短軸約〔82〕㎝の楕円形を呈する。深さは確認面から平均約10㎝を測る。断面は皿状。**備考**　北半部はプランの確認のみ。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-６１８

位置　B-３区オ-６グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約120㎝、短軸約110㎝の円形である。深さは確認面から約20㎝となる。断面は皿状を呈す。**備考**　覆土は、低地で水に浸かったようなしまりと粘性のある硬い土。自然堆積と思われる。平面形は整った円形で、底面は平らだが、壁はロームと混じり合い地山との境が不明瞭である。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-６６６

位置　B-３区キ-８グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約65㎝、短軸約49㎝の隅丸長方形である。深さは確認面から約12㎝となる。断面は皿状を呈す。**備考**　覆土はレンズ状の自然堆積。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-６６７

位置　B-３区キ-８グリッドに位置する。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約58㎝、短軸約52㎝の不整楕円形を呈する。深さは確認面から平均約６㎝を測る。断面は皿状。**備考**　SK-668の覆土と類する。同時期の遺構と思われる。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-６６８

位置　B-３区キ-８グリッドに位置する。**規模・形状**　確認開口部で長軸約40㎝、短軸約38㎝、深さ約９㎝を測る。平面形は不整円形を呈し、断面の形状は皿状である。**備考**　SK-667の覆土と類する。同時期の遺構と思われる。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-６７０

位置　B-３区キ-７グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約127㎝、短軸約80㎝の不整楕円形である。深さは確認面から約40㎝となる。断面は逆台形を呈す。**備考**　土坑を掘ったときに出た土を再び利用して埋め戻されている。土は掘り込んだ地山の違いからロームの混じり具合がそれぞれ異なり、それらが埋め戻した順に層状に入る。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-７２０

位置　D区オ-18グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約110㎝、短軸約101㎝の円形である。深さは確認面から約12㎝となる。断面は皿状を呈す。ほぼ円形の土坑。確認面では、東側が低く削られているため、壁の立ち上がりが不明瞭。底面やや凹凸あり。性格不明。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-７２２

位置　D区オ-18グリッドに位置する。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約145㎝、短軸約110㎝の不整形を呈する。深さは確認面から平均約９㎝を測る。断面は皿状。壁の立ち上がりが不明瞭。床面凹凸有り。**備考**　覆土は自然堆積と思われる。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-７２６

位置　D区キ-18グリッドに位置する。**規模・形状**　確認開口部で長軸約260㎝、短軸約50㎝、深さ約21㎝を測る。平面形は長方形を呈し、断面の形状は逆台形である。壁は垂直に立ち上がる。底部は平坦。**備考**　覆土は埋め戻し土の単一層。近代のものか。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-７２７

位置　Ｄ区エ-18グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約130㎝、短軸約125㎝の円形である。深さは確認面から約21㎝となる。断面は皿状を呈す。底部にやや凹凸がある。新しい掘り込みの可能性あり。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-７３４

位置　Ｄ区カ-17グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-735と重複してこれより古い。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約〔84〕㎝、短軸約72㎝の隅丸長方形を呈する。深さは確認面から平均約10㎝を測る。断面は皿状。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-７３５

位置　Ｄ区カ-17グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-734と重複してこれより新しい。**規模・形状**　確認開口部で長軸約64㎝、短軸約55㎝、深さ約10㎝を測る。平面形は隅丸方形を呈し、断面の形状は皿状である。**遺物**　土師器坏の体部破片１点を出土。図示不能。

ＳＫ-７３７

位置　Ｄ区ウ-18グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約80㎝、短軸約73㎝の方形に近い円形である。深さは確認面から約10㎝となる。断面は凹凸のある皿状を呈す。底部に平坦部が無く、凹凸が見られる。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-７５２

位置　Ｄ区エ-17グリッドに位置する。**規模・形状**　確認開口部で長軸約68㎝、短軸約55㎝、深さ約10㎝を測る。平面形は楕円形を呈し、断面の形状は皿状である。**備考**　自然堆積と思われる。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-７５８

位置　Ｄ区イ-16グリッドに位置する。**規模・形状**　確認開口部で長軸約98㎝、短軸約72㎝、深さ約〔55〕㎝を測る。平面形は楕円形を呈し、断面の形状は開くＵ字形である。平面楕円形の土坑。壁・底ともにやや不整。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-７６７

位置　Ｄ区エ-15グリッドに位置する。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約125㎝、短軸約105㎝の楕円形を呈する。深さは確認面から平均約17㎝を測る。断面は凹凸のある皿状。**備考**　遺構確認時は円形のプランが明瞭に認められたが、覆土掘り下げ後の壁・底面は不明瞭である。底面の凹凸が激しい。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-７６８

位置　Ｄ区ウ-15グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約124㎝、短軸約87㎝の楕円形である。深さは確認面から約16㎝となる。断面は皿状。**備考**　遺構確認時はプランが明瞭に認められたが、覆土掘り下げ後の壁・底面は不明瞭である。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-７７８

位置　Ｄ区ア-14グリッドに位置する。**重複・新旧**　確認面で捉えた、複数の遺構の重複プランは非常に不明瞭であった。調査後SK-778・779・780の３基の土坑の重複と判断し、新旧関係を新しい順からSK-779→SK-780→SK-778と判断した。**規模・形状**　確認開口部で長軸約168㎝、短軸約97㎝、深さ約76㎝を測る。平面形は楕円形を呈し、断面の形状は逆台形である。**備考**　底部中央が一段低くなって砂質層にあたる。覆土は非常に固く、レンズ状の堆積。墓壙か。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-７７９

位置　Ｄ区ア-14グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-778・780と重複し、新旧関係は新しい順からSK-779→SK-780→SK-778となる。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約〔140〕㎝、短軸約63㎝の隅丸長方形である。深さは確認面から約22㎝となる。断面は皿状を呈す。**備考**　細長い土坑。底部は平坦だが壁は崩れが見られる。**遺物**　縄文土器深鉢の破片を検出。図示不能。混入品。

ＳＫ-７８０

位置　Ｄ区ア-14グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-778・779と重複し、新旧関係は新しい順からSK-779→SK-780→SK-778となる。**規模・形状**　確認開口部で長軸約〔230〕㎝、短軸約90㎝、深さ約30㎝を測る。平面形は隅丸長方形を呈し、断面の形状は逆台形である。**備考**　東西方向に長い土坑。西端が調査区外になるため、全体形が把握できない。西側は調査区外に延びる溝の可能性も考えられる。底部は丸みを帯る断面形。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-７８９

位置　Ｄ区イ-13グリッドに位置する。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約73㎝、短軸約63㎝の楕円形を呈する。深さは確認面から平均約31㎝を測る。断面は逆台形で壁は概ね垂直でしっかりしている。底部は平坦だが、北側に向かってなだらかに下がっている。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-８０６

位置　Ｄ区ウ-16グリッドに位置する。**重複・新旧**　北西から南東に細長く伸びる浅い長方形の遺構。SD-745と直交して重複する。これより古い。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約〔268〕㎝、短軸約74㎝の隅丸長方形である。深さは確認面から約12㎝となる。断面は皿状を呈す。**備考**　溝の密集地に位置し、当初溝の端部とも思われたが、溝に類するのは形状のみで、覆土等の特徴は周囲の溝との差異が大きいため土坑と判断した。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-８１９

位置　Ｄ区ウ-13グリッドに位置する。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約〔126〕㎝、短軸約〔34〕㎝の隅丸長方形を呈する。深さは確認面から平均約24㎝を測る。断面は逆台形。**備考**　北東半部が調査区外に続くため、全体のプランが確認できなかった。覆土と底面の特徴から、１層を覆土とする底面が平坦な円形の掘り込みと、２層を覆土とする底面に凹凸が見られる方形に近い掘り込みの重複の可能性も考えられる。その場合、北側の円形の掘り込みが新しい。**遺物**　土師器甕の胴部片１点検出。図示不能。

ＳＫ-８５１

位置　Ｄ区ウ-14グリッドに位置する。**重複・新旧**　重複する遺構はないが、SD-859と西壁が接する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約130㎝、短軸約77㎝の不整楕円形である。深さは確認面から約29㎝となる。断面は逆台形を呈す。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-８５２

位置　Ｄ区イ-14グリッドに位置する。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約206㎝、短軸約107㎝の不整形を呈する。深さは確認面から平均約67㎝を測る。断面は有段逆台形。**備考**　不整形の大形土坑。南西部のみ更に深く掘り込まれ、部分的に南側の壁にオーバーハングが見られる。この一段低い部分はローム粒とブロックの集合土で満たされており、自然堆積ではない埋め戻し土と思われる。粘土採掘坑かとも思われるが、土坑の性格は不明である。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-８７４

位置　Ｄ区ウ-13グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約120㎝、短軸約65㎝の長方形である。深さは確認面から約41㎝となる。断面は逆台形を呈す。底面はやや不整。**備考**　覆土は人為的な埋め戻し。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-８８９

位置　Ｄ区ウ-14グリッドに位置する。**重複・新旧**　重複する遺構はないが、SD-890と北西壁が接する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約83㎝、短軸約73㎝の不整楕円形である。深さは確認面から約17㎝となる。断面は逆台形を呈す。床面は概ね平坦。壁は緩やかに立ち上がる。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１０２７

位置　Ｈ区メ-65グリッドに位置する。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約120㎝、短軸約80㎝の隅丸長方形を呈する。深さは確認面から平均約53㎝を測る。断面は不整逆台形。底面は不整である。**備考**　覆土は壁が崩れた後に堆積した層を３層に分層したが、構成粒子の変化に乏しく、層間の境は曖昧に連続的に変化する。自然堆積と思われる。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１０３２

位置　Ｈ区モ-66グリッドに位置する。**規模・形状**　確認開口部で長軸約132㎝、短軸約120㎝、深さ約81㎝を測る。平面形は円形を呈し、断面の形状はフラスコ形である。**備考**　形状からは縄文時代の袋状土坑とも思われる。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１０４７

位置　Ｈ区モ-68グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約146㎝、短軸約130㎝の円形である。深さは確認面から約30㎝となる。断面は椀形を呈す。**備考**　レンズ状の自然堆積を呈す。底面中央がやや窪む。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１０６５

位置　Ｈ区ヨ-63グリッドに位置する。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約69㎝、短軸約57㎝の楕円形を呈する。深さは確認面から平均約16㎝を測る。断面は不整逆台形。**備考**　整った円形の土坑。掘り上がりの底面の凹凸は攪乱（ザリガニ穴）による。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１０９０

位置　Ｈ区メ-63グリッドに位置する。**規模・形状**　確認開口部で長軸約70㎝、短軸約59㎝、深さ約8㎝を測る。平面形は楕円形を呈し、断面の形状は皿状である。底面の凹凸が激しい。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１０９１

位置　Ｈ区ラ-68グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約104㎝、短軸約82㎝楕円形である。深さは確認面から約44㎝となる。断面は逆台形を呈す。形の整った土坑で、壁と底面の掘方明瞭。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１１０６

位置　Ｅ区ヌ-33グリッドに位置する。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約150㎝、短軸約92㎝の隅丸長方形を呈する。深さは確認面から平均約64㎝を測る。断面は方形。底面は平坦。北壁はやや緩やかに、それ以外はまっすぐに立ち上がる。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１１１４

位置　Ｅ区ヌ-35グリッドに位置する。**重複・新旧**　SI-1107のカマド部分に重複し、これより新しい。**規**

模・形状　確認面での平面形は長軸約76㎝、短軸約64㎝の楕円形である。深さは確認面から約18㎝となる。断面は浅い椀状を呈す。**備考**　上面は攪乱により大きく乱されていた。攪乱土は黒褐色土（10YR3/2）の硬くて礫が混じる土。底面中央部の小穴は、木根等の攪乱と思われる。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１１１７

位置　Ｅ区ニ-36グリッドに位置する。**重複・新旧**　SD-1101と重複し、これより古い。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約138㎝、短軸約76㎝の南西の隅がやや歪む以外は概ね整った隅丸の長方形を呈す。深さは確認面から約40㎝となる。断面は有段逆台形で、壁が薬研のように段を持って立ち上がる。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１１３７

位置　Ｆ-１区ネ-40グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約176㎝、短軸約81㎝の長方形である。深さは確認面から約19㎝となる。断面は逆台形を呈す。床面は概ねフラットで、壁は緩やかに立ち上がる。**備考**　長方形墓壙。Ｆ-１区は調査前に現状の耕作土及び地山上面を土取りされてしまった為、遺構確認面がローム面となり、検出する遺構はすべて上半部が削平され浅くなっている。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１１９０

位置　Ｆ-１区ネ-46グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約143㎝、短軸約82㎝の不整隅丸方形である。深さは確認面から約31㎝となる。断面は有段逆台形を呈す。**備考**　隅丸長方形の東西壁の一部が、北に寄った部分で外側に張り出す。底面はやや南寄りの中心に向かって僅かな段を持って下がっていき、浅いピット状の窪みとなる。墓壙か。**遺物**　磨石１点を図示。他に土師器の坏・甕の破片を１点ずつ、土師質土器の内耳土器破片を２点検出。

ＳＫ-１２０２

位置　Ｆ-１区ネ-46グリッドに位置する。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約134㎝、短軸約70㎝の不整長方形を呈する。深さは確認面から平均約10㎝を測る。断面は凹凸のある皿状。浅く歪んだ平面形の土坑。床面は凹凸が激しい。**備考**　覆土中に古代の土師器片を混入しているが、遺構の時代は不明である。**遺物**　土師器甕の胴部片２点検出。図示不能。

ＳＫ-１２８４

位置　Ｆ-１区ネ-45グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1285と重複し、これより古い。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約258㎝、短軸約72㎝の隅丸長方形を呈する。深さは確認面から平均約７㎝を測る。断面は凹凸ある皿状。底面は凹凸が顕著で、壁の立ち上がりは非常に緩やかである。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１２８５

位置　Ｆ-１区ノ-45グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-1284と重複し、これより新しい。**規模・形状**　確認開口部で長軸約190㎝、短軸約93㎝、深さ約17㎝を測る。平面形は整った長方形を呈し、断面の形状は逆台形である。床面は概ね平坦に整えられて、壁は比較的まっすぐ立ち上がる。**備考**　単層の埋め戻し土。**遺物**　土師器坏の小片２点と甕の胴部片１点を出土する。図示不能。

ＳＫ-１３４６

位置　Ｆ-１区ヌ-44グリッドに位置する。**重複・新旧**　重複する遺構はない。**規模・形状**　確認開口部で長軸約70㎝、短軸約68㎝、深さ約27㎝を測る。平面形は円形を呈し、断面の形状は逆台形である。底面の壁際部分がやや低くなる。円形土坑。**遺物**　床上23㎝の覆土中より土師器坏を出土。図示不能。

ＳＫ-１４９２

位置　Ｆ-３区ヒ-50グリッドに位置する。**重複・新旧**　Ｓ-1491・1493と重複し、これより古い。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約113㎝、短軸約110㎝の不整円形を呈する。深さは確認面から平均約13㎝を測る。底面は中央に向かって緩く窪み、壁はやや開いて立ち上がる。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-１６５１

位置　Ｆ-３区ハ-50グリッドに位置する。**重複・新旧**　重複する遺構はない。**規模・形状**　確認開口部で長軸約〔77〕㎝、短軸約55㎝、深さ約18㎝を測る。平面形は長方形を呈し、断面の形状は逆台形である。覆土の確認が出来なかった。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２０１７

位置　Ｇ-１区マ-54グリッドに位置する。**重複・新旧**　SD-2002と重複し、これより新しい。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約〔137〕㎝、短軸約100㎝の不整円形を呈する。深さは確認面から平均約20㎝を測る。断面は凹凸のある皿状。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２０２４

位置　Ｇ-１区ホ-54グリッドに位置する。**重複・新旧**　SX-2021の底面で確認した。新旧関係不明。**規模・形状**　確認開口部で長軸約87㎝、短軸約80㎝、深さ約32㎝を測る。平面形は楕円形を呈し、断面の形状は逆台形である。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２１２１

位置　Ｆ-２区ホ-47グリッドに位置する。**重複・新旧**　SD-1403に西部分を、SD-1404に東部分を壊される。Ｓ-2122より新しく、SD-1403・1404、Ｓ-2137より古い。Ｓ-2108との新旧関係不明。**規模・形状**　平面形は確認した範囲内で長軸約〔370〕㎝、短軸約170㎝を測る。深さは確認面から平均約38㎝。南北の壁は開いて立ち上がる。底面は概ね平坦である。**遺物**　鉄製品の極小片１点、須恵器坏破片３点、土師器坏・甕の破片18点を出土。図示不能。

ＳＫ-２１８１

位置　Ｆ-２区へ-47グリッドに位置する。**重複・新旧**　SI-2189と重複し、これより新しい。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約107㎝、短軸約52㎝の西側がやや広がる長方形である。上部が削平された底面に近い部分の検出で、深さは確認面から約11㎝となる。底面には凹凸が見られ、壁は緩やかに立ち上がる。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２１８４

位置　Ｆ-２区フ-47グリッドに位置する。**重複・新旧**　重複する遺構はない。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約138㎝、短軸約65㎝の不整楕円形である。深さは確認面から平均約23㎝を測る。断面は逆台形を呈す。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２１８７

位置　Ｆ-２区フ-47グリッドに位置する。**重複・新旧**　重複する遺構はない。**規模・形状**　確認開口部で長軸約80㎝、短軸約72㎝、深さ約37㎝を測る。平面形は歪んだ円形を呈し、断面の形状は底面が丸く窪む逆台形である。**遺物**　土師器の甕破片が２点出土。図示不能。

ＳＫ-２１９０

位置　Ｆ-２区フ-47グリッドに位置する。**重複・新旧**　SI-2189の調査中に検出した。住居跡の掘方埋土と覆土が若干似ているように思われたが、時期的な新旧関係は確認できていない。**規模・形状**　確認面での平面

形は長軸約160㎝、短軸約142㎝の西に張り出した円形である。西壁側に段を持つ。深さは確認面から約36㎝となる。底面は概ね平坦で、壁は上部に大きく開いて立ち上がる。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２１９２

位置　Ｆ-２区フ-47グリッドに位置する。**重複・新旧**　Ｓ-2193より古い。**規模・形状**　確認開口部で長軸約210㎝、短軸約120㎝、深さ約20㎝を測る。平面形は不整楕円形を呈し、断面の形状は逆台形である。底面にはやや凹凸が見られる。**備考**　東壁にピット状に張り出した掘り込みが見られる。**遺物**　覆土中より出土した須恵器坏と土師質土器の内耳土器を図示。他に、須恵器の坏破片１点、土師器の坏・甕破片２点、土師質土器の焙烙１点を検出。図示不能。

ＳＫ-２１９９

位置　Ｆ-２区ヒ-48グリッドに位置する。**重複・新旧**　重複する遺構はない。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約120㎝、短軸約65㎝の隅丸長方形である。深さは確認面から約18㎝となる。底面が中央に向かって丸く下がり、壁面は緩く立ち上がる。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２２３９

位置　Ｆ-２区ヒ-47グリッドに位置する。**重複・新旧**　重複する遺構はない。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約110㎝、短軸約72㎝の楕円形である。深さは最深部で確認面から約17㎝となる。断面は底面が丸くなる椀状を呈す。**備考**　覆土の観察が出来なかった。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２４１５

位置　Ｆ-２区フ-49グリッドに位置する。**重複・新旧**　SK-2385、Ｓ-385より古い。Ｓ-2386・2416とも重複するが新旧関係不明。**規模・形状**　確認出来た範囲は長軸約〔47〕㎝、短軸約〔32〕㎝である。深さは確認面から約12㎝。底面は概ねフラットで、壁は緩やかに立ち上がる。**備考**　覆土は観察できなかった。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２４２３

位置　Ｆ-２区フ-49グリッドに位置する。**重複・新旧**　SD-1400より古い。SI-2414の北東部に近接する。**規模・形状**　上部をSD-1400に壊される。確認開口部で長軸約78㎝、短軸約55㎝、深さ最深部で約17㎝を測る。平面形は楕円形を呈し、断面の形状は凹凸のある皿状である。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２４３７

位置　Ｂ-３区オ-12グリッドに位置する。**重複・新旧**　SX-118のプラン内に記録された、覆土の異なる掘方範囲を本遺構とした。SX-118より新しいものと判断する。**規模・形状**　長軸約92㎝、短軸約52㎝、深さ約15㎝の突出部を持つ不整長方形部分と、長軸約50㎝、短軸約35㎝、深さ約30㎝の不整形部分からる。形態と覆土、骨片の出土などから火葬墓の可能性が高いものと思われる。**遺物**　覆土中より内耳土器の口縁部破片１点と砥石の欠損品１点を出土。図示。

第６節　溝状遺構

溝状遺構は平成13年度から14年度にかけて調査を行ったＢ区から23条、C区から13条、14年度調査のＤ区から38条、E区から１条、16年度に調査を行ったF区から15条、16年度から17年度にかけて調査を行ったＧ区から10条の、合計100条を確認した。

以下、表形式で各遺構ごとに説明を加える。表の計測値は確認範囲での最小から最大を記した。〔　〕内の数値は部分的な確認を行った際の範囲幅である。覆土の観察所見は別表（土層観察表）に詳しく説明している。出土遺物は、実測図　掲載の有無にかかわらず、種別の確認が出来た遺物について列記した。

１．古代

遺構番号	区・ｸﾞﾘｯﾄﾞ	幅 (cm)	深さ (cm)	備　　考	出土遺物（不掲載破片含む）
SD - 37	C-2区 セ-18 ～ シ-20	85 ～ 155	13 ～ 20	調査中、SD-37は「道」の可能性有り（最低一人分歩いて渡る幅があれば可能）との指摘を受け、溝の周囲4mほどの範囲で波板状圧痕などの道を示す痕跡など検出しないか精査したが、ここでは確認できなかった。溝の覆土である粒子の細かい砂質の土は、これに土器片を多く入れて道を造るために埋め戻した土と解釈することも可能か。覆土には焼土も目立って入る。遺物は地面に近いほど出土密度が高く、断面皿状を呈する底面上に人為的にばらまかれた感が強い。 須恵器の数が多く、器種は坏が主体である。SD-37の開口底部に入り込んだ遺物の年代とSK-46などSD-37を切る土坑に入った遺物はほとんど時期差がないと思われるが、土坑が埋まる際に壊した溝の覆土に多量に含まれていた遺物が流入したとも考えられる。西方に並列して走るSD-50との中心軸間はおよそ18mで、このことから両者が同時期に計画的に構築された溝との判断もある。重複する遺構ではSK-33・43・44・45・92・94・998・999より古い。古代に属する。	灰釉陶器、須恵器(蓋・坏・高台付坏・埦・高台付埦・高台付皿・壺・短頸壺・高台付壺・鉢・高台付鉢・甕)、土師器(坏・高台付埦・甑・甕)、陶器(碗)、石器(石斧・磨石)
SD - 50	C-2区 ス-16 ～ サ-17	96 ～ 126	37 ～ 50	中世以降の遺物の混入はなく、底面直上から出土した遺物の時期から平安時代の溝状遺構と考える。底面の一部に見られた砂質の覆土は、隣にあった風倒木による天地返しで上がってきた下の砂礫層の砂利であろう。東方に並列して走るSD-50との方向は同じで、中心軸間の距離などから両者の溝の同時期の計画性が考えられたが、SD-37に比べSD-50は溝の底面や壁の掘方は丁寧で、遺物の混入もさほど多くない。 これらからSD-50は道とは関係なく考えたいが、古い地割に関係する溝であろうか。溝の底には、基本的に粘性の強い黒色土層、その直上に砂層という堆積状況だが、一部、砂混じりのシルト層の上に粒子の粗い砂層、その直上に粘層の強い黒色土層という堆積が見られる。溝に滞水や流水といった水の影響がみられない。SD-50の西に並ぶSD-51～53とは異なる堆積状況を示す。重複する遺構ではSX-212より古い。古代に属する。	灰釉陶器(埦・高台付埦)、須恵器(蓋・坏・甕)、土師器(坏・高台付埦・甕)、磁器(碗)、土製品(沈子)、瓦
SD - 51	C-2区 シ-16 ～ ス-16	80 ～ 130	37 ～ 50	断面皿状の溝状遺構。SD-50の西に位置し、SD-52・53と切り合う。SD-51はSD-52・53Aと埋土の下層に黒みの強い土が堆積するという共通点がみられる。反対に、SD-50のように覆土に粘りがあったり砂がまじったりという特徴はない。SD-50・51とも覆土に水の影響があまりみられない。古代に属する。	灰釉陶器(埦)、須恵器(蓋・坏・甕)、土師器(坏・甕)
SD - 52	C-2区 ス-15 ～ シ-16	60 ～ 80	12 ～ 18	SD-51とSD-53の中間に位置する。北東部が調査区外に伸び、南西部はSD-51に壊されるため、長さ5m弱の範囲しか確認していないが、SD-52はSD-51・53Aと埋土の下層に黒みの強い土が堆積するという共通点がみられる。古代以前に属する。	土師器(甕)
SD - 53A	C-2区 シ-15 ～ シ-16	54 ～ 118	8 ～ 30	C-2区の北端部から検出した溝状遺構。4条からなりそれぞれをA・B・C・Dとした。平面での確認では同様な黒褐色土の連続で、当初4条をまとめて、後にSD-53Bとした部分を溝本体とする東壁側の覆土の広がりと捉えていたが、調査区外側の断面確認で、それぞれ異なる掘り込みの覆土と認められたので、枝番を付加して個別の遺構名に変えた。それぞれの新旧関係は、Aが他のB・C・Dすべてより新しい。BはCを切る。DとB、DとCの新旧関係は不明である。	須恵器(蓋・坏・高台付盤・長頸壺・瓶・甕)、土師器(坏・甕)、瓦

遺構番号	区・ｸﾞﾘｯﾄﾞ	幅(cm)	深さ(cm)	備　　考	出土遺物(不掲載破片含む)
				SD-53AとSD-53Dの上部の層は、ローム粒の量に少し差があるもののよく似ているため、AはDと近い時期に掘り直された溝という関係が考えられる。Aの覆土には、下層に黒みの強い土が堆積するというSD-51・52と共通する点がみられるが、SD-50のように強い粘りや砂の混じり等はない。底面はやや丸みを持つが概ね平坦で、壁は中位まで急な角度で立ち上がる。中位から上位は立ち上がりの角度が緩くなる。重複する遺構ではSX-208より新しい。古代に属するか。	
53B		[80]～[160]	[40]～[46]	遺物が底面から多く出土した。幅広で深いためか周辺の溝より掘方が粗い。埋土の下層は基本的に砂層で上層には鉄分や粘土を含むなど、水の影響を受けたような土が見られた。溝全体の形状が確認できなかったが、底面にあまり平坦面が見られず、壁は緩やかに立ち上がるものと思われる。重複する遺構ではSX-208より新しく、SX-212より古い。古代に属するか。	
53C		[72]～[85]	[6]～[8]	SD-53Aとの切り合いは、土層の断面からは明瞭ではないが、平面観察でAが新しいと判断した。底面に近い部分のみの確認で、断面は浅い皿状。古代に属するか。	
53D	C-2区シ-15～シ-16	48～70	5～22	SD-53Aに西壁が重なる溝。北側は調査区外へ続き、南側はAに重なって消える。AがDの掘り直しの可能性もあるか。底面は緩く丸みを持ち、壁は緩やかに立ち上がる。古代に属するか。	
SD - 83	C-1区サ-20～コ-21	62～72	10～28	SD-84と重複し、これより新しい。底面はローム漸移層にあたる、壁は黒色土中。断面皿状で、両端は自然に消滅する。SD-90に合流するものとも思われる。覆土はしまりのない黒褐色土の単層。古代に属するか。	土師器(坏・甕)
SD - 84	C-1区サ-20	58～63	4～8	SD-83と重複し、これより古い。SD-83と同様な掘方で、底面はローム漸移層、壁は黒色土中。断面皿状で、SD-83と切り合わない東端は自然に消滅する。覆土はSD-84よりややしまりのある暗褐色土の単層。古代に属するか。	
SD - 90	C-1区サ-20～コ-22	68～180	8～14	ほぼ真北から南方向に延びる浅い溝。両端は自然に消滅する。一部膨らむ部分は、SD-90の南で消滅するSD-83・84が重なってくる範囲の可能性有り。古代に属するか。	須恵器(坏・甕)、土師器(坏・甕)
SD - 271	C-1区サ-20～サ-22	132～252	24～44	C区南部の低地域調査中に検出した浅い溝状遺構。当初、黒色土の遺構確認面において明瞭な遺構のプランが認められず、古代の土師器・須恵器が集中して出土する範囲を追っていき、遺構として確認した。北から南に向かって徐々に浅く狭くなり、南端は自然消滅している。断面は浅い皿状で、壁は緩やかに立ち上がる。遺物の出土状況から、時期を分けて調査したC-2区検出のSD-37から続いている遺構と思われる。古代に属する。	須恵器(蓋・坏・高台付坏・高坏・甕・鉢)、土師器(坏・甕)
SD - 305	B-1区コ-16～キ-18	610～1360	40～60	北東方向から南北方向に延びる浅く幅広の溝状遺構。深さ最深60㎝程度、幅最大で6.8m程度の規模の溝状を呈す本体部分と、溝を横断するように掘り込まれた土坑状の掘方列やピット列からなり、所謂道路状遺構と呼称される遺構の特徴を持つ。堆積の状況から、最低2回以上の掘り直しが認められ、新しい時期からa→b→cとした。aは最も幅広で、bの掘り直しは西にずれて幅が半分以下になる。cは更に幅が狭まる。覆土の特徴は、土層観察表に詳しく記した。 本遺構は、連続する不整楕円形の浅い掘り込みが8列確認されている。本体の溝を横断する通路状の施設と考えられる部分だが、これらも、溝本体の持つ時期差（a期・b期・c期、もしくはそれ以上の掘り直し）に伴うもので、すべて同時期ではない。これらの掘り込み列について、溝の底面からの掘方の特徴や掘り込み底面の形状の違いを現場で出来るだけ捉え、各々特徴の把握に努めた。（「まとめ」参照。） 出土遺物はすべて破片で、底面直上の堆積土中に見られる。大まかに8カ所の集中グループ（第93図トーン部分）に分かれて出土した。須恵器の比率が高く、器種は蓋・坏が多い。この傾向はやはり道路状遺構の可能性が示唆されたC-2のSD-37と類似する。重複する遺構ではSD-414より新しく、SK-310・413、SD-306・308より古い。SE-323との新旧関係は不明。古代に属する。	灰釉陶器(埦・壺・瓶)、須恵器(蓋・坏・高台付坏・高台付皿・高坏・壺・小型壺・長頸壺・短頸壺・瓶・長頸瓶・甕・鉢)、土師器(坏・高台付坏・小型坏・高台付小型坏・高台付埦・甕・高台付甕・鉢・手捏ね土器)、土師質土器(焙烙)、陶磁器(碗)、瓦、円面硯、石製品、石器(敲石)

遺構番号	区・ｸﾞﾘｯﾄﾞ	幅(cm)	深さ(cm)	備　　考	出土遺物(不掲載破片含む)
SD - 306	B-1区ケ-16～キ-18	88～152	20～32	北側は攪乱に壊され、南側は調査区外へ延びる。南に同様な方向性を持って位置する、SD-305の通路状施設部分の掘り込みを切る。自然堆積で埋没している。覆土断面では確認できなかったが、底面の埦状の窪みが二列分あるので、一回以上の掘り直しが成されたかもしれない。壁は緩やかに立ち上がる。重複する遺構ではSI-302、SD-305より新しく、SK-307より古い。古代の溝。	須恵器(甕)、土師器(坏・甕)
SD - 414	B-1区ケ-18～ク-19	90～120	20～30	SD-305の南側に、SD-305と同様な方向性をもって走る溝。SD-305に取り付く通路状施設部分と思われる掘り込み列に切られる。底面は平坦で、壁は比較的緩やかに開く。断面逆台形である。古代に属する。	
SD - 621	B-3区カ-6～キ-6	20～45	12～18	B区の調査区外に北東部が延びる。南西端はSZ-619の手前で自然消滅する。SK-620と重複し、これより古い。壁は概ね垂直に立ち上がる断面コの字形の溝で、しまりのある土で自然に埋没している。古代に属する。	須恵器(甕)
SD - 725	D区キ-19～オ-19	350～	26～64	B-1区のSD-305と繋がる溝状遺構か。西側に位置をずらして掘り直されており、これをSD-895とした。中央部をSD-894が、南東部をSD-738が重複する。それぞれの新旧関係は古い順に、SD-725→SD-895→SD-894、SD-895→SD-738となる。位置をあまり変えない、埋没途中の掘り直しは何度か成されたようであり、そのたびにきれいなレンズ状の自然堆積層を示す。断面B－B'のラインで確認した突起状の張り出しは、SD-725を南東から北西に渡るように形成された、通路状の施設に伴う掘方の一部と思われる。 この南壁から南西方向に延びる部分は連続したピット状の掘り込みを底面に有する小規模の溝状張り出し部で、本体と埋没の時期が一緒であることが確認できた。この部分に対応して北壁側に見られるのは浅い楕円形の土坑状の掘方で、かなり北東方向に曲がって張り出す。この南北両壁側への張り出し部分をつなぐように、溝底面には細長い楕円状の掘方が見られる。この掘方の特徴はB区に続くSD-305の持つ底面掘方と同じである。古代に属する。	須恵器(蓋・坏・高台付坏・高台付埦・甕)、土師器(坏・埦・甕)、土師質土器(内耳土器)、陶磁器(碗・小坏類・仏飯器)、土製品(羽口)
SD - 730	D区ウ-17～カ-18	68～120	14～26	古代の遺物が多く出土する溝状遺構。SB-853・854の柱穴に切られる。SK-731、SD-749・750より古い。SD-739との新旧関係不明。底面には埦状の窪みが二列分認められ、壁は緩やかに立ち上がる。覆土からは観察できなかったが、一回以上の掘り直しがあったか。D区の調査区内ではB-1区側の溝の端部が自然消滅して確認できないが、掘方の類似性から、B-1区のSD-306より続く溝状遺構の可能性がある。古代に属する。	須恵器(坏)、土師器(坏・甕)
SD - 746	D区キ-20～ク-20	700	20～48	だらだらと壁が立ち上がる、断面浅い皿状の溝。底面は丸みを持つ。一回以上の掘り直しがある。底面に礫が多く検出し、溝は水流を伴う自然堆積で埋没している。SD-747とした北壁の一部に張り出した部分は、本遺構に伴う通路状施設の一部であろうか。この底面にも礫を多く検出した。SD-746は狭い範囲での確認に留まったが、掘方の形状や通路状の施設を持つことなどから、B区のSD-305と同様な性格を持つ溝か。古代に属する。	須恵器(坏・瓶・甕)、土師器(坏・甕)、土師質土器(内耳土器)、陶磁器(碗・鉢・甕)、瓦(平瓦)
SD - 747	D区キ-20	80～110	5～12	SD-746北壁の一部に幅1m弱、長さ1m60cm程度の規模で張り出した部分をSD-747とした。SD-746に伴う通路状施設の一部であろうか。底面に礫を多く検出している。ここが路床とすると人為的に敷き詰めたものか。礫に混じって須恵器甕の破片を出土する。極浅い掘り込みだが、底面は溝に向かって北から南に緩やかに下がる。古代に属する。	須恵器(甕)
SD - 850	D区ウ-17～エ-18	—	—	D区の溝状遺構集中地区から検出した。この集中区に連なる溝群に切られる古代の遺構で、古墳時代後期の土坑であるSK-840を壊す。C区のSD-305のような通路状施設を持つ溝状遺構と思われる。調査時にSX-755・832とした部分も、この通路状施設の一部分であろう。通路状施設を構成するピット列や土坑状凹凸面の並びは、僅かに東に振れる北方向から南に向かって下がっていくので、こちらに溝の本体があったと思われる。重複する遺構では前述のSK-840より新しく、SD-750・836・837・843・846・848より古い。堆積の観察状況は土層観察表に詳しく記した。古代に属する。	土師器(坏)、陶磁器(碗)

遺構番号	区・ｸﾞﾘｯﾄﾞ	幅(cm)	深さ(cm)	備　　考	出土遺物(不掲載破片含む)
SD - 894	D区 キ-19 ～ オ-19	92	44	SD-725が埋没して完全に使われなくなった時期に、同様な地割りに基づいて掘られた溝と思われる。SD-725のほぼ中央を通る。D調査区東端直前で南東方向にカーブした先が確認できない。SD-895より新しい。断面の形状は緩く開く逆台形で、西側の壁画東側に比べ立ち上がりの角度がよりなだらかである。底面のレベルは、先行するSD-725より僅かに高い。覆土は自然に堆積した様子を示す。古代の溝であるSD-725を掘り込んで作られているため、覆土中より出土する土師器の坏等は流入の可能性もあるが、時期的に大きな差はないと思われる。古代に属する。	須恵器(蓋・坏・甕)、土師器(蓋・坏・甕)、土師質土器(内耳土器)
SD - 895	D区 キ-18 ～ オ-19			SD-725は西側に位置をずらして掘り直されており、これをSD-895とした。自然堆積で埋没している。SD-725・738・894・895との新旧関係は古い順に、SD-725→SD-895→SD-894、SD-895→SD-738となる。古代に属する。	須恵器(坏)、土師器(坏・甕)、
SD - 2002	G-1・2区 ミ-51 ～ へ-58	152 ～	18 ～ 70	G-1調査区の南東面に沿って検出し、北東部に西から東に向かって溝本体に連なる通路状施設が伴う。遺構の本体は調査区外へ続き、全体の規模が確認できなかった(G-1区とG-2区間の調査区外は移築の遅れたG-2区を占める民家の生活道として機能を保つため、調査が望めなかった)が、SD-2002の通路状施設に対応する部分が最終年度に調査を行ったG-2区北西端より検出した。このような通路状施設を合わせ持つ溝状遺構はほかに、Ｂ-1区のSD-305、D区のSD-850、F-2区のSD-2106があり、遺物の出土の特徴や堆積の状況など共通点が多い。重複する遺構に、SE-2020、SK-2017、SX-2019があり、SE-2020、SK-2017より古い。SX-2019は土層の断面観察から見るとSD-2002より古い掘り込みとなるが、形状から本遺構に伴った施設の一部を形成していた可能性も考えられる。古代に属する。	灰釉陶器(壺・瓶)、須恵器(蓋・坏・高台付坏・高台付盤・瓶・壺・短頸壺・高台付壺・甕・鉢)、土師器(坏・高台付埦・瓶・甕)、瓦(丸瓦・平瓦)、石製品(砥石)、石器(磨石)
SD - 2106	F-2区 フ-43 ～ ホ-46	～ [392]	21 ～ 58	Ｆ-2の北東隅より検出し、遺構の北側は調査区外へ続く。G-1・3区より検出した、通路状施設を併設する溝状遺構であるSD-2002と同様の遺構と思われる。類似遺構はほかに、Ｂ-1区のSD-305、D区のSD-850がある。確認できた溝状掘方の南壁側に、南南西から北北東に向かって延びる浅い楕円形土坑状の掘方列が取り付く。この土坑状掘方列の周囲に連なる単独の掘方列(調査時はピット状遺構として個々に発番した)も、SD-2106に関連した同様な性格の施設を形成するものと思われる。SI-2118、SD-1120・1660, SX-2405と重複し、SI-2118より新しく、SD-1120・1660、SX-2405より古い。SD-2107は直接的なSD-2106との切り合い関係は観察できなかったが、形状からSD-2106と関係する掘方である可能性が高い。古代に属する。	須恵器(蓋・坏・壺・甑・甕)、土師器(坏・高台付埦・甕・高台付小型甕)、土師質土器(火鉢)、陶器(皿・灯明受皿・碗)、磁器(碗)、瓦(平瓦)、石製品(砥石)、石器(磨石)、SD-2107と共通して土師器(甕)、陶器(碗)、S-2118と共通して須恵器(蓋・坏・甕)、土師器(坏・埦・壺・甕)、S-2405と共通して須恵器(甕)、土師器(坏・甕)、土師質土器(焙烙)、磁器(碗)
SD - 2107	F-2区 フ-43 ～ フ-44	108 ～	8 ～ 20	SD-2106の西側に位置する溝状遺構。単独で展開せず、SD-2106に付随する溝状の掘方と思われる。重複する遺構ではSI-2118より新しく、SD-1120・1220、SX-2405より古い。断面は浅い皿状で、西側にずれて一回以上掘り直されているようである。SI-2118と重複するあたりで、SD-2106の南西に張り出した浅い掘り込み部と合流する。覆土は砂質で鉄分が多く酸化する。古代に属する。	須恵器(蓋・坏・瓶・甕)、土師器(坏・高台付坏・高台付埦・甕)、土製品(支柱)、SD-1120と共通して土師器(坏・高台付坏・埦・高台付埦)、SD-2106と共通して土師器(甕)、陶器(碗)

２．中世以降

遺構番号	区・ｸﾞﾘｯﾄﾞ	幅(cm)	深さ(cm)	備　　考	出土遺物
SD - 122	B-3区 イ-11 ～ オ-13	148 ～ 210	28 ～ 42	西側は調査区外に延びる。SE-428、SK-125・427、SZ-120・124と重複し、SZ-120・124より新しく、SE-428、SK-125より古い。SK-427との新旧関係不明。SZ-120と切り合う部分の形状確認が曖昧であるが、この直前で緩くカーブするように北東方向へ曲がり、また戻るようである。SK-125と重複する辺りより、覆土の特徴が変わるためSD-151発番で別遺構とされている。 SD-122の覆土は記録された分層図を見ると、幾種かの土が乱れて入り、人為的な埋土と思われるが、SZ-120と重複するあたりについては、下部に縞状堆積の砂層がみられ、流水下の自然堆積を示すようである。中世から近世の遺物が出土する。時期的には近世か。	須恵器(甕)、土師器(坏・甕)、土師質土器(焙烙・内耳土器・火鉢)、陶器(碗)、磁器(小碗・皿類)、陶磁器(碗・擂鉢)、石製品(砥石)・石器（打製石斧)

遺構番号	区・ｸﾞﾘｯﾄﾞ	幅(cm)	深さ(cm)	備　　考	出土遺物(不掲載破片含む)
SD－150	B-2区キ-15～カ-16	112～152	30～40	堆積の様子と掘り上がりの形状から、南に僅かにずれて一回以上の掘り返しが行われたようである。壁は比較的平らな緩傾斜をとり、北側より南側がより緩やかである。底面に近い位置から出土した磁器の碗から、近世の溝とした。同時期のSD-151の溝と、SD-340と発番した溝状部分により連結する。この連結部分から南東方向に屈曲し、現代の用水路に消える。 この現代の用水路は近世から続くものと思われ、当時もここに流れ込むことで溝が完結していたと思われる。西側はB区とD区境の調査区外（現代の用水路が通る）に延びる。この延長上のD区に同じ方向性を持つSD-751がある。SD-751は中・近世に属する溝であり、位置的にはSD-150から繋がるように見えるが、覆土の特徴が全く異なるため、別遺構と思われる。近世の溝か。	磁器(碗)　須恵器(坏)・土師質土器(焙烙)、陶磁器(碗)
SD－151	B-2区オ-13～キ-15	150～300	36～42	SK-125、SZ-120・124と重複し、SZ-120・124より新しく、SK-125より古い。覆土の違いなどから別発番で調査したSD-122は、本遺構と一連の溝とするのが適当であろう。SD-151とした範囲からは2～10㎝大の礫が底面上に多く見られた。礫は覆土中位や上位、確認面からも検出する。近世の陶磁器ほか、砥石が多く出土している。近世の溝か。	土師器(高台付椀)、土師質土器(内耳土器・焙烙)、陶器(碗・小碗・徳利・香炉)、磁器(碗・小碗、皿)、陶磁器(碗・擂鉢・徳利)、石製品(砥石)
SD－154	B-2区オ-13～カ-15	36～84	10～30	SK-160・171・198・300・342・387、SD-155・167と重複する。SK-160・198・300・342・387より新しく、SK-171より古い。SD-167との新旧関係は不明である。直交して切り合うSD-155との新旧関係を見る断層観察はないが、SD-154の覆土中に見られる礫の混入がSD-155との切り合い部分で途切れていないため、本遺構は少なくともSD-155と同時か後に埋没したものと判断できる。東側にSD-166が平行して走る。壁の立ち上がりは、やや北壁の方が急で南壁の方が緩やかで、下端のフラット面は僅かである。 断面形は逆台形となるが一部Y字状に近いところもある。北側は溝幅が徐々に狭く、かつ浅くなり終焉する。特徴的なのは、溝の底面から上に5～10㎝程度のレベルで、5～20㎝大の円礫が溝の中央部分から集中して検出していることで、この特徴はSD-155・166には見られない。礫は自然礫で、被熱痕や二次的な加工は見られない。近世の溝か。	土師器(坏・皿)、土師質土器(内耳土器)、陶磁器(碗)、石製品(砥石)、石器(敲石)
SD－155	B-2区カ-14～オ-15	56～108	20～44	SE-163・318、SK-300、SD-154・166と重複する。SK-300より新しい。並列するSD-154・166とは直交する方向に横切る形で切り合うが、この部分の観察が無いため新旧関係不明。SD-154とは、前述の理由からSD-155が古いものと捉えている。SE-163は本遺構より古い井戸である。SE-318は、当初、SD-155とSD-164の連結部の掘方と思われたが、溝より深く掘り下げられ井戸となったので、別遺構となった。切り合い部の断層観察ができなかったため、井戸と溝の新旧関係は不明であるが、位置的に見て、溝の利用に伴った同時開口の井戸とするのが適当であろうか。このSE-318を境に南東方向に直角に折れて続く部分をSD-164とした。南西側が調査区との境で途切れる。底面のレベルはSE-318の西から徐々に低くなっていき、調査区の端で約10㎝程度下がる。近世の溝か。	陶器(碗)
SD－164	B-2区カ-14	45～52	8	SD-155から直角に南東に曲がった部分をSD-164とした。重複するSE-318とは同時開口か。浅い皿状の断面を呈す。底からなだらかな壁を経て上端に至る。覆土中に5～6㎝大の自然礫が若干混入している。	
SD－166	B-2区オ-13～カ-14	55～76	11～32	SD-154と平行して走る溝。非常に浅く、確認面では一部途切れるが同一の溝と判断した。SK-157・159・170・171・182・324・405、SD-155・167と重複する。SK-324との新旧関係は確認できていないが、当初の平面観察では、溝が土坑に先行するものとしている。SD-155とは直交する形で交わるが、両者の新旧関係は不明である。SD-167との新旧関係も不明である。残りの他の重複遺構よりは古くなる。断面形は逆台形状で、壁に若干凹凸あり。深さは東西間で一定。形態も南東側はやや浅くなるが東西間で同様。全体を通して底はフラット面を持つが、中心部分が僅かに下がる。覆土中より部分的に礫検出。	
SD－167	B-2区オ-14	64	16	SD-167・S-316・317と重複する。当初SD-167の溝が明瞭で、S-316・317は確認されなかった。S-182～154の通しセクションでいくつかの遺構があることが分かり、その後の掘り下げで溝とピット2基の重複と判断。但し、この両ピットと本遺構との新旧関係は不明である。平行して確認されたSD-154・166を結ぶような位置に検出し、SD-155とは走る軸方向が同じである。SD-154・166との新旧関係は確認できていない。	

遺構番号	区・ｸﾞﾘｯﾄﾞ	幅 (cm)	深さ (cm)	備　　考	出　土　遺　物 (不掲載破片含む)
SD - 188	B-1区 コ-14 ～ ケ-15	40 ～ 120	24	近世の大溝であるSD-308の西側から延びる浅い溝。断面皿状で、壁は緩やかに立ち上がる。下層は自然堆積で上部は人為的な埋め戻し土である。SD-308の最終的な掘り返し溝に取り付く分水溝か。南に近接するSD-327・328も同様な性格が考えられる。SD-308のカーブ手前から南西に延びるが、南西側は浅くなり調査区の確認面では自然消滅している。	施釉陶器、土師質土器(内耳土器)
SD - 191	B-1区 シ-13 ～ サ-15	96 ～ 136	16 ～ 20	近世の大溝であるSD-308の東に、概ね同じ軸方向で走る溝。底面に平坦面を持ち、壁は緩やかに立ち上がる。深さは浅いが、北から南にまっすぐ延びた後、南東方向に緩くカーブした時点で調査区外（現代も使用している大形の用水路が走る）に消える。このカーブはSD-308と共通する。直線部分では、僅かに西にずれた位置に一回以上の掘り直しを行っている。埋土は、自然堆積で比較的時間をかけて埋まったと思われる土で、部分的に強く酸化しており、水の影響が窺える。SD-308と時期が近い近世の溝と思われる。	須恵器(坏)
SD - 264	C-3区 ソ-25 ～ ソ-26	66 ～ 82	14	SD-265・266と接近して平行に走るごく浅い溝。強く削平される北西部と南東部は消滅している。SD-264・265・266の覆土はそれぞれ類似している。断面形は、底面にフラットな面を持つ逆台形。近世以降のものか。	土師器(坏・甕)
SD - 265	C-3区 ソ-25 ～ タ-26	100 ～ 132	30	SD-265・266と接近して平行に走る溝。重複するSI-262より新しい。強く削平される北西部と南東部は消滅している。SD-264・265・266の覆土は類似している。断面は、底面にフラットな面を持たない広く開くV字状を呈す。近世以降のものか。	
SD - 266	C-3区 ソ-25 ～ タ-25	42 ～ 58	28	SD-265・266と接近して平行に走る。SI-262の南部を壊す溝。強く削平される北西部と南東部は消滅している。SD-270を切る。断面形は、SD-264と264の中間形。底面に僅かなフラット面を持ち、壁は緩やかに立ち上がる。SD-264・265・266の覆土は類似する。近世から近代のものか。	
SD - 270	C-3区 タ-24 ～ ソ-25	20 ～ 72	12	南西に行くに従い幅は広くなるが、極浅い掘り込み。SI-262・263・267を壊す新しい溝。SI-267の北3mほどの位置で不明瞭になり消滅する。南西部はSD-266に壊される。近代の溝か。	
SD - 308	B-1区 サ-12 ～ コ-16	432 ～ 992	66 ～ 100	B調査区の東端に位置する、もっとも広い幅を持つところで10m近くなる大型の溝状遺構。重複するSD-305より新しい。調査の進行状態と土量の多さから、すべての覆土を除去することは困難であったので、上端の平面確認を行った後、2m幅で覆土の掘り込みを行い、溝の掘方と土層の断面観察を行った。最低3回以上の掘り直しがなされており、一度目の掘り直しは、底面を元の溝の底面レベルよりやや浅くなる高さで、溝の東側の部分にずれて作出している。 最初に掘られた溝は、底面が広い平坦面を持ち、まっすぐに延びる部分では、壁は比較的急に立ち上がるが、カーブ部分に近い部分では緩やかに立ち上がっている。2度目以降の掘り直しは、溝の中心から西側へずれて浅くなっていくようである。それぞれの時期の底面近くの覆土には水の影響による強い変化が見られ、流水・滞水を伴った溝であることがわかる。覆土の様子は別記土層注記表に詳しい。近世の溝。	須恵器(甕)、土師質土器(内耳土器・焙烙)、陶器(碗類・鉢・擂鉢)、磁器(碗・小碗)、石製品(砥石)
SD - 312	B-1区 サ-15			SD-312はSD-308の掘り直しの可能性有り。SD-308の堆積が進んでから、溝としての機能を続けるため、部分的に浅い掘り返しを行ったSD-308の掘り直しの一つか。あ層とした覆土はこの部分の埋没土(自然流堆積と思われる砂質土)。あ'層は底面の酸化ロームが崩れて入る。ローム、砂粒はうすく流れるように入る。あ層が堆積した後、埋没の途中だった低いところにSD-308の1層や2層に代表されるロームブロックの多く入った一括土が埋められ、埋没が完了する。	須恵器(甕)、土師器(甕)、陶磁器(碗)
SD - 327	B-1区 ケ-15 ～ コ-15	64 ～ 120	12	覆土の観察図がないが、取り付くように位置するSD-308の最終的な堆積土と類似する土であった。北に近接するSD-188同様、近世の大溝であるSD-308を本体として取り付く分水溝か。底面は平坦で、壁は比較的まっすぐに立ち上がる。SD-308のカーブ部分から西に延びるが、西側は浅くなり調査区の確認面では自然消滅している。	

遺構番号	区・ｸﾞﾘｯﾄﾞ	幅(cm)	深さ(cm)	備　　考	出土遺物(不掲載破片含む)
SD - 328	B-1区ケ-15～ケ-16	36～56	16	覆土の観察図がないが、取り付くように位置するSD-308の最終的な堆積土と類似する土であった。北に近接するSD-188同様、近世の大溝であるSD-308を本体として取り付く分水溝か。底面は僅かな平坦面を持ち、壁は開いて立ち上がる。SD-308のカーブ部分から南西に延びるが、南西側は浅くなり調査区の確認面では自然消滅している。	
SD - 340	B-2区キ-15	38	26	SD-150と151をつなぐような溝。 底面レベルもおおよそ両遺構と同じ。 SD-151の調査時にこの部分で壁が出なかったことから 、平坦面を精査し確認した。 壁は下位から中位まで概ね垂直に立ち上がり、中位から上位にかけて緩やかな角度で開く。底面おおよそ平坦で、一部礫あり。	
SD - 738	D区キ-18～ク-20	82～	32～52	現代の用水堀に平行する。近世～近代の溝と思われる、灰味の色調が強い覆土を持つ。溝が使用されなくなった後に自然に埋没した土。①層においては、②～③層の覆土を持つ溝と掘り返された二つの溝の廃棄後の凹みに自然に入った土。SD-895より後世に掘られた溝。	土師器(甕)
SD - 745	D区エ-16～ウ-17	34～54	8～18	D区の溝状遺構集中地区から検出した細く浅い溝。並行するSD-751よりやや幅広。南西部でSD-751と合流する。SD-834より新しい。北側に直交して重複するSK-806は本遺構より古い土坑である。中～近世に属する溝か。	陶器(碗)
SD - 749	D区ウ-17～ウ-18	72～80	24	SD-730より新しく、SK-748より古い。SK-731との新旧関係不明。西側でSD-750に合流する。東壁がSK-731と重なる辺りで立ち上がるため、細長い土坑である可能性もある。	
SD - 750	D区エ-16～ウ-18	52～110	28～50	北東から南西に直線的に延び、ほぼ100°の角度で南東へ屈曲する溝。D区の溝状遺構集中地区から検出した。南側は調査区外へ続く。重複するSD-730・850より新しく、SD-836・846より古い。SD-751とは北東部分で並行して走る。底部はやや丸みを持ち、壁は底部から中位までは急角度で、底から上位は大きく開いて立ち上がる薬研堀に近い形。出土する古代の遺物は重複する古代の溝状遺構であるSD-850からの流入であろう。中～近世に属する溝か。	須恵器(蓋)、土師器(坏・小型坏)、土師質土器(内耳土器)、陶磁器(碗)
SD - 751	D区オ-16～ウ-17	32～50	12～14	D区の溝状遺構集中地区から検出。細く浅い溝。SD-50と一部接しながらほぼ並行して南西方向に延びる。北西に同じように並行するSD-745がある。SD-751はこのSD-745と合流し南西方向に延びていくが、この合流部分より先をSD-829として扱っている。合流部分の東手前において、SD-751は両側に並行するSD-750と745に連結するような枝分かれ状の掘方を持つ。SD-745と同様に中世から近世にかけての溝と思われる。	土師器(皿)、土師質土器(内耳土器)、陶磁器(碗)
SD - 771	D区ア-15～イ-17	70～176	20～34	D区の溝状遺構集中地区から検出した。北西方向から南東方向に延び、古墳時代の方形周溝遺構であるSZ-777を切る。溝の北西部はSD-828に切られ、南東部は途中で幅が広がり北東方向へ曲がった時点で、SD-830に繋がる。SD-773より古い溝か。西側が一回以上掘り直されている可能性がある。底面は平坦部を持たず、壁は緩やかに立ち上がる。古代以前の土器は混入品。中～近世に属する溝か。	土師器(甕)、土師質土器(鉢)、陶磁器(鉢)
SD - 772	D区ア-15～イ-16	56～132	20～25	D区の溝状遺構集中地区から検出した。北西方向から南東方向に延びる溝。古墳時代の方形周溝遺構であるSZ-777を壊している。溝の北西部はSD-828に切られ、南東部は北方向にやや屈曲して自然に消滅する。底面はやや丸みを持ち、壁は西側はやや急角度で、東側は緩やかに立ち上がる。自然堆積で埋没する。下層から出土する遺物から判断して、中世以降の溝と思われる。古代の遺物は混入品であろう。	土師器(甕)、陶磁器(碗)
SD - 773	D区ア-16～イ-17	72～132	24	D区の溝状遺構集中地区から検出した。北西方向から南東方向に延びる溝。北西部は丸みを持って自然に立ち上がり終焉している。南東部は北方向にやや屈曲しSD-771と重複する辺りで細く閉じる。SD-771より新しいものか。SX-835より新しく、S-857より古い。一回以上の掘り直しが認められる。	土師器(坏)
SD - 782A	D区ン-16～ア-17	128～	38～80	西にずれた位置に、最低一回の掘り直しを行っている。掘り直した新しい溝をSD-782A、掘り直す前の古い溝をSD-782Bとした。SD-782Aの底面はSD-782Bの底面より僅かに深く掘られている。SD-782Aは覆土の観察によると、水が流れた感じの堆積ではない。溝の底部を2回掘り返して溝をきれいにしている。1回目は9～6層の堆積の後で、2回目は4層の堆積の後である。	土師器(皿・甕)、土師質土器(内耳土器)、陶器(小碗・徳利)、磁器(皿)、陶磁器(碗・擂鉢)、石製品(砥石)

遺構番号	区・ｸﾞﾘｯﾄﾞ	幅(cm)	深さ(cm)	備考	出土遺物(不掲載破片含む)
782B		[95]～	38～72	SD-782Bについても下層に流水の形跡はみられない。SD-782Bの⑧層はやや一括埋土の感もあるがそれ以外は自然堆積と思われる。新しく掘り返した782Aの断面の形状は、底部に平坦面を持たないV字状で、西壁に比べ東壁が大きく開き緩やかに立ち上がる。古い782Bの断面の形状は、底部に僅かな平坦面が見られるものの、基本的にはV字形を呈し、壁は緩やかに立ち上がる。掘方の形状と出土遺物から、近世の溝か。	
SD - 807	D区ア-14～ア-15	50～110	14～24	D区の溝状遺構集中地区から検出した。SZ-777、SX-808を切り、SD-827・828に切られる。西側は調査区外へ延びる。SD-828に重複する部分から南はSD-771に繋がる。自然堆積。中～近世に属する溝か。	陶磁器
SD - 827	D区ア-14～ア-15			D区の溝状遺構集中地区から検出した。SD-807より新しく、SD-828より古い。SX-808を壊す。遺構のほとんどが西側の調査区外へ続く。一回以上の掘り直しの可能性がある。水の流れを伴った溝と思われ、自然堆積で埋没している。	
SD - 828	D区ア-15	104～210	11～30	D区の溝状遺構集中地区から検出した。SD-807・827より新しい溝状遺構で、SD-771・772の北西部を壊し、古墳時代の方形周溝遺構であるSZ-777の北西隅を切る。遺構のほとんどが西側の調査区外へ続く。東側はSZ-777を壊す辺りで確認できなくなっている。自然堆積。	
SD - 829	D区ウ-17	44	20	D区の溝状遺構集中地区から検出した。SD-745から繋がる細い溝で、SD-751・834を切る。底面に平坦部を持たず、断面は広く開いたU字形を呈する。中～近世に属する溝か。	
SD - 830	D区イ-16～ウ-17	76～110	28～56	D区の溝状遺構集中地区から検出した。SK-835・856より新しく、S-858より古い。底面はあまり平坦面を持たず、壁は南側が北側より急な角度を持って立ち上がる。最低一回以上の掘り直しが認められる。覆土はすべて自然堆積。	
SD - 834	D区イ-17～ウ-17	70～74	28～37	D区の溝状遺構集中地区から検出した。SD-745・829より古く、SD-871、SX-835より新しい。西側は調査区外へ続く。底面は丸く平坦面を持たない形状。壁は開いて立ち上がる。一回以上の掘り返しがあるか。中～近世に属する溝か。	土師質土器、陶磁器(碗・鉢)
SD - 836	D区ウ-18	100～110	29	D区の溝状遺構集中地区から検出した。南側は調査区外へ続く。SD-846と北側が重複するが、新旧関係不明。SD-750・837・850より新しい。SD-750・837と並行して走る。底面一部に礫だまりが見られる。断面形は底面にやや丸みを持つ逆台形で、壁は緩やかに立ち上がる。自然堆積で埋没した溝。検出した古代の土器は、重複する古代の溝からの流入と思われる。中～近世に属する溝か。	土師器(坏・甕)、陶磁器(碗)
SD - 837	D区ウ-18	50～60	20～24	D区の溝状遺構集中地区から検出した。南側は調査区外に続く。SD-846・850より新しく、SD-836より古い。北側はSD-846に切られる。SD-750・836の西側に並行して走る。底面に丸みのある平坦面を持ち、壁は緩やかに立ち上がる。短期の自然堆積で埋没した溝。断面の形状や堆積の様子は、SD-836と似ている。検出した古代の土器は、重複する古代の溝からの流入と思われる。中～近世に属する溝か。	土師器(甕)
SD - 846	D区ウ-17～ウ-18	40～100	26～30	D区の溝状遺構集中地区から検出する。SD-750・850より新しく、SD-837より古い溝。SD-750の南西部と接して5mほど走り、ほぼ90°の角度で南西方向へカーブする。当初、SD-836と連続する溝として調査したが底面の連続性が途中の屈曲部から僅かに変化するので、別発番とした。両者の新旧関係は不明である。屈曲部のコーナー底面に見られる礫の堆積は、SD-836と類似する。近世の溝か。	土師器(坏・甕)、土師質土器(火鉢・焙烙)、磁器(碗)
SD - 848	D区ウ-17～ウ-18	52～74	28	D区の溝状遺構集中地区から検出した。SD-847・850より新しい。西側はSD-839・843と重複する。明確な新旧関係不明だが、SD-839・843が新しいと思われる。東側は自然に消滅する。一度の掘り返しの形跡が認められる。覆土には酸化などの水の影響は見られない。底面に平坦面を持ち、壁は中位までやや急に立ち上がり、中位から上位にかけて緩やかに立ち上がる。中～近世に属する溝か。	

遺構番号	区・ｸﾞﾘｯﾄﾞ	幅 (cm)	深さ (cm)	備　　考	出土遺物（不掲載破片含む）
SD - 859	D区 イ-14 ～ ウ-14	62 ～ 76	32	SX-900と重複するが、この部分について切り合いの観察が出来なかったため、遺構の新旧関係は不明である。また、重複はしないが、東壁の一部がSK-851の西壁の立ち上がりと接する。断面形は底部に平坦面を持たないV字状で、壁が開く角度は、低位から中位までの角度より中位から上位の角度が大きく開く。西側の壁の立ち上がりの途中に僅かだが平坦面が見られる。北西の端部は丸く立ち上がる。SD-859と890は直交する方向で存在し、共通する地割りのもとに掘削された溝状遺構と想像され、時期的に近い遺構と思われる。近世の溝か。	
SD - 890	D区 ウ-13 ～ ウ-14	64 ～ 154	18 ～ 50	SD-891と重複する。両者の切り合いを観察した部分では壁の立ち上がり部分が接するのみであったため新旧の明確な確認が出来なかった。南西に位置するSK-889とも壁の立ち上がりが接するに留まる。底部はあまり整わない平坦面を持ち、壁は中位まで緩やかに立ち上がる。中位からは一度平坦に近い段を持ち、更に大きく緩やかな傾斜で立ち上がっている。この特徴は東側より西側が顕著である。溝は西側の端部に直径64×84㎝の楕円形の落ち込みを持って終わる。SD-859と890は直交する方向で存在し、共通する地割りのもとに掘削された溝状遺構と想像され、時期的に近い遺構と思われる。近世の溝か。	陶器(甕類)
SD - 891	D区 ウ-13 ～ ウ-14	118	24	SD-890と重複するが、新旧関係は不明である。底面は概ねフラットで、壁は東側より西側がより緩やかに立ち上がる。近世の溝か。	
SD - 1101	E区 ナ-36 ～ ヌ-36	134 ～	16 ～ 32	トレンチ調査で遺構が検出した範囲のみ調査したE区の南端より検出した溝状遺構。後世の攪乱が強く入る区域で、部分的な調査となった。SK-1117と重複し、これより新しい。自然堆積で埋没している。近世以降のものと思われる。	
SD - 1120	F-1・2区 ニ-43 ～ ノ-49	390 ～ 620	128 ～ 188	近世の大溝。年度を変えF-1区とF-2区に分けて調査した。F-1区のSK-1121・1140・1365、F-2区のSI-2118、SD-2106・2107と重複し、これらより新しい。クランク部を持つコの字形の溝で、西側は両端とも調査区外へ延びる。幅は確認面で最大6mを超え、深さはもっとも深い地点で2mに近い。中位までは数度の掘り直し(最低3回以上)を伴う自然堆積の連続だが、中位～上位の1mほどは単層で一気に埋め戻されている。ある時期を境に溝が完全に使用されなくなったようである。図示した土師器・須恵器はこの一括埋土部分から出土したもので、古代の遺構からの流入であろう。F-1調査区は土取りのため黒色土がすべてはぎとられており、ローム面が露出した状態であったが、SD-1120の覆土に古代の遺物が混入することから、この削平された部分に古代の遺構が存在した可能性が伺われる。中位以下の自然堆積土中から出土した遺物は、溝の年代に伴う土師質土器や陶磁器の他、多数の木製品が出土している。低位は覆土の保水力が高く、木製品の遺存状態が良好であった。	須恵器(蓋・坏・高台付坏・甕、円面硯)、土師器(坏・高台付坏・高台付小型坏・甑・甕)、土師質土器(皿・擂鉢・火鉢・焙烙・内耳土器)、瓦質土器(擂鉢)、陶器(碗・皿・鉢・甕)、土製品(沈子)、石製品(硯・砥石・茶臼・石臼)、石造物(五輪塔)、石器(打製石斧)、木製品(漆椀・下駄・薦(菰)槌・曲物・杭)、SD-2107と共通して土師器(坏・高台付坏・椀・高台付椀)、SK-1365と共通して須恵器(坏)、土師器(坏・甕)
SD - 1400	F-3区 ヘ-47 ～ ヒ-52	235 ～ 334	70 ～ 124	北北東方向から南南西方向へ延びる溝。北側の溝の始まりはSD-1660の端部から繋がり、南側は調査区外へ続く。東側にSD-2104が極接近して同方向に走る。同じF-2区のSD-1402・1403・1404・1405・1406・2101・2102とも方向性を同じくする。重複するSI-2414、SK-1520・2423、SD-2104より新しい。SD-1660との関係は、当初同一の溝として扱っていたので連結部の覆土の変化がみれなかったが、底面のレベルと掘方からは溝として連続する機能を有することが可能であろう。SD-1400の存在をふまえて、SD-1660の溝を掘り加え(掘り直し)たのか、またその逆かは不明である。覆土は自然堆積で、3回以上の掘り直しが想像される。この掘り直しは、最初の溝の規模内に収まる範囲で行われ、幅・深さとも、徐々に小規模になっていくようである。それぞれの段階で、溜水を伴って溝が使用されていた痕跡が伺える。中～近世に属する溝か。	灰釉陶器(高台付椀・壺)、須恵器(蓋・坏・高台付坏・高台付椀・高台付壺・瓶・甕・鉢)、土師器(蓋・坏・高台付坏・甕)、土師質土器(皿・擂鉢・内耳土器、焙烙)、陶器、磁器(碗)、石製品(硯・砥石・石臼)、石造物(五輪塔・石塔)、石器(敲石)、SD-1401と共通して施釉陶器(碗)、灰釉陶器(壺)、須恵器(坏・甕)、土師器(坏・甕)、土師質土器(皿・焙烙)、陶器(甕)

遺構番号	区・ｸﾞﾘｯﾄﾞ	幅(cm)	深さ(cm)	備　　考	出土遺物（不掲載破片含む）
SD - 1402	F-2区 ホ-46 ～ ヒ-52	390 ～ 460	76 ～ 118	SD-1402は東側に僅かに位置をずらしながら、最低4回以上掘り直され使用されたようである。この4時期を新しい順からA期→B期→C期→D期とした。D期の溝は最も西側に痕跡が残り、覆土に先行する古代の遺構の流入が見られる。底面の堆積状況からは水の影響がみられない。次いでC期は、底面で東に1m強移動した位置に倍以上の深さで規模を大きく変えて掘り込んでいる。しっかりした幅広の平坦な底面を持ち、逆台形に開いた壁が真っ直ぐ立ち上がる。このC期に掘られたと思われる溝の壁からトンネル状の遺構（SX-2134）が西方向に延び、西に走るSD-1660とを繋いでいる（詳細はSX-2134の項参照）。 トンネル状遺構が閉口し、C期の溝の埋没がある程度進行した段階で、溝の中心軸を変えないままやや浅く掘り直したものがB期の溝になる。最終段階のA期は更に浅くなり、B期の東壁をほぼ共有する位置で、西側をやや狭めている。規模は確認できた範囲で計測すると、A：幅230～340㎝、深さ50～90㎝。B：幅280～440㎝、深さ65～92㎝。C：幅190～220㎝、深さ76～118㎝、D：幅128～192㎝、深さ50～64㎝。東に重なりながら並行に隣接するSD-1403は、このD期からA期の推移上に位置するので、掘り直しの変遷の最終段階である可能性もある。他に重複する遺構では、SI-2116より新しく、SK-1412より古い。底面より検出したSK-1588は掘方の一部である可能性がある。中～近世に属する溝か。	施釉陶器(壺・甕・把手付中空円面硯）、須恵器(蓋・坏・瓶・甕・擂鉢)、土師器(坏・甕)、土師質土器(皿・甑・擂鉢・火鉢・内耳土器・焙烙・香炉)、瓦質土器(鉢)、陶器(碗・皿・鉢・擂り鉢)、瓦、土製品(沈子)、石製品(硯・砥石・石臼・茶臼・石皿)、石造物(板碑・五輪塔)、石器(磨石・敲石)、礫(被熱自然礫・花崗岩)
SD - 1403	F-２・３区 ホ-47 ～ フ-52	140 ～ 230	20 ～ 64	同じF-2区のSD-1402・1404・1405・1406・2101・2102・2104と同じ方向に近接して走る。西側がSD-1402と重複しており、SD-1403の西壁上半部が、SD-1402東壁の上部を切る形になっている。東側はおよそ1m離れてSD-1404が並行する。SE-2126はSD-1403の底面調査中に検出した井戸跡だが、溝より古い遺構と思われる。ほかに重複するSI-2110・2111・2227、SE-2228、SK-2121より新しい。SD-1403の底面に平坦部はあまり見られず、東壁は緩やかに開いて立ち上がる。西壁は東壁と異なり、底面直上は東壁よりやや開いた角度で一旦立ち上がるが、そこからだらだらと非常に緩い傾斜で溝幅を広げながら、ほぼ平坦に近い状態で立ち上がっていく。水の影響が見られない覆土は、基本的に自然堆積で埋まっていくが、溝の機能が終了した後、残った溝の窪みは人為的に平坦に埋め戻されている。中～近世に属する溝か。	須恵器(蓋・坏・甕)、土師器(坏・甕)、土師質土器(皿・擂鉢・内耳土器・焙烙)、陶磁器(碗)、石製品(砥石・磨石)、礫(被熱)、SD-1404と共通して灰釉陶器(器種不明)、土師質土器(皿)
SD - 1404	F-3区 マ-47 ～ フ-52	96 ～ 142	36 ～ 80	北東方向から南西方向に真っ直ぐ延びる溝で、両側が調査区外へ続いている。重複するSI-2227、SK-2121より新しい。同じF-2区のSD-1402・1403・1405・1406・2101・2102・2104と同じ方向に近接して走る。溝の形状は底面は概ね平坦で、壁は底面から中位までは比較的急な角度で立ち上がり、中位から上位にかけては大きく開いて立ち上がる。確認した覆土の最上層は人為的な埋め戻しによるものと思われるが、以下の層は自然堆積と思われる。最下層は水が流れる溝の底面に溜まる自然堆積の泥土で、土の鉄分が酸化している。中～近世に属する溝か。	灰釉陶器(埦・瓶)、須恵器(坏・甕)、土師器(坏・甕)、土師質土器(坏・皿・内耳土器)、石製品(砥石)、SD-1403と共通して須恵器(蓋)、土師質土器(皿)
SD - 1405	F-3区 マ-48 ～ ヘ-52	160 ～ 204	54 ～ 100	SD-1406と重複しながら北東方向から南西方向に並行して走る。SD-1406の東に並列するSD-2101とも方向を同じくする。SD-1406の西半分を切るように掘られており、SD-1406の掘り直しの溝とも思われる。南北とも調査区外へ更に延びる。断面形は底面に平坦面を持たず、壁が大きく開いたV字状を呈する。平面的には確認出来ないが、土層の断面観察では、平坦に近い非常に緩やかな角度で広がっていく西側の立ち上がりを確認できる。覆土は自然堆積である。中～近世に属する溝か。	須恵器(坏・甕)、土師器(坏・甕)、土師質土器(擂鉢・焙烙)、SD-2101と共通して灰釉陶器(埦・瓶)、須恵器(蓋・坏・甕)、土師器(坏・甕)
SD - 1406	F-3区 マ-48 ～ ヘ-52	200 ～ 286	122 ～ 166	西側に本遺構を切る形でSD-1405が並行して、東側にはSD-2101が本遺構より新しい溝として走る。同じF-2区のSD-1402・1404・2102・2104も同じ北東方向から南西方向に延びる溝である。掘方の形状は、SD-1400・1402に近く、平坦な底面を持つ逆台形の溝である。底面には約4mおきに、隅丸方形状の一段下がった掘方が配される。東壁の上位から中位にかけて、足掛けピット状の掘り込みを多く持つ。中～近世に属する溝か。	灰釉陶器(瓶)、須恵器(蓋・坏・甕)、土師器(坏・甕)、土師質土器(皿・内耳土器)、陶磁器(碗)

遺構番号	区・ｸﾞﾘｯﾄﾞ	幅(cm)	深さ(cm)	備　　考	出土遺物(不掲載破片含む)
SD - 1660	F-２・３区へ-46～ハ-49	168～328	33～64	北東方向から南西方向に延びる溝で、途中南東方向へ屈曲する。この屈曲部から北に延びる部分をSD-2105とした。屈曲部から南東へ5mほど延びた時点で溝の底面掘方の連続性が一旦終焉するが、溝としての機能はここからSD-1400に繋がり連続するようである。このSD-1660の終焉部にあたる底面直上の壁からトンネル状の遺構が東方向に延び、東に走るSD-1402とを繋いでいる。この部分はSX-2134として別に詳しく調査を行った（詳細はSX-2134参照）。両方の溝からのトンネル部の掘り出しのレベルがほぼ同じ高さであることから、片方の溝からの排水を目的としたものではなく、双方の溝に溜まった水の同レベルでの共有を目的としたものである可能性が考えられ、このトンネル状遺構の存在によって、SD-1402とSD-1660は同時期に開口し機能していたものと推定できる。 SD-2104・2106より新しい。SD-1660本体は西方向へ最低三度の掘り返しがみられ、それぞれ溝の規模が異なる。新しい順からA→B→Cとすると、最終段階のAは断面形が、底面にやや丸みがある有段逆台形で、東側の壁は西側に比べ緩やかに立ち上がる。横に広いB期の溝より規模が小さくなる。C→Bへの変化はあまり観察できなかったが底面の状態からB期よりは小規模であったようである。C期は別遺構の可能性もあるが、溝の方向が同一のためSD-1660の掘り返しとして扱った。確認した規模は、A：幅50～64㎝、深さ30～64㎝。B：深さ44～60㎝。C：深さ50㎝。	須恵器(蓋・坏・甕)、土師器(坏・高台付坏・甕)、土師質土器(皿・甑・鉢・擂鉢・内耳土器・焙烙・香炉)、瓦質土器(鉢・火鉢)、陶器(碗・壺)、石製品(硯・砥石・石臼・石皿)、石造物(五輪塔)、石器(磨石・敲石)、礫(被熱)
SD - 2000	G-1･3区フ-53～ヒ-55	230～260	80～84	G-1区から3区にかけて検出した溝。北東から南西方向に延びる溝の一部を調査した。溝の延びる方向と位置はＦ-2区のSD-1406通じるものがあるが、底面からみた溝の規模が異なるので、別の溝とした。底面は整った平坦面を持ち、壁は逆台形に開いて立ち上がる。覆土は自然堆積による埋没で、底面近くには含水量の高い泥状の土が堆積し、溝が溜水とともに機能していたことが窺える。中～近世に属する溝か。	須恵器(坏・甕)、土師器(坏・甕)、土師質土器(内耳土器)
SD - 2001	G-1区へ-53～へ-54	70～80	26～44	北東から南西方向に並行して走るSD-2004と2016の間に、直角の方向で延びる溝。確認面のレベルではSD-2016の手前で立ち上がるが、両者とも底面に近い部分の検出であるため、上部では連結していたかもしれない。北側は調査区外へ続きSD-2004に切られる。底面は平坦で、壁は比較的急な角度で立ち上がる。整った逆台形の断面を呈す。F-2区のSD-2101に繋がる溝の可能性がある。	須恵器(坏)、土師器(坏・甕)
SD - 2101	F-2区マ-48～ホ-51	90～120	40～72	北東から南西方向に走る溝。西側に並行して同方向に延びるSD-1406を切る。北側と南側は調査区外へ続く。同じF-2区に同じ方向性を持つ、SD-1402・1404・1405・1406・2102・2104がある。掘方は、北側のSD-1406と重複する部分ではやや形状が乱れるが、概ね整った逆台形である。底面は僅かに丸みを持つ。底面の幅は北から南に移行するにつれて狭まっていき、北面ではおよそ85㎝程度の幅を持つが、中程で約60㎝幅、南の端でおよそ50㎝幅となる。F-2区とG-1区は生活道路を生かすための調査区外で隔てられているが、この部分を超えて、SD-2101に繋がる溝としてSD-2001が考えられる。SD-2001のG-1区での確認底部幅は約50㎝前後で、SD-2101の規模に合致する。中～近世に属する溝か。	灰釉陶器(瓶)、須恵器(坏・高台付椀・壺)、土師器(高台付椀・小型甕)、SD-1405と共通して灰釉陶器(椀・瓶)、須恵器(蓋・坏・甕)、土師器(坏・甕)
SD - 2102	F-2区マ-47～ホ-49	58～140	12～44	北東方向から南西方向に延びる溝で、北側が調査区外へ続く。南側は、確認面のレベルでは浅くなり自然に消滅する。溝の形状は、底面に丸みを持ち、壁が大きく開いて立ち上がる。覆土は西側より流れ込む自然堆積である。遺物は出土しないが、同じF-2区のSD-1402・1403・1404・1405・1406・2101・2104と同じ方向性を持つことから、時期的に近いものと思われる。	
SD - 2104	F-2区ホ-46～ヒ-52	78～132	34～80	SD-1400の東側に一部重複しながらほぼ同方向に延びる溝。北側と南側は調査区外へ続く。同じF-2区のSD-1402・1403・1404・1405・1406・2101・2102とも方向を同じくする。重複するSI-2116より新しく、SK-1410・1411・1413，SD-1400・1660，SX-2134より古い。断面の形状はSP-Gラインより北側では底面に平坦面を持つ整った逆台形で、SP-Iラインより北の壁は中位に段を持って開く形状を呈す。SP-Gラインより南側では底面に平坦面を持たない形状になり、丸みのある底部から大きく壁が開くV字形になる。掘方から工具痕が観察される。覆土は、密な粘質土が主体の自然堆積土。掘方底面のローム表面に若干の酸化部分がみられ、また溝開口時の自然堆積土と思われるd・e層の下層に、酸化した土が多くみられるため、溜水を伴う溝であったことが推定される。中～近世に属する溝か。	土師器(坏・高台付坏）、土師質土器(皿)

遺構番号	区・ｸﾞﾘｯﾄﾞ	幅 (cm)	深さ (cm)	備　　考	出　土　遺　物 (不掲載破片含む)
SD - 2105	F-2区 ホ-45 ～ へ-46	128 ～ 225	36 ～ 102	SD-1660の屈曲部から北に延びる部分をSD-2105とした。SD-1660の東に曲がって延びた部分からは底面が連続しており、同時期の開口が予想されるが、南側へ延びて走る部分との連続性は確認できず、この3部分がすべて同時に機能していたかは不明である。遺構確認面は溝本来の規模より大分低位であるが、調査区際の断面で確認した溝の断面形状を見ると、中位から上位にかけて大きく形状が変化しており、ここより上部で一度掘り直しが成されたものと思われる。下位の形状は東より西側が僅かに下がる平坦な底部から壁が大きく開く逆台形で、上位は底部に丸みを持ち、壁が緩やかに立ち上がる幅広の逆台形になる。	須恵器(坏)、土師器(坏・甕)、土師質土器(皿・内耳土器)

３．時期不明

遺構番号	区・ｸﾞﾘｯﾄﾞ	幅 (cm)	深さ (cm)	備　　考	出　土　遺　物
SD - 103a	B-3区 カ-8 ～ ク-9	76 ～ 78	12 ～ 16	浅く東西に延びる溝状遺構で、両端部が確認面では自然に消滅する。断面逆台形のSD-103aを南にずれて掘り返したものがSD-103ｂと思われる。両者とも、覆土の水の影響が見られないことから、地割りに関係した溝と思われる。	須恵器(坏)、土師器(甕)、土師質土器
103b		36 ～ 112	24 ～ 38		
SD - 104	B-3区 オ-8 ～ オ-11	116 ～ 128	12 ～ 16	北西から南東に延びて南西方向にほぼ直角に屈曲する。SD-111、SZ-101・105・120と重複し、これらより新しい。ただし、SZ-101と120との重複部分については、切り合う部分の実測記録が整わなかった為、所見からの判断である。当初、SD-104と106に分けて調査しているが、連続する一つの溝と判明したのでSD-104に統一した。北東に位置するSD-103とは、東西方向の軸が一致する。西側に最低一度の掘り返しが見られる。	土師器(甕)、土師質土器(内耳土器・焙烙)、陶磁器(甕)
SD - 111	B区 エ-8 ～ オ-11	44 ～ 82	12 ～ 18	SD-104、SZ-101・120、SX-130と重複し、SD-104より古い。SZ-101と120との重複部分については、切り合う部分の実測記録が整わず、所見では両遺構より古いとされているが、覆土はSZ-101より新しいSD-104に近いので、古墳時代以前の溝とはし難い。SX-130より古い。	石器(打製石器)
SD - 128	B-3区 キ-10 ～ カ-11	78 ～ 140	10 ～ 30	SZ-105、SX-118と重複する用途不明の溝状遺構。調査時の記録からは、これらの新旧関係は判断できない。北側は自然消滅する。時期不明。	
SD - 739	D区 ウ-17	30 ～ 50	15	北西方向から南西方向に延びる細い溝。南西部でSD-730・750と重なる。SD-750より古い。SD-730との新旧関係は不明。北西部で重複するSK-731とも新旧関係不明。断面の形状は底面に平坦面を持ち、壁はやや開いて立ち上がる逆台形。時期不明。	
SD - 839	D区 イ-18 ～ ウ-18	[223]	16	D区の溝状遺構集中地区から検出した。古墳時代の土坑であるSK-840と重複し、これより新しい。西側をSD-841、北側をSD-847と重複するが、これらとの新旧関係不明。SD-848とは明確な新旧関係は不明だが、本遺構が新しいものと推定される。溝の南側は調査区外へ続く。自然堆積による埋没。	
SD - 841	D区 イ-18	[112]	23	D区の溝状遺構集中地区から検出した。南側は調査区外へ続く。SD-842・843より古い。SD-839との新旧関係不明。覆土は水流のある環境下での自然堆積と思われる。	SD-842・843と共通して須恵器(坏)、土師器(坏・甕)、土師質土器(内耳土器)
SD - 842	D区 イ-18	[64]	24	D区の溝状遺構集中地区から検出した。南側は調査区外へ続く。SD-841より新しく、SD-843より古い。覆土は水流のある環境下での自然堆積と思われる。	SD-841・843と共通して須恵器(坏)、土師器(坏・甕)、土師質土器(内耳土器)
SD - 843	D区 ウ-17 ～ イ-18	[92]	24	D区の溝状遺構集中地区から検出した。南側は調査区外に続く。SD-841・842・845・850より新しい。東側で重なるSD-847との新旧関係不明。SD-848とは明確な新旧関係は不明だが、本遺構が新しいものと推定される。覆土は自然埋没で、水の影響による酸化は見られない。	SD-841・842と共通して須恵器(坏)、土師器(坏・甕)、土師質土器(内耳土器)
SD - 844	D区 ウ-17 ～ イ-18	162 ～ 216	29 ～ 48	D区の溝状遺構集中地区から検出した。SD-845より古い。南側にずらした位置に、最低一回以上の掘り直しが認められる。西側は調査区外に続き、東側は自然に立ち上がって消滅する。西側の底面に礫だまりが見られる。	土師器(坏)、陶磁器(碗・擂鉢)

遺構番号	区・グリッド	幅(cm)	深さ(cm)	備考	出土遺物(不掲載破片含む)
SD - 845	D区 イ-17	[84]	36	D区の溝状遺構集中地区から検出した。SD-844より新しく、SD-843より古い。比較的短期の自然埋没と思われる。覆土に砂質感があるため、水が流れていた溝であった可能性が強い。底面は概ね平坦で、壁は比較的急な角度で出立ち上がる。	陶磁器(碗)
SD - 847	D区 ウ-17 ～ ウ-18	[48]	32	D区の溝状遺構集中地区から検出した。南側はSD-839と、北側はSD-846と重複する。SD-846・848より古い。SD-839・843とは新旧関係不明。西壁の立ち上がりの形状は不明だが、東壁は丸みを持った底面から緩やかに立ち上がる。覆土は土中の鉄分が酸化しており、溜水時の自然堆積と思われる。	
SD - 871	D区 イ-17	— ～ 74	22 ～ 32	D区の溝状遺構集中地区から検出した。西側は調査区外へ続く。SD-834より古い。一回以上の掘り直しの可能性有り。覆土は自然堆積。	
SD - 1173	F-1区 ノ-38 ～ ヒ-40	76 ～ 92	20 ～ 24	F-区の北橋から検出した溝状遺構。北西から南東方向へ延び、北西の端部が北東方向に屈曲し自然消滅する。SK-1177、S-1342・1340と重複し、S-1342より新しく、SK-1177、S-1340より古い。底面は丸みを持ちやや凹凸が目立つ。壁は緩やかに立ち上がる。遺物が出土せず、時期は不明。	
SD - 2003	G-1区 へ-55 ～ ホ-55	133 ～ 150	24 ～ 32	長方形土坑が長く延びたような溝状遺構。北西から南東方向に走る。同じG-1区内に同一方向でSD-2004・2016が走る。底面は平坦で、断面逆台形。G-2区に規模と断面の形状・方向性が同様なSD-2511があり、やや距離が離れるが繋がる同一溝の可能性もある。時期不明。	須恵器(蓋・坏)、土師器(坏)
SD - 2004	G-1区 へ-53	78 ～ 121	79	底面は凹凸のある平坦で、壁は急な角度で立ち上がる、断面コの字形の溝である。西側が調査区外へ続き、東側は丸く立ち上がる。SD-2001を切っている。底面直上の薄い堆積層は自然堆積だが、残りの覆土は人為的な一括埋め戻し土である。僅かな部分の調査なので、溝ではない可能性もある。時期不明。	
SD - 2016	G-1区 フ-54 ～ へ-54	88 ～ 110	12	SD-2003の北西部に同方向で走る浅い溝状遺構。確認面では、西側と東側が自然消滅する。SX-2405より古い。当初、北に走るSD-2001が直交すると思われたが、SD-2016の手前で立ち上がってしまった。両者とも底面に近い確認であるため、上部では連結していた溝であるかもしれない。断面は浅い皿状を呈す。時期不明。	須恵器(甕)、土師器(甕)
SD - 2500	G-2区 モ-55 ～ メ-57	140 ～ 156	28 ～ 36	北東から南西方向に延びる溝。底面は幅広の平坦部を持ち、やや凹凸がみられる。壁が開いて立ち上がる断面逆台形である。覆土の観察記録が整わなかったが、層の流れは自然堆積を示すか。SD-2501・2502と重複するが新旧関係は不明である。時期不明。	須恵器(坏)、瓦、石器(磨石)
SD - 2502	G-2区 メ-53 ～ ヤ-57	740 ～ 960	56 ～ 68	G-2の東側調査区を占める浅く幅広の溝状遺構で、調査区内で北から南東方向に緩くカーブする。底面は丸く平坦面を持たない皿状で、壁は非常に緩やかにだらだらと立ち上がる。壁の立ち上がりが一部不明瞭であり、自然堆積である覆土の状況から、人為的な遺構ではなく自然流路の可能性もある旨、所見にある。SD-2500が重複するが両者の新旧関係は不明である。SD-2510より古い。時期不明。	須恵器(坏)、瓦、石器(磨石)
SD - 2510	G-2区 ム-53 ～ メ-53	-	20	G-2の北端部、SD-2500の北端と重複して一部のみ確認される溝。SD-2500との新旧関係不明。SD-2502より新しい。時期不明。	
SD - 2511	G-2区 ミ-56 ～ ム-57	136 ～ 205	90	G-2区の南西部から検出した、北西から南東方向に走る溝。溝の両側が調査区外へ延びるため、一部の調査にとどまった。底面は整った平坦で壁は逆台形に開いて立ち上がる。G-1区に規模と断面の形状・方向性が同様なSD-2003がある、この溝に繋がる可能性もある。SD-2511の底面幅とSD-2003の底面幅は約1m前後と共通する。SX-2501より古い。時期不明。	陶器(碗)

第７節　方形周溝遺構

古墳時代前期の方形周溝遺構は、本調査初年度に調査を行った（途中休止後次年度に続行）Ｂ区から６基、次年度調査のＤ区から１基の合計７基検出している。Ｂ区は竪穴住居の検出がなかった低地域で、上面も後世の耕作等による削平・攪乱の影響が大きく、当時の地表面よりかなり低いレベルでの遺構確認になった。遺構の掘り込まれる地山もよごれた、土の変化のわかりにくい状態で、特に方形周溝遺構の確認については、周溝を方形に巡った形に捉えず、一辺としての広がりのみで押さえて記録している部分も多い。また後に性格不明遺構として周溝遺構から排除した部分や、溝状遺構との重複関係との混乱で、プランや覆土が整理できず遺構としての把握が困難であった部分も多々あるが、これらも含めてなるべく一基のまとまりとして整理し、掲載した。

ＳＺ-１０１

位置　Ｂ-３区エ-８～オ-９グリッドに位置する。

重複・新旧　SE-108、SK-113、SD-104・111、SX-130と重複する。SE-108、SK-113、SD-104、SX-130より古く、SD-111との新旧関係は不明。

規模・形状　調査時、SZ-101・107・114と分かれて記録していたものをSZ-101としてまとめた。SZ-101の北方向に位置するSZ-619は、SZ-101と掘方の形状と規格が微妙に異なるため、別遺構として発番しているが、SZ-101と合わせて同一の方形周溝遺構になる可能性も十分ある。北西部がSX-130に切られ、さらに調査区外へかかる。周溝の規模はSZ-101とした部分の残存している上端部で計測すると、南北約10.7m以上、東西約14.3m以上になり、南辺に直交する軸方向での方位はN−28°−Wとなる。底面の深さは確認面から浅いところで約24㎝、最深部で110㎝を測る。SZ-101と619を合わせた規模で計測すると、南北約18.2m以上、東西約17.5m以上で、長軸の南北軸方位はN−40°−Wとなる。掘方の形状は西辺と北辺でり、西辺は底面にやや凹凸が見られるものの平坦面を持つ断面逆台形の溝状を呈する。外周側への壁の立ち上がりの角度は、内周側と比べて非常に緩やかで、底面の深さは確認面から約40～50㎝、レベル平均は57.4mである。南辺は３つの段を持って方形に掘り下げられており、最も低く掘り下げられている部分は周溝内土壙のような長方形を呈しているが、埋土は周りの掘方内埋土と変化がなく、底面からの連続した自然堆積との記録がある。底部の平坦面でのレベル平均は56.6mである。この方形に深く掘られた部分の北東部は、一転して断面逆台形の細い溝状になる。細い溝状部分の底面の深さは確認面から約24～42㎝を計り、レベル平均は57.4mである。

遺物　覆土中から破片で出土した土師器の甕と壺を図示した。壺は肩部と底部に分かれて掲載しているが、同一個体と思われる。他に、須恵器の蓋破片１点、坏破片１点、甕破片２点、土師器の坏破片１点、壺破片２点、甕・壺破片18点、甕破片１点、器種不明破片１点、陶磁器の碗破片１点、礫２点を出土している。古代以降の遺物は混入品。図示不能。

ＳＺ-１０５

位置　Ｂ-３区オ-10～カ-11グリッドに位置する。

重複・新旧　SK-116、SD-104・128、SX-118と重複する。SD-104に北西隅を切られる。SK-116より新しく、SX-118より古い。SD-128との重複関係は不明である。

規模・形状　西辺から南辺にかけての部分のみ確認した。北東辺は後世の削平により消滅したものと思われる。周溝の規模は残存している上端部で計測すると、南北約11.2m以上、東西約9.6m以上となる。南北軸方

位はＮ−08°−Ｅ。深さは確認面から16〜40㎝を測る。南西隅部は掘方が浅い。底面の凹凸は激しく、断面は浅い逆台形を呈する。周溝内土壙の確認はない。SK-116は検出当初、SZ-105の周溝内土壙の可能性も考えられたが、覆土の観察からSZ-105に先行する土坑であると判断されている。

遺物　確認面より検出した、土師器の坏１点、土師器の壺１点を図示した。坏は口縁部が一部欠けているがほぼ完形である。土師器の壺は、坏出土の位置に近い範囲から破片の散らばりで出土した。溝の埋没が多少進行してからの祭祀儀礼に伴うものか。他に出土遺物として中世陶器の卸皿の破片１点を図示したが、これは混入品である。

ＳＺ-１２０

位置　Ｂ-３区ウ-10〜エ-13グリッドに位置する。

重複・新旧　SK-681・682、SE-121・428、SD-104・111・151・122と重複する。SD-111より新しく、SK-681・682、SE-121・428、SD-104・151・122より古い。SD-104・111との重複部分の新旧関係については、切り合う部分の実測記録が整わなかった為、所見からの判断である。溝の東辺を横切るSD-122の切り合い部分の形状は、細かく入れたサブトレンチで確認された結果である。

規模・形状　調査時発番Ｓ-126・127として、北辺と南辺を調査したものをSZ-120とした。西辺が認められない。「コ」の字に周溝がめぐるタイプか。周溝の規模は残存している上端部で計測すると、南北約20.9m以上、東西約15.9m以上となる。南辺に直交する軸線での方位はＮ−17°−Ｅである。深さは確認面から８〜40㎝を測る。底面には凹凸があり、溝の外周側にいくにしたがい浅くなる。壁は、溝の内周側が比較的急な角度で立ち上がるのに対し、外周側は浅くなった底面から連続するように緩傾斜で立ち上がる。浅く立ち上がる外周側の溝幅と形状の変化は、底面に近いレベルでの確認によるもので、当時の掘方を反映しているものではないと思われる。北辺に周溝内土壙が１基確認された。長軸約1.6m、短軸約0.9mの長方形を呈し、深さは溝の確認面から最深で61㎝、溝の底面から約38㎝を測る。ロームブロックの多く入った土で埋め戻されているので、墓壙の可能性が高い。周溝内土壙が埋め戻された後は自然堆積による埋没と思われるが、一部溝の内周側から崩落したように入る埋土がある。封土の流入か。

遺物　覆土中より破片で検出した土器のうち、土師器の壺２点、甕２点を図示した。１の土師器壺は、集中して散らばった破片の接合したもので、第一次堆積であるロームを多く含んだ黄褐色土の直上より出土した。遺構の時期を反映する遺物か。他に、土師器の坏の破片１点、ハケメのある破片を含んだ土師器甕の小片16点を出土している。図示不能。

ＳＺ-１２４

位置　Ｂ-３区オ-12〜カ-13グリッドに位置する。

重複・新旧　SK-168、SD-122・151、SX-118・518と重複する。SX-118より新しく、SK-168、SD-122・151より古い。SZ-124周溝の北東部分と重なる位置で検出したSX-518との新旧関係は不明だが、本遺構が古いと思われる。

規模・形状　周溝の規模は残存している上端部で、南北約10.6m、東西約9.1m以上の方形にめぐるものと思われる。南北軸方位はＮ−08°−Ｅ。深さは確認面から16〜40㎝を測る。断面は浅い逆台形である。周溝内土壙の確認はない。

備考　当初、Ｓ-123・124としてそれぞれ不整長楕円形プランの土坑として調査を開始したが、覆土を掘り下げていくうち溝状の遺構であることが判明し、古墳時代前期の方墳の周溝の可能性があることが指摘されたため合わせてSZ-124として調査を進めた旨、所見記録がある。東辺が後世の削平のため失われており、北

西から南東にかけてはSD-122によって切られる。堆積の特徴は調査時に自然堆積と判断。墳丘（方台部）側からの流入（堆積）の痕跡は特に認められなかった。

遺物　高坏が、溝の底面から５～６㎝上位の位置より、やや斜めになった逆位の状態で出土した。上になっていた高坏の裾部は、遺構の上面の削平により破損し失われている。脚部に多数の透かし穴を持ち、古墳時代前期に属するものと思われる。出土位置が底面よりやや上位の覆土中であることから、埋葬後一定期間を経たのちの墓前祭祀が想像される。しかし、高坏の下部に堆積する土層が地山の掘り過ぎの可能性も記録されているので、この場合は周溝掘削直後の祭祀に伴うものとなるか。他に、ハケメのある土師器甕の破片４点を出土しているが、小片のため図示はしていない。

ＳＺ-５１１

位置　Ｂ-４区ク-９～ケ-10グリッドに位置する。

重複・新旧　SE-510と重複し、これより古い。

規模・形状　北東部が調査区外へ伸びるため、西辺と北辺の一部、南辺から南東隅までの部分を調査した。規模は残存している周溝の上端部で計測すると、南北約13.4m以上、東西約13m以上となり、方形に溝が巡るものと思われる。南北軸方位はＮ−01°−Ｅである。確認した状態では、北西と南西の隅が途切れているが、遺構の上部の多くを削平で失っており、底面に近い部分での確認であるため、もともとは方形に巡っていた溝の浅い隅部分が消滅してしまった結果とも考えられる。溝の深さは確認面から12～36㎝を測る。断面は皿形を呈す。溝の底面は凹凸を多く持ち部分的にやや落ち込むが、明確に周溝内土壙と判断できるものは記録されていない。

遺物　土師器の高坏の破片１点、甕の破片１点が覆土中より出土した。小片のため図示は不能であった。

ＳＺ-６１９

位置　Ｂ-３区エ-６～カ-７グリッドに位置する。

重複・新旧　重複する遺構はない。

規模・形状　西側が調査区外へ続き、上部の大分部が後世の削平により消滅しているので、東辺と北辺の一部のみの確認に留まった。北辺と東辺の間が僅かに途切れるが、底面に近い確認のため掘方の浅いコーナー部分が消滅したものと思われる。SZ-619の南方向に位置するSZ-101は、別遺構として発番しているが、SZ-101と合わせて同一の方形周溝遺構になる可能性もある。周溝の規模は残存している上端部で計測すると、南北約6.7m以上、東西約12.2m以上になる。主軸方位は北辺がほとんど調査区外にあるので、東辺の軸方向で測るとＮ−37°−Ｗとなる。深さは確認面から約８～30㎝を計り、底面のレベルは、平均57.3m前後である。周溝内土壙は検出していない。

遺物　出土しない。

ＳＺ-７７７

位置　Ｄ区ア-15～イ-16グリッドに位置する。

重複・新旧　SK-798・800、SD-771・772・828、SX-900と重複し、これらすべてより古い。重複はしないが、北方向にSZ-777北辺の方向と平行して方形周溝遺構の一部のような溝状の浅い掘方の遺構が、古墳時代前期の土器を伴って検出しているが、両端をそれぞれSD-807、SX-900に壊されているため遺構としての確認範囲が狭く、方形周溝遺構と確定しにくいので、SX-として発番し、性格不明遺構として、掲載した。また、SZ-777の北東隅は側壁抉り込み部を持つ大型の性格不明遺構であるSX-900によってわずかに切られる。

規模・形状　北西隅をSD-828に壊され、北西方向から南西方向にかけて並列して走るSD-771・772に周溝の

一部を切られるが、東西方向に長い方形に溝が完周することは推定できる。周溝の規模は残存している上端部で計測すると、外径が南北約8.7m、東西約11.1m程度、内径が南北約5.6m、東西約6.3m程度となる。方位は南北方向を軸とした場合N−06°−Eである。周溝の深さは確認面から８～32㎝を測る。断面は浅い逆台形である。底面にはやや凹凸が見られ、一部僅かに窪む部分も見られるが、周溝内土壙と思われる掘方はない。**遺物**　出土しない。

第８節　火葬墓

ＳＫ-７５

位置　C-１区ス-24グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約80㎝、短軸約38㎝の隅丸長方形である。深さは確認面から約９㎝となる。断面は皿状を呈す。**備考**　C-１区には火葬墓が７基検出しているが、周辺の火葬墓に比べ小さく浅めで、遺存する骨・炭もやや少ない。平面形は確認の状態では整った隅丸長方形であったが、焼土・炭の広がりから西壁中央に煙道状に掘り込まれた突出部があると判断した。その他の壁の立ち上がりは垂直に近く、底面は南に比べ北側が若干高いが、あとはフラットである。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-７６

位置　C-１区ス-24グリッドに位置する。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約108㎝、短軸約60㎝の不整楕円形を呈する。深さは確認面から平均約４㎝を測る。断面は皿状。**備考**　周辺の火葬墓の中できわめて浅く、覆土中に残る炭・骨も少量のみ。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-７９

位置　C-１区シ-22グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約47㎝、短軸約40㎝の不整形である。深さは確認面から約10㎝となる。断面は皿状を呈す。**備考**　周辺の火葬墓の中では浅く小さめであるが、遺存する骨は多く、被熱による焼土の壁も顕著である。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-８０

位置　C-１区シ-23グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約105㎝、短軸約95㎝の不整形である。深さは確認面から約15㎝となる。断面は皿状を呈す。**備考**　西壁中央に突出部がある。浅めの底面はフラットで、検出する骨と炭は少ない。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-８１

位置　C-１区シ-23グリッドに位置する。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約85㎝、短軸約35㎝の隅丸長方形を呈する。深さは確認面から平均約20㎝を測る。断面は皿状。**備考**　骨と炭化物が多量に含まれる。やや深めで焼土壁顕著。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２５７

位置　C-１区コ-22グリッドに位置する。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約65㎝、短軸約47㎝の不整楕円形である。深さは確認面から約〔23〕㎝となる。断面は凹凸のある逆台形を呈す。**備考**　形態は小さめの楕円形で、やや浅い掘り込み。薄く焼土と骨、炭化物の集中する部分がある。遺存する骨の殆どは細かい骨片・粉の状態であるが、一部しっかりした骨が残る。南部に遺存する炭化物は、繊維質の素材を束ねたか編んだようなわら状のものが炭化した状態で、明瞭な太めの材は少ない。地山掘方の被熱による変化は周囲の他の火葬墓に比べ顕著ではない。　**遺物**　検出しない。

ＳＫ-２６１

位置　C-１区サ-22グリッドに位置する。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約99㎝、短軸約81㎝の突出部のある長方形を呈する。深さは確認面から平均約38㎝を測る。断面は逆台形。**備考**　南北に伸びる長方形の掘方の西壁部に、煙道状の張り出しを持つ。確認面から上位ではあまり目立たない炭化物や焼土が、この張り出し部分全体の壁に沿って層状に集中して入る。この状態は張り出し部全体の当初の壁部分で見られ、ほぼこれがなくなるところをもって奥壁とした。この範囲内では焼土に加え、骨がまとまって遺存している。中央の低くなる部分には、炭化物が粘性の強い土と共にびっしりと詰まっており、この中では骨はほとんど検出しない。炭化物自体は、底面～底面の上10㎝くらいのレベルで極めて多く遺存し、経３～５㎝の材の形を留めるものも見られた。全体で見て土坑内で炭化物が集中している部分は、焼土と骨の集中して検出するところより下位に見られる。遺存する焼土・骨・炭化物は土坑内に廃棄された出土状態ではなく、本土坑内で燃焼行為が行われたことは確実である。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-３１０

位置　B-１区ク-18グリッドに位置する。**重複・新旧**　SD-305と重複し、これより新しい。**規模・形状**　確認面での平面形は長軸約121㎝、短軸約100㎝の突出部のある長方形である。深さは確認面から約21㎝となる。断面は凹凸のある皿状を呈す。**備考**　覆土の細かい観察から、焼成後、焼かれた骨の主なものは取り出し、その後土坑の窪んだ部分を埋めた様子が伺える。遺存しているのは取り残された骨片と思われる。最下層の土は、褐灰色土と地山ロームで良く埋め立てられている。焼成により発生する骨灰・焼土・炭化材がいっさい入らない為、土坑内での焼成を行う前に底面を整えた層と思われる。**遺物**　土師質土器の小片１点が6層上部の骨片集中部から出土。図示不能。

ＳＫ-５９５

位置　B-４区ク-12グリッドに位置する。**規模・形状**　確認開口部で長軸約132㎝、短軸約〔74〕㎝、深さ約25㎝を測る。平面形は不整形を呈し、断面の形状は凹凸のある皿状である。**備考**　北半部はプランの確認のみ。複数の浅い円形の掘り込みからなる土坑。南西部の円形の窪みの底面には、小～中礫が多く見られる。火葬墓か。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-６８１

位置　B-３区ウ-10グリッドに位置する。**重複・新旧**　SZ-120と重複し、これより新しい。**規模・形状**　平面形は確認開口部で長軸約90㎝、短軸約45㎝の不整楕円形を呈する。深さは確認面から平均約〔11〕㎝を測る。断面は凹凸のある皿状。**備考**　炭の層→骨の層→焼土層という堆積の順番が認められる。炭の層にロームブロックが多く混じるので、一度掘り返された可能性がある。これらの覆土の観察から、土坑内で焼いた主要な骨を拾った後、炭や礫の上に残った小骨片の上を周囲の焼け土をかけて埋めた様子が伺える。**遺物**　検出しない。

ＳＫ-６８２

位置　B-３区エ-10グリッドに位置する。**重複・新旧**　SZ-120と重複し、これより新しい。**規模・形状**　確認開口部で長軸約〔35〕㎝、短軸約30㎝、深さ約８㎝を測る。平面形は隅丸方形を呈し、断面の形状は凹凸のある皿状である。**備考**　火葬墓の一部か。上部は削平のため遺存せず、底面に近い部分のみの確認となる。底面は焼けておらず、覆土には焼土や、焼土化まではしていないが被熱してボロボロになった土、炭化物、ロームが入り混じっている。骨片は殆ど見られない。**遺物**　検出しない。

第９節　方形竪穴

方形竪穴はＤ区から、１基のみ検出した。遺物を出土しないため、時期不明であるが、遺構の掘方や形状などから13～15世紀の間存続する竪穴遺構のひとつと思われる。

ＳＫ-７９８

位置　Ｄ区ア-15グリッドに位置する。

重複・新旧　SZ-777、SX-900と重複し、これらより新しい。

規模・形状　確認面での平面形は長軸約260㎝、短軸約259㎝の隅丸正方形である。床面までの深さは確認面より約40～50㎝を測る。主軸方位は、壁柱穴ラインに直交する南北方位でＮ－14°－Ｅ。床面は平坦だが、床面の一部や床面壁際に明瞭な工具痕が巡る。床面中央にみられる被熱範囲や小ピット状の窪み、設置された礫（金床石か）などの痕跡から、鍛冶遺構を想定し、床面を精査したが成果はなかった。Ｐ1、Ｐ2とした２本の壁柱穴を東西壁のほぼ中央に有する。Ｐ1は長軸約56㎝、短軸約33㎝、Ｐ2は長軸約53㎝、短軸約40㎝の楕円形の柱穴である。深さはともに確認面から85cmとなる。柱痕跡は残っていない。柱穴間は約2.4m。埋没の状況は、壁際から流入するレンズ状堆積の様子から自然堆積と思われる。SX-900と切り合う壁側は埋没の途中（４層堆積中）で壁が崩れ、SX-900の覆土が流入している。

遺物　床面直上から出土した礫１点を図示。ほかに遺物は出土しない。

第10節　地下式壙

地下式壙はＦ-１区のみから、合計５基検出している。うち２基は江戸期の大形溝に壊される部分が多く、プランが明瞭ではないが、確認できた範囲の覆土と形状、また、他の３基の地下式壙に連なる分布域に位置することから地下式壙と判断した。Ｆ-１区は、調査区全域が土取りのためローム面まで現表土を掘削されており、遺構確認面のレベルが当時の高低差を直接反映していないが、地形的には北から南に向かって緩やかに下がり、Ｆ-１区の南部は低地域になる。この低地域に入る北際のライン上に、これらの地下式壙は位置する。

尚、地下式壙はSK発番で分類したため、遺構の実測図版・土層注記表等は、同じSK発番の土坑と一括して掲載した。

ＳＫ-１１２１

位置　Ｆ-１区ノ-43グリッドに位置する。

重複・新旧　江戸期の大溝であるSD-1120に南部分を切られる。

規模・形状　確認した範囲で、長軸約388㎝、短軸約220㎝の長方形部分を調査した。室部の部分であろうか。深さは確認面から平均約64㎝を測る。底面は平坦で、南と西の壁は概ね垂直に立ち上がり、東壁はやや上部に開いて立ち上がっている。堆積土（３層中）の中央に巨大なロームの塊を混入する。天井の崩落土である。

遺物　覆土中より出土した、内面を磨いた土師器の埦を１点図示。他に土師器の坏と甕の破片計24点を検出。図示不能。

ＳＫ-１１４０

位置　Ｆ-１区ニ-43グリッドに位置する。

重複・新旧　江戸期の大溝であるSD-1120と後世の攪乱に大部分を壊される。

規模・形状　確認した範囲は、開口部で長軸約〔265〕㎝、短軸約〔125〕㎝の長方形部分である。６層が地山天井部の崩落土との記載がある。深さは確認面から平均約〔57〕㎝を測る。壁は確認できた部分では、ほぼ垂直に立ち上がっている。覆土の様子と掘方から、地下式壙の一部分ではないかと判断した。SK-1121と形状が類似する。

遺物　覆土中より出土した土師器の埦２点を図示。他に土師器の坏と甕の破片を計17点、須恵器坏の小片を３点、土師質土器の小皿片２点を検出。図示不能。

ＳＫ-１３６５

位置　Ｆ-１区ヒ-44グリッドに位置する。

重複・新旧　南側の大部分をSD-1120に壊される。SD-1120より古い遺構。

規模・形状　長軸約465㎝、短軸約200㎝の範囲を確認した。深さは確認面から約50㎝となる。壁は上に向かって僅かに開くが、概ね垂直に立ち上がる。

遺物　底面上23㎝の覆土中より土師器坏１点を出土。図示。他に、須恵器坏・甕、土師器坏・甕の破片を計56点出土しているがいずれも小片のため図示不能。

ＳＫ-１３６６

位置　Ｆ-１区ネ-42グリッドに位置する。

重複・新旧　現代の溝に一部壊される。

規模・形状　室部は、確認開口部で長軸約240㎝、短軸約195㎝を測る。深さは確認面から平均約60㎝。底面は平坦で、壁は僅かに開いて立ち上がる。竪坑部分は、長軸約75㎝、短軸約60㎝を計る。竪坑部分についての観察記録が無いので、覆土や室部への取り付きの様子など不明である。

遺物　検出しない。

ＳＫ-２４３５

位置　Ｆ-１区ノ-43グリッドに位置する。

重複・新旧　重複する遺構はない。南にSD-1120のクランクする部分が近接する。

規模・形状　東西に長い長方形の室部と、この室部の南壁につながる方形の竪坑が確認された。室部は確認開口部で長軸約367㎝、短軸約198㎝の規模を持ち、深さは確認した面から平均約60㎝を測る。壁面は西壁で概ね垂直に、南北壁でやや上部に開いて立ち上がる。東壁は底面から一段段を持って立ち上がった平坦面から、やはり上部に開く傾斜を持って立ち上がる。竪坑部分は、確認開口部で長軸約66㎝、短軸約63㎝の規模で室部に取り付き、確認面より60㎝ほど下がる平坦面から室部の底面にかけて傾斜を持ってつながる。この竪坑部分の対面に長軸約45㎝、短軸約30㎝、深さ約25㎝ほどの張り出し部が、構造の一部として確認されている。８層が天井の崩落土として記録されている。

遺物　３層中より出土した、土師質皿１点を図示。ほかに覆土中から須恵器蓋・坏・甕破片６点、土師器坏・甕破片83点、陶器碗破片１点が出土している。図示不能。古代の遺物は流入品である。

第11節　ピット状遺構

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	備　　考
S - 22	C-2 区	シ - 18	53	48	30	円形	逆台形	SI-06より新しい。
S - 23	C-2 区	シ - 18	45	43	25	円形	逆台形	SI-06より新しい。
S - 34	C-2 区	ス - 18	70	60	20	楕円形	椀状	SI-08より新しい。覆土中より土師器坏の口縁部片と高台部破片を出土。図示。
S - 39	C-2 区	シ - 17	34	33	12	円形	逆台形	
S - 40	C-2 区	ス - 17	30	26	14	円形	椀状	覆土中より灰釉椀の口縁部片と須恵器甕の口縁部片を出土。図示。
S - 41	C-2 区	シ - 17	58	50	12	楕円形	凹凸のある皿状	
S - 42	C-2 区	シ - 17	45	35	25	不整楕円形	U字形	
S - 47	C-2 区	ス - 19	50	33	-	楕円形	-	
S - 49	C-2 区	セ - 19	55	54	53	隅丸方形	U字形	SI-11より新しい。
S - 63	C-2 区	セ - 21	24	19	15	楕円形	砲弾形	SI-28より新しい。
S - 65	C-1 区	コ - 20	25	25	30	隅丸方形	砲弾形	SI-01のカマド東壁部を壊す。SI-01より新しい。
S - 69	C-2 区	ス - 20	〔20〕	-	8	-	開くU字形	
S - 72	C-2 区	ソ - 19	30	25	16	隅丸方形	逆台形	
S - 86	C-1 区	サ - 20	37	31	24	隅丸方形	逆台形	
S - 87	C-1 区	サ - 21	38	37	26	隅丸方形	逆台形	
S - 93	C-2 区	ス - 19	25	24	-	円形	-	SK-92より新しい。
S - 95	C-2 区	ス - 21	26	24	〔40〕	円形	砲弾形	
S - 96	C-2 区	ス - 21	24	20	15	円形	有段開くU字形	
S - 97	C-2 区	ス - 21	25	24	20	楕円形	逆台形	SK-33より新しい。
S - 98	C-2 区	ス - 21	20	18	〔18〕	円形	開くU字形	SK-92より新しい。
S - 99	C-2 区	ス - 21	20	20	30	円形	砲弾形	
S - 172	B-2 区	オ - 14	51	44	〔30〕	円形	逆台形	SD-154より新しい。
S - 173	B-2 区	オ - 14	83	72	45	楕円形	逆台形	S-187より古い。底面に大きめの礫あり。
S - 174	B-2 区	オ - 14	80	60	45	楕円形	逆台形	古い順にSK-185→S-174→S-184。S-174の底には礫(径1～8cm)が多数検出。
S - 177	B-2 区	オ - 14	82	72	42	楕円形	開く逆台形	断面観察でのS-386との新旧は不明であるが、平面確認ではS-386が先行すると思われた。
S - 178	B-2 区	カ - 15	58	47	33	楕円形	不整台形	
S - 179	B-2 区	オ - 15	52	45	〔23〕	不整楕円形	逆台形	
S - 180	B-2 区	カ - 15	71	52	25	楕円形	逆台形	SK-165より新しい可能性が高い。
S - 181	B-2 区	カ - 15	50	41	15	楕円形	逆台形	
S - 183	B-2 区	エ - 14	60	49	33	楕円形	方形	やや不整だが、掘り込み明瞭な遺構。S-397等と形体類似。底面はフラット。壁は垂直～急角度で立ち上がる。
S - 184	B-2 区	オ - 14	41	34	29	楕円形	有段U字形	古い順にSK-185→S-174→S-184。
S - 186	B-2 区	オ - 14	56	53	33	楕円形	不整逆台形	テラス状の段がある。底面にいくつかの礫あり。若干オーバーハング気味で、壁は垂直～急角度で立ち上がる。底面は概ね平坦。西側のテラス状部分も概ね平坦で、2基のピット状遺構の重複である可能性あり。
S - 187	B-2 区	オ - 14	74	55	23	楕円形	開くU字形	S-173より新しい。
S - 196	B-2 区	オ - 14	60	〔40〕	42	楕円形	逆台形	S-322・421と重複するが新旧関係不明。覆土中から砥石1点出土。図示。
S - 199	B-2 区	オ - 14	〔55〕	40	16	楕円形	逆台形	SD-155、SK-300より新しい。
S - 200	C-2 区	ス - 21	25	17	14	楕円形	開くU字形	
S - 201	C-2 区	セ - 21	21	18	13	楕円形	有段逆台形	
S - 203	C-2 区	セ - 21	30	28	28	楕円形	U字形	SI-21確認面から検出したピット。SI-21の壁柱穴の可能性もあるが、住居跡に伴わない別遺構として掲載した。
S - 204	C-2 区	セ - 21	22	18	18	円形	砲弾形	SI-54底面から確認のピット。伴うか不明なので別掲載とした。覆土に焼土は入らないが、埋土の様子からSI-54に伴う可能性はある。
S - 205	C-2 区	セ - 20	34	21	35	楕円形	砲弾形	SI-54の壁柱穴か、別遺構か不明。
S - 206	C-2 区	セ - 20	33	24	20	楕円形	U字形	SI-21床面から確認。SI-21に伴うものか上からの新しい掘り込みか不明。埋土の様子からは伴わない可能性が高い。抜き取り痕跡あり。
S - 209	C-2 区	ソ - 21	33	28	18	楕円形	不整台形	SI-210より古い。
S - 215	C-2 区	ソ - 20	34	19	25	楕円形	開くU字形	覆土の相似から、SI-210と同じ時期に埋没→伴う柱穴の可能性あり。

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	平面形	断面形	備　　考
S - 227	C-1 区	コ - 21	45	40	25	円形	逆台形	
S - 228	C-1 区	コ - 21	42	33	〔40〕	楕円形	U字形	
S - 230	C-1 区	サ - 21	28	28	33	円形	筒形	
S - 231	C-1 区	サ - 21	27	27	28	隅丸方形	筒形	
S - 232	C-1 区	サ - 21	30	30	35	隅丸方形	筒形	
S - 233	C-1 区	サ - 21	24	24	22	隅丸方形	筒形	
S - 235	C-1 区	コ - 21	60	40	17	不整楕円形	逆台形	
S - 236	C-1 区	コ - 21	28	27	25	円形	U字形	溝の底面より検出。新旧関係不明。
S - 239	C-1 区	コ - 21	55	35	20	不整円形	逆台形	
S - 240	C-1 区	コ - 22	50	45	53	円形	有段U字形	
S - 242	C-1 区	ケ - 20	30	23	11	楕円形	逆台形	
S - 243	C-1 区	コ - 20	52	36	10	楕円形	逆台形	
S - 245	C-1 区	サ - 21	55	50	51	楕円形	開くU字形	
S - 246	C-1 区	コ - 21	33	30	45	円形	開くU字形	
S - 249	C-1 区	コ - 22	52	50	〔58〕	円形	凹凸のあるU字形	
S - 250	C-1 区	コ - 22	49	45	〔35〕	楕円形	開くU字形	
S - 251	C-1 区	コ - 22	32	29	50	円形	U字形	
S - 252	C-1 区	サ - 22	50	45	〔47〕	隅丸方形	U字形	柱抜き取り痕あり。
S - 253	C-1 区	サ - 22	55	48	〔48〕	楕円形	有段逆台形	柱痕明瞭。
S - 254	C-1 区	サ - 22	35	35	37	円形	U字形	
S - 256	C-1 区	コ - 22	32	30	25	円形	U字形	
S - 258	C-1 区	サ - 22	37	37	38	円形	U字形	
S - 259	C-1 区	サ - 22	32	32	16	円形	逆台形	
S - 260	C-1 区	サ - 22	22	20	40	円形	U字形	
S - 269	C-3 区	タ - 25	48	31	15	楕円形	不整逆台形	
S - 303	B-2 区	オ - 13	50	48	15	円形	凹凸のある逆台形	SD-154より古い。
S - 304	B-2 区	オ - 13	58	48	〔42〕	不整円形	凹凸のある逆台形	SD-154より新しい。
S - 315	B-2 区	オ - 14	60	48	43	楕円形	不整U字形	1層中位より陶磁器片出土。柱穴状で他の穴と組み合って建物構成の可能性有り。S-186と形態似ている。覆土の対比はできなかった。
S - 316	B-2 区	オ - 14	62	58	25	隅丸方形	逆台形	SD-154より古い。SD-167との新旧関係不明。
S - 317	B-2 区	オ - 14	〔50〕	〔36〕	〔15〕	楕円形	有段開くU字形	SD-167と重複。SD-167調査時に確認し一部を掘ったが、新旧関係不明。
S - 319	B-2 区	カ - 14	29	29	〔25〕	円形	開くU字形	S-319と320はやや似ている。S-321はこの２つとかなり違う。
S - 320	B-2 区	カ - 14	35	30	40	円形	U字形	S-319と320はやや似ている。S-321はこの２つとかなり違う。
S - 321	B-2 区	カ - 14	38	28	〔40〕	楕円形	有段U字形	S-319と320はやや似ている。S-321はこの２つとかなり違う。
S - 322	B-2 区	オ - 14	60	35	30	不整楕円形	開くU字形	S-196と重複するが新旧関係不明。
S - 331	B-2 区	カ - 16	60	55	〔40〕	楕円形	逆台形	
S - 332	B-2 区	カ - 15	46	40	〔40〕	円形	開くU字形	
S - 333	B-2 区	オ - 14	44	〔25〕	25	(円形)	不整逆台形	S-334と重複し、これより古い。
S - 334	B-2 区	オ - 14	66	64	45	不整円形	不整逆台形	北のS-333、南のS-335をそれぞれ切る。3基の中で一番新しい。
S - 335	B-2 区	オ - 14	50	〔24〕	44	(円形)	不整逆台形	S-334と重複し、これより古い。
S - 336	B-2 区	オ - 15	45	〔33〕	43	楕円形	逆台形	遺構西端は調査区外となるため、セクション図ではオーバーハングしているようになっている。2基の連結状を呈したので、S-336・337と遺構名を分けたが覆土は連続する。
S - 337	B-2 区	オ - 15	45	〔45〕	44	円形	逆台形	遺構西端は調査区外となるため、セクション図ではオーバーハングしているようになっている。2基の連結状を呈したので、S-336・337と遺構名を分けたが覆土は連続する。
S - 339	B-2 区	キ - 15	35	30	〔38〕	楕円形	U字形	柱穴的だが、周辺にピット状遺構はない。単独的。
S - 341	B-2 区	カ - 15	57	56	〔30〕	楕円形	凹凸のある逆台形	SD-154と重複するが新旧関係不明。底面に礫多数検出。
S - 343	B-2 区	キ - 15	30	25	〔25〕	楕円形	開くU字形	単独的。浅いが形態、覆土とも柱穴的。
S - 344	B-2 区	カ - 15	25	20	13	楕円形	U字形	SK-198の底面で確認。SK-198より古いと思われる。小さく浅め。

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	備　　考
S - 345	B-2 区	カ - 15	35	30	23	楕円形	不整逆台形	SK-198と重複するが新旧関係不明。
S - 346	B-2 区	カ - 14	25	25	〔35〕	円形	砲弾形	形態良好。
S - 347	B-2 区	カ - 14	33	27	-	楕円形	-	SE-163より新しい。平面図のみ掲載。
S - 348	B-2 区	カ - 14	25	20	〔39〕	楕円形	開くU字形	
S - 349	B-2 区	カ - 14	35	35	〔34〕	円形	開くU字形	
S - 350	B-2 区	カ - 14	32	30	51	円形	開くU字形	
S - 351	B-2 区	オ - 14	32	27	〔25〕	楕円形	有段U字形	
S - 352	B-2 区	オ - 14	33	24	43	楕円形	開くU字形	
S - 353	B-2 区	オ - 14	44	37	20	不整楕円形	逆台形	
S - 354	B-2 区	オ - 14	35	30	48	楕円形	筒形	SD-154より新しい。形態良好。柱穴的。
S - 355	B-2 区	オ - 14	44	35	17	円形	逆台形	
S - 356	B-2 区	オ - 13	29	25	32	楕円形	開くU字形	
S - 357	B-2 区	オ - 13	30	30	〔38〕	円形	開くU字形	
S - 359	B-2 区	オ - 13	50	45	30	楕円形	開くU字形	
S - 360	B-2 区	エ - 13	50	44	25	楕円形	逆台形	
S - 361	B-2 区	オ - 13	33	31	22	円形	逆台形	
S - 363	B-2 区	オ - 13	38	35	37	楕円形	U字形	
S - 365	B-2 区	オ - 15	65	50	30	不整楕円形	逆台形	掘り込みは明瞭。
S - 366	B-2 区	オ - 15	40	37	20	隅丸方形	逆台形	
S - 367	B-2 区	オ - 14	38	38	40	隅丸方形	逆台形	掘り込み明瞭で柱穴として良さそう。
S - 368	B-2 区	オ - 14	55	50	40	円形	逆台形	柱穴的。周辺に同様なピット状遺構多し。
S - 369	B-2 区	オ - 14	35	34	36	円形	U字形	SD-154の南西にある遺構。柱痕あり。
S - 370	B-2 区	オ - 14	40	33	13	不整円形	逆台形	浅い。
S - 371	B-2 区	カ - 14	45	40	15	楕円形	椀形	S-370に近い形態。
S - 372	B-2 区	オ - 15	36	33	20	不整方形	U字形	S-372・373とも浅いが、掘り込みは比較的明瞭。
S - 373	B-2 区	オ - 15	43	40	23	円形	逆台形	S-372・373とも浅いが、掘り込みは比較的明瞭。
S - 374	B-2 区	オ - 15	47	44	25	円形	逆台形	S-372・373とは異なる土質。
S - 376	B-1 区	ケ - 13	50	40	22	楕円形	逆台形	
S - 378	B-1 区	ケ - 15	61	30	40	不整楕円形	開くU字形	柱穴の可能性有り。中央が黒くまわりがローム混じり。3,4層が別の掘り込みという可能性もあるか。
S - 379	B-1 区	ケ - 15	40	32	37	円形	逆台形	SD-327より新しい。
S - 380	B-1 区	ケ - 15	40	30	12	不整形	不整開くU字形	SD-327より新しい。
S - 381	B-1 区	ケ - 15	35	30	18	楕円形	逆台形	S-381は僅かにSD-327を切っている。下にロームの多い土、上に均質な土という堆積はS-379やS-382、SK-377など周辺の遺構と似ている。
S - 382	B-1 区	ケ - 15	53	45	45	楕円形	開くU字形	
S - 383	B-1 区	ケ - 15	35	30	4	楕円形	凹凸のある皿状	中央に大きい攪乱が入るため、プラン確認が不明瞭。
S - 384	B-1 区	ケ - 15	30	〔20〕	33	楕円形	開くU字形	S-385より古い。
S - 385	B-1 区	ケ - 15	28	28	30	円形	U字形	S-384より新しい。
S - 386	B-2 区	オ - 14	50	46	43	円形	有段開くU字形	断面観察でのS-177との新旧は不明であるが、平面確認ではS-386が先行すると思われた。
S - 388	B-2 区	オ - 14	37	〔32〕	18	円形	開くU字形	SD-154の底面で確認。2基の切合いとも思われたが1基の可能性が大きい。SK-387等SD-154の外側に見られる遺構に比べ覆土に粘性有り。しまってる。SD-154の覆土よりローム多くしまっており共通点がみられないので溝に伴わない別遺構としてよいか。覆土中から砥石1点を出土。図示。S-417より古い。
S - 389	B-2 区	オ - 14	25	25	〔44〕	円形	砲弾形	底に向かってすぼまる。壁急角度。底はロームで範囲狭い。
S - 390	B-2 区	オ - 14	25	23	〔24〕	円形	開くU字形	
S - 391	B-2 区	オ - 14	27	23	27	楕円形	開くU字形	細めだが柱穴的。
S - 392	B-2 区	オ - 14	26	24	25	円形	開くU字形	細めだが柱穴的。
S - 393	B-2 区	オ - 14	37	34	40	円形	U字形	掘り込みは明らかで形態的には柱穴状。
S - 394	B-2 区	エ - 14	43	34	37	楕円形	有段開くU字形	1層は2層より底面が一段下がる。柱痕か。1・2層明瞭。形態も柱穴的。
S - 395	B-2 区	エ - 14	28	27	28	円形	開くU字形	
S - 396	B-2 区	エ - 14	36	35	32	円形	逆台形	
S - 397	B-2 区	エ - 14	45	40	43	楕円形	U字形	掘込み明瞭。柱穴的。形態S-183にも近い。
S - 398	B-2 区	エ - 14	28	28	45	円形	U字形	形態的には柱穴的。
S - 400	B-2 区	エ - 14	47	37	〔27〕	円形	逆台形	

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	備　　考
S - 401	B-2 区	エ - 13	53	47	37	楕円形	U字形	壁は部分的にオーバーハング。掘り込み明瞭。
S - 402	B-2 区	エ - 13	25	25	29	円形	U字形	
S - 403	B-2 区	オ - 13	22	22	12	楕円形	開くU字形	
S - 404	B-2 区	オ - 13	35	28	15	楕円形	開くU字形	SK-168・169の土と違う印象。伴う可能性はない。
S - 406	B-2 区	カ - 15	33	〔25〕	26	円形	逆台形	SD-166より新しく、SK-157・170・405より古い。
S - 407	B-2 区	オ - 13	38	29	15	楕円形	開くU字形	SD-151と重複し、これより新しい。浅い小Pit。近くにあるS-404と似た形態。掘り込み明瞭。
S - 408	B-2 区	オ - 14	75	57	〔40〕	楕円形	U字形	S-408の土層断面に溝の覆土は観察されず、平面的にも溝の覆土の上にS-408の1層が見られたため、SD-154より新しい遺構とした。SK-387と重複するが新旧関係不明。
S - 415	B-2 区	カ - 15	45	40	-	楕円形	-	
S - 416	B-2 区	オ - 14	60	〔40〕	〔20〕	楕円形	逆台形	SD-157と重複するが新旧関係不明。北西部の壁面が確認できなかった。
S - 417	B-2 区	オ - 14	〔95〕	55	19	不整楕円形	凹凸のある逆台形	SD-154の底面で確認。2基の切合いの可能性有り。SK-387、S-388より新しい。
S - 418	B-2 区	エ - 14	28	28	〔20〕	円形	開くU字形	SK-176内から検出。新旧関係不明。
S - 419	B-2 区	オ - 14	38	37	〔16〕	楕円形	逆台形	SK-314の底面から確認した。SK-314より古い掘り込みと思われる。
S - 420	B-2 区	オ - 14	40	33	〔38〕	不整楕円形	砲弾形	SK-171と重複するが新旧関係不明。SK-171が新しい可能性は高い。
S - 421	B-2 区	オ - 14	45	〔27〕	35	不整楕円形	逆台形	S-196と重複するが新旧関係不明。
S - 422	B-2 区	オ - 14	22	20	〔17〕	円形	開くU字形	SD-157と重複するが新旧関係不明。
S - 423	B-2 区	オ - 15	45	38	〔35〕	隅丸方形	開くU字形	
S - 445	B-3 区	オ - 10	91	41	36	不整楕円形	凹凸のある逆台形	不整の大きめの掘方の中に円形のピット状の掘り込みが見られた。3基の重複(掘り替え)の可能性あり。
S - 448	B-3 区	オ - 10	26	25	44	隅丸方形	開くU字形	
S - 449	B-3 区	オ - 10	45	44	31	不整楕円形	逆台形	抜き取り痕あり。
S - 450	B-3 区	オ - 10	45	30	31	楕円形	有段U字形	
S - 451	B-3 区	オ - 9	37	34	30	楕円形	開くU字形	
S - 452	B-3 区	オ - 9	25	25	16	円形	有段開くU字形	
S - 453	B-3 区	オ - 9	45	33	〔20〕	楕円形	有段開くU字形	S-454より新しい。
S - 454	B-3 区	オ - 9	34	32	〔20〕	円形	開くU字形	S-453より古い。
S - 456	B-3 区	オ - 9	40	27	〔23〕	楕円形	有段開くU字形	
S - 457	B-3 区	オ - 9	42	35	25	楕円形	開くU字形	
S - 458	B-3 区	オ - 10	34	28	32	楕円形	開くU字形	
S - 459	B-3 区	オ - 9	30	20	15	楕円形	開くU字形	S-460より新しい。
S - 460	B-3 区	オ - 9	39	30	30	楕円形	開くU字形	S-459より古い。
S - 461	B-3 区	オ - 9	40	34	〔25〕	楕円形	開くU字形	
S - 462	B-3 区	オ - 9	43	38	40	円形	開くU字形	
S - 463	B-3 区	オ - 9	37	31	〔28〕	円形	開くU字形	
S - 464	B-3 区	オ - 9	51	44	31	楕円形	逆台形	
S - 465	B-3 区	オ - 9	40	35	20	楕円形	開くU字形	
S - 466	B-3 区	オ - 9	23	22	20	円形	開くU字形	
S - 467	B-3 区	オ - 9	30	30	26	円形	開くU字形	
S - 468	B-3 区	オ - 9	24	21	7	円形	開くU字形	
S - 469	B-3 区	オ - 9	38	29	26	不整円形	U字形	
S - 470	B-3 区	オ - 9	25	22	15	円形	開くU字形	
S - 471	B-3 区	オ - 10	27	25	〔25〕	円形	開くU字形	
S - 472	B-3 区	エ - 10	36	30	25	楕円形	開くU字形	
S - 473	B-3 区	エ - 9	47	45	32	不整楕円形	開くU字形	
S - 474	B-3 区	エ - 9	70	50	34	不整楕円形	有段逆台形	柱痕明瞭。
S - 475	B-3 区	エ - 9	22	20	23	円形	U字形	
S - 476	B-3 区	エ - 9	30	28	〔29〕	円形	有段U字形	
S - 477	B-3 区	エ - 9	35	30	〔25〕	円形	有段開くU字形	
S - 478	B-3 区	エ - 9	50	47	45	不整楕円形	開くU字形	
S - 479	B-3 区	エ - 9	48	37	30	楕円形	開くU字形	S-480より古い。
S - 480	B-3 区	エ - 9	50	30	33	楕円形	開くU字形	S-479より新しい。
S - 481	B-3 区	エ - 9	25	22	19	円形	開くU字形	
S - 482	B-3 区	エ - 9	43	31	37	楕円形	有段開くU字形	S-482はS-485より新しい。

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	備　　考
S - 483	B-3 区	エ - 9	33	30	25	円形	開くU字形	
S - 484	B-3 区	エ - 9	32	26	23	楕円形	開くU字形	
S - 485	B-3 区	エ - 9	35	45	〔25〕	円形	開くU字形	S-482より古い。
S - 486	B-3 区	エ - 9	33	25	25	楕円形	開くU字形	
S - 487	B-3 区	エ - 9	35	26	32	楕円形	開くU字形	柱痕明瞭。
S - 488	B-3 区	エ - 9	34	26	22	楕円形	開くU字形	
S - 489	B-3 区	ウ - 9	30	28	33	楕円形	開くU字形	S-651と重複するが新旧関係不明。
S - 493	B-3 区	ウ - 9	30	27	22	円形	開くU字形	S-494より古い。
S - 494	B-3 区	ウ - 9	30	〔23〕	〔19〕	円形	開くU字形	S-493より新しい。
S - 497	B-3 区	ウ - 9	32	28	25	楕円形	開くU字形	
S - 498	B-3 区	ウ - 9	26	22	32	円形	砲弾形	
S - 504	B-3 区	エ - 10	34	34	36	隅丸方形	U字形	
S - 513	B-3 区	ウ - 9	72	40	32	不整楕円形	開くU字形	
S - 520	B-3 区	オ - 10	39	31	〔26〕	楕円形	開くU字形	
S - 521	B-3 区	カ - 10	32	29	35	楕円形	開くU字形	
S - 522	B-3 区	カ - 10	46	35	27	楕円形	有段逆台形	
S - 523	B-3 区	カ - 10	37	36	28	円形	逆台形	
S - 524	B-3 区	カ - 11	30	27	24	隅丸方形	開くU字形	
S - 525	B-3 区	カ - 11	22	22	33	隅丸方形	開くU字形	
S - 527	B-4 区	カ - 12	28	24	17	隅丸方形	U字形	
S - 528	B-4 区	カ - 11	25	25	38	円形	U字形	
S - 529	B-4 区	キ - 12	48	34	17	不整円形	逆台形	
S - 530	B-4 区	キ - 11	68	42	12	不整楕円形	逆台形	
S - 531	B-4 区	キ - 11	54	44	34	長方形	有段逆台形	
S - 532	B-4 区	キ - 11	27	24	25	円形	逆台形	S-533より古い。
S - 533	B-4 区	キ - 11	27	23	25	円形	開くU字形	S-532より新しい。
S - 534	B-4 区	キ - 11	26	18	15	隅丸方形	逆台形	
S - 535	B-4 区	キ - 11	33	28	28	円形	開くU字形	
S - 536	B-4 区	キ - 11	36	33	66	円形	開く筒形	
S - 537	B-4 区	キ - 11	25	23	12	隅丸方形	逆台形	
S - 538	B-4 区	キ - 11	25	24	20	円形	開くU字形	
S - 539	B-4 区	キ - 11	21	18	18	円形	開くU字形	S-540より古い。
S - 540	B-4 区	キ - 11	29	23	19	楕円形	開くU字形	S-539より新しい。
S - 541	B-4 区	キ - 11	32	25	14	楕円形	開くU字形	
S - 542	B-4 区	キ - 12	32	27	30	隅丸方形	開くU字形	
S - 543	B-4 区	キ - 12	40	37	17	隅丸方形	U字形	
S - 544	B-4 区	キ - 12	23	22	22	円形	開くU字形	
S - 545	B-4 区	キ - 12	30	28	20	円形	U字形	
S - 546	B-4 区	カ - 12	33	26	〔25〕	楕円形	開くU字形	
S - 547	B-4 区	キ - 12	28	25	40	隅丸方形	開くU字形	
S - 548	B-4 区	キ - 12	30	20	25	楕円形	U字形	
S - 549	B-4 区	カ - 12	54	33	30	楕円形	有段開く逆台形	2基の遺構の切り合いの可能性あり。
S - 550	B-4 区	カ - 12	28	24	31	円形	開くU字形	
S - 551	B-4 区	カ - 12	38	32	10	隅丸方形	逆台形	
S - 552	B-4 区	キ - 12	〔30〕	25	17	隅丸方形	有段開くU字形	
S - 553	B-4 区	キ - 12	36	30	〔33〕	円形	有段開くU字形	
S - 554	B-4 区	キ - 11	30	29	18	円形	逆台形	
S - 555	B-4 区	キ - 11	25	25	15	円形	逆台形	
S - 556	B-4 区	キ - 11	46	30	22	不整隅丸方形	開くU字形	
S - 557	B-4 区	キ - 11	35	20	32	楕円形	U字形	
S - 558	B-4 区	キ - 11	32	29	33	円形	U字形	
S - 559	B-4 区	キ - 11	43	36	22	楕円形	開くU字形	
S - 560	B-4 区	キ - 11	30	24	40	不整楕円形	砲弾形	
S - 561	B-4 区	キ - 11	29	26	54	隅丸方形	開くU字形	
S - 562	B-4 区	キ - 11	34	28	25	隅丸方形	U字形	
S - 563	B-4 区	キ - 11	38	37	35	円形	有段開くU字形	
S - 564	B-4 区	キ - 11	40	34	28	楕円形	逆台形	柱痕明瞭。
S - 565	B-4 区	キ - 11	39	32	28	楕円形	開くU字形	
S - 566	B-4 区	キ - 11	〔50〕	35	〔51〕	楕円形	砲弾形	S-567より新しい。

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	平面形	断面形	備　　考
S - 567	B-4 区	キ - 11	〔50〕	〔25〕	〔52〕	楕円形	砲弾形	S-556より古い。覆土にロームが多いのは、新しいピットを掘るために硬い土を入れようという意図があるからか。
S - 568	B-4 区	キ - 11	25	24	25	円形	開くU字形	
S - 569	B-4 区	キ - 11	28	27	22	円形	逆台形	
S - 570	B-4 区	キ - 11	21	20	38	隅丸方形	U字形	
S - 571	B-4 区	キ - 11	30	28	23	円形	開くU字形	
S - 572	B-4 区	キ - 11	28	25	20	楕円形	逆台形	
S - 573	B-4 区	キ - 11	30	30	28	隅丸方形	開くU字形	
S - 574	B-4 区	キ - 11	30	20	32	楕円形	有段開くU字形	
S - 575	B-4 区	キ - 10	28	23	26	楕円形	開くU字形	
S - 576	B-4 区	キ - 10	37	30	35	楕円形	有段U字形	
S - 577	B-4 区	キ - 10	30	25	17	楕円形	開くU字形	
S - 578	B-4 区	キ - 10	20	18	28	円形	砲弾形	
S - 580	B-4 区	キ - 11	25	23	19	円形	開くU字形	
S - 581	B-4 区	キ - 11	22	20	20	隅丸方形	開くU字形	
S - 582	B-4 区	キ - 11	44	43	30	不整円形	開くU字形	
S - 584	B-4 区	ケ - 12	59	〔27〕	41	隅丸方形	U字形	底は自然な礫層(砂も多く含む)にあたる。SK-585より新しい。
S - 586	B-4 区	ケ - 12	42	42	17	円形	逆台形	
S - 587	B-4 区	ケ - 12	40	38	64	円形	開く筒形	
S - 588	B-4 区	ケ - 12	54	51	40	円形	開くU字形	
S - 596	B-4 区	ケ - 12	26	26	18	隅丸方形	有段U字形	
S - 597	B-4 区	ケ - 12	25	22	15	円形	逆台形	
S - 598	B-4 区	ク - 12	35	30	20	不整隅丸方形	開くU字形	
S - 599	B-4 区	ク - 13	31	25	20	隅丸方形	有段U字形	
S - 600	B-4 区	ク - 12	33	31	14	円形	開くU字形	両脇をロームの多い土で固めている。柱痕明瞭。
S - 601	B-4 区	ク - 12	48	33	8	不整楕円形	皿状	
S - 602	B-4 区	ク - 13	33	32	20	隅丸方形	有段逆台形	柱痕(掘方)明瞭。
S - 603	B-4 区	ク - 13	36	31	20	隅丸方形	有段逆台形	
S - 604	B-4 区	ク - 13	30	26	24	楕円形	U字形	柱痕明瞭。
S - 605	B-4 区	ク - 14	30	24	15	楕円形	開くU字形	
S - 606	B-4 区	ク - 12	32	29	18	円形	開くU字形	
S - 607	B-4 区	ク - 12	37	37	13	円形	開くU字形	
S - 608	B-4 区	キ - 12	34	30	15	隅丸方形	逆台形	
S - 609	B-4 区	キ - 12	30	28	16	隅丸方形	逆台形	
S - 610	B-4 区	ク - 12	33	33	10	円形	逆台形	SI-611と重複するが新旧関係不明。
S - 611	B-4 区	ク - 12	33	28	14	円形	逆台形	SI-610と重複するが新旧関係不明。
S - 612	B-4 区	ク - 12	35	35	22	円形	逆台形	
S - 613	B-4 区	ク - 11	30	30	23	円形	開くU字形	
S - 614	B-3 区	キ - 10	43	35	22	不整円形	有段逆台形	
S - 615	B-3 区	キ - 10	35	32	11	隅丸方形	開くU字形	
S - 622	B-3 区	エ - 9	74	66	15	楕円形	逆台形	
S - 623	B-3 区	オ - 10	30	25	11	円形	逆台形	
S - 624	B-3 区	オ - 10	〔95〕	73	22	不整長方形	逆台形	
S - 625	B-3 区	オ - 10	23	21	18	隅丸方形	逆台形	
S - 626	B-3 区	オ - 10	25	22	17	隅丸方形	逆台形	
S - 627	B-3 区	オ - 10	28	25	33	隅丸方形	U字形	
S - 628	B-3 区	オ - 10	26	24	〔25〕	隅丸方形	U字形	
S - 629	B-3 区	オ - 10	25	20	〔12〕	楕円形	逆台形	S-631より古い。
S - 630	B-3 区	オ - 9	30	26	17	円形	有段開くU字形	
S - 631	B-3 区	オ - 10	26	25	27	隅丸方形	開くU字形	S-629より新しい。
S - 632	B-3 区	オ - 9	30	25	20	楕円形	有段U字形	
S - 633	B-3 区	オ - 9	29	25	25	楕円形	開くU字形	
S - 635	B-3 区	オ - 9	25	23	25	隅丸方形	開くU字形	
S - 636	B-3 区	エ - 10	22	21	23	円形	U字形	
S - 640	B-3 区	オ - 9	19	15	46	隅丸方形	開くU字形	
S - 641	B-3 区	オ - 9	23	16	27	楕円形	開くU字形	
S - 642	B-3 区	オ - 9	25	23	25	円形	開くU字形	
S - 643	B-3 区	オ - 9	20	20	20	円形	有段開くU字形	
S - 644	B-3 区	オ - 10	30	25	32	不整円形	U字形	柱痕明瞭。

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	平面形	断面形	備　　考
S - 645	B-3 区	オ - 10	20	17	40	円形	U字形	S-645と646は近接しているが、それぞれ柱痕に入っている土と、柱の固め土の特徴が異なるため、時期差があると思われる。
S - 646	B-3 区	オ - 10	33	23	17	楕円形	U字形	S-645と646は近接しているが、それぞれ柱痕に入っている土と、柱の固め土の特徴が異なるため、時期差があると思われる。
S - 647	B-3 区	エ - 10	32	32	39	円形	砲弾形	
S - 648	B-3 区	エ - 10	35	33	42	隅丸方形	開くU字形	
S - 649	B-3 区	エ - 10	48	25	39	長方形	開くU字形	
S - 650	B-3 区	ウ - 9	45	28	23	不整楕円形	砲弾形	S-651より古い。
S - 651	B-3 区	ウ - 9	20	〔12〕	16	楕円形	開くU字形	S-650より新しい。S-489との新旧関係不明。
S - 652	B-3 区	エ - 9	26	20	19	楕円形	U字形	柱痕明瞭。
S - 653	B-3 区	エ - 8	24	23	25	円形	有段U字形	
S - 654	B-3 区	エ - 9	35	19	32	長方形	有段開くU字形	掘方2基か。
S - 656	B-3 区	ウ - 10	38	25	19	隅丸方形	逆台形	
S - 657	B-3 区	ウ - 10	33	25	28	不整円形	有段U字形	柱のあとが明瞭に確認できる。周囲のほかのピット状遺構との覆土とはやや異なり、断面形もやや先頭形の特徴的なもので、柱穴列や堀立柱建物跡関連の柱穴では無いと思われる。
S - 658	B-3 区	ウ - 10	32	26	30	楕円形	砲弾形	
S - 659	B-3 区	エ - 10	〔26〕	23	34	円形	U字形	S-660と重複する。はっきりした新旧関係は不明だが、S-660より古い可能性が高い。
S - 660	B-3 区	エ - 10	40	25	38	楕円形	開くU字形	S-659と重複する。はっきりした新旧関係は不明だが、S-659より新しい可能性が高い。
S - 661	B-3 区	ウ - 10	45	43	42	円形	開くU字形	
S - 663	B-3 区	ウ - 10	20	20	39	隅丸方形	U字形	
S - 664	B-3 区	エ - 9	26	24	〔34〕	円形	U字形	
S - 665	B-3 区	エ - 9	27	22	21	円形	開くU字形	
S - 669	B-3 区	キ - 7	30	25	7	円形	逆台形	
S - 671	B-3 区	キ - 7	44	39	15	楕円形	開くU字形	
S - 672	B-3 区	キ - 7	35	30	14	不整円形	逆台形	
S - 673	B-3 区	キ - 7	43	43	16	円形	逆台形	
S - 674	B-3 区	キ - 7	55	45	8	不整楕円形	皿状	
S - 675	B-3 区	エ - 9	20	18	30	方形	U字形	
S - 677	B-3 区	エ - 11	28	27	17	円形	逆台形	
S - 679	B-4 区	カ - 13	30	29	〔40〕	楕円形	開くU字形	SE-594の井戸に伴う施設ピットの可能性有り。
S - 680	B-4 区	キ - 13	24	23	8	楕円形	逆台形	SE-594の井戸に伴う施設ピットの可能性有り。
S - 685	B-3 区	ウ - 9	18	18	〔10〕	円形	逆台形	
S - 686	B-3 区	ウ - 9	23	23	〔13〕	円形	逆台形	
S - 687	B-3 区	ウ - 9	21	20	〔9〕	隅丸方形	逆台形	
S - 689	B-3 区	オ - 9	25	23	28	円形	開くU字形	
S - 690	B-3 区	オ - 9	23	20	14	不整円形	逆台形	
S - 691	B-3 区	エ - 9	20	19	15	円形	-	
S - 692	B-3 区	オ - 9	30	27	10	円形	-	
S - 693	B-3 区	オ - 10	31	24	20	楕円形	有段開くU字形	
S - 694	B-3 区	オ - 10	26	24	23	円形	開くU字形	
S - 695	B-3 区	オ - 10	23	21	24	隅丸方形	開くU字形	
S - 696	B-3 区	オ - 10	24	21	31	隅丸方形	開くU字形	
S - 697	B-3 区	オ - 10	20	17	15	不整円形	逆台形	
S - 698	B-3 区	エ - 11	30	26	13	円形	逆台形	
S - 699	B-3 区	カ - 10	23	23	12	円形	逆台形	
S - 700	B-3 区	キ - 7	20	〔17〕	9	円形	逆台形	SK-670より古い。
S - 702	B-4 区	キ - 10	45	33	24	楕円形	有段逆台形	掘方2基分か。
S - 703	B-4 区	キ - 11	25	25	14	円形	逆台形	
S - 704	B-4 区	キ - 11	25	22	25	円形	逆台形	
S - 705	B-4 区	キ - 11	22	20	12	方形	逆台形	
S - 728	D 区	オ - 18	60	45	27	不整楕円形	逆台形	
S - 729	D 区	オ - 18	60	〔55〕	16	不整楕円形	(皿状)	南側壁部は現代の用水路に切られて不明。
S - 736	D 区	エ - 18	62	60	15	不整円形	逆台形	

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	平面形	断面形	備　　考
S - 776	D 区	イ - 16	55	30	54	不整円形	U字形	２基分の掘方が見られるが、上部の覆土は同じなので少なくとも上の部分は同じ時期に埋まったもの。
S - 784	D 区	イ - 14	45	41	20	隅丸方形	逆台形	
S - 785	D 区	イ - 14	52	50	17	隅丸方形	逆台形	
S - 786	D 区	ア - 14	45	45	32	円形	逆台形	
S - 787	D 区	イ - 14	27	23	20	楕円形	開くU字形	
S - 788	D 区	イ - 14	53	37	30	楕円形	逆台形	
S - 790	D 区	イ - 13	65	60	43	円形	U字形	形状や堆積の特徴が類似するため、S-792とほぼ同時期の関連のあるピット状遺構と考えられる。
S - 791	D 区	イ - 13	〔94〕	28	14	長方形	凹凸のある皿状	S-790より古い細長く浅い形状の遺構だが、S-790との関わりが考えられるためS番号で掲載した。
S - 792	D 区	イ - 13	72	68	38	円形	逆台形	S-790と類似するピット状遺構。
S - 793	D 区	イ - 13	39	37	17	円形	逆台形	底面、壁とも整った掘方。
S - 794	D 区	イ - 13	50	43	44	円形の連結形	有段開くU字形	掘り上がりの形状と土層から、1･2･3層から成るピット状遺構と、4層から成るピット状遺構の重複に思われたが、柱痕と埋め方とも考えられる。1層と4層は同様な土で。良好な柱穴。
S - 795	D 区	イ - 13	38	37	20	円形	逆台形	
S - 796	D 区	イ - 13	50	45	〔35〕	楕円形	開くU字形	
S - 797	D 区	イ - 13	80	48	38	不整楕円形	不整形	斜めに柱を差し込んだような(斜め柱穴) 明瞭な掘方からなる。S-797が埋まった後に、1･2層の覆土を持つ新しいピット状遺構が掘り込まれた可能性有り。
S - 799	D 区	ア - 15	53	48	20	不整楕円形	凹凸のある逆台形	A・B、2基の重複から成る。南の799Aのほうが799Bより新しい。
S - 801	D 区	イ - 16	45	30	15	楕円形	逆台形	S-802より古い。
S - 802	D 区	イ - 16	30	〔30〕	13	円形	逆台形	S-801より新しい。
S - 803	D 区	ア - 15	57	48	16	楕円形	凹凸のある皿状	S-804より新しい。805と接するが切合関係がないため、新旧不明。
S - 804	D 区	ア - 15	〔55〕	〔45〕	13	不整楕円形	逆台形	SZ-777の覆土と類似しており、同時期に近い遺構と思われる。S-803・805より古い。
S - 805	D 区	ア - 15	〔20〕	〔20〕	13	円形	逆台形	S-804より新しい。S-803と接するが切合関係がないため、新旧不明。
S - 809	D 区	イ - 12	50	〔30〕	42	(隅丸方形)	U字形	
S - 810	D 区	イ - 12	38	38	44	円形	U字形	
S - 811	D 区	イ - 12	60	54	38	円形	開くU字形	S-812より古い。
S - 812	D 区	イ - 12	67	50	20	不整円形	逆台形	S-811より新しい。
S - 813	D 区	イ - 13	75	67	35	円形	開くU字形	
S - 814	D 区	ウ - 13	65	〔30〕	19	(楕円形)	椀形	北東部が調査区外へ続くため不明。
S - 815	D 区	ウ - 13	60	45	40	楕円形	不整逆台形	底面に明瞭な柱痕。
S - 816	D 区	イ - 13	55	48	20	円形	逆台形	
S - 817	D 区	イ - 13	56	54	35	円形	逆台形	1層中より内耳土器出土。図示。
S - 818	D 区	イ - 13	55	49	39	楕円形	開くU字形	柱痕明瞭。
S - 820	D 区	ウ - 13	54	39	27	楕円形	逆台形	
S - 821	D 区	ウ - 13	45	43	35	円形	逆台形	S-821と823、822が重複。S-821の掘方よりS-823が新しいが、上部は同時に埋まっている。S-822はS-821・823より新しい。
S - 822	D 区	ウ - 13	〔24〕	〔24〕	12	円形	開くU字形	S-821と823、822が重複。S-822はS-821・823より新しい。
S - 823	D 区	ウ - 13	45	43	39	円形	U字形	S-821と823、822が重複。S-821の掘方よりS-823が新しいが、上部は同時に埋まっている。S-822はS-821・823より新しい。
S - 825	D 区	ウ - 13	50	47	33	円形	U字形	S-825と826は隣接し、確認面上部で2cm程重複するが、新旧関係は不明瞭。
S - 826	D 区	ウ - 13	37	32	27	円形	U字形	S-826と825は隣接し、確認面上部で2cm程重複するが、新旧関係は不明瞭。
S - 831	D 区	ウ - 18	〔35〕	〔25〕	23	楕円形	有段開くU字形	柱痕明瞭。
S - 838	D 区	ウ - 17	28	28	12	円形	有段開くU字形	
S - 857	D 区	イ - 17	〔50〕	〔50〕	10	円形	皿状	SD-773・SX-835より新しい。
S - 858	D 区	ウ - 17	70	48	27	楕円形	有段開くU字形	SD-830より新しい。複数の掘方が重複する可能性有り。
S - 860	D 区	オ - 17	89	50	20	隅丸長方形	有段逆台形	

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	平面形	断面形	備　　考
S - 861	D 区	オ - 17	43	37	37	楕円形	開くU字形	
S - 862	D 区	オ - 17	65	60	25	長方形	有段開くU字形	
S - 863	D 区	オ - 17	30	30	〔20〕	円形	開くU字形	
S - 864	D 区	カ - 18	56	53	29	円形	逆台形	
S - 865	D 区	オ - 17	55	43	35	楕円形	開くU字形	
S - 866	D 区	オ - 17	48	33	24	楕円形	逆台形	
S - 870	D 区	イ - 13	60	48	38	楕円形	逆台形	SK-869より新しい。
S - 872	D 区	オ - 17	40	33	5	不整楕円形	皿状	
S - 873	D 区	オ - 17	40	34	26	楕円形	開くU字形	
S - 875	D 区	カ - 18	54	45	8	不整楕円形	皿状	
S - 877	D 区	オ - 17	50	40	22	楕円形	逆台形	SK-876より新しい。
S - 878	D 区	オ - 17	55	43	35	不整円形	逆台形	S-878・879・880・904・905・926・927で掘立柱建物跡を構成する可能性有り。
S - 879	D 区	オ - 17	50	45	23	不整楕円形	逆台形	S-878・879・880・904・905・926・927で掘立柱建物跡を構成する可能性有り。
S - 880	D 区	オ - 17	40	40	〔36〕	円形	開くU字形	S-878・879・880・904・905・926・927で掘立柱建物跡を構成する可能性有り。
S - 881	D 区	カ - 17	35	30	〔25〕	隅丸方形	開くU字形	S-881～885は覆土とその様子が類似する。
S - 882	D 区	カ - 17	33	25	〔37〕	楕円形	開くU字形	
S - 883	D 区	カ - 17	30	30	〔22〕	円形	開くU字形	
S - 884	D 区	カ - 17	35	30	20	隅丸方形	開くU字形	
S - 885	D 区	カ - 17	27	25	13	隅丸方形	有段開くU字形	
S - 886	D 区	カ - 17	35	34	25	円形	開くU字形	柱痕明瞭。
S - 887	D 区	オ - 17	20	19	7	円形	有段逆台形	S-887とS-888は、掘方に段のある点などが共通している。
S - 888	D 区	カ - 17	23	22	18	円形	有段U字形	
S - 893	D 区	ウ - 14	36	25	13	楕円形	開くU字形	SD-890と重複するが新旧関係不明。
S - 898	D 区	イ - 13	45	43	〔40〕	隅丸方形	U字形	S-915と重複するが新旧関係不明。S-917より古い。
S - 901	D 区	カ - 17	50	32	〔15〕	不整楕円形	有段開くU字形	掘方は粗雑だが地山を埋め方の一部にした柱穴か。
S - 902	D 区	カ - 17	30	22	10	楕円形	逆台形	
S - 903	D 区	オ - 16	35	30	16	楕円形	逆台形	
S - 904	D 区	オ - 16	45	40	25	楕円形	逆台形	S-878・879・880・904・905・926・927で掘立柱建物跡を構成する可能性有り。
S - 905	D 区	オ - 16	60	55	27	円形	有段開くU字形	柱痕明瞭。S-878・879・880・904・905・926・927で掘立柱建物跡を構成する可能性有り。
S - 906	D 区	オ - 16	44	34	13	楕円形	逆台形	
S - 907	D 区	オ - 16	25	22	5	円形	皿状	
S - 908	D 区	オ - 17	40	37	15	楕円形	有段逆台形	
S - 909	D 区	オ - 17	25	23	〔15〕	円形	開くU字形	
S - 910	D 区	イ - 13	78	72	34	楕円形	開くU字形	S-910・911・912が切り合う。上部の方でわずかに切り合う様子からはS-911より910が新しい。912との切り合いは土層断面では観察できなかったが、平面での切り合いの様子から、S-912が新しいと思われる。
S - 911	D 区	イ - 13	〔43〕	〔35〕	45	円形	開くU字形	911と912の切り合いは土層断面では観察できなかったが平面での切り合いの様子からS-912が新しいと思われる。S-910より古い。912との切り合いは土層断面では観察できなかったが、平面での切り合いの様子から、S-912が新しいと思われる。
S - 912	D 区	イ - 13	120	95	48	不整楕円形	逆台形	S-910・911・913と重複する。S-913より新しい。S-910・911との切り合いは土層断面では観察できなかったが、平面での切り合いの様子から両者よりS-912が新しいと思われる。複数の掘方の集合の可能性有り。底面には明瞭な工具痕有り。
S - 913	D 区	イ - 13	57	〔40〕	45	楕円形	有段U字形	S-912より古い。
S - 914	D 区	イ - 13	45	38	21	楕円形	開くU字形	
S - 915	D 区	イ - 13	102	〔80〕	48	楕円形	逆台形	S-916・917・918より古い。S-898とも重複するが新旧関係不明。
S - 916	D 区	イ - 13	35	33	33	円形	U字形	S-915より新しい。煙管出土。
S - 917	D 区	イ - 13	〔23〕	〔22〕	15	円形	逆台形	S-898・915より新しい。
S - 918	D 区	イ - 12	82	45	27	不整楕円形	U字形	S-915より新しい。S-917とは切り合わない。

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	備　　考
S - 919	D 区	ア - 14	32	28	28	円形	U字形	
S - 920	D 区	ア - 14	30	30	42	円形	U字形	
S - 921	D 区	ア - 14	26	23	30	円形	開くU字形	柱痕明瞭。
S - 924	D 区	カ - 18	38	34	11	楕円形	逆台形	
S - 926	D 区	オ - 16	〔37〕	36	17	円形	有段開くU字形	S-927と重複し、これより古い。S-878・879・880・904・905・926・927で掘立柱建物跡を構成する可能性有り。
S - 927	D 区	オ - 16	50	37	24	楕円形	逆台形	S-926と重複し、これより新しい。掘り替えか。S-878・879・880・904・905・926・927で掘立柱建物跡を構成する可能性有り。
S - 928	D 区	オ - 17	46	30	13	楕円形	有段逆台形	
S - 929	D 区	エ - 16	55	40	33	楕円形	開くU字形	S-930と隣接する。
S - 930	D 区	オ - 16	46	42	34	楕円形	有段逆台形	S-929と隣接する。
S - 931	D 区	エ - 16	38	33	10	楕円形	逆台形	
S - 1011	H 区	ミ - 58	45	35	16	楕円形	不整開くU字形	
S - 1012	H 区	ミ - 59	42	31	11	不整楕円形	凹凸ある皿状	
S - 1013	H 区	ミ - 59	32	25	19	楕円形	開くU字形	
S - 1014	H 区	ミ - 60	23	19	18	隅丸方形	不整U字形	
S - 1015	H 区	ミ - 60	27	20	8	楕円形	皿状	
S - 1016	H 区	マ - 60	35	28	7	楕円形	開くU字形	
S - 1017	H 区	マ - 61	45	30	10	隅丸長方形	開くU字形	
S - 1018	H 区	ミ - 63	31	24	14	不整楕円形	有段開くU字形	上が広がった形良好なピット。
S - 1019	H 区	ミ - 64	24	22	10	円形	U字形	小さいが形良好。
S - 1020	H 区	ム - 64	18	11	14	隅丸三角形	U字形	
S - 1021	H 区	ム - 64	17	16	11	隅丸方形	逆台形	
S - 1022	H 区	ム - 65	37	35	9	円形	開くU字形	
S - 1023	H 区	メ - 65	34	31	10	円形	開くU字形	
S - 1024	H 区	ム - 65	20	17	8	隅丸方形	U字形	
S - 1025	H 区	ム - 66	26	25	10	円形	開くU字形	
S - 1026	H 区	ム - 65	21	20	22	隅丸方形	不整U字形	
S - 1028	H 区	モ - 65	34	27	10	楕円形	不整逆台形	
S - 1030	H 区	モ - 66	40	39	7	円形	皿状	
S - 1031	H 区	モ - 66	44	36	11	楕円形	開くU字形	
S - 1033	H 区	ム - 65	23	14	8	楕円形	U字形	
S - 1034	H 区	メ - 65	26	20	12	楕円形	開くU字形	
S - 1035	H 区	メ - 66	21	20	12	円形	U字形	
S - 1036	H 区	モ - 66	44	43	13	隅丸方形	不整開くU字形	
S - 1037	H 区	メ - 66	24	23	7	円形	開くU字形	
S - 1038	H 区	メ - 67	54	35	26	円形	有段不整U字形	抜き取り痕か。
S - 1039	H 区	モ - 67	43	27	13	隅丸不整方形	開くU字形	形良好。
S - 1040	H 区	メ - 67	37	〔23〕	7	隅丸方形	開くU字形	S-1041と重複するが、新旧不明。
S - 1041	H 区	メ - 67	〔46〕	34	7	楕円形	開くU字形	S-1040と重複するが、新旧不明。
S - 1042	H 区	モ - 67	58	47	12	楕円形	逆台形	
S - 1043	H 区	モ - 67	45	41	11	隅丸方形	逆台形	形良好。
S - 1044	H 区	モ - 68	45	40	20	楕円形	有段U字形	
S - 1045	H 区	ユ - 68	31	28	13	円形	逆台形	
S - 1046	H 区	モ - 68	45	43	18	円形	開くU字形	
S - 1048	H 区	メ - 68	30	23	8	楕円形	不整開くU字形	
S - 1049	H 区	メ - 68	45	23	13	不整楕円形	逆台形	壁の形やや不整。
S - 1050	H 区	メ - 69	25	23	11	円形	U字形	形良好。
S - 1051	H 区	モ - 61	29	23	19	楕円形	U字形	
S - 1052	H 区	モ - 61	29	20	19	隅丸方形	U字形	
S - 1053	H 区	モ - 61	21	20	13	不整円形	有段U字形	
S - 1054	H 区	モ - 61	21	17	21	不整円形	U字形	
S - 1055	H 区	モ - 61	17	14	19	楕円形	U字形	
S - 1056	H 区	モ - 62	42	34	15	楕円形	逆台形	
S - 1057	H 区	ヤ - 61	41	36	14	楕円形	開くU字形	
S - 1058	H 区	ヤ - 61	35	28	13	楕円形	開くU字形	
S - 1059	H 区	ヤ - 62	32	29	11	楕円形	U字形	
S - 1060	H 区	ユ - 62	51	49	17	円形	不整逆台形	
S - 1061	H 区	ヤ - 62	40	35	18	楕円形	有段逆台形	

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	平面形	断面形	備　　考
S -1062	H 区	ヤ - 63	38	33	27	楕円形	不整逆台形	
S -1063	H 区	ユ - 63	41	33	18	楕円形	逆台形	
S -1064	H 区	ユ - 63	44	30	17	楕円形	不整逆台形	
S -1066	H 区	ム - 58	24	18	6	楕円形	皿状	
S -1067	H 区	ム - 58	30	26	12	楕円形	開くU字形	S-1068より古い。ごく浅くて小さいが形良好。土も黒色の、ピットらしい土。
S -1068	H 区	ム - 58	〔35〕	30	10	隅丸方形	開くU字形	S-1067より新しい。平面観察では、中央部がはっきり黒く見える(a層）。柱痕。
S -1069	H 区	ヤ - 58	24	21	4	不整楕円形	皿状	ごく浅いピットだが、覆土ははっきりとした黒色土。
S -1070	H 区	ヤ - 59	58	35	10	不整隅丸長方形	凹凸ある皿状	
S -1071	H 区	モ - 59	27	26	7	隅丸方形	皿状	S-1066と類似。浅いが形良好。
S -1072	H 区	メ - 59	23	22	11	円形	逆台形	
S -1073	H 区	モ - 60	61	31	10	長方形	凹凸ある皿状	
S -1074	H 区	ヤ - 60	32	25	7	楕円形	開くU字形	
S -1075	H 区	ヤ - 60	53	32	14	不整方形	有段開くU字形	
S -1076	H 区	ヤ - 60	40	33	6	円形	皿状	
S -1077	H 区	ヤ - 60	34	20	9	不整楕円形	開くU字形	
S -1078	H 区	ヤ - 60	25	23	5	円形	皿状	
S -1079	H 区	ヤ - 60	11	9	6	円形	U字形	
S -1080	H 区	ヤ - 60	27	23	6	楕円形	皿状	
S -1081	H 区	ヤ - 60	42	37	9	隅丸方形	逆台形	
S -1082	H 区	ヤ - 59	34	33	14	隅丸方形	有段開くU字形	
S -1083	H 区	ヤ - 59	37	22	11	楕円形	開くU字形	
S -1084	H 区	ヤ - 60	24	20	11	楕円形	逆台形	
S -1085	H 区	ヤ - 60	20	17	8	円形	U字形	
S -1087	H 区	メ - 61	74	43	15	不整隅丸長方形	皿状	形良好。
S -1088	H 区	メ - 61	30	19	7	楕円形	開くU字形	小さいが形良好。
S -1089	H 区	メ - 61	25	18	6	楕円形	皿状	
S -1092	H 区	ラ - 68	45	33	33	不整楕円形	有段U字形	
S -1093	H 区	ヤ - 64	33	32	11	隅丸方形	開くU字形	形良好。
S -1102	E 区	ヌ - 35	56	48	15	楕円形	有段逆台形	
S -1103	E 区	ヌ - 35	35	31	45	不整楕円形	砲弾形	
S -1104	E 区	ネ - 34	26	22	24	楕円形	不整U字形	平安時代の確認面の上より掘られている柱穴。周辺に多く見られるタイプ。
S -1105	E 区	ネ - 34	19	15	16	円形	筒形	南に広がる平安時代住居跡の重なりの時期より新しい。
S -1109	E 区	ヌ - 35	29	25	12	円形	開くU字形	小さいが形良好。
S -1112	E 区	ヌ - 35	66	54	24	不整円形	有段逆台形	上面を貼っている。SI-1007のP5より古いピット状遺構。
S -1118	E 区	ネ - 35	67	56	34	隅丸方形	逆台形	SI-1007より新しい。
S -1122	F -1 区	ハ - 43	25	23	17	円形	有段逆台形	S-1123より新しい。
S -1123	F -1 区	ハ - 43	〔27〕	24	22	円形	U字形	S-1122より古い。
S -1124	F -1 区	ハ - 43	45	31	10	円形	開くU字形	
S -1125	F -1 区	ハ - 43	26	24	8	円形	逆台形	
S -1126	F -1 区	ヒ - 43	20	18	14	円形	U字形	
S -1127	F -1 区	ヒ - 43	42	29	9	楕円形	皿状	
S -1128	F -1 区	ハ - 43	24	21	13	不整円形	U字形	
S -1129	F -1 区	ノ - 42	52	50	23	隅丸方形	逆台形	S-1130より古い。
S -1130	F -1 区	ノ - 42	49	36	32	楕円形	有段U字形	S-1129より新しい。
S -1132	F -1 区	ネ - 42	39	34	9	隅丸方形	逆台形	
S -1133	F -1 区	ネ - 42	37	32	9	隅丸方形	逆台形	
S -1134	F -1 区	ネ - 42	37	34	13	丸形	U字形	
S -1135	F -1 区	ネ - 43	36	31	16	楕円形	不整逆台形	
S -1136	F -1 区	ヌ - 43	23	20	16	隅丸方形	U字形	
S -1138	F -1 区	ハ - 41	24	20	8	不整長方形	逆台形	
S -1141	F -1 区	ノ - 47	41	32	17	円形	逆台形	S-1142と隣接する。
S -1142	F -1 区	ノ - 47	33	27	17	隅丸方形	逆台形	S-1141・1143と隣接する。
S -1143	F -1 区	ノ - 47	29	28	26	隅丸方形	逆台形	S-1142と隣接する。柱痕明瞭。
S -1144	F -1 区	ノ - 47	40	34	23	隅丸方形	逆台形	
S -1145	F -1 区	ノ - 47	30	27	52	不整円形	砲弾形	S-1146より新しい。
S -1146	F -1 区	ノ - 47	25	21	36	円形	砲弾型	S-1145より古い。
S -1147	F -1 区	ノ - 47	27	24	26	円形	U字形	

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	平面形	断面形	備　　考
S -1148	F-1 区	ネ- 47	26	24	28	不整形	U字形	S-1149より古い。
S -1149	F-1 区	ネ- 47	44	25	22	不整楕円形	開くU字形	S-1148より新しい。
S -1150	F-1 区	ネ- 47	19	16	26	円形	U字形	
S -1151	F-1 区	ノ- 47	21	20	10	隅丸方形	開くU字形	
S -1152	F-1 区	ネ- 47	42	34	28	不整円形	開くU字形	
S -1153	F-1 区	ネ- 47	46	40	11	方形	逆台形	底面は広く平坦。
S -1154	F-1 区	ネ- 47	28	24	24	円形	開くU字形	
S -1155	F-1 区	ネ- 47	36	34	34	円形	開くU字形	
S -1156	F-1 区	ネ- 47	59	38	47	楕円形	有段逆台形	S-1157より古い。
S -1157	F-1 区	ネ- 47	〔56〕	51	18	隅丸方形	逆台形	S-1156・1341より新しい。
S -1158	F-1 区	ネ- 47	23	〔20〕	6	円形	U字形	S-1341より新しい。
S -1159	F-1 区	ネ- 47	30	25	29	隅丸方形	U字形	
S -1160	F-1 区	ネ- 47	50	44	17	楕円形	開くU字形	
S -1161	F-1 区	ノ- 47	38	32	16	隅丸方形	U字形	S-1162と隣接する。
S -1162	F-1 区	ノ- 47	31	28	15	円形	U字形	S-1161と隣接する。
S -1163	F-1 区	ノ- 46	40	31	16	隅丸方形	開くU字形	
S -1164	F-1 区	ノ- 46	31	21	8	楕円形	開くU字形	
S -1165	F-1 区	ノ- 47	45	26	18	不整楕円形	開くU字形	
S -1166	F-1 区	ネ- 47	27	24	41	隅丸方形	開くU字形	S-1167より新しい。
S -1167	F-1 区	ネ- 47	〔41〕	〔37〕	19	不整円形	逆台形	S-1166・1273より古い。
S -1168	F-1 区	ネ- 47	36	31	13	不整楕円形	開くU字形	近世以降のものか。
S -1169	F-1 区	ヒ- 40	73	55	44	不整円形	逆台形	穴が掘られてから埋め戻されるまで長い時間はかかっていない。周囲の新しい(江戸以降)溝の覆土との類似から、近世以降の遺構と思われる。
S -1170	F-1 区	ヒ- 40	70	57	73	不整円形	逆台形	
S -1174	F-1 区	ノ- 47	21	19	12	方形	U字形	
S -1175	F-1 区	ノ- 47	34	32	24	隅丸方形	U字形	
S -1176	F-1 区	ノ- 47	20	18	10	不整楕円形	U字形	
S -1178	F-1 区	ネ- 46	〔30〕	24	58	不整楕円形	U字形	S-1179より古い。
S -1179	F-1 区	ネ- 46	46	33	22	不整楕円形	開くU字形	S-1178より新しい。柱痕明瞭。
S -1180	F-1 区	ネ- 46	36	34	36	不整円形	砲弾形	
S -1181	F-1 区	ネ- 46	34	24	19	楕円形	開くU字形	
S -1182	F-1 区	ネ- 46	30	28	29	不整楕円形	開くU字形	
S -1183	F-1 区	ネ- 46	24	21	14	隅丸方形	逆台形	
S -1184	F-1 区	ネ- 46	〔44〕	18	27	楕円形	開くU字形	S-1185より古い。
S -1185	F-1 区	ネ- 46	43	34	27	不整円形	U字形	S-1184・1186より新しい。
S -1186	F-1 区	ネ- 46	〔34〕	30	16	円形	U字形	S-1185より古い。
S -1187	F-1 区	ネ- 46	43	37	28	不整円形	逆台形	柱痕明瞭。
S -1188	F-1 区	ノ- 46	44	25	33	不整円形	開くU字形	SK-1189より古い。底面に近い覆土より、土師器の甕胴部破片1点出土。
S -1191	F-1 区	ネ- 46	26	17	13	楕円形	開くU字形	S-1192より古い。
S -1192	F-1 区	ネ- 46	22	15	13	楕円形	開くU字形	S-1191より新しい。
S -1193	F-1 区	ネ- 46	24	20	26	円形	U字形	
S -1194	F-1 区	ネ- 46	56	42	38	楕円形	開くU字形	S-1195より新しい。S-1195の抜き取り痕跡ではない。
S -1195	F-1 区	ネ- 46	〔22〕	17	55	隅丸方形	U字形	S-1194より古い。
S -1196	F-1 区	ネ- 46	52	19	24	不整楕円形	有段逆台形	S-1197より新しい。
S -1197	F-1 区	ネ- 46	18	16	31	楕円形	U字形	S-1196より古い。
S -1198	F-1 区	ネ- 46	43	30	〔43〕	不正楕円形	有段U字形	
S -1199	F-1 区	ネ- 46	40	21	13	楕円形	逆台形	
S -1201	F-1 区	ネ- 46	33	17	18	楕円形	開くU字形	
S -1203	F-1 区	ネ- 46	22	21	13	隅丸方形	逆台形	
S -1204	F-1 区	ネ- 46	30	29	42	円形	開くU字形	柱痕あり。1層の中程から土師質の皿と擂鉢の破片出土。図示。
S -1205	F-1 区	ネ- 46	43	29	32	楕円形	U字形	柱痕明瞭。
S -1206	F-1 区	ネ- 46	54	40	16	不整楕円形	逆台形	
S -1208	F-1 区	ネ- 46	43	36	20	不整楕円形	開くU字形	SK-1207と重複するが新旧関係不明。
S -1209	F-1 区	ネ- 46	36	27	39	楕円形	開くU字形	S-1210と隣接する。形のしっかりした柱穴。
S -1210	F-1 区	ネ- 46	32	30	31	楕円形	開くU字形	S-1209と隣接する。形のしっかりした柱穴。
S -1211	F-1 区	ネ- 46	37	32	47	不整円形	砲弾形	
S -1212	F-1 区	ネ- 46	28	22	14	楕円形	開くU字形	
S -1213	F-1 区	ネ- 46	31	30	16	隅丸方形	開くU字形	柱痕あり。

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	平面形	断面形	備　　考
S - 1214	F-1 区	ネ - 45	25	21	9	不整楕円形	逆台形	
S - 1215	F-1 区	ネ - 46	36	34	33	隅丸方形	逆台形	
S - 1216	F-1 区	ネ - 46	25	22	35	隅丸方形	開くU字形	
S - 1218	F-1 区	ネ - 45	32	27	24	方形	逆台形	
S - 1219	F-1 区	ネ - 47	58	33	24	不整円形	逆台形	柱痕あり。SK-1220より古い。
S - 1221	F-1 区	ネ - 47	70	35	45	不整楕円形	不明	S-1344より新しく、S-1345より古い。
S - 1222	F-1 区	ノ - 46	53	52	43	不整円形	開くU字形	S-1223より古い。
S - 1223	F-1 区	ノ - 46	70	53	17	不整楕円形	不整逆台形	S-1222より新しい。
S - 1224	F-1 区	ノ - 46	16	15	16	円形	U字形	
S - 1225	F-1 区	ノ - 46	38	26	21	不整楕円形	逆台形	柱痕あり。
S - 1226	F-1 区	ノ - 46	29	22	20	楕円形	U字形	柱痕あり。
S - 1227	F-1 区	ノ - 46	42	36	26	不整楕円形	開くU字形	
S - 1228	F-1 区	ノ - 46	60	50	15	楕円形	逆台形	SB-1139と同時掲載。
S - 1230	F-1 区	ノ - 46	26	20	22	隅丸方形	逆台形	SB-1139と同時掲載。
S - 1231	F-1 区	ノ - 46	63	52	13	楕円形	逆台形	SB-1139と同時掲載。
S - 1233	F-1 区	ノ - 46	25	23	18	円形	逆台形	SB-1139と同時掲載。
S - 1234	F-1 区	ノ - 46	46	44	14	不整楕円形	逆台形	SB-1139と同時掲載。
S - 1236	F-1 区	ノ - 46	34	30	22	隅丸方形	開くU字形	SB-1139と同時掲載。
S - 1237	F-1 区	ノ - 46	43	35	15	不整楕円形	逆台形	SB-1139と同時掲載。
S - 1240	F-1 区	ノ - 46	45	39	14	不整楕円形	逆台形	SB-1139と同時掲載。
S - 1241	F-1 区	ネ - 47	53	38	15	隅丸方形	逆台形	SK-1220より新しい。
S - 1242	F-1 区	ノ - 47	53	38	64	不整楕円形	開くU字形	1層中より土師質皿の破片出土。図示。
S - 1244	F-1 区	ノ - 47	35	32	19	不整円形	開くU字形	SK-1243より古い。
S - 1245	F-1 区	ノ - 46	50	32	17	楕円形	逆台形	SB-1139と同時掲載。
S - 1246	F-1 区	ネ - 45	27	24	36	隅丸方形	筒形	形のしっかりした柱穴。
S - 1247	F-1 区	ネ - 45	28	23	18	楕円形	開くU字形	
S - 1250	F-1 区	ノ - 45	31	22	7	楕円形	開くU字形	
S - 1251	F-1 区	ノ - 45	20	19	16	隅丸方形	U字形	
S - 1252	F-1 区	ノ - 45	28	23	10	楕円形	開くU字形	
S - 1253	F-1 区	ノ - 45	28	24	14	不整楕円形	有段U字形	
S - 1254	F-1 区	ノ - 45	34	30	9	隅丸方形	開くU字形	
S - 1255	F-1 区	ノ - 45	31	27	7	楕円形	逆台形	
S - 1257	F-1 区	ハ - 45	33	22	17	楕円形	開くU字形	
S - 1258	F-1 区	ハ - 45	40	33	16	楕円形	開くU字形	
S - 1259	F-1 区	ハ - 45	20	17	10	不整円形	開くU字形	
S - 1261	F-1 区	ノ - 45	45	30	16	楕円形	有段U字形	
S - 1262	F-1 区	ハ - 44	37	35	17	円形	逆台形	
S - 1263	F-1 区	ハ - 44	65	55	7	楕円形	皿状	
S - 1264	F-1 区	ハ - 44	25	20	9	不整楕円形	開くU字形	
S - 1265	F-1 区	ハ - 44	17	14	7	円形	U字形	
S - 1266	F-1 区	ハ - 44	22	18	14	円形	U字形	
S - 1267	F-1 区	ノ - 44	32	28	6	楕円形	皿状	
S - 1268	F-1 区	ノ - 44	33	29	8	円形	不整皿状	
S - 1269	F-1 区	ノ - 44	44	33	10	不整楕円形	皿状	
S - 1270	F-1 区	ネ - 44	34	32	16	不整円形	逆台形	
S - 1271	F-1 区	ネ - 44	31	29	14	円形	逆台形	
S - 1272	F-1 区	ネ - 44	28	27	10	円形	逆台形	
S - 1273	F-1 区	ネ - 47	39	38	55	円形	開くU字形	S-1167より新しい。柱痕明瞭。土師質皿の破片を2点出土。図示。
S - 1274	F-1 区	ネ - 45	51	28	23	不整楕円形	開くU字形	柱痕明瞭。
S - 1275	F-1 区	ネ - 45	41	35	19	隅丸方形	逆台形	
S - 1276	F-1 区	ネ - 45	23	18	23	不整隅丸方形	U字形	S-1277と隣接する。
S - 1277	F-1 区	ネ - 45	30	27	22	不整隅丸方形	逆台形	S-1276と隣接する。覆土上部から内耳土器片を出土するが小片のため図示不能。
S - 1278	F-1 区	ネ - 45	23	18	21	楕円形	開くU字形	
S - 1279	F-1 区	ネ - 45	40	36	21	楕円形	有段逆台形	
S - 1281	F-1 区	ネ - 45	30	25	18	不整円形	開くU字形	SK-1280より新しい。
S - 1282	F-1 区	ネ - 45	29	20	16	不整楕円形	開くU字形	
S - 1283	F-1 区	ネ - 45	31	31	34	円形	開くU字形	形のしっかりした柱穴。
S - 1287	F-1 区	ハ - 38	36	27	33	隅丸長方形	有段U字形	SK-1286と重複するが新旧関係不明。
S - 1288	F-1 区	ネ - 45	26	22	7	不整楕円形	開くU字形	

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	備　　考
S -1289	F-1 区	ネ- 45	26	24	8	不整楕円形	不整逆台形	
S -1290	F-1 区	ネ- 45	22	15	9	楕円形	逆台形	
S -1291	F-1 区	ヌ- 45	25	18	11	不整楕円形	逆台形	
S -1292	F-1 区	ヌ- 45	30	20	10	不整楕円形	開くU字形	
S -1293	F-1 区	ネ- 45	25	21	17	楕円形	U字形	柱痕あり。
S -1294	F-1 区	ネ- 45	41	32	11	隅丸方形	開くU字形	
S -1295	F-1 区	ネ- 45	38	36	14	不整隅丸方形	逆台形	
S -1296	F-1 区	ネ- 45	26	24	9	不整隅丸方形	開くU字形	
S -1297	F-1 区	ネ- 45	37	33	44	楕円形	U字形	形のしっかりした柱穴。
S -1298	F-1 区	ネ- 45	44	36	25	隅丸方形	開くU字形	柱痕あり。
S -1299	F-1 区	ネ- 45	47	40	43	楕円形	開く筒形	形のしっかりした柱穴。
S -1300	F-1 区	ネ- 45	24	23	13	円形	逆台形	S-1301と隣接する。
S -1301	F-1 区	ネ- 45	27	23	15	円形	開くU字形	S-1300・1302と隣接する。
S -1302	F-1 区	ネ- 45	23	19	16	隅丸方形	U字形	S-1301と隣接する。
S -1306	F-1 区	ネ- 45	30	20	14	楕円形	開くU字形	
S -1307	F-1 区	ネ- 45	35	33	15	不整円形	開くU字形	
S -1320	F-1 区	ヌ- 45	30	28	10	隅丸方形	開くU字形	
S -1321	F-1 区	ヌ- 45	〔40〕	30	11	楕円形	逆台形	SK-1319と重複するが新旧関係不明。
S -1323	F-1 区	ネ- 44	27	23	15	隅丸方形	開くU字形	
S -1324	F-1 区	ネ- 44	46	45	10	円形	開くU字形	
S -1325	F-1 区	ネ- 44	31	30	42	円形	U字形	柱痕明瞭。
S -1326	F-1 区	ヌ- 44	50	45	27	円形	開くU字形	
S -1327	F-1 区	ネ- 44	43	40	25	円形	逆台形	
S -1328	F-1 区	ネ- 44	33	28	6	円形	逆台形	
S -1329	F-1 区	ヌ- 44	26	24	14	円形	開くU字形	SK-1322の底面確認中に検出。これより古い。
S -1330	F-1 区	ヌ- 44	24	16	9	不整円形	開くU字形	SK-1322と重複するが新旧関係不明。
S -1331	F-1 区	ヌ- 45	40	28	12	隅丸長方形	開くU字形	
S -1332	F-1 区	ヌ- 44	33	28	27	楕円形	U字形	
S -1333	F-1 区	ヌ- 44	40	35	20	楕円形	開くU字形	
S -1334	F-1 区	ヌ- 44	34	30	18	円形	逆台形	
S -1335	F-1 区	ヌ- 44	41	38	14	円形	逆台形	
S -1336	F-1 区	ノ- 47	27	21	12	楕円形	有段U字形	
S -1337	F-1 区	ノ- 47	38	30	8	楕円形	逆台形	
S -1338	F-1 区	ノ- 46	45	36	11	不整楕円形	開くU字形	
S -1339	F-1 区	ノ- 47	27	25	17	隅丸方形	開くU字形	
S -1340	F-1 区	ノ- 39	87	78	25	円形	方形	SD-1173より新しい。
S -1341	F-1 区	ネ- 47	37	〔23〕	12	不整楕円形	U字形	S-1157・1158より古い。
S -1342	F-1 区	ヒ- 40	30	26	18	楕円形	逆台形	SD-1173より古いと思われる。
S -1343	F-1 区	ノ- 47	〔82〕	-	21	不明	逆台形	東半分が調査区外に続く。
S -1344	F-1 区	ネ- 47	〔57〕	〔40〕	25	円形	不整形	S-1221・1345より古い。
S -1345	F-1 区	ネ- 47	80	47	45	不整円形	U字形	S-1221・1344より新しい。
S -1347	F-1 区	ヌ- 44	33	31	31	楕円形	有段U字形	
S -1348	F-1 区	ヌ- 44	32	30	35	隅丸方形	開くU字形	
S -1349	F-1 区	ヌ- 44	35	28	28	楕円形	有段U字形	
S -1350	F-1 区	ヌ- 44	40	36	17	楕円形	開くU字形	
S -1351	F-1 区	ヌ- 44	47	29	16	隅丸方形	開くU字形	
S -1352	F-1 区	ヌ- 44	34	26	10	楕円形	逆台形	
S -1353	F-1 区	ヌ- 44	44	〔38〕	7	不整隅丸方形	逆台形	S-1354より古い。
S -1354	F-1 区	ヌ- 44	66	47	9	不整楕円形	逆台形	S-1353・1355より新しい。
S -1355	F-1 区	ヌ- 44	50	〔48〕	9	不整隅丸方形	逆台形	S-1354より古い。底面より土師器の高台付埦を出土。図示。
S -1356	F-1 区	ヌ- 44	33	31	16	円形	逆台形	
S -1357	F-1 区	ヌ- 44	30	20	16	不整長方形	逆台形	
S -1358	F-1 区	ネ- 45	26	24	24	隅丸方形	開くU字形	SK-1316と重複するが新旧関係不明。S-1363より新しい。
S -1359	F-1 区	ノ- 38	24	21	10	円形	逆台形	
S -1360	F-1 区	ノ- 38	40	38	40	円形	開くU字形	
S -1361	F-1 区	ハ- 38	25	24	20	円形	開くU字形	SK-1286と重複するが新旧関係不明。
S -1362	F-1 区	ノ- 47	49	42	〔34〕	不整楕円形	有段U字形	
S -1363	F-1 区	ネ- 45	〔23〕	20	13	楕円形	開くU字形	SK-1316と重複するが新旧関係不明。S-1358より古い。
S -1364	F-1 区	ヌ- 44	52	38	10	不整楕円形	凹凸ある皿状	

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	平面形	断面形	備　　考
S -1414	F-3 区	フ - 51	104	57	45	不整楕円形	開くU字形	SD-1400より新しい。覆土中より土師質皿の破片1点と、五輪塔の一部を3点、礫1点を出土。図示。
S -1415	F-3 区	フ - 50	30	28	32	円形	U字形	SD-1400より新しい。
S -1416	F-3 区	フ - 50	77	52	36	-	-	SD-1400・S-1424より古い。
S -1418	F-3 区	へ - 51	50	38	〔40〕	楕円形	開くU字形	SD-1404と重複するが新旧関係不明。
S -1419	F-3 区	フ - 52	53	〔40〕	25	楕円形	逆台形	SD-1404と重複するが新旧関係不明。
S -1420	F-3 区	フ - 52	50	45	43	隅丸方形	U字形	柱痕有り。SD-1403と重複するが新旧関係不明。
S -1421	F-3 区	フ - 52	〔70〕	55	48	不整楕円形	逆台形	SD-1403と重複するが新旧関係不明。
S -1422	F-3 区	フ - 52	43	33	10	円形	逆台形	SD-1403と重複するが新旧関係不明。
S -1423	F-3 区	ホ - 51	71	61	78	楕円形	逆台形	SD-1406より確実に古い遺構。
S -1424	F-3 区	フ - 50	88	55	50	不整隅丸方形	不整逆台形	S-1416・1595より新しい。1595の新しい掘り直しの可能性有り。SD-1400・1401より古い。
S -1425	F-3 区	へ - 51	34	29	34	不整隅丸方形	不整筒形	柱痕あり。
S -1426	F-3 区	フ - 50	44	42	48	楕円形	U字形	柱痕あり。
S -1427	F-3 区	ヒ - 50	63	57	46	楕円形	有段開くU字形	2基の重複の可能性有り。
S -1428	F-3 区	へ - 51	〔35〕	30	40	円形	開くU字形	SD-1404重複するが新旧関係不明。
S -1429	F-3 区	フ - 50	59	48	43	隅丸方形	逆台形	
S -1430	F-3 区	ヒ - 50	20	20	21	不整円形	U字形	S-1431より新しい。
S -1431	F-3 区	ヒ - 50	〔50〕	〔40〕	41	楕円形	有段U字形	S-1430より古い。
S -1432	F-3 区	ヒ - 50	64	59	49	隅丸方形	開くU字形	S-1433より新しい。
S -1433	F-3 区	ヒ - 50	〔58〕	39	40	不整楕円形	有段開くU字形	S-1432より古い。S-1434との新旧関係不明。
S -1434	F-3 区	ヒ - 50	44	〔33〕	33	隅丸三角形	U字形	S-1433と重複するが新旧関係不明。
S -1435	F-3 区	ヒ - 50	33	27	31	楕円形	開くU字形	
S -1436	F-3 区	フ - 50	29	27	18	円形	開くU字形	
S -1437	F-3 区	ヒ - 50	43	36	43	楕円形	U字形	S-1438より古い。S-1440と隣接する。
S -1438	F-3 区	ヒ - 50	〔47〕	44	35	不整円形	不整U字形	S-1437より新しい。
S -1439	F-3 区	ヒ - 50	41	33	38	隅丸方形	開くU字形	
S -1440	F-3 区	ヒ - 50	55	52	41	隅丸方形	逆台形	S-1437と隣接する。柱痕あり。覆土中より五輪塔の一部を出土。図示。
S -1441	F-3 区	ヒ - 50	31	27	35	楕円形	U字形	
S -1442	F-3 区	ヒ - 50	59	57	42	不整円形	逆台形	SD-1400と重複するが新旧関係不明。覆土中より土師質皿の破片を検出。図示。
S -1443	F-3 区	ヒ - 50	43	40	46	不整楕円形	開くU字形	柱痕あり。
S -1444	F-3 区	フ - 51	80	40	46	不整楕円形	開くU字形	SK-1413より古い。SD-1401と重複するが新旧関係不明。
S -1445	F-3 区	フ - 51	111	55	35	楕円形	有段逆台形	SK-1412と重複し、これより古い。柱痕が明瞭に観察でき、抜き取り痕も見られる。覆土中より須恵器の蓋のつまみ部出土。図示。
S -1446	F-3 区	ヒ - 50	〔40〕	41	31	楕円形	逆台形	S-1447・1585より古い。
S -1447	F-3 区	ヒ - 50	40	35	35	楕円形	有段U字形	S-1446・1448・1585より新しい。
S -1448	F-3 区	ヒ - 50	〔43〕	25	39	不整楕円形	開くU字形	S-1447より古い。
S -1449	F-3 区	ヒ - 50	〔30〕	28	23	円形	U字形	
S -1450	F-3 区	ヒ - 50	34	27	47	楕円形	開くU字形	形良好な柱穴。覆土中より土師質皿の破片出土。
S -1451	F-3 区	フ - 52	38	29	8	不整形	逆台形	SD-1403壁面より検出。新旧不明。溝に伴う可能性有り。
S -1452	F-3 区	フ - 52	27	24	20	円形	不整開くU字形	SD-1403壁面より検出。新旧不明。溝に伴う可能性有り。
S -1453	F-3 区	フ - 52	64	50	27	不整楕円形	有段不整逆台形	SD-1403壁面より検出。新旧不明。溝に伴う可能性有り。
S -1454	F-3 区	フ - 52	40	30	18	不整楕円形	有段逆台形	SD-1403壁面より検出。新旧不明。溝に伴う可能性有り。
S -1455	F-3 区	フ - 52	44	36	6	不整楕円形	凹凸ある皿状	SD-1403壁面より検出。新旧不明。溝に伴う可能性有り。
S -1456	F-3 区	フ - 51	27	19	16	不整楕円形	有段不整逆台形	
S -1457	F-3 区	ヒ - 50	56	41	34	不整楕円形	不整逆台形	S-1458・1480・1481より新しい。
S -1458	F-3 区	ヒ - 50	43	40	50	隅丸方形	有段不整逆台形	S-1480・1481より新しく、S-1457より古い。
S -1459	F-3 区	ヒ - 50	39	32	47	楕円形	U字形	S-1460より古い。柱痕あり。
S -1460	F-3 区	ヒ - 50	45	42	45	円形	方形	S-1459より新しい。
S -1461	F-3 区	ヒ - 50	50	42	39	不整楕円形	U字形	柱痕明瞭。
S -1462	F-3 区	ヒ - 50	〔66〕	40	31	不整楕円形	不整逆台形	柱痕有り。S-1463・1484より古い。
S -1463	F-3 区	ヒ - 50	48	42	33	楕円形	有段開くU字形	柱痕有り。S-1462より新しい。

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	備　　考
S -1464	F-3区	ヒ- 51	24	26	41	隅丸方形	U字形	SD-1400・S-1465より新しい。
S -1465	F-3区	ヒ- 51	〔27〕	22	38	楕円形	開くU字形	SD-1400より新しく、S-1464より古い。
S -1466	F-3区	ヒ- 51	42	27	40	楕円形	有段開くU字形	SD-1400より新しい。
S -1467	F-3区	ヒ- 51	45	29	42	不整楕円形	有段不整逆台形	柱痕有り。SD-1400より新しい。
S -1468	F-3区	ヒ- 51	〔26〕	23	〔39〕	不整楕円形	U字形	SD-1400より新しい。柱穴内から五輪塔の空・風輪部が逆位で検出したため断ち割って断面観察を行った。底面直上から柱穴の壁に密着して入っている。人為的に埋設されたようである。
S -1469	F-3区	ヒ- 51	〔40〕	39	22	隅丸方形	不整逆台形	SD-1400より新しい。
S -1470	F-3区	ヒ- 52	36	30	23	隅丸方形	開くU字形	SD-1400より新しい。
S -1471	F-3区	ヒ- 50	35	33	38	円形	U字形	柱痕あり。
S -1472	F-3区	ヒ- 50	36	33	16	隅丸方形	逆台形	
S -1473	F-3区	ヒ- 50	〔38〕	36	36	楕円形	不整逆台形	S-1474より新しく、S-1510より古い。
S -1474	F-3区	ヒ- 50	41	〔39〕	35	楕円形	不整U字形	S-1473より古い。
S -1475	F-3区	ヒ- 50	48	35	24	隅丸長方形	不整開くU字形	
S -1476	F-3区	ヒ- 50	50	51	28	円形	不整逆台形	S-1477より新しい。
S -1477	F-3区	ヒ- 50	34	〔33〕	16	-	-	S-1476より古い。
S -1478	F-3区	フ- 52	95	60	37	不整楕円形	有段逆台形	SD-1403より新しく、S-1661より古い。SD-1403がb層まで埋まった時点で掘られた遺構。
S -1479	F-3区	ヒ- 50	28	27	25	円形	開くU字形	S-1484と隣接する。
S -1480	F-3区	ヒ- 50	〔46〕	36	38	楕円形	逆台形	S-1457・1458より古い。S-1481とも重複するが新旧関係不明。
S -1481	F-3区	ヒ- 50	〔38〕	〔34〕	40	不整楕円形	U字形	S-1457・1458より古い。S-1480とも重複するが新旧関係不明。
S -1482	F-3区	ヒ- 50	38	33	48	円形	有段U字形	S-1483より新しく、S-1636より古い。柱痕有り。
S -1483	F-3区	ヒ- 50	50	〔44〕	27	不整円形	不整逆台形	S-1482より古い。
S -1484	F-3区	ヒ- 50	46	38	31	隅丸方形	有段逆台形	S-1462・1485・1487より新しい。
S -1485	F-3区	ヒ- 50	44	35	34	不整楕円形	逆台形	S-1486・1487より新しく、S-1484より古い。
S -1486	F-3区	ヒ- 50	19	〔17〕	16	円形	逆台形	S-1485より古い。
S -1487	F-3区	ヒ- 50	〔70〕	47	38	楕円形	逆台形	S-1484・1485より古い。
S -1488	F-3区	ヒ- 50	38	36	19	隅丸方形	逆台形	
S -1489	F-3区	ヒ- 50	25	24	25	円形	U字形	
S -1490	F-3区	ヒ- 50	56	45	55	隅丸長方形	有段逆台形	掘方のしっかりした柱穴。
S -1491	F-3区	ヒ- 50	55	50	45	円形	開くU字形	SK-1492より新しい。
S -1493	F-3区	ヒ- 50	30	26	13	不整円形	開くU字形	SK-1492より新しい。
S -1494	F-3区	ヒ- 50	20	15	6	不整楕円形	皿形	S-1495より古い。
S -1495	F-3区	ヒ- 50	40	29	21	楕円形	有段逆台形	S-1494より新しい。平面観察で抜き取り痕跡。
S -1496	F-3区	ヒ- 50	〔55〕	34	28	隅丸長方形	有段逆台形	S-1497・1511より新しい。
S -1497	F-3区	ヒ- 50	20	10	33	隅丸長方形	有段U字形	S-1511より新しく、S-1496より古い。
S -1498	F-3区	ヒ- 50	40	31	15	楕円形	逆台形	
S -1499	F-3区	ヒ- 50	30	28	9	隅丸方形	逆台形	
S -1500	F-3区	ヒ- 50	22	20	12	隅丸方形	U字形	
S -1501	F-3区	ヒ- 50	29	27	25	隅丸方形	開くU字形	
S -1502	F-3区	ヒ- 50	46	42	54	不整楕円形	有段開くU字形	S-1503より新しい。柱痕。抜き取り。
S -1503	F-3区	ヒ- 50	〔34〕	27	30	隅丸長方形	開くU字形	S-1502より古い。
S -1504	F-3区	ヒ- 50	43	40	32	不整楕円形	有段逆台形	柱痕明瞭。S-1587より新しい。
S -1505	F-3区	ヒ- 50	〔57〕	53	38	不整楕円形	逆台形	S-1601・1643より新しい。S-1506より古い。
S -1506	F-3区	ヒ- 50	〔56〕	〔41〕	28	不整楕円形	逆台形	S-1505・1507・1768より新しい。
S -1507	F-3区	ヒ- 50	49	41	24	不整隅丸方形	逆台形	S-1506・1768・1769より古い。
S -1508	F-3区	ヒ- 50	28	24	33	不整方形	U字形	柱痕有り。
S -1509	F-3区	ヒ- 50	63	58	34	不整隅丸方形	逆台形	
S -1510	F-3区	ヒ- 50	29	27	37	隅丸方形	有段U字形	S-1473より新しい。
S -1511	F-3区	ヒ- 50	59	91	35	-	-	S-1496・1497より古い。
S -1521	F-3区	フ- 51	65	30	13	不整楕円形	凹凸ある皿状	SD-1402に伴うものか。
S -1522	F-3区	フ- 51	83	36	13	不整長方形	凹凸ある皿状	SD-1403に伴うものか。
S -1523	F-3区	ヒ- 50	20	19	5	隅丸方形	皿状	
S -1524	F-3区	ヒ- 49	26	20	13	隅丸方形	開くU字形	
S -1525	F-3区	ヒ- 50	33	30	14	不整隅丸方形	不整開くU字形	柱痕有り。
S -1526	F-3区	ヒ- 50	30	29	31	隅丸方形	U字形	
S -1527	F-3区	ヒ- 50	20	19	3	円形	皿状	
S -1528	F-3区	ヒ- 49	54	52	46	不整楕円形	逆台形	

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	平面形	断面形	備　　考
S -1529	F-3 区	ヒ - 49	33	30	34	不整楕円形	有段開くU字形	
S -1530	F-3 区	ヒ - 49	38	〔37〕	17	不整円形	逆台形	S-1531より古い。
S -1531	F-3 区	ヒ - 49	38	30	17	隅丸方形	逆台形	S-1530より新しい。
S -1532	F-3 区	ハ - 50	59	54	34	円形	逆台形	
S -1533	F-3 区	ハ - 49	27	26	27	円形	不整開くU字形	柱痕明瞭。
S -1534	F-3 区	ハ - 49	34	31	26	方形	U字形	柱痕有り。
S -1535	F-3 区	ハ - 49	42	35	39	不整楕円形	有段開くU字形	S-1694より古い。柱痕明瞭。
S -1536	F-3 区	ハ - 49	27	24	33	円形	U字形	
S -1537	F-3 区	ハ - 49	31	28	30	不整円形	U字形	S-1562より新しい。柱痕有り。
S -1538	F-3 区	ハ - 49	29	26	27	不整楕円形	開くU字形	
S -1539	F-3 区	ハ - 49	28	26	32	円形	開くU字形	
S -1540	F-3 区	ハ - 49	26	22	24	不整楕円形	U字形	S-1541と隣接する。
S -1541	F-3 区	ハ - 49	30	28	26	楕円形	U字形	S-1540と隣接する。
S -1542	F-3 区	ハ - 49	37	32	25	隅丸方形	開くU字形	
S -1543	F-3 区	ハ - 49	58	45	68	楕円形	不整U字形	
S -1545	F-3 区	ヒ - 49	29	〔14〕	24	円形	U字形	S-1639より古い。
S -1546	F-3 区	ヒ - 49	35	25	67	円形	不整U字形	S-1640より新しい。
S -1547	F-3 区	ヒ - 49	34	30	45	楕円形	不整U字形	S-1641より新しく、S-1642より古い。
S -1548	F-3 区	ヒ - 49	28	24	41	隅丸方形	不整U字形	S-1549より新しい。
S -1549	F-3 区	ヒ - 49	〔38〕	32	30	不整楕円形	開くU字形	S-1548・1550より古い。
S -1550	F-3 区	ヒ - 49	30	29	29	不整楕円形	開くU字形	S-1549より新しい。覆土中より土師質皿の破片検出。図示。
S -1551	F-3 区	ハ - 49	34	26	13	隅丸方形	不整逆台形	
S -1552	F-3 区	ハ - 49	31	26	17	不整円形	有段開くU字形	S-1553より古い。
S -1553	F-3 区	ハ - 49	41	37	22	不整隅丸方形	有段逆台形	S-1552より新しい。
S -1554	F-3 区	ヒ - 50	24	22	11	円形	逆台形	S-1556と隣接する。
S -1555	F-3 区	ヒ - 50	〔25〕	22	21	不整楕円形	開くU字形	S-1556より古い。
S -1556	F-3 区	ヒ - 50	56	38	19	不整隅丸長方形	有段逆台形	S-1555より新しい。
S -1557	F-3 区	ハ - 50	27	10	13	不整楕円形	開くU字形	S-1558より新しい。
S -1558	F-3 区	ヒ - 50	44	34	32	楕円形	開くU字形	S-1557より古い。
S -1559	F-3 区	ハ - 50	51	27	12	不整楕円形	有段逆台形	
S -1560	F-3 区	ヒ - 50	47	44	23	不整楕円形	不整逆台形	
S -1561	F-3 区	ヒ - 50	42	32	17	隅丸方形	逆台形	
S -1562	F-3 区	ハ - 49	52	42	31	不整楕円形	有段開くU字形	S-1537より古い。
S -1563	F-3 区	フ - 50	45	43	〔30〕	円形	開くU字形	SD-1402と重複するが新旧関係不明。
S -1564	F-3 区	ヒ - 50	〔21〕	20	5	円形	開くU字形	S-1565より新しい。
S -1565	F-3 区	ヒ - 50	30	25	10	楕円形	逆台形	S-1564より古い。
S -1566	F-3 区	ヒ - 50	50	〔42〕	25	楕円形	逆台形	S-1567より新しい。
S -1567	F-3 区	ヒ - 50	47	〔45〕	42	楕円形	開くU字形	S-1566より古い。
S -1568	F-3 区	ヒ - 50	37	22	32	楕円形	筒形	S-1636より新しい。
S -1569	F-3 区	フ - 51	21	20	20	円形	開くU字形	
S -1585	F-3 区	ヒ - 50	〔45〕	40	40	隅丸方形	開くU字形	S-1446より新しく、S-1447より古い。
S -1586	F-3 区	ヒ - 51	32	28	33	円形	開くU字形	SK-1582・1584と重複するが新旧関係不明。黒褐色土を主体とする覆土。
S -1587	F-3 区	ヒ - 50	〔38〕	〔31〕	34	円形	U字形	S-1504より古い。
S -1593	F-3 区	ハ - 51	25	21	38	円形	U字形	SK-1592より新しい。
S -1594	F-3 区	ハ - 51	30	25	12	隅丸方形	U字形	SK-1591より新しい。
S -1595	F-3 区	フ - 50	75	56	56	隅丸方形	逆台形	SD-1401、S-1424より古い。S-1424の古い掘方の可能性もある。
S -1600	F-3 区	ハ - 49	31	27	31	不整円形	U字形	柱痕明瞭。
S -1601	F-3 区	ヒ - 50	〔48〕	32	25	楕円形	開くU字形	S-1643・1644より新しく、S-1505・1602より古い。
S -1602	F-3 区	ヒ - 50	40	37	27	円形	開くU字形	S-1601より新しい。
S -1603	F-3 区	ヒ - 50	35	22	23	楕円形	開くU字形	
S -1604	F-3 区	ハ - 50	47	45	30	円形	逆台形	
S -1605	F-3 区	ヒ - 51	66	38	40	不整楕円形	開くU字形	SK-1582・1617より新しく、SK-1583より古い。
S -1606	F-3 区	ハ - 50	24	〔19〕	35	円形	U字形	S-1832より古い。SK-1618との新旧関係不明。
S -1607	F-3 区	ヒ - 51	24	23	23	円形	U字形	SK-1571と重複するが新旧関係不明。
S -1608	F-3 区	ヒ - 51	29	24	32	楕円形	U字形	SK-1571と重複するが新旧関係不明。S-1609と隣接する。
S -1609	F-3 区	ヒ - 51	25	24	9	円形	開くU字形	S-1608と隣接する。
S -1610	F-3 区	ヒ - 52	〔20〕	〔10〕	5	円形	開くU字形	S-1611と隣接する。SK-1578と重複し、これより古い。

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	備　　考
S -1611	F-3 区	ヒ - 52	46	45	11	不整円形	有段逆台形	S-1610と隣接する。
S -1612	F-3 区	ヒ - 52	35	30	18	不整円形	開くU字形	
S -1613	F-3 区	ヒ - 52	23	22	10	不整円形	逆台形	
S -1614	F-3 区	ハ - 52	35	28	14	不整楕円形	逆台形	
S -1615	F-3 区	ヒ - 52	33	30	32	隅丸方形	開くU字形	S-1616より新しい。
S -1616	F-3 区	ヒ - 52	31	25	24	楕円形	有段開くU字形	S-1615より古い。
S -1621	F-3 区	ヒ - 50	〔90〕	68	10	不整楕円形	凹凸ある皿状	S-1622・1623・1839より新しく、S-1624より古い。覆土中より土師質皿の破片1点と、陶器破片1点、磨石の一部と思われる礫1点を出土。皿と礫を図示。
S -1622	F-3 区	ヒ - 50	〔70〕	50	56	不整楕円形	U字形	S-1839より新しく、S-1621・1624より古い。覆土中より土師質皿1点出土。図示。
S -1623	F-3 区	ヒ - 50	26	23	40	楕円形	U字形	S-1621より古い。柱痕有り。
S -1624	F-3 区	ヒ - 50	45	〔35〕	52	楕円形	筒形	S-1621・1622より新しい。柱痕有り。
S -1630	F-3 区	ハ - 50	25	23	31	楕円形	U字形	SK-1625・S-1734より新しい。
S -1631	F-3 区	ヒ - 51	19	〔17〕	18	不整円形	開くU字形	SK-1576より新しい。
S -1632	F-3 区	ヒ - 51	30	28	21	不整円形	有段開くU字形	SK-1597より新しい。
S -1633	F-3 区	ヒ - 51	31	27	31	円形	U字形	SK-1584より新しい。柱痕明瞭。
S -1634	F-3 区	ヒ - 51	44	38	29	不整楕円形	U字形	S-1635より新しい。SK-1582とは新旧関係不明。
S -1635	F-3 区	ヒ - 51	〔30〕	24	12	円形	開くU字形	S-1634より古い。SK-1582とは新旧関係不明。
S -1636	F-3 区	ヒ - 50	40	〔34〕	33	楕円形	逆台形	S-1482より新しく、S-1568より古い。
S -1637	F-3 区	ハ - 51	30	28	30	円形	U字形	SK-1596より新しい。
S -1638	F-3 区	ハ - 49	67	50	77	不整楕円形	有段U字形	
S -1639	F-3 区	ヒ - 49	〔50〕	37	75	楕円形	不整U字形	SK-1545より新しく、S-2420より古い。S-1640とも重複するが新旧関係不明。
S -1640	F-3 区	ヒ - 49	〔30〕	23	〔48〕	楕円形	不整U字形	S-1546より古い。S-1639とも重複するが新旧関係不明。
S -1641	F-3 区	ヒ - 49	〔30〕	23	47	楕円形	開くU字形	S-1547より古い。
S -1642	F-3 区	ヒ - 49	38	32	61	楕円形	U字形	S-1547より新しい。
S -1643	F-3 区	ヒ - 50	〔55〕	〔35〕	26	楕円形	U字形	S-1644より新しく、S-1505・1601より古い。
S -1644	F-3 区	ヒ - 50	〔28〕	25	12	楕円形	逆台形	S-1601・1643より古い。
S -1645	F-3 区	ヒ - 51	35	33	16	円形	開くU字形	SK-1597より新しい。覆土中に磨石の欠損品が混入。図示。
S -1646	F-3 区	ヒ - 51	32	28	14	円形	逆台形	SK-1572・1597より古い。
S -1648	F-3 区	ハ - 50	30	25	37	楕円形	U字形	SK-1647より新しく、S-1809より古い。
S -1649	F-3 区	ハ - 50	31	27	37	楕円形	U字形	SK-1647より新しい。SK-1626と新旧関係不明。柱痕明瞭。
S -1650	F-3 区	ハ - 50	27	22	30	不整形	U字形	SK-1627と重複するが新旧関係不明。
S -1661	F-3 区	フ - 52	39	38	40	不整円形	開くU字形	S-1478より新しく、SD-1403より古い。
S -1662	F-3 区	ハ - 50	30	〔15〕	40	円形	U字形	SK-1618より新しく、S-1663より古い。
S -1663	F-3 区	ハ - 50	40	38	40	隅丸方形	開くU字形	SK-1618・S-1662・1664より新しい。
S -1664	F-3 区	ハ - 50	30	〔17〕	30	楕円形	U字形	SK-1618より新しく、S-1663より古い。
S -1665	F-3 区	ハ - 50	35	25	40	楕円形	U字形	SK-1618より新しいと思われる。
S -1667	F-3 区	ハ - 50	60	50	30	不整楕円形	逆台形	SE-1695・S-1668より古い。
S -1668	F-3 区	ハ - 50	48	35	25	不整楕円形	U字形	S-1667より新しい。
S -1669	F-3 区	ハ - 50	35	30	16	不整円形	U字形	SE-1695より新しい。
S -1670	F-3 区	ハ - 50	29	27	18	円形	有段U字形	SE-1695より新しい。
S -1671	F-3 区	ハ - 50	〔45〕	41	33	楕円形	有段U字形	S-1672より古い。SE-1695と接する。新旧は不明。柱痕明瞭。
S -1672	F-3 区	ハ - 50	〔28〕	23	17	楕円形	逆台形	S-1671より新しい。
S -1673	F-3 区	ハ - 50	35	〔23〕	26	円形	逆台形	S-1674より古い。
S -1674	F-3 区	ハ - 50	36	〔30〕	35	不整楕円形	有段U字形	S-1673より新しい。
S -1675	F-3 区	ハ - 50	〔30〕	〔25〕	13	不整楕円形	逆台形	SE-1695・S-1676より新しい。
S -1676	F-3 区	ハ - 50	55	35	24	不整楕円形	有断U字形	S-1675より古い。
S -1677	F-3 区	ハ - 50	35	25	〔10〕	楕円形	逆台形	SK-1647より新しい。
S -1678	F-3 区	ヒ - 50	25	18	24	楕円形	有段U字形	SK-1619より古い。
S -1679	F-3 区	ハ - 50	32	25	57	楕円形	有段U字形	
S -1680	F-3 区	ハ - 50	35	28	〔35〕	楕円形	U字形	SK-1619と隣接する。
S -1681	F-3 区	ハ - 50	30	24	32	楕円形	U字形	
S -1682	F-3 区	ハ - 50	36	25	28	不整楕円形	逆台形	
S -1683	F-3 区	ハ - 50	25	24	18	隅丸方形	U字形	柱痕明瞭。

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	平面形	断面形	備　　考
S - 1684	F-3 区	ハ - 50	75	40	〔4〕	不整長方形	皿状	
S - 1685	F-3 区	ハ - 50	29	27	22	円形	開くU字形	
S - 1686	F-3 区	ハ - 50	49	46	46	不整円形	開くU字形	柱痕有り。
S - 1687	F-3 区	ハ - 50	30	28	28	円形	U字形	覆土中より土師質皿1点出土。図示。
S - 1688	F-3 区	ハ - 50	40	23	25	楕円形	開くU字形	S-1689より新しい。柱痕明瞭。
S - 1689	F-3 区	ハ - 50	35	32	15	楕円形	逆台形	S-1688より古い。
S - 1690	F-3 区	ハ - 50	〔60〕	〔43〕	14	楕円形	皿状	SE-1691・S-1693より新しい。
S - 1692	F-3 区	ハ - 50	80	65	32	円形	有段開くU字形	S-1833・1834より古い。SE-1691と新旧不明
S - 1693	F-3 区	ハ - 50	40	35	30	楕円形	逆台形	S-1690より古い。
S - 1694	F-3 区	ハ - 49	30	25	21	隅丸方形	開くU字形	S-1535より新しい。
S - 1698	F-3 区	ハ - 50	39	23	28	長方形	有段逆台形	
S - 1699	F-3 区	ハ - 50	28	25	28	隅丸方形	U字形	
S - 1701	F-3 区	ハ - 50	26	24	18	隅丸方形	U字形	
S - 1702	F-3 区	ハ - 50	25	24	13	隅丸方形	U字形	
S - 1703	F-3 区	ハ - 50	33	29	18	円形	U字形	S-1704より新しい。
S - 1704	F-3 区	ハ - 50	34	26	14	楕円形	有段開くU字形	S-1830より新しく、S-1703より古い。
S - 1705	F-3 区	ハ - 50	33	〔25〕	25	楕円形	逆台形	S-1707より新しい。
S - 1706	F-3 区	ハ - 50	33	30	52	円形	U字形	S-1707より新しい。柱痕有り。
S - 1707	F-3 区	ハ - 50	47	〔25〕	27	楕円形	開くU字形	S-1705・1706より古い。
S - 1708	F-3 区	ハ - 50	43	41	39	不整隅丸方形	逆台形	S-1709・1710・1711より新しい。柱痕有り。
S - 1709	F-3 区	ハ - 50	43	34	54	不整楕円形	有段開くU字形	S-1710より新しい。S-1708より古い。柱痕明瞭。
S - 1710	F-3 区	ハ - 50	〔55〕	50	38	隅丸方形	開くU字形	S-1708・1709・1711より古い。
S - 1711	F-3 区	ハ - 50	47	29	17	隅丸長方形	不整逆台形	S-1710より新しく、S-1708より古い。
S - 1712	F-3 区	ハ - 49	〔35〕	30	35	円形	U字形	SE-1666より古い。柱痕明瞭。
S - 1716	F-3 区	ハ - 50	30	28	14	隅丸方形	開くU字形	
S - 1717	F-3 区	ハ - 50	54	42	68	不整隅丸長方形	有段開くU字形	柱痕有り。
S - 1718	F-3 区	ハ - 50	44	42	35	不整隅丸方形	開くU字形	柱痕有り。
S - 1719	F-3 区	ハ - 50	47	34	34	不整楕円形	U字形	S-1720より新しい。
S - 1720	F-3 区	ハ - 50	46	43	38	不整隅丸方形	有段逆台形	S-1721より新しく、S-1719より古い。
S - 1721	F-3 区	ハ - 50	38	44	23	隅丸方形	有段不整逆台形	S-1720より古い。
S - 1722	F-3 区	ヒ - 50	45	36	25	不整楕円形	開くU字形	
S - 1723	F-3 区	ヒ - 50	61	58	47	隅丸方形	U字形	S-1724より新しく、S-1726より古い。
S - 1724	F-3 区	ヒ - 50	35	〔22〕	35	隅丸方形	U字形	S-1725より新しく、S-1723より古い。
S - 1725	F-3 区	ヒ - 50	45	〔23〕	14	不整楕円形	逆台形	S-1724より古い。
S - 1726	F-3 区	ヒ - 50	34	33	30	楕円形	U字形	S-1723より新しい。
S - 1727	F-3 区	ヒ - 50	65	50	60	楕円形	不整逆台形	2回の埋め方が観察できるため、柱穴は掘り直され使用されている模様。柱痕明瞭。
S - 1728	F-3 区	ヒ - 50	30	25	11	楕円形	逆台形	
S - 1729	F-3 区	ヒ - 50	37	36	29	円形	開くU字形	
S - 1730	F-3 区	ヒ - 50	35	25	25	楕円形	有段開くU字形	
S - 1731	F-3 区	ヒ - 50	50	〔45〕	40	不整円形	開くU字形	S-1732より新しい。
S - 1732	F-3 区	ヒ - 50	55	〔48〕	45	不整楕円形	開くU字形	S-1731より古い。
S - 1733	F-3 区	ハ - 50	〔27〕	25	-	円形	-	SK-1625・S-1734より新しい。
S - 1734	F-3 区	ハ - 50	〔25〕	20	-	楕円形	-	SK-1625より新しい。S-1630・1733より古い。
S - 1735	F-3 区	ハ - 50	35	30	29	円形	-	平面観察からS-1736より新しく、S-1737より古いと思われる。S-1625とは新旧関係不明。
S - 1736	F-3 区	ハ - 50	35	30	18	円形	-	平面観察からS-1735・1737より古いと思われる。SK-1625とは新旧関係不明。
S - 1737	F-3 区	ハ - 50	25	20	36	円形	-	平面観察からS-1736・1735より新しいと思われる。SK-1625とは新旧関係不明。
S - 1738	F-3 区	ハ - 50	25	19	14	楕円形	-	SK-1629との新旧関係不明。
S - 1739	F-3 区	ハ - 50	32	〔30〕	-	楕円形	-	SK-1626・1627と重複するが新旧関係不明。土坑より新しい可能性が高い。
S - 1740	F-3 区	ハ - 50	25	20	-	楕円形	-	SK-1626と重複するが新旧関係不明。土坑より新しい可能性が高い。
S - 1741	F-3 区	ヒ - 50	32	30	25	隅丸方形	開くU字形	
S - 1742	F-3 区	ヒ - 50	38	27	8	楕円形	逆台形	S-1743より古い。
S - 1743	F-3 区	ヒ - 50	64	〔45〕	40	不整長方形	逆台形	S-1742・1744・1749より新しい。
S - 1744	F-3 区	ヒ - 50	〔55〕	35	25	不整円形	U字形	S-1749より新しい。S-1743・1745より古い。
S - 1745	F-3 区	ヒ - 50	34	28	19	不整円形	逆台形	S-1744より新しい。
S - 1746	F-3 区	ヒ - 50	49	40	〔50〕	不整隅丸方形	開くU字形	

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	備　　考
S -1748	F-3区	ヒ- 50	30	30	41	円形	開くU字形	S-1749・1883・1884より新しい。
S -1749	F-3区	ヒ- 50	〔80〕	〔25〕	35	不整長方形	開くU字形	S-1743・1744・1748・1883・1884より古い。
S -1750	F-3区	ヒ- 50	42	40	42	不整円形	開くU字形	S-1751より新しい。
S -1751	F-3区	ヒ- 50	60	〔60〕	35	不整円形	隅丸方形	S-1750より古い。
S -1752	F-3区	ヒ- 50	35	〔20〕	24	不整円形	開くU字形	S-1753より新しい。S-1843より古い。
S -1753	F-3区	ヒ- 50	48	40	28	不整円形	開くU字形	S-1752・1843・1852より古い。
S -1754	F-3区	ヒ- 49	54	52	67	円形	不整逆台形	S-1755より新しい。
S -1755	F-3区	ヒ- 50	34	27	66	楕円形	U字形	S-1754より古い。
S -1756	F-3区	ヒ- 50	45	29	37	楕円形	U字形	S-1757より新しい。
S -1757	F-3区	ヒ- 50	37	〔30〕	63	不整円形	U字形	S-1756より古い。
S -1758	F-3区	ヒ- 50	54	47	74	隅丸方形	U字形	
S -1759	F-3区	ヒ- 50	37	35	29	円形	砲弾形	S-1843より古い。柱痕明瞭。
S -1760	F-3区	ヒ- 50	〔27〕	〔20〕	25	楕円形	U字形	SE-1886・S-1761・1853・1858より新しい。
S -1761	F-3区	ヒ- 50	〔37〕	35	63	隅丸方形	逆台形	S-1760・1762より古い。
S -1762	F-3区	ヒ- 50	40	33	40	楕円形	U字形	S-1761より新しい。
S -1763	F-3区	ヒ- 50	〔45〕	40	45	楕円形	有段U字形	SE-1886より新しく、S-1853より古い。
S -1764	F-3区	ヒ- 51	34	23	19	楕円形	開くU字形	
S -1765	F-3区	ヒ- 51	34	34	39	円形	U字形	S-1766より新しい。柱痕明瞭。
S -1766	F-3区	ヒ- 51	42	〔40〕	45	楕円形	有段U字形	SE-1886・S-1765より古い。
S -1767	F-3区	ヒ- 51	25	23	40	円形	U字形	形態良好な柱穴。
S -1768	F-3区	ヒ- 50	〔27〕	18	22	不整隅丸方形	開くU字形	S-1507・1769より新しい。S-1506より古い。
S -1769	F-3区	ヒ- 50	〔22〕	21	21	円形	開くU字形	S-1507より新しく、S-1768より古い。
S -1770	F-3区	ヒ- 51	〔43〕	36	32	不整隅丸方形	開くU字形	S-1771・1772より古い。
S -1771	F-3区	ヒ- 51	34	26	45	隅丸長方形	U字形	S-1770より新しく、1772より古い。
S -1772	F-3区	ヒ- 51	36	24	44	楕円形	U字形	S-1770・1771より新しい。
S -1773	F-3区	ヒ- 51	22	19	17	不整円形	U字形	S-1855と隣接する。
S -1774	F-3区	ヒ- 51	15	13	12	円形	U字形	S-1775より新しい。
S -1775	F-3区	ヒ- 51	26	23	12	楕円形	逆台形	S-1774より古い。
S -1776	F-3区	ヒ- 50	51	31	〔37〕	楕円形	-	土層断面図の記録がないが土層の観察では柱痕と掘方埋土が確認されているので、柱穴と思われる。柱痕の下部は良く固められており柱痕内には混入のほとんど無い脆い黒褐色土が見られる。
S -1777	F-3区	ヒ- 51	42	34	39	楕円形	有段不整U字形	
S -1778	F-3区	ヒ- 51	37	〔34〕	35	隅丸方形	不整U字形	S-1779より古い。
S -1779	F-3区	ヒ- 51	40	33	23	隅丸長方形	不整逆台形	SD-1400、S-1778より新しい。
S -1780	F-3区	ヒ- 51	23	18	20	円形	U字形	
S -1781	F-3区	ヒ- 51	〔40〕	35	35	不整楕円形	開くU字形	S-1782より古い。S-1783との新旧関係不明。
S -1782	F-3区	ヒ- 51	35	34	27	不整円形	有段逆台形	S-1781より新しい。柱痕有り。
S -1783	F-3区	ヒ- 51	35	31	42	隅丸方形	U字形	S-1784より新しい。S-1781との新旧関係不明。
S -1784	F-3区	ヒ- 51	〔45〕	34	22	不整楕円形	開くU字形	S-1783より古い。
S -1785	F-3区	ヒ- 51	38	36	53	円形	不整U字形	S-1786より新しい。
S -1786	F-3区	ヒ- 51	〔41〕	34	33	不整楕円形	不整U字形	S-1785より古い。
S -1787	F-3区	ヒ- 51	24	23	24	円形	砲弾形	
S -1788	F-3区	ヒ- 51	20	17	20	隅丸方形	U字形	S-1789より新しい。
S -1789	F-3区	ヒ- 51	〔40〕	29	17	不整楕円形	逆台形	S-1788より古い。
S -1790	F-3区	ヒ- 51	39	37	39	楕円形	U字形	柱痕明瞭。
S -1791	F-3区	ヒ- 51	32	26	37	楕円形	有段不整U字形	S-1792より新しい。
S -1792	F-3区	ヒ- 51	31	〔26〕	45	隅丸方形	U字形	S-1791より古い。
S -1793	F-3区	ヒ- 51	〔35〕	32	50	隅丸方形	不整逆台形	S-1794より古い。
S -1794	F-3区	ヒ- 51	44	36	38	隅丸方形	不整逆台形	S-1793より新しい。
S -1795	F-3区	ヒ- 51	37	34	42	隅丸方形	開くU字形	柱痕有り。
S -1796	F-3区	ヒ- 51	30	27	32	円形	U字形	
S -1797	F-3区	ハ- 51	32	29	44	楕円形	U字形	SK-1570より新しい。
S -1798	F-3区	ハ- 51	〔30〕	20	17	楕円形	逆台形	S-1799より新しい。
S -1799	F-3区	ハ- 51	32	〔22〕	17	隅丸方形	逆台形	S-1798より古い。
S -1800	F-3区	ハ- 51	30	28	35	円形	U字形	SK-1590との新旧不明。
S -1801	F-3区	ハ- 51	25	15	〔8〕	楕円形	開くU字形	SK-1592との新旧不明。
S -1802	F-3区	ハ- 51	33	30	35	円形	砲弾形	SK-1589より新しい。
S -1803	F-3区	ハ- 51	24	22	23	円形	U字形	
S -1804	F-3区	ハ- 51	36	34	20	隅丸方形	有段開くU字形	S-1805と隣接する。
S -1805	F-3区	ハ- 51	30	27	25	円形	U字形	S-1804と隣接する。

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	平面形	断面形	備　　考
S -1806	F-3 区	ハ - 51	42	30	25	楕円形	逆台形	S-1807と隣接する。
S -1807	F-3 区	ハ - 51	35	30	15	楕円形	開くU字形	S-1806と隣接する。
S -1808	F-3 区	ハ - 50	33	30	21	円形	逆台形	
S -1809	F-3 区	ハ - 50	41	29	33	楕円形	開くU字形	S-1648・1810より新しい。
S -1810	F-3 区	ハ - 50	36	〔20〕	15	円形	逆台形	S-1809より古い。
S -1811	F-3 区	ハ - 50	25	〔10〕	20	円形	U字形	S-1812より古い。
S -1812	F-3 区	ハ - 50	30	26	19	隅丸方形	開くU字形	S-1811より新しい。
S -1813	F-3 区	ハ - 50	27	25	30	楕円形	U字形	S-1814より新しい。
S -1814	F-3 区	ハ - 50	26	20	33	楕円形	U字形	S-1813より古い。
S -1815	F-3 区	ハ - 51	35	35	30	円形	開くU字形	S-1816より古い。
S -1816	F-3 区	ハ - 51	35	35	30	円形	開くU字形	S-1815・1817より新しい。柱痕明瞭。
S -1817	F-3 区	ハ - 51	38	〔38〕	28	円形	開くU字形	S-1816より古い。
S -1818	F-3 区	ハ - 51	36	35	33	円形	開くU字形	S-1819と隣接する。
S -1819	F-3 区	ハ - 50	26	20	40	楕円形	U字形	S-1818と隣接する。
S -1820	F-3 区	ハ - 51	〔25〕	20	13	楕円形	開くU字形	S-1821より古い。
S -1821	F-3 区	ハ - 51	30	23	12	楕円形	開くU字形	S-1820より新しい。
S -1822	F-3 区	ハ - 51	〔21〕	〔17〕	35	楕円形	開くU字形	S-1823より古い。
S -1823	F-3 区	ハ - 51	35	〔30〕	36	楕円形	U字形	S-1822より新しい。SK-1574とも重複するが新旧関係不明。
S -1824	F-3 区	ハ - 51	32	29	27	楕円形	開くU字形	
S -1825	F-3 区	ハ - 51	〔30〕	25	15	不整楕円形	開くU字形	S-1826より新しい。
S -1826	F-3 区	ハ - 51	25	〔22〕	25	円形	有段逆台形	S-1825より古い。
S -1827	F-3 区	ヒ - 51	〔24〕	〔17〕	20	楕円形	U字形	S-1828より古い。
S -1828	F-3 区	ヒ - 51	23	23	25	円形	U字形	S-1827より新しい。
S -1829	F-3 区	ハ - 50	〔31〕	〔25〕	12	楕円形	開くU字形	S-1830・1831と重複するが新旧関係不明。
S -1830	F-3 区	ハ - 50	30	〔28〕	16	隅丸方形	有段逆台形	S-1704・1831より古い。S-1829と重複するが新旧関係不明。
S -1831	F-3 区	ハ - 50	21	16	9	不整楕円形	逆台形	S-1830より新しい。S-1829と重複するが新旧関係不明。
S -1832	F-3 区	ハ - 50	〔50〕	50	45	不整円形	逆台形	S-1606より新しい。
S -1833	F-3 区	ハ - 50	27	25	16	円形	筒形	SE-1691・S-1692より新しい。
S -1834	F-3 区	ハ - 50	31	28	〔13〕	円形	逆台形	S-1692より新しい。
S -1835	F-3 区	ヒ - 50	31	20	36	楕円形	U字形	SK-1619より古い。
S -1836	F-3 区	ヒ - 50	38	35	45	不整円形	U字形	S-1839より新しい。
S -1837	F-3 区	ハ - 50	〔30〕	25	20	楕円形	逆台形	SK-1618と重複するが新旧関係不明。
S -1838	F-3 区	ハ - 50	27	27	4	隅丸方形	逆台形	
S -1839	F-3 区	ヒ - 50	〔30〕	〔20〕	44	楕円形	逆台形	S-1621・1622・1836より古い。
S -1840	F-3 区	ヒ - 51	35	31	25	楕円形	開くU字形	SD-1400と重複するが新旧関係不明。
S -1841	F-3 区	ヒ - 52	27	20	12	楕円形	開くU字形	SD-1400と重複するが新旧関係不明。
S -1842	F-3 区	ヒ - 52	55	40	35	不整円形	有段U字形	SD-1400と重複するが新旧関係不明。
S -1843	F-3 区	ヒ - 50	61	40	34	不整楕円形	開くU字形	S-1752・1753・1759より新しい。
S -1845	F-3 区	ヒ - 51	34	-	33	不明	逆台形	平面図の記録がない。土層の観察を掲載。
S -1846	F-3 区	ヒ - 51	33	31	26	隅丸方形	有段逆台形	SK-1934より新しい。
S -1847	F-3 区	ヒ - 51	42	37	32	隅丸方形	U字形	SK-1934より新しい。
S -1848	F-3 区	ヒ - 50	23	〔19〕	35	円形	U字形	SK-1933より新しく、S-1851・1863より古い。
S -1849	F-3 区	ヒ - 50	42	〔35〕	27	楕円形	開くU字形	S-1850より新しい。
S -1850	F-3 区	ヒ - 50	〔91〕	42	25	隅丸方形	逆台形	S-1849・1851より古い。
S -1851	F-3 区	ヒ - 50	〔48〕	37	26	不整楕円形	U字形	SK-1933・S-1850より新しく、S-1848より古い。
S -1852	F-3 区	ヒ - 50	〔44〕	〔30〕	26	隅丸方形	U字形	S-1753より新しく、SK-1933より古い。
S -1853	F-3 区	ヒ - 50	22	18	25	隅丸方形	不整逆台形	SE-1886・S-1763より新しく、S-1760より古い。
S -1855	F-3 区	ヒ - 51	26	23	32	楕円形	U字形	S-1773と隣接する。
S -1857	F-3 区	ヒ - 50	37	30	25	楕円形	有段U字形	SK-1933・S-1872より新しい。
S -1858	F-3 区	ヒ - 50	32	25	20	楕円形	逆台形	
S -1859	F-3 区	ヒ - 50	24	18	19	楕円形	開くU字形	
S -1860	F-3 区	ヒ - 50	43	36	45	円形	有段U字形	S-1861・1891・1892より新しい。
S -1861	F-3 区	ヒ - 50	37	-	45	円形	U字形	S-1860より古い。S-1892より新しい。
S -1862	F-3 区	ヒ - 50	32	28	20	楕円形	逆台形	
S -1863	F-3 区	ヒ - 50	28	25	37	円形	皿状	S-1848より新しい。
S -1864	F-3 区	ヒ - 50	62	〔40〕	33	楕円形	有段逆台形	S-1865・1866より新しい。S-1892とも重複するが新旧関係不明。
S -1865	F-3 区	ヒ - 50	〔30〕	30	32	円形	逆台形	S-1864より古い。S-1866より新しい。

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	備　　考
S -1866	F-3区	ヒ- 50	〔55〕	〔35〕	32	円形	逆台形	S-1864・1865より古い。
S -1867	F-3区	ヒ- 50	35	30	34	円形	U字形	S-1868より新しい。
S -1868	F-3区	ヒ- 50	34	25	32	楕円形	U字形	S-1869より新しく、S-1867より古い。柱痕明瞭。
S -1869	F-3区	ヒ- 50	39	35	42	円形	有段U字形	S-1868より古い。
S -1870	F-3区	ハ- 50	31	27	12	楕円形	逆台形	S-1692と隣接する。
S -1871	F-3区	ハ- 50	35	30	18	不整円形	有段U字形	
S -1872	F-3区	ヒ- 50	30	〔25〕	23	楕円形	U字形	SK-1933より新しく、S-1857より古い。
S -1873	F-3区	ヒ- 50	30	18	10	不整楕円形	U字形	
S -1874	F-3区	ヒ- 50	55	〔45〕	38	楕円形	開くU字形	S-1875より新しい。
S -1875	F-3区	ヒ- 50	35	-	21	円形	開くU字形	S-1874より古い。
S -1876	F-3区	ヒ- 50	〔47〕	〔13〕	17	円形	開くU字形	S-1877より古い。
S -1877	F-3区	ヒ- 50	52	〔21〕	26	円形	U字形	S-1876・1879より新しく、S-1878より古い。S-1877はS-1878の埋め方にも見えるが、平面プランの観察から別遺構としたが埋め方の可能性は残る。
S -1878	F-3区	ヒ- 50	43	39	30	円形	逆台形	S-1877・1879・1880より新しい。
S -1879	F-3区	ヒ- 50	35	〔35〕	31	円形	逆台形	S-1880より新しく、S-1877・1878より古い。
S -1880	F-3区	ヒ- 50	〔32〕	20	27	楕円形	U字形	S-1878・1879・1882より古い。1層と2･3層は二つの遺構に分かれる可能性が在るが、掘方は繋がっている。
S -1881	F-3区	ヒ- 50	〔26〕	25	40	円形	U字形	S-1882より新しい。
S -1882	F-3区	ヒ- 50	35	〔15〕	〔33〕	円形	開くU字形	S-1880より新しく、S-1881より古い。
S -1883	F-3区	ヒ- 50	25	23	27	円形	開くU字形	S-1884より新しい。S-1883と1884は各層が類似するが、平面確認では切り合いが明瞭に観察でき、掘方も分かれるので、分けて捉えた。S-1749より新しく、S-1748より古い。
S -1884	F-3区	ヒ- 50	32	〔25〕	35	楕円形	砲弾形	S-1883より古い。S-1749より新しく、S-1748より古い。
S -1885	F-3区	ヒ- 51	37	34	40	隅丸方形	U字形	SK-1934と新旧不明。
S -1887	F-3区	ヒ- 50	55	〔45〕	40	円形	開くU字形	S-1888より古い。
S -1888	F-3区	ヒ- 50	62	〔55〕	35	楕円形	開くU字形	S-1887・1890より新しく、S-1889より古い。
S -1889	F-3区	フ- 50	35	〔32〕	7	円形	皿状	S-1888・1890より新しい。
S -1890	F-3区	フ- 50	33	30	38	楕円形	U字形	S-1888・1889より古い。
S -1891	F-3区	ヒ- 50	22	20	31	円形	U字形	S-1892より新しい。S-1860より古い。
S -1892	F-3区	ヒ- 50	〔35〕	35	30	楕円形	逆台形	S-1860・1861・1891より古い。S-1864とも重複するが新旧関係不明。
S -1893	F-3区	ヒ- 50	35	25	18	不整円形	有段開くU字形	
S -1894	F-3区	ヒ- 50	〔35〕	〔10〕	19	円形	逆台形	S-1900より新しく、S-1895・1899より古い。S-1894はS-1895の掘方である可能性もある。
S -1895	F-3区	ヒ- 50	〔54〕	〔28〕	22	楕円形	開くU字形	S-1894より新しく、S-1896・1898・1899より古い。S-1894がS-1895の掘方である可能性もある。
S -1896	F-3区	ヒ- 50	〔50〕	45	12	不整楕円形	逆台形	S-1895より新しく、S-1898より古い。S-1897とも重複するが新旧関係不明。
S -1897	F-3区	ヒ- 50	25	22	10	楕円形	逆台形	S-1896と重複するが新旧関係不明。
S -1898	F-3区	ヒ- 50	〔27〕	〔25〕	21	楕円形	開くU字形	S-1895・1896・1899・1901より新しい。
S -1899	F-3区	ヒ- 50	〔28〕	20	15	楕円形	逆台形	S-1894・1895・1900・1901より新しく、S-1898より古い。
S -1900	F-3区	ヒ- 50	〔35〕	32	32	楕円形	砲弾形	S-1894・1899・1901より古い。
S -1901	F-3区	ヒ- 50	26	〔8〕	11	楕円形	逆台形	S-1900より新しく、S-1898・1899より古い。
S -1902	F-3区	ヒ- 50	27	6	9	円形	逆台形	
S -1903	F-3区	ハ- 50	19	19	16	隅丸方形	開くU字形	
S -1904	F-3区	ハ- 50	45	37	30	楕円形	開くU字形	
S -1905	F-3区	ハ- 50	46	24	28	楕円形	開くU字形	S-1906より新しい。S-1907との新旧不明。
S -1906	F-3区	ハ- 50	〔37〕	34	28	不整隅丸方形	開くU字形	S-1905・1907より古い。
S -1907	F-3区	ハ- 50	38	34	19	円形	逆台形	S-1906より新しい。S-1905との新旧不明。
S -1908	F-3区	ハ- 50	42	38	18	隅丸三角形	有段逆台形	S-1909・1910より新しい。
S -1909	F-3区	ハ- 50	〔34〕	27	24	不整楕円形	開くU字形	S-1908・1910より古い。
S -1910	F-3区	ハ- 50	〔38〕	〔25〕	-	楕円形	-	S-1909より新しく、S-1908より古い。
S -1911	F-3区	ハ- 50	24	19	22	不整円形	U字形	S-1912・1914・1949より新しい。
S -1912	F-3区	ハ- 50	24	22	17	不整円形	U字形	S-1914・1949より新しく、S-1911より古い。
S -1913	F-3区	ハ- 50	〔46〕	40	26	不整楕円形	逆台形	S-1914より新しく、S-1915より古い。

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	平面形	断面形	備　　考
S -1914	F-3 区	ハ- 50	〔39〕	35	25	不整円形	開くU字形	S-1911・1912・1913より古い。S-1949とも重複するが新旧関係不明。
S -1915	F-3 区	ハ- 50	48	44	25	隅丸方形	有段逆台形	S-1913より新しい。
S -1916	F-3 区	ハ- 50	33	24	33	楕円形	有段U字形	柱痕有り。
S -1917	F-3 区	ハ- 50	53	38	22	不整楕円形	開くU字形	S-1918・1922より新しく、S-1945より古い。
S -1918	F-3 区	ハ- 50	〔27〕	〔23〕	12	楕円形	U字形	S-1917・1919・1945より古い。
S -1919	F-3 区	ハ- 50	29	〔24〕	37	楕円形	不整U字形	S-1918・1945より新しく、S-1920より古い。
S -1920	F-3 区	ハ- 50	41	28	19	隅丸長方形	逆台形	S-1919・1921・1945より新しい。
S -1921	F-3 区	ハ- 50	32	〔27〕	22	隅丸方形	U字形	S-1919・1920より古い。
S -1922	F-3 区	ハ- 50	〔37〕	30	15	楕円形	開くU字形	S-1917より古い。
S -1923	F-3 区	ハ- 50	30	29	29	円形	砲弾形	S-1932より新しい。
S -1924	F-3 区	ハ- 50	31	27	18	円形	U字形	S-1925より新しい。
S -1925	F-3 区	ハ- 50	40	28	31	隅丸方形	有段開くU字形	S-1924より古い。
S -1926	F-3 区	ハ- 50	〔23〕	2	9	円形	逆台形	S-1927より古い。溜水の影響による土の酸化は周囲の遺構に比べ特に強い。
S -1927	F-3 区	ハ- 50	33	23	19	楕円形	U字形	S-1926より新しい。溜水の影響による土の酸化は周囲の遺構に比べ特に強い。
S -1928	F-3 区	ハ- 50	〔22〕	19	10	円形	不整逆台形	S-1929より新しく、S-1930より古い。
S -1929	F-3 区	ハ- 50	〔65〕	61	5	隅丸方形	皿状	S-1928・1930・1931より古い。
S -1930	F-3 区	ハ- 50	40	31	37	不整円形	有段不整U字形	S-1928・1929・1931より新しい。
S -1931	F-3 区	ハ- 50	〔35〕	〔24〕	43	不整楕円形	砲弾形	S-1929より新しく、S-1930より古い。
S -1932	F-3 区	ハ- 50	24	〔18〕	12	円形	逆台形	S-1923より古い。
S -1935	F-3 区	ハ- 50	36	32	40	隅丸方形	逆台形	S-1936より新しい。柱痕明瞭。
S -1936	F-3 区	ハ- 50	46	40	36	不整楕円形	有段逆台形	S-1935より古い。
S -1937	F-3 区	ハ- 49	56	54	55	楕円形	開くU字形	柱痕有り。
S -1938	F-3 区	ハ- 49	44	39	33	楕円形	有段逆台形	S-1939より新しく、S-1940より古い。
S -1939	F-3 区	ハ- 49	50	47	31	隅丸方形	不整逆台形	S-1938より古い。
S -1940	F-3 区	ハ- 49	28	25	42	不整円形	U字形	S-1938より新しい。
S -1941	F-3 区	ハ- 49	20	18	10	円形	逆台形	
S -1942	F-3 区	ハ- 50	18	16	18	隅丸方形	U字形	S-1143と隣接する。
S -1943	F-3 区	ハ- 50	28	27	15	隅丸方形	開くU字形	S-1142と隣接する。
S -1944	F-3 区	ハ- 50	22	17	24	楕円形	U字形	
S -1945	F-3 区	ハ- 50	〔45〕	32	23	不整隅丸方形	逆台形	S-1917・1918より新しく、S-1919・1920より古い。
S -1946	F-3 区	ハ- 50	19	17	5	円形	逆台形	S-1947と隣接する。
S -1947	F-3 区	ハ- 50	23	21	18	円形	逆台形	S-1946と隣接する。
S -1949	F-3 区	ハ- 50	〔40〕	25	16	楕円形	有段不整逆台形	S-1911・1912より古い。S-1914とも重複するが新旧関係不明。
S -1950	F-3 区	ハ- 49	40	34	33	不整隅丸方形	開くU字形	
S -1951	F-3 区	ハ- 49	47	34	10	不整隅丸方形	皿状	平面で確認したプランは明瞭に観察できたが、底面が不明瞭なので遺構ではない可能性もある。
S -1952	F-3 区	ハ- 49	41	40	35	円形	有段逆台形	S-1953より新しい。
S -1953	F-3 区	ハ- 49	26	25	38	円形	U字形	S-1952より古い。
S -1954	F-3 区	ハ- 49	25	24	26	不整円形	U字形	
S -1955	F-3 区	ヒ- 50	28	23	35	円形	U字形	SK-1933より新しい。柱痕明瞭。
S -2005	G-1 区	マ- 52	33	31	36	円形	有段開くU字形	柱痕有り。
S -2006	G-1 区	マ- 52	30	27	27	不整円形	開くU字形	
S -2007	G-1 区	マ- 53	30	25	35	楕円形	U字形	柱痕有り。
S -2008	G-1 区	マ- 53	28	26	29	不整楕円形	U字形	柱痕有り。
S -2009	G-1 区	マ- 53	38	35	29	円形	不整開くU字形	柱痕有り。
S -2010	G-1 区	ミ- 53	43	38	28	楕円形	有段開くU字形	柱痕有り。
S -2011	G-1 区	マ- 54	38	34	38	円形	U字形	
S -2012	G-1 区	マ- 54	34	33	23	隅丸方形	逆台形	
S -2013	G-1 区	マ- 54	60	34	31	円形	U字形	S-2025より新しい。
S -2014	G-1 区	フ- 55	34	〔30〕	30	-	U字形	西半分が調査区外に続く。
S -2015	G-1 区	ミ- 54	35	33	17	円形	開くU字形	SD-2002の覆土除去中に確認した遺構。SD-2002との新旧関係不明。伴う可能性もある。
S -2018	G-1 区	マ- 55	50	35	15	不整楕円形	開くU字型	SD-2002より新しい。
S -2025	G-1 区	マ- 54	44	30	28	不整円形	有段逆台形	S-2013より古い。
S -2108	F-2 区	ホ- 47	〔36〕	30	-	楕円形	-	S-2137より古い。SK-2121、SD-1402との新旧関係不明。
S -2120	F-2 区	マ- 50	48	44	25	楕円形	有段逆台形	S-2143と隣接する。

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	平面形	断面形	備　　考
S -2122	F-2区	ホ- 47	33	27	15	楕円形	逆台形	SK-2121より古い。
S -2123	F-2区	ホ- 47	38	30	35	楕円形	開くU字形	SK-2121と重複するが新旧関係不明。柱痕と思われる4層中から土師器坏の破片が出土した。
S -2124	F-2区	へ- 49	49	42	〔40〕	楕円形	開くU字形	SD-1403の完掘面より検出したピット状遺構。新旧関係不明。S-2125と隣接する。覆土中より土師器高台付埦の底部片1点が出土した。図示。
S -2125	F-2区	へ- 49	38	30	18	楕円形	有段開くU字形	SD-1403の完掘面より検出したピット状遺構。新旧関係不明。S-2124・2132と隣接する。柱痕明瞭。
S -2127	F-2区	ホ- 47	65	50	18	楕円形	開くU字形	
S -2128	F-2区	ホ- 47	26	22	19	楕円形	U字形	
S -2129	F-2区	ホ- 48	30	23	27	楕円形	有段U字形	柱痕明瞭。
S -2130	F-2区	ホ- 48	29	27	15	円形	逆台形	
S -2131	F-2区	ホ- 48	39	25	10	楕円形	逆台形	
S -2132	F-2区	へ- 49	40	32	15	楕円形	開くU字形	S-2125と隣接する。
S -2133	F-2区	ホ- 47	65	60	〔10〕	楕円形	皿状	SD-1402東壁から検出したピット状遺構。溝と同時に開口していたと思われる。水の影響で底面が強く酸化している。
S -2135	F-2区	ホ- 47	72	68	42	円形	開くU字形	SD-1402より古い。柱痕明瞭。
S -2136	F-2区	フ- 50	40	32	〔63〕	楕円形	U字形	SD-1402より新しいピット状遺構と思われる。
S -2137	F-2区	ホ- 47	30	25	15	楕円形	逆台形	SK-2121・S-2108より新しい。SD-1404との新旧関係不明。
S -2139	F-2区	ホ- 47	32	31	〔15〕	円形	逆台形	SD-1402東壁から検出したピット状遺構。SD-1402と同時開口と思われるこのタイプの掘方は、溝の足掛けピットと考える。半截出来ず完掘した他の同様なピット状掘方の覆土もこの土層に準じる。
S -2140	F-2区	ホ- 48	60	40	30	不整楕円形	逆台形	掘り替えの重複か。溝より新しいピット状遺構。
S -2141	F-2区	マ- 49	39	31	21	楕円形	逆台形	柱痕有り。
S -2142	F-2区	マ- 49	33	32	24	隅丸方形	U字形	柱痕明瞭。須恵器坏の底部片土師器坏の口縁部破片を出土。図示不能。
S -2143	F-2区	マ- 49	45	43	33	円形	不整開くU字形	S-2120と隣接する。
S -2145	F-2区	マ- 49	44	39	40	隅丸方形	有段不整U字形	柱痕明瞭。覆土中より土師器坏の口縁部片2点を出土した。図示。
S -2146	F-2区	マ- 49	70	68	50	隅丸方形	逆台形	2層がロームと焼土から成る層で、特徴的である。平面的にも柱穴中央部に集中して観察できる。
S -2147	F-2区	マ- 49	45	35	22	楕円形	不整逆台形	S-2160より古い。
S -2148	F-2区	マ- 49	35	34	19	隅丸方形	U字形	S-2149と隣接する。
S -2149	F-2区	マ- 49	55	49	39	不整円形	U字形	S-2148と隣接する。
S -2150	F-2区	マ- 49	50	41	28	不整円形	不整開くU字形	
S -2151	F-2区	マ- 49	〔45〕	〔35〕	17	円形	逆台形	S-2152より古い。
S -2152	F-2区	マ- 49	57	54	44	隅丸方形	逆台形	S-2151より新しい。S-2153と隣接する。
S -2153	F-2区	マ- 49	28	26	20	円形	U字形	S-2152と隣接する。
S -2154	F-2区	マ- 49	50	43	18	楕円形	逆台形	
S -2155	F-2区	マ- 49	43	42	47	円形	U字形	覆土中より須恵器坏と土師器甑の破片を検出。図示。
S -2156	F-2区	マ- 50	64	57	42	円形	逆台形	覆土中より須恵器坏と土師器甕の破片を検出。図示。
S -2157	F-2区	ホ- 50	〔76〕	55	18	不整楕円形	逆台形	
S -2158	F-2区	ホ- 50	35	〔24〕	48	円形	逆台形	S-2159より古い。
S -2159	F-2区	ホ- 50	54	48	48	円形	開くU字形	S-2158より新しい。
S -2160	F-2区	マ- 49	28	23	10	円形	U字形	S-2147より新しい。
S -2167	F-2区	フ- 48	46	40	46	楕円形	有段U字形	掘り替えの重複か。
S -2176	F-2区	フ- 48	44	33	52	楕円形	開くU字形	形良好な柱穴。SK-2175と重複し、これより新しい。
S -2180	F-2区	フ- 46	64	55	35	楕円形	U字形	
S -2186	F-2区	フ- 47	67	55	42	楕円形	開くU字形	柱痕明瞭。
S -2188	F-2区	フ- 47	40	30	24	楕円形	逆台形	
S -2193	F-2区	フ- 48	40	32	25	円形	開くU字形	SK-2192より新しい。柱痕明瞭。
S -2195	F-2区	へ- 47	35	24	15	楕円形	逆台形	
S -2196	F-2区	へ- 46	40	20	35	楕円形	開くU字形	SD-2105の西壁の立ち上がりと切り合う土坑。1･2層が溝と同様の覆土のため開口時期が同じと思われ、溝に伴う土坑と判断する。

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	平面形	断面形	備　　考
S -2197	F-2 区	へ- 46	30	20	〔14〕	楕円形	U字形	SD-2105の壁面で確認したピット状遺構。1層が溝と同様の覆土のため開口時期が同じと思われ、溝に伴う掘方と判断する。
S -2198	F-2 区	へ- 46	23	20	〔13〕	楕円形	U字形	SD-2105の東側壁面で確認したピット状遺構。溝と同様の覆土のため開口時期が同じと思われ、溝に伴う掘方と判断する。
S -2200	F-2 区	ヒ- 48	50	37	57	不整楕円形	有段U字形	柱痕有り。
S -2201	F-2 区	ミ- 49	44	36	20	楕円形	椀形	柱痕有り。
S -2202	F-2 区	マ- 49	30	25	35	楕円形	開くU字形	S-2203より新しい。柱痕明瞭。
S -2203	F-2 区	ミ- 49	33	25	44	楕円形	U字形	S-2202・2204より古い。
S -2204	F-2 区	ミ- 49	40	27	37	楕円形	U字形	S-2203・2205より新しい。柱痕明瞭。
S -2205	F-2 区	ミ- 49	25	〔20〕	40	楕円形	U字形	S-2204より古い。
S -2207	F-2 区	マ- 50	〔35〕	〔30〕	31	楕円形	開くU字形	S-2208より古い。
S -2208	F-2 区	マ- 50	49	〔40〕	40	楕円形	開くU字形	SK-2206、S-2207より新しい。
S -2209	F-2 区	マ- 50	43	40	54	隅丸方形	開くU字形	S-2210・2300より新しい。
S -2210	F-2 区	マ- 50	30	〔23〕	28	円形	開くU字形	S-2209・2300より古い。
S -2211	F-2 区	へ- 45	39	30	30	楕円形	U字形	
S -2212	F-2 区	へ- 45	40	40	60	円形	開くU字形	
S -2213	F-2 区	へ- 45	46	33	73	楕円形	開くU字形	
S -2214	F-2 区	フ- 43	38	30	9	楕円形	皿状	
S -2215	F-2 区	フ- 43	44	28	10	楕円形	皿状	
S -2216	F-2 区	フ- 43	50	〔25〕	13	(円形)	凹凸ある皿状	北半部調査外。
S -2217	F-2 区	ヒ- 43	24	17	6	楕円形	凹凸ある皿状	底面近くの層のみ残存。土器の小片が多く検出する。
S -2218	F-2 区	ヒ- 43	40	27	2	不整楕円形	皿状	底面近くの層のみ残存。土器の小片が多く検出する。
S -2219	F-2 区	ヒ- 43	46	40	4	円形	皿状	底面近くの層のみ残存。土器の小片が多く検出する。床面直上より検出した土師器坏2点と高台付椀1点を図示。
S -2220	F-2 区	ヒ- 43	〔50〕	〔50〕	4	円形	皿状	SD-2107より古い。覆土中より検出した土師器坏2点を図示。
S -2222	F-2 区	フ- 48	40	29	26	楕円形	開くU字形	SK-2172より新しい。
S -2229	F-2 区	へ- 50	38	30	20	楕円形	逆台形	SE-2228に隣接。
S -2230	F-2 区	へ- 48	31	27	16	円形	不整逆台形	SD-2104と重複するが新旧関係不明。
S -2231	F-2 区	ホ- 46	36	30	〔24〕	楕円形	開くU字形	SD-2104と重複するが新旧関係不明。
S -2234	F-2 区	フ- 50	〔35〕	〔35〕	25	円形	開くU字形	SD-1400壁面より検出。溝と同時開口か。
S -2235	F-2 区	フ- 49	〔27〕	〔25〕	15	円形	逆台形	SD-1400壁面より検出。新旧関係不明。
S -2236	F-2 区	フ- 50	30	23	〔18〕	楕円形	逆台形	SD-1400と重複するが新旧関係不明。
S -2237	F-2 区	フ- 49	58	30	〔20〕	楕円形	U字形	SD-1400と重複するが新旧関係不明。
S -2238	F-2 区	フ- 47	48	34	46	楕円形	U字形	SD-1660東壁立ち上がり部と重複する。平面確認から、SD-1660より新しい時期に掘られたものであると思われる。
S -2240	F-2 区	へ- 47	35	34	17	円形	逆台形	SD-2104と重複するが新旧関係不明。
S -2241	F-2 区	フ- 49	28	27	42	円形	U字形	形良好な柱穴。
S -2242	F-2 区	ヒ- 49	40	35	50	円形	U字形	形良好な柱穴。
S -2243	F-2 区	ヒ- 49	〔53〕	49	60	楕円形	有段逆台形	S-2245より新しい。S-2244より古い。
S -2244	F-2 区	ヒ- 49	〔25〕	〔18〕	11	楕円形	逆台形	S-2243・2245より新しい。
S -2245	F-2 区	ヒ- 49	〔35〕	〔30〕	〔55〕	楕円形	U字形	S-2243・2244より古い。形良好な柱穴。
S -2246	F-2 区	ヒ- 49	60	55	85	隅丸方形	開くU字形	S-2247より新しい。
S -2247	F-2 区	ヒ- 49	45	〔15〕	40	楕円形	U字形	S-2246より古い。形良好な柱穴。
S -2248	F-2 区	ヒ- 49	37	28	74	楕円形	砲弾形	柱痕有り。
S -2249	F-2 区	ヒ- 49	37	30	40	楕円形	U字形	
S -2250	F-2 区	ヒ- 49	〔30〕	25	40	楕円形	U字形	S-2252・2253より新しく、S-2251より古い。
S -2251	F-2 区	ヒ- 49	〔40〕	31	65	楕円形	U字形	S-2250・2252・2253より新しい。覆土中より内耳土器の口縁部片検出。図示。
S -2252	F-2 区	ヒ- 49	60	〔27〕	15	楕円形	皿状	S-2253より新しく、S-2250・2251・2254より古い。
S -2253	F-2 区	ヒ- 49	80	40	12	不整方形	皿状	S-2250・2251・2252・2254・2255より古い。
S -2254	F-2 区	ヒ- 49	35	25	66	楕円形	U字形	S-2252・2253・2256・2257より新しく、S-2255より古い。
S -2255	F-2 区	ヒ- 49	40	30	21	楕円形	逆台形	S-2253・2254・2256・2257より新しい。
S -2256	F-2 区	ヒ- 49	30	23	54	楕円形	U字形	S-2254・2255・2257より古い。
S -2257	F-2 区	ヒ- 49	30	〔22〕	22	円形	逆台形	S-2256より新しく、S-2254・2255より古い。

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	平面形	断面形	備　　考
S -2258	F-2区	ヒ- 49	48	35	45	楕円形	開くU字形	
S -2259	F-2区	ヒ- 49	〔26〕	20	50	隅丸方形	有段U字形	S-2260より新しい。
S -2260	F-2区	ヒ- 49	〔23〕	〔13〕	31	楕円形	U字形	S-2259・2261・2289より古い。
S -2261	F-2区	ヒ- 49	55	42	85	楕円形	逆台形	S-2260・2262・2264・2265・2289・2290より新しい。
S -2262	F-2区	ヒ- 49	〔28〕	〔23〕	25	楕円形	逆台形	S-2265より新しく、S-2261・2263・2264・2290より古い。
S -2263	F-2区	ヒ- 49	35	24	35	隅丸方形	U字形	S-2262より新しく、S-2264・2265より古い。
S -2264	F-2区	ヒ- 49	〔25〕	〔18〕	53	楕円形	U字形	S-2262・2263・2265より新しく、S-2261より古い。
S -2265	F-2区	ヒ- 49	〔33〕	〔24〕	〔45〕	楕円形	U字形	S-2261・2262・2264より古い。S-2263より新しい。
S -2266	F-2区	ヒ- 49	〔35〕	〔30〕	50	楕円形	U字形	S-2267・2333より新しい。
S -2267	F-2区	ヒ- 49	〔26〕	〔20〕	7	楕円形	皿状	S-2266より古い。
S -2268	F-2区	ヒ- 49	35	30	〔50〕	楕円形	U字形	S-2269・2428より新しい。
S -2269	F-2区	ヒ- 49	〔40〕	〔30〕	23	楕円形	逆台形	S-2270・2333より新しく、S-2268より古い。
S -2270	F-2区	ヒ- 49	〔34〕	〔34〕	85	円形	U字形	S-2333より新しく、S-2269より古い。
S -2271	F-2区	ヒ- 49	83	〔75〕	25	方形	逆台形	S-2276より新しく、S-2272・2273・2274・2275より古い。
S -2272	F-2区	ヒ- 49	〔20〕	〔16〕	21	楕円形	U字形	S-2271・2274より新しく、S-2273より古い。
S -2273	F-2区	ヒ- 49	58	31	60	不整楕円形	U字形	S-2271・2272・2274より新しく、S-2275より古い。形良好な柱穴。
S -2274	F-2区	ヒ- 49	〔18〕	〔15〕	20	円形	逆台形	SK-2281・S-2271より新しく、S-2272・2273・2275より古い。
S -2275	F-2区	ヒ- 49	〔36〕	33	55	楕円形	U字形	S-2271・2273・2274・2276より新しい。形良好な柱穴。
S -2276	F-2区	ヒ- 49	〔50〕	30	52	楕円形	U字形	S-2271より新しく、S-2275より古い。形良好な柱穴。覆土中より土師質皿1点検出。図示。
S -2279	F-2区	ヒ- 49	50	〔45〕	65	円形	U字形	SK-2281より新しい。
S -2282	F-2区	ヒ- 49	〔38〕	25	61	円形	U字形	SK-2281より新しく、S-2334より古い。柱痕有り。覆土中より擂鉢胴部小片を検出。図示。
S -2283	F-2区	ヒ- 49	38	25	50	楕円形	有段U字形	S-2330より新しく、S-2284より古い。
S -2284	F-2区	ヒ- 49	45	40	90	円形	有段U字形	S-2283より新しく、S-2285より古い。柱痕明瞭。
S -2285	F-2区	ヒ- 49	〔23〕	〔23〕	14	円形	逆台形	SK-2281・S-2284・2286より新しい。
S -2286	F-2区	ヒ- 49	25	25	37	円形	U字形	SK-2281より新しく、S-2285より古い。
S -2288	F-2区	ヒ- 49	42	40	55	隅丸方形	U字形	SX-2391より新しい。形良好な柱穴。
S -2289	F-2区	ヒ- 49	〔24〕	〔22〕	19	楕円形	逆台形	S-2260より新しく、S-2261・2290より古い。
S -2290	F-2区	ヒ- 49	28	25	30	楕円形	U字形	S-2262・2289より新しく、S-2261より古い。
S -2291	F-2区	ヒ- 49	60	35	55	不整楕円形	開くU字形	SX-2391・2292より新しい。
S -2293	F-2区	ヒ- 49	23	21	51	円形	開くU字形	SX--2292より新しい。
S -2294	F-2区	ヒ- 49	〔34〕	〔25〕	26	楕円形	逆台形	SX-2292より新しく、S-2295・2296・2298・2299より古い。
S -2295	F-2区	ヒ- 49	26	〔20〕	18	楕円形	逆台形	S-2294より新しく、S-2298より古い。底面より礫が多数検出する。
S -2296	F-2区	ヒ- 49	〔17〕	〔10〕	28	楕円形	U字形	S-2294・2298より新しい。
S -2297	F-2区	ヒ- 49	〔45〕	40	60	円形	開くU字形	SX-2292・S-2298より新しい。
S -2298	F-2区	ヒ- 49	〔35〕	〔25〕	79	円形	開くU字形	SX-2292・S-2294・2295より新しく、S-2296・2297より古い。
S -2299	F-2区	ヒ- 49	46	34	50	楕円形	開くU字形	SX-2292・S-2294より新しい。形良好な柱穴。
S -2300	F-2区	マ- 50	28	〔10〕	30	円形	U字形	S-2209を掘り下げ中に確認したピット状遺構。S-2210より新しく、S-2209より古い。
S -2301	F-2区	へ- 44	85	32	4	長楕円形	凹凸ある皿状	SD-2106に伴う波板状凹凸面になるか。
S -2302	F-2区	へ- 44	142	40	13	不整長楕円形	凹凸ある皿状	SD-2106に伴う波板状凹凸面になるか。
S -2303	F-2区	へ- 44	103	28	9	不整長楕円形	凹凸ある皿状	SD-2106に伴う波板状凹凸面になるか。
S -2304	F-2区	へ- 45	117	34	5	不整長楕円形	凹凸ある皿状	SD-2106に伴う波板状凹凸面になるか。
S -2305	F-2区	フ- 43	58	32	10	楕円形	凹凸ある皿状	
S -2306	F-2区	ヒ- 44	45	38	13	隅丸方形	皿状	SD-2107より古い。
S -2307	F-2区	フ- 44	55	22	17	長楕円形	皿状	SD-2106に伴う波板状凹凸面になるか。
S -2308	F-2区	フ- 44	44	43	10	円形	不整開くU字形	SD-2106より新しい。
S -2309	F-2区	フ- 44	25	24	27	円形	U字形	SD-2106より新しい。
S -2310	F-2区	フ- 44	27	18	12	不整形	逆台形	
S -2311	F-2区	フ- 44	64	31	7	不整長楕円形	凹凸ある皿状	SD-2106に伴う波板状凹凸面になるか。
S -2312	F-2区	フ- 44	19	14	5	楕円形	開くU字形	SD-2106に伴う波板状凹凸面の一部になるか。

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	平面形	断面形	備　　考
S -2313	F-2 区	フ - 45	91	30	7	不整長楕円形	凹凸ある皿状	SD-2106に伴う波板状凹凸面になるか。
S -2314	F-2 区	フ - 45	105	36	4	不整長楕円形	皿状	SD-2106に伴う波板状凹凸面になるか。
S -2315	F-2 区	フ - 45	142	59	7	不整長楕円形	皿状	SD-2106に伴う波板状凹凸面になるか。S-2316・2317より新しい。
S -2316	F-2 区	フ - 45	45	42	35	円形	U字形	S-2315掘り下げ中に検出。S-2315より古い。SD-2106に伴う波板状凹凸面・ピット列等にかかわるか。
S -2317	F-2 区	フ - 45	44	41	20	不整円形	不整開くU字形	S-2315掘り下げ中に検出。S-2315より古い。SD-2106に伴う波板状凹凸面・ピット列等にかかわるか。
S -2318	F-2 区	フ - 45	148	54	16	不整長楕円形	凹凸ある皿状	SD-2106に伴う波板状凹凸面になるか。
S -2319	F-2 区	フ - 45	95	35	8	不整隅丸長方形	皿状	SD-2106に伴う波板状凹凸面になるか。
S -2320	F-2 区	ヒ - 49	35	34	50	円形	開くU字形	SK-2337より新しい。柱痕明瞭。
S -2321	F-2 区	ヒ - 49	〔27〕	27	70	円形	U字形	SK-2337より新しく、S-2322より古い。形良好な柱穴。
S -2322	F-2 区	ヒ - 49	〔33〕	30	58	円形	U字形	S-2321より古い。形良好な柱穴。
S -2324	F-2 区	ヒ - 49	〔25〕	23	38	円形	U字形	SK-2337・S-2325より新しい。形良好な柱穴。
S -2325	F-2 区	ヒ - 49	〔25〕	〔16〕	51	円形	砲弾形	S-2324より古い。形良好な柱穴。
S -2326	F-2 区	ヒ - 49	〔25〕	23	53	円形	U字形	SK-2337・S-2329より新しい。形良好な柱穴。
S -2327	F-2 区	ヒ - 49	〔35〕	35	80	円形	U字形	SK-2337より新しく、SK-2338より古い。形良好な柱穴。
S -2328	F-2 区	ヒ - 49	15	15	16	円形	U字形	SK-2337の底面より検出。新旧関係不明。
S -2329	F-2 区	ヒ - 49	〔24〕	20	16	円形	U字形	SK-2337の底面より検出。新旧関係不明。S-2326より古い。
S -2330	F-2 区	ヒ - 49	30	〔27〕	38	円形	開くU字形	S-2283より古い。
S -2332	F-2 区	ヒ - 49	28	20	66	楕円形	砲弾形	S-2333より古い。
S -2333	F-2 区	ヒ - 49	〔50〕	〔40〕	50	楕円形	逆台形	S-2332より新しく、S-2266・2269・2270より古い。
S -2334	F-2 区	ヒ - 49	〔60〕	〔30〕	63	楕円形	開くU字形	SK-2281、S-2282より新しく、S-2335より古い。形良好な柱穴。
S -2335	F-2 区	ヒ - 49	〔45〕	45	38	不整隅丸方形	有段逆台形	SK-2281・S-2334より新しく、S-2336より古い。
S -2336	F-2 区	ヒ - 49	〔30〕	〔18〕	62	楕円形	不整U字形	S-2335より新しい。
S -2343	F-2 区	フ - 49	46	31	93	楕円形	U字形	SK-2342より古い。覆土中より土師器甕片を検出。図示。
S -2348	F-2 区	マ - 49	〔65〕	60	42	楕円形	逆台形	S-2349より古い。覆土中より土師器甕片を検出。図示。
S -2349	F-2 区	マ - 49	61	50	43	楕円形	逆台形	S-2348より新しい。
S -2350	F-2 区	マ - 49	55	38	42	楕円形	逆台形	
S -2351	F-2 区	マ - 49	50	40	23	楕円形	有段逆台形	覆土中より須恵器坏の底部片検出。図示。
S -2352	F-2 区	マ - 48	60	57	30	隅丸方形	U字形	覆土中より検出した須恵器坏2点と土師器甕1点を図示。
S -2361	F-2 区	フ - 46	60	55	41	楕円形	逆台形	SD-1660西側から検出したピット状遺構。
S -2362	F-2 区	ヒ - 48	237	85	52	楕円形	U字形	柱痕明瞭。
S -2364	F-2 区	ヒ - 49	86	55	80	楕円形	有段逆台形	柱痕明瞭。
S -2365	F-2 区	ヒ - 47	59	52	37	隅丸方形	不整開くU字形	2層を柱部分として3･4層で固定している。柱を抜き取った後に1層の土が入れられ、その後SD-1660の掘削時に柱穴の東部分が削られたものと見られる。従って時期的にはSD-1660に先行する柱穴である。
S -2366	F-2 区	ヒ - 47	33	30	15	円形	不整開くU字形	SD-1660西壁立ち上がり部と重複するが新旧関係不明。
S -2367	F-2 区	ヒ - 47	70	65	28	楕円形	不整開くU字形	SD-1660西壁立ち上がり部と重複する。平面確認から、SD-1660より新しい時期に掘られたものであると思われる。
S -2368	F-2 区	フ - 47	60	54	40	円形	開くU字形	柱痕有り。
S -2369	F-2 区	ヒ - 48	〔40〕	〔40〕	〔35〕	円形	開くU字形	S-2370より古い。S-2371との新旧関係不明。
S -2370	F-2 区	ヒ - 48	40	30	〔20〕	楕円形	開くU字形	S-2369・2371より新しい。
S -2371	F-2 区	ヒ - 48	〔35〕	〔20〕	〔30〕	楕円形	U字形	S-2370より古い。S-2369との新旧関係不明。
S -2372	F-2 区	ヒ - 48	70	52	70	楕円形	砲弾形	SD-1660の東側から検出。溝より新しい時期の柱穴。柱痕明瞭。
S -2380	F-2 区	フ - 49	〔55〕	〔35〕	48	楕円形	開くU字形	SK-2382より新しく、S-2383より古い。
S -2383	F-2 区	フ - 49	〔45〕	37	55	楕円形	有段U字形	SK-2382より新しく、S-2380より古い。
S -2384	F-2 区	フ - 49	25	23	45	円形	U字形	SK-2381より新しい。
S -2386	F-2 区	フ - 49	37	34	44	円形	開くU字形	SI-2414より新しい。SK-2415と重複するが新旧関係不明。
S -2388	F-2 区	ホ - 50	95	66	45	楕円形	開くU字形	S-2390より新しい。
S -2390	F-2 区	ホ - 50	70	〔35〕	33	円形	U字形	S-2388より古い。
S -2392	F-2 区	ヒ - 49	26	19	〔25〕	楕円形	U字形	SX-2292・2391より古い。

遺構番号	区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	断面形	備　　考
S -2393	F-2 区	ヒ- 49	70	65	41	不整方形	逆台形	SX-2391より新しく、S-2394より古い。
S -2394	F-2 区	ヒ- 49	37	33	55	楕円形	U字形	SX-2391・S-2393より新しい。
S -2395	F-2 区	ヒ- 49	30	29	46	円形	U字形	SX-2391より新しい。形良好な柱穴。
S -2397	F-2 区	ハ- 47	56	50	47	楕円形	有段U字形	
S -2398	F-2 区	ハ- 46	46	43	35	円形	U字形	
S -2399	F-2 区	ハ- 46	60	60	28	円形	有段逆台形	
S -2401	F-2 区	ヘ- 45	28	22	15	楕円形	U字形	SD-2106掘り下げ中に検出。SD-2106に伴う波板状凹凸面・ピット列等にかかわるか。
S -2402	F-2 区	フ- 44	44	40	12	円形	不整逆台形	
S -2403	F-2 区	フ- 44	21	18	9	楕円形	逆台形	
S -2404	F-2 区	フ- 45	28	27	5	円形	不整開くU字形	SD-2106に伴う波板状凹凸面・ピット列等にかかわるか。
S -2407	F-2 区	ヘ- 45	22	18	20	円形	U字形	SD-2106（波板状凹凸面）より新しい。
S -2412	F-2 区	ハ- 46	70	40	32	不整楕円形	開くU字形	
S -2413	F-2 区	ヒ- 49	35	32	49	円形	開くU字形	形良好な柱穴。
S -2416	F-2 区	フ- 49	50	〔45〕	30	楕円形	逆台形	SI-2414の北壁北より検出。SI-2414より新しい。S-2434より古い。SK-2415・2385との新旧関係不明。
S -2420	F-3 区	ヒ- 49	44	42	53	円形	U字形	S-1639より新しい。
S -2422	F-2 区	フ- 49	40	35	48	楕円形	開くU字形	SI-2414より新しい。覆土中から須恵器高台付坏の底部破片が出土。図示。
S -2425	F-2 区	ヒ- 49	28	21	54	楕円形	U字形	S-2428より新しい。柱痕明瞭。
S -2426	F-2 区	ヒ- 49	22	16	55	円形	U字形	S-2427より新しい。
S -2427	F-2 区	ヒ- 49	47	40	52	楕円形	U字形	S-2426・2429より古い。2428とは新旧不明。
S -2428	F-2 区	ヒ- 49	30	〔15〕	47	楕円形	U字形	S-2268・2425・2429より古い。S-2427とは新旧不明。
S -2429	F-2 区	ヒ- 49	〔35〕	27	〔26〕	楕円形	-	S-2427・2428・2430より新しい。
S -2430	F-2 区	ヒ- 49	23	〔23〕	19	円形	逆台形	S-2431より新しく、S-2429より古い。
S -2431	F-2 区	ヒ- 49	54	40	〔70〕	隅丸方形	U字形	S-2430より古い。
S -2434	F-2 区	フ- 49	49	40	59	楕円形	開くU字形	SI-2414のカマドを壊しているピット状遺構。
S -2503	G-2 区	ム- 54	53	47	18	円形	逆台形	
S -2504	G-2 区	ム- 54	47	37	15	楕円形	逆台形	
S -2505	G-2 区	ム- 55	30	27	15	円形	逆台形	
S -2506	G-2 区	ム- 55	25	22	14	円形	U字形	
S -2507	G-2 区	ム- 56	22	20	15	隅丸方形	U字形	
S -2508	G-2 区	ム- 56	48	30	10	不整楕円形	皿状	
S -2509	G-2 区	ム- 56	33	30	20	隅丸方形	開くU字形	
S -2512	G-3 区	ヒ- 55	64	30	18	不整楕円形	逆台形	
S -2513	G-3 区	ヒ- 55	20	18	7	円形	逆台形	
S -2514	G-3 区	フ- 55	20	18	3	円形	皿状	S-2515と重複するが新旧関係不明。
S -2515	G-3 区	フ- 55	17	17	4	円形	皿状	S-2514と重複するが新旧関係不明。
S -2516	G-3 区	フ- 57	45	〔40〕	15	円形	逆台形	南西部が調査区外に続く。
S -2517	G-3 区	ヘ- 57	60	40	13	楕円形	皿状	
S -2518	G-3 区	ヘ- 58	65	40	8	楕円形	皿状	

第12節　性格不明遺構

性格不明遺構は全調査区から、合計32基検出している。土坑状、溝状を呈するものが多く、周辺の類似遺構との兼ね合いから用途を推測することが可能な遺構も含まれるが、不明確であるため、性格不明遺構の扱いでここに一括掲載した。

ＳＸ-２６

位置　C-２区ス-20～ス-21グリッドに位置する。

重複・新旧　SI-25・279・280と重複し、当遺構が最も新しい。

規模・形状　平面形は確認開口部で長軸約580㎝、短軸約475㎝の丸みを帯びた不整長方形を呈する。深さは確認面から平均約12㎝を測る。平安時代の竪穴住居を切る浅い遺構。SI-25Ａ・Ｂ調査時に確認し、住居跡の上に堆積する非常に薄い覆土が住居の南側に広がる範囲をおさえSX-26とした。平地式に近い住居跡ではないかと推定し、SI-25・279・280とともに一連で調査を行ったが、一軒の遺構ではなく、平地式住居が複数重複した範囲を捉えた可能性もあったため、SXとし不明遺構として扱った。覆土は粒の小さいローム粒を少なめに含むざらざらとした質感の特徴的な土で、下部に材の形が残る炭化物が多く見られた。但しこの炭化材は先行する竪穴住居のものかもしれない。比較的平坦な面で覆土が広がり、直下の面が荒れている。SX-26のア層に類似するボロボロの黒色土の薄い層は、C-２調査区内の竪穴住居が確認できなくなるライン周囲の地山上に若干みられ、この範囲に同様な遺構があった可能性もある。平安時代以降のもの。

遺物　覆土中より出土した磨石１点を図示。他に土師器の坏破片５点と土師器の甕破片５点が出土。小片のため図示不能。

ＳＸ-５５

位置　C-２区セ-20グリッドに位置する。

重複・新旧　SI-15・16と重複し、当遺構が最も新しい。

規模・形状　SI-15の東壁とSI-16の西壁を切る形で、存在する遺構。南西部が歪んだ丸みのある浅い長方形を呈す。確認開口部で長軸約350㎝、短軸約156㎝、深さ約10㎝を測る。底面の一部に薄い炭化物の層が認められた。SI-14や周辺の住居群と軸方向が同一であり、形状や覆土から浅く掘り込まれた竪穴の可能性が考えられる。平安時代以降のもの。

遺物　須恵器の甕破片を１点、土師器の坏破片を11点、土師器の甕破片21点、焼成粘土塊１点、須恵器坏破片１点を検出。図示不能。

ＳＸ-１１５

位置　Ｂ区オ-９グリッドに位置する。

重複・新旧　他遺構との重複はない。

規模・形状　備考　平面形は確認開口部で長軸約235㎝、短軸約130㎝の不整形を呈する。深さは確認面から平坦面で約10～16㎝、ピット状部分で約32～48㎝を測る。浅い土坑状の掘方の両端（四隅）に、柱穴状のピットを持つ性格不明遺構。調査時の所見ではピットの配置から、浅く掘った掘方の中央に板のような物を立て、その両脇を二本の柱で支えたような用途が考えられることが挙げられている。

遺物　検出しない。

ＳＸ-１１８

位置　B-３区オ-11～カ-12グリッドに位置する。

重複・新旧　SD-128、SZ-105・124と重複する。SZ-105より新しく、SZ-124より古い。SD-128との新旧関係は不明。

規模・形状　開口部で東西約6.3m、短軸約7.8mの範囲を確認した。深さは平坦部で確認面から約10～20㎝、ピット状になった部分では確認面から最深部で約60㎝、底面から約38㎝を測る。当初、北東から南西方向を主軸とする不定形の土坑と、北西から南東方向を主軸とする不定形の土坑の、最低２基以上の重複を予想した調査が成された。しかし覆土の土層観察の結果、その重複関係を支持する状況は確認できなかったので、一連の一基の不明遺構としてまとめられている。全体が「く」の字状に浅く溝状に掘り下げられた部分と、その底面から検出した２カ所の方形プランの浅い窪み、その周囲の多数のピット状の窪みからなる。南西壁際のピット状窪みの南壁は、赤化、焼土化しており、この部分で燃焼行為が行われたことが伺える。覆土中からは、骨片と思われる白色の物質が出土している。検出した角柱状の礫も赤化しており、被熱したと思われる。火葬的行為が行われていたのか。掘り上がりの底面にははっきりしたピット状の掘方の他に、非常に多くの細かいピット状の凹凸がみられるが、木根の攪乱や後世のピット状遺構を同時に掘り下げている可能性もあるので、すべてが本遺構に伴ったものとは限らない。「く」の字状に浅く広がる部分と方形土坑状に掘り下げられた部分との関係は、伴う同時期のもの、溝状の遺構の窪みを利用して時期的には近いがやや後から土坑状の部分が足されたもの、溝状遺構の部分を意識せず時期が隔たった後世に掘られた別遺構の重複の結果、の三つが考えられる。調査時の所見では、燃焼行為を伴う小ピット状の掘り込みと方形土坑は葬送行為に強く関連したものとして、二カ所の方形プランの底部は箱状のものを安置した箇所で、ピット状窪みはその上屋状施設に係る柱穴と火葬・埋葬に係る遺構にあたるかとの可能性が挙げられている。遺構の時期は中世以降か。この場合古墳時代の土器片を出土し、SZ-124に切られる溝状部分とは別に考えられ、この部分には方形周溝遺構の南西コーナー部分にあたる可能性を挙げる。

遺物　須恵器は坏破片２点と甕破片１点、土師器は坏破片３点、壺・甕の破片７点を出土。壺の破片と思われる小片にはハケメがみられる。いずれもごく小破片のため、図示不能。

ＳＸ-１３０

位置　B-３区エ-７～エ-８グリッドに位置する。

重複・新旧　SK-113、SD-111、SZ-101と重複する。古い順にSZ-101→SK-113・SD-111→SX-130となり、当遺構が最も新しい。SK-113とSD-111間の新旧不明。

規模・形状　西側が調査区外へ続き、北東部が削平のため消滅するため、南北約〔960〕㎝、東西約〔196〕㎝の範囲のみ確認した。確認面で深さ48～92㎝を測る。平面形は北東方向から南東へ延びる溝状を呈し、断面は皿状である。

遺物　検出しない。

ＳＸ-２０７

位置　C-２区シ-16グリッドに位置する。

重複・新旧　他遺構との重複はない。

規模・形状　確認面での平面形は長軸約210㎝、短軸約110㎝の不整楕円形である。深さは確認面から約10㎝となる。広い平坦面を持ち、断面は皿状を呈す。SD-53Ｂと確認面の埋土がよく似ており、溝掘り下げ中に同遺構の広がりとして掘ってしまったが、掘り上がりの形状から別遺構とした。SD-53Ｂより古いものかと

の所見が残る。

遺物　検出しない。

ＳＸ-２０８

位置　C-２区シ-15・シ-16グリッドに位置する。

重複・新旧　SD-53Ａ・53Ｂと重複し、これより古い。

規模・形状　平面形は確認開口部で長軸約〔200〕㎝、短軸約〔110〕㎝の不整楕円形を呈する。深さは確認面から約27㎝を測る。断面は凹凸のある皿状。

備考　SD-53Ａ・Ｂに切られることから、溝が掘られる前に構築された土坑の一部かと思われる。SD-53Ａの底面の下に当たる層はややしまりの強い土で、SD-53Ａを作ったときに底面を平らにするために整えられた可能性がある旨、所見にある。

遺物　検出しない。

ＳＸ-２１２

位置　C-２区サ-17～ケ-20グリッドに位置する。

重複・新旧　SD-50・53Ｂと重複しこれより新しい。

規模・形状　西側が調査区外へ続くため、南北約31ｍ、東西約7.2ｍの範囲を確認した。深さは確認面から48～92㎝を測る。C-１区とC-２区の境にある現用水路に切られる遺構。半円のドーナツ状に落ち込んだ部分の南西部のみの確認となり、全体の形状が不明である。底面の一部に砂礫が認められるため、当初は自然の流路を疑ったが、掘り上がりの形状は人工的な感が否めない。南西部に並ぶ細い溝状の掘り込みも、環状の主たる部分にどう関わるかは、間に存在した現通路で確認を妨げられた為不明であるが、調査できた壁際の土層観察によると、底面近くは環状部分に先行する堆積を示すが、中位は同時期である。中央の一段高いところ以外は遺構内に水が溜まっていたか、流れがあったと思われ、砂が全面に堆積している。一段高い平場には漸移層の土が流れ込んで自然堆積していた。上位はほとんどが攪乱土である。土層断面から考えると、SD-53Ｂが埋没して攪乱を受けた後、SX-212の北側の掘り込みが行われた順になり、SD-53Ｂが中世以降だとすると、本遺構は近世に入るか。なお、中央南寄りの礫群は自然の礫層と判断された。

遺物　東端中央部で覆土中より出土した磁器のとっくり１点を図示。他に、陶磁器は器種不明の口縁部・胴部・底部の破片合わせて21点を出土しているが図示不能。混入品では、灰釉の埦破片１点、須恵器は坏破片を５点、甕破片を10点、土師器は坏破片を２点、甕破片４点を出土した。いずれも小破片。

ＳＸ-３０１

位置　B-２区カ-14・カ-15グリッドに位置する。

重複・新旧　SK-158・159・160と重複し、当遺構が最も古い。

規模・形状　確認面での平面形は長軸約〔190〕㎝、短軸約〔150〕㎝の不整の浅い溝状である。深さは確認面から約22㎝となる。底面には凹凸が多くみられる。

備考　SK-160の実測図に掲載。SK-158･159･160の周りに見られた溝状の落ち込み。調査当初は浅い土坑と判断したが、掘り込み不明瞭で人為的遺構ではないかもしれない。

遺物　土師質土器の焙烙底部破片を１点、陶磁器の碗口縁部破片を２点出土。図示不能。

ＳＸ-375

位置　B-１区ケ-12・13グリッドに位置する。

重複・新旧　重複する遺構はない。

規模・形状　平面形は確認開口部で長軸約225㎝、短軸約80㎝の不整長方形を呈する。深さは確認面から平坦面で約16㎝、ピット状の窪み部分で約38～50㎝を測る。平面プランは全体を確認したが、東半分の掘方について調査が出来なかった。西半分の調査結果から、直線上に隣接して連なるピット状の掘方が形成する、細長い土坑状遺構と判断した。このような掘方は、浅く幅広の溝状遺構に伴うにも多くみられる形状で、本遺構の堆積の特徴もこれに準じた様子を示すが、Ｂ区で確認されている通路状施設を伴う溝状遺構は南に25ｍほど離れた位置にあり、SX-375の周囲には関連しそうな遺構は認められなかった。

遺物　土師器の甕胴部破片を１点出土。図示不能。

ＳＸ-４０９

位置　Ｂ-２区エ-14グリッドに位置する。

重複・新旧　SK-399と重複し、これより新しい。

規模・形状　SK-399の実測図に掲載。Ｂ調査区南端の土層断面確認から、長方形に近いSK-399の覆土を切っているSX-409の覆土を確認した。確認開口部で長軸約〔115〕㎝、短軸約〔15〕㎝、深さ最深33㎝の範囲を調査している。急角度で立ち上がる北東壁の一部以外、壁の立ち上がりは確認できず、遺構の大部分は西側の調査区外に続くものと思われる。調査時所見では、住居等の竪穴状の大きめの遺構の一部と推定されている。

遺物　検出しない。

ＳＸ-５１７

位置　Ｂ-４区キ-12グリッドに位置する。

重複・新旧　他遺構との重複は見られない。

規模・形状　確認面での平面形は長軸約326㎝、短軸約127㎝の不整長方形である。深さは確認面から約20～30㎝となる。断面は凹凸のある皿状で壁の立ち上がりは不明瞭であった。底面は掘り過ぎのためか、かなり凹凸を持つ。長軸方向の断面しか確認していないため不確実であるが、掘り上がりのプランの様子から、２つ以上の長方形状の遺構が重なっている可能性がある。古墳後期以降のものか。

遺物　土師器の壺１点を図示した。単一の埋土中に、分散して混入していた破片が接合したもの。破片は底面直上及び底面上７㎝の範囲で検出した。

ＳＸ-５１８

位置　Ｂ-４区カ-12グリッドに位置する。

重複・新旧　土層での重複関係は確認できないが、SZ-124周溝の北東部分と重なる位置で検出。本遺構が新しいとの所見。平面形は確認開口部で長軸約158㎝、短軸約153㎝の不整円形を呈する。深さは確認面から平均約18㎝を測る。平坦面を有し、断面は皿状。

遺物　検出しない。

ＳＸ-５９１

位置　Ｂ-４区ク-13グリッドに位置する。

重複・新旧　他遺構との重複はない。

規模・形状　確認開口部で長軸約205㎝、短軸約140㎝、深さ35～40㎝を測る。平面形は不整円形を呈し、断面の形状は凹凸のある皿状である。南東部にピット状の窪みがある。土坑内ピットか。土層確認できず。

遺物　丸く窪む底面上に礫が検出した。被熱等の変化はない。

ＳＸ-６８８

位置　Ｂ区エ-９・エ-10グリッドに位置する。

重複・新旧　ＳＢ-684の確認範囲と重なるが、柱穴跡とは切り合っていない。

規模・形状　確認面での平面形は長軸約195㎝、短軸約140㎝の長方形である。深さは確認面から平坦面で約12㎝、ピット状の掘り込みのところで約30㎝を測る。平坦な底面を持ち、壁はやや開いて立ち上がる。断面は逆台形を呈す。西壁寄りに土坑内ピットを持つ。土層確認できず。

遺物　検出しない。

ＳＸ-７２４

位置　Ｄ区オ-19グリッドに位置する。

重複・新旧　調査範囲内での重複関係はない。

規模・形状　遺構の大部分が調査区外へ延びるため、東西約〔115〕㎝、南北約〔95〕㎝の範囲のみ確認した。深さは確認面から17～25㎝を測る。断面は有段逆台形。土層確認できず。掘り上がりの形状のみで判断すると、浅い溝状遺構の一部となるのか。

遺物　検出しない。

ＳＸ-７５５

位置　Ｄ区エ-18グリッドに位置する。

重複・新旧　SD-850に伴う。通路状施設を構成するピット列や土坑状凹凸面の並びを構成するものか。

規模・形状　確認で長軸約〔250〕㎝、短軸約〔85〕㎝の範囲。深さは16～27㎝を測る。SD-850の実測図に並載。

遺物　検出しない。

ＳＸ-７６６

位置　Ｄ区エ-15・エ-16グリッドに位置する。

重複・新旧　重複する遺構はない。

規模・形状　確認面での平面形は長軸約125㎝、短軸約23㎝の細長の長方形を呈す。深さは確認面から平均約８㎝となる。底面はフラットで、壁はやや開いて立ち上がる。断面逆台形。覆土にしまりがなく、新しい感じがする。近代のものか。

遺物　検出しない。

ＳＸ-８０８

位置　Ｄ区ア-14～イ-15グリッドに位置する。

重複・新旧　SD-807・827、SX-900と重複し、これより古い。

規模・形状　西側をSD-807に、東側をSX-900に切られるため確認できたのは、東西約〔500〕㎝、南北約〔140〕㎝の溝状の部分である。深さは確認面から約８～20㎝を測る。断面は皿状を呈す。古墳時代の方形周溝遺構であるSZ-777北辺の北に平行して位置し、溝状の浅い掘方の形状や方向性、遺物の出土状態などから同様な方形周溝遺構の一部（南辺部分か）と思われるが、両端を壊されているため遺構としての確認範囲が狭く、方形周溝遺構と確定しにくいので、SXとして発番し、性格不明遺構の節で掲載した。古墳時代前期の土器を伴い、遺構の時期を決定するものとする。

遺物　覆土中より出土した土師器の壺１点を図示した。覆土中位に正立で遺存していたが、肩部より上の部位は削平により失われている。観察した土層の様子から、この土師器壺はｇ層まで埋まっていたSX-808の堆

積土を掘り返し据えていることがわかる。このことから、この土師器壺が据えられた時点では、SX-800の埋没は完了しておらず、底面近くの堆積がやや進んだ段階での行為であることが判断できる。このため、土師器壺はSX-808の用途に絡んだ祭祀的な行いの結果据えられたものと思われ、SX-800が方形周溝遺構である場合、埋葬後一定期間を経た後の墓前祭祀の執行ということになろうか。他に、陶磁器の碗破片１点が出土。混入品。図示不能。

ＳＸ-８２４

位置　D区オ-19グリッドに位置する。

重複・新旧　重複する遺構はない。

規模・形状　確認開口部で長軸約45㎝、短軸約43㎝、深さ39㎝を測る。平面形はやや隅丸の長方形を呈する。底面は概ね平坦で、壁は比較的垂直に近い角度で立ち上がる。土層確認できず。

遺物　土師器の甕胴部破片１点を出土。図示不能。

ＳＸ-８３２

位置　D区ウ-18グリッドに位置する。

重複・新旧　SD-850に伴う。通路状施設を構成するピット列のひとつと思われる。

規模・形状　確認面での平面形は長軸約57㎝、短軸約50㎝の不整楕円形である。深さは確認面から約15㎝となる。断面は逆台形を呈す。SD-850の実測図に並載。

遺物　検出しない。

ＳＸ-８３３

位置　D区ウ-16グリッドに位置する。

重複・新旧　重複する遺構はない。

規模・形状　平面形は確認開口部で長軸約234㎝、短軸約124㎝の不整形を呈する。深さは確認面から、平均約20㎝、Pit状の掘込みが39㎝を測る。断面は凹凸のある皿状になる。調査時所見に近世の墓壙とその掘方の部分と想定されているが、土層断面からみると、不整楕円形の遺構と円形遺構の重複にもなるか。その際、ピット状部分は楕円部分と円形部分の構築の間に存在したものか、円形部分に伴うものとなる。

遺物　検出しない。

ＳＸ-８３５

位置　D区イ-17・ウ-17グリッドに位置する。

重複・新旧　SD-773・830・834、S-857と重複し、当遺構が最も古い。

規模・形状　確認開口部で長軸約〔640〕㎝、短軸約〔200〕㎝、深さ7～30㎝を測る。不整形。底面には凹凸が多くみられ、底面から壁への立ち上がりは丸みを持つ。D区の溝状遺構集中区から検出し、当初は切り合う溝の一部として調査したが、覆土の観察から別遺構とした。底面直上から下位は、遺構の掘削から時間を経ず、ロームブロックを多く混入した土で自然埋没している。中位から上位はゆっくりと堆積した自然埋没層。

遺物　縄文土器の小破片２点と、不明石製品１点を出土。図示不能。

ＳＸ-９００

位置　D区イ-14～ウ-15グリッドに位置する。

重複・新旧　SK-798・922、SD-859、SZ-777、SX-808と重複する。SZ-777、SX-808より新しく、SK-798・922より古い。SD-859との新旧は不明。

規模・形状　確認した当初は、あまりに規模が大きく、全体にしまりのない黒色土が一様に広がっていたことから、非常に新しい時期の攪乱的なものかと思われた。後、黒色土が西側まで広がることが確認され、古墳時代前期の遺構を壊し、中世の方形竪穴に切られていることから、古墳時代から古代の間に作られた遺構と判断し、精査した。規模が大きすぎるので、複数の遺構の掘方の重複ということも考えられるが、底面や壁は形状に違和感なく連続し、覆土の差異も見られない。胃袋のような平面プランで、底面はやや凹凸があるが概ね平坦である。確認開口部で長軸約14.4m、短軸約6.8m、深さ50～80㎝を測る。平坦面での深さは平均して60㎝前後である。特徴として、北側、西側、南側の壁に面して、底面と壁を抉る様に掘り込む土坑状の掘方が多く認められた。所謂、側壁抉り込み土坑の様相を呈するが、これが墓壙とすると、SX-900全体が巨大な埋葬遺構ということになる。抉り込み土坑状部分の底面直上の埋土は、黒色土を含まないローム主体の土で、既存の抉り込み土坑の調査例と合致する。北東部の壁が段を持って徐々に立ち上がっており、地下式壙の竪坑部分と室部からなる構造に準ずるとすると、この部分は入り口部の竪坑にあたるのか。側壁抉り込み土坑としてはＡ～ｇの７カ所確認したが、抉り込みが緩いものでほかにも存在した可能性もある。通常側壁抉り込み土坑は廃棄した竪穴住居の壁や、溝の壁を再利用してつくられているようであるが、この遺構に伴う側壁抉り込み土坑が二次的な利用なのか判断できない。どちらにしても、埋葬施設としての空間を地下に求めた結果の遺構形態であることは確かであろう。結論としては横穴式と同様な使い方を目的に構築された大型墓壙ということになるか。

遺物　遺物はほとんどが最終的な一括埋め戻し土である２層から出土しており、また、縄文時代から近世のものまで一様に検出するためすべて流れ込みの遺物と思われ、遺構の時期を決定するには至らない。混入品であるが、覆土中より出土した須恵器の坏２点、土師器の手捏ね土器１点、磨石１点、打製石斧１点を図示した。他に、須恵器は坏の破片17点、土師器は坏破片19点、甕破片８点、甑破片１点、器種不明の口縁部破片２点を出土。陶磁器は、碗破片２点、甕破片11点、器種不明口縁部破片１点を出土。瓦を１点、石製品４点を出土。図示不能。

ＳＸ-１１０８

位置　Ｅ区ヌ-36グリッドに位置する。

重複・新旧　重複する遺構はない。

規模・形状　平面形は確認開口部で長軸約〔120〕㎝、短軸約50㎝の溝状を呈する。深さは確認面から平均35㎝を測る。断面は逆台形。南部は攪乱により壊され、東部は未調査。溝の形状に近いが調査部分が少ないためSX発番とした。

遺物　検出しない。

ＳＸ-２０１９

位置　Ｇ-１区ホ-56グリッドに位置する。

重複・新旧　SD-2002と重複し、これより古い。

規模・形状　東壁がSD-2002に切られる。確認面での平面形は長軸約〔190〕㎝、短軸約130㎝の不整形を呈す。深さは確認面から平均約13㎝となる。底面は凹凸があり、壁はだらだらと立ち上がる。断面は皿状である。切り合いはあるが、通路状施設を伴う浅い溝状遺構であるSD-2002の立ち上がりから延びる位置にあり、出土遺物の時期も共通するので、SD-2002に係る施設に関連する可能性もある。覆土は鉄分が多く沈着する砂質土で、水の影響を受けた特徴を持つ。

遺物　底面直上及び覆土中から出土した須恵器の坏５点のうち２点を図示。他に、須恵器は蓋の破片を２

点、壺の一部と思われる破片を１点、土師器は坏の破片２点、甕の破片３点を出土した。小片のため図示不能。

ＳＸ-２０２１

位置　G-１区ホ-54グリッドに位置する。

重複・新旧　SK-2024と重複する。新旧関係は不明。

規模・形状　平面形は確認開口部で長軸約〔135〕㎝、短軸約115㎝の不整円形を呈する。深さは確認面から平均約12㎝を測る。断面は凹凸のある皿状。火葬墓を想定して調査したが、確認範囲が狭いためSX発番とした。覆土はすべて焼土・灰・炭化物を多く含み、それぞれが薄い層を形成するが、壁に被熱等の変化はみられなかった。

遺物　土師器の甕片２点をを出土したが、小破片のため図示不能。

ＳＸ-２１３４

位置　F-２区ホ-47グリッドに位置する。

重複・新旧　SD-1402・1660・2104と重複する。SD-2104より新しい。SD-1402・1660とは同時期に機能する。

規模・形状　SD-1402とSD-1660を結ぶトンネル状の遺構。地表下に北西方向から南西方向に延び、その長さは約３ｍに及ぶ。断面は底面がフラットな楕円形を呈す。それぞれSD-1402側とSD-1660側からお互いを結ぶ方向に掘り込まれているため、つながる部分にややずれが見られる。SD-1402側から筒形に掘り込まれたトンネル状の遺構はSD-1402底面の高さより20㎝ほど高い中位より、SD-1660側からはほぼ底面と同レベルから合流する地点に向かって下がる傾斜を持つように掘り始められ、合流地点が最も低くなる。トンネル部の堆積状況は、それぞれの溝が開口していた状態での自然堆積土が観察されたため、SD-1402とSD-1660は同時期に開口し、尚かつほぼ同時期に使われなくなったものと推定できる。この二つの溝をつなぐ本遺構の用途は、その掘り出しのレベルがほぼ同じ高さであることから、片方の溝からの排水を目的としたものではなく、双方の溝に溜まった水の同レベルでの共有を目的としたものである可能性が考えられる。トンネル状掘方の計測値は、SD-1402側からの掘方では、入り口部分が幅約30㎝、高さ約26㎝、筒状に延びる部分は幅18～27㎝の間で高さは18～30㎝である。SD-1660側からの掘方は、入り口部分が幅約30㎝、高さ約27㎝、筒状に伸びる部分は幅21～27㎝の間で高さは27～49㎝となるが、こちらのトンネル部は天井部分に崩落が見られるため当時の天井高より広がっているようである。覆土の１～４層は西側からトンネル状の遺構の中に入った自然堆積土。天井にあたる地山のロームが崩れて混じる部分もある。５～８層は東側からトンネル状の遺構の中に入った自然堆積土。入口部は柱穴状を呈し、SD-1402埋没時に同時に埋まっていった様子がよく観察できる。

遺物　検出しない。

ＳＸ-２２９２

位置　F-２区ヒ-49グリッドに位置する。

重複・新旧　SX-2391を切っており、これより新しい。ほかピット状遺構のＳ-2291・2392・2293・2294・2299と重複し、Ｓ-2392より新しく、Ｓ-2291・2293・2294・2299より古い。

規模・形状　SX-2391と北方向に繋がるように並ぶ。確認面での平面形は長軸約142㎝、短軸約120㎝の不整方形であり、深さは確認面から約38～47㎝となる。断面は逆台形を呈す。

遺物　検出しない。

ＳＸ-２３９１

位置　Ｆ-２区ヒ-49グリッドに位置する。

重複・新旧　SX-2292、Ｓ-2288・2291・2392・2393・2394・2395と重複する。Ｓ-2392より新しく、SX-2292、Ｓ-2288・2291・2393・2394・2395より古い。

規模・形状　平面形は確認開口部で長軸約〔140〕㎝、短軸約〔110〕㎝の不整方形を呈する。深さは確認面から平均約33㎝を測る。断面は逆台形。

遺物　検出しない。

ＳＸ-２４０５

位置　Ｆ-２区フ-43グリッドに位置する。

重複・新旧　通路状施設を伴う古代の溝状遺構であるSD-2106・2107の北部と重複し、これより新しい遺構である。

規模・形状　北側が調査区外へ続く。東西約〔400〕㎝、南北約〔340〕㎝の範囲を確認した。深さ14～28㎝を測る。平面形は、南西の隅が緩くカーブする方形が考えられる。

遺物　検出しない。

ＳＸ-２５０１

位置　Ｇ-２区ム-56グリッドに位置する。

重複・新旧　SD-2511と重複し、これより新しい。

規模・形状　Ｇ-２区の南西部分より検出し、東西約〔1280〕㎝、南北約〔700〕㎝の範囲で浅く落ち込む不整形の部分をSX-2501の範囲とした。西側と南側が調査区外へ続くようである。南東端は浅くなり確認面で自然消滅している。深さは確認面から平均約40㎝である。底面は比較的平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。自然の地形的な窪みであることも想定したが、平定な底面を持ち、壁の立ち上がりがはっきりしていることから性格不明遺構とした。

遺物　覆土中より出土した須恵器の坏を１点、土師器の甕４点を図示。他に、土師器の甕破片53点、須恵器の坏破片４点、磁器の碗破片１点を検出しているが。図示不能。遺物はすべてレンズ状を呈する自然堆積土の上位から検出したもので、遺構に伴うもの、混入品の別が困難であるため、遺構の時期を決定するには至らない。

第４章　自然科学分析

第１節　西物井遺跡出土木材の樹種同定

佐々木由香（パレオ・ラボ）

１．はじめに

栃木県芳賀郡二宮町に位置する西物井遺跡から出土した木材29点の樹種同定結果を報告する。西物井遺跡は小貝川と五行川に挟まれた低台地上に立地する、古墳～平安時代の住居跡、中・近世の土坑や溝などが検出された遺跡である。ここでは、近世の溝であるSD-1120から出土した薦槌や椀、下駄などの木製品や加工木などの樹種を同定し、その用材について検討した。

２．試料と方法

試料は、木材29点である。木材の木取りや目視できる組織を観察しながら直接切片を採取して、プレパラートを作製した。同一番号の試料中に２点以上の破片がある場合は枝番号を付した。切片は片刃剃刀を用いて、横断面（木口）・接線断面（板目）・放射断面（柾目）の３断面を採取し、ガムクロラール（抱水クロラール50ｇ、アラビアゴム粉末40ｇ、グリセリン20ml、蒸留水50mlの割合で調整した混合液）で封入した。同定はこれらのプレパラートを光学顕微鏡にて40～400倍で検鏡した。プレパラートは（株）パレオ・ラボに保管されている。

３．結果

樹種同定結果を表１に示す（表には種実同定結果も含む）。針葉樹のモミ属と、アカマツ、スギ、ヒノキ、サワラ、アスナロの６分類群、広葉樹のクリと、ブナ属、ケヤキ、カツラ属、カエデ属、シナノキ属、ミズキ、ニワトコの８分類群、単子葉植物のタケ亜科１分類群の計15分類群が見いだされた。このほかに材組織の遺存状態が悪いため、アカマツかクロマツか判断できずマツ属複維管束亜属までの同定に留めたものが１点あった。

同定点数に対して見いだされた分類群数が多いため、点数をみると偏りはあまり顕著でないが、最も多いのはケヤキ７点で、アカマツ４点、スギ３点がそれに次いだ。そのほかの樹種は１～２点の産出数であった。ケヤキ１点のみが根株材で、ほかは幹・枝材であった。

表２に大まかな器種別の樹種組成を示す。薦槌もしくは薦槌？と杭にケヤキが３点ずつ利用されるほかは、ある器種に特定の樹種が使用される傾向はなかった。

以下に材組織の特徴や図版に１分類群１点の写真を示し、同定の根拠とする。そのほか、生態・分布・材質を記載する。

（1）モミ属　Abies　マツ科　図版１ａ-１ｃ：No.４

垂直・水平のいずれの樹脂道も欠く針葉樹材。早材仮道管の壁は薄く、早材から晩材への移行は緩やかで、晩材は量多い。樹脂細胞は普通見られず、仮道管の内壁にらせん肥厚はない。放射組織は放射柔細胞の

表１　西物井遺跡出土木材の樹種および種実の同定結果

試料No.	遺構種別	遺構番号	出土位置･No.	集計	器種	木取り	樹種	SR	備考
1	SD-	1120	No.62	板材	木簡形の加工材？	板目	サワラ	S	
2	SD-	1120	No.78	薦槌？	薦(菰)槌の一部？	芯持丸木	アカマツ	S	
4	SD-	1120	No.131	桶？	板材（桶の一部？）	柾目	モミ属	S	
5	SD-	1120	No.132	薦槌？	加工材？薦(菰)槌か	芯持丸木	ケヤキ	S	
6	SD-	1120	No.143	板材？	板状の加工材？	柾目	カエデ属	S	
7-1	SD-	1120	No.144	薦槌	薦(菰)槌	芯持丸木	ケヤキ	S	
7-2	SD-	1120	No.144	薦槌	薦(菰)槌	芯持丸木	ケヤキ	S	
8	SD-	1120	No.145	板材	長い板状の加工材？	板目	スギ	S	
9	SD-	1120	No.152	薦槌？	加工材？薦(菰)槌か	芯持丸木	カエデ属	S	
10	SD-	1120	No.166	容器	円盤型	追柾目	スギ	S	
11	SD-	1120	No.167	椀	椀	横木取り	ブナ属	S	朱(漆？)有り
12	SD-	1120	No.168	杭？	丸材（杭？）	芯持丸木	アカマツ	S	
13	SD-	1120	No.169	杭？	杭？	芯持丸木	ミズキ	S	
15	SD-	1120	No.172	板材？	板状の加工材？	板目	クリ	S	
16	SD-	1120	No.180	杭？	加工丸材（杭か杵？）	芯持丸木	ケヤキ	S	樹皮つき
17	SD-	1120	No.183	桶	円盤（桶の底部？）	柾目	ヒノキ	S	
18	SD-	1120	No.186	板材	板状の加工材	板目	ケヤキ	SR	
19	SD-	1120	No.187	竹	細竹	芯持丸木	タケ亜科	S	節2ヵ所有り
21	SD-	1120	No.189	下駄？	下駄の一部？	板目	マツ属複維管束亜属	S	
22	SD-	1120	No.191	板材	板状の加工材	追柾目	アカマツ	S	
23	SD-	1120	No.195	笛？	笛？（小穴有り）	芯持丸木	ニワトコ	S	
24	SD-	1120	No.196	板材？	板状の加工材？	板目	アスナロ	S	
25	SD-	1120	No.197	板材	不明加工材	板目	シナノキ属	S	
26	SD-	1120	No.198	下駄	下駄の一部	板目	アカマツ	S	
28-1	SD-	1120	SP3-3'ベルト内	種実		-	ウメ核	-	
28-2	SD-	1120	SP3-3'ベルト内	種実		-	エゴノキ炭化核	-	
30	SD-	1120	SP3-4間　床面直上	板材？	薄い板状の加工材？	追柾目	スギ	S	
32	SD-	1120	下層黒色土内一括 SP-B南(ハ-48北)	椀	椀	横木取り	カツラ	S	朱(漆？)有り
33-1	SD-	1120	下層黒色土内一括 SP-B南(ハ-48北)	杭？	丸材（杭？）	芯持丸木	ケヤキ	S	
33-2	SD-	1120	下層黒色土内一括 SP-B南(ハ-48北)	杭？	丸材（杭？）	芯持丸木	ケヤキ	S	
34	SD-	1120	トレンチB黒褐色土層	下駄	下駄	柾目	カツラ属	S	

SR・・・ S：幹・枝材、SR：根株材

みからなり、分野壁孔はごく小型のスギ型～トウヒ型で１分野に普通２～４個、垂直壁には単壁孔が著しい。

モミ属には、モミ、ウラジロモミ、シラベなどがあり、通直に生育する落葉大高木。針葉樹の中では軽軟で、加工は容易で割裂性も大きい。材は狂うことが多く、保存性は低い。

（2）アカマツ　Pinus sub g en. Deploxylon　マツ科　図版２ａ-２ｃ：No.２

仮道管・垂直および水平樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞と、放射柔細胞および放射仮道管によって構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行はやや急で晩材は明瞭である。放射組織は１～10細胞高、上下両端の放射仮道管と、内側の放射柔細胞によって構成され、放射柔細胞の分野壁孔は窓状、放射仮道管の上下壁には重鋸歯がある。

アカマツは高さ30mに達する常緑高木であり、北海道南部・本州・四国・九州に分布する。材は重硬で強靱。

（3）スギ　Cryptomeria japonica （L. f.） D. Don　スギ科　図版３ａ-３ｃ：No.10

仮道管と放射柔組織、および樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材部は量が多く明瞭。分野壁孔はスギ型で大きく、１分野にふつう２個。

スギは大高木になる常緑針葉樹で、天然分布は降水量の多い地域に限られて点在し、特に東日本の日本海側に多い。材は木理通直で割裂・加工が容易で、軽軟で強靱である。

（4）ヒノキ　Chamaecyparis obtusa （Sieb. et Zucc.） Endl.　ヒノキ科　図版４ａ-４ｃ：No.17

仮道管と放射柔組織、および樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材部は量が少ない。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型でやや大きく、１分野にふつう２個。

ヒノキは福島県以南の主に暖温帯に分布し山地の尾根沿いや緩斜面などに生育する、高木になる常緑針葉樹である。現在のまとまった分布は中部地方や紀伊半島、四国南部である。材は通直でやや軽軟、加工し易く強度に優れる上、耐朽性が著しく高い。

（5）サワラ　Chamaecyparis pisifera （Sieb. et Zucc.） Endl.　ヒノキ科　図版５ａ-５ｃ：No.１

仮道管と放射柔組織、および樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材部は量が少ない。樹脂細胞は晩材部に接線状に配列する。孔口が水平に近く開くヒノキ型の分野壁孔をもち、１分野にふつう２個。

サワラは岩手県以南の主に暖温帯に分布し、山地の中腹以下の渓流沿いなどに生育する、高木になる常緑針葉樹である。現在のまとまった分布は中部地方や紀伊半島、四国南部である。材は通直で軽軟ため加工し易く、水湿に対する耐朽性が高い。

（6）アスナロ　Thujopsis dolabrata Sieb. et Zucc.　ヒノキ科　図版６ａ-６ｃ：No.24

仮道管と放射柔組織、および樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材部はしばしば量が多い。分野壁孔はヒノキ型～孔口の狭いスギ型で小さく、１分野に２～４個。放射組織には樹脂が多い。

アスナロは主に温帯に分布する高木になる常緑針葉樹で、耐陰性が高い。材は通直、やや軽軟で割裂・加工容易。耐朽性が高く、水湿に強い。

（7）クリ　Castanea crenata Siebold et Zucc.　ブナ科　図版７ａ-７ｃ：No.15

大型の道管が年輪界に数列並び、それ以外の部分では径を減じた道管が火炎状に配列する環孔材である。放射組織は単列で同性である。道管の穿孔は単穿孔、放射組織と道管の壁孔は柵状である。

クリは北海道（石狩・日高地方以南）・本州・四国・九州の丘陵から山地に分布する落葉高木で高さ 20m ほどになる。材は耐朽性が強く、水湿に耐え、保存性がきわめて高い。

表２　器種別の樹種組成

樹種	薦槌	薦槌?	椀	桶	桶?	容器	下駄	下駄?	笛?	板材	板材?	杭?	竹	合計
モミ属					1									1
アカマツ		1					1			1		1		4
マツ属複維管束亜属								1						1
スギ						1				1	1			3
ヒノキ				1										1
サワラ										1				1
アスナロ											1			1
クリ											1			1
ブナ属			1											1
ケヤキ	2	1								1		3		7
カツラ属			1				1							2
カエデ属		1									1			2
シナノキ属										1				1
ミズキ												1		1
ニワトコ									1					1
タケ亜科													1	1

（8）ブナ属　Fagus　ブナ科　図版８a-８c：No.11

小型のやや丸い道管が、ほぼ単独でときに数個複合して密に配列する散孔材。道管の直径は年輪の終わりでやや急に減少する。道管の穿孔は単一または階段状。放射組織は１～数列の小型のものから広放射組織までが混在する。

ブナ属には温帯上部に分布する高木性の落葉広葉樹であるブナとイヌブナがある。ブナは雪に対する生理的・生態的な耐性が高く、日本海側の多雪地帯でしばしば優占林を形成し、一方イヌブナはそのような地域には分布していない。材はやや重硬で均質、強度もあるが、保存性は低い。

（9）ケヤキ　Zelkova serrata （Thunb.） Makino　ニレ科　図版９a-９c：No.７-２

年輪のはじめに大型の丸い道管が単独で１～２列に並び、晩材部では小型の薄壁で角張った道管が多数集合して接線方向あるいは斜めに帯をなす環孔材。道管の穿孔は単一で、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端のみ直立細胞からなる異性で、しばしば結晶を含む。

ケヤキは高木になる落葉広葉樹で、谷沿いや河畔の肥沃な土壌にみられ温帯に広く分布する。材はやや重硬で靭性もあり、均質で切削加工は容易、割裂性は中庸で保存性に優れる。大材が得られるため建築材とされ、木目が美しく加工が容易であることから臼や杵、刳物容器、漆器木地などにされるなど、多様に用いられる。

（10）カツラ属　Cercidiphyllum　カツラ科　図版10a-10c：No.34

小型で角張った道管が単独あるいは複合して密に分布する散孔材。道管の穿孔は階段状で20～30本程度。放射組織は異性でスリムな１～２列、しばしば他の放射組織と連結する。

カツラ属にはカツラとヒロハカツラ２種が含まれ、ヒロハカツラは高標高地域に分布する。いずれも河畔や渓畔にみられる落葉広葉樹で高木になり、材は均質かつ軽軟で切削加工し易い。

（11）カエデ属　Acer　カエデ科　図版11a-11c：No.6

中型～やや小型の丸い管孔が単独あるいは放射方向に２～４個複合してやや疎らに散在する散孔材。道管の穿孔は単一で、内壁にはらせん肥厚があり、しばしば黄褐色の物質が詰まっている。木繊維は雲紋状を呈

する。放射組織は同性でふつうは10細胞幅くらいとなる。

日本産のカエデ属には、28種ある。材はやや柔らかいものから堅いものがある。粘りがあり、加工性も比較的良く、良材である。

（12）シナノキ属　Tilia　シナノキ科　図版12ａ-12ｃ：No.25

小型で角張った道管が２～４個放射方向または不規則に複合して年輪内に密に散在する散孔材。木部柔細胞は接線状。内壁にはらせん肥厚がある。単穿孔。ときに道管要素と木繊維は層階状に配列する。放射組織は同性で、単列のものと２～５細胞幅のものがある。

日本産のシナノキ属には、シナノキ、ヘラノキ、ボダイジュなど９種がある。シナノキは落葉高木で、温帯林を代表する樹種である。材は軽軟で均質のため、器具材や建築材など幅広い用途がある。

（13）ミズキ　SWida controversa（Hemsl.）Sojak　ミズキ科　図版13ａ-13ｃ：No.13

小型で丸い道管が単独あるいは放射方向に２個複合して均一に散在する散孔材。道管の穿孔は20から30本ほどの横棒からなる階段状。木部柔組織は短接線状。放射組織は異性で２～３細胞幅。

日本には、同属の樹木にクマノミズキがあるが、道管が孤立することで区別できる。ミズキは全国に生育する落葉高木である。

（14）ニワトコ　Sambucus racemosa L. subsp. sieboldiana（Miq.）Hara　スイカズラ科　図版14ａ-14ｃ：No.23

やや小型で薄壁の道管が単独あるいは２～数個複合して断続的な斜め接線方向の帯をなして散在する散孔材。管孔の直径は年輪界にむけて徐々に減少し、年輪の終わりでは接線方向の帯をなす。道管の穿孔は単一。放射組織は上下端の１細胞が直立細胞からなる異性で１～５細胞幅くらい、鞘細胞をもつ。

ニワトコは全国の冷温帯、温帯に分布する落葉小高木。特に湿潤な二次林に多い。材は軽軟で緻密だがもろい。

（15）タケ亜科　Gramineae subfam. Bambusoideae　イネ科　図版15ａ：No.19

維管束は不整中心柱で多数が同心円状に均質に配置し、維管束の周りは厚壁の繊維細胞からなる維管束鞘が発達している。このような形質からイネ科のタケ類とササ類を含むタケ亜科である。

タケ亜科は12属が含まれるが、稈の破片や組織のみからは属や種を識別することは難しい。

４．考察

桶や容器の底板と思われる円盤型の製品、板材など板状の製品にはモミ属やアカマツ、スギ、ヒノキ、サワラ、アスナロの針葉樹が主に用いられていた。これらの針葉樹は材・木理が通直で割裂性に優れるため、材を割り出して板材にするのに適し、また切削加工も容易であるため用いられたと考えられる。

薦槌もしくは薦槌？にはアカマツと、ケヤキ、カエデ属が用いられていた。アカマツとケヤキは重硬、カエデ属は種によっては、関東地方で普通にみられるイタヤカエデやイロハカエデのように重硬で緻密な材のため、薦槌としては適材と考えられる。

漆椀にはブナ属とカツラ属の材がそれぞれ見出された。ブナ属は均質な広葉樹材で、回転成形に適している。そのためブナ属は挽物の用材として典型的な分類群である（山田，1993）。椀に見出されているカツラ属もブナ属同様に均質な広葉樹材で、回転成形に適していることから用いられたのであろう。

下駄にはアカマツとカツラ属が用いられていた。一般的に、下駄には比較的さまざまな樹種が用いられる傾向にある。アカマツは重硬な材に対して、カツラ属は軽軟な材質であり、履く感触も異なる材が使用され

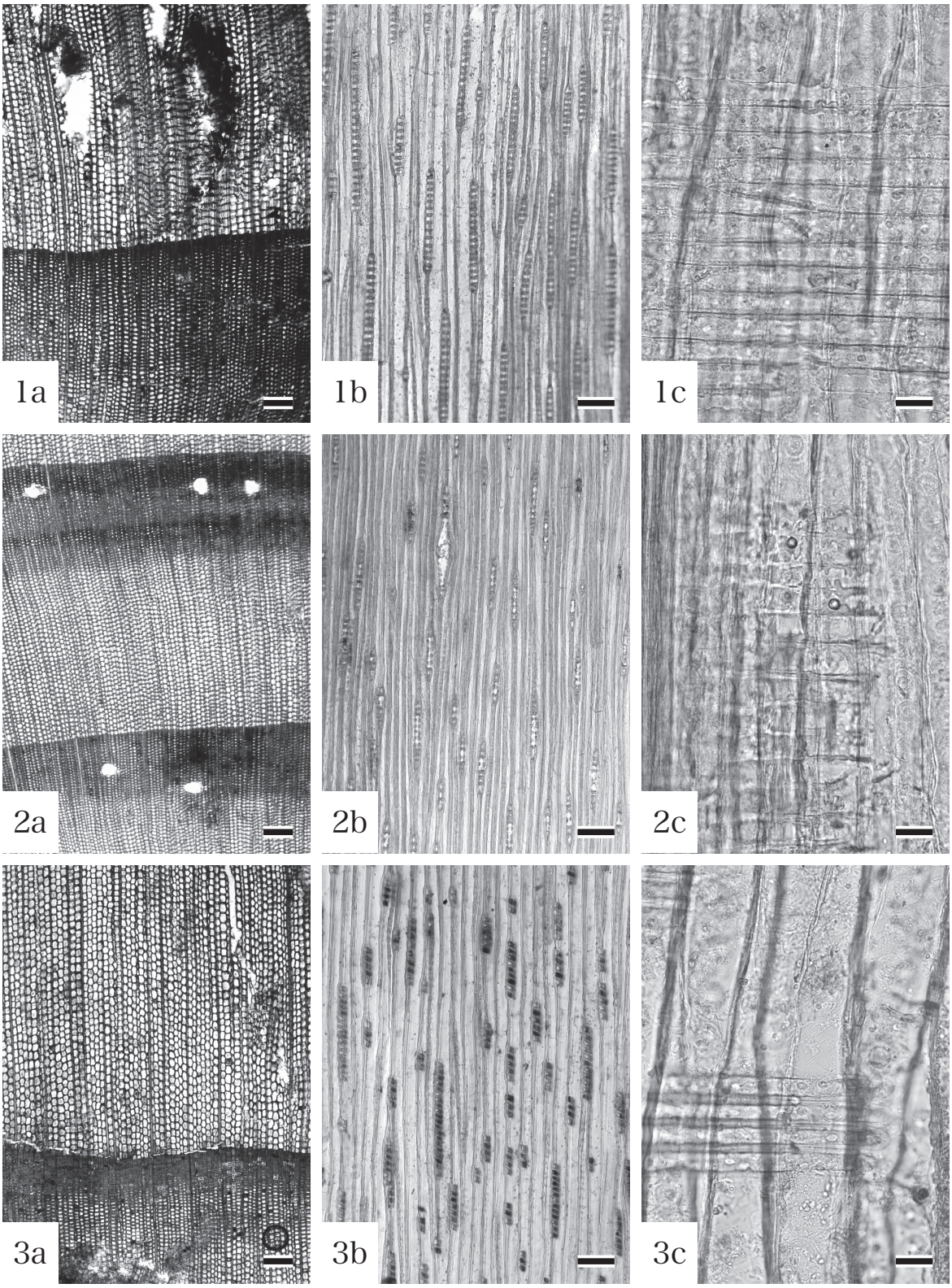
ていた。

笛？はニワトコであった。ニワトコは材の中心部が空洞になる中空で、軽軟で緻密だがもろい材である。そのため、用材から判断すると、笛として用いられたとは考えにくい。

今回樹種同定を行った試料では多種類の針葉樹が見いだされ、広葉樹はすべて落葉広葉樹であった。こうした樹種の用いられ方は、本遺跡に近接する曲田遺跡の古墳時代中期の樹種組成とは大きく異なる。曲田遺跡では針葉樹はモミ属のみであり、落葉広葉樹と常緑広葉樹双方が見いだされた（佐々木・藤根，未刊行）。古墳時代から近世の間に大きな植生の変化がおこったことが用材の面からも推察される。こうした変化は、この時代を埋める試料や、より現地の植生を反映していると考えられる杭などの土木用材や自然木を検討することによって明らかになるであろう。

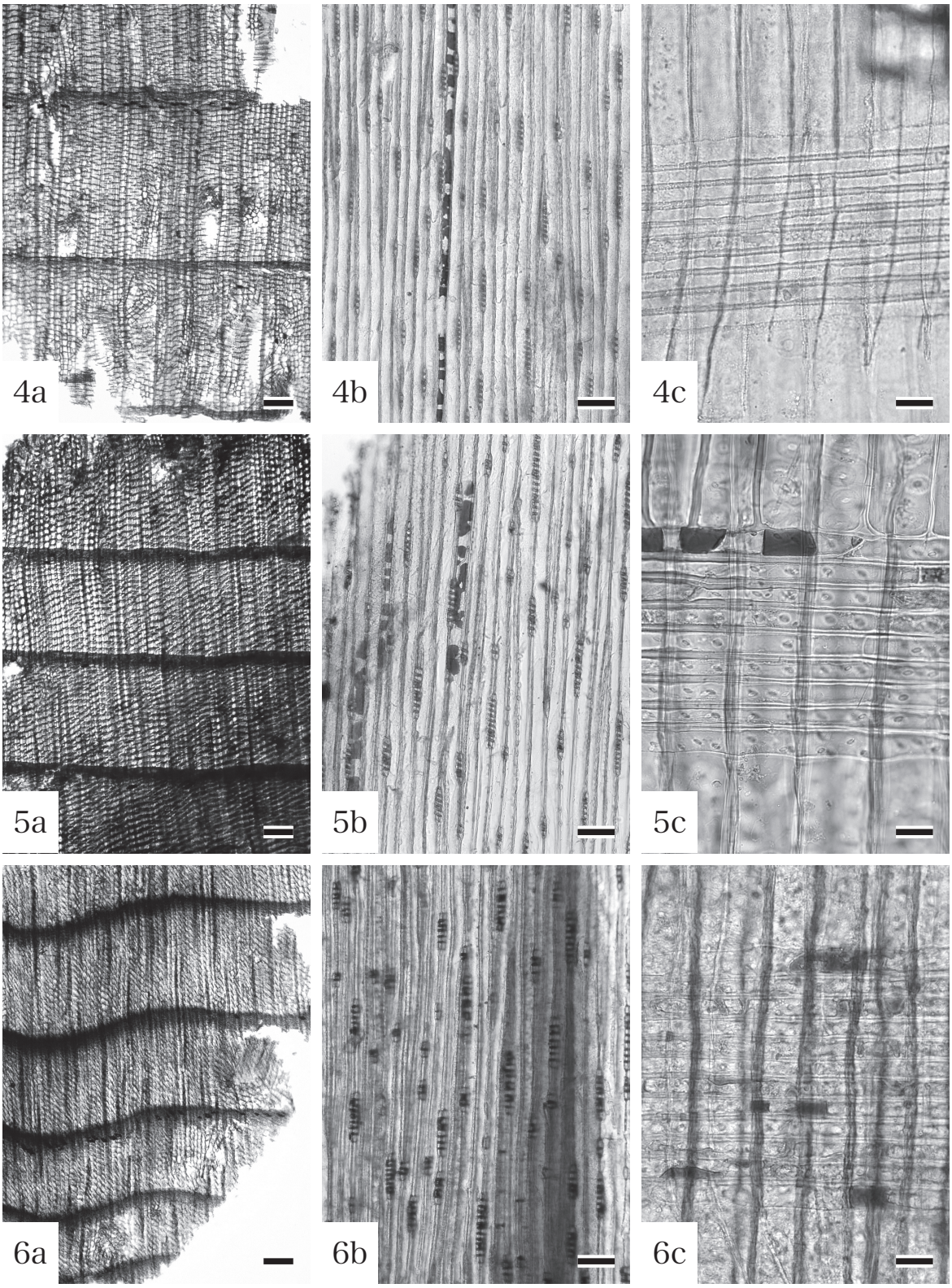
引用文献

佐々木由香・藤根　久（未刊行）曲田遺跡出土木材と葉の樹種同定．（財）とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター編「曲田遺跡」　栃木県教育委員会・（財）とちぎ生涯学習文化財団.
山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成―用材から見た人間・植物



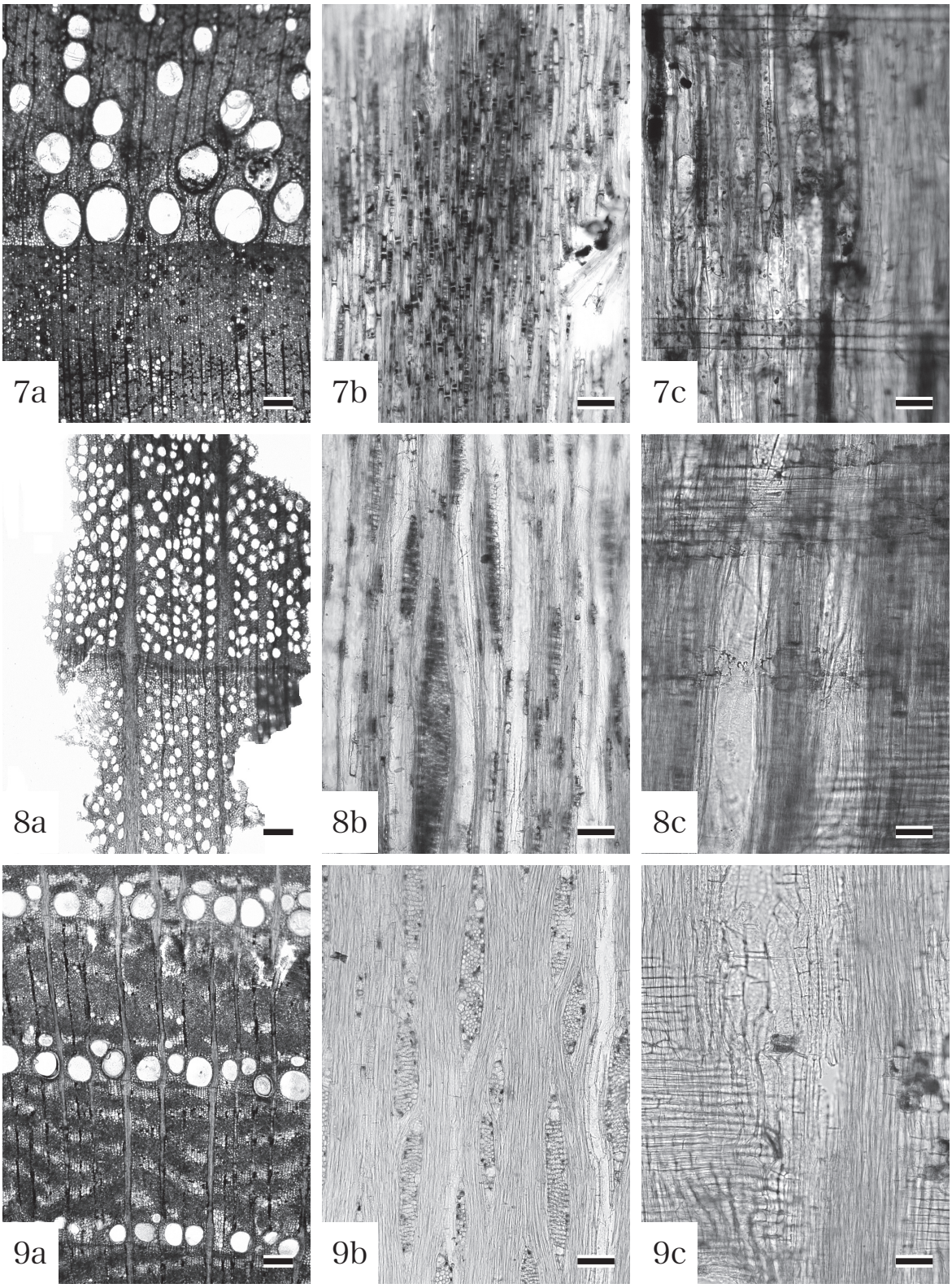
図版１　西物井遺跡出土木材組織の光学顕微鏡写真（1）

１ａ - １ｃ：モミ属（No. ４）、２ａ - ２ｃ：アカマツ（No. ２）、３ａ - ３ｃ：スギ（No.10）
ａ：横断面（スケール＝ 200 μm）、ｂ：接線断面（スケール＝ 100 μm）、ｃ：放射断面（スケール＝ 25 μm）



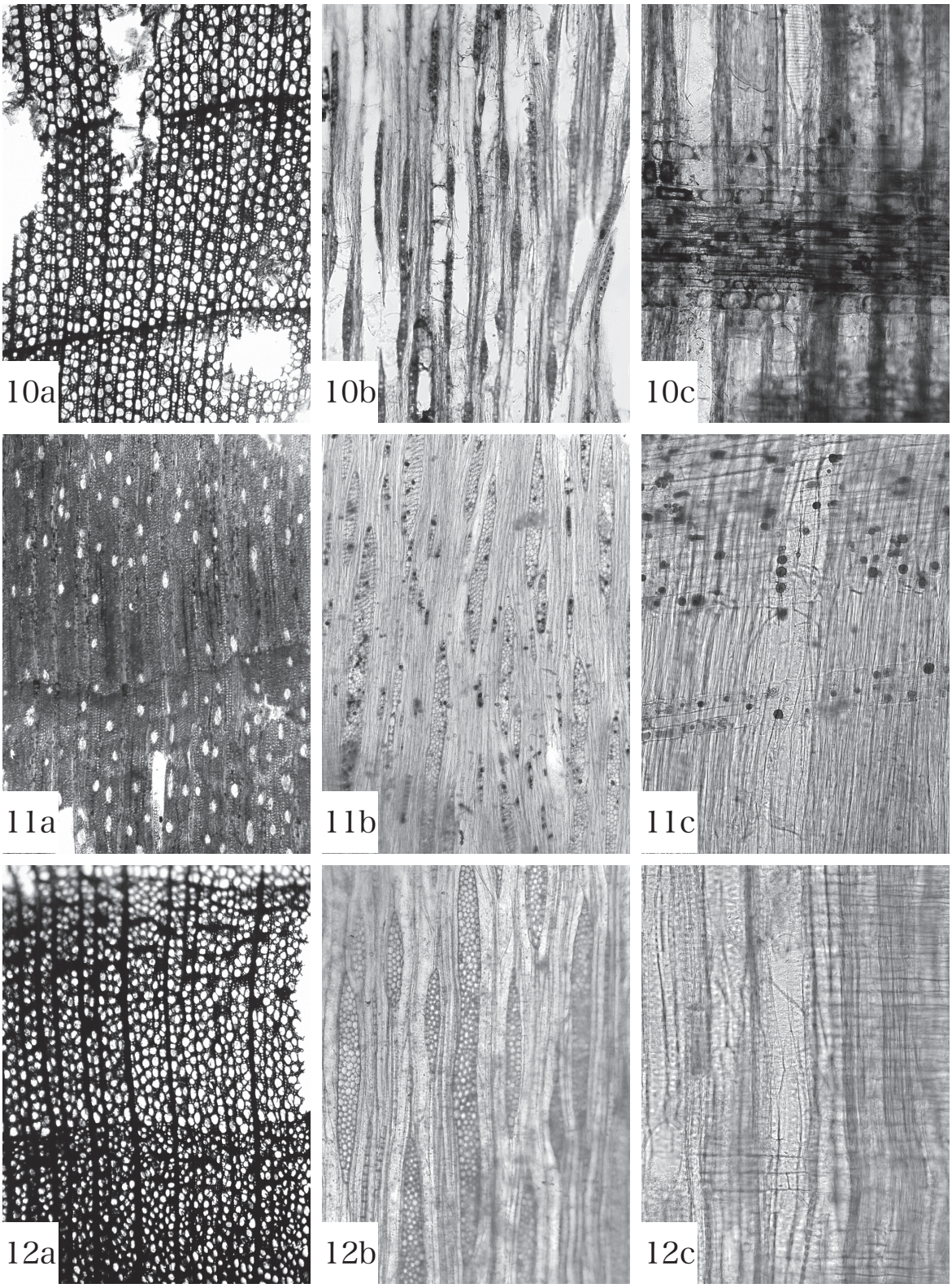
図版２　西物井遺跡出土木材組織の光学顕微鏡写真（２）

４ａ - ４ｃ：ヒノキ（No.17）、５ａ - ５ｃ：サワラ（No. １）、６ａ - ６ｃ：アスナロ（No.24）
ａ：横断面（スケール＝ 200 μm）、ｂ：接線断面（スケール＝ 100 μm）、ｃ：放射断面（スケール＝ 25 μm）



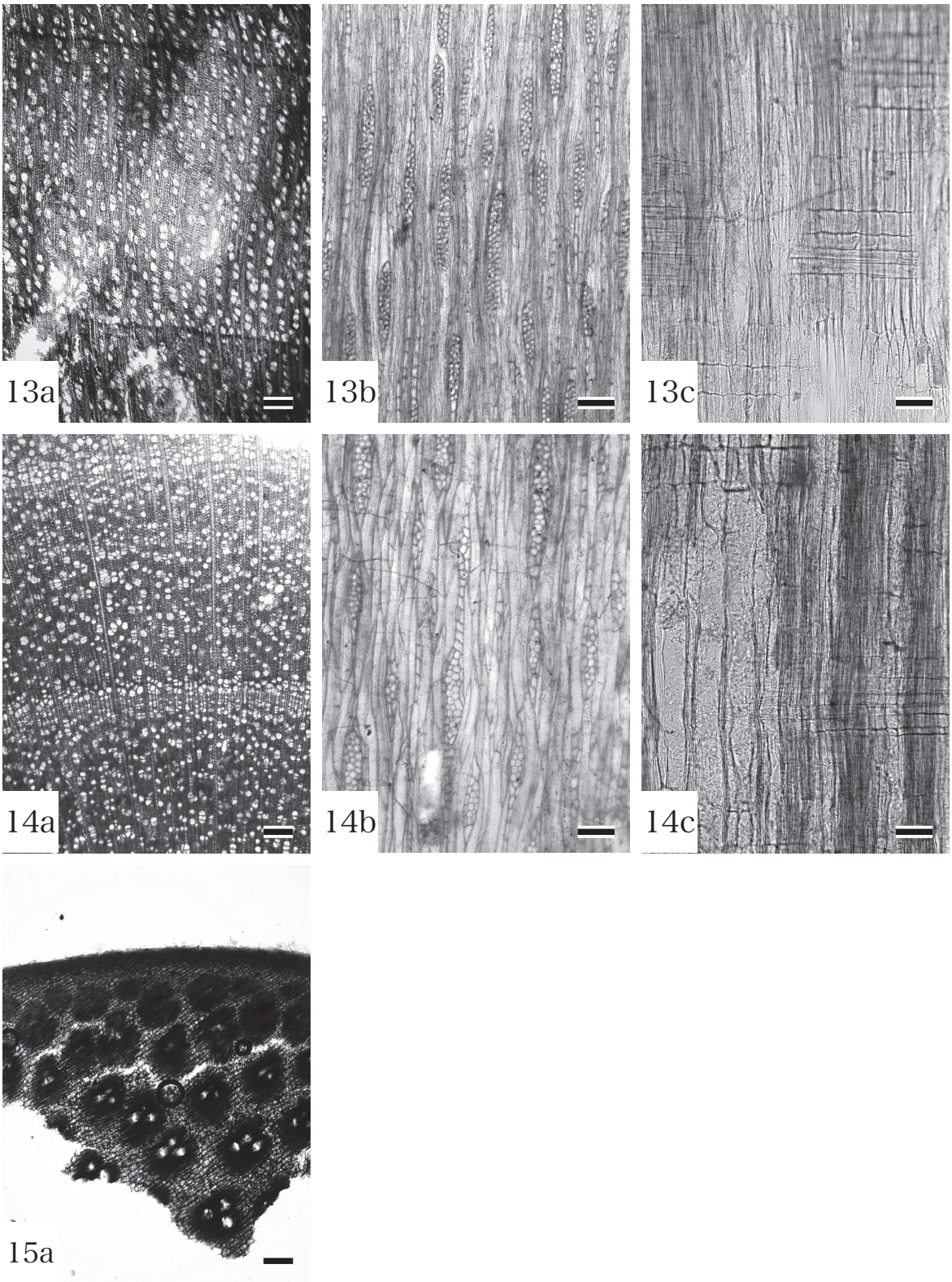
図版３　西物井遺跡出土木材組織の光学顕微鏡写真（３）

７ａ - ７ｃ：クリ（No.15）、８ａ - ８ｃ：ブナ属（No.11）、９ａ - ９ｃ：ケヤキ（No. 7- 2）
ａ：横断面（スケール＝ 200 μm）、ｂ：接線断面（スケール＝ 100 μm）、ｃ：放射断面（スケール＝ 50 μm）



図版４　西物井遺跡出土木材組織の光学顕微鏡写真（４）

10 a -10 c：カツラ属（No.34）、11 a -11 c：カエデ属（No. 6）、12 a -12 c：シナノキ属（No.25）
a：横断面（スケール＝ 200 μm）、b：接線断面（スケール＝ 100 μm）、c：放射断面（スケール＝ 50 μm）



図版５　西物井遺跡出土木材組織の光学顕微鏡写真（５）

13 a -13 c：ミズキ（No.13）、14 a -14 c：ニワトコ（No.23）、15 a：タケ亜科（No.19）
a：横断面（スケール＝ 200 μm）、b：接線断面（スケール＝ 100 μm）、c：放射断面（スケール＝ 50 μm）

第２節　西物井遺跡出土の種実同定

佐々木由香・バンダーリスダルシャン（パレオ・ラボ）

１．はじめに

栃木県芳賀郡二宮町に位置する西物井遺跡の溝（SD-1120）から出土した種実２点の同定結果を報告する。遺構の時期は近世と考えられている。

２．試料と方法

試料は溝（SD-1120）のSP３-３'ベルト内から取り上げられた種実２点（試料No.28-１と28-２）である。種実の同定は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。同定された試料はとちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センターに保管されている。

３．結果および考察

同定の結果、木本植物のウメ核1点と、エゴノキ炭化核破片１点が見いだされた。ウメは栽培植物で、食用可能である。エゴノキは食用としないが、民俗例ではエゴノキを割り、種子に含まれる毒を川漁などに利用する（長澤，2001）。出土した点数はそれぞれ１点のため、人間による利用は不明であった。

以下に産出した種実の記載と、写真図版を掲載し、同定の根拠を示す。

（1）ウメ　Armeniaca mume （Sieb. et Zucc.） de Vriese　核　バラ科

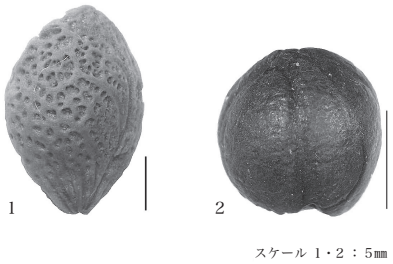
核が出土した。淡褐色～褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形。表面には全体的に不規則な深く小さな孔がある。着点は凹む。縫合線に沿って深い溝が入る。長さ20.0㎜、幅14.0㎜。

（2）エゴノキ　Styrax japonica Sieb. et Zucc.　炭化核　エゴノキ科

炭化核が出土した。上面観は円形、側面観は完形ならば倒卵形になる。残存長8.5㎜、幅9.0㎜。本来は下端に淡黄色の大きな着点があるが、破片のため残っていない。表面には頂部から３本の浅い溝が走る。表面には細かい網目模様があり、厚く硬い。

引用文献

長澤　武（2001）植物民俗．312ｐ，法政大学出版局．



１ウメ核（No.28-１）、２エゴノキ炭化核（No.28-２）

図版１　西物井遺跡出土の種実遺体

第５章　まとめ

西物井遺跡は、遺跡の調査から判断できる遺構の分布の傾向として、墓域・居住域・そして両者の間をつなぐ生活圏の選択が明瞭である。通常、原始・古代を問わず、地形や諸条件のもたらす利便性から用地の選択がなされるのは当然のことであるが、最適な、もしくは次点の選択の結果現れた土地の使い分けが、本遺跡は特に明確である指摘を多く受けてきた。

ここで、調査成果のまとめとして、西物井遺跡の墓域・居住域・境界の生活圏の三点に分けて、傾向を総説する。

まず墓域であるが、本遺跡最古の墓域選択の結果として記録されたのがＢ・Ｄ区から合計７基確認された方形周溝遺構である。居住域に適さない低い土地を選び、群在する。残念ながら上面の削平により遺構の検出状態は良いとはいえないが、埋葬後の墓前祭祀に供献された土器群の一つであろうか、２基の周溝内から壺・高坏が出土しており、古墳時代前期の方形周溝墓群と捉えた。この７基は規格や主軸方位から２グループに分かれる。

１グループ目はSZ-105・124・511・777で、やや小規模の規格で構成される。溝は整った方形にめぐり、周溝内土壙が検出しない。SZ-105・124の周溝内から壺・小型坏（105から）、高坏（124から）が出土する。覆土中位に置かれているため、埋葬一定期間後の墓前祭祀の執行が想像される。

２グループ目はSZ-101・120・619である。やや大型の規格で、周溝内土壙がある（SZ-120）。SZ-101・120の覆土中位から壺（101・120から）、甕（101から）が出土する。

これら古墳時代前期の方形周溝遺構の次に現れるのが、時代は中世に飛んで、地下式壙・火葬墓である。地下式壙は遺体を安置する空間を地表面の下に求めたもので、人骨遺存の例はまれである。やはり群を成して墓域を構成するものであるが、西物井遺跡ではＦ-１区から５基確認された。Ｆ-１区は、調査区全域が土取りのためローム面まで現表土を掘削されており、遺構確認面のレベルが当時の高低差を直接反映していないが、地形的には北から南に向かって緩やかに下がり、Ｆ-１区の南部は低地域になる。この低地域に入る北際のライン上に連なるように、これらの地下式壙は位置する。火葬墓はＢ・Ｃ区から11基検出している。こちらは完全に微高地から低地に移行した土地に分布しており、特にＣ区の南の低地域からは火葬墓群しか検出していない。次にもっとも単純な埋葬施設である土壙墓であるが、地下式壙のつくられた位置より南に下がったＦ区の低地に集中する。長方形の形状を主体とするこのタイプの土壙は、墓の用途を持たない同様の形状の遺構との別が難しいが、降雨時には冠水する低地域に群集するため、いわゆる「イモ穴」的な収蔵用の土坑ではないと判断した。Ｆ区の長方形土壙は底面が平坦で四隅が整った長方形のものと、四隅が丸く全体の形状も丸みを帯びたもの、底面は中央に向かって緩く窪み平面形が楕円に近いもの、長軸が短い方形のものに大きく分けられる。遺構に伴う遺物がほとんどないため時期的な差異を求めるのは難しいが、切り合いの関係から、掘方の一辺の面が整った形を取り壁が概ね垂直に立ち上がるものが古いタイプで、新しくなるほど壁の立ち上がりの角度が緩く、角の取り方や一辺の面の整え方が雑になっていくようである。円形の土壙は近世の溝が連なるＢ-２区に多く見られる。棺施設は有機物であるので墓壙内の遺存は望めないが、桶のような円筒状の構造物を据えた痕跡の見られる墓壙があり、副葬品であろう銭貨（寛永通宝）や煙管などの遺物が出土する。煙管の吸口の形状から18世紀後半以降に埋められたものと思われ、本遺跡で時期の確認された埋葬施設としてはもっとも新しいものとなる。

以上のことから西物井遺跡でつくられた埋葬施設の変遷は、方形周溝墓⇒地下式壙・火葬墓⇒土壙墓（長方形⇒方形⇒円形）とすることができる。

次に居住域を見てみる。竪穴住居跡は主にＣ・Ｅ・Ｆ区からまとまって検出しているが、特に特徴的なのがＣ区の竪穴住居密集区に代表される狭い微高地への極端な集中である。わずか10m四方の範囲に古墳時代後期から平安後期にかけての竪穴住居跡が12軒重複しており、これほどの過度の掘り返しは、竪穴の脆弱化を促進させ、わずかな土地の高低差でのみ水の害を逃れられる危ういメリットをも半減させるのではないかとつい考えてしまうが、現代の感覚だろうか。多少便が悪くとも他の地に建設地を求められなかった、よほどの制約や規制が介在するのか。密集区以外に位置する他の竪穴住居跡についても、重複して存在するもの、単独で存在するもの問わず、いずれも墓域として選択された低地域からは検出しない。今回の全調査区のほぼ中央を1827年に二宮尊徳によって改修された穴川用水が北から南に向かって走るが、この用水に西側にあたるＥ区中央にやはり北から南方向に入る浅い谷が確認されている。この谷に向かって下がり低地になるＣ区南東部から遺構の検出はほとんどなくなるが、谷を超えた東側はまた居住域になり古墳時代中期の竪穴住居跡が２軒検出している。同時期ではなくそれぞれ単独で存在していたと思われるが、本遺跡検出の竪穴住居跡ではもっとも古く、方形周溝遺構が造られた古墳時代前期と、竪穴住居構築の一カ所集中が始まる古墳時代後期の間をつなぐ時期の竪穴住居跡である。地形から考えてこの時期の集落はこの２軒の竪穴住居跡を南端のものとし、北東方向に向かって広がっていくものと推定する。

西物井遺跡のムラは古墳時代後期から平安時代後期まで継続する集落を中心とするが、これらは９世紀後半でもっとも最大化するようである。集落のまとまりは主に２カ所に分かれ、谷の西側の竪穴住居集中区及びその周辺からなるものと、谷を隔てた南東に展開していくものがある。谷の南東の集落は中世以降にも活発に利用された土地で、何条も連なって掘られた溝状遺構に妨げられ、竪穴住居跡の検出状況は悪い。しかし、竪穴住居が一カ所に重複して存在する傾向はここにも見られ、谷の西側の集落と同様に居住域選択の厳しさが感じられる。

最後に境界型の土地利用であるが、本遺跡において低地と微高地を結ぶ境界に生活圏の一端として展開した遺構の代表は溝状遺構である。居住域として選択できる微高地と、墓域の選択に代表される低地の間にある地域から数多く確認された。溝状遺構は生産に関わり、生活用水を得る場として重要である。また地割りや区画の役割も持ち、地域の土地利用の姿を反映させる。今回の調査では、古代から近世まで実に大小100条の溝状遺構が検出しているが、その大部分は同じ方向性を持ち近接して掘られたものである。特に大型の溝であるSD-1120に代表される近世の溝は、穴川用水の改修工事以降、現代まで連綿として受け継がれてきた周辺各用水路の方向性と一致する。Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｇからそれぞれ検出する波板状凹凸面を持つ古代の溝状遺構も同様の方向性を持ち、古代から現在まで土地利用の区画制に大きな変化が無いことが伺われる。

西物井遺跡は五行川と小貝川の形成する沖積低地部分に立地するが、小貝川は流域の86％が平野であり河川の勾配が緩いため、古くから洪水を引き起こす「暴れ川」として知られている。また一度破堤すると洪水の継続時間が長く、氾濫時の出水が引きにくいという特徴も持つ。西物井遺跡の集落はこの河川の氾濫源の中に位置する集落として存在するが、これは洪水の危険と隣り合う反面、同時に枯れない豊富な水の恩恵も強く受けることのできる土地に立地することでもある。ムラを成立させる際、水の害を避けるため住居を最優先として居住域を選択した場合、地形の関係で生産や埋葬などの生活圏とかなり離れるのが普通であるが、治水を成功させ家屋の浸水をうまく避けることができれば、両者の間に距離をつくらず、尚かつ豊かな土地を生活圏として集落の中に得ることができる。西物井遺跡の集落が、埋葬・居住・利水の地に時代を超

えて同じ場所を選択し続ける理由は、変更の余地が少ない土地利用の成功例を各時代で踏襲し、生活圏及び周辺の土地利用に対するニーズの変化の少なさを示す安定した集落のあり方の結果であろうか。

最後に特記事項として、近世と古代の溝状遺構を代表する規模で検出したSD-1120とSD-305について「第６節　溝状遺構」の表形式の中で記載できなかった事項について述べる。

近世の大溝であるSD-1120については、覆土中から木製品や木製品の一部と思われる木材・木片が多く出土しているが、発掘資料の中では、特殊な環境下でのみ遺存する自然遺物の一括出土は稀であり、製品としての完形品の絶対数は少ない。しかし、近世では生活の必需品である木製品の種類は古代に比べさらに多岐にわたり、検出した僅かな遺存部の形態から、その器種や用途を類推することは困難を伴う。このため、今回、木製品の素材として選択された樹種の同定を行い（「第４章　自然化学分析」参照。）、製品の特徴に合わせて樹種が選定される木製品の傾向を生かして、器種や用途の判別・分類の基礎資料とした。この結果から、SD-1120で出土した木製品の検出材には種類に偏りがなく、地元で使う生活雑器や杭などは周囲の植生のものを使い、良品は製品として流通するような良質の木材が選定されていることが明らかになった。ここで出土木製品から見た近世のムラの在り方は、“都市型”や“完全な地方・農村部型”ではなく、両者がミックスされた“地方都市周辺部型”である傾向が強く伺える。これは、同遺構で出土する陶磁器の傾向から見た所見とも一致するようである。

古代のSD-305は溝状遺構のなかでも、溝を横断するかのような連続する不整楕円形の浅い掘り込み（圧痕）を持つことが特徴であり、本遺構も8列の連続した掘り込み列が確認されている。SD-750・2002・2106も同様な特徴をもつが、調査範囲の制約から溝の両側の立ち上がりを含め広く調査できたのはSD-305のみであり、前述の特徴も顕著に併せ持つ遺構であるため、特にSD-305を対象として楕円形掘方列の特徴を①列の方向性　②高低差　③平面形(細長い不整楕円・歪んだ楕円・隅丸方形。二つの小円の繋がり→臀部状の底部のみの遺存か)　④底面の形状(臀部状・平坦)　⑤底面上の礫の有無　などの視点を中心として各掘方列ごとに詳説する。

SP-Aライン：溝の底面中央の掘方両壁に、水の流れにより自然に出来た抉りが見られる（P71・72第93図SP-Aラインの※部分）。またこのライン上にSD-305内で最も低い底面のポイント（56.92～56.96）があり（P71・72第93図SP-Aラインの⇄部分）、ライン中心周辺が礫や土器片が集中する低い範囲に当たる。

SP-Cライン：溝の底面中央の掘方西壁に、水の流れにより自然に出来た抉りが見られる（P71・72第93図SP-Cラインの※部分）。このラインは指状に細長い楕円形の窪みが南東から北西に平行して並ぶ掘方列で、掘方が明瞭に確認できたのは東から３基で４基目はやや形状が不明瞭に終了する。いずれの掘方も不整楕円を構成する南辺の掘方に比べ、北辺の掘り込み方が不明瞭で、そのまま溝全体の底面に曖昧に吸収されるようである。この４基は掘り窪めた底面中央に礫が遺存するタイプ（１）にあたる。またラインの中心周辺の低い範囲に細礫や土器片が最も集中するブロックを平行して二つ持つ。西側のブロックは先行する古い(初期の)掘方底面に伴うもの、東側のブロックはその次に整えられた掘方底面に伴うものである。SP-Dライン以南からこの新旧の底面掘方の重なりが強くなり、新しい掘方面に伴う遺物集中ブロックが数カ所並ぶ。このライン上で最も低い底面のレベルは57.04mで、最も高い底面のレベルは57.34mとその差は30㎝となる。

SP-Fライン：東側から溝底面に向かって階段状に降りてくる掘方で、円形とそれより一回り小さい円形の二つの掘方がつながり、ふたこぶの底面を持つ形になる。底面上に礫は遺存しない。このライン上で最も低い底面のレベルは57.3m、最も高い底面のレベルは57.56mとその差は26㎝となる。

SP-H・Jライン：浅い掘り込みの底面が二つの丸い窪み（以下臀部状の窪みと記す）を持つタイプ（A）と

掘方の平面形が歪んだ長めの楕円形を呈し、底面は一続きで完結するタイプ（Ｂ）の列が溝の東に向かって重なる。タイプ（Ｂ）の掘方列が古く、臀部状の窪みを持つタイプ（Ａ）がその掘り返しと思われる。両者が交錯する部分は２タイプの掘方が一体化して、第三のタイプが存在するかのように見える。

Ｈライン上で最も低い底面のレベルは57.28m、最も高い底面のレベルは57.38m（差は10㎝）。Ｊライン上で最も低い底面のレベルも同じ57.28m、最も高い底面のレベルは57.34m（差は６㎝）と底部面の高低差のあまり無い掘方列となる。

SP-Kライン：溝の東から西まで連続して横断する。Ｈ・Ｊライン同様、西側で二列に分かれる掘り変えが見られる。東から西にまっすぐ並ぶライン上の掘方列が古く、やや南にカーブするラインの掘方が新しい掘り変え部分と思われる。先行するタイプ（Ｂ）のライン上で見た場合、最も低い底面のレベルは57.16m。最も高い底面のレベルは、西側からの掘方の始まりが不明瞭であるが、はっきりしている掘方の底面で測ると、東側の掘方の始まりの底面と同じ57.47mで、差は31㎝となる。溝の両端から中央に向かって低くなっていく掘方列である。

SP-Nライン：臀部状の二つの窪みを持つタイプ（Ａ）の掘方列である。溝底面からの掘り込みの深さは最も窪む部分で20㎝以上。ピット状にやや深く掘り込まれたものもある。窪みと窪みをつなぐ面と窪みの立ち上がりは緩く丸くなっているが、部分的に緩い平坦面もみられ、元々の掘方が使用中の流水により表面がなめらかに削られた結果と思われる。臀部状の底面は比較的はっきりしており、底面にめり込むように礫が遺存する。比較的平坦な形状の礫が多く、土器片の出土の様子からも礫や土器の破片を意図的に底面上に敷き詰めたような感をもつ掘方もある。溝の東から溝底面中央にかけて並ぶ掘方列で、SP-Qラインとぶつかる。東から西に向かって各掘方の底部面が低くなっていく。このライン上で最も低い底面のレベルは57.17mで、最も高い底面のレベルは57.42mで、差は25㎝程ある。

SP-Qライン：臀部状の窪みが最も明瞭な一列である。窪みと窪みをつなぐ面と窪みの立ち上がりもNラインの掘方列と同様に緩く丸く削られている。それぞれの掘方の上端が繋がり、全体として溝状に見える。溝の南東から北西に向かって並びSP-Nラインの掘方列とぶつかる溝の中央で終了している。このライン上で最も低い底面のレベルは57.29m、最も高い底面のレベルは57.37mで、差は８㎝程度と底部面の高低差のほとんど無い掘方列となる。

報告書抄録

ふりがな	にしものいいせき（ほんぶんへん）
書名	西物井遺跡（本文編）
副書名	北関東自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅺ
巻次	１１
シリーズ名	栃木県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第３１６集
編著者名	田代己佳
編集機関	財団法人とちぎ生涯学習文化財団　埋蔵文化財センター
所在地	〒３２９－０４１８　栃木県下野市紫４７４番地　TEL ０２８５－４４－８４４１
発行機関	栃木県教育委員会　財団法人とちぎ生涯学習文化財団
発行年月日	西暦　２００９年3月１９日（平成２１年3月１９日）

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °　′　″	東経 °　′　″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
にしものいいせき 西物井遺跡	はがぐん 芳賀郡 にのみやまち 二宮町 おおあざものい 大字物井	09341		36°24′28″	140°0′20″	20010130～ 20060630	25,950	道路（北関東自動車道）建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西物井遺跡	集落	旧石器時代		石器（石刃）	古墳～平安時代の集落
		縄文時代		縄文土器・石器	
		古墳時代	竪穴住居跡８軒 方形周溝遺構７基 土坑４基	土師器・須恵器	
		奈良・平安時代	竪穴住居跡６０軒 掘立柱建物跡７棟 井戸跡３基 土坑４２基 溝状遺構２３条	土師器・須恵器・灰釉陶器、瓦・鉄製品（刀子など）・石製品（砥石など）・土製品（沈子など）	
		中近世	掘立柱建物跡４棟 井戸跡１８基 火葬墓１１基 地下式壙５基 土坑１７８基 溝状遺構５６条	土師質土器・瓦質土器・陶磁器・石製品（砥石・硯・石臼など）・木製品（漆椀・桶・下駄・菰槌・杭など）・板碑・五輪塔・銭貨・金属製品（煙管など）	

要約	西物井遺跡は八溝山塊の西麓を南流する小貝川と、二宮町の中央部を南流する五行川の間に位置し、両河川の形成する低地に小規模に展開する微高地上に立地する。本遺跡は古墳時代から近世を中心とするが、旧石器時代と縄文時代の遺物も出土する。低地面との比高差のほとんどない微高地上で営まれた古代の集落は、僅かな地面の高まりを利用して住居域を形成しており、古墳時代中期から平安時代にかけて竪穴住居跡の検出数が集中する。反して、この集落が営まれる以前の古墳時代前期や中世以降は、墓や溝といった低地面の利用法が選択され、方形周溝遺構や火葬墓・土壙墓が多く確認されている。近世の溝状遺構は現代の用水路や地割りと方向が一致するものが多く、近世の地割りが現代まで共通性を持って受け継がれていたことが確認された。

北関東自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一覧

Ⅰ「一本松遺跡・文珠山遺跡」　栃木県埋蔵文化財調査報告第230集　1999年3月

Ⅱ「杉村・磯岡・磯岡北」　栃木県埋蔵文化財調査報告第241集　2000年3月

Ⅲ「八剣遺跡」　栃木県埋蔵文化財調査報告第254集　2001年3月

Ⅳ「谷向・国谷馬場・中の内・惣宮・鍋小路」　栃木県埋蔵文化財調査報告第255集　2001年3月

Ⅴ「上神主・茂原　茂原向原　北原東」　栃木県埋蔵文化財調査報告第256集　2001年3月

Ⅵ「権現山遺跡・百目鬼遺跡」　栃木県埋蔵文化財調査報告第257集　2001年3月

Ⅶ「西赤堀遺跡」　栃木県埋蔵文化財調査報告第304集　2007年3月

Ⅷ「峰高前遺跡」　栃木県埋蔵文化財調査報告第308集　2007年9月

Ⅸ「高島遺跡群」　栃木県埋蔵文化財調査報告第309集　2008年3月

Ⅹ「下陰遺跡Ⅰ」　栃木県埋蔵文化財調査報告第310集　2008年3月

Ⅺ「西物井遺跡」　栃木県埋蔵文化財調査報告第316集　2009年3月

Ⅻ「西根２遺跡・小野寺城跡」　栃木県埋蔵文化財調査報告第320集　2009年3月

ⅩⅢ「谷向遺跡」　栃木県埋蔵文化財調査報告第321集　2009年3月

ⅩⅣ「五霊遺跡」　栃木県埋蔵文化財調査報告第322集　2009年3月

ⅩⅤ「原北遺跡・茅堤北遺跡・伊勢崎Ⅲ遺跡」　栃木県埋蔵文化財調査報告第323集　2009年3月

ⅩⅥ「曲田遺跡・馬場先遺跡」　栃木県埋蔵文化財調査報告第324集　2009年3月

栃木県埋蔵文化財調査報告第 316 集

西 物 井 遺 跡（本文編）

－北関東自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査XI－

発行　栃　木　県　教　育　委　員　会

宇都宮市塙田１－１－20

ＴＥＬ　028（623）3425

財団法人とちぎ生涯学習文化財団

宇都宮市本町１－８

ＴＥＬ　028（643）1011

平成 21 年３月 19 日発行

編集　財団法人とちぎ生涯学習文化財団

埋蔵文化財センター

下野市紫 474 番地

ＴＥＬ　0285（44）8441

印刷　下野印刷株式会社